

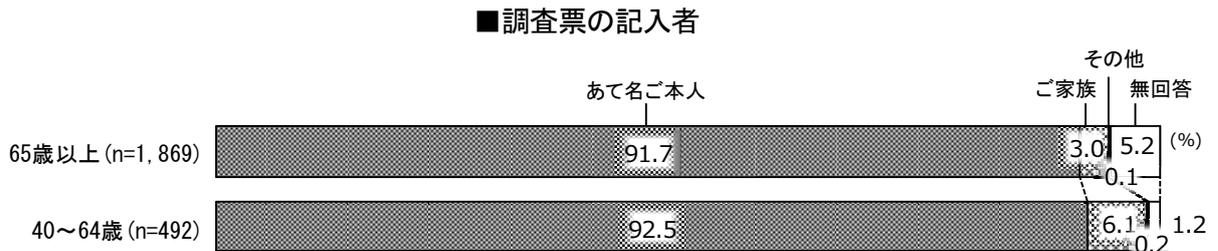
第2章 アンケート調査の結果

1. 市民一般調査

1 調査票記入にあたって

(1) 調査票の記入者

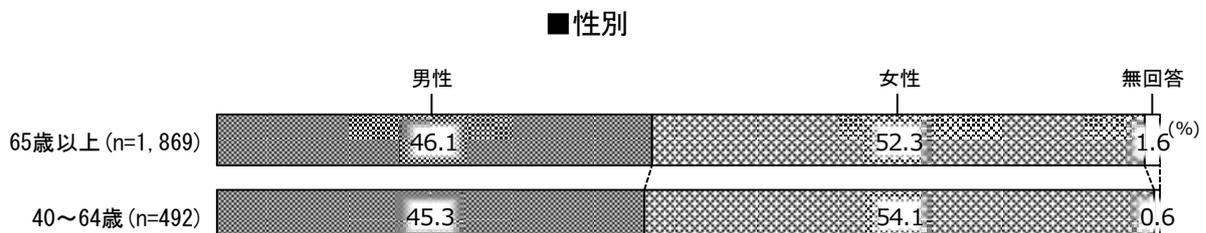
調査票の記入者は、65歳以上は「あて名ご本人」が91.7%、「ご家族」が3.0%となっている。
40～64歳は、「あて名ご本人」が92.5%、「ご家族」が6.1%となっている。



2 基本属性

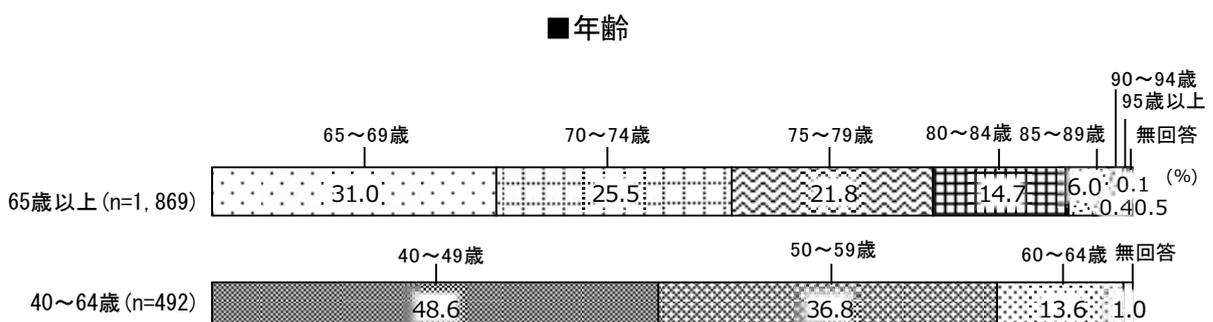
(1) 性別 (F1)

性別は、65歳以上は「男性」が46.1%、「女性」が52.3%となっている。
40～64歳は、「男性」が45.3%、「女性」が54.1%となっている。



(2) 年齢 (F2)

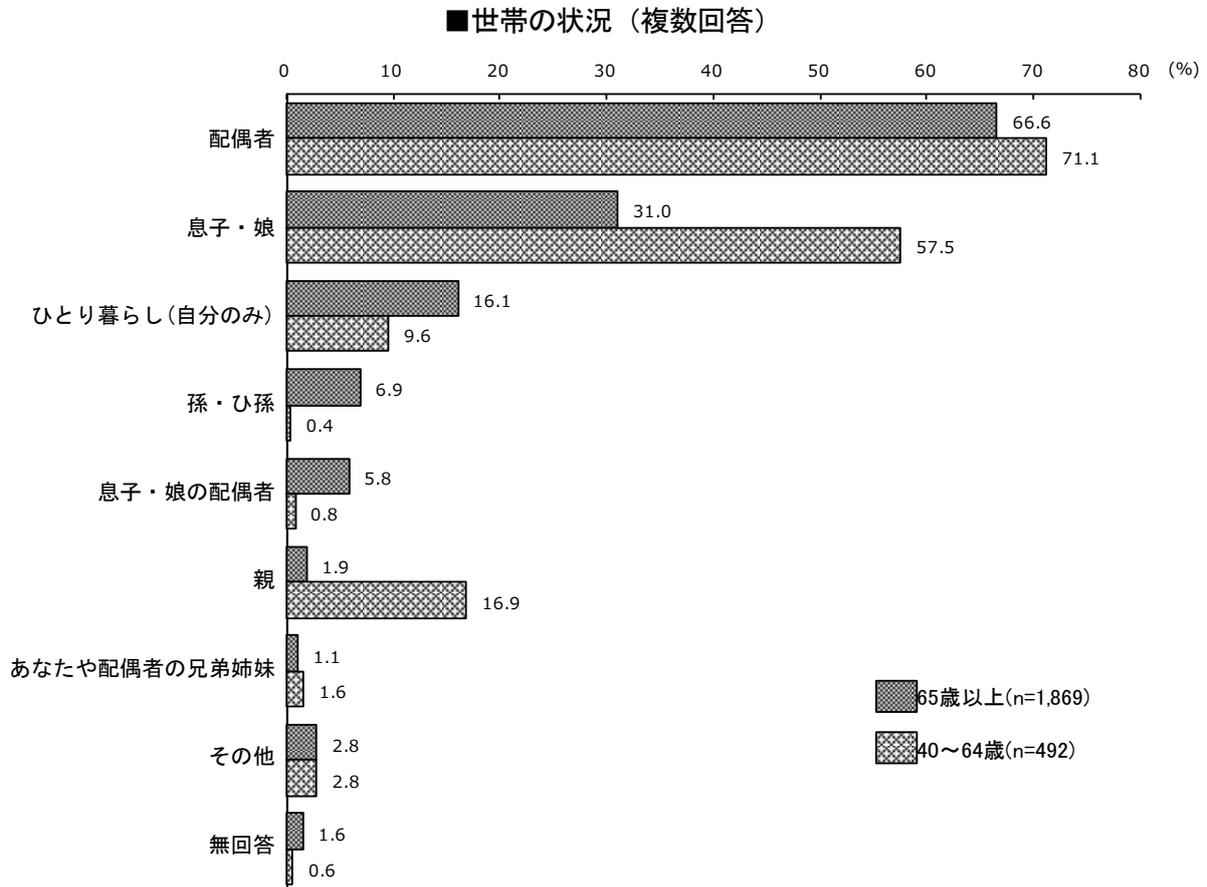
年齢は、65歳以上は「65～69歳」(31.0%)が最も多く、「70～74歳」(25.5%)、「75～79歳」(21.8%)と続いている。
40～64歳は、「40～49歳」(48.6%)が最も多く、「50～59歳」(36.8%)、「60～64歳」(13.6%)と続いている。



(3) 世帯の状況 (F 3)

世帯の状況は、65歳以上は「配偶者」(66.6%)が最も多く、「息子・娘」(31.0%)、「ひとり暮らし(自分のみ)」(16.1%)と続いている。

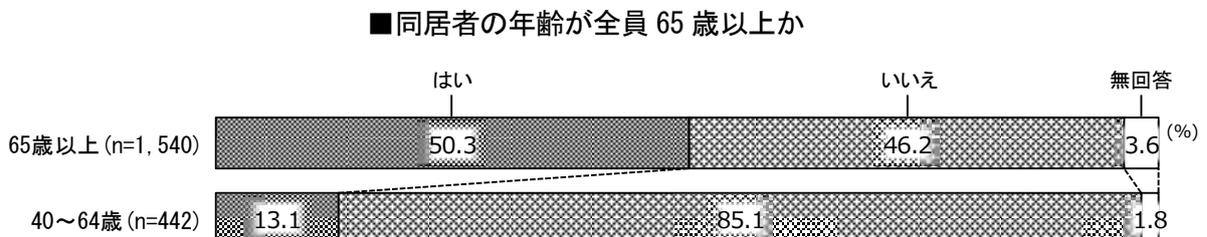
40～64歳は、「配偶者」(71.1%)が最も多く、「息子・娘」(57.5%)、「親」(16.9%)と続いている。



(4) 同居者の年齢が全員65歳以上か (F 3-1)

「ひとり暮らし(自分のみ)」以外を回答した人に同居者の年齢が全員65歳以上かを聞いたところ、回答者が65歳以上の場合「はい」が50.3%、「いいえ」が46.2%となっている。

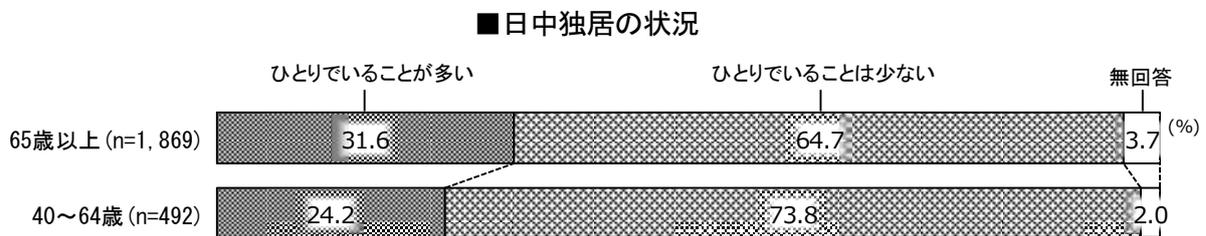
回答者が40～64歳の場合は、「はい」が13.1%、「いいえ」が85.1%となっている。



(5) 日中独居の状況 (F4)

日中独居の状況は、65歳以上は「ひとりであることが多い」が31.6%、「ひとりであることは少ない」が64.7%となっている。

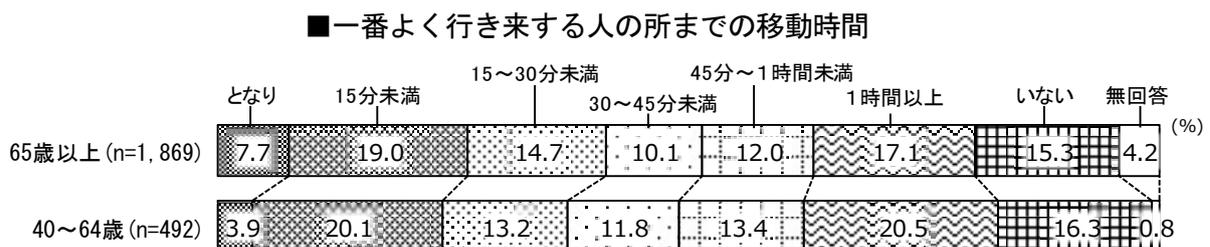
40～64歳は、「ひとりであることが多い」が24.2%、「ひとりであることは少ない」が73.8%となっている。



(6) 一番よく行き来する人の所までの移動時間 (F5)

一番よく行き来する人の所までの移動時間は、65歳以上は「15分未満」(19.0%)が最も多く、「1時間以上」(17.1%)、「15～30分未満」(14.7%)と続いている。

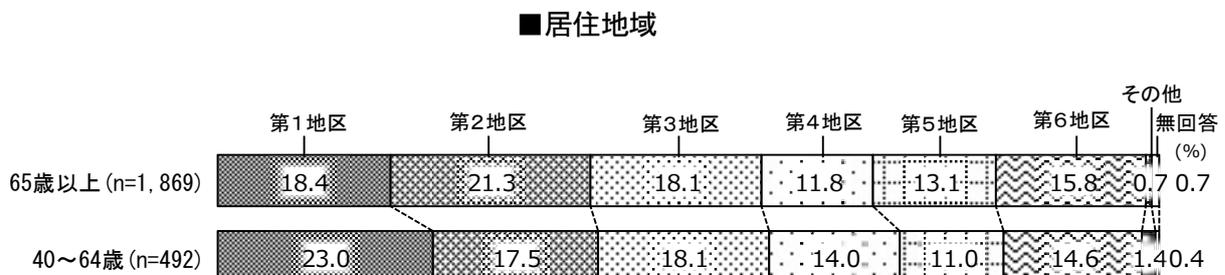
40～64歳は、「1時間以上」(20.5%)が最も多く、「15分未満」(20.1%)、「45分～1時間未満」(13.4%)と続いている。



(7) 居住地域 (F6)

居住地域は、65歳以上は「第2地区」(21.3%)が最も多く、「第1地区」(18.4%)、「第3地区」(18.1%)、「第6地区」(15.8%)、「第5地区」(13.1%)、「第4地区」(11.8%)となっている。

40～64歳は、「第1地区」(23.0%)が最も多く、「第3地区」(18.1%)、「第2地区」(17.5%)、「第6地区」(14.6%)、「第4地区」(14.0%)、「第5地区」(11.0%)となっている。

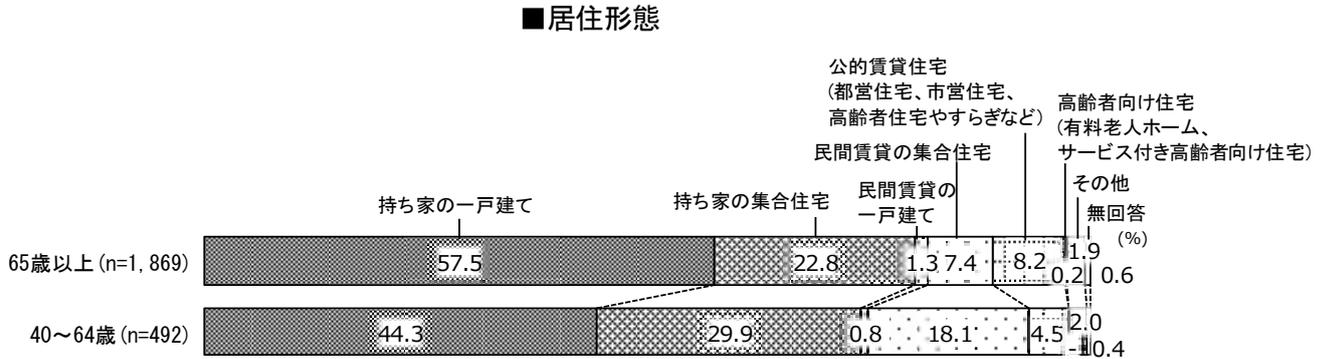


3 住まいについて

(1) 居住形態 (問1)

居住形態は、65歳以上は「持ち家の一戸建て」(57.5%)が最も多く、「持ち家の集合住宅」(22.8%)、「公的賃貸住宅(都営住宅、市営住宅、高齢者住宅やすらぎなど)」(8.2%)と続いている。

40～64歳は、「持ち家の一戸建て」(44.3%)が最も多く、「持ち家の集合住宅」(29.9%)、「民間賃貸の集合住宅」(18.1%)と続いている。



65歳以上について年齢別にみると、75歳以上は「持ち家の一戸建て」(63.5%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「持ち家の集合住宅」(26.8%)と「民間賃貸の集合住宅」(9.5%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第1地区、第5地区、第6地区は「持ち家の一戸建て」(順に65.7%、64.5%、64.2%)、第2地区は「持ち家の集合住宅」(34.9%)、第3地区は「公的賃貸住宅(都営住宅、市営住宅、高齢者住宅やすらぎなど)」(15.0%)、第4地区は「持ち家の集合住宅」(29.0%)と「公的賃貸住宅(都営住宅、市営住宅、高齢者住宅やすらぎなど)」(15.4%)が全体に比べ多くなっている。

■居住形態 (65歳以上)

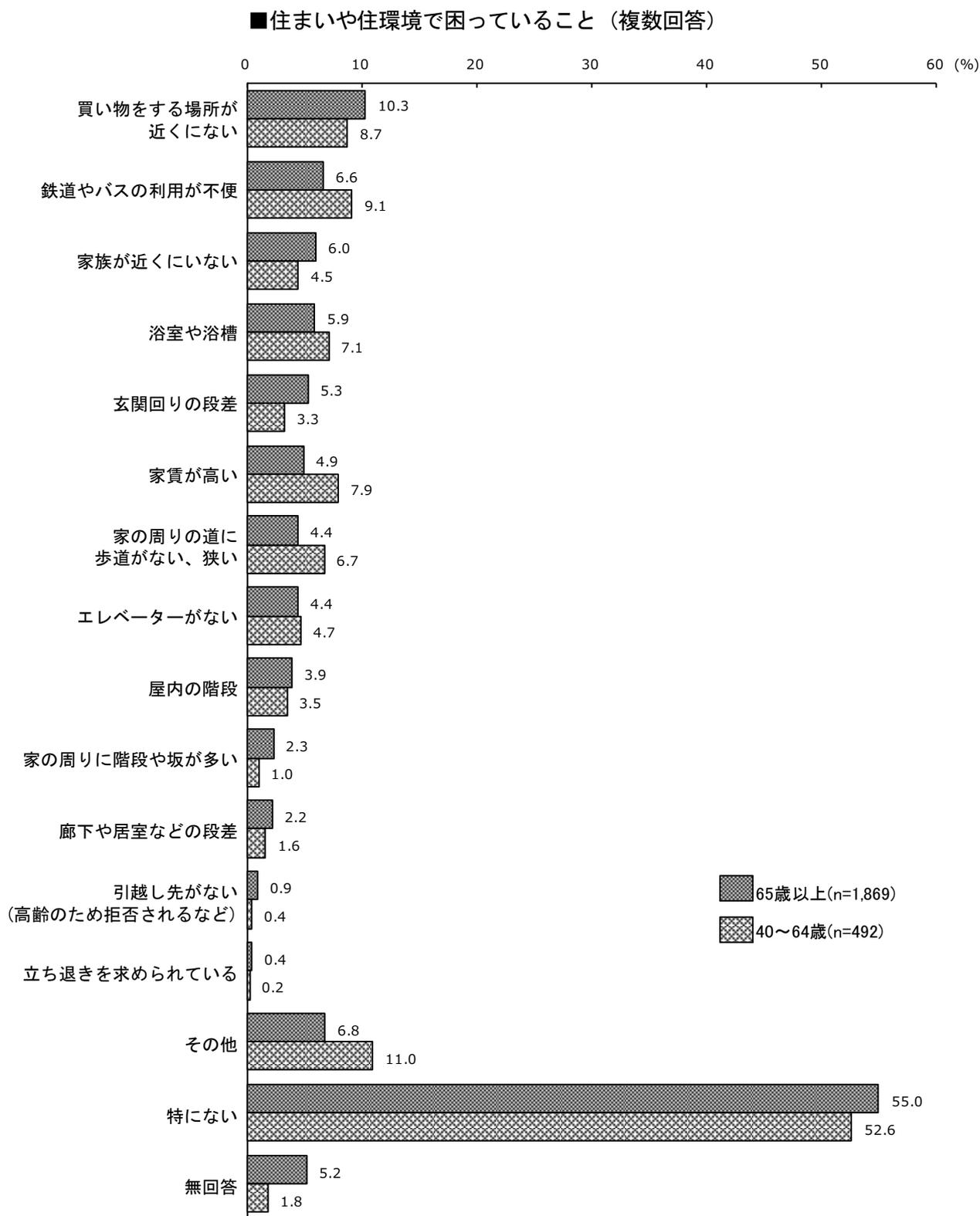
		持ち家の一戸建て	持ち家の集合住宅	民間賃貸の一戸建て	民間賃貸の集合住宅	高齢者向け住宅(有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅)	公的賃貸住宅(都営住宅、市営住宅、高齢者住宅やすらぎなど)	民間賃貸の集合住宅	その他	無回答
全体(n=1,869)		57.5	22.8	1.3	7.4	8.2	0.2	1.9	0.6	
年齢別	75歳以上(n=803)	63.5	17.6	1.7	4.7	9.6	0.5	1.9	0.5	
	65～74歳(n=1,056)	53.3	26.8	0.9	9.5	7.3	-	2.0	0.2	
地区別	第1地区(n=344)	65.7	17.7	0.6	9.6	4.1	0.3	1.7	0.3	
	第2地区(n=398)	48.0	34.9	2.0	6.8	5.5	-	2.8	-	
	第3地区(n=339)	57.2	17.4	0.6	7.4	15.0	-	1.8	0.6	
	第4地区(n=221)	48.9	29.0	0.9	3.6	15.4	0.5	1.8	-	
	第5地区(n=245)	64.5	17.1	0.4	6.1	10.6	-	0.8	0.4	
	第6地区(n=296)	64.2	19.6	3.0	9.8	1.7	0.3	1.4	-	

(2) 住まいや住環境で困っていること (問2)

住まいや住環境で困っていることは、65歳以上も40～64歳も「特にない」が最も多い。

困っている内容では、65歳以上は「買い物をする場所が近くにない」(10.3%)が最も多く、「鉄道やバスの利用が不便」(6.6%)、「家族が近くにいない」(6.0%)と続いている。

40～64歳の困っている内容は「鉄道やバスの利用が不便」(9.1%)が最も多く、「買い物をする場所が近くにない」(8.7%)、「家賃が高い」(7.9%)と続いている。



65歳以上について地区別にみると、第1地区は「買い物をする場所が近くにない」(20.9%)と「家の周りの道に歩道がない、狭い」(6.7%)、第2地区は「家の周りに階段や坂が多い」(6.8%)と「エレベーターがない」(7.0%)、第3地区は「廊下や居室などの段差」(3.8%)、第5地区は「鉄道やバスの利用が不便」(13.9%)と「エレベーターがない」(9.0%)が全体に比べ多くなっている。

■住まいや住環境で困っていること（複数回答）（65歳以上）

(%)

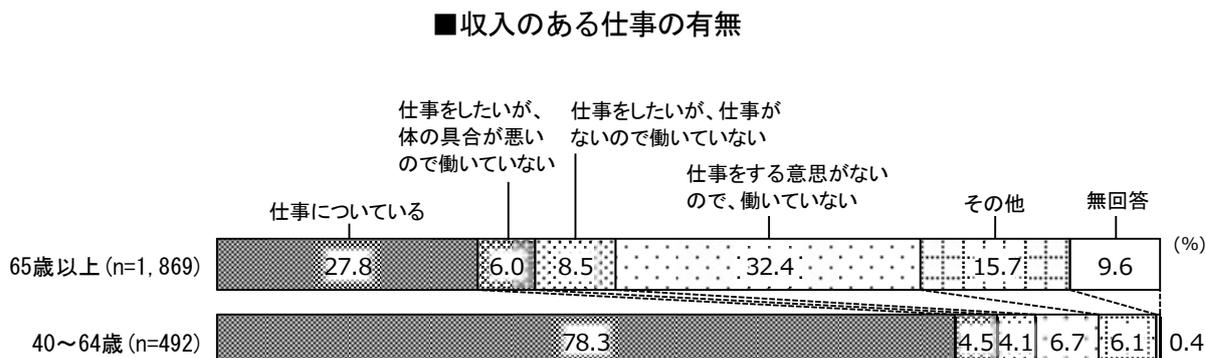
	買い物をする場所が近くにない	鉄道やバスの利用が不便	家族が近くにいない	浴室や浴槽	玄関回りの段差	家賃が高い	家の周りに階段や坂が多い	エレベーターがない	屋内の階段	家の周りの道に歩道がない、狭い	廊下や居室などの段差	引越しが先がない（高齢のため拒否されるなど）	立ち退きを求められている	その他	特になし	無回答
全体(n=1,869)	10.3	6.6	6.0	5.9	5.3	4.9	2.3	4.4	3.9	4.4	2.2	0.9	0.4	6.8	55.0	5.2
地区別																
第1地区(n=344)	20.9	5.5	6.7	4.7	4.9	4.4	0.6	2.6	2.0	6.7	1.2	0.6	0.3	7.3	51.7	4.1
第2地区(n=398)	12.8	8.0	5.3	5.5	4.3	5.8	6.8	7.0	2.8	3.5	1.8	1.3	0.3	5.0	52.8	3.8
第3地区(n=339)	3.8	4.4	5.9	8.0	6.2	5.9	0.0	3.8	5.9	2.7	3.8	1.2	0.6	7.4	59.3	5.6
第4地区(n=221)	5.4	4.5	5.0	4.5	4.5	3.6	0.9	1.4	1.8	2.3	1.8	0.0	0.0	5.0	65.2	5.0
第5地区(n=245)	8.6	13.9	7.8	7.3	7.8	2.9	2.4	9.0	6.1	6.9	3.3	1.2	0.4	9.8	49.8	3.7
第6地区(n=296)	7.8	4.4	6.1	5.7	4.7	6.4	2.0	2.4	5.4	4.7	1.7	1.0	1.0	7.4	54.4	6.4

4 就労状況について

(1) 収入のある仕事の有無（問3）

収入のある仕事の有無は、65歳以上は「仕事をする意思がないので、働いていない」（32.4%）が最も多く、「仕事についている」（27.8%）、「仕事をしたいが、仕事がないので働いていない」（8.5%）と続いている。

40～64歳は、「仕事についている」（78.3%）が最も多く、「仕事をする意思がないので、働いていない」（6.7%）、「仕事をしたいが、体の具合が悪いので働いていない」（4.5%）と続いている。



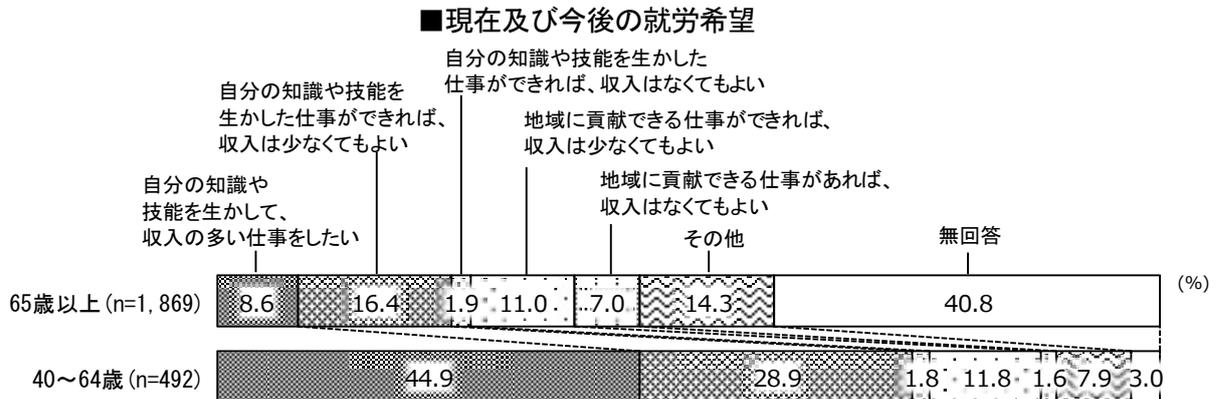
65歳以上について性別にみると、女性は「仕事についている」（21.6%）が男性に比べ少なくなっている。年齢別にみると、75歳以上は「仕事についている」（15.8%）が65～74歳に比べ少なくなっている。

■収入のある仕事の有無（65歳以上）

		(%)					
		仕事についている	仕事をしたいが、体の具合が悪いので働いていない	仕事をしたいが、仕事がないので働いていない	仕事をする意思がないので、働いていない	その他	無回答
全体(n=1,869)		27.8	6.0	8.5	32.4	15.7	9.6
性別	男性(n=862)	34.9	6.6	9.9	30.5	13.1	5.0
	女性(n=977)	21.6	5.3	7.4	34.2	18.2	13.3
年齢別	75歳以上(n=803)	15.8	4.7	5.9	35.5	23.3	14.8
	65～74歳(n=1,056)	36.6	7.0	10.5	30.3	9.9	5.6

(2) 現在及び今後の就労希望 (問4)

現在及び今後の就労希望は、65歳以上は「自分の知識や技能を生かした仕事ができれば、収入は少なくともよい」(16.4%)が最も多く、「地域に貢献できる仕事ができれば、収入は少なくともよい」(11.0%)、「自分の知識や技能を生かして、収入の多い仕事をしたい」(8.6%)と続いている。
 40～64歳は、「自分の知識や技能を生かして、収入の多い仕事をしたい」(44.9%)が最も多く、「自分の知識や技能を生かした仕事ができれば、収入は少なくともよい」(28.9%)、「地域に貢献できる仕事ができれば、収入は少なくともよい」(11.8%)と続いている。



65歳以上について性別にみると、男性は「自分の知識や技能を生かして、収入の多い仕事をしたい」(11.4%)、「自分の知識や技能を生かした仕事ができれば、収入は少なくともよい」(20.5%)、「地域に貢献できる仕事ができれば、収入は少なくともよい」(13.2%)が女性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「自分の知識や技能を生かして、収入の多い仕事をしたい」(12.3%)、「自分の知識や技能を生かした仕事ができれば、収入は少なくともよい」(22.3%)、「地域に貢献できる仕事ができれば、収入は少なくともよい」(14.4%)が75歳以上に比べ多くなっている。

■現在及び今後の就労希望 (65歳以上)

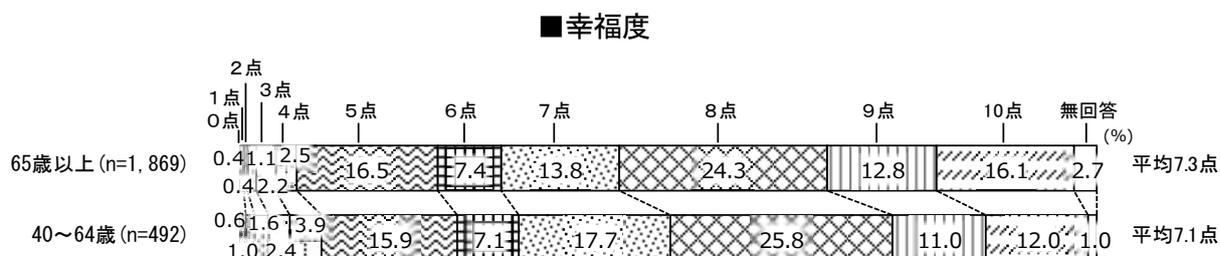
		自分の知識や技能を生かして、収入の多い仕事をしたい	自分の知識や技能を生かした仕事ができれば、収入は少なくともよい	自分の知識や技能を生かした仕事ができれば、収入は少なくともよい	地域に貢献できる仕事ができれば、収入は少なくともよい	地域に貢献できる仕事があれば、収入は少なくともよい	その他	無回答
全体(n=1,869)		8.6	16.4	1.9	11.0	7.0	14.3	40.8
性別	男性(n=862)	11.4	20.5	2.4	13.2	7.9	12.8	31.8
	女性(n=977)	6.2	12.7	1.5	9.0	6.2	15.7	48.6
年齢別	75歳以上(n=803)	3.6	8.2	1.1	6.7	7.1	16.7	56.5
	65～74歳(n=1,056)	12.3	22.3	2.6	14.4	6.9	12.6	28.9

5 健康づくりや介護予防などについて

(1) 幸福度 (問5)

幸福度（「とても不幸」が0点、「とても幸せ」が10点）は、65歳以上は「8点」（24.3%）が最も多く、「5点」（16.5%）、「10点」（16.1%）と続いており、平均は7.3点である。

40～64歳は、「8点」（25.8%）が最も多く、「7点」（17.7%）、「5点」（15.9%）と続いており、平均は7.1点である。



65歳以上について性別にみると、男性は「10点」（12.6%）が女性に比べ少なくなっている。年齢別にみると、65～74歳は「10点」（12.7%）が75歳以上に比べ少なくなっている。

■幸福度 (65歳以上)

		(%)											平均点	
		0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	
全体(n=1,869)		0.4	0.4	1.1	2.2	2.5	16.5	7.4	13.8	24.3	12.8	16.1	2.7	7.3
性別	男性(n=862)	0.1	0.2	1.4	2.1	3.4	18.0	8.6	13.5	25.4	12.6	12.6	2.1	7.2
	女性(n=977)	0.5	0.6	0.8	2.3	1.5	15.5	6.3	14.2	23.5	13.1	18.6	3.0	7.4
年齢別	75歳以上(n=803)	0.4	0.6	1.0	1.7	2.0	15.9	5.9	11.3	24.5	12.7	20.3	3.6	7.5
	65～74歳(n=1,056)	0.4	0.3	1.1	2.6	2.8	17.0	8.7	15.5	24.1	12.9	12.7	1.9	7.2

さらに65歳以上について世帯の状況別にみると、ひとり暮らしの人は「平均以下(7点以下)」（57.0%）がひとり暮らし以外の人に比べ多くなっている。

日中独居の状況別にみると、ひとりであることが多い人は「平均以下(7点以下)」（50.5%）がひとりであることは少ない人に比べ多くなっている。

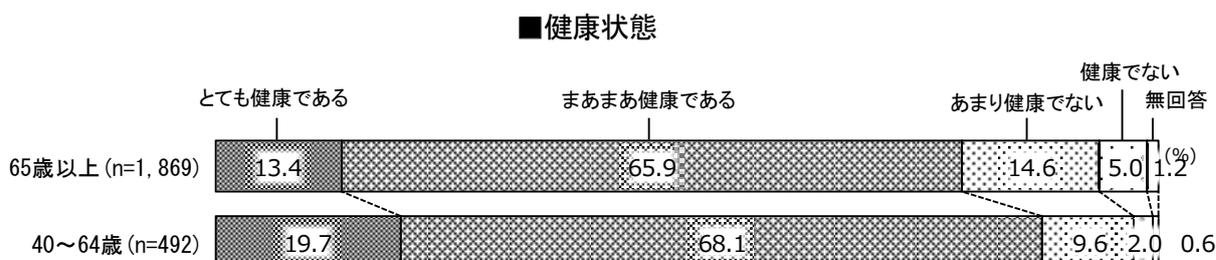
■幸福度 (65歳以上)

		(%)		
		(平均7点以下)	(平均8点以上)	無回答
全体(n=1,869)		44.2	53.1	2.7
世帯の状況別	ひとり暮らし(n=300)	57.0	40.0	3.0
	ひとり暮らし以外(n=1,540)	41.7	55.8	2.5
日中独居の状況別	ひとりであることが多い(n=590)	50.5	46.6	2.9
	ひとりであることは少ない(n=1,209)	41.1	56.7	2.2

(2) 健康状態 (問6)

健康状態は、65歳以上は「まあまあ健康である」(65.9%)が最も多く、「あまり健康でない」(14.6%)、「とても健康である」(13.4%)と続いている。「とても健康である」「まあまあ健康である」を合わせた“健康である”は79.3%、「あまり健康でない」「健康でない」を合わせた“健康でない”は19.6%となっている。

40～64歳は、「まあまあ健康である」(68.1%)が最も多く、「とても健康である」(19.7%)、「あまり健康でない」(9.6%)と続いている。“健康である”は87.8%、“健康でない”は11.6%となっている。



65歳以上について年齢別にみると、75歳以上は“健康でない”(22.4%)が65～74歳に比べ多くなっている。

■健康状態 (65歳以上)

(%)

		あ健と る康て でも	であま あ健あ る康ま	な健あ い康ま でり	な健 い康 で	無 回 答
全体(n=1,869)		13.4	65.9	14.6	5.0	1.2
年齢別	75歳以上(n=803)	11.3	65.1	16.2	6.2	1.1
	65～74歳(n=1,056)	15.0	66.4	13.4	4.1	1.1

さらに65歳以上について幸福度別にみると、平均以下(7点以下)の人は“健康でない”(30.4%)が平均以上(8点以上)の人に比べ多くなっている。

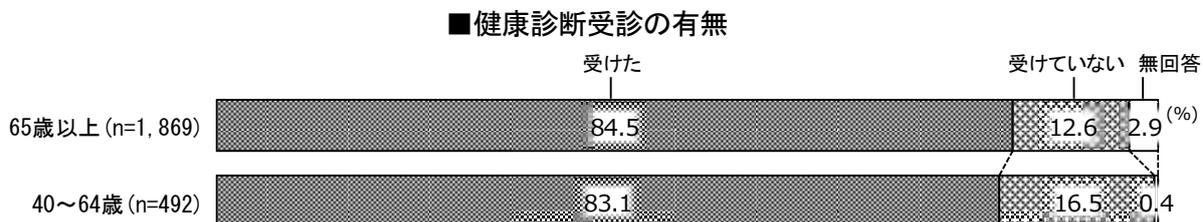
■健康状態 (65歳以上)

(%)

		あ健 る康 で	な健 い康 で	無 回 答
全体(n=1,869)		79.2	19.6	1.2
幸福度別	平均以下(7点以下)(n=826)	69.5	30.4	0.1
	平均以上(8点以上)(n=993)	89.5	10.4	0.1

(3) 健康診断受診の有無 (問7)

健康診断受診の有無は、65歳以上は「受けた」が84.5%、「受けていない」が12.6%となっている。40～64歳は、「受けた」が83.1%、「受けていない」が16.5%となっている。



65歳以上について年齢別にみると、65～74歳は「受けていない」(15.7%)が75歳以上に比べ多くなっている。

■健康診断受診の有無 (65歳以上)

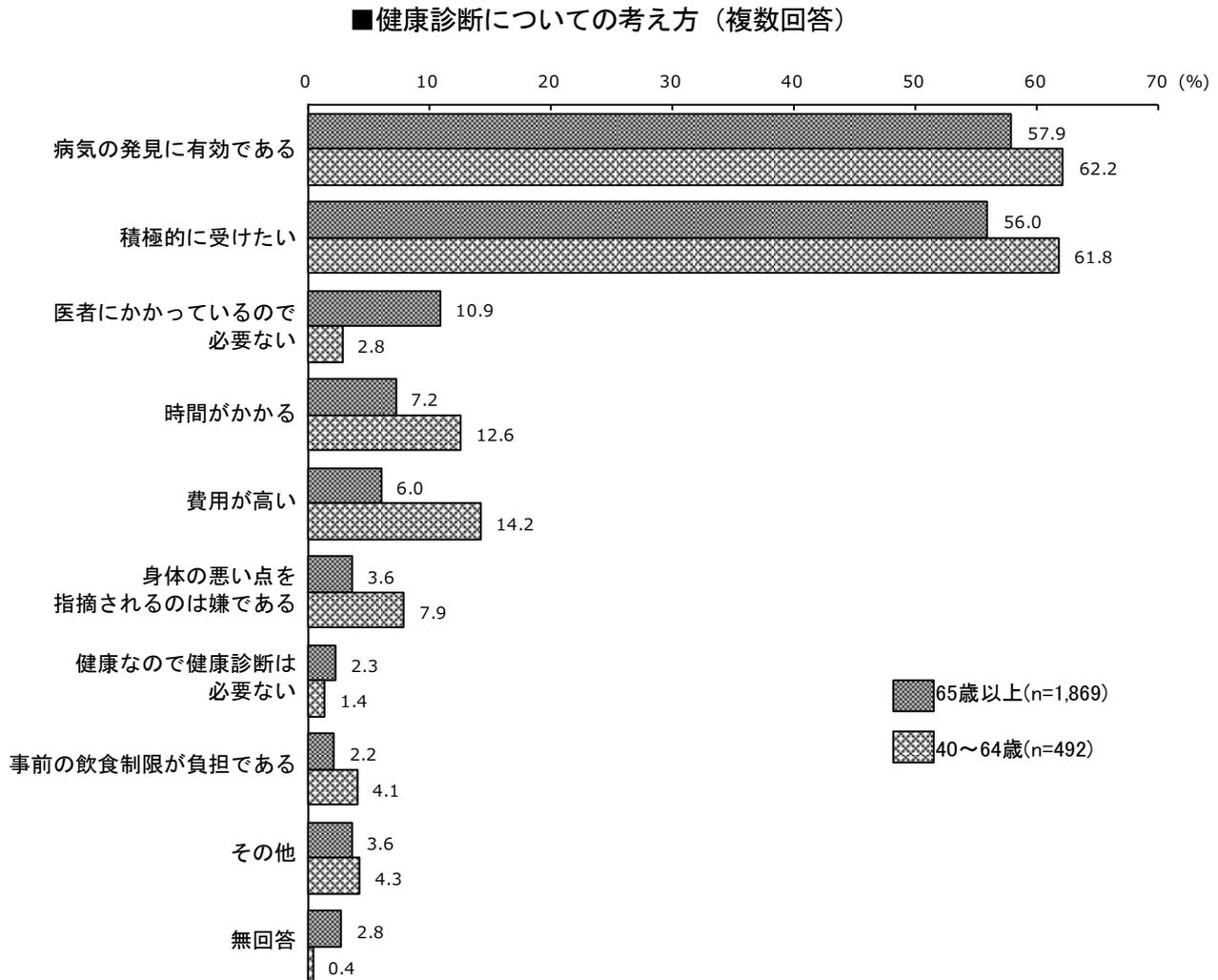
(%)

		受けた	受けていない	無回答
全体(n=1,869)		84.5	12.6	2.9
年齢別	75歳以上(n=803)	87.5	8.6	3.9
	65～74歳(n=1,056)	82.2	15.7	2.1

(4) 健康診断についての考え方 (問8)

健康診断についての考え方は、65歳以上は「病気の発見に有効である」(57.9%)が最も多く、「積極的に受けたい」(56.0%)、「医者にかかっているので必要ない」(10.9%)と続いている。

40～64歳は、「病気の発見に有効である」(62.2%)が最も多く、「積極的に受けたい」(61.8%)、「費用が高い」(14.2%)と続いている。



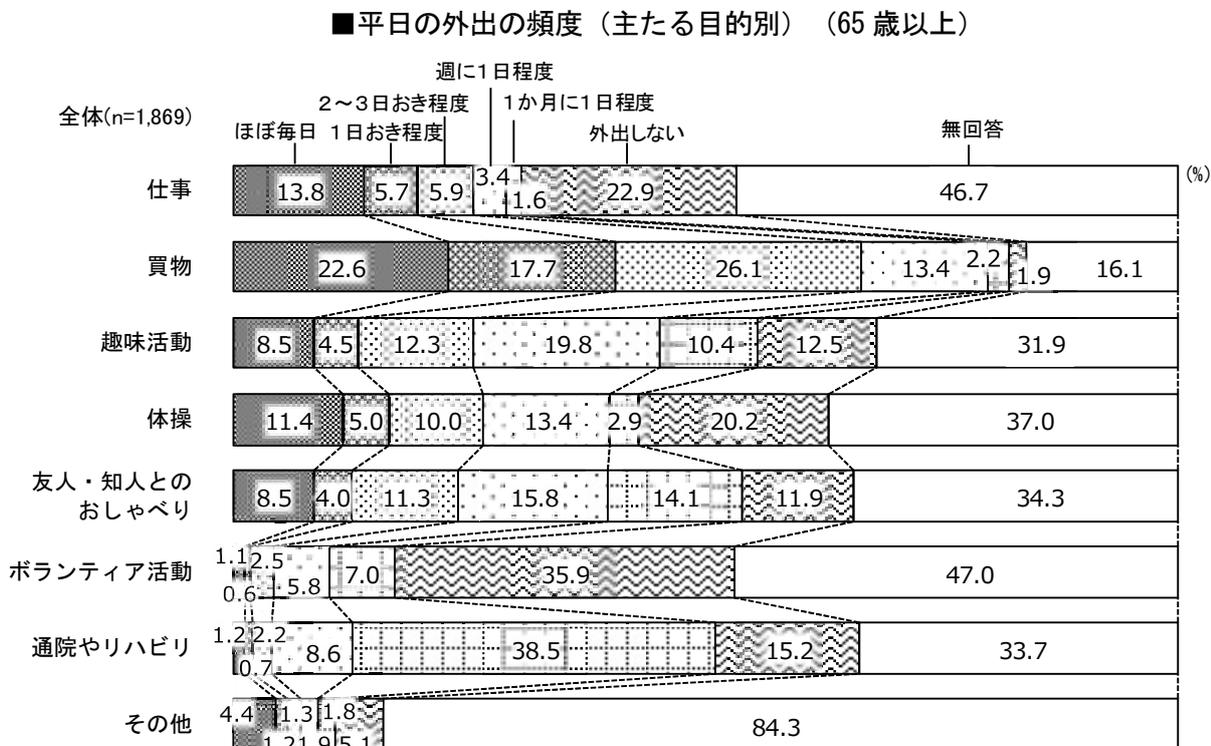
65歳以上について性別にみると、女性は「時間がかかる」(8.5%)が男性に比べ多くなっている。年齢別にみると、75歳以上は「医者にかかっているので必要ない」(12.6%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「時間がかかる」(8.2%)、「費用が高い」(8.6%)、「身体の悪い点を指摘されるのは嫌である」(4.7%)、「事前の飲食制限が負担である」(2.9%)が75歳以上に比べ多くなっている。

■健康診断についての考え方 (複数回答) (65歳以上)

		るに病有効の発見	け積た極的的に受	いのか医でつ者に必要になる	る時間がかか	費用が高い	でれ点身あるを指のは摘悪嫌さい	必要健康診断は	で制事あ限前的がの負飲担食	そその他	無回答
全体(n=1,869)		57.9	56.0	10.9	7.2	6.0	3.6	2.3	2.2	3.6	2.8
性別	男性(n=862)	59.6	55.8	10.1	5.7	5.8	3.7	2.7	1.7	3.0	2.6
	女性(n=977)	57.1	56.3	11.3	8.5	6.2	3.7	1.9	2.6	3.9	3.0
年齢別	75歳以上(n=803)	56.4	57.2	12.6	5.9	2.7	2.2	1.9	1.2	4.1	3.1
	65～74歳(n=1,056)	59.3	55.2	9.5	8.2	8.6	4.7	2.7	2.9	3.1	2.5

(5) 平日の外出の頻度（主たる目的別）（問9）

65歳以上の平日の外出の頻度について、「ほぼ毎日」から「1か月に1日程度」を合わせた“外出する”は『買物』（82.0%）が最も多く、『趣味活動』（55.5%）、『友人・知人とのおしゃべり』（53.7%）と続いている。外出の頻度を「ほぼ毎日」に限定すると、『買物』（22.6%）が最も多く、『仕事』（13.8%）、『体操』（11.4%）と続いている。



65歳以上について「ほぼ毎日」を性別にみると、男性は『買物』（17.4%）が女性に比べ少なく、女性は『仕事』（10.6%）、『趣味活動』（5.1%）、『体操』（8.0%）が男性に比べ少なくなっている。

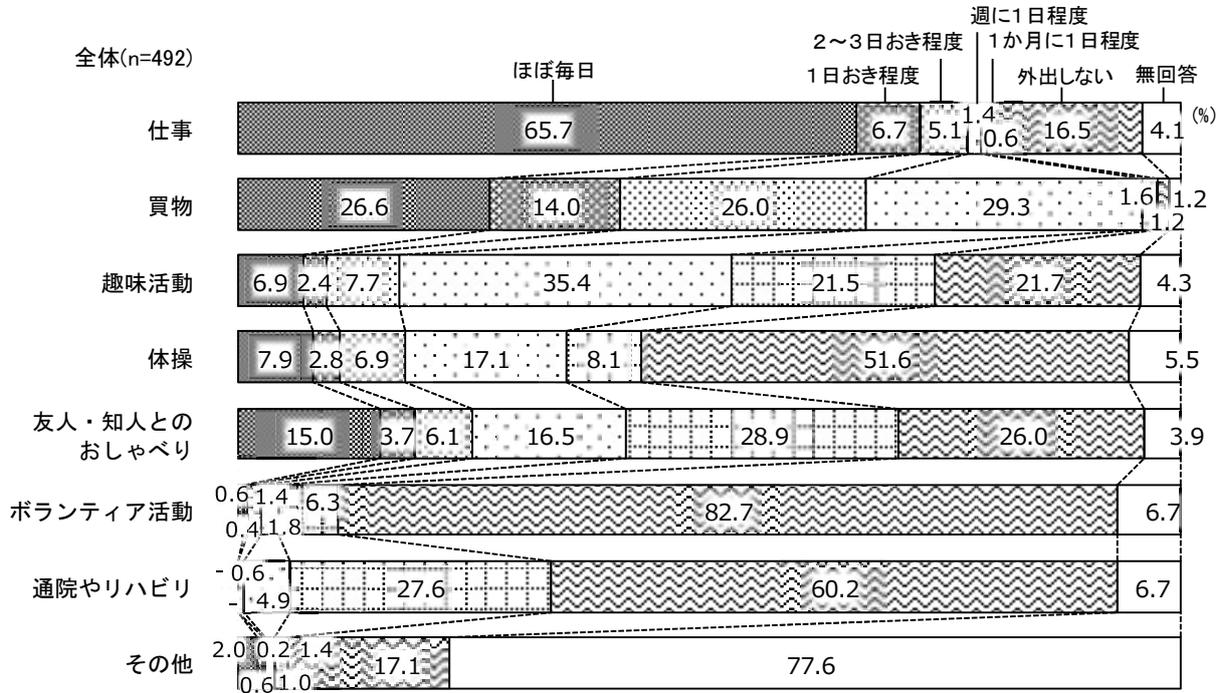
■平日の外出の頻度（主たる目的別）（65歳以上）

(%)

目的	性別	毎 日 ほ ぼ	程 お 1 度 き 日	程 お 3 2 度 き 日 s	程 1 週 度 日 に	程 1 月 1 度 日 に か	い し 外 な 出	答 無 回
仕事	全体(n=1,869)	13.8	5.7	5.9	3.4	1.6	22.9	46.7
	男性(n=862)	17.4	7.3	7.4	3.9	2.2	21.1	40.6
	女性(n=977)	10.6	4.3	4.6	2.8	1.1	24.8	51.8
買物	全体(n=1,869)	22.6	17.7	26.1	13.4	2.2	1.9	16.1
	男性(n=862)	17.4	12.2	23.9	18.8	3.1	2.8	21.8
	女性(n=977)	27.1	22.6	28.2	8.9	1.4	1.0	10.6
趣味活動	全体(n=1,869)	8.5	4.5	12.3	19.8	10.4	12.5	31.9
	男性(n=862)	12.4	4.6	13.2	19.7	10.6	11.8	27.6
	女性(n=977)	5.1	4.5	11.4	20.0	9.9	13.4	35.7
体操	全体(n=1,869)	11.4	5.0	10.0	13.4	2.9	20.2	37.0
	男性(n=862)	15.4	5.9	7.3	9.3	3.6	21.7	36.8
	女性(n=977)	8.0	4.4	12.5	16.7	2.3	19.2	36.9

40～64歳の平日の外出の頻度について、“外出する”は『買物』（97.5%）が最も多く、『仕事』（79.5%）、『趣味活動』（73.9%）と続いている。外出の頻度を「ほぼ毎日」に限定すると、『仕事』（65.7%）が最も多く、『買物』（26.6%）、『友人・知人とのおしゃべり』（15.0%）と続いている。

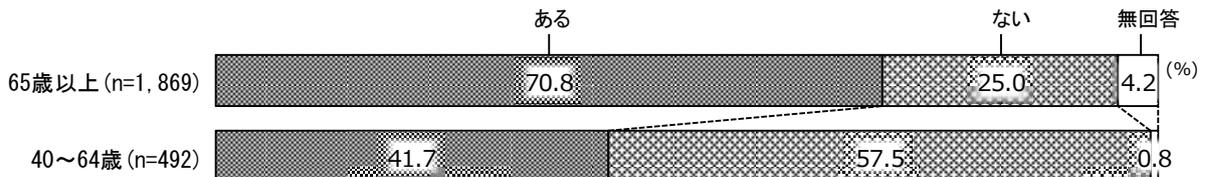
■平日の外出の頻度（主たる目的別）（40～64歳）



(6) 治療中の病気の有無（問 10）

治療中の病気の有無は、65歳以上は「ある」が70.8%、「ない」が25.0%となっている。40～64歳は、「ある」が41.7%、「ない」が57.5%となっている。

■治療中の病気の有無



65歳以上について性別にみると、男性は「ある」（75.5%）が女性に比べ多くなっている。年齢別にみると、75歳以上は「ある」（76.5%）が65～74歳に比べ多くなっている。

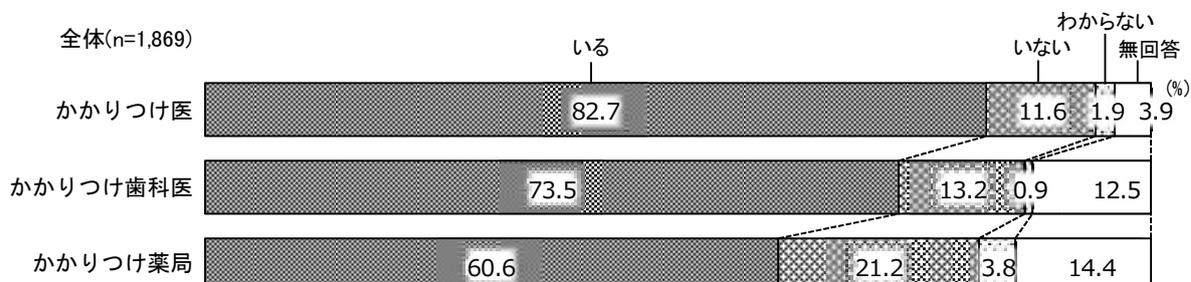
■治療中の病気の有無（65歳以上）

		（%）		
		ある	ない	答無回
全体(n=1,869)		70.8	25.0	4.2
性別	男性(n=862)	75.5	22.0	2.4
	女性(n=977)	66.8	27.6	5.5
年齢別	75歳以上(n=803)	76.5	17.1	6.5
	65～74歳(n=1,056)	66.7	31.0	2.4

(7) かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無 (問 11)

65歳以上のかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無について、「いる」は『かかりつけ医』が82.7%、『かかりつけ歯科医』が73.5%、『かかりつけ薬局』が60.6%となっている。

■かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無 (65歳以上)



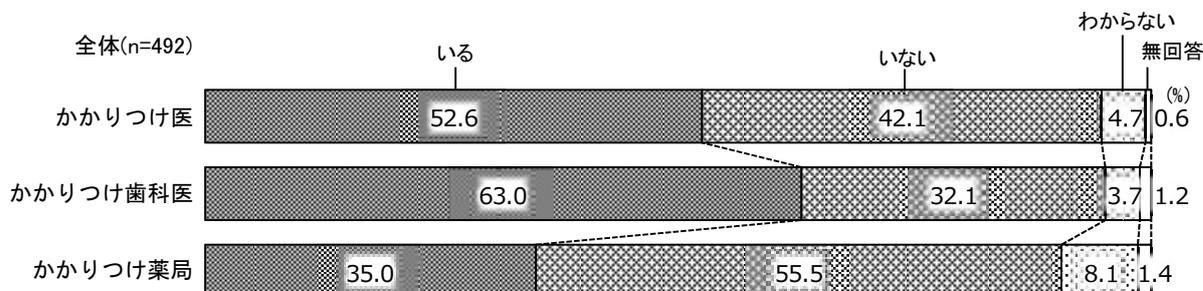
65歳以上について年齢別にみると、65～74歳は「いない」がいずれも75歳以上に比べ多くなっている。

■かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無 (65歳以上)

		いる (%)	いない (%)	わからない (%)	無回答 (%)
かかりつけ医	全体(n=1,869)	82.7	11.6	1.9	3.9
	75歳以上(n=803)	88.8	5.1	1.1	5.0
	65～74歳(n=1,056)	78.1	16.4	2.5	3.0
かかりつけ歯科医	全体(n=1,869)	73.5	13.2	0.9	12.5
	75歳以上(n=803)	73.0	8.3	0.4	18.3
	65～74歳(n=1,056)	73.9	16.9	1.2	8.0
かかりつけ薬局	全体(n=1,869)	60.6	21.2	3.8	14.4
	75歳以上(n=803)	65.3	12.1	2.2	20.4
	65～74歳(n=1,056)	57.3	28.0	4.9	9.8

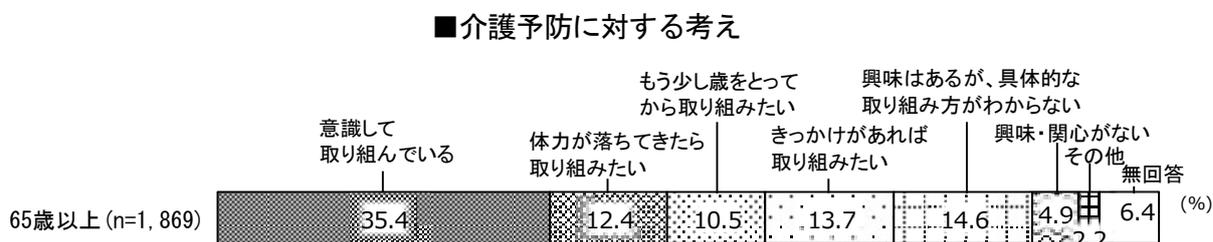
40～64歳のかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無について、「いる」は『かかりつけ医』が52.6%、『かかりつけ歯科医』が63.0%、『かかりつけ薬局』が35.0%となっている。

■かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無 (40～64歳)



(8) 介護予防に対する考え (65歳以上のみ) (問12)

介護予防に対する考えは、「意識して取り組んでいる」(35.4%)が最も多く、「興味はあるが、具体的な取り組み方がわからない」(14.6%)、「きっかけがあれば取り組みたい」(13.7%)と続いている。



性別にみると、男性は「体力が落ちてきたら取り組みたい」(15.1%)、「もう少し歳をとってから取り組みたい」(12.3%)、「興味はあるが、具体的な取り組み方がわからない」(17.4%)、「興味・関心がない」(7.1%)が女性に比べ多く、女性は「意識して取り組んでいる」(38.5%)、「きっかけがあれば取り組みたい」(16.8%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「意識して取り組んでいる」(38.2%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「もう少し歳をとってから取り組みたい」(13.2%)が75歳以上に比べ多くなっている。

■介護予防に対する考え

(%)

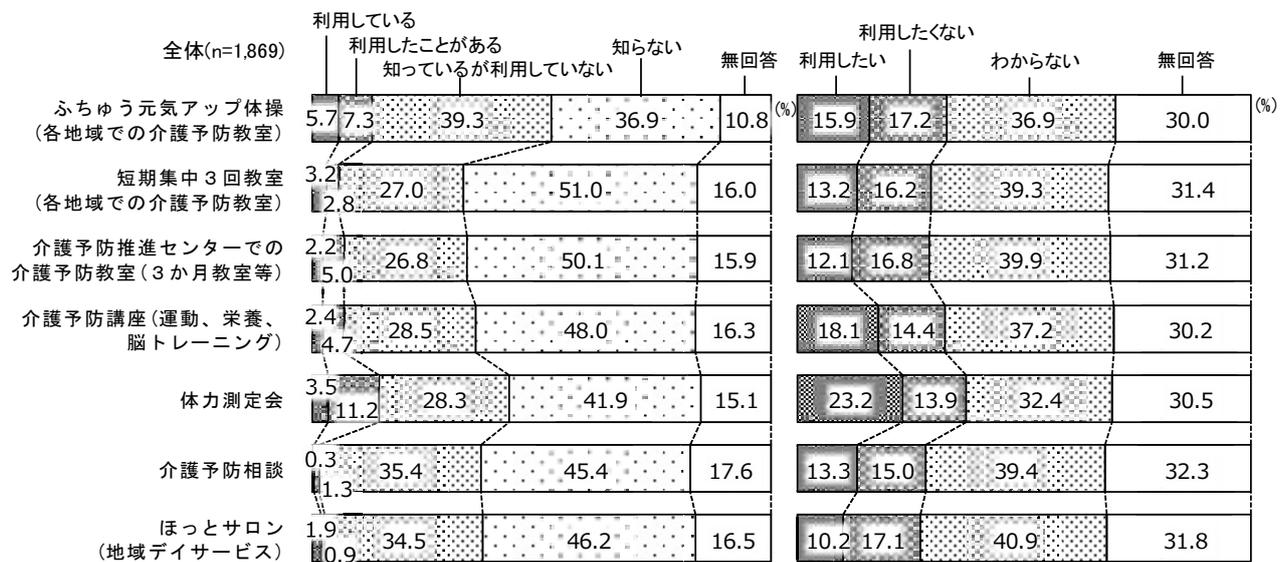
		意識して取り組んでいる	体力が落ちてきたら取り組みたい	もう少し歳をとってから取り組みたい	きっかけがあれば取り組みたい	興味はあるが、具体的な取り組み方がわからない	興味・関心がない	その他	無回答
全体(n=1,869)		35.4	12.4	10.5	13.7	14.6	4.9	2.2	6.4
性別	男性(n=862)	31.6	15.1	12.3	10.3	17.4	7.1	1.3	5.0
	女性(n=977)	38.5	9.7	9.0	16.8	12.4	3.1	3.1	7.5
年齢別	75歳以上(n=803)	38.2	13.4	7.1	12.7	13.4	4.9	2.1	8.1
	65～74歳(n=1,056)	33.3	11.4	13.2	14.4	15.3	5.0	2.3	5.1

(9) 介護予防事業の利用状況、利用意向 (65歳以上のみ) (問13)

介護予防事業について、「利用している」「利用したことがある」を合わせた“利用状況”は、『体力測定会』(14.7%)が最も多く、『ふちゅう元気アップ体操(各地域での介護予防教室)』(13.0%)、『介護予防推進センターでの介護予防教室(3か月教室等)』(7.2%)と続いている。「利用している」「利用したことがある」「知っているが利用していない」を合わせた“認知度”は、『ふちゅう元気アップ体操(各地域での介護予防教室)』(52.3%)が最も多く、『体力測定会』(43.0%)、『ほっとサロン(地域デイサービス)』(37.3%)と続いている。

利用意向の「利用したい」は、『体力測定会』(23.2%)が最も多く、『介護予防講座(運動、栄養、脳トレーニング)』(18.1%)、『ふちゅう元気アップ体操(各地域での介護予防教室)』(15.9%)と続いている。

■介護予防事業の利用状況(左)、利用意向(右)



性別にみると、いずれの介護予防事業も、「知らない」は男性が女性に比べ多く、「利用したい」は男性が女性に比べ少なくなっている。

■介護予防事業の利用状況（左）、利用意向（右）

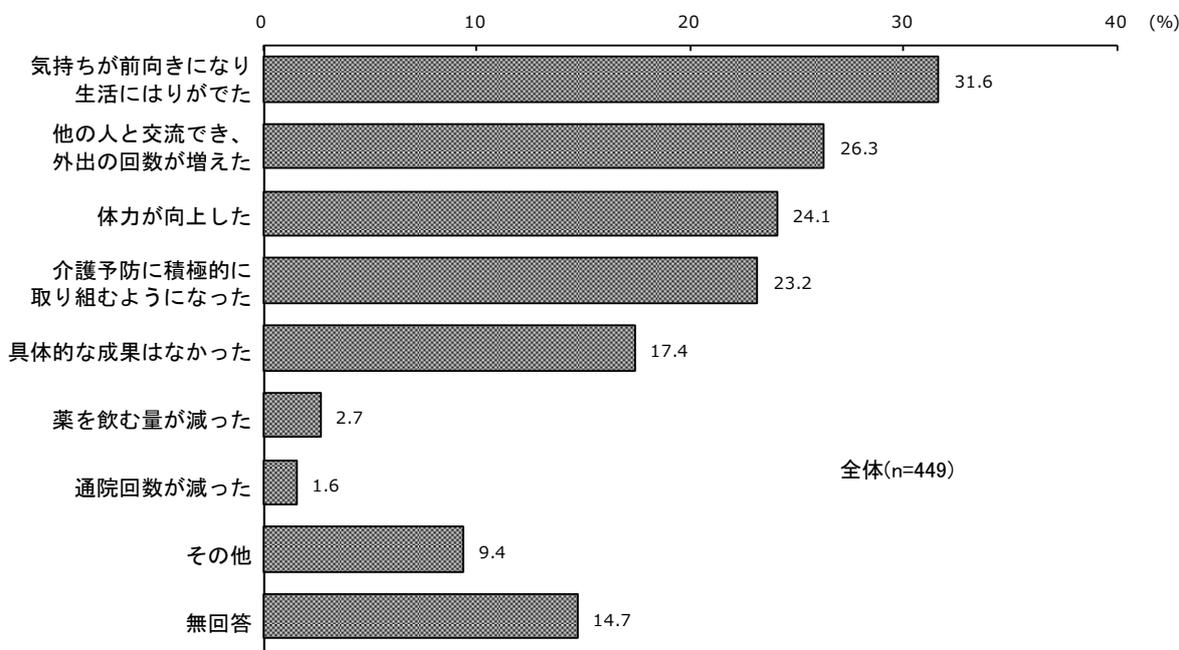
(%)

		利用している	と利用したことがある	知らない	知らない	無回答	利用したい	ない	わからない	無回答
ふちゅう元気アップ体操 (各地域での介護予防教室)	全体(n=1,869)	5.7	7.3	39.3	36.9	10.8	15.9	17.2	36.9	30.0
	男性(n=862)	3.5	3.8	36.8	47.9	8.0	11.6	19.6	44.2	24.6
	女性(n=977)	7.5	10.4	41.8	27.1	13.2	19.7	15.5	30.3	34.6
短期集中3回教室(各地域での介護予防教室)	全体(n=1,869)	3.2	2.8	27.0	51.0	16.0	13.2	16.2	39.3	31.4
	男性(n=862)	1.6	2.1	24.0	60.2	12.1	10.2	18.2	45.6	26.0
	女性(n=977)	4.5	3.4	29.8	43.0	19.3	15.8	14.6	33.7	35.9
介護予防推進センターでの介護予防教室(3か月教室等)	全体(n=1,869)	2.2	5.0	26.8	50.1	15.9	12.1	16.8	39.9	31.2
	男性(n=862)	1.0	3.1	23.1	60.2	12.5	10.2	17.9	46.3	25.6
	女性(n=977)	3.1	6.8	30.4	41.0	18.7	13.8	16.2	34.0	36.0
介護予防講座(運動、栄養、脳トレーニング)	全体(n=1,869)	2.4	4.7	28.5	48.0	16.3	18.1	14.4	37.2	30.2
	男性(n=862)	0.9	2.6	26.3	57.8	12.4	13.9	16.4	44.8	24.9
	女性(n=977)	3.7	6.7	30.5	39.5	19.7	21.7	13.0	30.4	34.9
体力測定会	全体(n=1,869)	3.5	11.2	28.3	41.9	15.1	23.2	13.9	32.4	30.5
	男性(n=862)	2.1	7.3	27.3	51.0	12.3	19.7	16.2	39.2	24.8
	女性(n=977)	4.7	14.8	29.1	33.8	17.6	25.8	12.2	26.5	35.5
介護予防相談	全体(n=1,869)	0.3	1.3	35.4	45.4	17.6	13.3	15.0	39.4	32.3
	男性(n=862)	0.1	1.2	32.6	53.1	13.0	11.7	16.8	45.1	26.3
	女性(n=977)	0.5	1.4	38.1	38.6	21.4	14.8	13.6	34.1	37.5
ほっとサロン (地域デイサービス)	全体(n=1,869)	1.9	0.9	34.5	46.2	16.5	10.2	17.1	40.9	31.8
	男性(n=862)	0.5	0.3	30.3	55.5	13.5	8.5	18.4	46.9	26.2
	女性(n=977)	3.1	1.4	38.3	38.1	19.1	11.7	16.2	35.5	36.6

(10) 介護予防事業の成果（65歳以上のみ）（問13-1）

介護予防事業を1つでも「利用している」「利用したことがある」と回答した人に介護予防事業の成果を聞いたところ、「気持ちが前向きになり生活にはりがでた」（31.6%）が最も多く、「他の人と交流でき、外出の回数が増えた」（26.3%）、「体力が向上した」（24.1%）と続いている。

■介護予防事業の成果（複数回答）



性別にみると、男性は「介護予防に積極的に取り組むようになった」（29.8%）が女性に比べ多く、女性は「他の人と交流でき、外出の回数が増えた」（30.4%）が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「薬を飲む量が減った」（4.0%）が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「具体的な成果はなかった」（23.6%）が75歳以上に比べ多くなっている。

■介護予防事業の成果（複数回答）

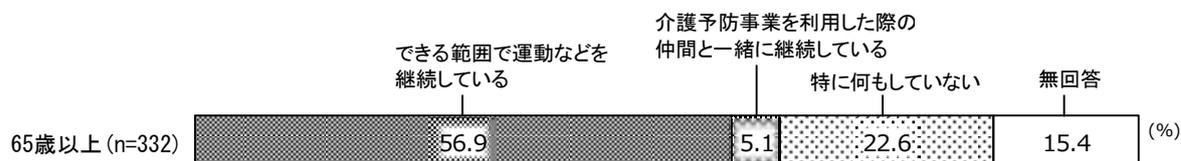
(%)

	でな気 たり持 生 活が に前 は向 りき がに	増き他 え、の た外 出と の交 流回 数で が	体 力 が 向 上 し た	な に介 つ取 たり 組 防 むに よ積 う極 的に	か具 つ体 た的 な成 果は な	た薬 を飲 む量 が減 つ	通 院 回 数 が 減 つ た	そ の 他	無 回 答
全体(n=449)	31.6	26.3	24.1	23.2	17.4	2.7	1.6	9.4	14.7
性別	男性(n=124)	30.6	16.9	24.2	29.8	0.8	1.6	8.9	12.9
	女性(n=316)	32.3	30.4	24.4	20.6	3.2	1.6	9.2	14.9
年齢別	75歳以上(n=251)	35.1	28.7	26.3	25.1	4.0	2.0	7.6	17.1
	65～74歳(n=195)	27.2	23.1	21.5	21.0	23.6	0.5	11.8	11.3

(11) 介護予防サービス利用後の継続状況（65歳以上のみ）（問13-2）

介護予防相談以外の介護予防事業を1つでも「利用したことがある」と回答した人に介護予防サービス利用後の継続状況を聞いたところ、「できる範囲で運動などを継続している」（56.9%）が最も多く、「特に何もしていない」（22.6%）、「介護予防事業を利用した際の仲間と一緒に継続している」（5.1%）と続いている。

■介護予防サービス利用後の継続状況



地区別にみると、第5地区は「特に何もしていない」（36.0%）が全体に比べ多くなっている。

■介護予防サービス利用後の継続状況

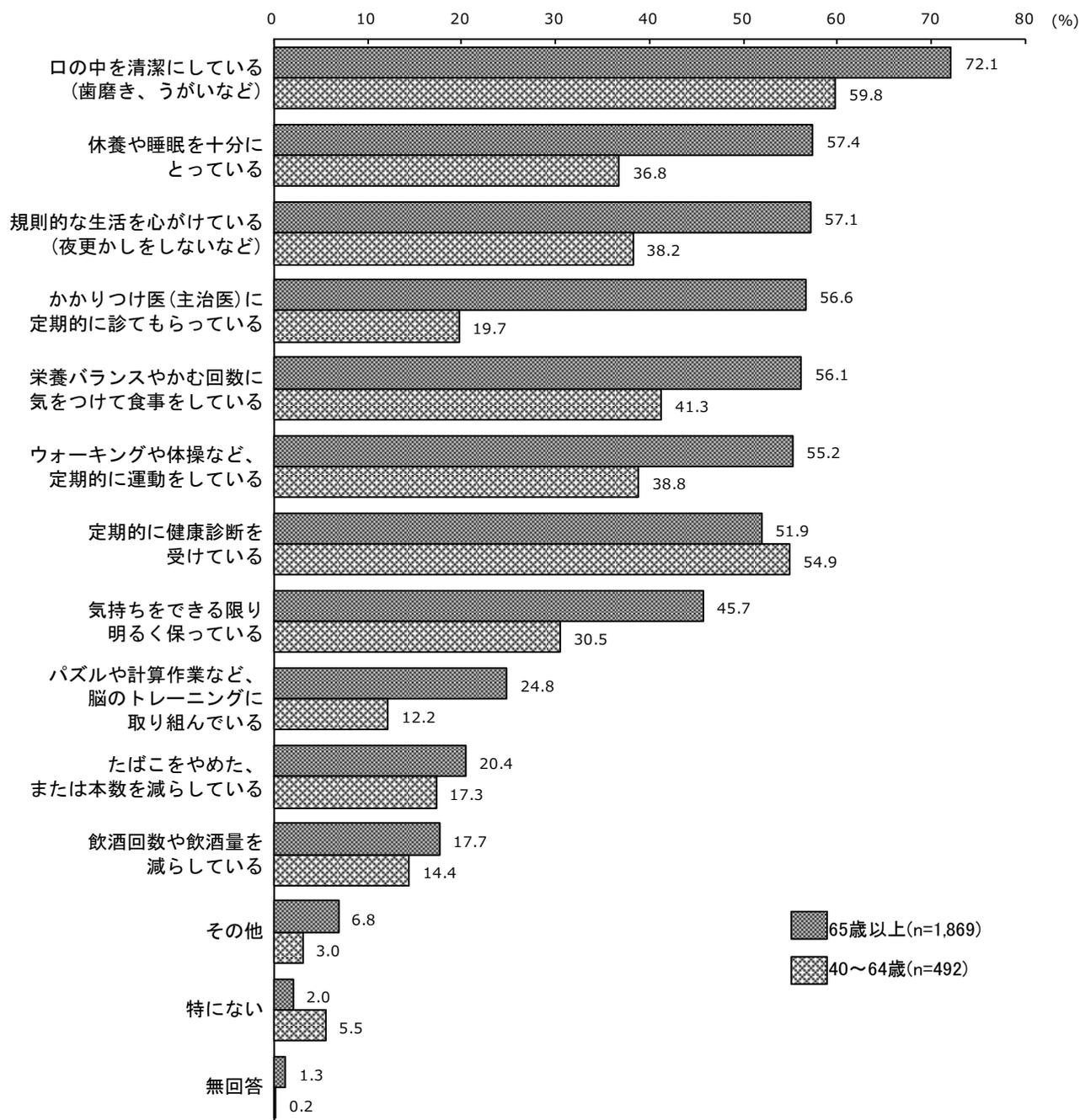
		(%)			
		できる範囲で運動などを継続している	介護予防事業を利用した際の仲間と一緒に継続している	特に何もしていない	無回答
全体(n=332)		56.9	5.1	22.6	15.4
地区別	第1地区(n=53)	60.4	1.9	22.6	15.1
	第2地区(n=64)	59.4	6.3	20.3	14.1
	第3地区(n=53)	60.4	-	15.1	24.5
	第4地区(n=52)	50.0	9.6	26.9	13.5
	第5地区(n=50)	44.0	8.0	36.0	12.0
	第6地区(n=56)	64.3	5.4	17.9	12.5

(12) 健康や介護予防のために気をつけていること（問14）

健康や介護予防のために気をつけていることは、65歳以上は「口の中を清潔にしている（歯磨き、うがいなど）」（72.1%）が最も多く、「休養や睡眠を十分にとっている」（57.4%）、「規則的な生活を心がけている（夜更かしをしないなど）」（57.1%）と続いている。

40～64歳は、「口の中を清潔にしている（歯磨き、うがいなど）」（59.8%）が最も多く、「定期的に健康診断を受けている」（54.9%）、「栄養バランスやかむ回数に気をつけて食事をしている」（41.3%）と続いている。

■健康や介護予防のために気をつけていること（複数回答）



65歳以上について性別にみると、男性は「定期的に健康診断を受けている」(54.8%)、「たばこをやめた、または本数を減らしている」(37.6%)、「飲酒回数や飲酒量を減らしている」(32.1%)が女性に比べ多く、女性は「口の中を清潔にしている(歯磨き、うがいなど)」(79.1%)、「栄養バランスやかむ回数に気をつけて食事をしている」(63.4%)、「気持ちをできる限り明るく保っている」(51.1%)、「パズルや計算作業など、脳のトレーニングに取り組んでいる」(27.5%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「口の中を清潔にしている(歯磨き、うがいなど)」(75.2%)、「休養や睡眠を十分にとっている」(63.9%)、「規則的な生活を心がけている(夜更かしをしないなど)」(60.9%)、「かかりつけ医(主治医)に定期的に診てもらっている」(67.0%)、「栄養バランスやかむ回数に気をつけて食事をしている」(62.4%)、「気持ちをできる限り明るく保っている」(49.7%)、「パズルや計算作業など、脳のトレーニングに取り組んでいる」(28.1%)が65~74歳に比べ多くなっている。

地区別にみると、第1地区は「定期的に健康診断を受けている」(58.4%)が全体に比べ多くなっている。

■健康や介護予防のために気をつけていること(複数回答)(65歳以上)

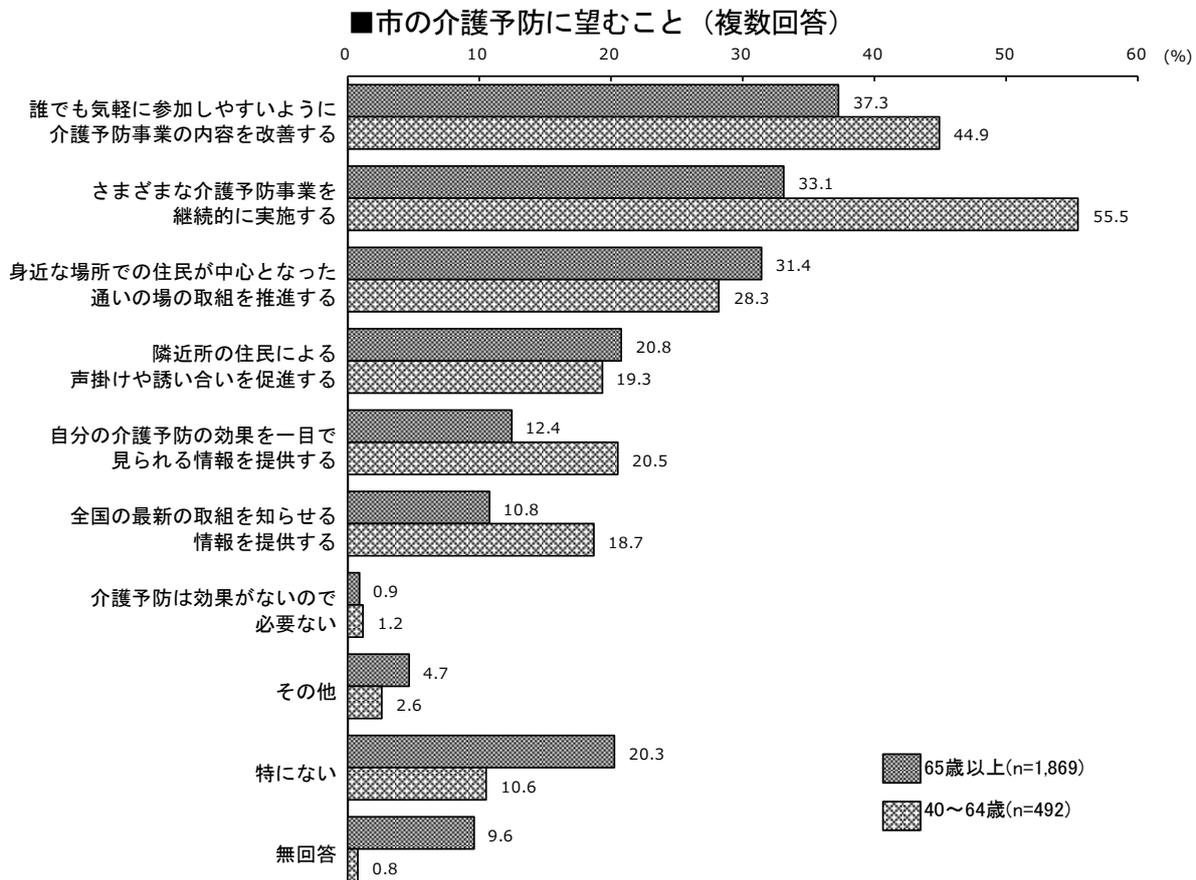
(%)

	口の中を清潔にしている(歯磨き、うがいなど)	休養や睡眠を十分にとっている	規則的な生活を心がけている(夜更かしをしないなど)	定期的にかかりつけ医(主治医)に定期的に診てもらっている	栄養バランスやかむ回数に気をつけて食事をしている	ウォーキングや体操など、定期的に運動をしている	定期的に健康診断を受けている	気持ちをできる限り明るく保っている	パズルや計算作業など、脳のトレーニングに取り組んでいる	たばこをやめた、または本数を減らしている	飲酒回数や飲酒量を減らしている	特になし	無回答	
全体(n=1,869)	72.1	57.4	57.1	56.6	56.1	55.2	51.9	45.7	24.8	20.4	17.7	2.0	1.3	
性別	男性(n=862)	64.4	58.5	57.0	58.7	47.6	56.5	54.8	39.4	21.8	37.6	32.1	2.8	1.3
	女性(n=977)	79.1	56.7	57.8	55.0	63.4	54.0	49.2	51.1	27.5	5.1	4.5	1.4	1.2
年齢別	75歳以上(n=803)	75.2	63.9	60.9	67.0	62.4	53.5	53.8	49.7	28.1	19.9	17.7	1.5	1.6
	65~74歳(n=1,056)	69.6	52.3	54.3	48.5	51.2	56.6	50.5	42.5	22.2	20.8	17.4	2.5	1.0
地区別	第1地区(n=344)	70.9	60.2	59.6	53.5	54.1	57.8	58.4	46.2	25.3	21.5	18.9	1.2	0.6
	第2地区(n=398)	71.4	57.3	56.3	58.8	57.0	59.5	53.0	45.5	24.9	21.9	18.6	1.3	0.8
	第3地区(n=339)	71.1	59.0	57.5	61.4	58.1	55.2	51.3	43.4	24.8	20.4	16.2	2.9	1.5
	第4地区(n=221)	75.1	52.9	52.9	57.5	53.8	53.4	47.5	46.6	22.2	16.3	16.7	2.3	1.8
	第5地区(n=245)	74.7	54.7	61.6	53.1	57.6	54.3	47.8	42.0	24.9	18.4	19.6	2.0	1.6
	第6地区(n=296)	71.6	59.1	55.4	53.7	56.1	49.7	50.0	50.0	25.0	21.6	15.2	3.0	1.4

(13) 市の介護予防に望むこと (問15)

市の介護予防に望むことは、65歳以上は「誰でも気軽に参加しやすいように介護予防事業の内容を改善する」(37.3%)が最も多く、「さまざまな介護予防事業を継続的に実施する」(33.1%)、「身近な場所での住民が中心となった通いの場の取組を推進する」(31.4%)と続いている。

40～64歳は、「さまざまな介護予防事業を継続的に実施する」(55.5%)が最も多く、「誰でも気軽に参加しやすいように介護予防事業の内容を改善する」(44.9%)、「身近な場所での住民が中心となった通いの場の取組を推進する」(28.3%)と続いている。



65歳以上について性別にみると、男性は「自分の介護予防の効果を一目で見られる情報を提供する」(14.7%)、「全国の最新の取組を知らせる情報を提供する」(12.9%)が女性に比べ多く、女性は「身近な場所での住民が中心となった通いの場の取組を推進する」(34.7%)、「隣近所の住民による声掛けや誘い合いを促進する」(23.1%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「自分の介護予防の効果を一目で見られる情報を提供する」(14.8%)、「全国の最新の取組を知らせる情報を提供する」(11.9%)が75歳以上に比べ多くなっている。

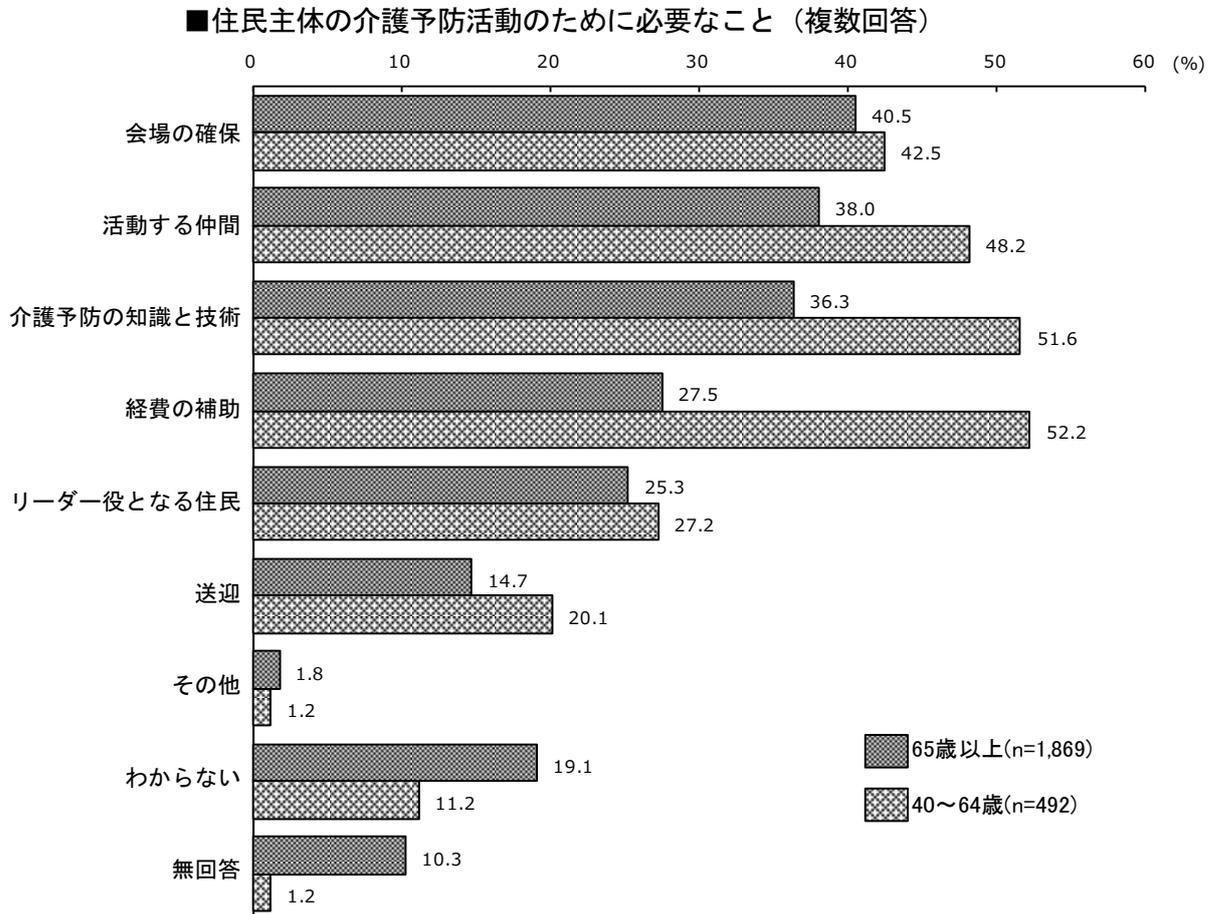
■市の介護予防に望むこと (複数回答) (65歳以上)

		を 防 参 誰	す 継 護 さ	推 の と の 身	促 や に 隣	る 情 目 防 自	する 取 全	必 果 介	そ の	特 に	無
		防 上 加 参 誰	続 予 ま	進 場 な 住	進 誘 よ 近	報 での 分	る 情 組 国	要 な な 予	他	に ない	回 答
		改 事 う 加 参 誰	的 防 ざ	の つ 民 な	す いる 所	を 見 効 の	を 知 最	い い 防			
		善 業 に し も	に 事 ま	る 取 た が 場	る 合 声 の	提 ら 果 介	を 知 最	い い 防			
		す の 介 や 気	実 業 な	組 通 中 所	い 掛 住	供 れ を 護	提 ら 新	い い 防			
		る 内 護 す 軽	施 を 介	を い 心 で	を け 民	する 一 予	供 せ の	は 効			
		容 予 い に									
全体(n=1,869)		37.3	33.1	31.4	20.8	12.4	10.8	0.9	4.7	20.3	9.6
性別	男性(n=862)	36.8	35.4	27.7	18.3	14.7	12.9	0.9	5.3	23.4	7.3
	女性(n=977)	37.5	31.2	34.7	23.1	10.3	8.9	0.7	3.8	17.5	11.5
年齢別	75歳以上(n=803)	36.4	33.0	32.1	22.2	9.3	9.1	1.4	5.7	19.7	11.6
	65～74歳(n=1,056)	38.1	33.3	30.6	19.5	14.8	11.9	0.5	3.8	20.7	8.0

(14) 住民主体の介護予防活動のために必要なこと（問16）

住民主体の介護予防活動のために必要なことは、65歳以上は「会場の確保」（40.5%）が最も多く、「活動する仲間」（38.0%）、「介護予防の知識と技術」（36.3%）と続いている。

40～64歳は、「経費の補助」（52.2%）が最も多く、「介護予防の知識と技術」（51.6%）、「活動する仲間」（48.2%）と続いている。



65歳以上について性別にみると、女性は「活動する仲間」（42.5%）が男性に比べ多くなっている。年齢別にみると、75歳以上は「送迎」（16.9%）が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「活動する仲間」（41.6%）、「経費の補助」（30.0%）が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第4地区は「リーダー役となる住民」（31.2%）が全体に比べ多くなっている。

■住民主体の介護予防活動のために必要なこと（複数回答）（65歳以上）

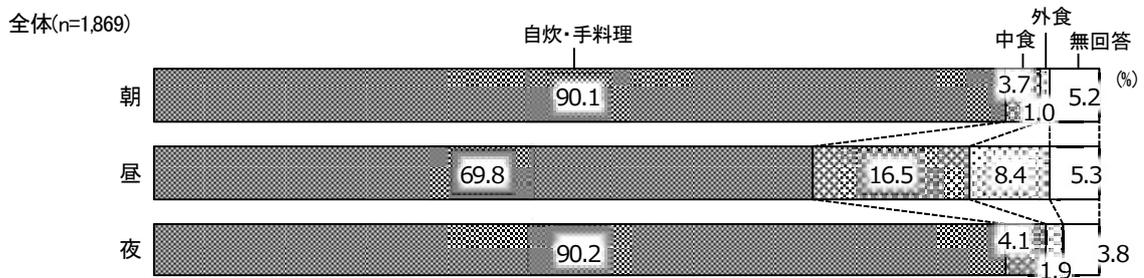
		確 保 場 の	る 活 仲 動 間 す	術 識 防 介 の 護 技 知 予	補 経 助 費 の	住 と ダ リ 民 な し る 役	送 迎	そ の 他	な わ い か ら	無 回 答
全体(n=1,869)		40.5	38.0	36.3	27.5	25.3	14.7	1.8	19.1	10.3
性別	男性(n=862)	39.3	33.4	34.9	29.1	25.5	14.6	2.1	22.6	8.9
	女性(n=977)	41.9	42.5	37.8	26.1	25.4	14.9	1.4	16.1	11.0
年齢別	75歳以上(n=803)	38.9	33.6	34.2	24.2	23.3	16.9	1.5	17.9	13.8
	65～74歳(n=1,056)	42.0	41.6	38.1	30.0	26.8	13.1	2.0	20.0	7.3
地区別	第1地区(n=344)	42.2	39.8	33.7	27.9	26.2	14.0	1.7	18.6	9.0
	第2地区(n=398)	41.5	33.9	36.4	28.1	22.4	13.6	1.5	22.4	9.3
	第3地区(n=339)	43.1	38.9	40.4	31.3	27.4	17.1	1.8	16.8	11.8
	第4地区(n=221)	41.6	42.1	36.2	28.1	31.2	17.6	1.8	11.8	15.4
	第5地区(n=245)	40.4	41.2	35.9	27.8	27.3	13.5	2.4	18.8	7.3
	第6地区(n=296)	35.1	36.1	35.5	22.6	19.9	13.9	1.0	24.0	8.1

6 生活習慣について

(1) 普段の食事の状況（自炊・手料理、中食、外食）（問17）

65歳以上の普段の食事の状況について、「自炊・手料理」は『朝』が90.1%、『昼』が69.8%、『夜』が90.2%となっている。

■ 普段の食事の状況（自炊・手料理、中食、外食）（65歳以上）



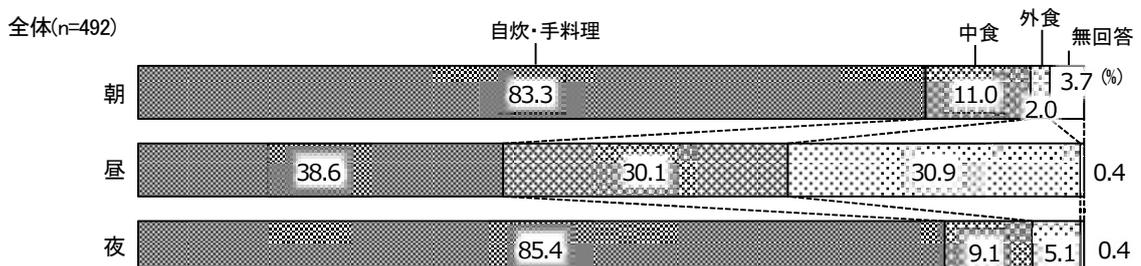
65歳以上について性別にみると、男性は「外食」が女性に比べ多く、女性は「自炊・手料理」が男性に比べ多くなっている。年齢別にみると、65～74歳は「外食」が75歳以上に比べ多くなっている。

■ 普段の食事の状況（自炊・手料理、中食、外食）（65歳以上）

			料・自 理手炊	中 食	外 食	答無 回
性別	朝	全体(n=1,869)	90.1	3.7	1.0	5.2
		男性(n=862)	86.9	5.3	1.7	6.0
		女性(n=977)	93.0	2.1	0.4	4.4
	昼	全体(n=1,869)	69.8	16.5	8.4	5.3
		男性(n=862)	64.4	18.0	11.9	5.7
		女性(n=977)	74.5	15.3	5.4	4.8
夜	全体(n=1,869)	90.2	4.1	1.9	3.8	
	男性(n=862)	87.6	5.7	3.1	3.6	
	女性(n=977)	92.4	2.7	0.9	4.0	
年齢別	朝	全体(n=1,869)	90.1	3.7	1.0	5.2
		65～74歳(n=1,056)	89.2	4.3	1.6	4.9
		75歳以上(n=803)	91.3	3.0	0.2	5.5
	昼	全体(n=1,869)	69.8	16.5	8.4	5.3
		65～74歳(n=1,056)	66.3	18.6	11.3	3.9
		75歳以上(n=803)	74.5	13.8	4.6	7.1
	夜	全体(n=1,869)	90.2	4.1	1.9	3.8
		65～74歳(n=1,056)	91.0	4.1	2.6	2.4
		75歳以上(n=803)	89.2	4.1	1.1	5.6

40～64歳の「自炊・手料理」は、『朝』が83.3%、『昼』が38.6%、『夜』が85.4%となっている。

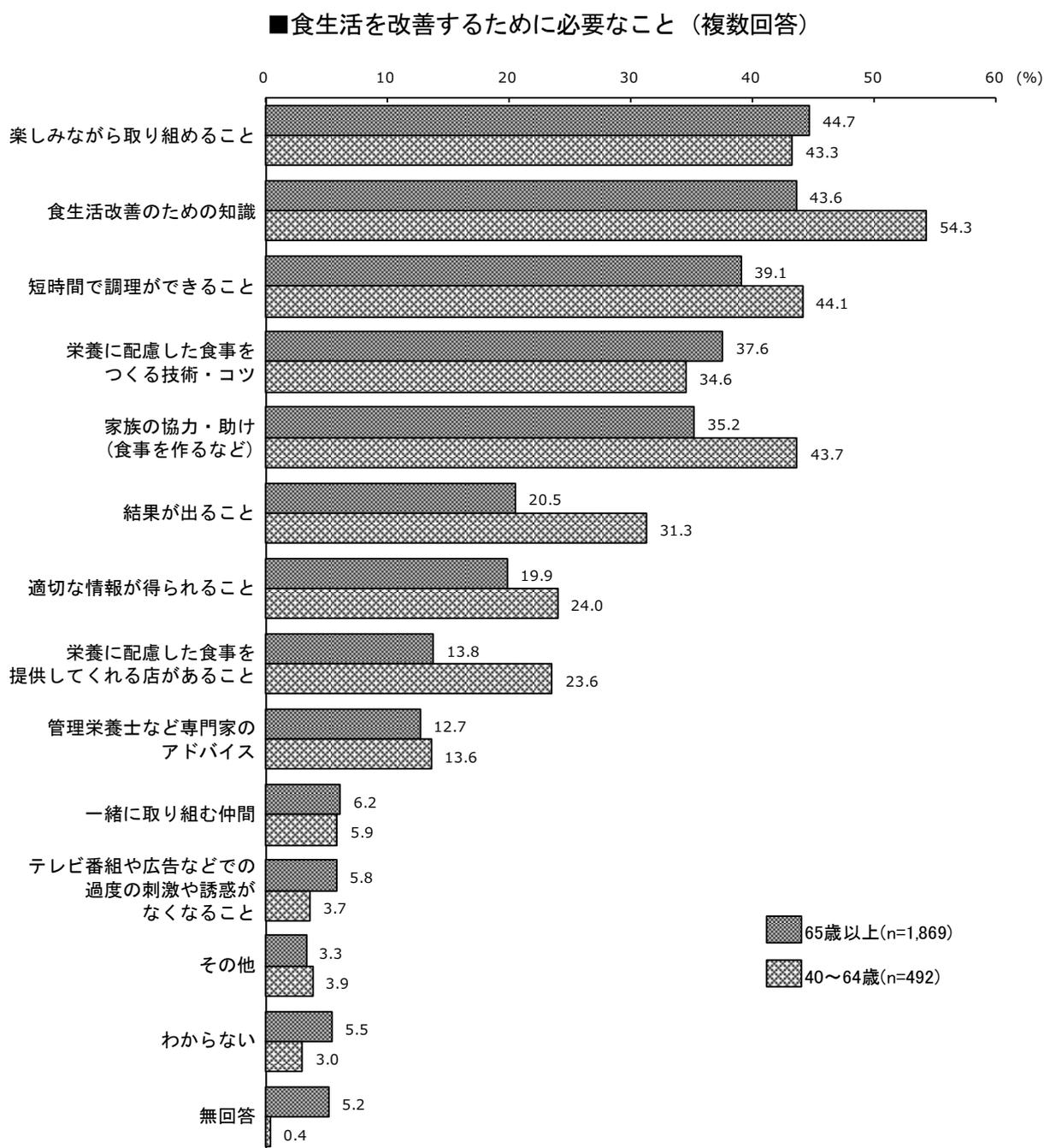
■ 普段の食事の状況（自炊・手料理、中食、外食）（40～64歳）



(2) 食生活を改善するために必要なこと (問18)

食生活を改善するために必要なことは、65歳以上は「楽しみながら取り組めること」(44.7%)が最も多く、「食生活改善のための知識」(43.6%)、「短時間で調理ができること」(39.1%)と続いている。

40～64歳は、「食生活改善のための知識」(54.3%)が最も多く、「短時間で調理ができること」(44.1%)、「家族の協力・助け(食事を作るなど)」(43.7%)と続いている。



65歳以上について性別にみると、男性は「家族の協力・助け（食事を作るなど）」（47.8%）が女性に比べ多く、女性は「楽しみながら取り組めること」（53.2%）、「短時間で調理ができること」（51.0%）、「栄養に配慮した食事をつくる技術・コツ」（40.0%）、「結果が出ること」（22.3%）が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「適切な情報が得られること」（23.0%）、「結果が出ること」（23.4%）が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第1地区は「短時間で調理ができること」（44.8%）、第2地区は「結果が出ること」（24.6%）が全体に比べ多くなっている。

■食生活を改善するために必要なこと（複数回答）（65歳以上）

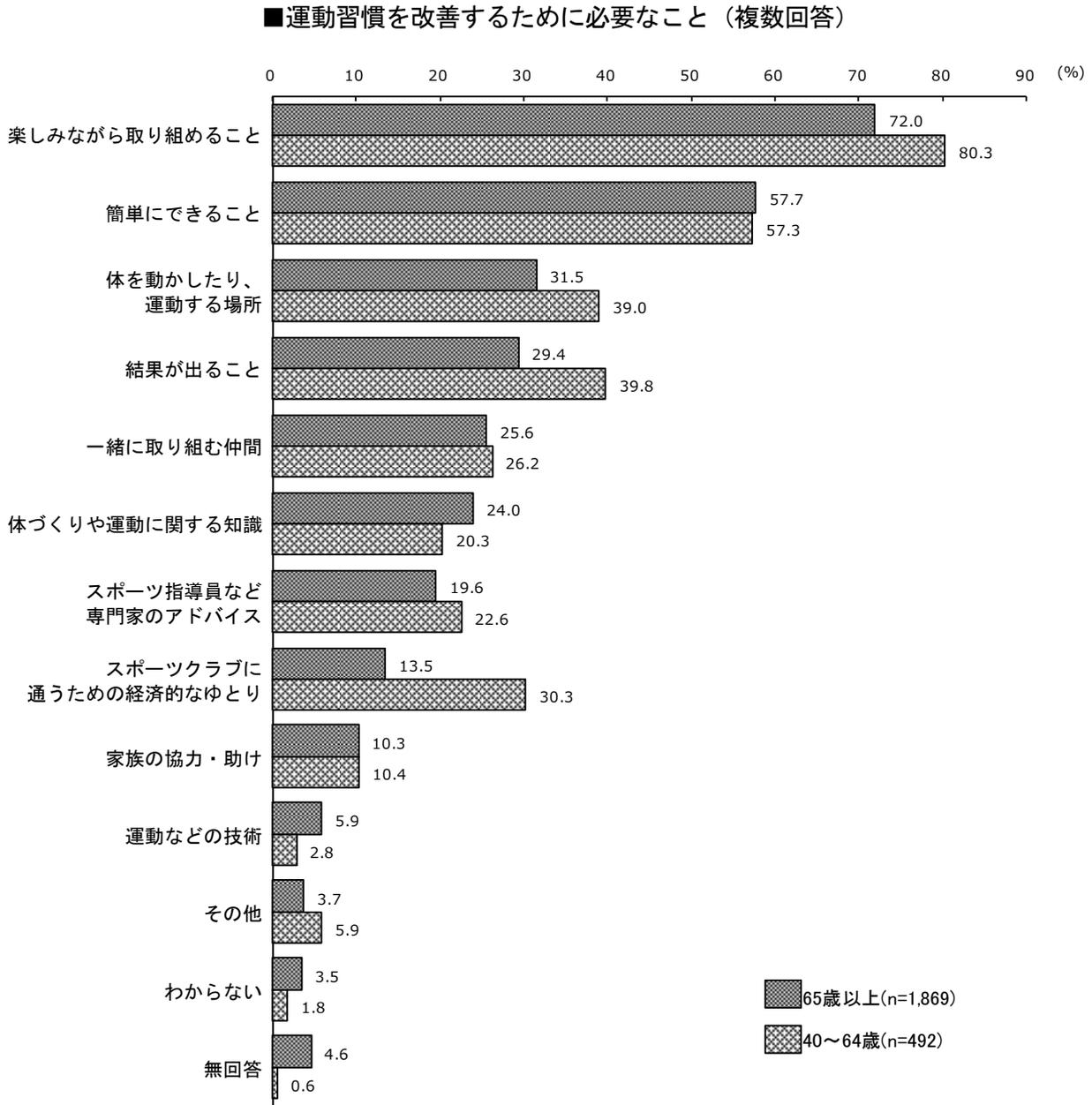
(%)

		楽しむながら取り組めること	食生活改善のための知識	短時間で調理ができること	栄養に配慮した食事をつくる技術・コツ	家族の協力・助け（食事を作るなど）	適切な情報が得られること	結果が出ること	栄養に配慮した店が提案すること	管理栄養士などの専門家	一緒に取り組む仲間	テレビ番組や広告など	その他	わからない	無回答
全体(n=1,869)		44.7	43.6	39.1	37.6	35.2	19.9	20.5	13.8	12.7	6.2	5.8	3.3	5.5	5.2
性別	男性(n=862)	35.3	44.5	26.0	34.7	47.8	18.9	18.4	13.7	11.5	5.1	6.5	3.0	8.0	5.0
	女性(n=977)	53.2	42.8	51.0	40.0	24.5	20.9	22.3	14.0	14.0	7.1	5.2	3.6	2.9	5.4
年齢別	75歳以上(n=803)	43.6	42.1	38.7	39.1	36.6	15.8	16.9	14.7	13.7	5.5	6.2	3.4	5.5	6.5
	65～74歳(n=1,056)	45.4	44.7	39.5	36.4	34.2	23.0	23.4	12.9	12.0	6.4	5.6	3.2	5.4	4.3
地区別	第1地区(n=344)	43.3	39.2	44.8	39.8	32.0	19.8	20.1	16.3	13.4	5.5	6.7	4.7	6.4	5.2
	第2地区(n=398)	46.2	47.7	36.4	34.7	36.2	22.9	24.6	13.8	13.8	4.8	5.0	3.5	7.3	4.5
	第3地区(n=339)	44.5	42.8	37.8	36.3	35.4	20.1	18.9	12.7	11.8	6.2	5.3	5.6	4.4	6.2
	第4地区(n=221)	44.3	43.9	40.7	40.7	38.9	19.9	22.6	15.8	14.5	5.4	5.0	1.4	4.1	6.3
	第5地区(n=245)	46.5	44.1	38.8	42.0	31.8	19.6	18.8	9.4	13.1	8.2	6.1	1.6	4.1	5.3
	第6地区(n=296)	42.9	44.3	37.8	34.1	38.9	15.9	17.9	13.9	10.5	7.1	6.8	1.7	5.1	3.0

(3) 運動習慣を改善するために必要なこと (問19)

運動習慣を改善するために必要なことは、65歳以上は「楽しみながら取り組めること」(72.0%)が最も多く、「簡単にできること」(57.7%)、「体を動かしたり、運動する場所」(31.5%)と続いている。

40～64歳は、「楽しみながら取り組めること」(80.3%)が最も多く、「簡単にできること」(57.3%)、「結果が出ること」(39.8%)と続いている。



65歳以上について性別にみると、男性は「家族の協力・助け」(13.1%)、「運動などの技術」(7.5%)が女性に比べ多く、女性は「楽しみながら取り組めること」(75.2%)、「簡単にできること」(62.8%)、「一緒に取り組む仲間」(28.4%)、「スポーツ指導員など専門家のアドバイス」(23.7%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「家族の協力・助け」(13.4%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「簡単にできること」(60.9%)、「結果が出ること」(32.3%)、「スポーツクラブに通うための経済的なゆとり」(16.3%)が75歳以上に比べ多くなっている。

■運動習慣を改善するために必要なこと（複数回答）（65歳以上）

(%)

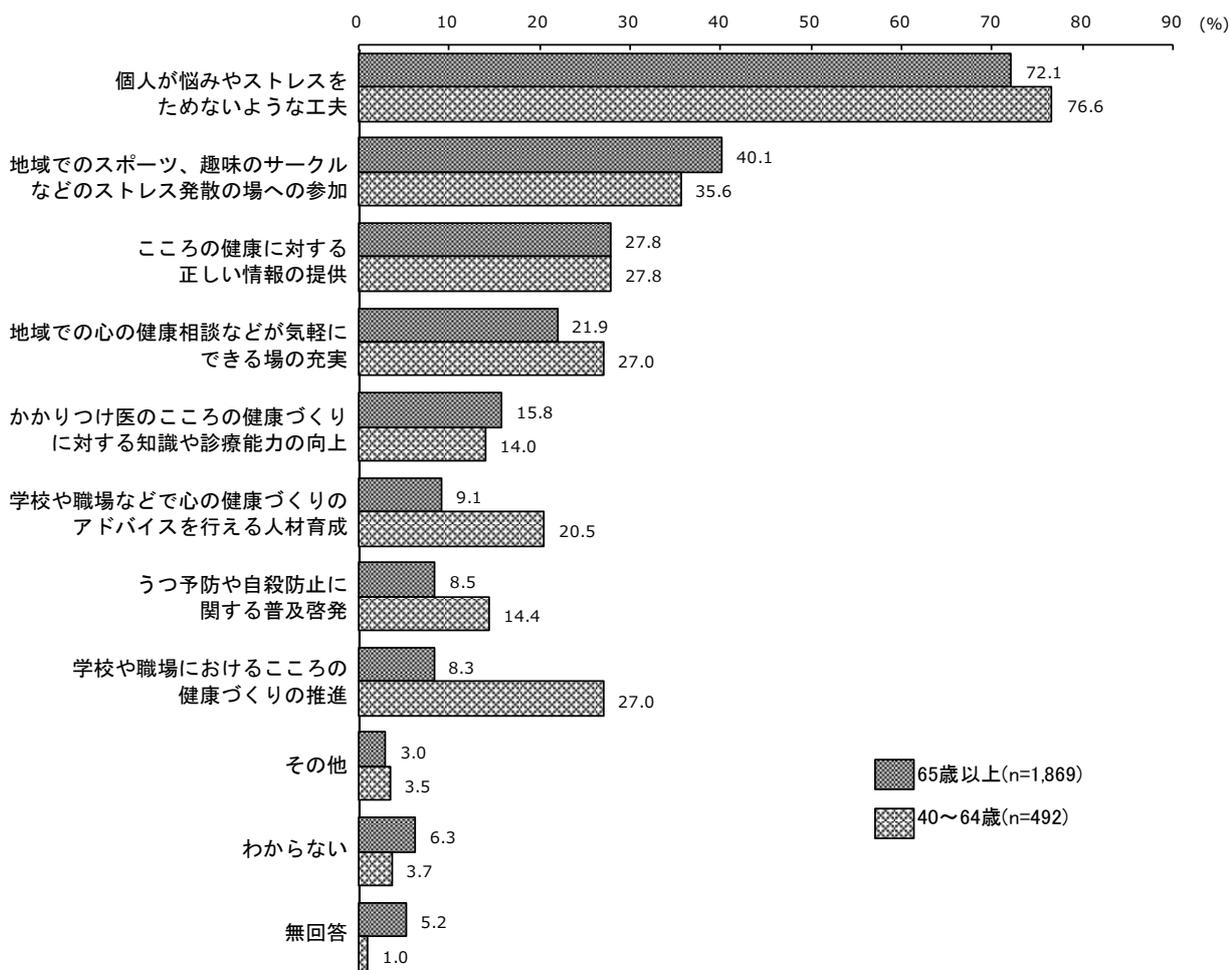
	組 め し み な が ら 取 り こ と	簡 単 に で き る こ と	運 動 を 動 か し た り 、 場 所	結 果 が 出 る こ と	一 緒 に 取 り 組 む 仲 間	関 心 を も つ た り 知 識	体 づ く り や 運 動 に 関 心	イ ン フ ォ ル メ ー シ ョ ン	ス ポ ー ツ の 指 導 員 の ア ド バ イ ス	な ら ば と り つ け が あ る こ と	ス ポ ー ツ ク ラ ブ に 入 会 す こ と	家 族 の 協 力 ・ 助 け	運 動 な ど の 技 術	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体(n=1,869)	72.0	57.7	31.5	29.4	25.6	24.0	19.6	13.5	10.3	5.9	3.7	3.5	4.6			
性別	男性(n=862)	68.3	52.7	30.7	28.9	22.5	25.8	14.6	14.0	13.1	7.5	3.6	4.5	4.1		
	女性(n=977)	75.2	62.8	32.3	30.1	28.4	22.5	23.7	13.1	7.9	4.5	3.5	2.7	5.0		
年齢別	75歳以上(n=803)	69.6	53.5	31.0	25.5	26.7	22.7	17.4	9.7	13.4	5.7	5.0	4.2	6.6		
	65～74歳(n=1,056)	73.7	60.9	31.8	32.3	24.6	24.8	21.0	16.3	7.9	6.0	2.7	2.8	3.1		

(4) こころの健康づくりのために必要なこと (問20)

こころの健康づくりのために必要なことは、65歳以上は「個人が悩みやストレスをためないような工夫」(72.1%)が最も多く、「地域でのスポーツ、趣味のサークルなどのストレス発散の場への参加」(40.1%)、「こころの健康に対する正しい情報の提供」(27.8%)と続いている。

40～64歳は、「個人が悩みやストレスをためないような工夫」(76.6%)が最も多く、「地域でのスポーツ、趣味のサークルなどのストレス発散の場への参加」(35.6%)、「こころの健康に対する正しい情報の提供」(27.8%)と続いている。

■こころの健康づくりのために必要なこと (複数回答)



65 歳以上について性別にみると、男性は「うつ予防や自殺防止に関する普及啓発」（10.2%）が女性に比べ多く、女性は「個人が悩みやストレスをためないような工夫」（75.2%）、「地域でのスポーツ、趣味のサークルなどのストレス発散の場への参加」（42.7%）が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74 歳は「こころの健康に対する正しい情報の提供」（30.0%）、「うつ予防や自殺防止に関する普及啓発」（10.4%）、「学校や職場におけるこころの健康づくりの推進」（9.8%）が 75 歳以上に比べ多く、75 歳以上は「かかりつけ医のこころの健康づくりに対する知識や診療能力の向上」（19.4%）が 65～74 歳に比べ多くなっている。

■こころの健康づくりのために必要なこと（複数回答）（65 歳以上）

		個人が悩まな いようなや 工夫をた	散の場への 参加	サ一域での なスポーツ、 趣味の	地情の健康 に対する正 し	こころの健 康に	が地 域で の心 の健 康の 相 充 実	療康か 能力 の向 上	る 人 材 育 成	づ 学 校 や 職 場 な ど で 心 の 健 康 を 行 え	る う つ 予 防 や 自 殺 防 止 に 関 す	の学 校 や 職 場 に お け る こ ろ	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体(n=1,869)		72.1	40.1	27.8	21.9	15.8	9.1	8.5	8.3	3.0	6.3	5.2			
性別	男性(n=862)	68.7	37.0	29.4	23.2	16.0	8.6	10.2	9.4	2.8	8.9	5.2			
	女性(n=977)	75.2	42.7	27.0	21.0	15.6	9.5	7.1	7.2	3.1	3.9	5.1			
年齢別	75歳以上(n=803)	70.9	39.0	25.2	21.7	19.4	8.5	6.0	6.1	3.9	6.4	7.0			
	65～74歳(n=1,056)	72.9	41.0	30.0	22.3	12.8	9.6	10.4	9.8	2.4	6.2	4.0			

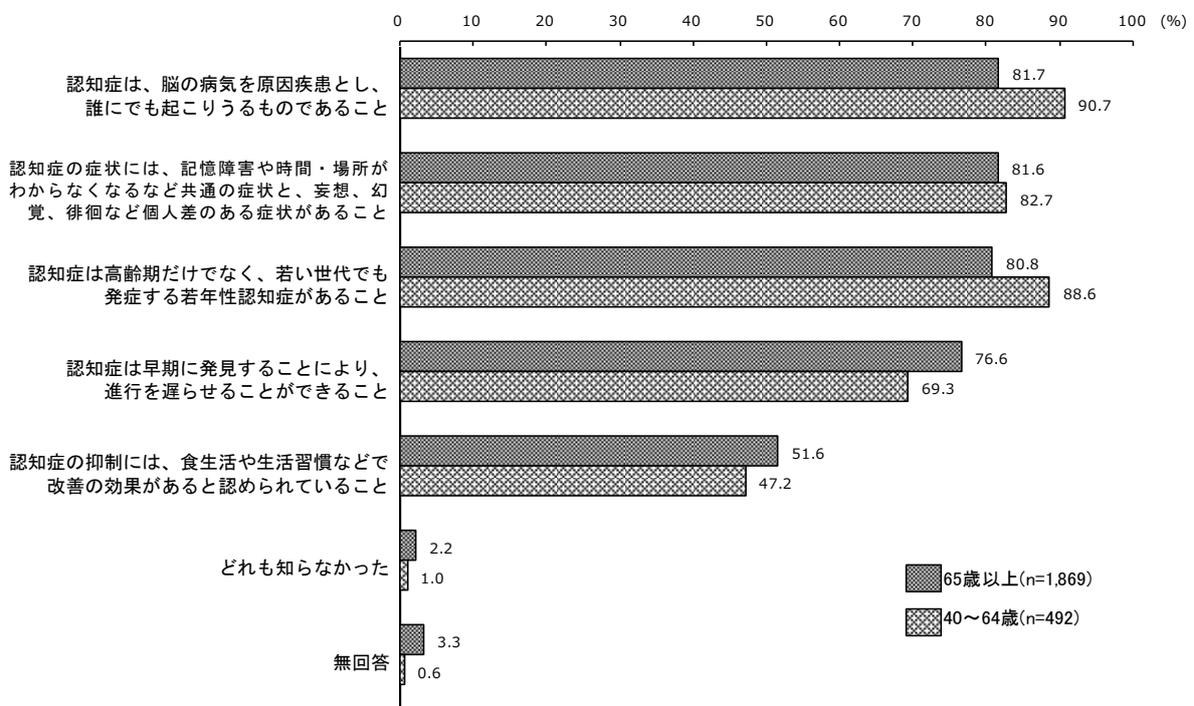
7 認知症について

(1) 認知症について知っていること (問21)

認知症について知っていることは、65歳以上は「認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること」(81.7%)が最も多く、「認知症の症状には、記憶障害や時間・場所がわからなくなるなど共通の症状と、妄想、幻覚、徘徊など個人差のある症状があること」(81.6%)、「認知症は高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること」(80.8%)と続いている。

40～64歳は、「認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること」(90.7%)が最も多く、「認知症は高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること」(88.6%)、「認知症の症状には、記憶障害や時間・場所がわからなくなるなど共通の症状と、妄想、幻覚、徘徊など個人差のある症状があること」(82.7%)と続いている。

■ 認知症について知っていること (複数回答)



65歳以上について年齢別にみると、75歳以上はいずれの内容も65～74歳に比べ少なくなっている。

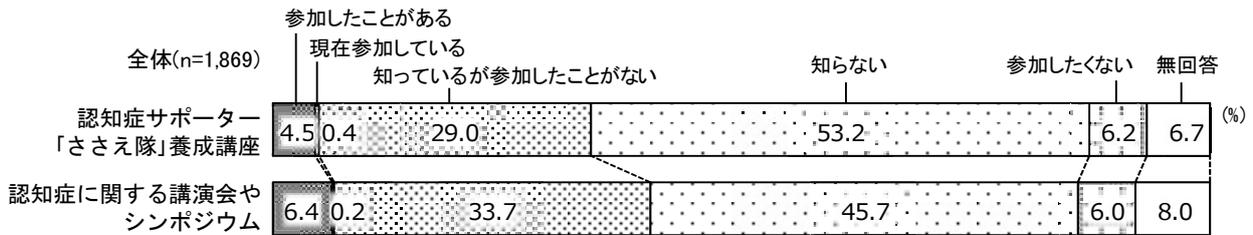
■ 認知症について知っていること (複数回答) (65歳以上)

		(%)						無回答
		認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること	認知症の症状には、記憶障害や時間・場所がわからなくなるなど共通の症状と、妄想、幻覚、徘徊など個人差のある症状があること	認知症は高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること	認知症は早期に発見することにより、進行を遅らせることができること	認知症の抑制には、食生活や生活習慣などで改善の効果があると認められていること	どれも知らなかった	無回答
全体(n=1,869)		81.7	81.6	80.8	76.6	51.6	2.2	3.3
年齢別	75歳以上(n=803)	77.8	78.5	74.7	73.6	49.3	3.0	4.6
	65～74歳(n=1,056)	84.8	84.0	85.5	78.9	53.3	1.7	2.3

(2) 認知症予防啓発活動への参加・認知状況 (問 22)

65歳以上の認知症予防啓発活動について、「参加したことがある」「現在参加している」を合わせた“参加状況”は、『認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』が4.9%、『認知症に関する講演会やシンポジウム』が6.6%となっている。「参加したことがある」「現在参加している」「知っているが参加したことがない」を合わせた“認知度”は、『認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』が33.9%、『認知症に関する講演会やシンポジウム』が40.3%となっている。

■認知症予防啓発活動への参加・認知状況 (65歳以上)



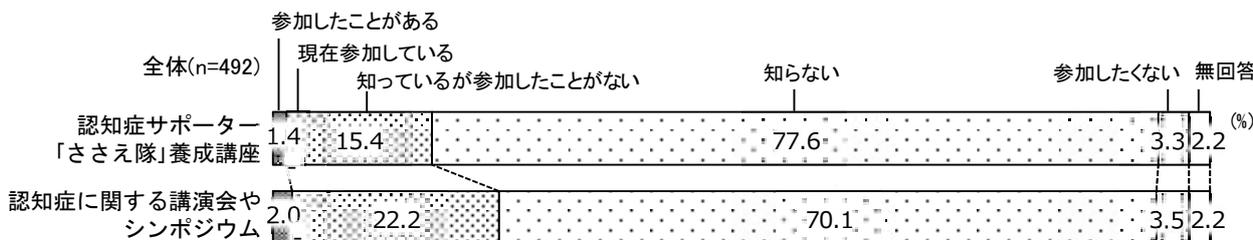
65歳以上について性別にみると、男性は「知らない」が女性に比べ多くなっている。

■認知症予防啓発活動への参加・認知状況 (65歳以上)

		と参加したことがある	現在参加している	知っているが参加したことがない	知らない	参加したくない	無回答
認知症サポーター「ささえ隊」養成講座	全体(n=1,869)	4.5	0.4	29.0	53.2	6.2	6.7
	男性(n=862)	3.8	0.5	20.1	65.0	6.3	4.4
	女性(n=977)	5.3	0.3	36.5	43.2	6.0	8.6
認知症に関する講演会やシンポジウム	全体(n=1,869)	6.4	0.2	33.7	45.7	6.0	8.0
	男性(n=862)	4.3	0.1	26.5	56.6	6.7	5.8
	女性(n=977)	8.4	0.3	40.2	36.2	5.4	9.4

40～64歳の“参加状況”は、『認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』が1.4%、『認知症に関する講演会やシンポジウム』が2.0%となっている。“認知度”は、『認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』が16.8%、『認知症に関する講演会やシンポジウム』が24.2%となっている。

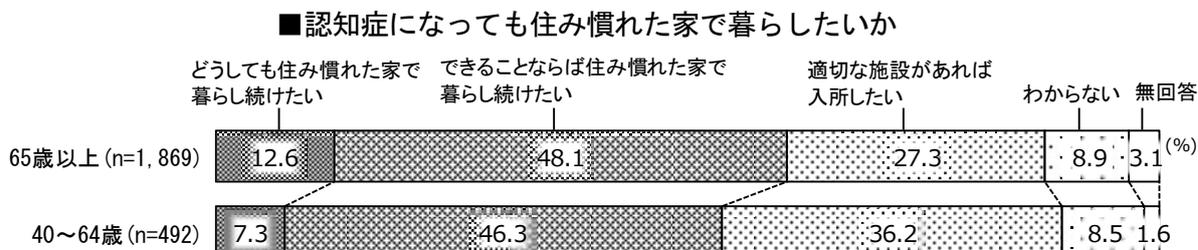
■認知症予防啓発活動への参加・認知状況 (40～64歳)



(3) 認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいか (問23)

認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいか聞いたところ、65歳以上は「できることならば住み慣れた家で暮らし続けたい」(48.1%)が最も多く、「適切な施設があれば入所したい」(27.3%)、「どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい」(12.6%)と続いている。

40～64歳は、「できることならば住み慣れた家で暮らし続けたい」(46.3%)が最も多く、「適切な施設があれば入所したい」(36.2%)、「どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい」(7.3%)と続いている。



65歳以上について性別にみると、男性は「どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい」(15.4%)が女性に比べ多く、女性は「適切な施設があれば入所したい」(31.6%)が男性に比べ多くなっている。年齢別にみると、75歳以上は「どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい」(16.6%)が65～74歳に比べ多くなっている。

■認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいか (65歳以上)

(%)

		続家住ど けでみ うた暮 慣し いら れて した も	た暮慣 なで いら れら き した ば る 続 家 住 こ け で み と	所が適 しあ 切 た れ な い ば 施 入 設	わ か ら な い	無 回 答
全体(n=1,869)		12.6	48.1	27.3	8.9	3.1
性別	男性(n=862)	15.4	49.4	22.3	10.6	2.3
	女性(n=977)	10.0	47.0	31.6	7.7	3.7
年齢別	75歳以上(n=803)	16.6	46.3	25.0	8.1	4.0
	65～74歳(n=1,056)	9.7	49.3	29.1	9.5	2.5

さらに居住形態別にみると、持ち家の一戸建ての人は「できることならば住み慣れた家で暮らし続けたい」(52.8%)、民間賃貸の集合住宅の人は「適切な施設があれば入所したい」(44.2%)が全体に比べ多くなっている。

■認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいか (65歳以上)

(%)

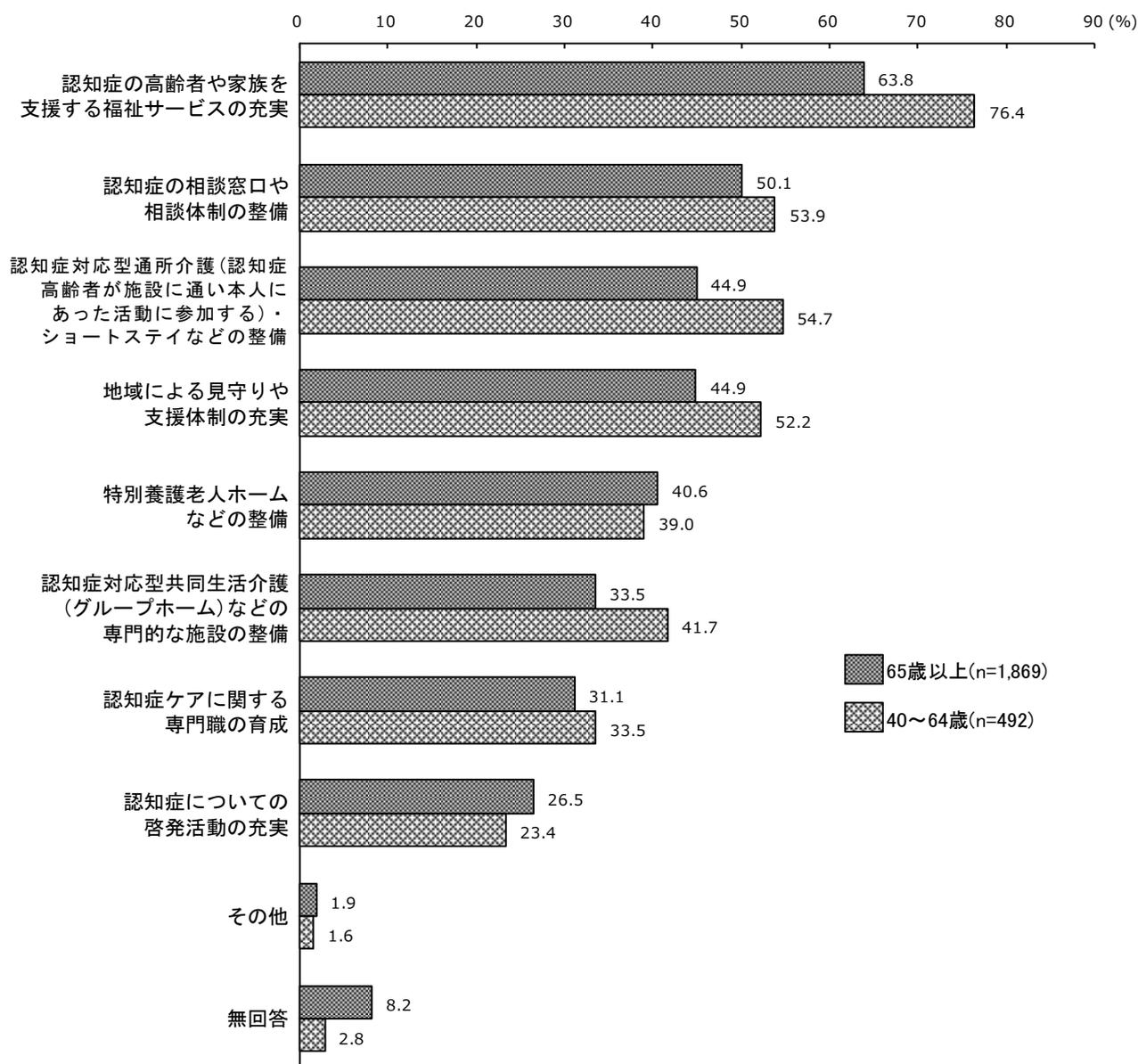
		続家住ど けでみ うた暮 慣し いら れて した も	た暮慣 なで いら れら き した ば る 続 家 住 こ け で み と	所が適 しあ 切 た れ な い ば 施 入 設	わ か ら な い	無 回 答
全体(n=1,869)		12.6	48.1	27.3	8.9	3.1
居住形態別	持ち家の一戸建て(n=1,075)	13.7	52.8	23.9	7.2	2.4
	持ち家の集合住宅(n=426)	12.7	47.7	28.6	9.4	1.6
	民間賃貸の一戸建て(n=24)	8.3	41.7	33.3	12.5	4.2
	民間賃貸の集合住宅(n=138)	7.2	26.8	44.2	15.2	6.5
	公的賃貸住宅(n=154)	10.4	41.6	29.9	13.0	5.2
	高齢者向け住宅(n=4)	-	-	100.0	-	-

(4) 認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと (問 24)

認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なことは、65歳以上は「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実」(63.8%)が最も多く、「認知症の相談窓口や相談体制の整備」(50.1%)、「認知症対応型通所介護(認知症高齢者が施設に通い本人にあった活動に参加する)・ショートステイなどの整備」と「地域による見守りや支援体制の充実」(ともに44.9%)と続いている。

40～64歳は、「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実」(76.4%)が最も多く、「認知症対応型通所介護(認知症高齢者が施設に通い本人にあった活動に参加する)・ショートステイなどの整備」(54.7%)、「認知症の相談窓口や相談体制の整備」(53.9%)と続いている。

■ 認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと (複数回答)



65歳以上について性別にみると、男性は「認知症についての啓発活動の充実」(29.8%)が女性に比べ多く、女性は「認知症対応型通所介護(認知症高齢者が施設に通い本人にあった活動に参加する)・ショートステイなどの整備」(49.6%)、「認知症ケアに関する専門職の育成」(33.3%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実」(66.3%)、「認知症対応型通所介護(認知症高齢者が施設に通い本人にあった活動に参加する)・ショートステイなどの整備」と「地域による見守りや支援体制の充実」(ともに47.7%)、「認知症対応型共同生活介護(グループホーム)などの専門的な施設の整備」(36.6%)が75歳以上に比べ多くなっている。

■認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと(複数回答) (65歳以上)

(%)

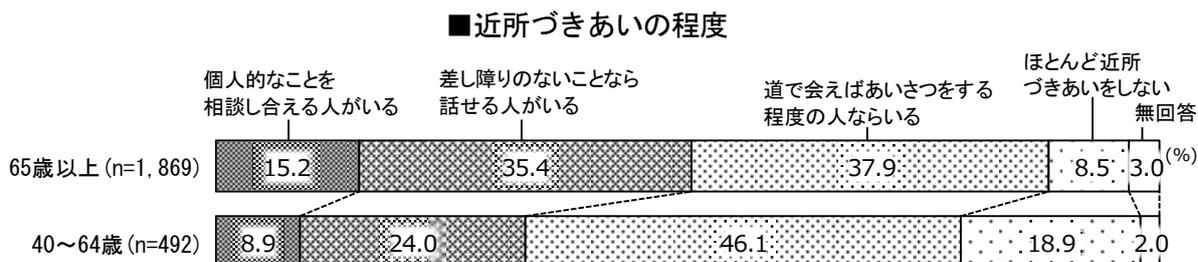
		充支認	体認	なすい	認	地	の特	ど護認	職認	動認	そ	無
		実援知	制知	すい	認	域	特	ど護認	職認	動認	そ	無
		実援知	制知	すい	認	域	特	ど護認	職認	動認	そ	無
		実援知	制知	すい	認	域	特	ど護認	職認	動認	そ	無
全体(n=1,869)		63.8	50.1	44.9	44.9	40.6	33.5	31.1	26.5	1.9	8.2	
性別	男性(n=862)	64.6	51.2	39.9	45.9	41.8	31.3	28.4	29.8	2.3	6.3	
	女性(n=977)	63.6	49.7	49.6	44.7	39.5	35.5	33.3	23.7	1.6	9.5	
年齢別	75歳以上(n=803)	60.8	48.6	41.0	41.1	38.7	29.1	28.6	25.4	2.2	10.1	
	65～74歳(n=1,056)	66.3	51.3	47.7	47.7	42.0	36.6	32.8	27.5	1.7	6.6	

8 地域生活と日ごろの活動について

(1) 近所づきあいの程度 (問 25)

近所づきあいの程度は、65歳以上は「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる」(37.9%)が最も多く、「差し障りのないことなら話せる人がいる」(35.4%)、「個人的なことを相談し合える人がいる」(15.2%)と続いている。

40～64歳は、「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる」(46.1%)が最も多く、「差し障りのないことなら話せる人がいる」(24.0%)、「ほとんど近所づきあいをしない」(18.9%)と続いている。



65歳以上について性別にみると、男性は「個人的なことを相談し合える人がいる」(9.5%)が女性に比べ少なくなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「個人的なことを相談し合える人がいる」(13.6%)が75歳以上に比べ少なくなっている。

■近所づきあいの程度 (65歳以上)

(%)

		い合と個 るえを人 る相的 人談な がしこ	がらな差 い話し るせこ障 るとり 人なの	人すあ道 なるいで ら程さ会 い度つえ るのをば	を所ほ しづと なきん いあど い近	無 回 答
全体(n=1,869)		15.2	35.4	37.9	8.5	3.0
性別	男性(n=862)	9.5	29.1	47.6	11.8	2.0
	女性(n=977)	20.1	40.8	29.7	5.6	3.8
年齢別	75歳以上(n=803)	17.2	35.0	36.5	7.6	3.7
	65～74歳(n=1,056)	13.6	35.5	39.0	9.3	2.6

さらに65歳以上について幸福度別にみると、平均以下(7点以下)の人は「個人的なことを相談し合える人がいる」(11.7%)が平均以上(8点以上)の人に比べ少なくなっている。

■近所づきあいの程度 (65歳以上)

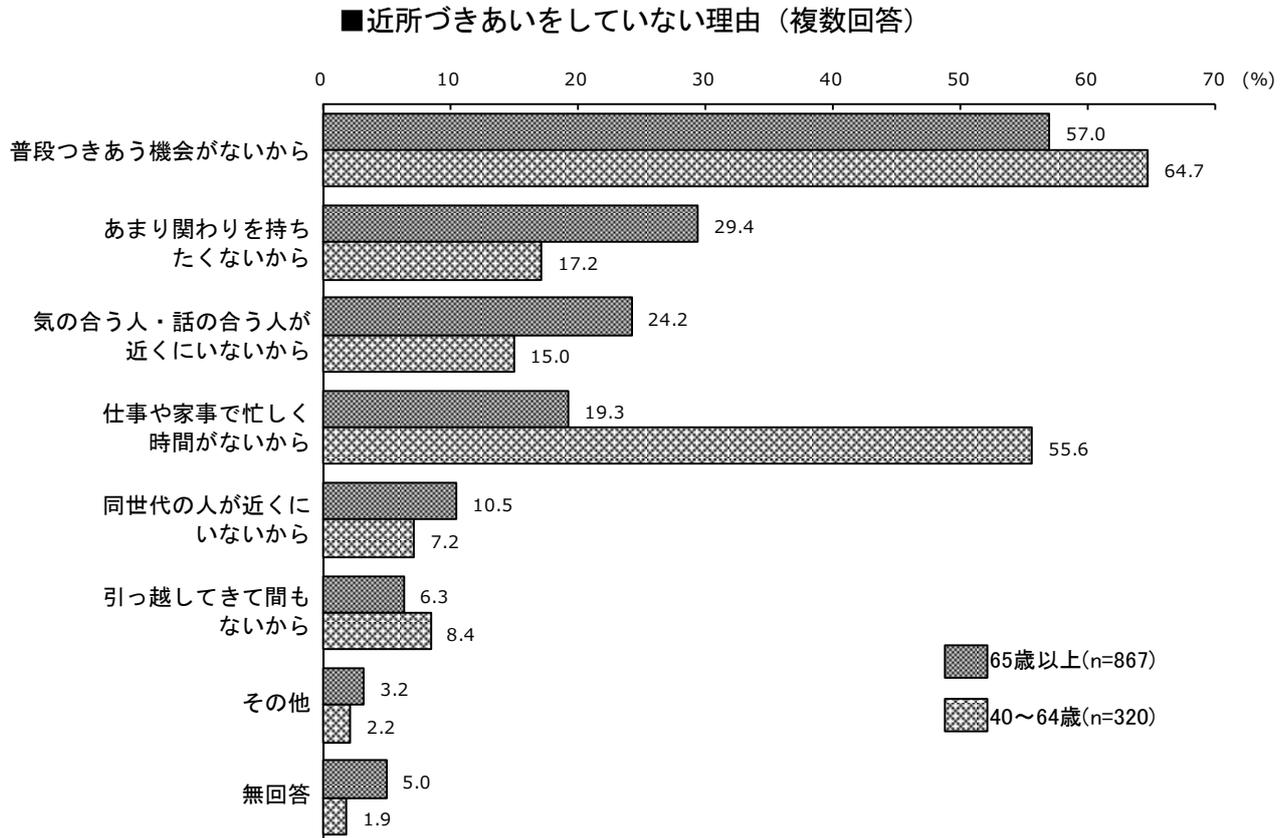
(%)

		い合と個 るえを人 る相的 人談な がしこ	がらな差 い話し るせこ障 るとり 人なの	人すあ道 なるいで ら程さ会 い度つえ るのをば	を所ほ しづと なきん いあど い近	無 回 答
全体(n=1,869)		15.2	35.4	37.9	8.5	3.0
幸福度別	平均以下(7点以下)(n=826)	11.7	32.3	40.8	12.5	2.7
	平均以上(8点以上)(n=993)	18.1	38.5	35.5	5.3	2.5

(2) 近所づきあいをしていない理由 (問 25-1)

「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる」「ほとんど近所づきあいをしない」と回答した人に近所づきあいをしていない理由を聞いたところ、65歳以上は「普段つきあう機会がないから」(57.0%)が最も多く、「あまり関わりを持ちたくないから」(29.4%)、「気の合う人・話の合う人が近くにいないから」(24.2%)と続いている。

40～64歳は、「普段つきあう機会がないから」(64.7%)が最も多く、「仕事や家事で忙しく時間がないから」(55.6%)、「あまり関わりを持ちたくないから」(17.2%)と続いている。



65歳以上について性別にみると、男性は「普段つきあう機会がないから」(61.1%)が女性に比べて多く、女性は「引っ越してきて間もないから」(10.4%)が男性に比べて多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「仕事や家事で忙しく時間がないから」(24.1%)が75歳以上に比べて多くなっている。

■近所づきあいをしていない理由 (複数回答) (65歳以上)

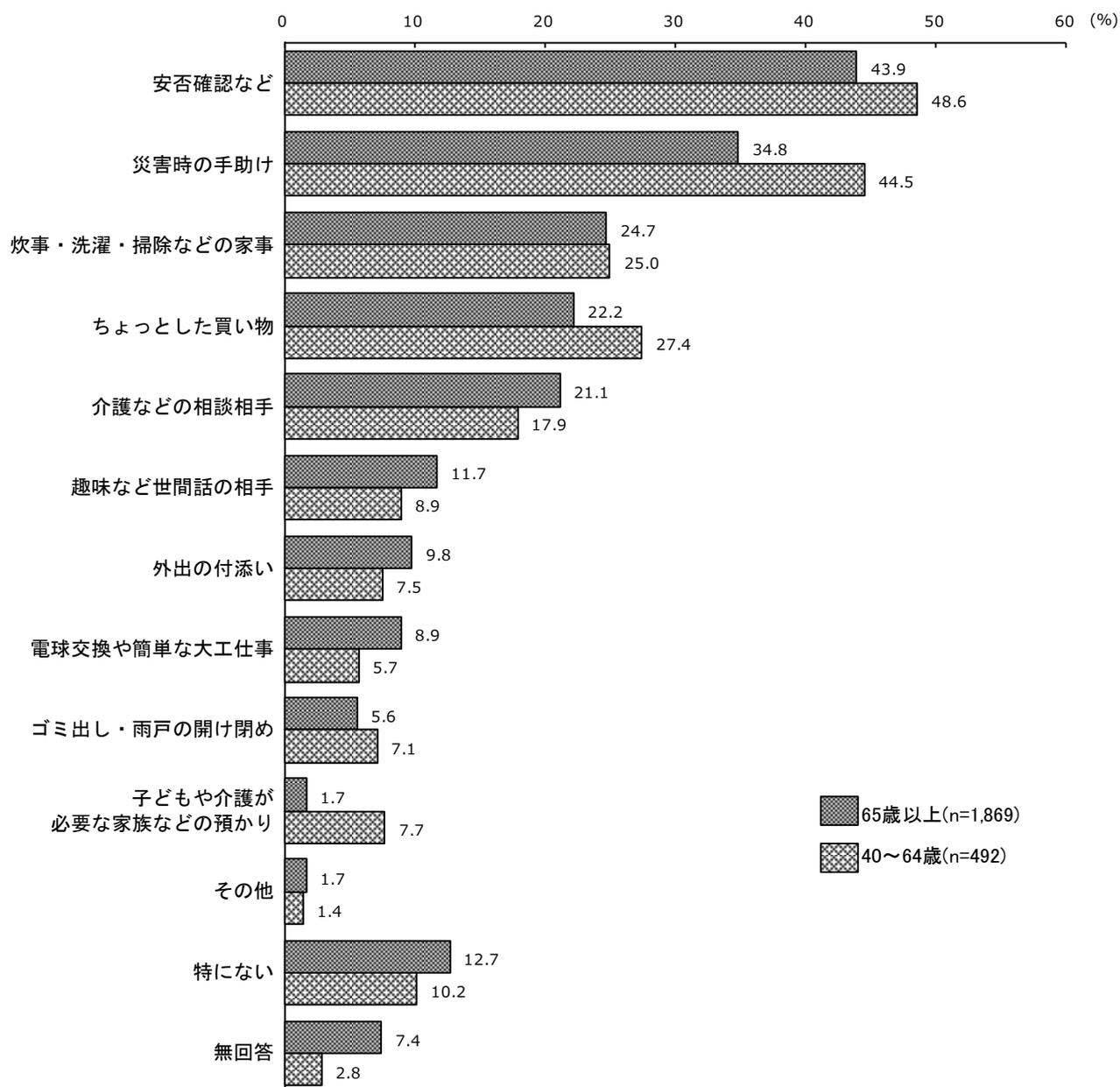
		ら機普	いをあ	か近話気	な忙仕	か近同	らて引	そ	無
		会段	か持ま	らくのの	いし事	らく世	間っ	他	回
		がっ	らちり	に合合	かくや	に代	も越		答
		なき	た関	いう	ら時家	いの	なし		
		いあ	くわ	な人	間事	な人	いて		
		かう	なり	いが・	がで	いが	かき		
全体(n=867)		57.0	29.4	24.2	19.3	10.5	6.3	3.2	5.0
性別	男性(n=512)	61.1	27.9	26.0	18.6	9.2	3.5	2.3	4.9
	女性(n=345)	51.9	31.3	21.4	20.6	12.2	10.4	4.3	5.2
年齢別	75歳以上(n=354)	54.8	29.9	26.3	12.1	11.0	7.9	3.1	6.2
	65～74歳(n=510)	58.6	28.8	22.9	24.1	10.2	5.3	3.3	4.1

(3) 日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助け (問 26)

日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助けは、65歳以上は「安否確認など」(43.9%)が最も多く、「災害時の手助け」(34.8%)、「炊事・洗濯・掃除などの家事」(24.7%)と続いている。

40～64歳は、「安否確認など」(48.6%)が最も多く、「災害時の手助け」(44.5%)、「ちょっとした買い物」(27.4%)と続いている。

■日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助け (複数回答)



65歳以上について性別にみると、男性は「安否確認など」(47.2%)が女性に比べ多く、女性は「ちょっとした買い物」(26.4%)、「外出の付添い」(12.3%)、「電球交換や簡単な大工仕事」(12.5%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「電球交換や簡単な大工仕事」(11.3%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「炊事・洗濯・掃除などの家事」(26.4%)、「ちょっとした買い物」(24.4%)が75歳以上に比べ多くなっている。

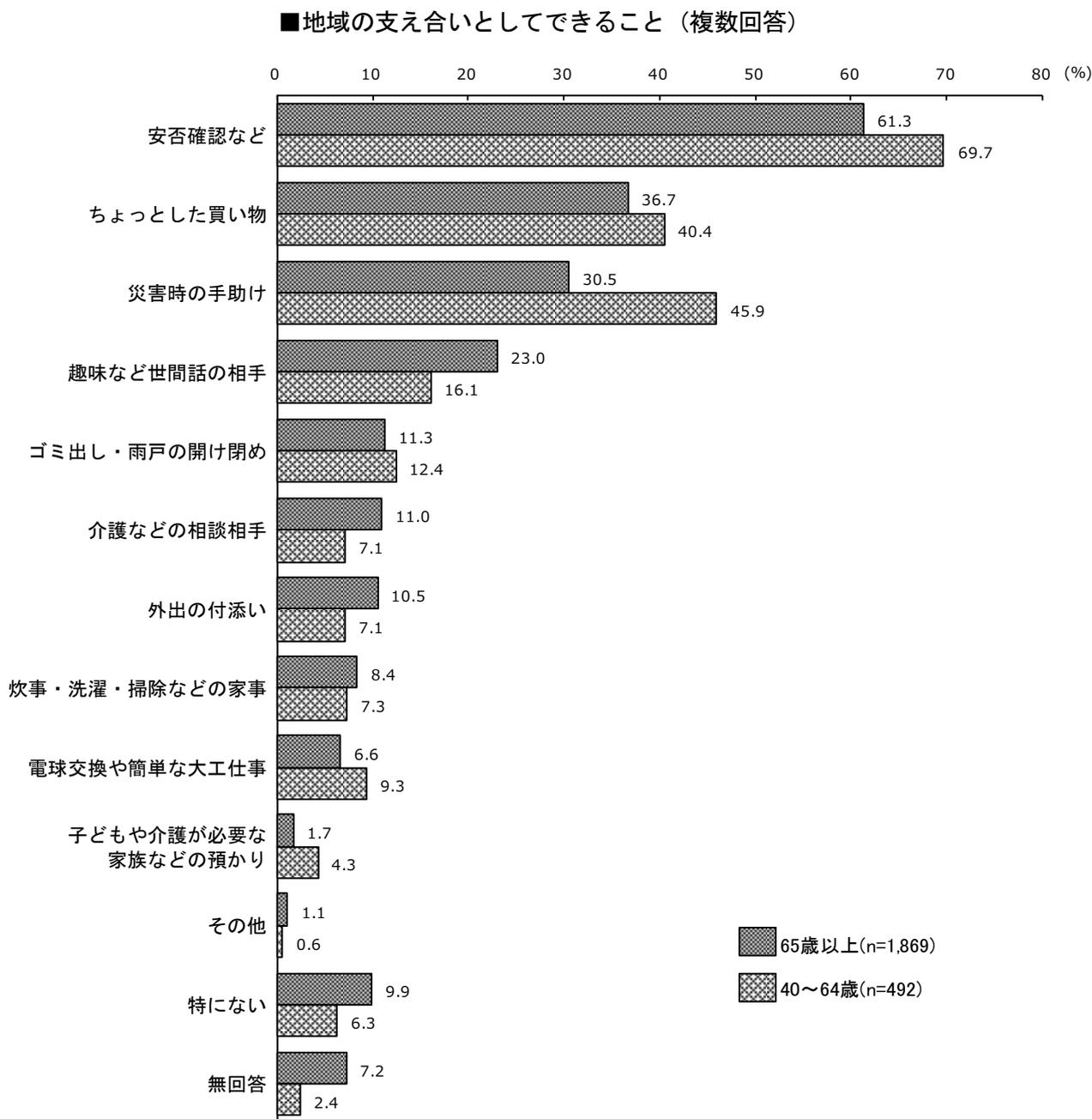
■日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助け（複数回答）（65歳以上）

		(%)												
		安 否 確 認 な ど	災 害 時 の 手 助 け	炊 事 ・ 洗 濯 ・ 掃 除 な ど の 家 事	物 ち よ っ と し た 買 い	手 介 護 な ど の 相 談 相	相 趣 味 な ど 世 間 話 の	外 出 の 付 添 い	大 電 球 交 換 や 簡 単 な 大 工 仕 事	開 ゴ ミ 出 し ・ 雨 戸 の 閉 め	か 要 な も も や 子 ど も の 介 護 が 預 め	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体(n=1,869)		43.9	34.8	24.7	22.2	21.1	11.7	9.8	8.9	5.6	1.7	1.7	12.7	7.4
性別	男性(n=862)	47.2	34.8	25.1	17.9	22.4	12.2	7.0	5.0	5.8	2.0	1.6	14.7	6.8
	女性(n=977)	41.2	35.3	24.7	26.4	20.5	11.4	12.3	12.5	5.3	1.3	1.6	10.6	7.8
年齢別	75歳以上(n=803)	42.0	33.7	22.4	19.6	21.0	12.2	9.7	11.3	5.1	1.1	1.7	12.2	10.0
	65～74歳(n=1,056)	45.1	35.6	26.4	24.4	21.3	11.3	9.8	7.1	6.0	2.1	1.6	13.0	5.6

(4) 地域の支え合いとしてできること (問27)

地域の支え合いとしてできることは、65歳以上は「安否確認など」(61.3%)が最も多く、「ちょっとした買い物」(36.7%)、「災害時の手助け」(30.5%)と続いている。

40～64歳は、「安否確認など」(69.7%)が最も多く、「災害時の手助け」(45.9%)、「ちょっとした買い物」(40.4%)と続いている。



65歳以上について性別にみると、男性は「安否確認など」(63.7%)、「災害時の手助け」(39.9%)、「電球交換や簡単な大工仕事」(12.9%)が女性に比べ多く、女性は「ちょっとした買い物」(43.2%)、「炊事・洗濯・掃除などの家事」(11.8%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「趣味など世間話の相手」(25.9%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「安否確認など」(66.2%)、「ちょっとした買い物」(41.8%)、「災害時の手助け」(35.4%)、「外出の付添い」(12.4%)、「電球交換や簡単な大工仕事」(8.3%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第3地区は「趣味など世間話の相手」(27.7%)が全体に比べ多くなっている。

■地域の支え合いとしてできること（複数回答）（65歳以上）

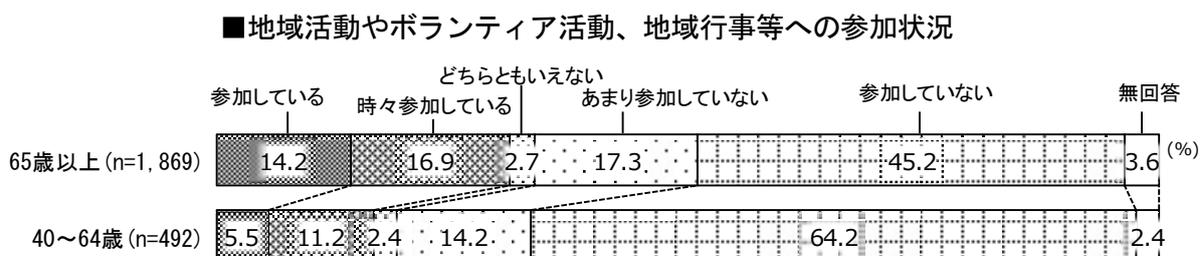
(%)

		安否確認など	ちょっとした買い物	災害時の手助け	の趣味など世間話の相手	のゴミ出し閉め・戸	介護などの相談	外出の付添い	除炊事・洗濯・掃除などの家事	な電球交換や簡単な大工仕事	の必要な家族などが	子どもや介護などが	その他	特にな	無回答
全体(n=1,869)		61.3	36.7	30.5	23.0	11.3	11.0	10.5	8.4	6.6	1.7	1.1	9.9	7.2	
性別	男性(n=862)	63.7	29.4	39.9	21.0	9.9	10.6	9.9	4.4	12.9	1.2	1.3	11.1	4.6	
	女性(n=977)	59.0	43.2	22.4	24.6	12.5	11.6	11.4	11.8	1.3	2.1	1.0	9.1	9.2	
年齢別	75歳以上(n=803)	54.5	29.9	23.8	25.9	11.0	11.8	8.1	7.8	4.5	1.4	2.0	11.8	10.1	
	65～74歳(n=1,056)	66.2	41.8	35.4	20.8	11.3	10.4	12.4	8.8	8.3	1.9	0.5	8.4	5.1	
地区別	第1地区(n=344)	59.0	38.4	32.3	26.5	11.3	11.0	12.8	7.3	6.7	1.5	1.5	10.8	4.4	
	第2地区(n=398)	60.3	37.9	31.4	20.1	11.1	11.1	11.6	7.8	7.0	0.5	1.5	9.8	9.0	
	第3地区(n=339)	65.8	36.6	26.8	27.7	9.1	11.8	11.5	8.3	6.8	1.5	0.6	7.7	7.4	
	第4地区(n=221)	57.9	36.2	32.1	22.6	13.6	8.6	7.7	10.4	4.5	2.3	-	8.1	14.0	
	第5地区(n=245)	65.7	36.3	29.0	21.2	9.4	9.4	10.2	7.3	3.7	2.0	1.6	11.0	4.1	
	第6地区(n=296)	59.8	35.1	31.1	19.6	13.5	12.5	8.4	10.1	9.5	3.0	0.7	11.5	5.1	

(5) 地域活動やボランティア活動、地域行事等への参加状況 (問 28)

地域活動やボランティア活動、地域行事等への参加状況は、65歳以上は「参加していない」(45.2%)が最も多く、「あまり参加していない」(17.3%)、「時々参加している」(16.9%)と続いている。「参加している」と「時々参加している」を合わせた“参加している”は31.1%、「あまり参加していない」と「参加していない」を合わせた“参加していない”は62.5%となっている。

40～64歳は、「参加していない」(64.2%)が最も多く、「あまり参加していない」(14.2%)、「時々参加している」(11.2%)と続いている。“参加している”は16.7%、“参加していない”は78.4%となっている。



65歳以上について地区別にみると、第4地区は“参加している”(39.0%)が全体に比べ多くなっている。

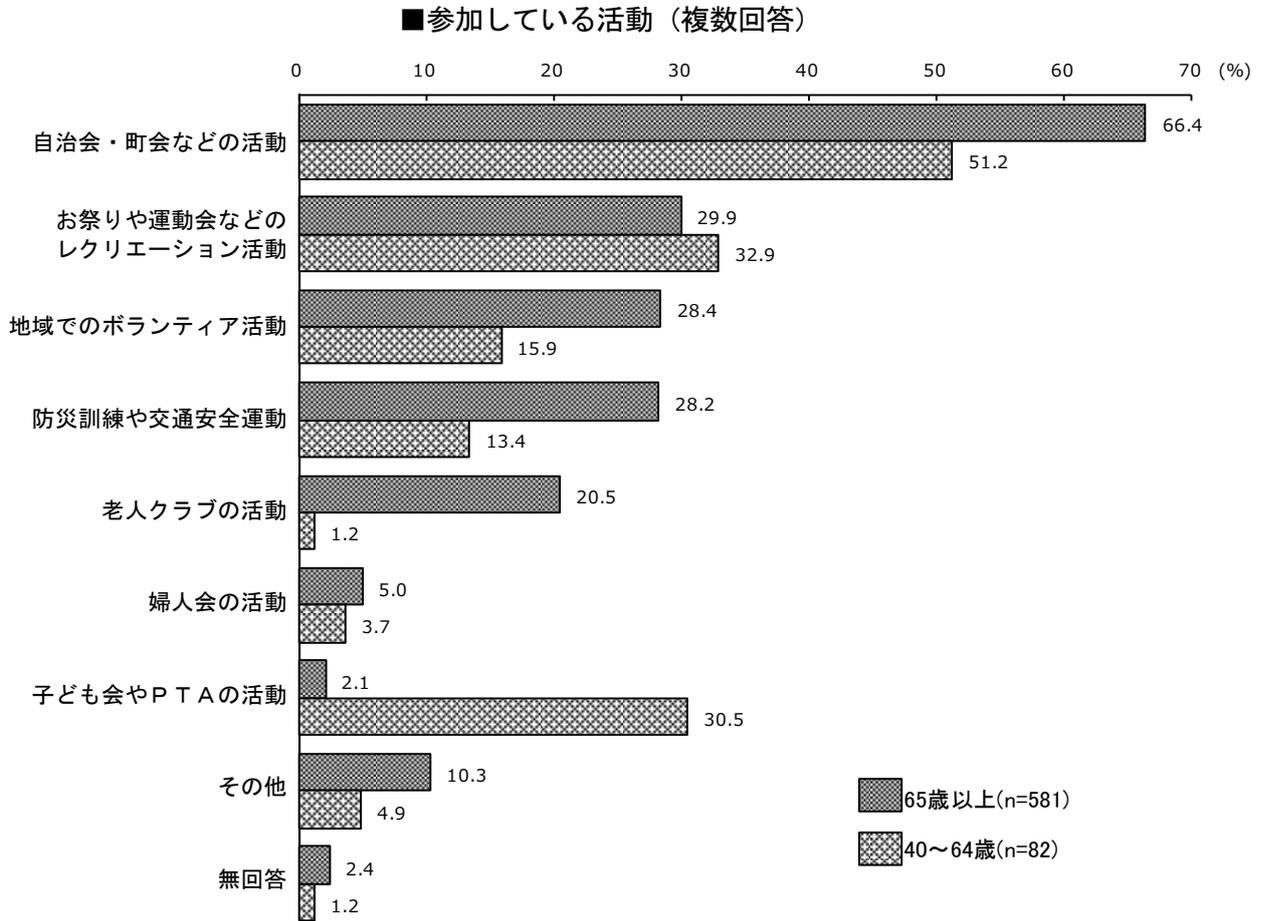
■地域活動やボランティア活動、地域行事等への参加状況 (65歳以上)

		(%)					
		る参加している	て時々参加している	いどちえちならいとも	しあてまいるいな参加	な参加している	無回答
全体(n=1,869)		14.2	16.9	2.7	17.3	45.2	3.6
地区別	第1地区(n=344)	11.0	15.4	3.2	18.9	48.0	3.5
	第2地区(n=398)	13.6	18.3	1.8	14.8	47.2	4.3
	第3地区(n=339)	14.7	14.7	1.5	21.2	45.7	2.1
	第4地区(n=221)	20.4	18.6	1.4	11.8	42.1	5.9
	第5地区(n=245)	13.1	17.1	4.5	18.0	44.1	3.3
	第6地区(n=296)	15.2	17.6	4.1	18.2	41.9	3.0

(5) 参加している活動 (問 28-1)

“参加している”と回答した人に参加している活動を聞いたところ、65歳以上は「自治会・町会などの活動」(66.4%)が最も多く、「お祭りや運動会などのレクリエーション活動」(29.9%)、「地域でのボランティア活動」(28.4%)と続いている。

40～64歳は、「自治会・町会などの活動」(51.2%)が最も多く、「お祭りや運動会などのレクリエーション活動」(32.9%)、「子ども会やPTAの活動」(30.5%)と続いている。



65歳以上について地区別にみると、第4地区は「老人クラブの活動」(32.6%)、第6地区は「お祭りや運動会などのレクリエーション活動」(40.2%)が全体に比べ多くなっている。

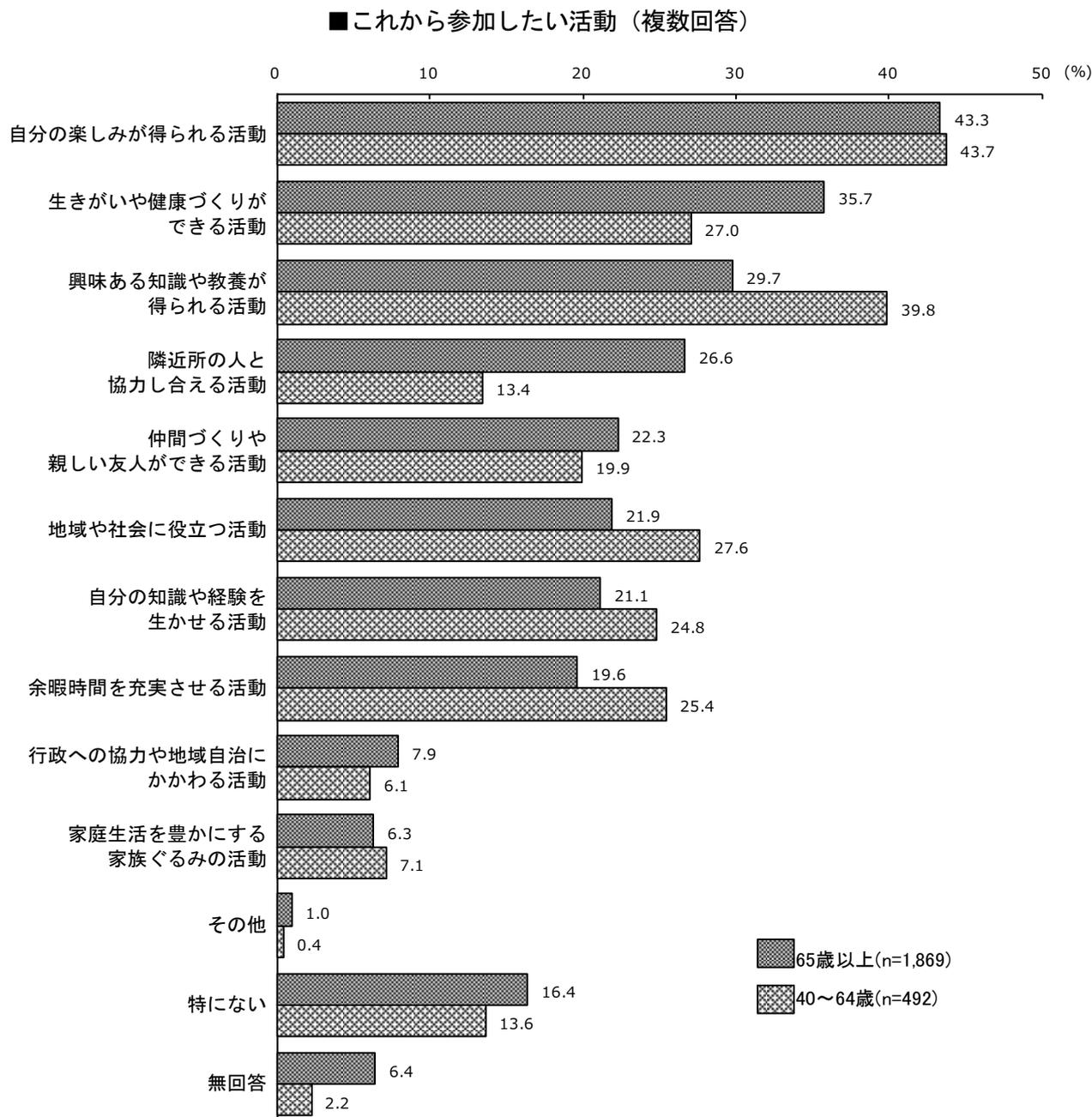
■参加している活動 (複数回答) (65歳以上)

		(%)									
地区別		ど自治会の活動・町会など	エナシのヨレや活動	お祭りや運動会	地域でのボランティア	防災訓練や交通安全	老人クラブの活動	婦人会の活動	子ども会やPTA	その他	無回答
		全体(n=581)	66.4	29.9	28.4	28.2	20.5	5.0	2.1	10.3	2.4
地区別	第1地区(n=91)	68.1	28.6	26.4	29.7	16.5	4.4	2.2	11.0	1.1	
	第2地区(n=127)	62.2	26.8	25.2	27.6	18.1	1.6	0.8	13.4	3.9	
	第3地区(n=100)	69.0	24.0	32.0	31.0	20.0	8.0	3.0	14.0	1.0	
	第4地区(n=86)	65.1	38.4	23.3	32.6	32.6	7.0	2.3	4.7	4.7	
	第5地区(n=74)	67.6	20.3	35.1	24.3	14.9	4.1	2.7	12.2	2.7	
	第6地区(n=97)	69.1	40.2	29.9	24.7	21.6	5.2	1.0	5.2	1.0	

(6) これから参加したい活動 (問 29)

これから参加したい活動は、65歳以上は「自分の楽しみが得られる活動」(43.3%)が最も多く、「生きがいや健康づくりができる活動」(35.7%)、「興味ある知識や教養が得られる活動」(29.7%)と続いている。

40～64歳は、「自分の楽しみが得られる活動」(43.7%)が最も多く、「興味ある知識や教養が得られる活動」(39.8%)、「地域や社会に役立つ活動」(27.6%)と続いている。



65歳以上について性別にみると、男性は「地域や社会に役立つ活動」(25.3%)、「自分の知識や経験を生かせる活動」(27.6%)、「余暇時間を充実させる活動」(22.4%)、「行政への協力や地域自治にかかわる活動」(11.5%)、「家庭生活を豊かにする家族ぐるみの活動」(7.9%)が女性に比べ多く、女性は「生きがいや健康づくりができる活動」(39.5%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「自分の楽しみが得られる活動」(46.7%)、「興味ある知識や教養が得られる活動」(32.5%)、「地域や社会に役立つ活動」(27.2%)、「自分の知識や経験を生かせる活動」と「余暇時間を充実させる活動」(ともに23.0%)、「行政への協力や地域自治にかかわる活動」(9.1%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第4地区は「隣近所の人と協力し合える活動」(33.5%)が全体に比べ多くなっている。

■これから参加したい活動(複数回答)(65歳以上)

		自分の楽しみが得られる活動	生きがいや健康づくりができる活動	興味ある知識や教養が得られる活動	隣近所の人と協力し合える活動	仲間がづくりや親しい活動	地域や社会に役立つ活動	自分の知識や経験を生かせる活動	余暇時間を充実させる活動	行政への協力や地域自治にかかわる活動	家庭生活を豊かにする活動	その他	特にない	無回答
全体(n=1,869)		43.3	35.7	29.7	26.6	22.3	21.9	21.1	19.6	7.9	6.3	1.0	16.4	6.4
性別	男性(n=862)	43.6	31.6	29.4	28.7	20.4	25.3	27.6	22.4	11.5	7.9	1.2	16.9	5.7
	女性(n=977)	43.5	39.5	30.4	24.8	23.7	18.7	15.4	17.7	4.8	4.9	0.8	16.1	7.0
年齢別	75歳以上(n=803)	39.2	34.2	26.5	27.3	22.9	15.1	18.7	15.4	6.4	6.1	1.4	18.4	9.1
	65～74歳(n=1,056)	46.7	36.6	32.5	26.0	21.5	27.2	23.0	23.0	9.1	6.4	0.7	14.8	4.5
地区別	第1地区(n=344)	43.9	36.0	30.5	29.1	25.0	23.3	22.4	17.7	8.4	7.3	1.7	13.4	4.9
	第2地区(n=398)	44.0	31.9	27.9	24.9	21.4	23.1	20.9	23.1	6.5	5.0	0.8	15.3	8.0
	第3地区(n=339)	39.2	37.8	32.4	23.9	21.5	21.2	19.8	20.6	8.3	6.2	0.9	16.5	7.4
	第4地区(n=221)	43.9	38.0	25.8	33.5	23.1	21.7	24.4	18.6	8.6	5.9	0.5	15.8	8.6
	第5地区(n=245)	44.5	35.9	28.2	26.1	20.0	18.4	20.0	18.8	9.4	6.5	1.2	20.4	4.5
	第6地区(n=296)	45.6	35.5	33.1	24.3	22.3	21.6	19.6	17.6	7.4	6.8	0.7	18.2	4.7

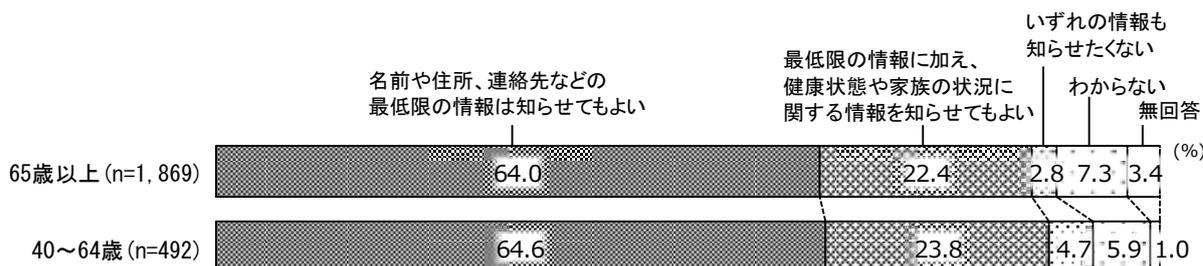
9 災害時の対応について

(1) 災害対策のため自分の住所、氏名、連絡先などを事前通知することについて（問30）

災害対策のため自分の住所、氏名、連絡先などを事前通知することについては、65歳以上は「名前や住所、連絡先などの最低限の情報は知らせてもよい」（64.0%）が最も多く、「最低限の情報に加え、健康状態や家族の状況に関する情報を知らせてもよい」（22.4%）、「いずれの情報も知らせたくない」（2.8%）と続いている。

40～64歳は、「名前や住所、連絡先などの最低限の情報は知らせてもよい」（64.6%）が最も多く、「最低限の情報に加え、健康状態や家族の状況に関する情報を知らせてもよい」（23.8%）、「いずれの情報も知らせたくない」（4.7%）と続いている。

■災害対策のため自分の住所、氏名、連絡先などを事前通知することについて



65歳以上について性別にみると、男性は「最低限の情報に加え、健康状態や家族の状況に関する情報を知らせてもよい」（26.3%）が女性に比べて多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「最低限の情報に加え、健康状態や家族の状況に関する情報を知らせてもよい」（24.1%）が75歳以上に比べて多くなっている。

■災害対策のため自分の住所、氏名、連絡先などを事前通知することについて（65歳以上）

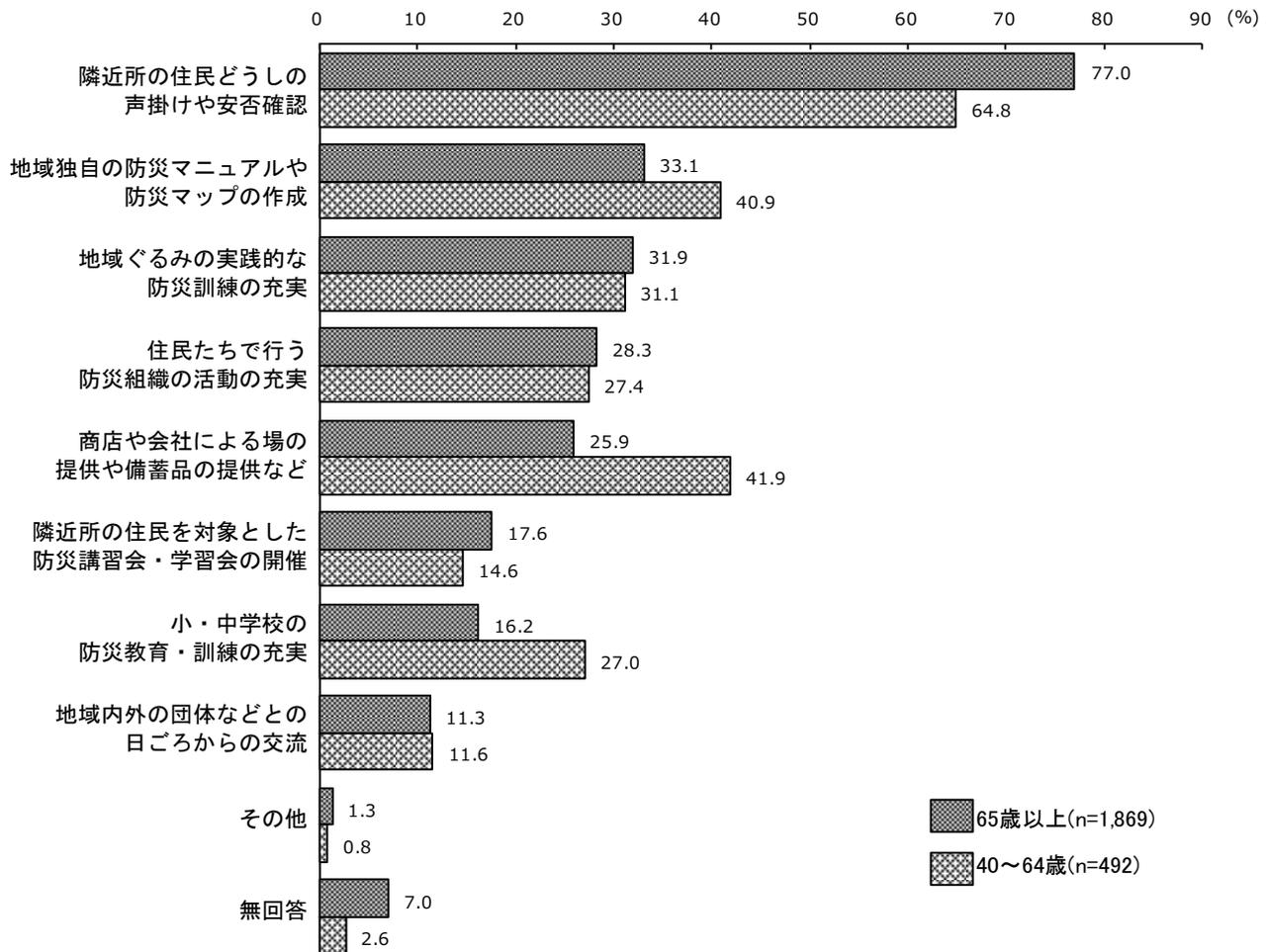
		はな名 知ど前 らのや せ最住 て低所 も限、 よの連 い情絡 報先	をのえ最 知状、低 ら況健限 せに康の て関状情 もす態報 よるやに い情家加 報族	せいた ずくれ ないの い情報 も知ら	わ か ら な い	無 回 答
全体(n=1,869)		64.0	22.4	2.8	7.3	3.4
性別	男性(n=862)	62.9	26.3	2.6	6.1	2.1
	女性(n=977)	65.2	19.2	3.0	8.2	4.4
年齢別	75歳以上(n=803)	66.4	19.9	2.0	7.1	4.6
	65～74歳(n=1,056)	62.6	24.1	3.4	7.4	2.6

(2) 災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うこと (問31)

災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うことは、65歳以上は「隣近所の住民どうしの声掛けや安否確認」(77.0%)が最も多く、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」(33.1%)、「地域ぐるみの実践的な防災訓練の充実」(31.9%)と続いている。

40～64歳は、「隣近所の住民どうしの声掛けや安否確認」(64.8%)が最も多く、「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(41.9%)、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」(40.9%)と続いている。

■災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うこと (複数回答)



65歳以上について性別にみると、男性は「地域ぐるみの実践的な防災訓練の充実」(34.9%)、「住民たちで行う防災組織の活動の充実」(32.4%)、「地域内外の団体などとの日ごろからの交流」(13.3%)が女性に比べ多く、女性は「隣近所の住民どうしの声掛けや安否確認」(79.1%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」(35.7%)、「地域ぐるみの実践的な防災訓練の充実」(34.2%)、「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(29.3%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第4地区は「住民たちで行う防災組織の活動の充実」(37.1%)が全体に比べ多くなっている。

■災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うこと（複数回答）（65歳以上）

(%)

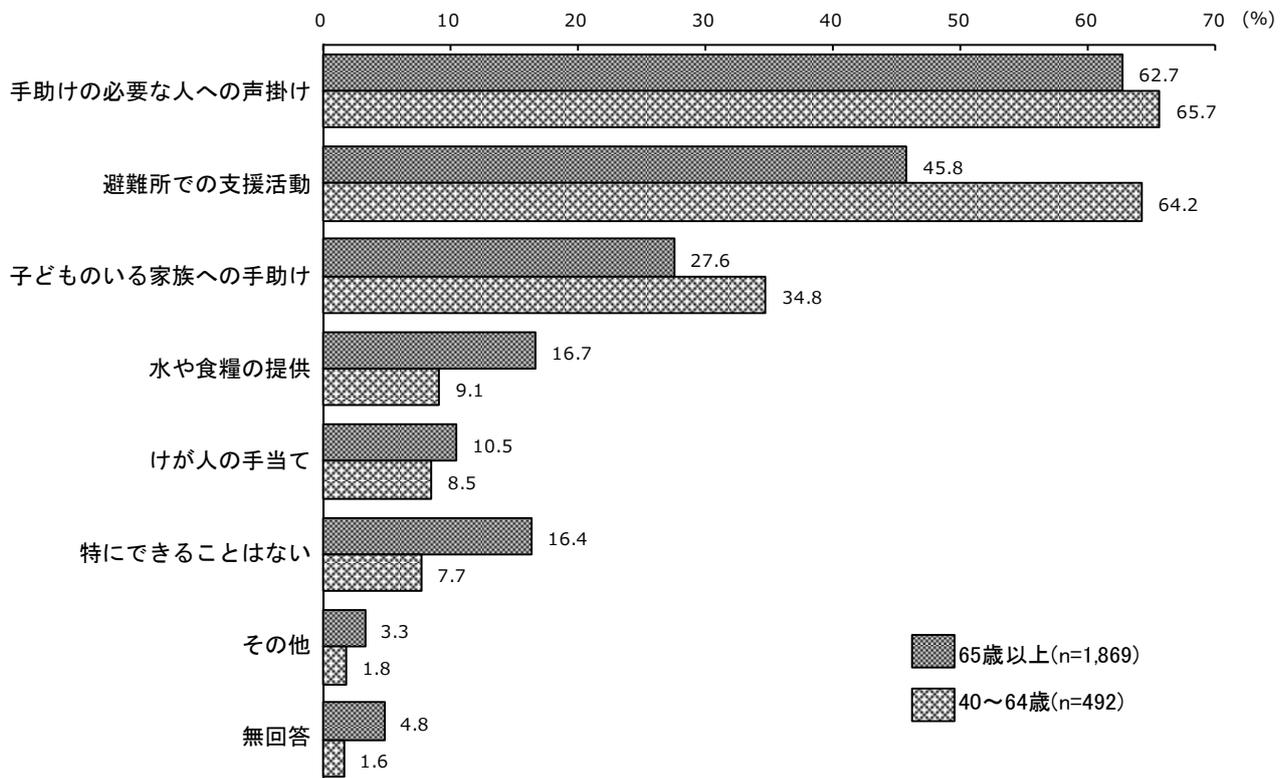
		の隣 声近 掛け の住 安民 否ど う確 し認	ブニ地 の域 作ア独 成ル自 の防 災防 災防 マ マ ツ	な地 防域 災ぐる 訓みの 練の充 実実 践的	組住 織民 のた 活ち 動で の行 充う 実防 災	供の商 な提店 ど供や や会 備社 蓄に 品よ のる 提場	学と隣 習し近 会た所 の開防 催災住 講民 習を 会対 ・象	育小 ・・ 訓中 練学 の校 充の 実防 災 教	流と地 の域 日内 ごろ 外 の か 団 体 ら の な ど	そ の 他	無 回 答
全体(n=1,869)		77.0	33.1	31.9	28.3	25.9	17.6	16.2	11.3	1.3	7.0
性別	男性(n=862)	74.9	34.8	34.9	32.4	24.1	18.2	17.7	13.3	1.7	5.6
	女性(n=977)	79.1	31.4	29.4	24.6	27.2	17.1	14.8	9.6	0.9	8.1
年齢別	75歳以上(n=803)	79.2	29.6	28.8	27.0	21.4	18.2	15.1	10.0	1.5	8.3
	65～74歳(n=1,056)	75.5	35.7	34.2	29.0	29.3	17.1	17.0	12.2	1.1	6.0
地区別	第1地区(n=344)	78.5	35.2	31.1	26.2	28.2	14.5	14.2	10.5	1.7	7.0
	第2地区(n=398)	74.6	32.9	31.9	28.9	26.4	18.8	18.1	12.1	1.3	7.5
	第3地区(n=339)	80.2	35.4	32.2	28.0	26.5	18.3	16.5	10.3	-	5.9
	第4地区(n=221)	76.9	30.8	37.1	37.1	22.2	21.7	14.9	10.0	0.9	8.1
	第5地区(n=245)	76.7	30.6	30.6	26.5	24.1	14.7	19.2	11.4	1.2	6.5
	第6地区(n=296)	77.4	32.1	29.1	24.0	26.0	18.9	13.9	12.8	2.4	6.8

(3) 災害時に手助けが必要な人にできること (問32)

災害時に手助けが必要な人にできることは、65歳以上は「手助けが必要な人への声掛け」(62.7%)が最も多く、「避難所での支援活動」(45.8%)、「子どものいる家族への手助け」(27.6%)と続いている。

40～64歳は、「手助けが必要な人への声掛け」(65.7%)が最も多く、「避難所での支援活動」(64.2%)、「子どものいる家族への手助け」(34.8%)と続いている。

■災害時に手助けが必要な人にできること (複数回答)



65歳以上について性別にみると、男性は「避難所での支援活動」(52.9%)、「水や食糧の提供」(19.5%)、「けが人の手当て」(12.8%)が女性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「特にできることはない」(22.0%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「手助けが必要な人への声掛け」(68.2%)、「避難所での支援活動」(55.5%)、「子どものいる家族への手助け」(30.1%)が75歳以上に比べ多くなっている。

■災害時に手助けが必要な人にできること (複数回答) (65歳以上)

		声要手	支避	手る子	提水	当	こ特	そ	無
		掛な助	援難	助家ど	供や	てが	とに	の	回
		け人け	活所	け族も	食糧	人の	はで	他	答
		への必	動の	へのい	の	手	ない		
全体(n=1,869)		62.7	45.8	27.6	16.7	10.5	16.4	3.3	4.8
性別	男性(n=862)	63.6	52.9	28.0	19.5	12.8	15.5	2.8	3.2
	女性(n=977)	62.3	39.8	26.9	14.2	8.4	17.1	3.8	6.0
年齢別	75歳以上(n=803)	55.7	33.1	24.0	17.1	11.6	22.0	5.5	6.1
	65～74歳(n=1,056)	68.2	55.5	30.1	16.4	9.7	12.1	1.6	3.8

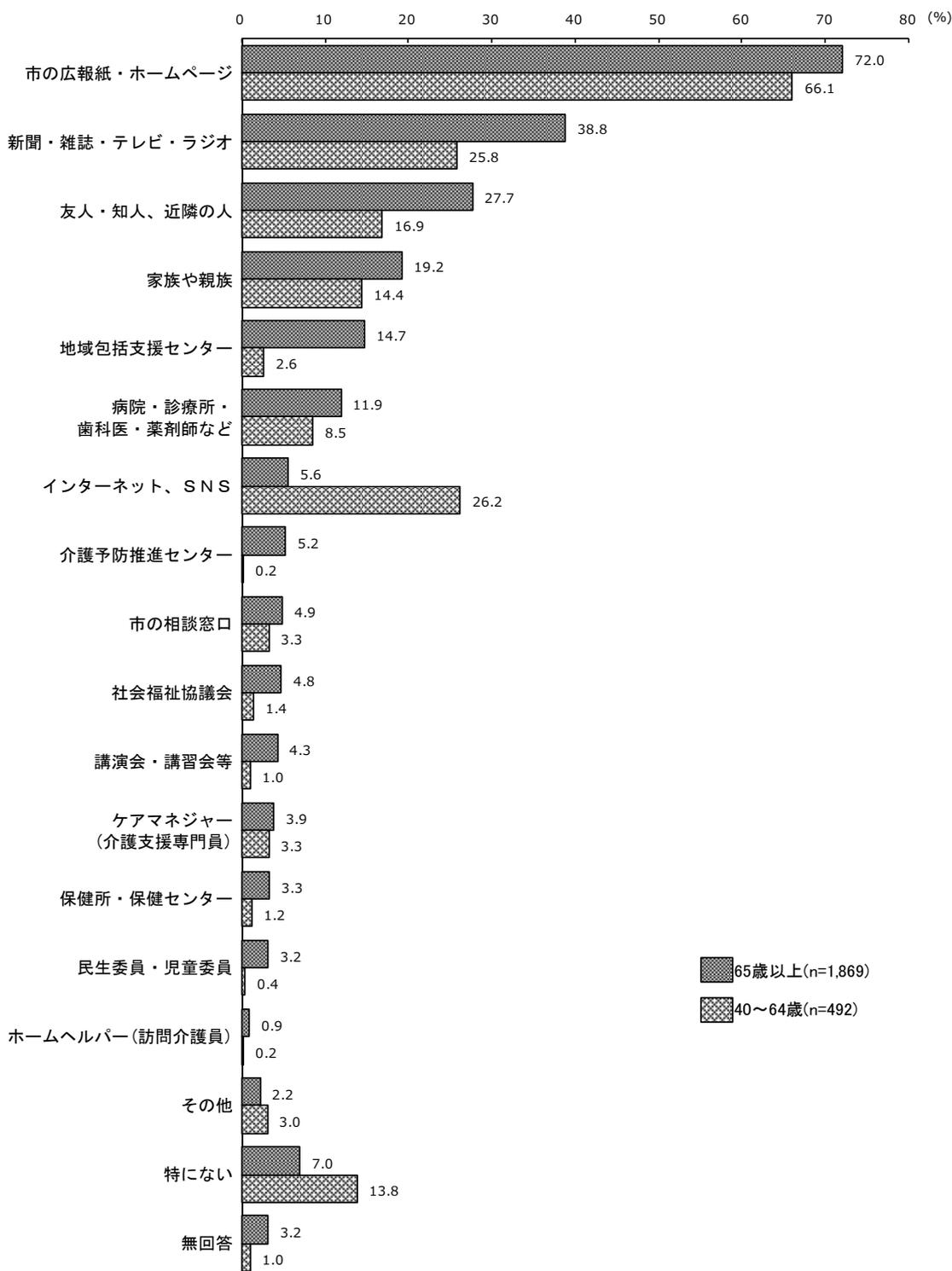
10 情報について

(1) 健康や介護、福祉サービス、地域活動の情報入手先（問33）

健康や介護、福祉サービス、地域活動の情報入手先は、65歳以上は「市の広報紙・ホームページ」（72.0%）が最も多く、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」（38.8%）、「友人・知人、近隣の人」（27.7%）と続いている。

40～64歳は、「市の広報紙・ホームページ」（66.1%）が最も多く、「インターネット、SNS」（26.2%）、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」（25.8%）と続いている。

■健康や介護、福祉サービス、地域活動の情報入手先（複数回答）



65歳以上について性別にみると、男性は「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」(41.2%)、「家族や親族」(22.7%)、「病院・診療所・歯科医・薬剤師など」(15.2%)、「インターネット、SNS」(8.4%)が女性に比べ多く、女性は「友人・知人、近隣の人」(32.4%)、「地域包括支援センター」(18.0%)、「介護予防推進センター」(6.2%)、「ケアマネジャー(介護支援専門員)」(4.9%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「家族や親族」(22.7%)、「地域包括支援センター」(20.8%)、「病院・診療所・歯科医・薬剤師など」(14.7%)、「介護予防推進センター」(7.6%)、「民生委員・児童委員」(4.6%)が65~74歳に比べ多く、65~74歳は「インターネット、SNS」(7.1%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第4地区は「友人・知人、近隣の人」(35.3%)と「介護予防推進センター」(9.5%)が全体に比べ多くなっている。

■健康や介護、福祉サービス、地域活動の情報入手先(複数回答)(65歳以上)

		市の広報紙・ホームページ	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	友人・知人、近隣の人	家族や親族	地域包括支援センター	病院・診療所・歯科医・薬剤師など	Sインターネット、SNS	介護予防推進センター	市の相談窓口	社会福祉協議会	講演会・講習会等	ケアマネジャー(介護支援専門員)	保健所・保健センター	民生委員・児童委員	介護員(訪問ヘルパー)	その他	特になし	無回答
全体(n=1,869)		72.0	38.8	27.7	19.2	14.7	11.9	5.6	5.2	4.9	4.8	4.3	3.9	3.3	3.2	0.9	2.2	7.0	3.2
性別	男性(n=862)	71.3	41.2	22.3	22.7	11.5	15.2	8.4	4.2	5.9	4.1	3.4	2.8	3.4	2.3	0.8	2.7	8.7	2.4
	女性(n=977)	72.8	36.6	32.4	15.9	18.0	8.7	3.2	6.2	4.0	5.5	5.1	4.9	3.4	3.9	1.0	1.8	5.5	3.7
年齢別	75歳以上(n=803)	69.9	40.5	29.8	22.7	20.8	14.7	3.6	7.6	5.6	4.7	4.4	4.0	3.4	4.6	1.0	2.2	4.9	4.6
	65~74歳(n=1,056)	73.8	37.4	25.9	16.5	10.2	9.8	7.1	3.5	4.3	4.8	4.3	3.8	3.2	2.1	0.9	2.2	8.5	2.1
地区別	第1地区(n=344)	70.3	37.8	26.5	20.6	13.4	12.8	6.7	3.8	5.5	3.2	3.2	4.9	4.1	4.7	1.5	3.2	7.8	3.5
	第2地区(n=398)	72.1	37.2	26.1	19.6	14.6	13.1	6.0	3.3	3.3	4.8	5.3	2.5	5.0	2.5	0.8	2.0	7.0	4.1
	第3地区(n=339)	71.7	41.9	26.3	17.7	17.1	12.1	4.4	4.1	6.8	5.0	5.6	4.1	2.7	1.8	0.9	1.5	7.4	1.8
	第4地区(n=221)	73.8	36.7	35.3	22.2	15.8	10.9	5.9	9.5	5.0	6.3	3.2	4.5	1.8	3.2	0.9	1.8	4.1	4.1
	第5地区(n=245)	75.1	40.0	26.1	16.7	18.4	9.4	5.7	5.7	4.1	6.1	3.3	4.1	3.3	5.3	0.4	1.6	5.7	2.9
	第6地区(n=296)	70.6	38.9	27.0	18.2	10.8	12.2	5.1	7.4	4.4	4.4	4.4	3.4	2.4	2.4	1.0	2.7	8.8	2.0

さらに世帯の状況別にみると、ひとり暮らしの人は「地域包括支援センター」(19.7%)と「民生委員・児童委員」(5.3%)がひとり暮らし以外の人に比べ多く、ひとり暮らし以外の方は「市の広報紙・ホームページ」(73.9%)、「家族や親族」(21.6%)、「病院・診療所・歯科医・薬剤師など」(12.7%)、「ケアマネジャー(介護支援専門員)」(4.3%)がひとり暮らしの人に比べ多くなっている。

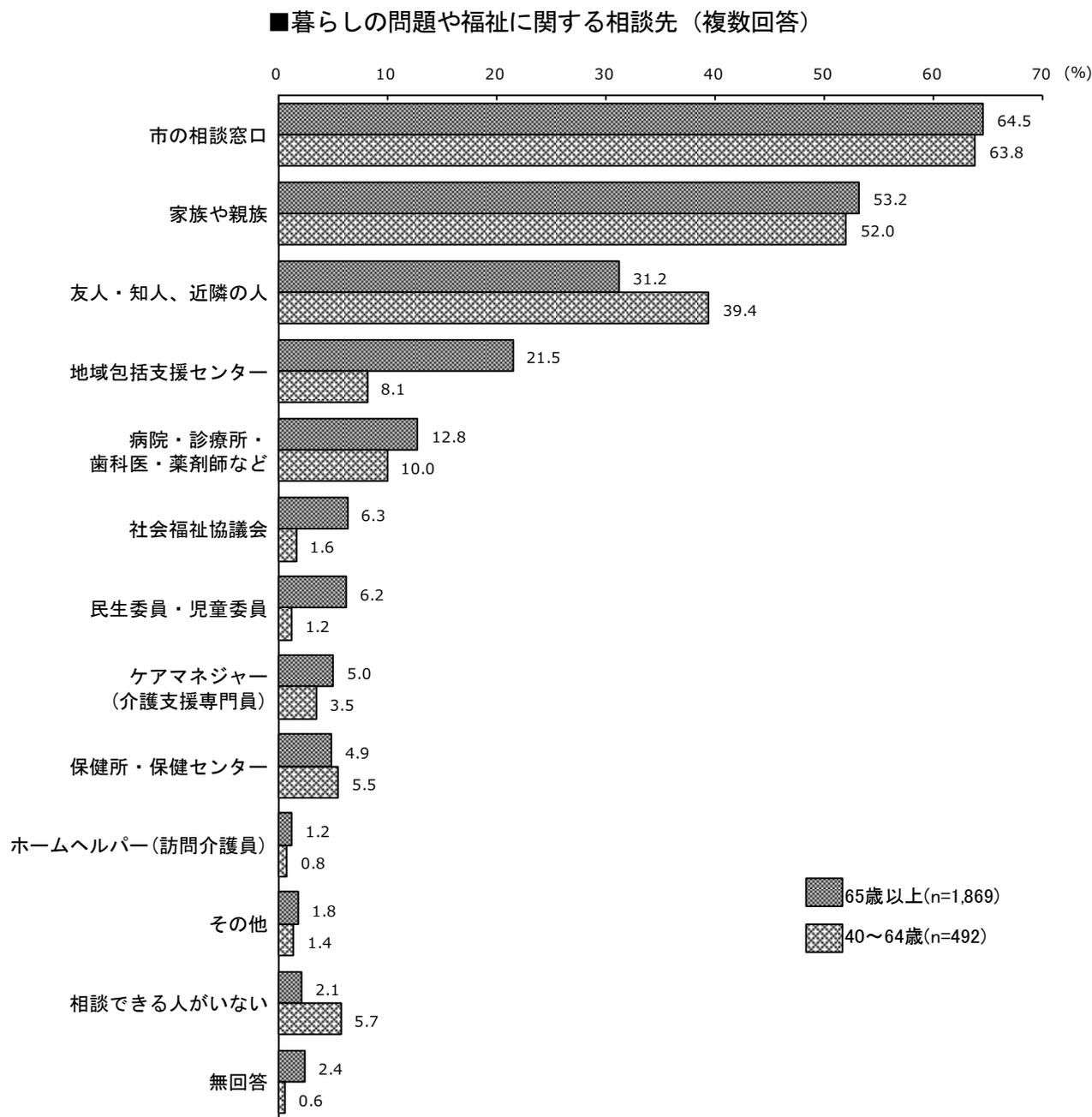
■健康や介護、福祉サービス、地域活動の情報入手先(複数回答)(65歳以上)

		市の広報紙・ホームページ	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	友人・知人、近隣の人	家族や親族	地域包括支援センター	病院・診療所・歯科医・薬剤師など	Sインターネット、SNS	介護予防推進センター	市の相談窓口	社会福祉協議会	講演会・講習会等	ケアマネジャー(介護支援専門員)	保健所・保健センター	民生委員・児童委員	介護員(訪問ヘルパー)	その他	特になし	無回答
全体(n=1,869)		72.0	38.8	27.7	19.2	14.7	11.9	5.6	5.2	4.9	4.8	4.3	3.9	3.3	3.2	0.9	2.2	7.0	3.2
世帯の状況別	ひとり暮らし(n=300)	64.0	36.0	28.7	7.7	19.7	7.0	4.3	4.3	6.0	7.0	6.3	1.7	2.3	5.3	1.3	2.3	11.0	6.0
	ひとり暮らし以外(n=1,540)	73.9	39.1	27.1	21.6	14.0	12.7	5.9	5.5	4.6	4.4	3.9	4.3	3.5	2.7	0.8	2.2	6.1	2.5

(2) 暮らしの問題や福祉に関する相談先 (問34)

暮らしの問題や福祉に関する相談先は、65歳以上は「市の相談窓口」(64.5%)が最も多く、「家族や親族」(53.2%)、「友人・知人、近隣の人」(31.2%)と続いている。

40～64歳は、「市の相談窓口」(63.8%)が最も多く、「家族や親族」(52.0%)、「友人・知人、近隣の人」(39.4%)と続いている。



65歳以上について性別にみると、男性は「市の相談窓口」（69.1%）、「病院・診療所・歯科医・薬剤師など」（14.3%）、「保健所・保健センター」（6.5%）が女性に比べ多く、女性は「家族や親族」（57.4%）、「友人・知人、近隣の人」（36.2%）、「地域包括支援センター」（25.2%）が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「市の相談窓口」（57.7%）、「家族や親族」（56.0%）、「地域包括支援センター」（27.1%）、「病院・診療所・歯科医・薬剤師など」（15.6%）、「民生委員・児童委員」（8.8%）、「ホームヘルパー（訪問介護員）」（1.9%）が65～74歳に比べ多くなっている。

地区別にみると、第3地区は「地域包括支援センター」（27.1%）が全体に比べ多くなっている。

■暮らしの問題や福祉に関する相談先（複数回答）（65歳以上）

		(%)															
		市の相談窓口	家族や親族	隣友の人・知人、近	ン地域包括支援セ	な歯病院	社会福祉協議会	委員	民生委員・児童	員（介護支援専門	ケアマネジャー	ンター	保健所・保健セ	（訪問介護員）	その他	相談できない人が	無回答
全体(n=1,869)		64.5	53.2	31.2	21.5	12.8	6.3	6.2	5.0	4.9	1.2	1.8	2.1	2.4			
性別	男性(n=862)	69.1	48.4	25.9	17.4	14.3	5.6	5.5	4.1	6.5	1.6	2.3	3.2	1.5			
	女性(n=977)	60.6	57.4	36.2	25.2	11.2	7.0	7.1	5.8	3.4	0.9	1.3	1.2	2.9			
年齢別	75歳以上(n=803)	57.7	56.0	29.8	27.1	15.6	7.2	8.8	5.7	5.6	1.9	2.0	1.5	3.1			
	65～74歳(n=1,056)	69.8	50.9	32.2	17.3	10.6	5.6	4.3	4.5	4.4	0.8	1.7	2.7	1.8			
地区別	第1地区(n=344)	66.9	52.6	32.8	18.6	11.9	4.4	7.6	5.5	6.4	1.2	2.9	1.7	1.5			
	第2地区(n=398)	61.1	55.5	29.9	20.9	13.3	5.5	5.8	3.5	4.3	1.0	1.3	2.3	3.8			
	第3地区(n=339)	63.7	52.2	31.0	27.1	15.0	7.1	4.7	5.6	5.6	0.6	1.2	1.5	2.4			
	第4地区(n=221)	61.5	54.8	34.8	22.6	14.0	5.9	5.0	6.8	2.7	1.8	1.4	2.7	1.8			
	第5地区(n=245)	64.1	53.9	28.6	20.4	10.6	8.2	7.3	5.3	5.7	1.6	2.4	3.3	2.0			
	第6地区(n=296)	69.6	51.0	30.1	19.9	11.1	7.8	6.8	4.7	4.4	1.7	1.4	2.0	2.0			

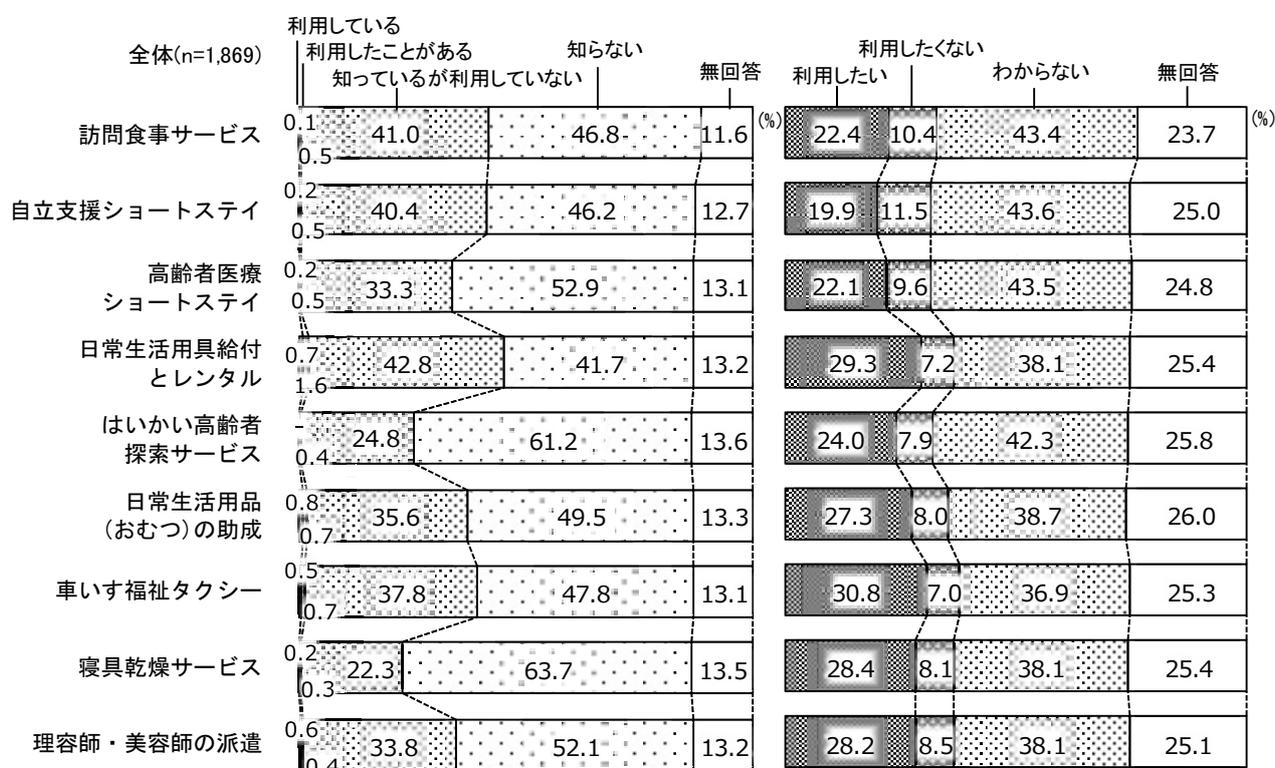
11 高齢者保健福祉サービスについて

(1) 高齢者保健福祉サービスに関する利用状況、利用意向 (65歳以上のみ) (問35)

高齢者保健福祉サービスについて、「利用している」「利用したことがある」を合わせた“利用状況”は、『日常生活用具給付とレンタル』(2.3%)が最も多く、『日常生活用品(おむつ)の助成』(1.5%)、『車いす福祉タクシー』(1.2%)と続いている。「利用している」「利用したことがある」「知っているが利用していない」を合わせた“認知度”は、『日常生活用具給付とレンタル』(45.1%)が最も多く、『訪問食事サービス』(41.6%)、『自立支援ショートステイ』(41.1%)と続いている。

利用意向の「利用したい」は、『車いす福祉タクシー』(30.8%)が最も多く、『日常生活用具給付とレンタル』(29.3%)、『寝具乾燥サービス』(28.4%)と続いている。

■高齢者保健福祉サービスに関する利用状況(左)、利用意向(右)



性別にみると、いずれの高齢者保健福祉サービスも、「知らない」は男性が女性に比べ多く、「利用したい」は男性が女性に比べ少なくなっている。

■高齢者保健福祉サービスに関する利用状況（左）、利用意向（右）

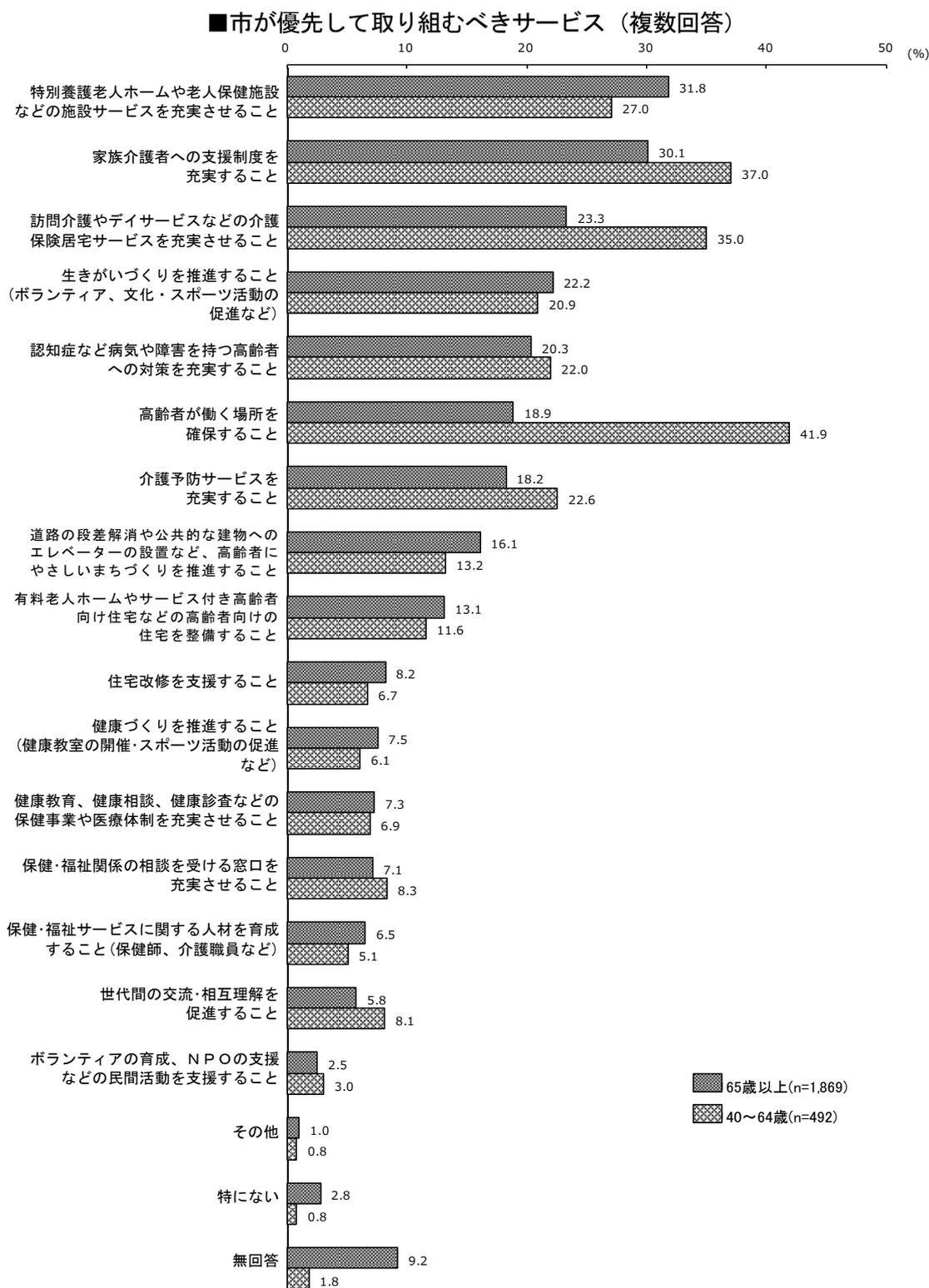
(%)

		利用している	と利用したことがある	知らない	知っている	知らない	無回答		利用したい	ない	利用したくない	わからない	無回答
訪問食事サービス	全体(n=1,869)	0.1	0.5	41.0	46.8	11.6		22.4	10.4	43.4	23.7		
	男性(n=862)	0.1	0.7	34.7	54.5	10.0		20.2	10.8	49.0	20.1		
	女性(n=977)	0.0	0.3	46.8	40.5	12.4		24.6	10.3	38.8	26.3		
自立支援ショートステイ	全体(n=1,869)	0.2	0.5	40.4	46.2	12.7		19.9	11.5	43.6	25.0		
	男性(n=862)	0.2	0.6	33.8	54.1	11.4		17.5	12.1	49.0	21.5		
	女性(n=977)	0.1	0.5	46.3	39.9	13.2		22.2	11.3	39.0	27.5		
高齢者医療ショートステイ	全体(n=1,869)	0.2	0.5	33.3	52.9	13.1		22.1	9.6	43.5	24.8		
	男性(n=862)	0.1	0.5	29.2	58.2	11.9		19.7	10.4	48.1	21.7		
	女性(n=977)	0.2	0.5	37.1	48.7	13.5		24.4	9.0	39.7	26.9		
日常生活用具給付とレンタル	全体(n=1,869)	0.7	1.6	42.8	41.7	13.2		29.3	7.2	38.1	25.4		
	男性(n=862)	0.6	1.3	35.0	51.2	11.9		25.1	8.5	44.8	21.7		
	女性(n=977)	0.9	1.8	49.7	33.9	13.6		33.5	6.1	32.4	27.9		
はいかい高齢者探索サービス	全体(n=1,869)	0.0	0.4	24.8	61.2	13.6		24.0	7.9	42.3	25.8		
	男性(n=862)	0.0	0.3	21.7	65.5	12.4		21.5	9.3	47.1	22.2		
	女性(n=977)	0.0	0.4	27.4	58.0	14.1		26.6	6.8	38.3	28.4		
日常生活用品(おむつ)の助成	全体(n=1,869)	0.8	0.7	35.6	49.5	13.3		27.3	8.0	38.7	26.0		
	男性(n=862)	0.9	0.8	30.2	56.0	12.1		21.9	10.2	45.2	22.6		
	女性(n=977)	0.7	0.6	40.7	44.2	13.7		32.2	6.2	33.2	28.4		
車いす福祉タクシー	全体(n=1,869)	0.5	0.7	37.8	47.8	13.1		30.8	7.0	36.9	25.3		
	男性(n=862)	0.8	0.6	34.1	52.6	11.9		25.2	8.8	43.9	22.2		
	女性(n=977)	0.2	0.8	41.2	44.2	13.5		36.2	5.3	31.0	27.4		
寝具乾燥サービス	全体(n=1,869)	0.2	0.3	22.3	63.7	13.5		28.4	8.1	38.1	25.4		
	男性(n=862)	0.3	0.3	20.1	66.8	12.4		24.2	9.2	44.2	22.4		
	女性(n=977)	0.1	0.2	24.4	61.4	13.9		32.4	7.2	32.9	27.5		
理容師・美容師の派遣	全体(n=1,869)	0.6	0.4	33.8	52.1	13.2		28.2	8.5	38.1	25.1		
	男性(n=862)	0.9	0.6	29.0	57.5	11.9		23.9	9.7	44.0	22.4		
	女性(n=977)	0.3	0.2	38.1	47.9	13.5		32.2	7.5	33.3	27.0		

(2) 市が優先して取り組むべきサービス (問36)

市が優先して取り組むべきサービスは、65歳以上は「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設サービスを充実させること」(31.8%)が最も多く、「家族介護者への支援制度を充実すること」(30.1%)、「訪問介護やデイサービスなどの介護保険居宅サービスを充実させること」(23.3%)と続いている。

40～64歳は、「高齢者が働く場所を確保すること」(41.9%)が最も多く、「家族介護者への支援制度を充実すること」(37.0%)、「訪問介護やデイサービスなどの介護保険居宅サービスを充実させること」(35.0%)と続いている。



65歳以上について性別にみると、男性は「生きがいを推進すること（ボランティア、文化・スポーツ活動の促進など）」（24.2%）、「高齢者が働く場所を確保すること」（22.2%）、「健康教育、健康相談、健康診査などの保健事業や医療体制を充実させること」（8.8%）、「世代間の交流・相互理解を促進すること」（7.7%）が女性に比べ多く、女性は「道路の段差解消や公共的な建物へのエレベーターの設置など、高齢者にやさしいまちづくりを推進すること」（19.3%）が男性に比べて多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「介護予防サービスを充実すること」（20.7%）が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「家族介護者への支援制度を充実すること」（33.2%）、「高齢者が働く場所を確保すること」（25.2%）、「世代間の交流・相互理解を促進すること」（6.9%）が75歳以上に比べて多くなっている。

地区別にみると、第3地区は「世代間の交流・相互理解を促進すること」（10.0%）、第6地区は「介護予防サービスを充実すること」（23.6%）が全体に比べて多くなっている。

■市が優先して取り組むべきサービス（複数回答）（65歳以上）

		設 特別 養 護 老 人 ホ ム や 老 人 保 健 施 設 な ど の 施 設 を 充 実 さ せ る こ と	家 族 介 護 者 へ の 支 援 制 度 を 充 実 す る こ と	サ イ ン テ ン ス な ど の 介 護 保 険 居 宅 を 充 実 さ せ る こ と	訪 問 介 護 や デ イ サービス な ど の 介 護 保 険 居 宅 を 充 実 さ せ る こ と	生 き が い づ く り を 推 進 す る こ と （ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 の 促 進 な ど）	認 知 症 な ど の 病 気 や 障 害 を 持 つ 高 齢 者 へ の 対 策 を 充 実 す る こ と	高 齢 者 が 働 く 場 所 を 確 保 す る こ と	介 護 予 防 サ ー ビ ス を 充 実 す る こ と	道 路 の 段 差 解 消 や 公 共 的 な 建 物 へ の エ レ ベ ー タ ー の 設 置 な ど 、 高 齢 者 に や さ し い ま ち づ く り を 推 進 す る こ と	有 料 老 人 ホ ム や サ ー ビ ス 付 き 高 齢 者 向 け 住 宅 を 整 備 す る こ と	住 宅 改 修 を 支 援 す る こ と	健 康 づ く り を 推 進 す る こ と （健 康 教 室 の 開 催 ・ ス ポ ー ツ 活 動 の 促 進 な ど）	健 康 教 育 、 健 康 相 談 、 健 康 診 査 な ど の 保 健 事 業 を 充 実 さ せ る こ と	保 健 ・ 福 祉 関 係 の 相 談 を 受 け る 窓 口 を 充 実 さ せ る こ と	保 健 ・ 福 祉 サ ー ビ ス に 関 する 人 材 を 育 成 す る こ と （保 健 師 、 介 護 職 員 な ど）	世 代 間 の 交 流 ・ 相 互 理 解 を 促 進 す る こ と	ボ ラ ン テ ィ ア の 育 成 、 N P O の 支 援 な ど の 民 間 活 動 を 支 援 す る こ と	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体(n=1,869)		31.8	30.1	23.3	22.2	20.3	18.9	18.2	16.1	13.1	8.2	7.5	7.3	7.1	6.5	5.8	2.5	1.0	2.8	9.2	
性別	男性(n=862)	32.7	29.9	22.5	24.2	20.2	22.2	17.5	12.8	12.2	8.0	6.8	8.8	6.4	5.9	7.7	2.4	1.2	3.4	8.9	
	女性(n=977)	31.4	30.4	24.2	20.4	20.6	15.8	18.8	19.3	13.9	8.3	8.0	6.1	7.8	7.3	4.1	2.7	0.9	2.1	9.1	
年齢別	75歳以上(n=803)	31.5	26.2	24.3	19.9	20.9	10.2	20.7	16.6	12.7	7.0	6.5	7.6	7.6	6.6	4.2	2.5	1.0	3.5	12.5	
	65～74歳(n=1,056)	32.2	33.2	22.4	23.7	20.0	25.2	16.4	15.8	13.3	9.1	8.3	7.1	6.7	6.5	6.9	2.6	1.0	2.2	6.8	
地区別	第1地区(n=344)	32.8	31.4	22.1	20.9	18.9	20.3	16.6	16.9	14.2	8.7	8.4	9.0	7.6	5.2	6.1	2.0	0.3	2.6	9.3	
	第2地区(n=398)	30.4	29.6	21.9	21.6	20.1	20.6	18.8	18.8	13.8	9.8	7.8	5.0	8.5	7.0	4.8	1.5	1.3	2.6	8.9	
	第3地区(n=339)	31.6	29.2	24.5	25.7	21.5	15.9	16.8	12.4	14.5	7.7	6.5	8.6	7.4	8.0	10.0	3.2	0.3	3.0	9.3	
	第4地区(n=221)	29.4	30.3	23.5	22.6	17.6	19.0	16.7	17.6	11.3	6.8	8.6	6.8	5.4	7.7	4.1	2.3	2.3	2.8	10.6	
	第5地区(n=245)	37.1	31.4	27.8	19.6	23.3	17.1	15.5	14.3	14.7	6.5	8.6	5.7	6.9	5.7	3.3	3.3	1.2	2.9	7.8	
	第6地区(n=296)	31.1	29.7	22.0	20.9	20.3	18.2	23.6	16.6	9.5	8.4	6.4	8.1	6.1	5.7	4.4	3.4	1.4	3.1	8.8	

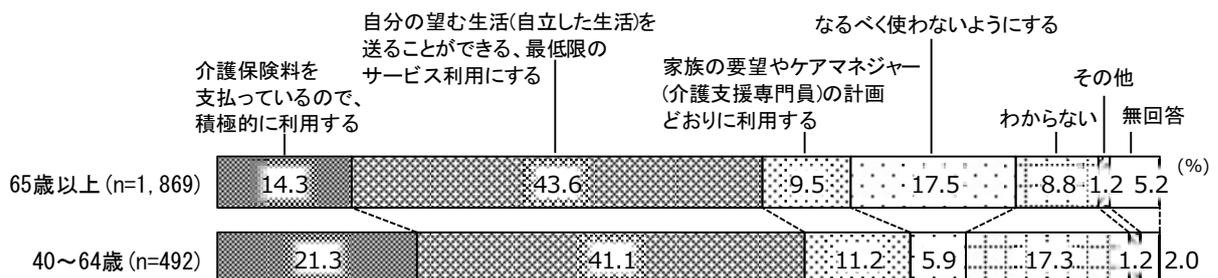
12 介護保険について

(1) 介護保険サービス利用についての考え (問 37)

介護保険サービス利用についての考えは、65歳以上は「自分の望む生活（自立した生活）を送ることができる、最低限のサービス利用にする」（43.6%）が最も多く、「なるべく使わないようにする」（17.5%）、「介護保険料を支払っているのに、積極的に利用する」（14.3%）と続いている。

40～64歳は、「自分の望む生活（自立した生活）を送ることができる、最低限のサービス利用にする」（41.1%）が最も多く、「介護保険料を支払っているのに、積極的に利用する」（21.3%）、「家族の要望やケアマネジャー（介護支援専門員）の計画どおりに利用する」（11.2%）と続いている。

■介護保険サービス利用についての考え



65歳以上について性別にみると、女性は「自分の望む生活（自立した生活）を送ることができる、最低限のサービス利用にする」（47.5%）が男性に比べて多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「なるべく使わないようにする」（22.8%）が65～74歳に比べて多く、65～74歳は「自分の望む生活（自立した生活）を送ることができる、最低限のサービス利用にする」（49.1%）が75歳以上に比べて多くなっている。

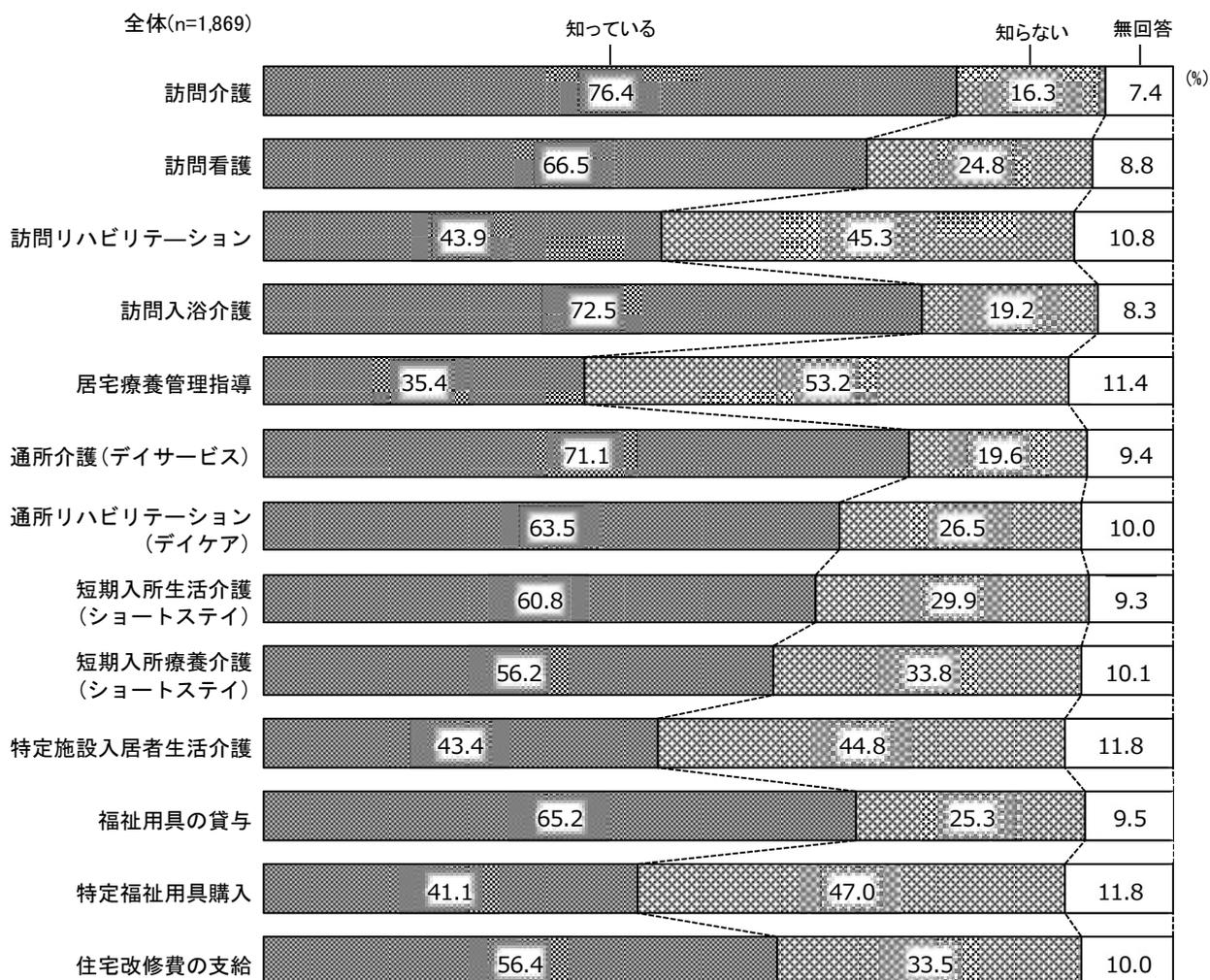
■介護保険サービス利用についての考え (65歳以上)

		にいて介	す限こ立自	り専ネ家	うな	わ	そ	無
		利い護	るのとし分	に門ジ族	なる	か	の	回
		用る保	サがたの	利用員ヤの	す	ら	他	答
		すの險	ーで生望	すのへ望	る	な		
		るで料	ビき活む	る計介や	く	い		
		、を	スるゝ生	画護ケ	使			
		積支	利、を活	ど支ア	わ			
		極払	用最送へ	お援マ	な			
		的つ	に低る自		い			
全体(n=1,869)		14.3	43.6	9.5	17.5	8.8	1.2	5.2
性別	男性(n=862)	14.5	39.8	10.0	19.0	10.6	1.2	5.0
	女性(n=977)	14.0	47.5	9.2	15.9	7.4	1.1	4.9
年齢別	75歳以上(n=803)	13.8	36.4	10.1	22.8	8.8	0.7	7.3
	65～74歳(n=1,056)	14.7	49.1	9.1	13.4	8.5	1.5	3.6

(2) 介護保険サービスの認知度 (問 38)

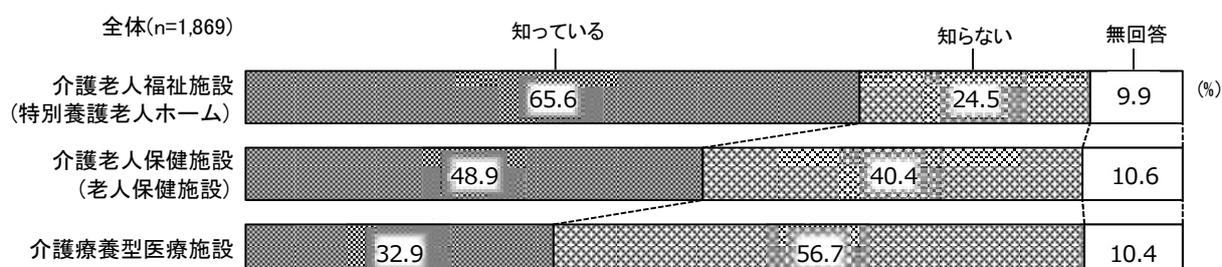
65歳以上の介護保険サービスの認知度について、居宅サービスは『訪問介護』(76.4%)が最も多く、『訪問入浴介護』(72.5%)、『通所介護(デイサービス)』(71.1%)と続いている。

■介護保険サービスの認知度(居宅サービス)(65歳以上)



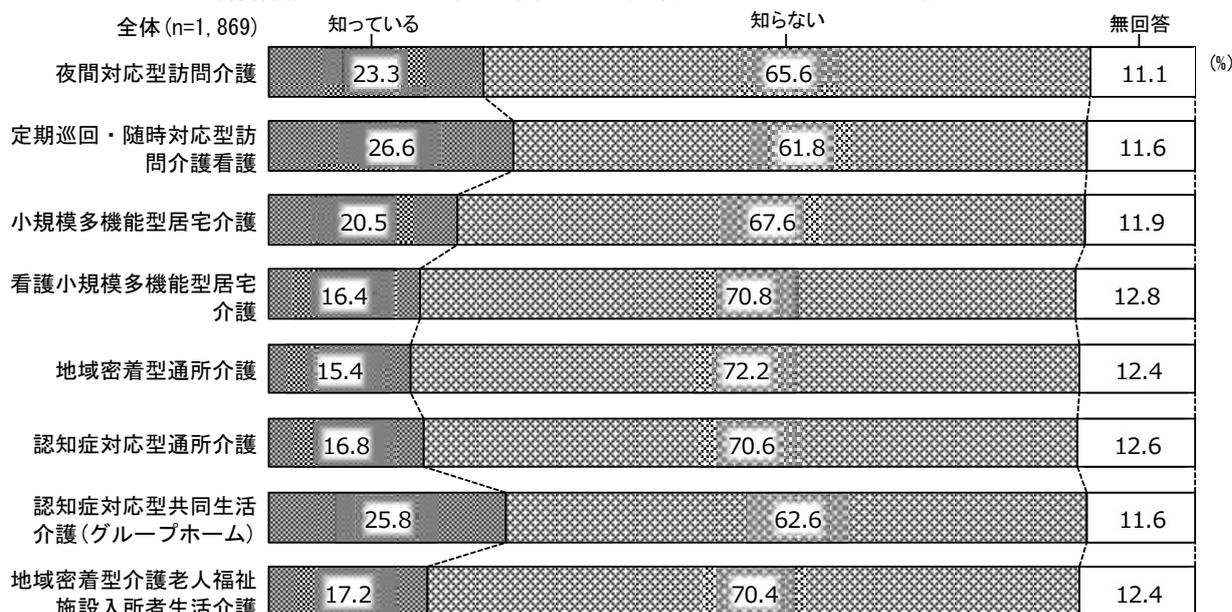
施設サービスは『介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)』(65.6%)が最も多く、『介護老人保健施設(老人保健施設)』(48.9%)、『介護療養型医療施設』(32.9%)と続いている。

■介護保険サービスの認知度(施設サービス)(65歳以上)



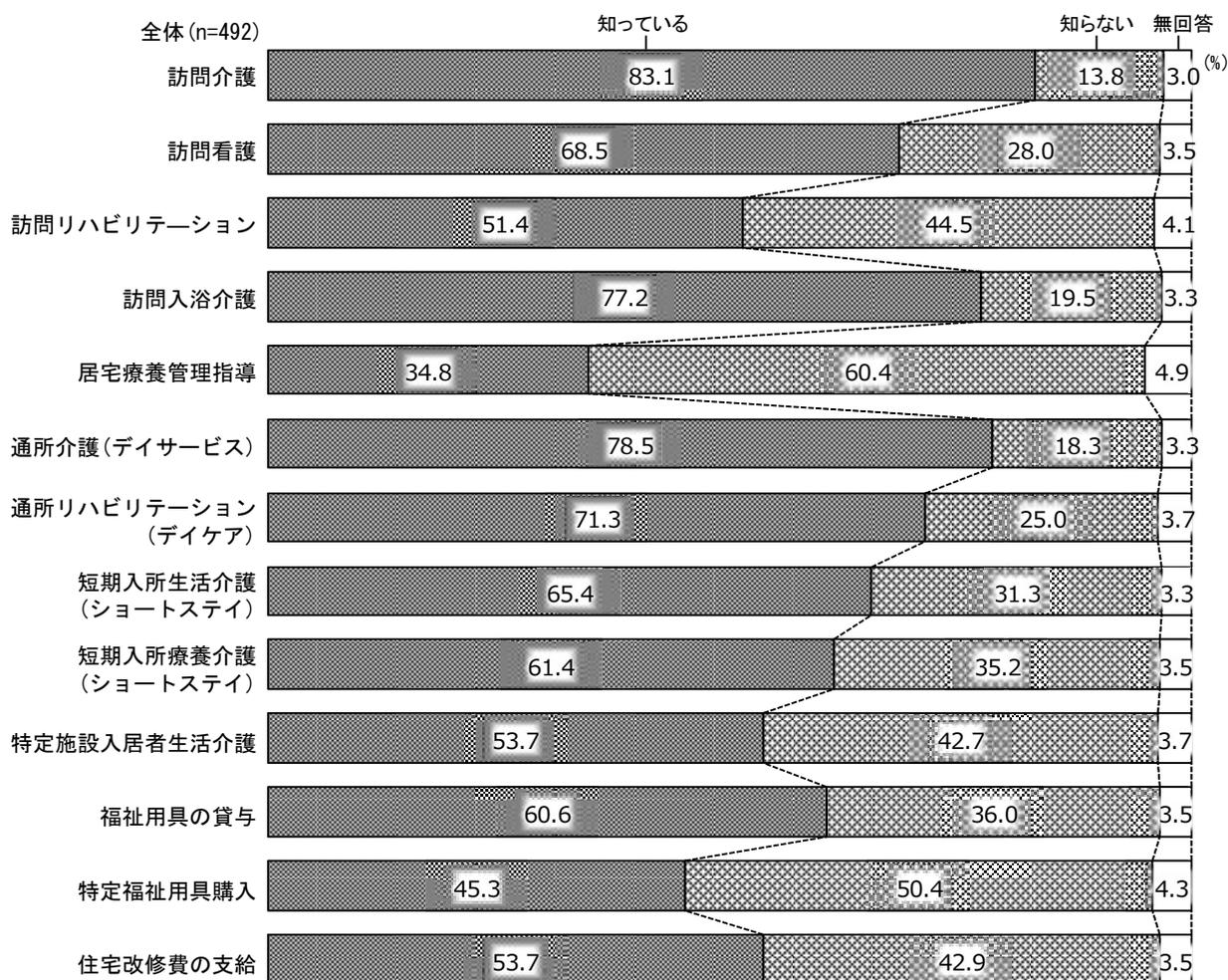
地域密着型サービスは『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』（26.6%）が最も多く、『認知症対応型共同生活介護（グループホーム）』（25.8%）、『夜間対応型訪問介護』（23.3%）と続いている。

■介護保険サービスの認知度（地域密着型サービス）（65歳以上）



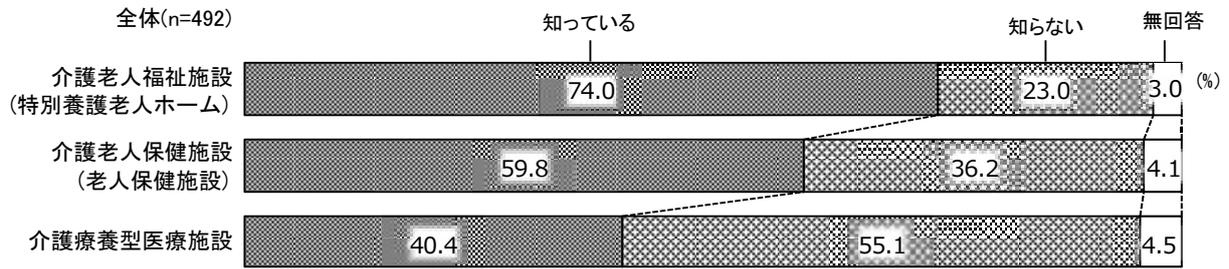
40～64歳の介護保険サービスの認知度について、居宅サービスは『訪問介護』（83.1%）が最も多く、『通所介護（デイサービス）』（78.5%）、『訪問入浴介護』（77.2%）と続いている。

■介護保険サービスの認知度（居宅サービス）（40～64歳）



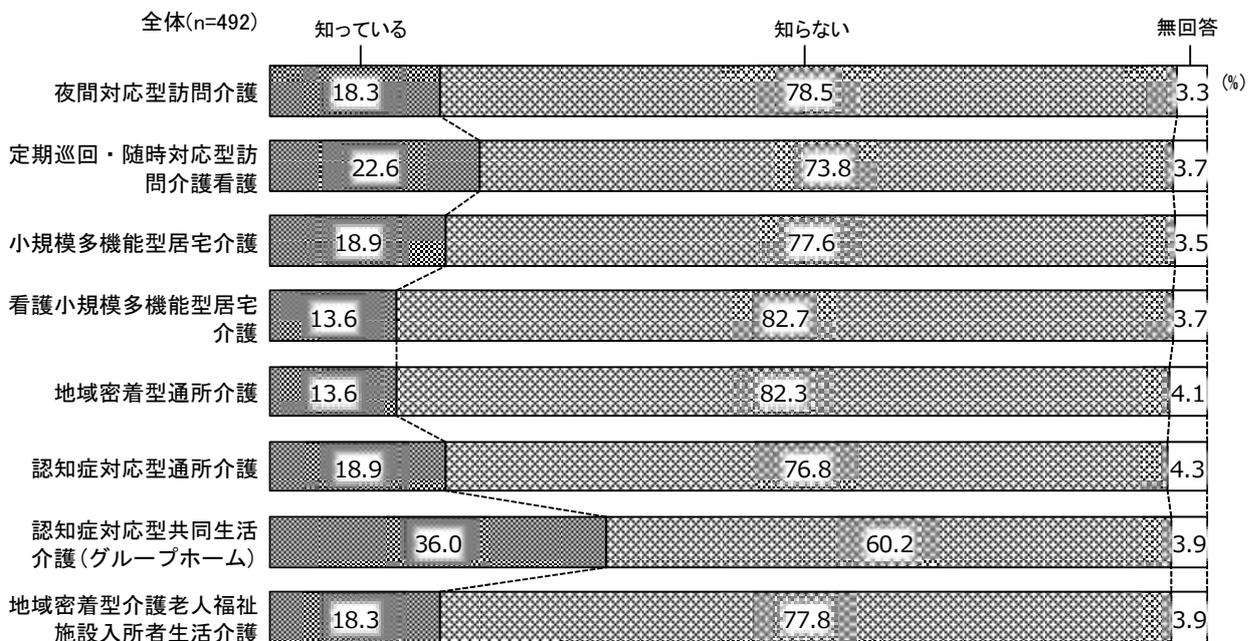
施設サービスは『介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）』（74.0%）が最も多く、『介護老人保健施設（老人保健施設）』（59.8%）、『介護療養型医療施設』（40.4%）と続いている。

■介護保険サービスの認知度（施設サービス）（40～64歳）



地域密着型サービスは『認知症対応型共同生活介護（グループホーム）』（36.0%）が最も多く、『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』（22.6%）、『小規模多機能型居宅介護』と『認知症対応型通所介護』（ともに18.9%）と続いている。

■介護保険サービスの認知度（地域密着型サービス）（40～64歳）

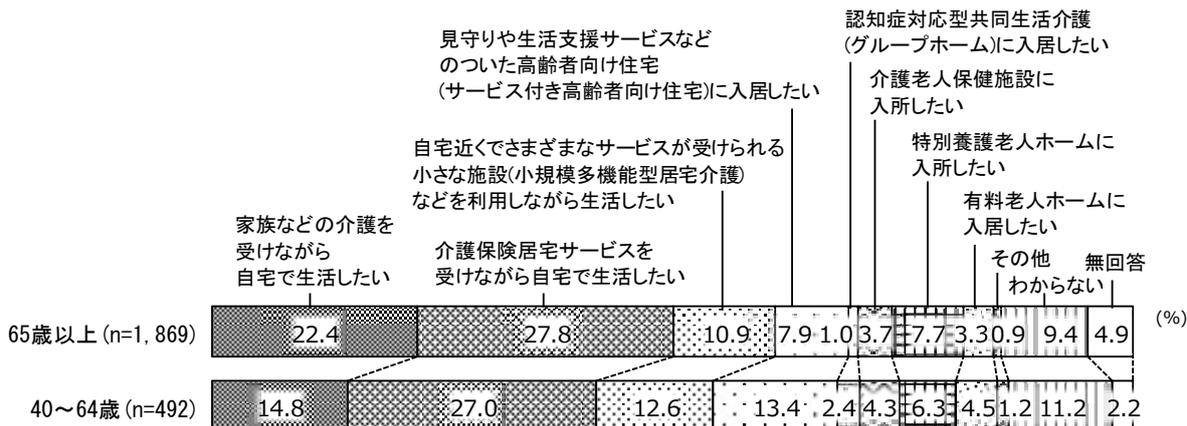


(3) 介護が必要になった時に生活したい場所 (問 39)

介護が必要になった時に生活したい場所は、65 歳以上は「介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活したい」(27.8%) が最も多く、「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」(22.4%)、「自宅近くでさまざまなサービスが受けられる小さな施設(小規模多機能型居宅介護)などを利用しながら生活したい」(10.9%)と続いている。

40~64 歳は、「介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活したい」(27.0%) が最も多く、「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」(14.8%)、「見守りや生活支援サービスなどのついた高齢者向け住宅(サービス付き高齢者向け住宅)に入居したい」(13.4%)と続いている。

■介護が必要になった時に生活したい場所



65 歳以上について性別にみると、男性は「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」(28.3%) が女性に比べ多く、女性は「自宅近くでさまざまなサービスが受けられる小さな施設(小規模多機能型居宅介護)などを利用しながら生活したい」(12.8%)、「見守りや生活支援サービスなどのついた高齢者向け住宅(サービス付き高齢者向け住宅)に入居したい」(9.1%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75 歳以上は「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」(26.0%) が 65~74 歳に比べ多くなっている。

地区別にみると、第6地区は「介護老人保健施設に入所したい」(6.1%)が全体に比べ多くなっている。

■介護が必要になった時に生活したい場所 (65 歳以上)

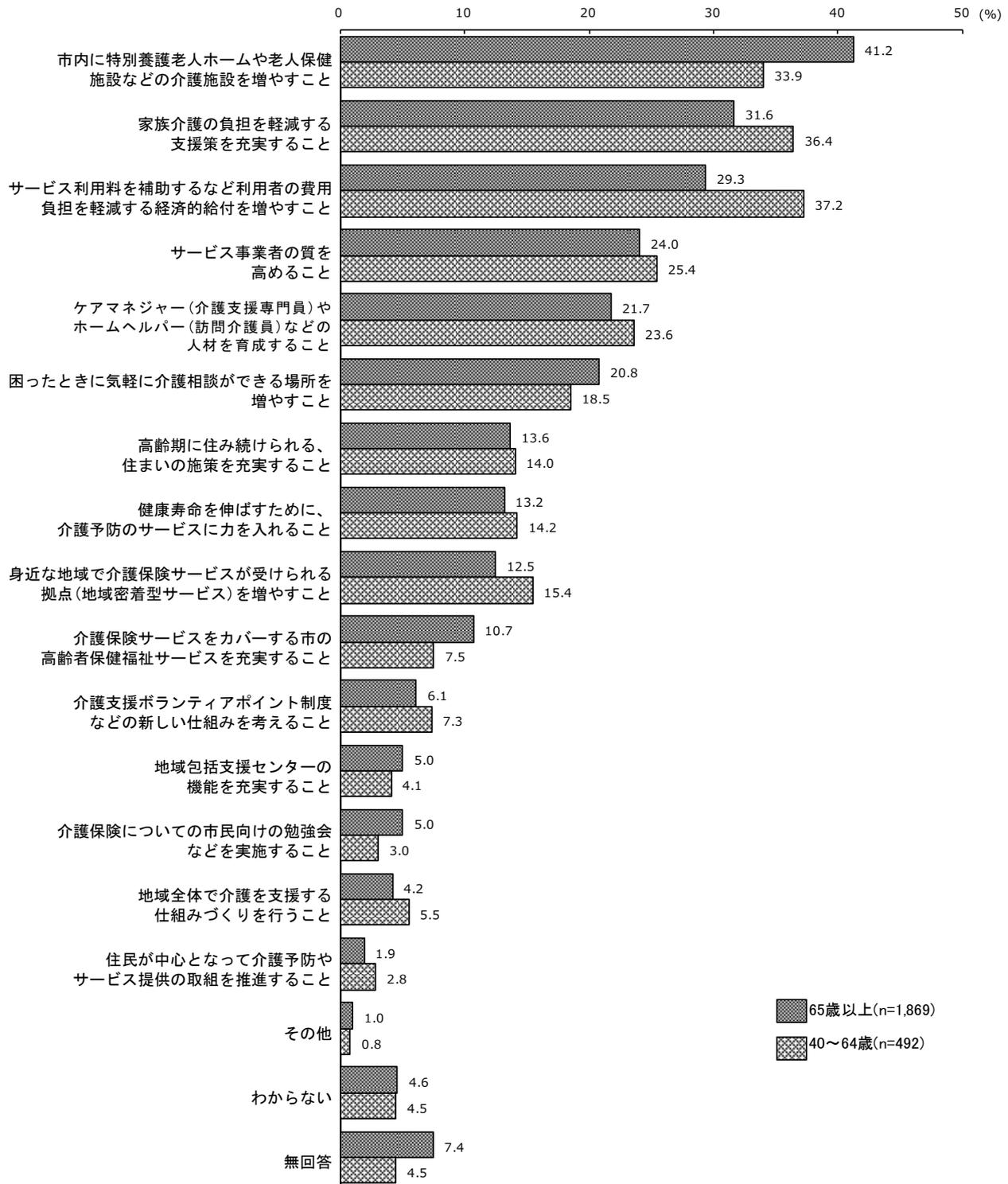
		家族などの介護を受けながら自宅で生活したい	介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活したい	自宅近くでさまざまなサービスが受けられる小さな施設(小規模多機能型居宅介護)などを利用しながら生活したい	見守りや生活支援サービスなどのついた高齢者向け住宅(サービス付き高齢者向け住宅)に入居したい	介護老人保健施設に入所したい	特別養護老人ホームに入所したい	有料老人ホームに入居したい	その他	無回答		
全体(n=1,869)		22.4	27.8	10.9	7.9	1.0	3.7	7.7	3.3	0.9	9.4	4.9
性別	男性(n=862)	28.3	27.3	8.9	6.6	1.0	3.8	7.7	2.7	0.8	8.6	4.3
	女性(n=977)	17.5	28.7	12.8	9.1	0.9	3.7	7.8	3.7	0.8	10.1	4.9
年齢別	75歳以上(n=803)	26.0	27.9	10.1	7.1	0.7	3.4	6.8	3.5	0.6	7.7	6.1
	65~74歳(n=1,056)	19.8	27.9	11.4	8.4	1.2	4.0	8.4	3.1	1.1	10.7	3.9
地区別	第1地区(n=344)	22.1	31.4	8.1	5.2	0.3	5.2	9.9	4.1	0.6	8.1	4.9
	第2地区(n=398)	22.1	25.6	13.3	7.8	1.3	2.0	7.3	3.3	1.3	9.8	6.3
	第3地区(n=339)	20.6	29.2	10.6	8.8	0.6	3.5	6.2	4.1	0.6	10.9	4.7
	第4地区(n=221)	25.8	29.4	8.1	6.3	1.4	1.4	7.2	2.7	0.5	11.8	5.4
	第5地区(n=245)	22.9	28.6	9.0	9.4	2.0	3.3	9.0	2.9	1.6	7.8	3.7
	第6地区(n=296)	23.3	23.6	14.2	10.1	1.0	6.1	6.8	2.4	1.0	8.8	2.7

(4) 介護保険制度の全体をよりよくするために市が力を入れるべきこと (問 40)

介護保険制度の全体をよりよくするために市が力を入れるべきことは、65歳以上は「市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと」(41.2%)が最も多く、「家族介護の負担を軽減する支援策を充実すること」(31.6%)、「サービス利用料を補助するなど利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと」(29.3%)と続いている。

40～64歳は、「サービス利用料を補助するなど利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと」(37.2%)が最も多く、「家族介護の負担を軽減する支援策を充実すること」(36.4%)、「市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと」(33.9%)と続いている。

■ 介護保険制度の全体をよりよくするために市が力を入れるべきこと (複数回答)



65歳以上について性別にみると、男性は「サービス事業者の質を高めること」(27.0%)、「ケアマネジャー(介護支援専門員)やホームヘルパー(訪問介護員)などの人材を育成すること」(23.7%)が女性に比べ多く、女性は「身近な地域で介護保険サービスが受けられる拠点(地域密着型サービス)を増やすこと」(15.4%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「家族介護の負担を軽減する支援策を充実すること」(33.9%)、「サービス利用料を補助するなど利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと」(31.3%)、「介護支援ボランティアポイント制度などの新しい仕組みを考えること」(7.3%)、「地域全体で介護を支援する仕組みづくりを行うこと」(5.3%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第3地区は「介護保険サービスをカバーする市の高齢者保健福祉サービスを充実すること」(14.2%)、第4地区は「健康寿命を伸ばすために、介護予防のサービスに力を入れること」(18.1%)、第5地区は「困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと」(28.6%)が全体に比べ多くなっている。

■介護保険制度の全体をよりよくするために市が力を入れるべきこと(複数回答)(65歳以上)

		市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと	家族介護の負担を軽減する支援策を充実すること	サービスの費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと	サービス事業者の質を高めること	ケアマネジャー(介護支援専門員)やホームヘルパー(訪問介護員)などの人材を育成すること	困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと	高齢者に住み続けられる、住まいの施策を充実すること	健康寿命を伸ばすために、介護予防のサービスに力を入れること	身近な地域で介護保険サービスが受けられる拠点(地域密着型サービス)を増やすこと	高齢者保健福祉サービスを充実すること	介護支援ボランティアポイント制度などの新しい仕組みを考えること	介護保険サービスを提供する市の高齢者保健福祉サービスを充実すること	地域包括支援センターの機能を充実すること	介護保険について市民向けの勉強会などを実施すること	地域全体で介護を支援する仕組みづくりを行うこと	住民が中心となって介護予防やサービス提供の取組を推進すること	その他	わからない	無回答
全体(n=1,869)		41.2	31.6	29.3	24.0	21.7	20.8	13.6	13.2	12.5	10.7	6.1	5.0	5.0	4.2	1.9	1.0	4.6	7.4	
性別	男性(n=862)	43.4	32.6	30.2	27.0	23.7	18.9	13.8	12.4	9.4	11.5	5.2	5.6	5.2	4.2	2.1	0.8	6.1	5.2	
	女性(n=977)	39.4	30.9	29.0	21.1	19.8	22.5	13.7	13.8	15.4	9.7	7.1	4.6	5.0	4.2	1.8	1.0	3.4	9.0	
年齢別	75歳以上(n=803)	38.7	28.9	26.8	22.8	20.0	22.8	11.8	12.2	13.1	11.0	4.6	6.0	5.1	2.7	1.5	1.2	5.1	10.8	
	65～74歳(n=1,056)	43.0	33.9	31.3	25.1	23.0	19.1	14.9	14.0	12.1	10.5	7.3	4.4	4.9	5.3	2.2	0.9	4.1	4.8	
地区別	第1地区(n=344)	43.6	33.1	25.3	18.9	21.8	23.0	13.1	14.0	14.2	10.8	8.1	4.9	7.3	4.9	1.5	1.7	5.2	5.8	
	第2地区(n=398)	41.2	28.9	29.9	27.6	23.6	19.1	12.6	12.8	14.1	8.0	5.8	5.8	6.0	4.3	0.8	1.0	4.0	7.4	
	第3地区(n=339)	43.7	31.3	32.2	25.7	20.9	16.5	16.8	12.7	11.8	14.2	5.6	5.3	2.9	3.5	2.1	0.9	4.4	5.7	
	第4地区(n=221)	35.7	35.7	28.5	23.5	19.9	20.8	13.1	18.1	14.5	12.7	6.3	4.5	5.4	4.1	2.3	-	4.1	8.3	
	第5地区(n=245)	41.2	32.2	33.1	24.1	20.0	28.6	14.7	10.6	9.0	9.0	5.7	4.9	4.9	4.9	2.9	0.8	3.7	6.2	
	第6地区(n=296)	39.5	31.4	27.7	23.6	21.6	18.9	11.8	12.5	11.1	10.5	4.7	4.4	3.7	3.7	3.0	1.4	5.7	10.2	

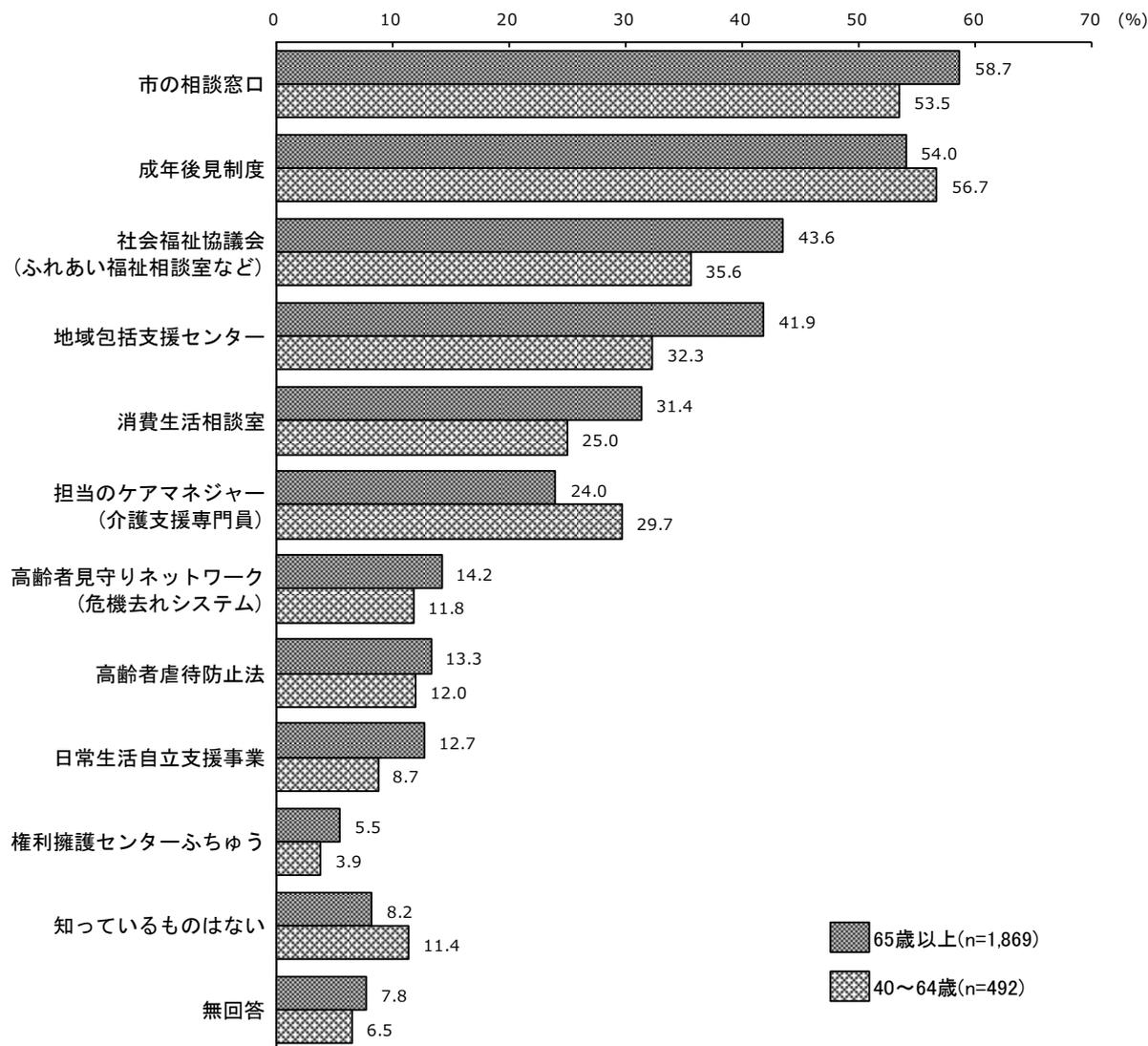
13 高齢者の権利擁護について

(1) 高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度 (問 41)

高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度は、65歳以上は「市の相談窓口」(58.7%)が最も多く、「成年後見制度」(54.0%)、「社会福祉協議会(ふれあい福祉相談室など)」(43.6%)と続いている。

40～64歳は、「成年後見制度」(56.7%)が最も多く、「市の相談窓口」(53.5%)、「社会福祉協議会(ふれあい福祉相談室など)」(35.6%)と続いている。

■ 高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度 (複数回答)



65歳以上について性別にみると、男性は「知っているものはない」(10.4%)が女性に比べ多く、女性は「地域包括支援センター」(48.5%)、「担当のケアマネジャー(介護支援専門員)」(28.8%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「市の相談窓口」(60.8%)、「成年後見制度」(59.5%)、「社会福祉協議会(ふれあい福祉相談室など)」(45.5%)、「消費生活相談室」(34.8%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第3地区と第4地区は「地域包括支援センター」(順に47.8%、52.5%)、第5地区は「社会福祉協議会(ふれあい福祉相談室など)」(49.8%)と「高齢者虐待防止法」(19.2%)が全体に比べ多くなっている。

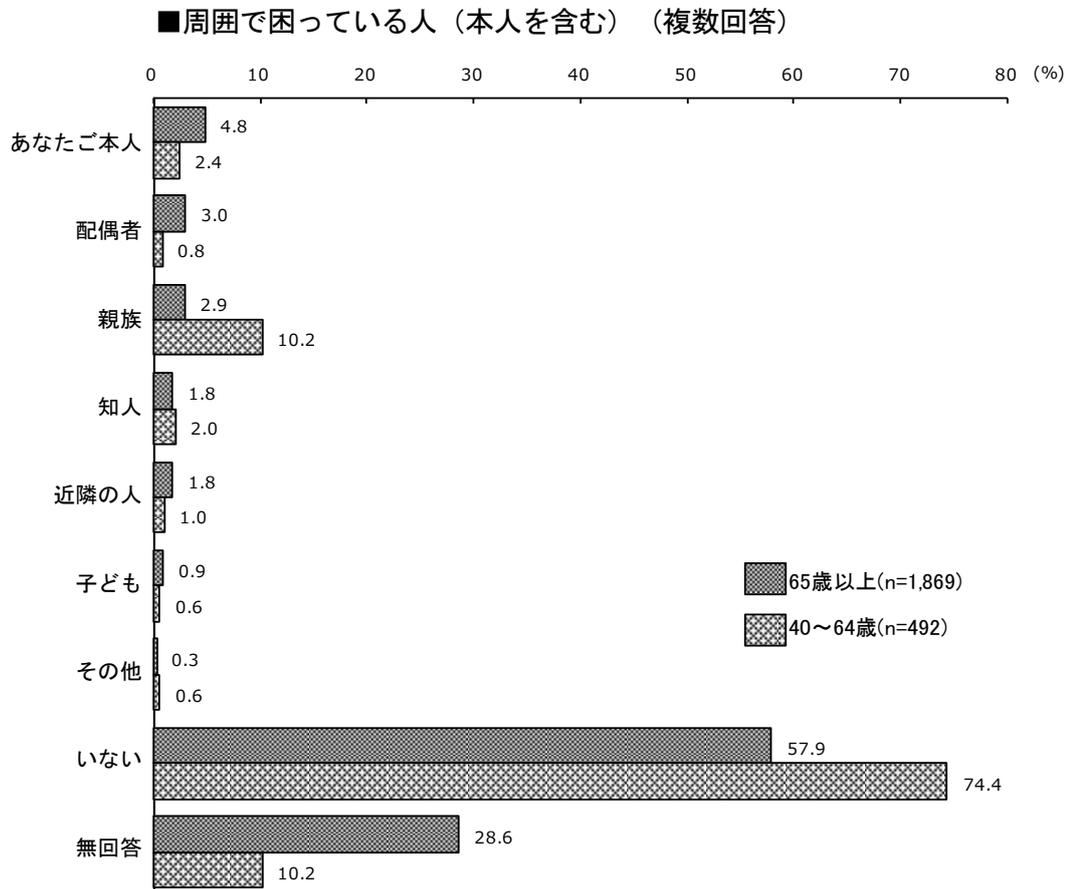
■高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度(複数回答)(65歳以上)

(%)

	市の相談窓口	成年後見制度	ふれあい福祉相談室(な)	社会福祉協議会	地域包括支援センター	消費生活相談室	介護支援専門員(ケアマネ)	担当のケアマネ	システム(危機去れネット)	高齢者見守り	高齢者虐待防止法	日常生活自立支援事業	権利擁護センター	知っているものはない	無回答
全体(n=1,869)	58.7	54.0	43.6	41.9	31.4	24.0	14.2	13.3	12.7	5.5	8.2	7.8			
性別	男性(n=862)	59.3	52.9	43.3	34.6	29.5	18.4	13.3	12.1	5.7	10.4	6.5			
	女性(n=977)	58.2	55.7	43.8	48.5	33.0	28.8	14.9	13.6	5.3	6.2	8.4			
年齢別	75歳以上(n=803)	56.2	47.3	40.8	43.1	27.0	22.4	12.7	12.1	5.1	8.1	11.1			
	65～74歳(n=1,056)	60.8	59.5	45.5	41.4	34.8	25.5	15.3	13.4	5.8	8.1	5.1			
地区別	第1地区(n=344)	60.8	52.3	39.5	38.4	32.6	22.7	10.8	13.1	5.2	10.8	7.8			
	第2地区(n=398)	56.8	57.0	40.7	41.5	30.4	20.9	16.3	11.8	6.0	7.8	7.5			
	第3地区(n=339)	61.4	53.7	46.9	47.8	29.5	27.7	12.4	13.3	6.8	7.7	5.9			
	第4地区(n=221)	58.4	46.2	44.3	52.5	32.6	22.6	15.4	14.9	4.5	6.8	9.0			
	第5地区(n=245)	60.4	60.0	49.8	40.8	33.9	26.1	17.1	19.2	11.0	4.9	7.8	6.1		
第6地区(n=296)	56.8	55.4	43.9	35.1	32.4	26.4	14.9	12.5	13.9	5.1	7.1	9.5			

(2) 周囲で困っている人（本人を含む）（問42）

周囲で困っている人（本人を含む）は、65歳以上も40～64歳も「いない」が最も多い。困っている人の中では、65歳以上は「あなたご本人」（4.8%）が最も多く、「配偶者」（3.0%）、「親族」（2.9%）と続いている。40～64歳は、「親族」（10.2%）が最も多く、「あなたご本人」（2.4%）、「知人」（2.0%）と続いている。



65歳以上について地区別にみると、第6地区は「近隣の人」（3.4%）と「子ども」（2.4%）が全体に比べ多くなっている。

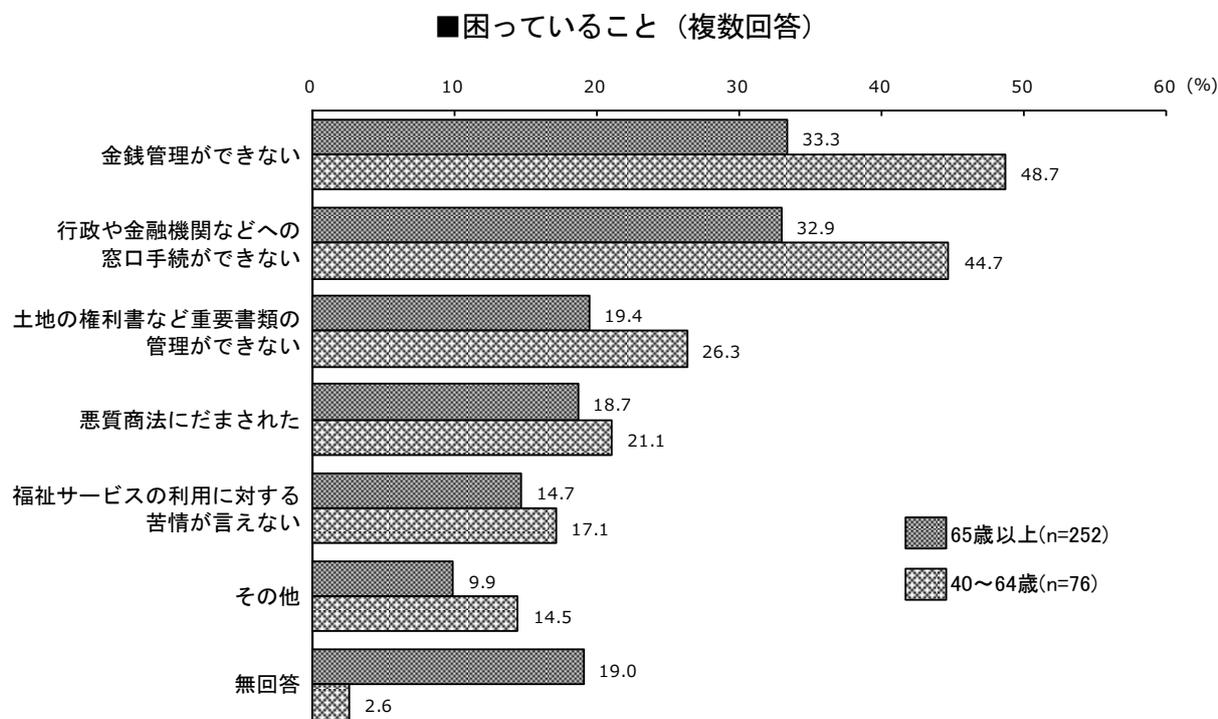
■周囲で困っている人（本人を含む）（複数回答）（65歳以上）

		あなたご本人	配偶者	親族	知人	近隣の人	子ども	その他	いない	無回答
全体(n=1,869)		4.8	3.0	2.9	1.8	1.8	0.9	0.3	57.9	28.6
地区別	第1地区(n=344)	4.1	2.3	3.8	2.6	1.5	0.3	0.0	58.1	28.5
	第2地区(n=398)	3.3	3.3	2.5	1.3	1.5	0.8	0.3	61.6	26.4
	第3地区(n=339)	5.9	3.5	2.9	2.7	0.9	0.9	0.3	56.9	28.0
	第4地区(n=221)	5.4	3.2	4.5	1.8	1.8	0.9	0.0	55.7	31.7
	第5地区(n=245)	5.3	2.4	3.3	2.0	2.4	0.4	0.8	56.7	27.8
	第6地区(n=296)	5.7	3.4	1.4	0.7	3.4	2.4	0.3	56.8	29.7

(3) 困っていること (問 42-1)

周囲で困っている人(本人を含む)がいると回答した人に困っていることを聞いたところ、65歳以上は「金銭管理ができない」(33.3%)が最も多く、「行政や金融機関などへの窓口手続きができない」(32.9%)、「土地の権利書など重要書類の管理ができない」(19.4%)と続いている。

40～64歳は、「金銭管理ができない」(48.7%)が最も多く、「行政や金融機関などへの窓口手続きができない」(44.7%)、「土地の権利書など重要書類の管理ができない」(26.3%)と続いている。



(4) 市の高齢者保健福祉サービスや介護保険制度についての意見・要望(自由回答)(問 43)

市の高齢者保健福祉サービスや介護保険制度について、自由回答形式で聞いたところ、全体で706件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

- 制度、サービス、事業について：82件
- 情報提供、周知について：63件
- 保険料について：49件
- 施設について：44件
- 相談窓口、連絡先について：26件
- 人材について：11件
- 家族への支援について：8件
- 住居について：7件
- 手続きについて：7件
- まちづくりについて：5件
- 交通・移動支援について：4件
- 現状や将来について：138件
- アンケートについての意見：30件
- アンケートを回答しての感想：56件
- その他の市への意見・要望：96件
- その他：45件
- わからない・特になし：35件

2. 要支援・要介護認定者調査

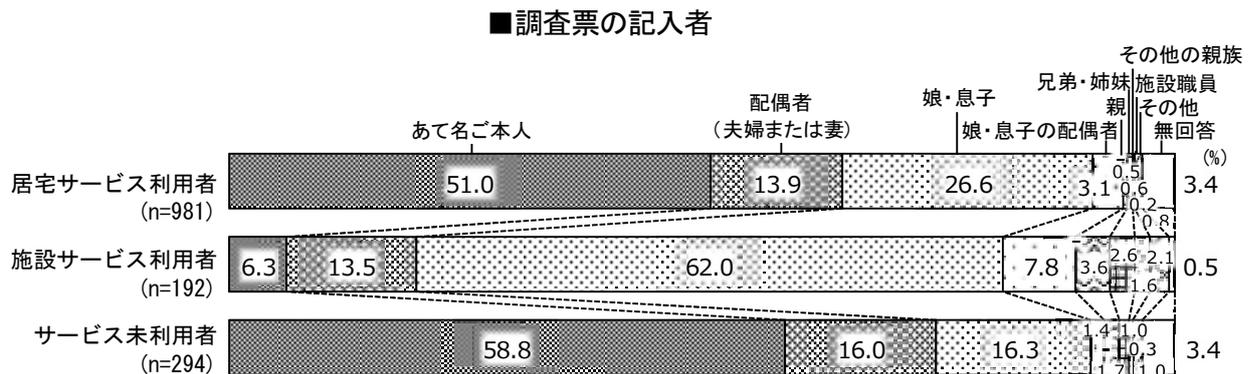
1 調査票記入にあたって

(1) 調査票の記入者

調査票の記入者は、居宅サービス利用者は「あて名ご本人」(51.0%)が最も多く、「娘・息子」(26.6%)、「配偶者(夫または妻)」(13.9%)と続いている。

施設サービス利用者は、「娘・息子」(62.0%)が最も多く、「配偶者(夫または妻)」(13.5%)、「娘・息子の配偶者」(7.8%)と続いている。

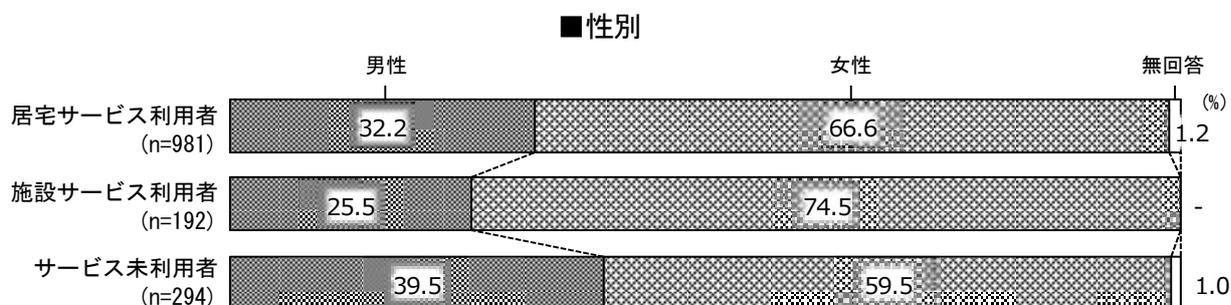
サービス未利用者は、「あて名ご本人」(58.8%)が最も多く、「娘・息子」(16.3%)、「配偶者(夫または妻)」(16.0%)と続いている。



2 基本属性

(1) 性別 (F1)

性別は、居宅サービス利用者は「男性」が32.2%、「女性」が66.6%となっている。
 施設サービス利用者は、「男性」が25.5%、「女性」が74.5%となっている。
 サービス未利用者は、「男性」が39.5%、「女性」が59.5%となっている。

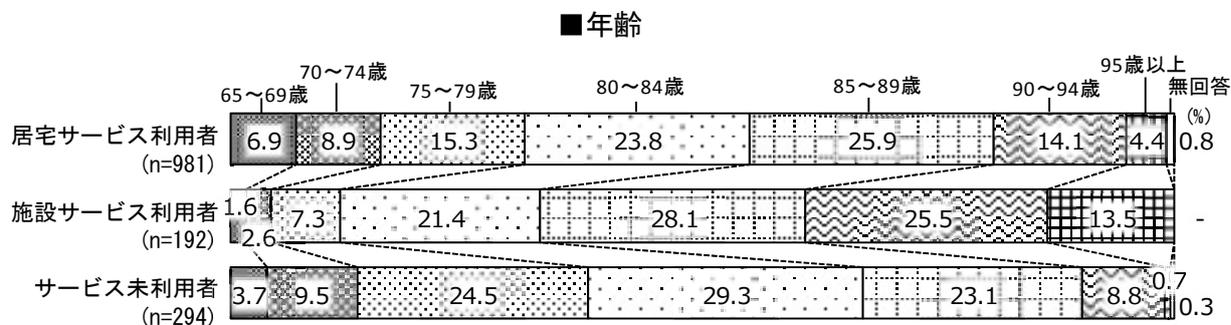


(2) 年齢 (F2)

年齢は、居宅サービス利用者は「85～89歳」(25.9%)が最も多く、「80～84歳」(23.8%)、「75～79歳」(15.3%)と続いている。

施設サービス利用者は、「85～89歳」(28.1%)が最も多く、「90～94歳」(25.5%)、「80～84歳」(21.4%)と続いている。

サービス未利用者は、「80～84歳」(29.3%)が最も多く、「75～79歳」(24.5%)、「85～89歳」(23.1%)と続いている。

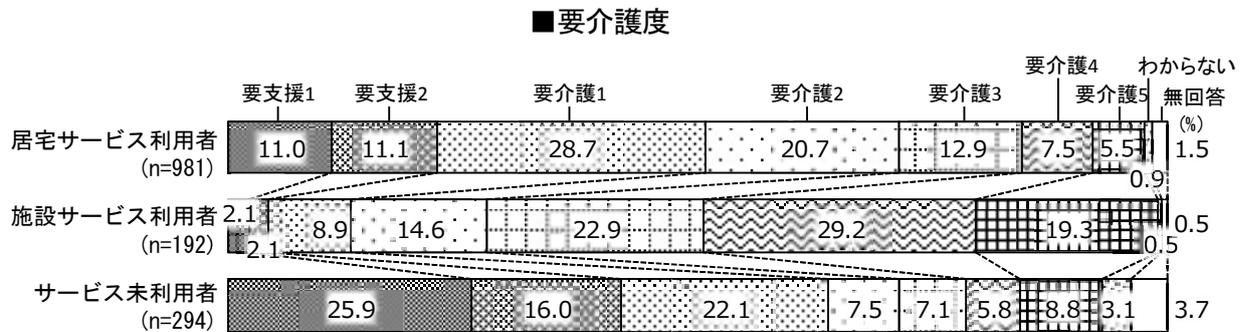


(3) 要介護度 (F3)

要介護度は、居宅サービス利用者は、「要介護1」(28.7%)が最も多く、「要介護2」(20.7%)、「要介護3」(12.9%)と続いている。

施設サービス利用者は、「要介護4」(29.2%)が最も多く、「要介護3」(22.9%)、「要介護5」(19.3%)と続いている。

サービス未利用者は、「要支援1」(25.9%)が最も多く、「要介護1」(22.1%)、「要支援2」(16.0%)と続いている。

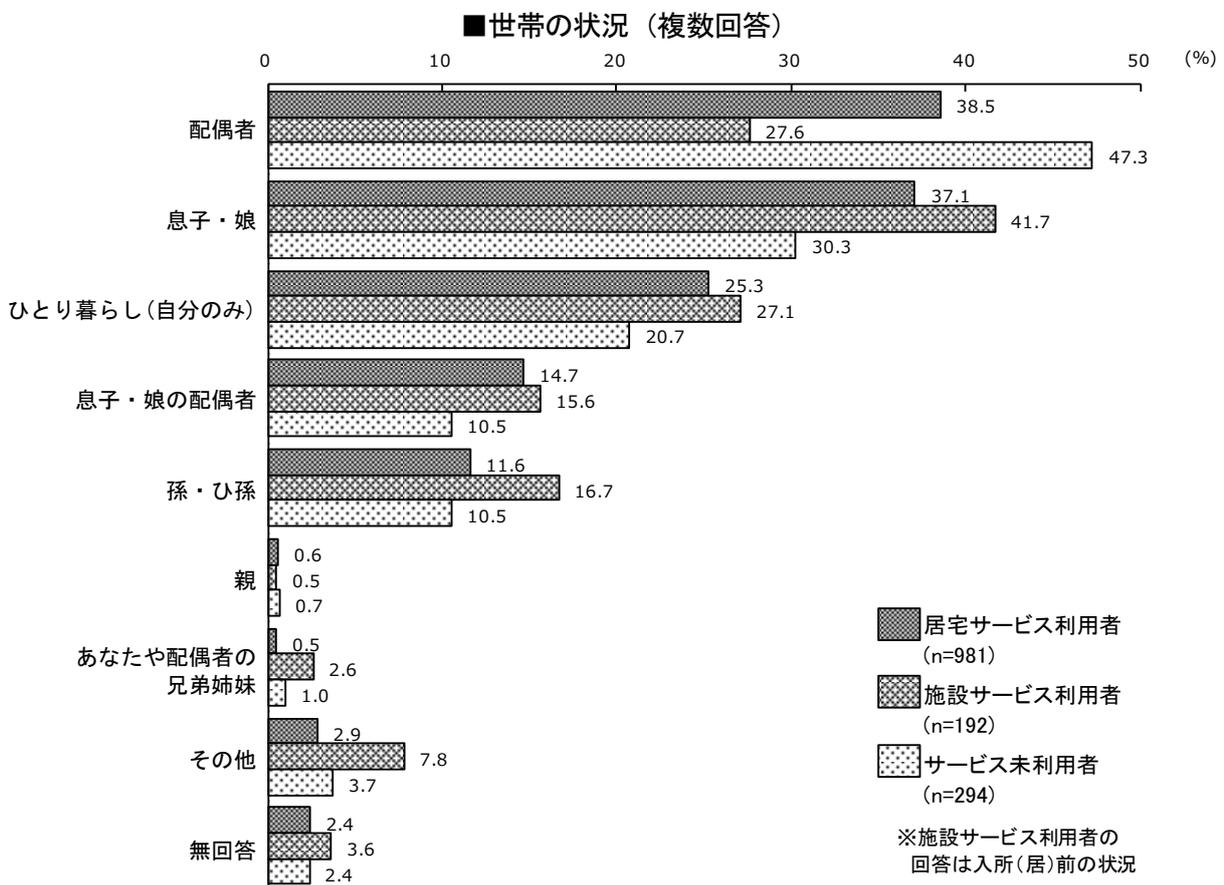


(4) 世帯の状況 (F4)

世帯の状況は、居宅サービス利用者は、「配偶者」(38.5%)が最も多く、「息子・娘」(37.1%)、「ひとり暮らし(自分のみ)」(25.3%)と続いている。

施設サービス利用者の入所(居)前の状況は、「息子・娘」(41.7%)が最も多く、「配偶者」(27.6%)、「ひとり暮らし(自分のみ)」(27.1%)と続いている。

サービス未利用者は、「配偶者」(47.3%)が最も多く、「息子・娘」(30.3%)、「ひとり暮らし(自分のみ)」(20.7%)と続いている。

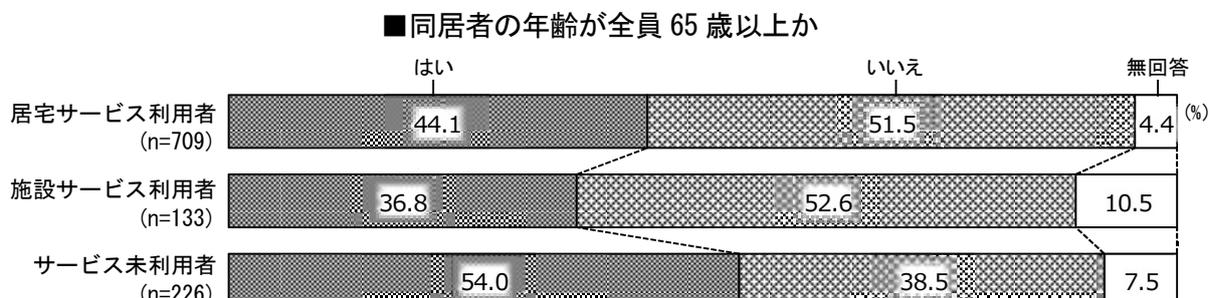


(5) 同居者の年齢が全員 65 歳以上か (F 4-1)

「ひとり暮らし(自分のみ)」以外を回答した人に同居者の年齢が全員 65 歳以上かを聞いたところ、居宅サービス利用者は「はい」が 44.1%、「いいえ」が 51.5%となっている。

施設サービス利用者は、「はい」が 36.8%、「いいえ」が 52.6%となっている。

サービス未利用者は、「はい」が 54.0%、「いいえ」が 38.5%となっている。

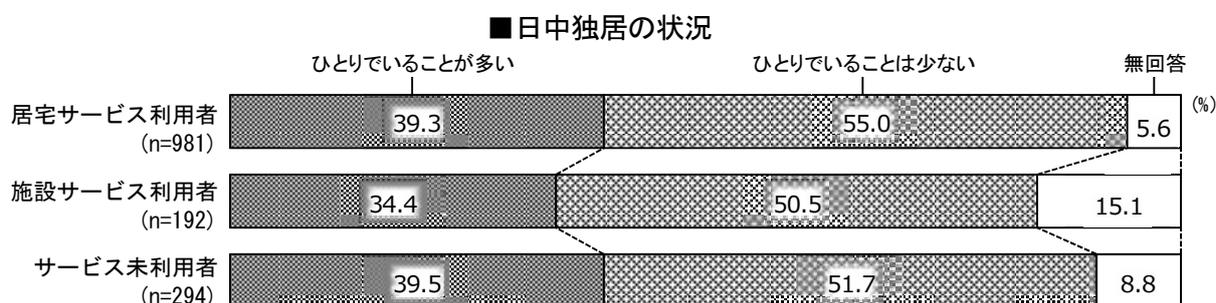


(6) 日中独居の状況 (F 5)

日中独居の状況は、居宅サービス利用者は「ひとりであることが多い」が 39.3%、「ひとりであることは少ない」が 55.0%となっている。

施設サービス利用者は、「ひとりであることが多い」が 34.4%、「ひとりであることは少ない」が 50.5%となっている。

サービス未利用者は、「ひとりであることが多い」が 39.5%、「ひとりであることは少ない」が 51.7%となっている。

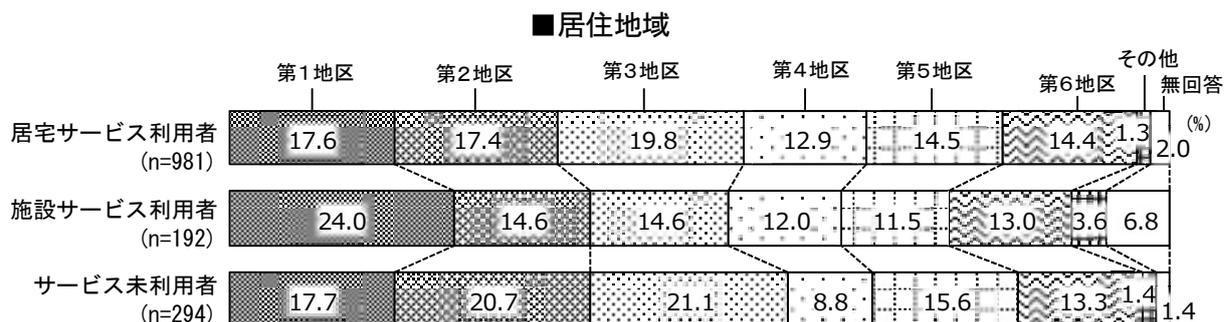


(7) 居住地域 (F 6)

居住地域は、居宅サービス利用者は「第3地区」(19.8%)が最も多く、「第1地区」(17.6%)、「第2地区」(17.4%)、第5地区(14.5%)、第6地区(14.4%)、第4地区(12.9%)となっている。

施設サービス利用者は、「第1地区」(24.0%)が最も多く、「第2地区」と「第3地区」(ともに 14.6%)、第6地区(13.0%)、第4地区(12.0%)、第5地区(11.5%)となっている。

サービス未利用者は、「第3地区」(21.1%)が最も多く、「第2地区」(20.7%)、「第1地区」(17.7%)、第5地区(15.6%)、第6地区(13.3%)、第4地区(8.8%)となっている。



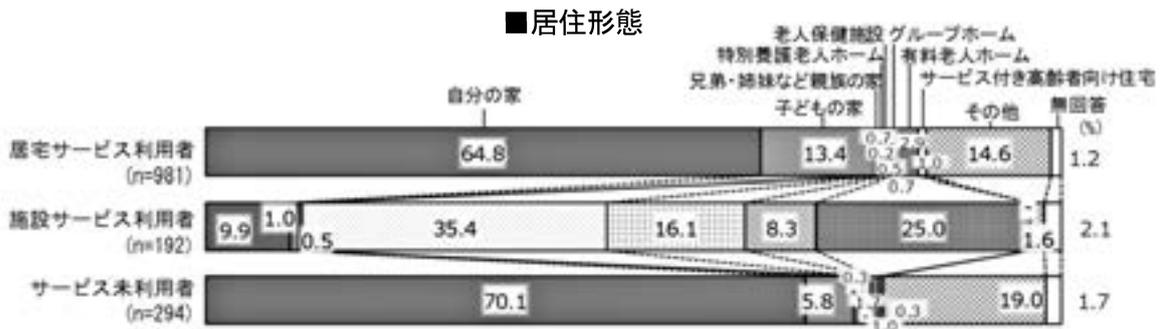
3 住まいについて

(1) 居住形態 (問1)

居住形態は、居宅サービス利用者は「自分の家」(64.8%)が最も多く、「子どもの家」(13.4%)、「有料老人ホーム」(2.9%)と続いている。

施設サービス利用者は、「特別養護老人ホーム」(35.4%)が最も多く、「有料老人ホーム」(25.0%)、「老人保健施設」(16.1%)と続いている。

サービス未利用者は、「自分の家」(70.1%)が最も多く、「子どもの家」(5.8%)、「老人保健施設」(1.7%)と続いている。



居宅サービス利用者について

性別にみると、男性は「自分の家」(72.5%)が女性に比べ多く、女性は「子どもの家」(17.3%)が男性に比べ多くなっている。

要介護度別にみると、中重度者は「子どもの家」(18.4%)が全体に比べ多くなっている。

地区別にみると、第2地区、第6地区は「自分の家」(順に 73.7%、73.8%)が全体に比べ多くなっている。

■居住形態 (居宅サービス利用者)

		家自 分の の	子 家 ど も	の ど 家 親 姉 妹 弟 族 な ・	ホ 護 特 老 別 ム 人 養	健 老 施 人 設 保	ム ブ グ ホ ル 	ム 人 有 ホ 料 老	宅 向 高 ス サ け 付 住 者 き ビ	そ の 他	無 回 答
全体(n=981)		64.8	13.4	0.7	0.2	0.5	0.7	2.9	1.0	14.6	1.2
性別	男性(n=316)	72.5	5.1	1.6	0.3	0.6	0.6	3.2	0.9	13.9	1.3
	女性(n=653)	61.7	17.3	0.3	0.2	0.5	0.8	2.8	1.1	14.9	0.6
要介護度別	要支援者(n=217)	67.3	9.7	1.4	-	-	-	0.9	0.5	19.4	0.9
	軽度者(n=485)	65.6	12.6	0.2	-	0.2	0.6	3.3	1.4	15.3	0.8
	中重度者(n=255)	62.4	18.4	1.2	0.8	1.6	1.6	3.9	0.8	8.6	0.8
地区別	第1地区(n=173)	70.5	16.8	-	-	-	0.6	4.0	1.7	6.4	-
	第2地区(n=171)	73.7	13.5	0.6	-	0.6	0.6	4.1	0.6	5.8	0.6
	第3地区(n=194)	60.8	13.4	2.1	-	-	0.5	-	0.5	21.6	1.0
	第4地区(n=127)	58.3	10.2	1.6	-	1.6	-	0.8	0.8	25.2	1.6
	第5地区(n=142)	59.2	16.2	-	1.4	-	1.4	1.4	-	19.7	0.7
	第6地区(n=141)	73.8	10.6	-	-	1.4	0.7	1.4	1.4	9.2	1.4

サービス未利用者について

性別にみると、女性は「子どもの家」(8.6%)が男性に比べ多くなっている。

■居住形態 (サービス未利用者)

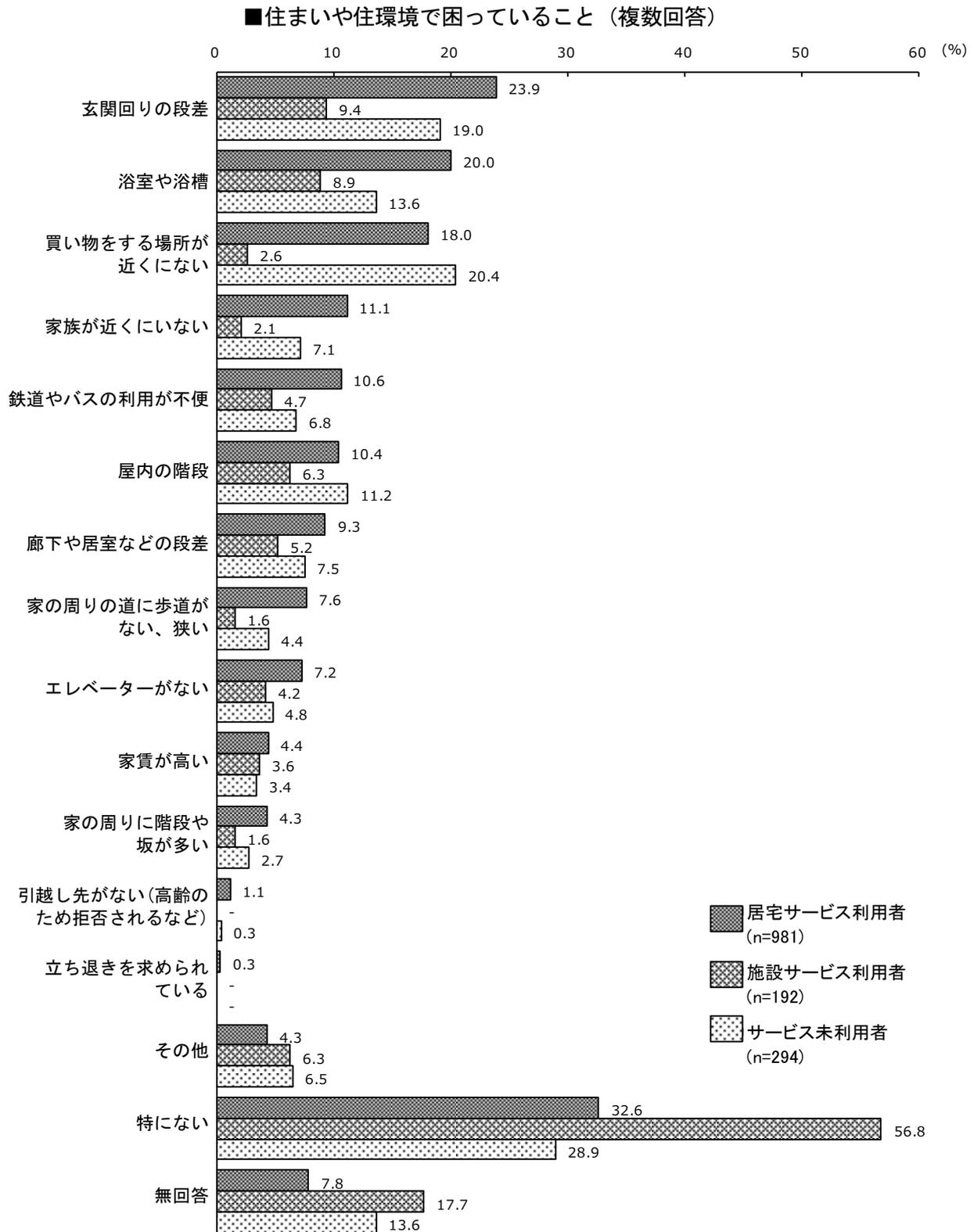
		家自 分の の	子 家 ど も	の ど 家 親 姉 妹 弟 族 な ・	ホ 護 特 老 別 ム 人 養	健 老 施 人 設 保	ム ブ グ ホ ル 	ム 人 有 ホ 料 老	宅 向 高 ス サ け 付 住 者 き ビ	そ の 他	無 回 答
全体(n=294)		70.1	5.8	0.3	-	1.7	-	1.0	0.3	19.0	1.7
性別	男性(n=116)	69.8	1.7	0.9	-	2.6	-	1.7	-	23.3	-
	女性(n=175)	70.9	8.6	-	-	1.1	-	0.6	0.6	16.0	2.3

(2) 住まいや住環境で困っていること (問2)

住まいや住環境で困っていることは、居宅サービス利用者は「玄関回りの段差」(23.9%)が最も多く、「浴室や浴槽」(20.0%)、「買い物をする場所が近くにない」(18.0%)と続いている。

施設サービス利用者は、「玄関回りの段差」(9.4%)が最も多く、「浴室や浴槽」(8.9%)、「屋内の階段」(6.3%)と続いている。

サービス未利用者は、「買い物をする場所が近くにない」(20.4%)が最も多く、「玄関回りの段差」(19.0%)、「浴室や浴槽」(13.6%)と続いている。



居宅サービス利用者について

性別にみると、男性は「玄関回りの段差」(27.8%)が女性に比べ多く、女性は「買い物をする場所が近くにない」(20.4%)が男性に比べ多くなっている。

要介護度別にみると、要支援者は「買い物をする場所が近くにない」(25.3%)、「家族が近くにない」(16.1%)、「鉄道やバスの利用が不便」(15.2%)、中重度者は「玄関回りの段差」(39.6%)、「浴室や浴槽」(27.5%)、「廊下や居室などの段差」(16.1%)が全体に比べ多くなっている。

地区別にみると、第2地区は「買い物をする場所が近くにない」(25.1%)、「家の周りに階段や坂が多い」(11.1%)、第3地区は「エレベーターがない」(13.4%)が全体に比べ多くなっている。

■住まいや住環境で困っていること(複数回答)(居宅サービス利用者)

		玄関回りの段差	浴室や浴槽	が買い物をする場所	い家族が近くにない	が鉄道やバスの利用	屋内の階段	段廊下や居室などの	道家の周りに、狭い歩	いエレベーターがな	家賃が高い	坂家の周りに階段や	さ(高齢のため拒否)	引越しがたい	れ立ち退きを求めら	その他	特にな	無回答
全体(n=981)		23.9	20.0	18.0	11.1	10.6	10.4	9.3	7.6	7.2	4.4	4.3	1.1	0.3	4.3	32.6	7.8	
性別	男性(n=316)	27.8	20.3	13.6	9.8	11.1	9.8	10.4	8.5	8.5	5.1	3.5	1.3	0.3	4.4	33.2	7.9	
	女性(n=653)	22.1	20.1	20.4	11.6	10.6	10.7	8.9	7.4	6.4	4.1	4.6	1.1	0.3	4.3	32.5	7.4	
要介護度別	要支援者(n=217)	13.8	13.8	25.3	16.1	15.2	11.5	5.5	6.9	8.3	2.8	5.1	0.5	0.5	5.1	32.3	9.7	
	軽度者(n=485)	20.8	19.6	19.8	13.0	11.5	10.9	7.6	7.2	6.8	5.6	4.7	1.2	0.4	4.1	33.0	7.0	
	中重度者(n=255)	39.6	27.5	9.4	3.9	5.9	9.0	16.1	9.4	7.5	3.9	3.1	1.2	0.0	3.9	31.0	6.7	
地区別	第1地区(n=173)	27.2	23.1	21.4	7.5	13.9	13.3	9.8	9.2	5.8	2.3	2.9	1.7	-	4.6	27.2	7.5	
	第2地区(n=171)	29.8	15.2	25.1	11.1	14.0	12.3	11.7	8.8	7.6	4.1	11.1	1.2	0.6	3.5	26.3	6.4	
	第3地区(n=194)	21.6	25.3	9.3	12.9	6.2	10.8	8.2	7.7	13.4	3.1	1.0	1.0	0.5	2.6	37.6	6.7	
	第4地区(n=127)	20.5	18.1	15.7	11.8	11.0	5.5	7.9	3.9	2.4	7.9	5.5	-	-	4.7	38.6	11.0	
	第5地区(n=142)	17.6	13.4	23.2	9.9	9.9	11.3	7.0	7.7	9.2	2.8	1.4	-	-	4.2	37.3	7.0	
	第6地区(n=141)	29.1	25.5	16.3	12.1	9.9	9.9	12.1	8.5	2.1	5.7	3.5	2.1	0.7	6.4	31.2	6.4	

サービス未利用者について

要介護度別にみると、中重度者は「玄関回りの段差」(29.7%)が全体に比べ多くなっている。

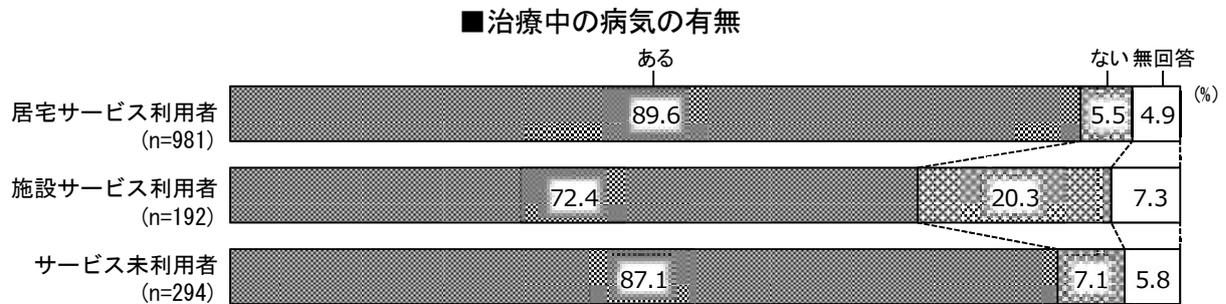
■住まいや住環境で困っていること(複数回答)(サービス未利用者)

		玄関回りの段差	浴室や浴槽	が買い物をする場所	い家族が近くにない	が鉄道やバスの利用	屋内の階段	段廊下や居室などの	道家の周りに、狭い歩	いエレベーターがな	家賃が高い	坂家の周りに階段や	さ(高齢のため拒否)	引越しがたい	れ立ち退きを求めら	その他	特にな	無回答
全体(n=294)		19.0	13.6	20.4	7.1	6.8	11.2	7.5	4.4	4.8	3.4	2.7	0.3	-	6.5	28.9	13.6	
要介護度別	要支援者(n=123)	18.7	12.2	22.8	9.8	6.5	13.8	4.9	4.1	5.7	1.6	4.1	0.8	-	5.7	23.6	13.0	
	軽度者(n=87)	13.8	12.6	19.5	5.7	6.9	10.3	9.2	5.7	5.7	5.7	2.3	-	-	5.7	33.3	10.3	
	中重度者(n=64)	29.7	20.3	14.1	1.6	6.3	7.8	12.5	3.1	3.1	4.7	1.6	-	-	10.9	29.7	20.3	

4 医療について

(1) 治療中の病気の有無（問3）

治療中の病気の有無は、居宅サービス利用者は「ある」が89.6%、「ない」が5.5%となっている。
 施設サービス利用者は、「ある」が72.4%、「ない」が20.3%となっている。
 サービス未利用者は、「ある」が87.1%、「ない」が7.1%となっている。

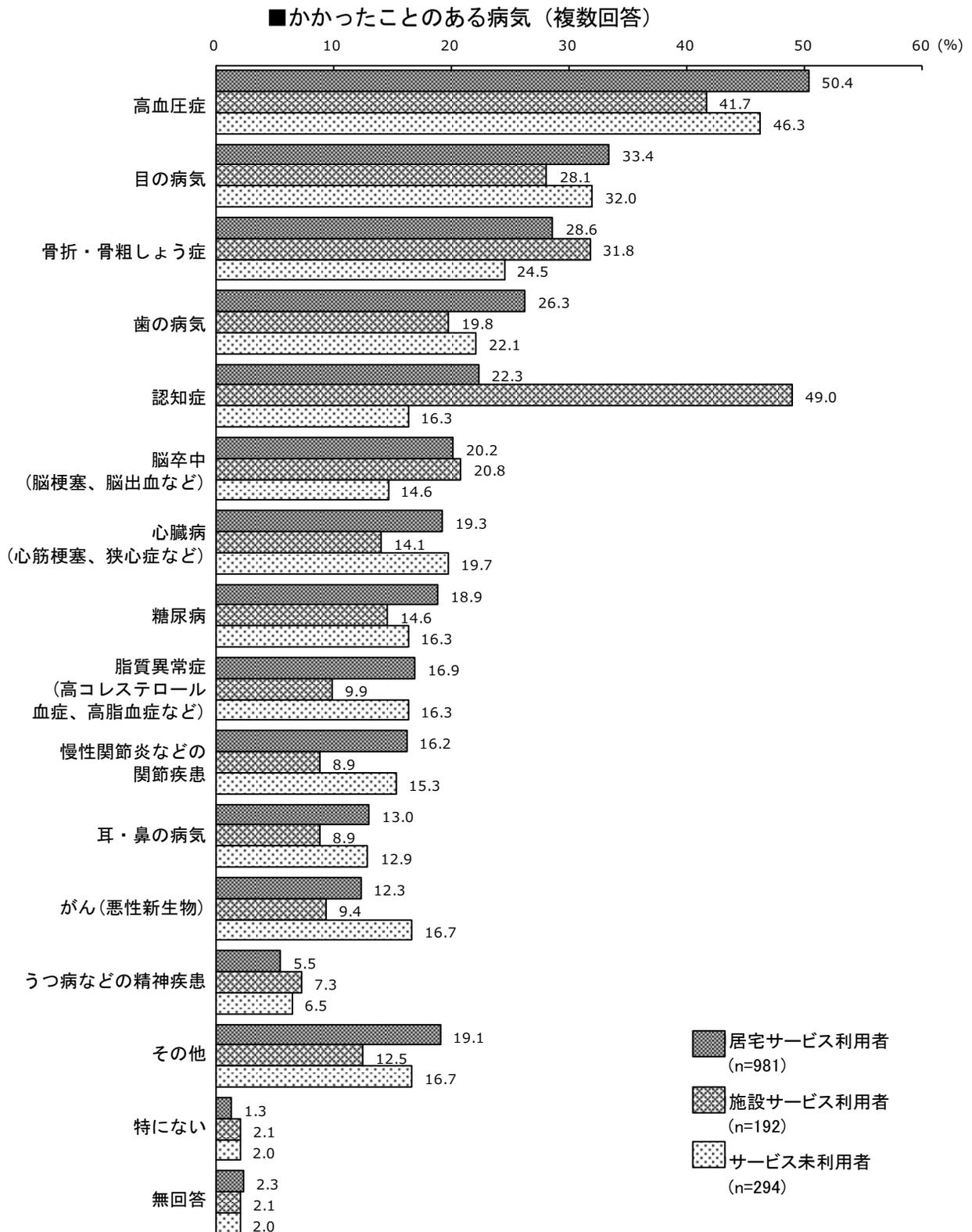


(2) かかったことのある病気 (問4)

かかったことのある病気は、居宅サービス利用者は「高血圧症」(50.4%)が最も多く、「目の病気」(33.4%)、「骨折・骨粗しょう症」(28.6%)と続いている。

施設サービス利用者は、「認知症」(49.0%)が最も多く、「高血圧症」(41.7%)、「骨折・骨粗しょう症」(31.8%)と続いている。

サービス未利用者は、「高血圧症」(46.3%)が最も多く、「目の病気」(32.0%)、「骨折・骨粗しょう症」(24.5%)と続いている。



居宅サービス利用者について

性別にみると、男性は「脳卒中(脳梗塞、脳出血など)」(32.3%)、「糖尿病」(23.4%)、「がん(悪性新生物)」(18.7%)が女性に比べ多く、女性は「目の病気」(36.9%)、「骨折・骨粗しょう症」(37.1%)、「慢性関節炎などの関節疾患」(20.8%)、「うつ病などの精神疾患」(7.0%)が男性に比べ多くなっている。

要介護度別にみると、要支援者は「脂質異常症(高コレステロール血症、高脂血症など)」(23.5%)、「慢性関節炎などの関節疾患」(22.6%)、「耳・鼻の病気」(19.4%)、中重度者は「認知症」(41.2%)、「脳卒中(脳梗塞、脳出血など)」(32.2%)が全体に比べ多くなっている。

地区別にみると第5地区は「高血圧症」(59.2%)が全体に比べ多くなっている。

■かかったことのある病気(複数回答)(居宅サービス利用者)

		高血圧症	目の病気	しよ骨折・骨粗しょう症	歯の病気	認知症	血梗脳卒など(脳出血)	心筋梗塞(狭心症)	心臓病	糖尿病	症症テ(高コレステロール血症)	脂質異常症	疾患	慢性関節炎	気耳・鼻の病	新が生(悪性)	のう精神疾患	その他	特にな	無回答
全体(n=981)		50.4	33.4	28.6	26.3	22.3	20.2	19.3	18.9		16.9	16.2	13.0	12.3	5.5	19.1	1.3	2.3		
性別	男性(n=316)	49.1	25.9	12.0	25.9	22.5	32.3	21.8	23.4		14.2	6.6	12.0	18.7	2.5	21.8	1.6	2.8		
	女性(n=653)	51.5	36.9	37.1	26.6	22.5	14.4	17.9	16.4		18.5	20.8	13.6	9.3	7.0	18.1	1.2	1.8		
要介護度別	要支援者(n=217)	54.8	39.6	27.6	31.3	6.0	13.4	19.8	19.8		23.5	22.6	19.4	14.3	5.1	18.4	0.5	3.2		
	軽度者(n=485)	51.5	34.4	30.3	26.2	20.2	17.5	18.8	18.6		16.3	17.5	14.4	11.8	6.2	17.9	1.9	2.1		
	中重度者(n=255)	45.5	27.8	25.5	23.1	41.2	32.2	19.2	19.6		14.1	9.0	5.5	12.5	4.7	23.5	0.8	1.2		
地区別	第1地区(n=173)	52.6	32.9	30.1	26.0	23.7	19.7	21.4	15.6		15.0	17.3	11.6	13.3	4.6	19.7	2.3	0.6		
	第2地区(n=171)	53.8	32.2	29.8	28.1	20.5	19.3	22.8	14.0		18.7	11.1	15.8	12.3	8.2	20.5	0.6	3.5		
	第3地区(n=194)	54.1	29.4	30.9	26.8	24.7	21.1	16.5	20.1		15.5	16.5	11.3	14.4	3.6	22.7	0.5	1.0		
	第4地区(n=127)	38.6	35.4	29.1	20.5	20.5	20.5	15.7	18.9		17.3	16.5	11.8	12.6	8.7	16.5	2.4	3.9		
	第5地区(n=142)	59.2	33.1	27.5	25.4	21.8	19.7	19.0	21.1		17.6	19.0	14.8	10.6	3.5	14.8	1.4	2.1		
	第6地区(n=141)	41.8	41.1	22.7	31.9	23.4	21.3	17.0	24.8		19.1	16.3	13.5	10.6	5.7	19.9	1.4	2.1		

施設サービス利用者について

性別にみると、女性は「骨折・骨粗しょう症」(38.5%)、「認知症」(54.5%)が男性に比べ多くなっている。

■かかったことのある病気(複数回答)(施設サービス利用者)

		高血圧症	目の病気	しよ骨折・骨粗しょう症	歯の病気	認知症	血梗脳卒など(脳出血)	心筋梗塞(狭心症)	心臓病	糖尿病	症症テ(高コレステロール血症)	脂質異常症	疾患	慢性関節炎	気耳・鼻の病	新が生(悪性)	のう精神疾患	その他	特にな	無回答
全体(n=192)		41.7	28.1	31.8	19.8	49.0	20.8	14.1	14.6		9.9	8.9	8.9	9.4	7.3	12.5	2.1	2.1		
性別	男性(n=49)	40.8	24.5	12.2	18.4	32.7	28.6	16.3	20.4		6.1	6.1	8.2	10.2	6.1	12.2	6.1	4.1		
	女性(n=143)	42.0	29.4	38.5	20.3	54.5	18.2	13.3	12.6		11.2	9.8	9.1	9.1	7.7	12.6	0.7	1.4		

サービス未利用者について

性別にみると、男性は「認知症」(22.4%)、「脳卒中(脳梗塞、脳出血など)」(22.4%)、「心臓病(心筋梗塞、狭心症など)」(30.2%)、「糖尿病」(25.9%)が女性に比べ多く、女性は「目の病気」(37.1%)、「骨折・骨粗しょう症」(30.9%)、「脂質異常症(高コレステロール血症、高脂血症など)」(20.0%)、「慢性関節炎などの関節疾患」(21.7%)が男性に比べ多くなっている。

要介護度別にみると、中重度者は「認知症」(31.3%)、「脳卒中(脳梗塞、脳出血など)」(25.0%)が全体に比べ多くなっている。

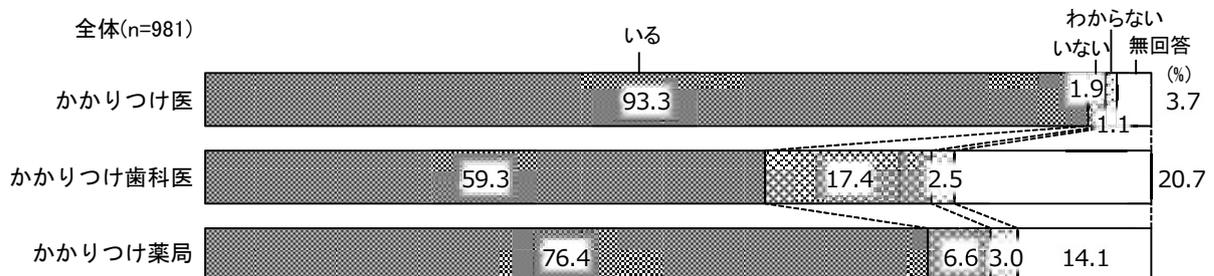
■かかったことのある病気(複数回答)(サービス未利用者)

		高血圧症	目の病気	しよ骨折・骨粗しょう症	歯の病気	認知症	血梗脳卒など(脳出血)	心筋梗塞(狭心症)	心臓病	糖尿病	症症テ(高コレステロール血症)	脂質異常症	疾患	慢性関節炎	気耳・鼻の病	新が生(悪性)	のう精神疾患	その他	特にな	無回答
全体(n=294)		46.3	32.0	24.5	22.1	16.3	14.6	19.7	16.3		16.3	15.3	12.9	16.7	6.5	16.7	2.0	2.0		
性別	男性(n=116)	44.8	24.1	14.7	25.0	22.4	22.4	30.2	25.9		11.2	5.2	12.9	21.6	8.6	17.2	1.7	0.9		
	女性(n=175)	48.0	37.1	30.9	20.6	12.6	9.1	12.6	10.3		20.0	21.7	13.1	13.7	5.1	16.6	1.7	2.3		
要介護度別	要支援者(n=123)	53.7	35.0	26.0	26.0	6.5	8.1	13.0	13.8		22.0	21.1	13.0	15.4	4.9	14.6	1.6	0.8		
	軽度者(n=87)	48.3	32.2	23.0	19.5	19.5	17.2	20.7	21.8		12.6	11.5	11.5	19.5	5.7	16.1	2.3	3.4		
	中重度者(n=64)	29.7	23.4	25.0	18.8	31.3	25.0	26.6	17.2		10.9	10.9	12.5	15.6	7.8	25.0	3.1	1.6		

(3) かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無（問5）

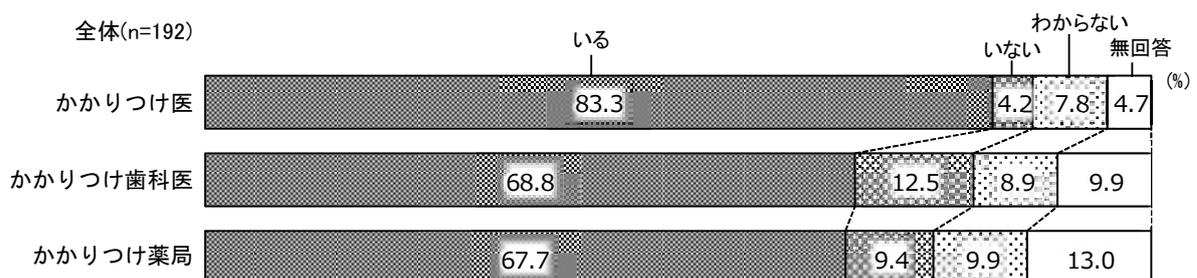
居宅サービス利用者のかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無について、「いる」は『かかりつけ医』が93.3%、『かかりつけ歯科医』が59.3%、『かかりつけ薬局』が76.4%となっている。

■かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無（居宅サービス利用者）



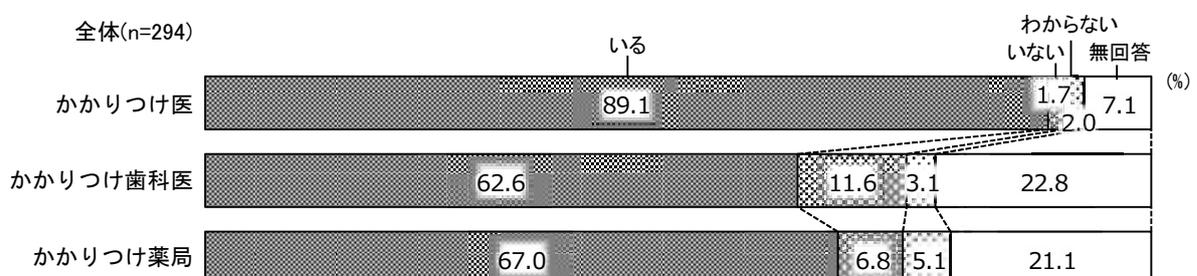
施設サービス利用者のかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無について、「いる」は『かかりつけ医』が83.3%、『かかりつけ歯科医』が68.8%、『かかりつけ薬局』が67.7%となっている。

■かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無（施設サービス利用者）



サービス未利用者のかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無について、「いる」は『かかりつけ医』が89.1%、『かかりつけ歯科医』が62.6%、『かかりつけ薬局』が67.0%となっている。

■かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無（サービス未利用者）



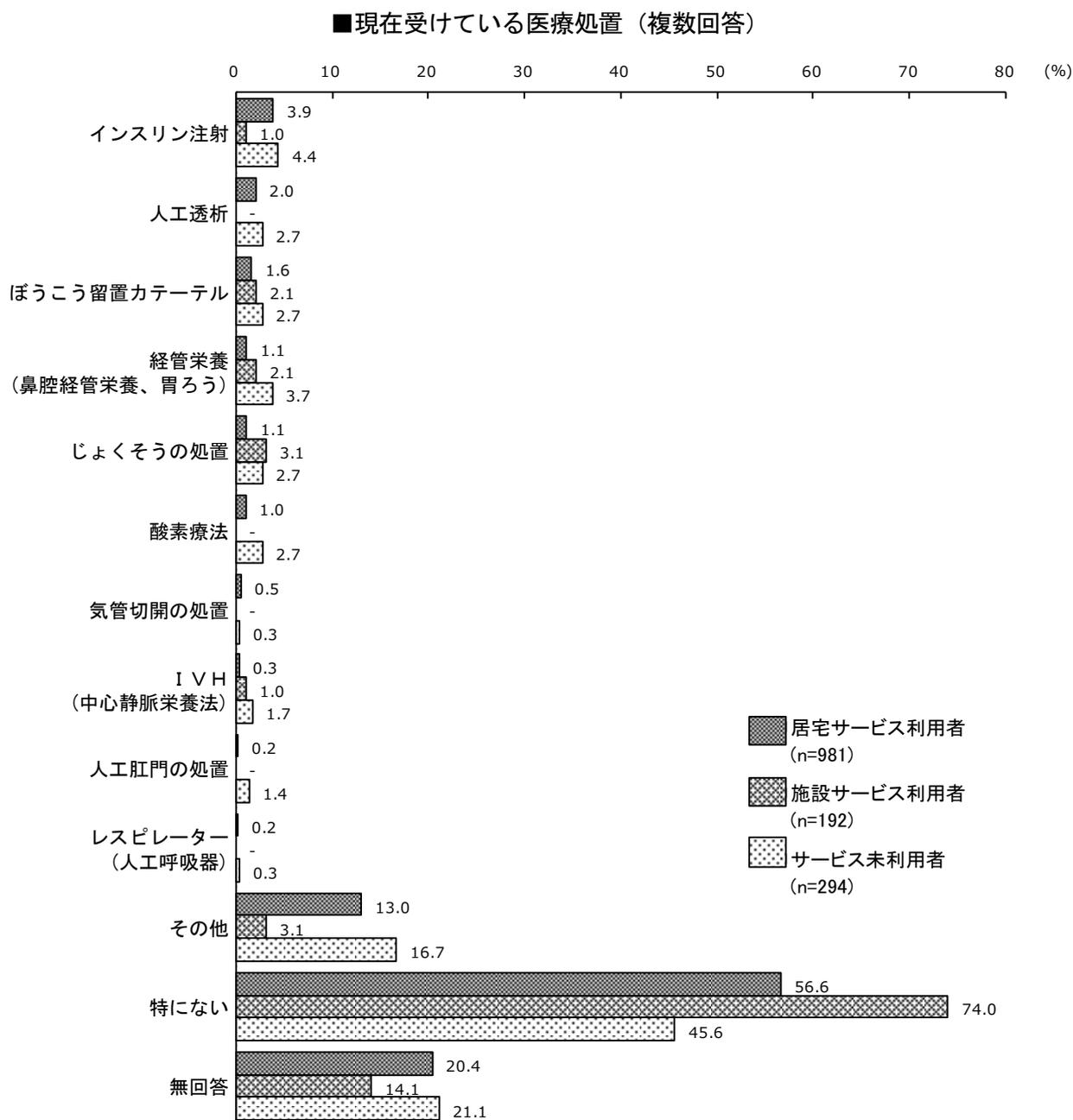
(4) 現在受けている医療処置 (問6)

現在受けている医療処置は、居宅サービス利用者、施設サービス利用者、サービス未利用者のいずれも「特にない」が最も多い。

医療処置の内容では、居宅サービス利用者は「インスリン注射」(3.9%)が最も多く、「人工透析」(2.0%)、「ぼうこう留置カテーテル」(1.6%)と続いている。

施設サービス利用者は、「じょくそうの処置」(3.1%)が最も多く、「ぼうこう留置カテーテル」と「経管栄養(鼻腔経管栄養、胃ろう)」(ともに2.1%)、「インスリン注射」と「IVH(中心静脈栄養法)」(ともに1.0%)と続いている。

サービス未利用者は、「インスリン注射」(4.4%)が最も多く、「経管栄養(鼻腔経管栄養、胃ろう)」(3.7%)、「人工透析」と「ぼうこう留置カテーテル」と「じょくそうの処置」と「酸素療法」(いずれも2.7%)と続いている。



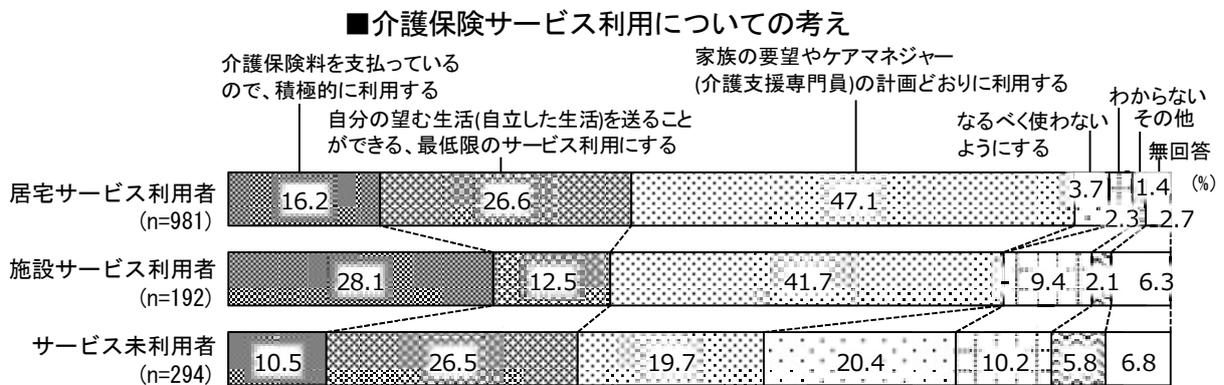
5 介護保険について

(1) 介護保険サービス利用についての考え (問7)

介護保険サービス利用についての考えは、居宅サービス利用者は、「家族の要望やケアマネジャー(介護支援専門員)の計画どおりに利用する」(47.1%)が最も多く、「自分の望む生活(自立した生活)を送ることができる、最低限のサービス利用にする」(26.6%)、「介護保険料を支払っているので、積極的に利用する」(16.2%)と続いている。

施設サービス利用者は、「家族の要望やケアマネジャー(介護支援専門員)の計画どおりに利用する」(41.7%)が最も多く、「介護保険料を支払っているので、積極的に利用する」(28.1%)、「自分の望む生活(自立した生活)を送ることができる、最低限のサービス利用にする」(12.5%)と続いている。

サービス未利用者は、「自分の望む生活(自立した生活)を送ることができる、最低限のサービス利用にする」(26.5%)が最も多く、「なるべく使わないようにする」(20.4%)、「家族の要望やケアマネジャー(介護支援専門員)の計画どおりに利用する」(19.7%)と続いている。



居宅サービス利用者について

性別にみると、女性は「自分の望む生活(自立した生活)を送ることができる、最低限のサービス利用にする」(28.9%)が男性に比べて多くなっている。

要介護度別にみると、要支援者は「自分の望む生活(自立した生活)を送ることができる、最低限のサービス利用にする」(37.3%)、中重度者は「家族の要望やケアマネジャー(介護支援専門員)の計画どおりに利用する」(60.0%)が全体に比べて多くなっている。

■介護保険サービス利用についての考え (居宅サービス利用者)

		介護保険料を支払っている ので、積極的に利用する	自分の望む生活(自立した生活)を送ること ができる、最低限のサービス利用にする	家族の要望やケアマネジャー (介護支援専門員)の計画どおりに利用する	なるべく使わない ようにする	わからない その他	無回答
全体(n=981)		16.2	26.6	47.1	3.7	2.3	1.4
性別	男性(n=316)	15.8	21.8	50.0	5.4	3.2	0.9
	女性(n=653)	16.4	28.9	45.9	2.9	2.0	1.7
要介護度別	要支援者(n=217)	15.2	37.3	35.9	3.7	2.3	2.3
	軽度者(n=485)	16.5	28.0	46.2	3.5	2.3	1.0
	中重度者(n=255)	16.9	14.9	60.0	3.5	2.4	1.2

サービス未利用者について

要介護度別にみると、要支援者は「なるべく使わないようにする」(34.1%)、中重度者は「介護保険料を支払っているのに、積極的に利用する」(18.8%)、「家族の要望やケアマネジャー(介護支援専門員)の計画どおりに利用する」(40.6%)が全体に比べ多くなっている。

■介護保険サービス利用についての考え(サービス未利用者)

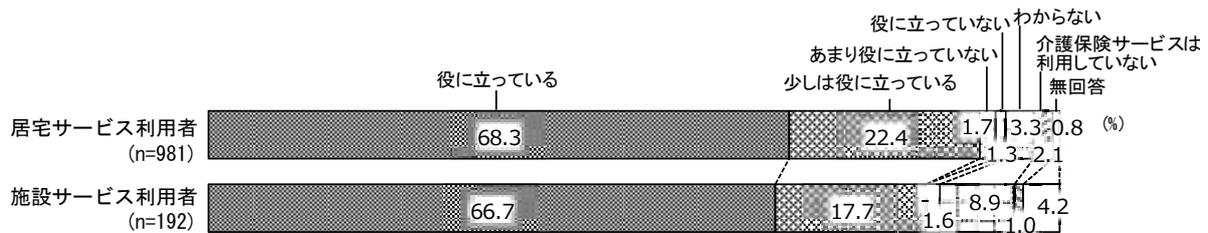
		(%)						
		用い介 する護 の保 で險 、料 積を 極支 的払 につ 利て	サがし自 ーでた分 ビき生の スる活望 利、む 用最を に低送活 す限るへ るのこ自 と立	用員ジ家 すーヤ族 るのーの 計へ要 画介望 ど護や お支ケ り援ア に専マ 利門ネ	にな する るべ く使 わな いよ う	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全体(n=294)		10.5	26.5	19.7	20.4	10.2	5.8	6.8
要介護度別	要支援者(n=123)	5.7	31.7	10.6	34.1	6.5	4.9	6.5
	軽度者(n=87)	11.5	34.5	17.2	13.8	10.3	5.7	6.9
	中重度者(n=64)	18.8	9.4	40.6	7.8	12.5	6.3	4.7

(2) 介護保険サービスは自らが望む生活を送るために役に立っているか (問8)

介護保険サービスは自らが望む生活を送るために役に立っているか聞いたところ、居宅サービス利用者は、「役に立っている」(68.3%)が最も多く、「少しは役に立っている」(22.4%)、「あまり役に立っていない」(1.7%)と続いている。「役に立っている」「少しは役に立っている」を合わせた“役に立っている”は90.7%となっている。

施設サービス利用者は、「役に立っている」(66.7%)が最も多く、「少しは役に立っている」(17.7%)、「役に立っていない」(1.6%)と続いている。“役に立っている”は84.4%となっている。

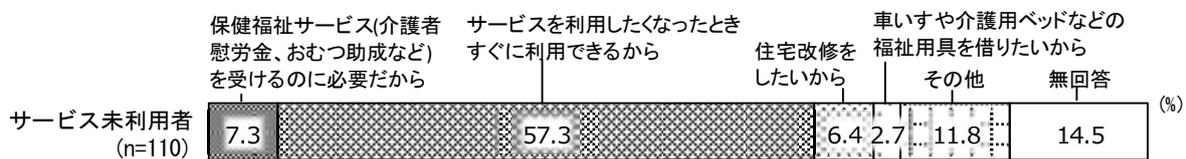
■介護保険サービスは自らが望む生活を送るために役に立っているか



(3) 要介護認定の申請をしようと思った理由 (問8-1)

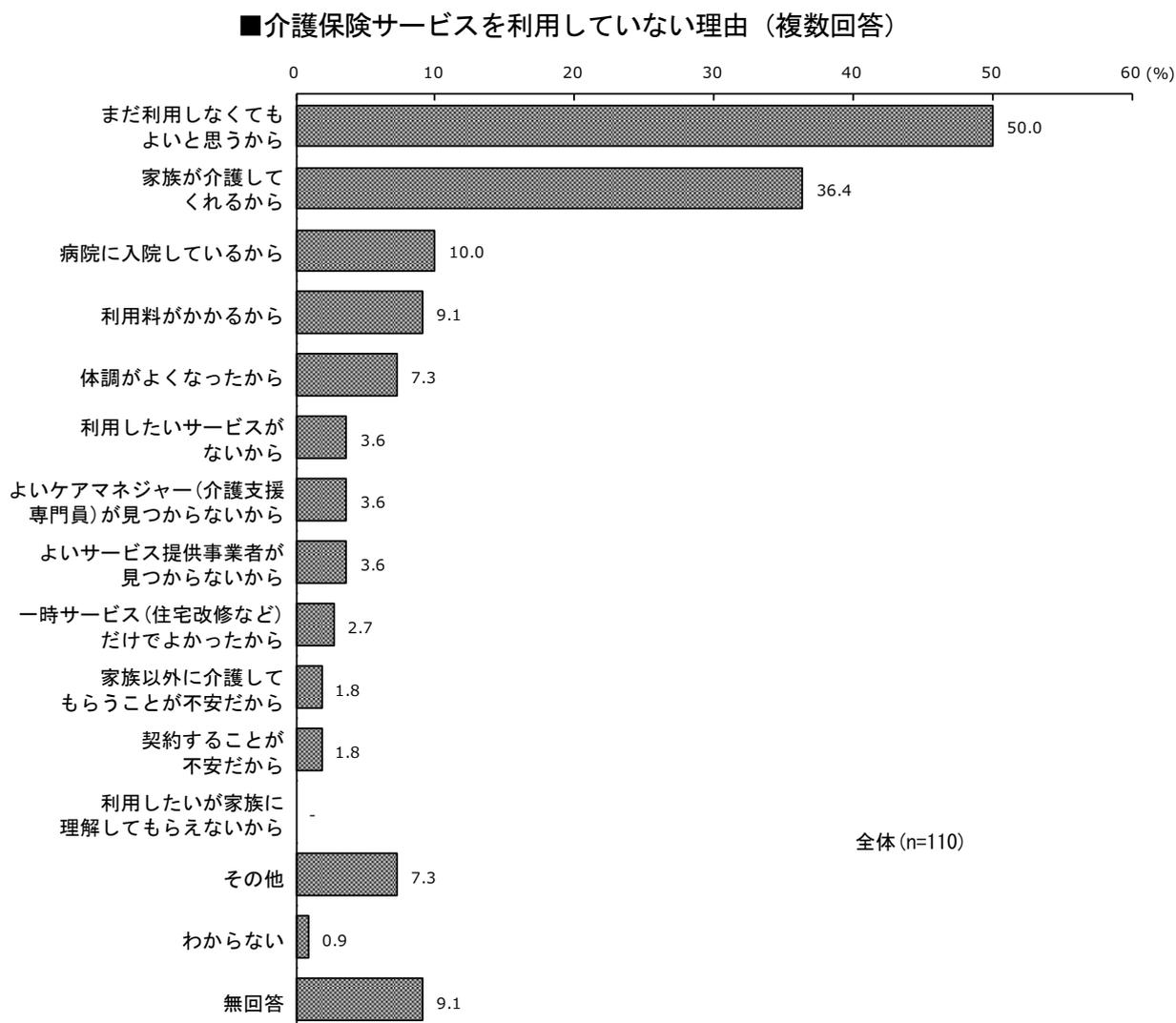
「介護保険サービスは利用していない」と回答した人に要介護認定の申請をしようと思った理由を聞いたところ、「サービスを利用したくなったときすぐに利用できるから」(57.3%)が最も多く、「保健福祉サービス(介護者慰労金、おむつ助成など)を受けるのに必要だから」(7.3%)、「住宅改修をしたいから」(6.4%)と続いている。

■要介護認定の申請をしようと思った理由



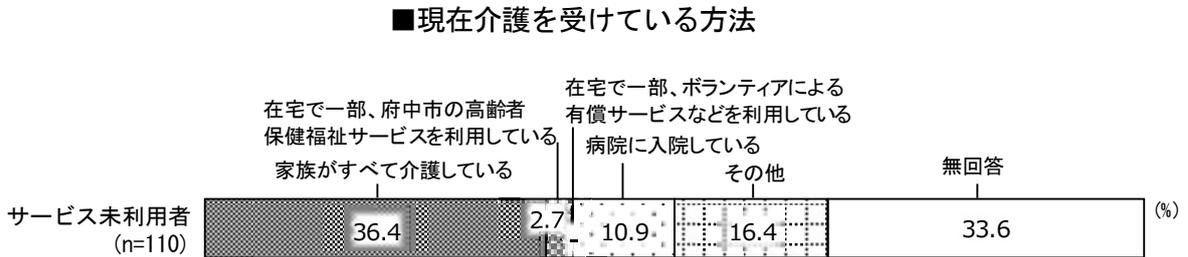
(4) 介護保険サービスを利用していない理由（問8-2）

「介護保険サービスは利用していない」と回答した人に介護保険サービスを利用していない理由を聞いたところ、「まだ利用しなくてもよいと思うから」（50.0%）が最も多く、「家族が介護してくれるから」（36.4%）、「病院に入院しているから」（10.0%）と続いている。



(5) 現在介護を受けている方法 (問8-3)

「介護保険サービスは利用していない」と回答した人に現在介護を受けている方法を聞いたところ、「家族がすべて介護している」(36.4%)が最も多く、「病院に入院している」(10.9%)、「在宅で一部、府中市の高齢者保健福祉サービスを利用している」(2.7%)と続いている。

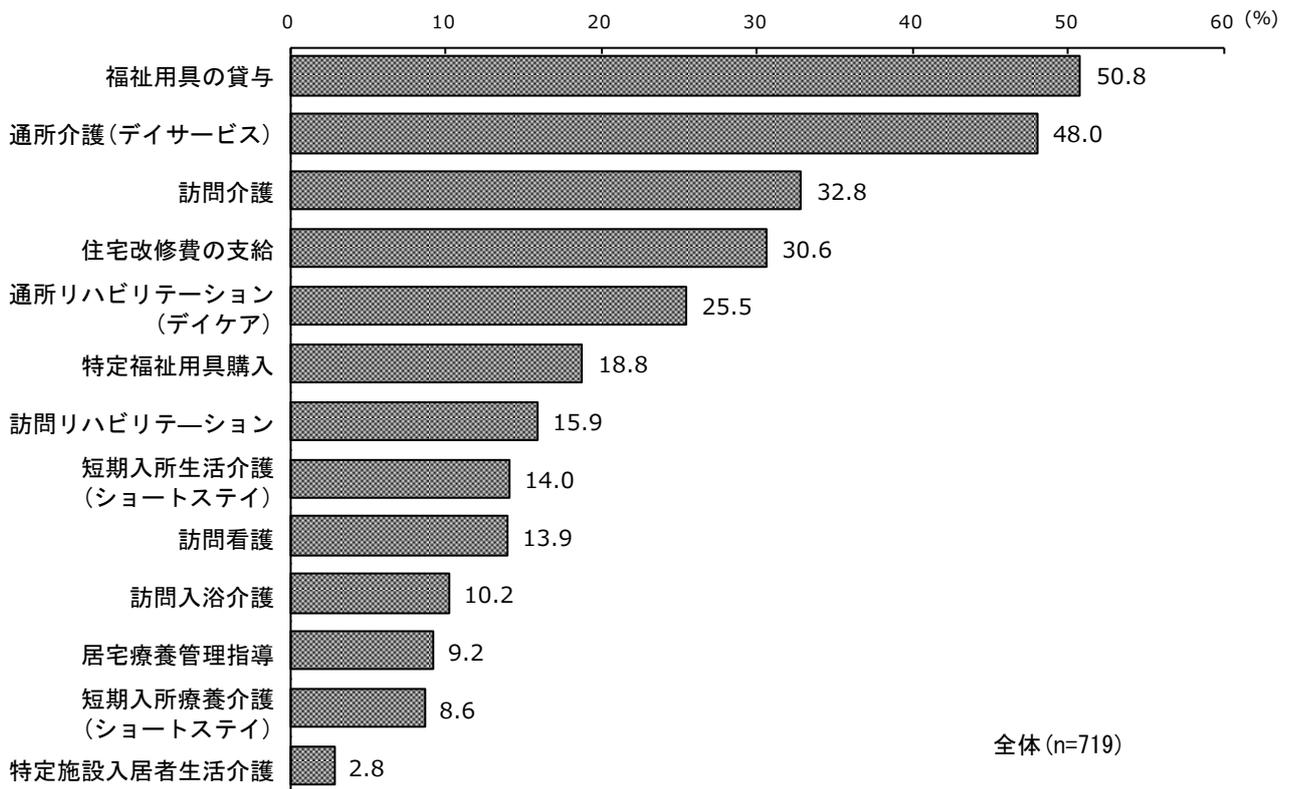


(6) 介護保険サービスの利用状況、満足度 (問9)

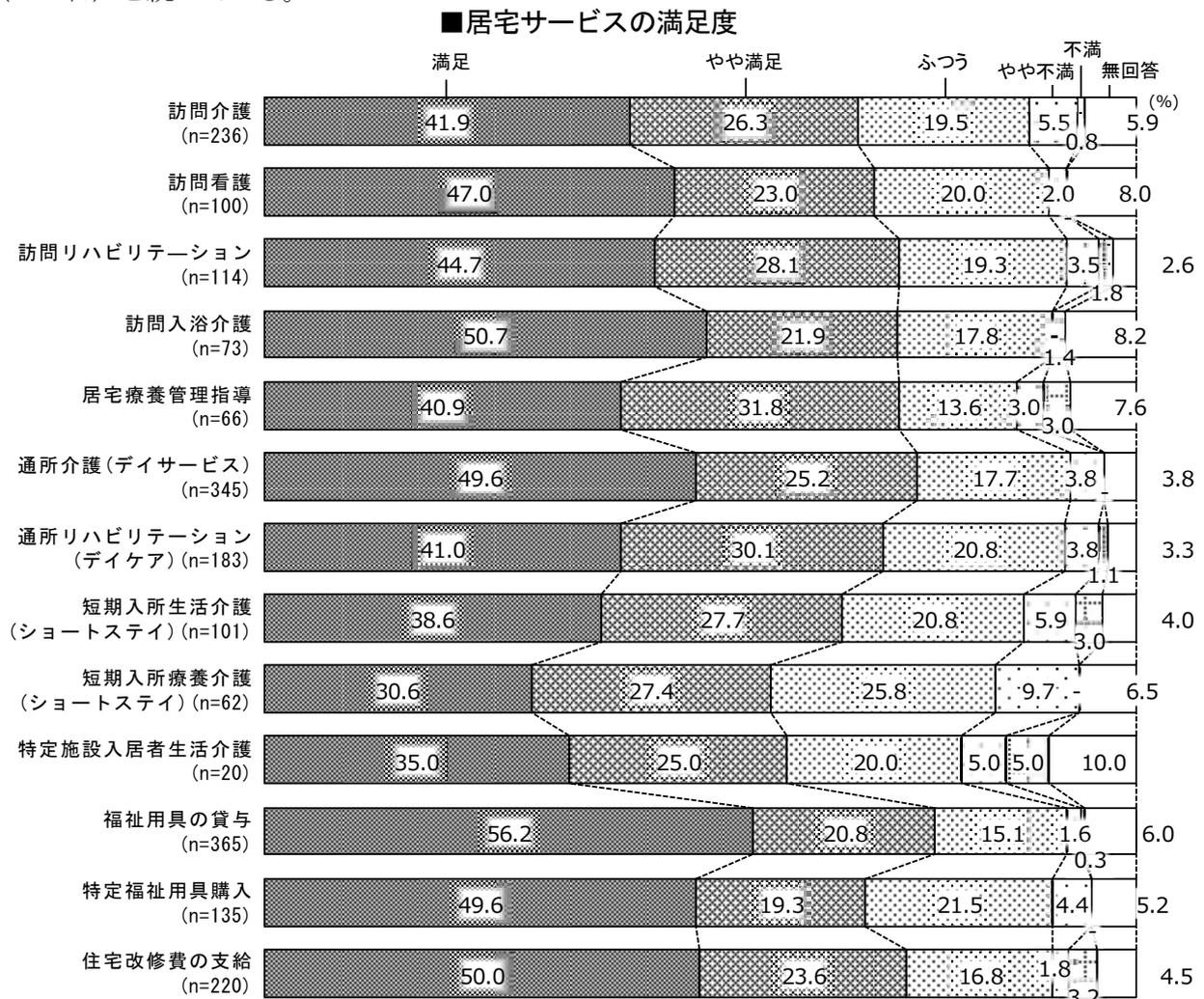
居宅サービスの利用状況、満足度

居宅サービスの利用状況は「福祉用具の貸与」(50.8%)が最も多く、「通所介護(デイサービス)」(48.0%)、「訪問介護」(32.8%)と続いている。

■居宅サービスの利用状況 (複数回答) (※いずれかの居宅サービスを利用している人のみ集計)

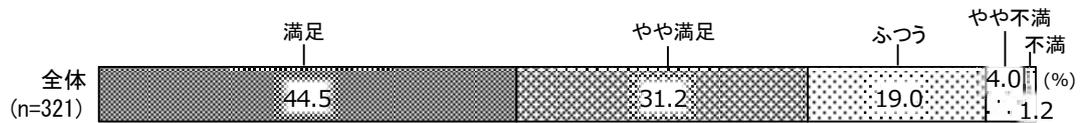


居宅サービスの満足度について、「満足」「やや満足」を合わせた“満足”は、『福祉用具の貸与』（77.0%）が最も多く、『通所介護（デイサービス）』（74.8%）、『住宅改修費の支給』（73.6%）と続いている。



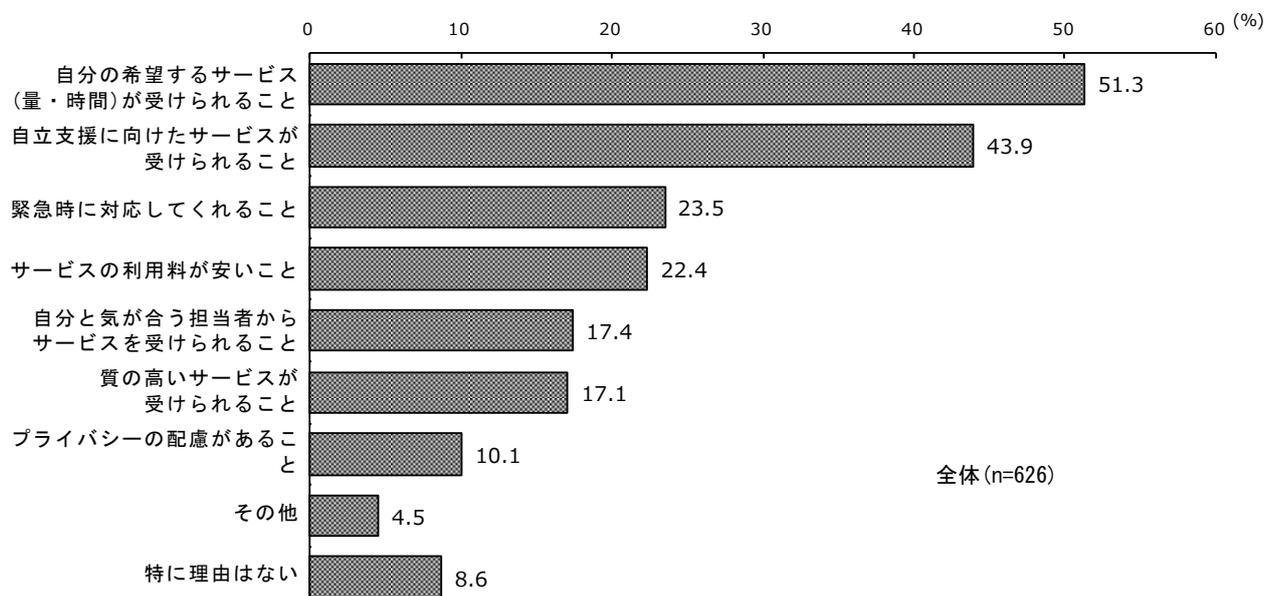
居宅サービス全体の総合的な満足度は、「満足」(44.5%)が最も多く、「やや満足」(31.2%)、「ふつう」(19.0%)と続いている。「満足」は75.7%となっている。

■居宅サービス全体の総合的な満足度(※総合的な満足度を回答した人のみ集計)



居宅サービス全体の総合的な満足度の回答基準は、「自分の希望するサービス(量・時間)が受けられること」(51.3%)が最も多く、「自立支援に向けたサービスが受けられること」(43.9%)、「緊急時に対応してくれること」(23.5%)と続いている。

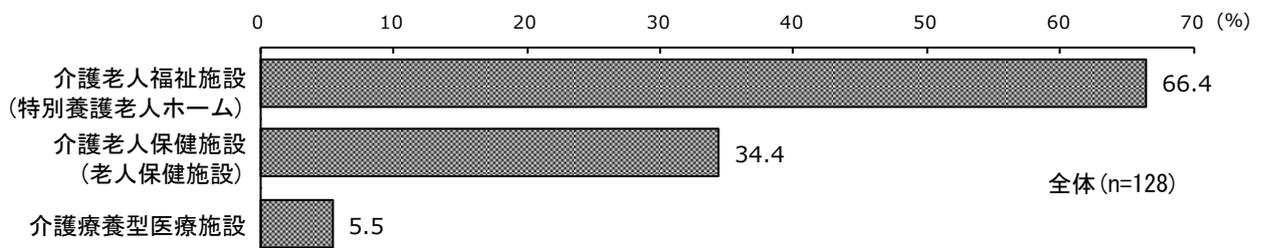
■居宅サービス全体の総合的な満足度の基準(複数回答)(※基準を回答した人のみ集計)



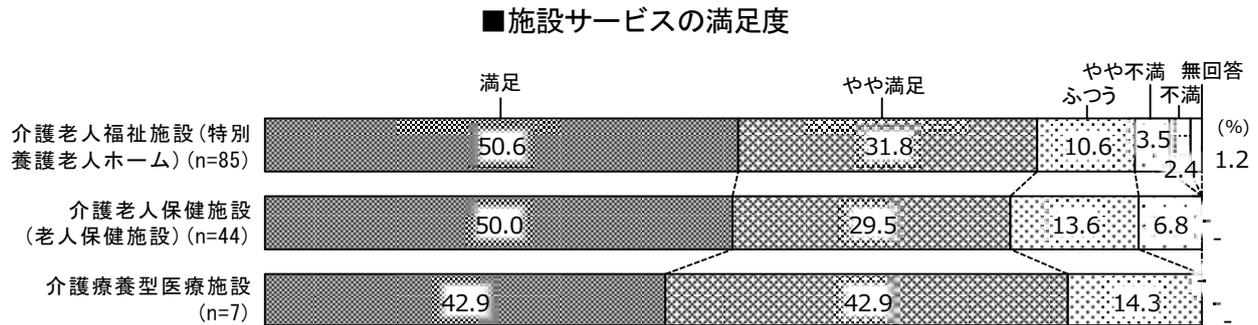
施設サービスの利用状況、満足度

施設サービスの利用状況は、「介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)」(66.4%)が最も多く、「介護老人保健施設(老人保健施設)」(34.4%)、「介護療養型医療施設」(5.5%)と続いている。

■施設サービスの利用状況(複数回答)(※いずれかの施設サービスを利用している人のみ集計)



施設サービスの満足度について、“満足”は、『介護療養型医療施設』（85.8%）が最も多く、『介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）』（82.4%）、『介護老人保健施設（老人保健施設）』（79.5%）と続いている。



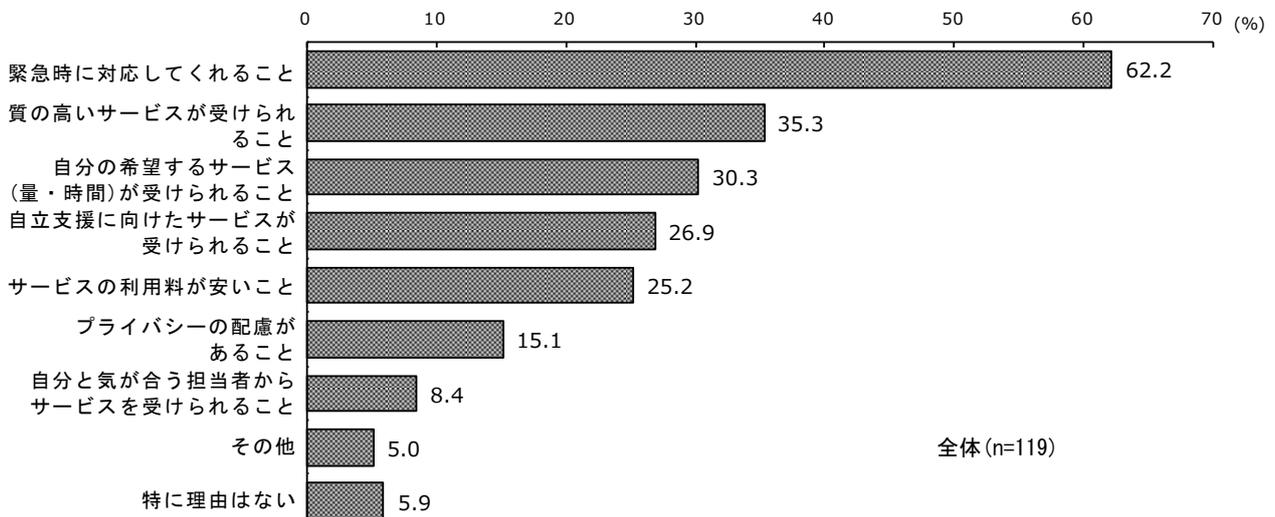
施設サービス全体の総合的な満足度は、「満足」（48.6%）が最も多く、「やや満足」（32.4%）、「やや不満」（10.8%）と続いている。“満足”は81.0%となっている。

■施設サービス全体の総合的な満足度（※総合的な満足度を回答した人のみ集計）



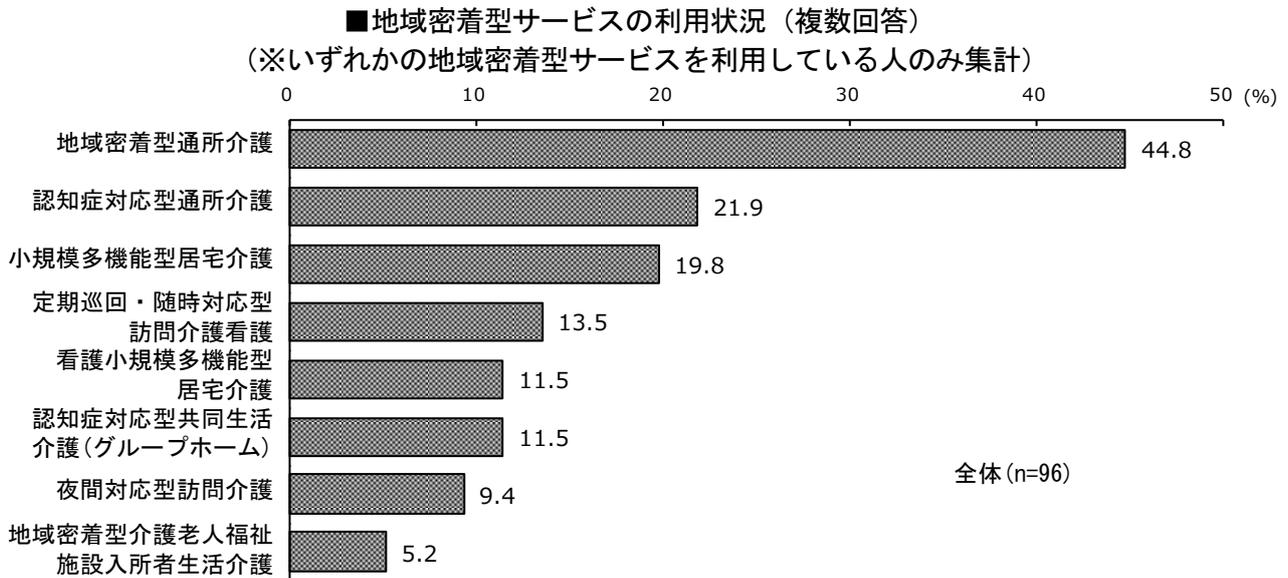
施設サービス全体の総合的な満足度の回答基準は、「緊急時に対応してくれること」（62.2%）が最も多く、「質の高いサービスが受けられること」（35.3%）、「自分の希望するサービス（量・時間）が受けられること」（30.3%）と続いている。

■施設サービス全体の総合的な満足度の基準（複数回答）（※基準を回答した人のみ集計）

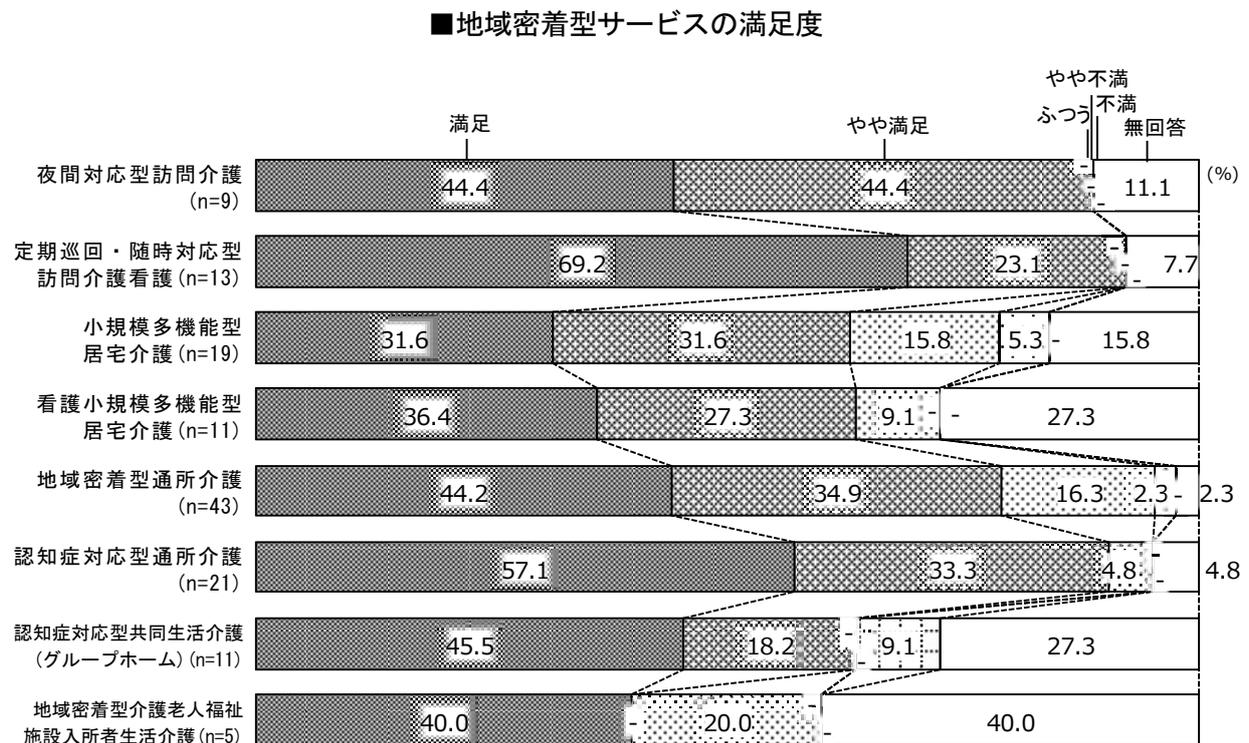


地域密着型サービスの利用状況、満足度

地域密着型サービスの利用状況は、「地域密着型通所介護」（44.8%）が最も多く、「認知症対応型通所介護」（21.9%）、「小規模多機能型居宅介護」（19.8%）と続いている。

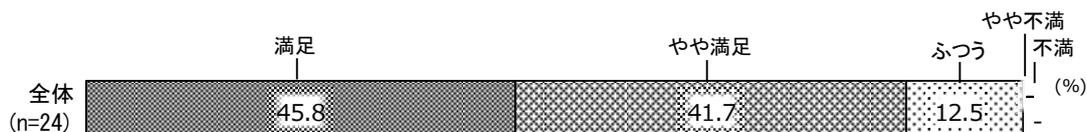


地域密着型サービスの満足度について、「満足」は、『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』（92.3%）が最も多く、『認知症対応型通所介護』（90.4%）、『夜間対応型訪問介護』（88.8%）と続いている。



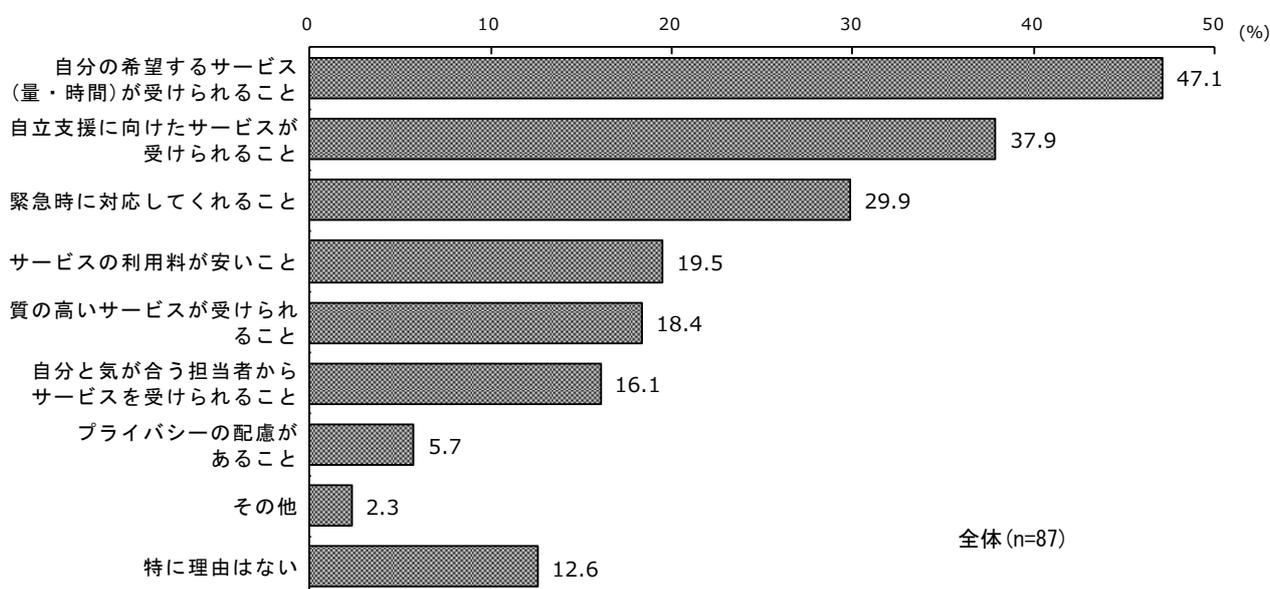
地域密着型サービス全体の総合的な満足度は、「満足」(45.8%)が最も多く、「やや満足」(41.7%)、「ふつう」(12.5%)と続いている。「満足」は87.5%となっている。

■地域密着型サービス全体の総合的な満足度 (※総合的な満足度を回答した人のみ集計)



地域密着型サービス全体の総合的な満足度の回答基準は、「自分の希望するサービス(量・時間)が受けられること」(47.1%)が最も多く、「自立支援に向けたサービスが受けられること」(37.9%)、「緊急時に対応してくれること」(29.9%)と続いている。

■地域密着型サービス全体の総合的な満足度の基準 (複数回答) (※基準を回答した人のみ集計)



(7) 自らが望む生活を送るために今後利用したい介護サービス (問 10)

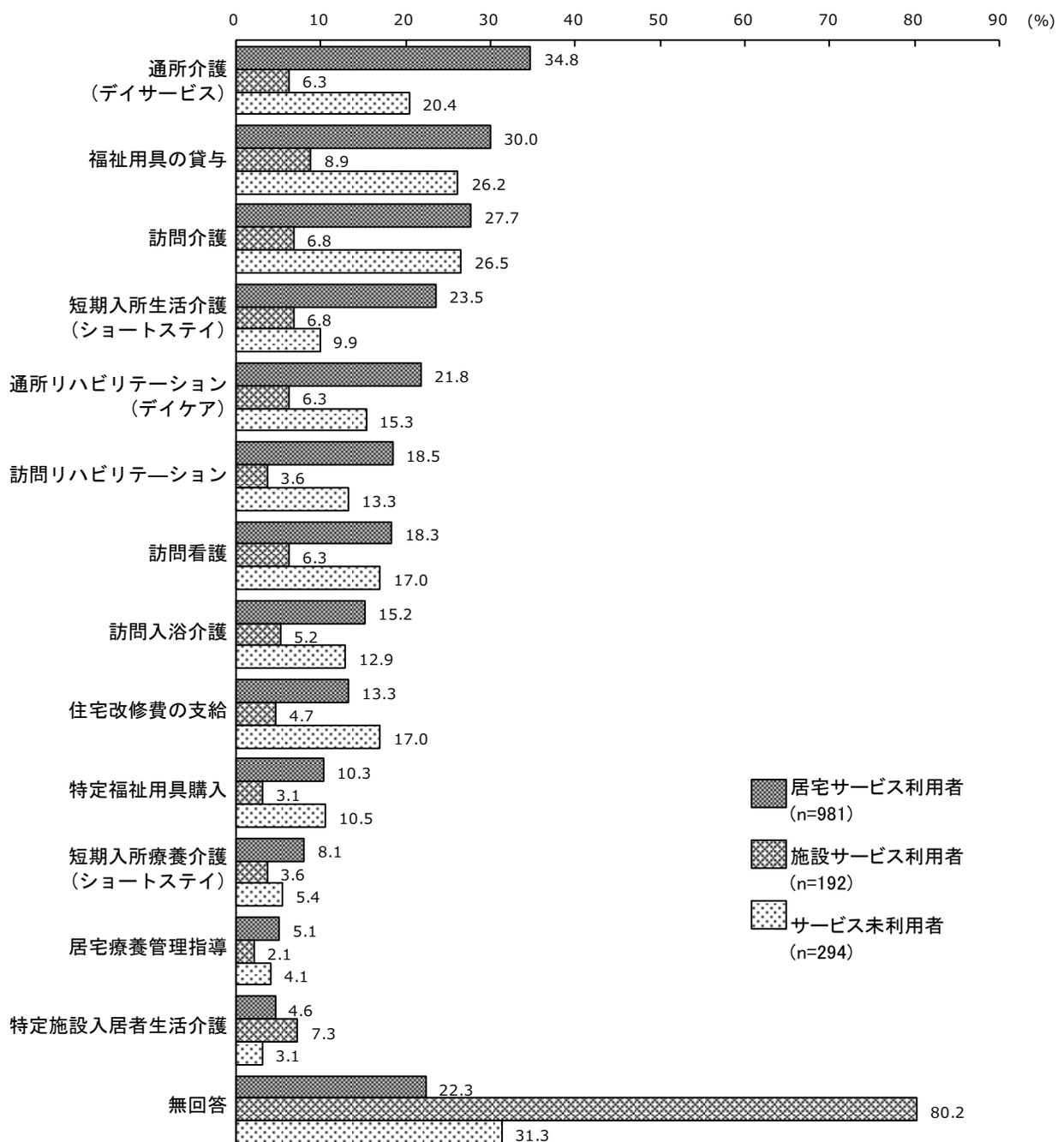
自らが望む生活を送るために今後利用したい居宅サービス

自らが望む生活を送るために今後利用したい居宅サービスは、居宅サービス利用者は、「通所介護(デイサービス)」(34.8%)が最も多く、「福祉用具の貸与」(30.0%)、「訪問介護」(27.7%)と続いている。

施設サービス利用者は、「福祉用具の貸与」(8.9%)が最も多く、「特定施設入居者生活介護」(7.3%)、「訪問介護」と「短期入所生活介護(ショートステイ)」(ともに6.8%)と続いている。

サービス未利用者は、「訪問介護」(26.5%)が最も多く、「福祉用具の貸与」(26.2%)、「通所介護(デイサービス)」(20.4%)と続いている。

■自らが望む生活を送るために今後利用したい介護サービス (居宅サービス) (複数回答)



居宅サービス利用者について

要介護度別にみると、中重度者はいずれの介護サービスも全体に比べ多くなっている。

地区別にみると、第2地区は「福祉用具の貸与」（38.6%）、「訪問介護」（34.5%）が全体に比べ多くなっている。

■自らが望む生活を送るために今後利用したい介護サービス（居宅サービス）（複数回答） （居宅サービス利用者）

		(%)													
		通所介護（デイサービス）	福祉用具の貸与	訪問介護	短期入所生活介護（ショートステイ）	通所リハビリテーション（デイケア）	訪問リハビリテーション	訪問看護	訪問入浴介護	住宅改修費の支給	特定福祉用具購入	短期入所療養介護（ショートステイ）	居宅療養管理指導	介護特定施設入居者生活	無回答
全体(n=981)		34.8	30.0	27.7	23.5	21.8	18.5	18.3	15.2	13.3	10.3	8.1	5.1	4.6	22.3
要介護度別	要支援者(n=217)	28.6	22.6	28.6	10.6	20.7	14.3	13.4	9.7	11.5	8.8	4.6	6.5	5.5	27.6
	軽度者(n=485)	35.3	27.4	24.7	24.1	20.8	16.5	16.9	14.0	10.9	8.2	8.7	3.7	3.5	21.0
	中重度者(n=255)	40.0	42.0	33.7	35.3	24.3	26.7	26.3	23.5	20.0	16.5	10.6	6.3	6.3	18.4
地区別	第1地区(n=173)	39.9	32.4	27.7	26.0	19.1	18.5	19.1	17.3	16.2	11.0	10.4	4.0	3.5	18.5
	第2地区(n=171)	36.3	38.6	34.5	20.5	27.5	22.8	22.8	20.5	13.5	14.6	5.8	6.4	5.8	20.5
	第3地区(n=194)	29.4	32.0	28.9	27.3	19.6	14.9	18.0	14.4	12.9	11.3	7.7	4.6	2.1	21.6
	第4地区(n=127)	30.7	26.0	27.6	21.3	22.0	20.5	22.0	15.0	9.4	5.5	6.3	3.1	3.9	26.8
	第5地区(n=142)	33.1	26.1	23.9	21.8	21.8	21.1	16.2	11.3	12.0	7.7	8.5	7.0	4.9	21.1
	第6地区(n=141)	41.8	28.4	23.4	26.2	24.1	15.6	12.8	12.8	15.6	12.1	11.3	5.7	7.8	21.3

サービス未利用者について

性別にみると、女性は「福祉用具の貸与」（31.4%）、「短期入所療養介護（ショートステイ）」（8.0%）が男性に比べ多くなっている。

要介護度別にみると、中重度者はほとんどの介護サービスが全体に比べ多くなっている。

■自らが望む生活を送るために今後利用したい介護サービス（居宅サービス）（複数回答） （サービス未利用者）

		(%)													
		通所介護（デイサービス）	福祉用具の貸与	訪問介護	短期入所生活介護（ショートステイ）	通所リハビリテーション（デイケア）	訪問リハビリテーション	訪問看護	訪問入浴介護	住宅改修費の支給	特定福祉用具購入	短期入所療養介護（ショートステイ）	居宅療養管理指導	介護特定施設入居者生活	無回答
全体(n=294)		20.4	26.2	26.5	9.9	15.3	13.3	17.0	12.9	17.0	10.5	5.4	4.1	3.1	31.3
性別	男性(n=116)	19.0	18.1	24.1	6.9	11.2	11.2	20.7	11.2	13.8	6.9	1.7	3.4	3.4	33.6
	女性(n=175)	21.7	31.4	28.6	11.4	18.3	14.9	14.9	14.3	18.9	13.1	8.0	4.0	2.9	29.7
要介護度別	要支援者(n=123)	16.3	22.8	27.6	4.9	13.8	8.1	13.0	10.6	17.1	8.1	3.3	3.3	2.4	30.1
	軽度者(n=87)	21.8	32.2	28.7	10.3	13.8	17.2	19.5	13.8	12.6	10.3	2.3	1.1	2.3	25.3
	中重度者(n=64)	26.6	29.7	26.6	18.8	18.8	21.9	25.0	18.8	25.0	17.2	12.5	10.9	4.7	35.9

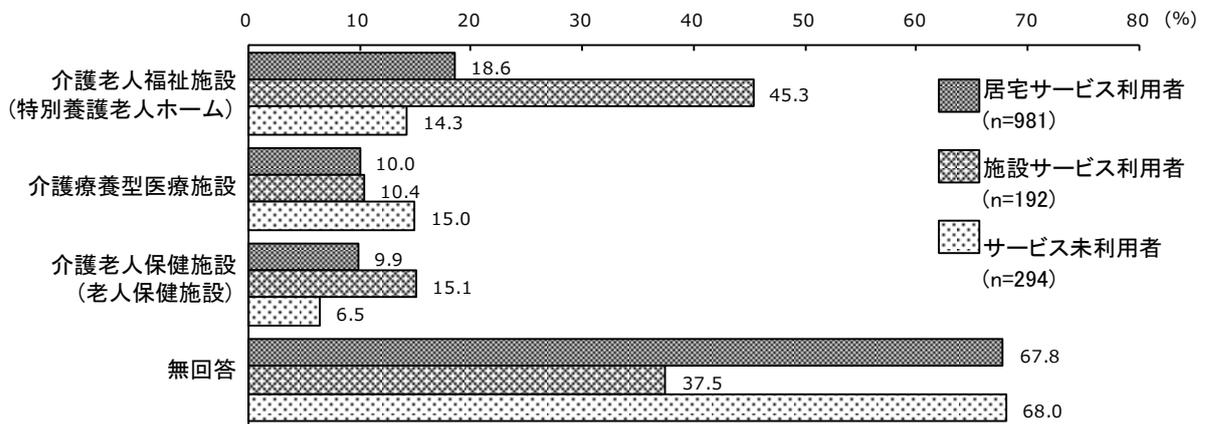
自らが望む生活を送るために今後利用したい施設サービス

自らが望む生活を送るために今後利用したい施設サービスは、居宅サービス利用者は「介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)」(18.6%)が最も多く、「介護療養型医療施設」(10.0%)、「介護老人保健施設(老人保健施設)」(9.9%)と続いている。

施設サービス利用者は、「介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)」(45.3%)が最も多く、「介護老人保健施設(老人保健施設)」(15.1%)、「介護療養型医療施設」(10.4%)と続いている。

サービス未利用者は、「介護療養型医療施設」(15.0%)が最も多く、「介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)」(14.3%)、「介護老人保健施設(老人保健施設)」(6.5%)と続いている。

■自らが望む生活を送るために今後利用したい介護サービス（施設サービス）（複数回答）



居宅サービス利用者について

性別にみると、男性は「介護老人保健施設(老人保健施設)」(13.3%)が女性に比べ多くなっている。

要介護度別にみると、中重度者は「介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)」(29.4%)が全体に比べ多くなっている。

■自らが望む生活を送るために今後利用したい介護サービス（施設サービス）（複数回答）
（居宅サービス利用者）

		介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	介護療養型医療施設	介護老人保健施設(老人保健施設)	無回答
全体(n=981)		18.6	10.0	9.9	67.8
性別	男性(n=316)	16.8	11.1	13.3	66.1
	女性(n=653)	19.6	9.6	8.4	68.1
要介護度別	要支援者(n=217)	13.4	12.4	10.6	70.0
	軽度者(n=485)	15.7	9.3	8.2	72.8
	中重度者(n=255)	29.4	9.8	13.3	54.5

サービス未利用者について

要介護度別にみると、中重度者は「介護療養型医療施設」(25.0%)が全体に比べ多くなっている。

■自らが望む生活を送るために今後利用したい介護サービス（施設サービス）（複数回答）
（サービス未利用者）

		介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	介護療養型医療施設	介護老人保健施設(老人保健施設)	無回答
全体(n=294)		14.3	15.0	6.5	68.0
要介護度別	要支援者(n=123)	13.8	14.6	7.3	65.9
	軽度者(n=87)	13.8	10.3	5.7	75.9
	中重度者(n=64)	15.6	25.0	7.8	57.8

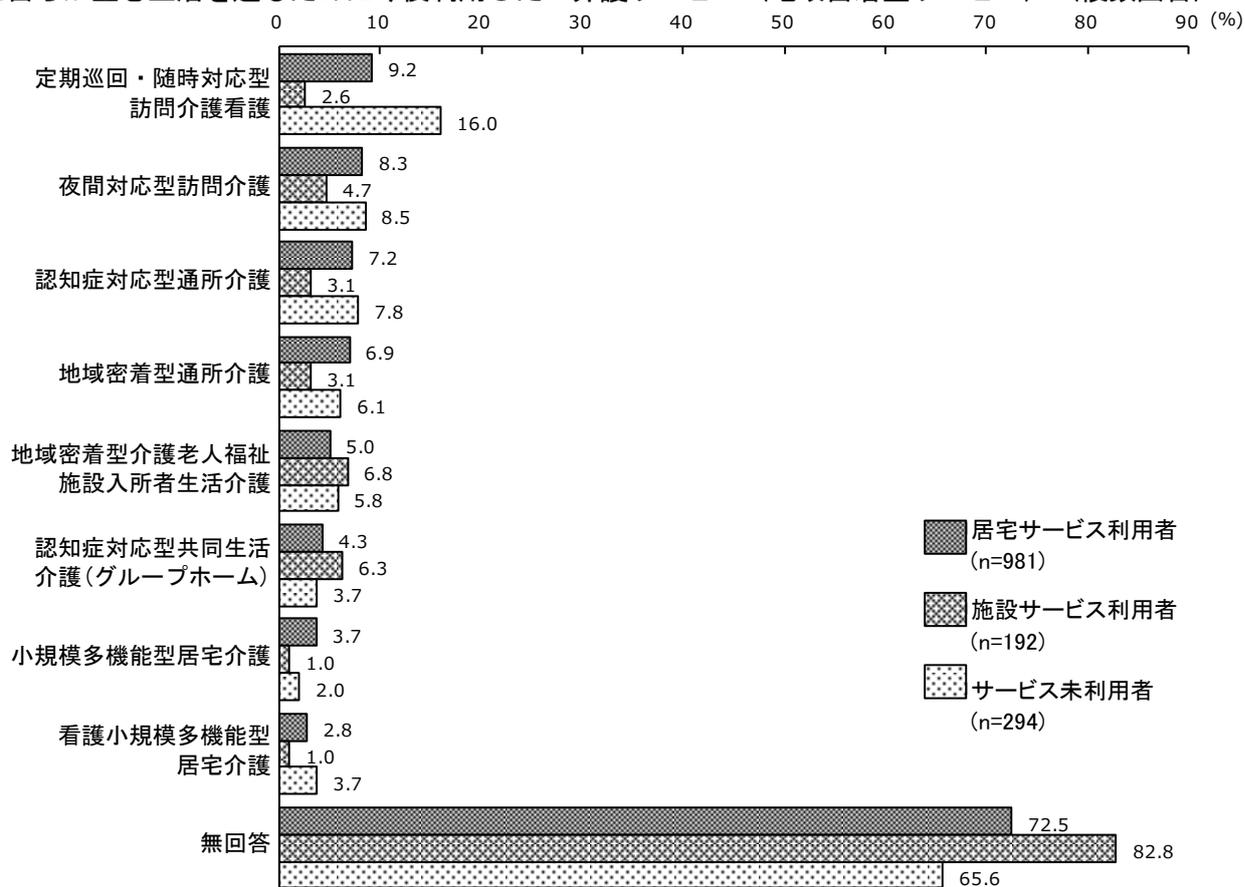
自らが望む生活を送るために今後利用したい地域密着型サービス

自らが望む生活を送るために今後利用したい地域密着型サービスは、居宅サービス利用者は「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(9.2%)が最も多く、「夜間対応型訪問介護」(8.3%)、「認知症対応型通所介護」(7.2%)と続いている。

施設サービス利用者は、「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護」(6.8%)が最も多く、「認知症対応型共同生活介護(グループホーム)」(6.3%)、「夜間対応型訪問介護」(4.7%)と続いている。

サービス未利用者は、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(16.0%)が最も多く、「夜間対応型訪問介護」(8.5%)、「認知症対応型通所介護」(7.8%)と続いている。

■自らが望む生活を送るために今後利用したい介護サービス(地域密着型サービス)(複数回答)



居宅サービス利用者について

要介護度別にみると、要支援者は「地域密着型通所介護」（10.6%）、中重度者は「認知症対応型通所介護」（10.6%）、「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）」（7.5%）が全体に比べ多くなっている。

地区別にみると、第4地区は「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護」（9.4%）が全体に比べ多くなっている。

■自らが望む生活を送るために今後利用したい介護サービス（地域密着型サービス）（複数回答）
（居宅サービス利用者）

		介時定期 看護対応 巡回型 訪問・問	問夜 介間 護対 応型 訪	通認 所知 介症 護対 応型	所地 介域 護密 着型 通	介設 護入 所老 者密 生祉 活施 介	ホー ム グ ル ー プ 介 護	共 同 生 活 対 応 型	認 知 症 対 応 型	型小 居規 宅模 介多 機能	護機 能 型小 居規 宅模 介多	無 回 答
全体(n=981)		9.2	8.3	7.2	6.9	5.0	4.3	3.7	2.8	72.5		
要介護度別	要支援者(n=217)	11.1	9.2	6.0	10.6	5.5	3.7	2.8	3.7	70.0		
	軽度者(n=485)	9.1	7.4	6.4	4.5	4.9	3.1	3.5	2.1	74.2		
	中重度者(n=255)	8.2	9.8	10.6	8.6	4.7	7.5	4.7	3.5	69.8		
地区別	第1地区(n=173)	10.4	9.8	11.0	6.4	3.5	4.6	4.6	4.0	68.8		
	第2地区(n=171)	9.9	8.2	4.7	7.6	2.3	4.1	3.5	1.2	76.0		
	第3地区(n=194)	6.7	5.2	5.2	5.7	5.2	4.1	2.6	3.1	77.3		
	第4地区(n=127)	11.8	11.0	5.5	10.2	9.4	4.7	3.9	1.6	66.9		
	第5地区(n=142)	7.0	4.2	8.5	4.2	4.9	4.2	2.8	2.1	75.4		
	第6地区(n=141)	11.3	12.1	9.9	8.5	5.0	4.3	5.7	4.3	66.7		

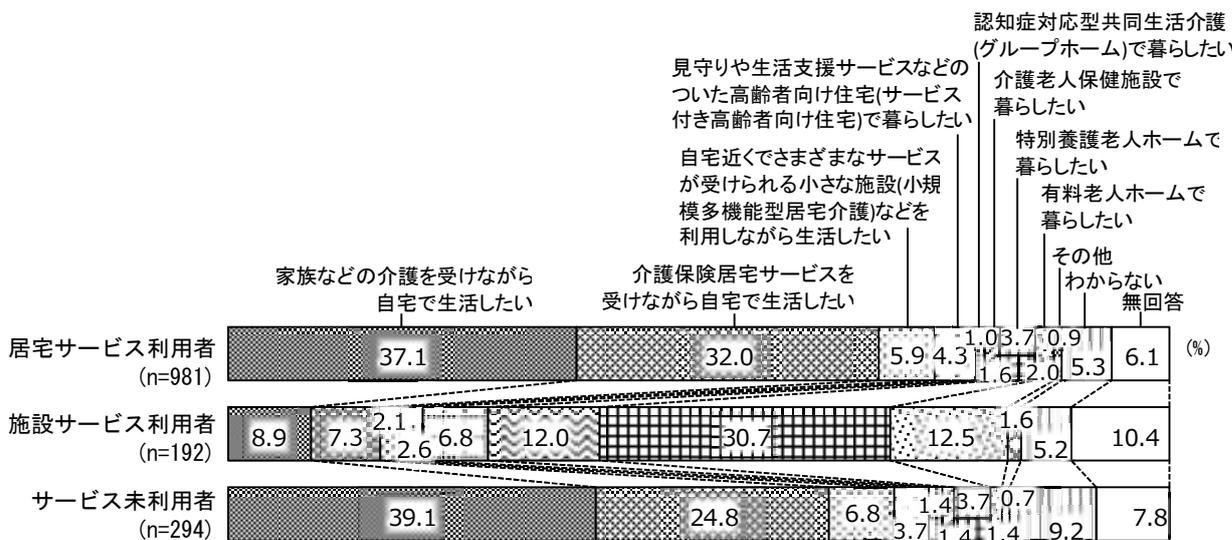
(8) 今後生活したいところ (問11)

今後生活したいところは、居宅サービス利用者は「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」(37.1%)が最も多く、「介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活したい」(32.0%)、「自宅近くでさまざまなサービスが受けられる小さな施設(小規模多機能型居宅介護)などを利用しながら生活したい」(5.9%)と続いている。

施設サービス利用者は、「特別養護老人ホームで暮らしたい」(30.7%)が最も多く、「有料老人ホームで暮らしたい」(12.5%)、「介護老人保健施設で暮らしたい」(12.0%)と続いている。

サービス未利用者は、「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」(39.1%)が最も多く、「介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活したい」(24.8%)、「自宅近くでさまざまなサービスが受けられる小さな施設(小規模多機能型居宅介護)などを利用しながら生活したい」(6.8%)と続いている。

■今後生活したいところ



居宅サービス利用者について

年齢別にみると、75歳以上は「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」（38.3%）が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「見守りや生活支援サービスなどのついた高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅）で暮らしたい」（8.8%）が75歳以上に比べ多くなっている。

要介護度別にみると、要支援者は「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」（27.6%）、「見守りや生活支援サービスなどのついた高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅）で暮らしたい」（8.3%）、中重度者は「特別養護老人ホームで暮らしたい」（6.7%）が全体に比べ多くなっている。

地区別にみると、第6地区は「介護老人保健施設で暮らしたい」（4.3%）が全体に比べ多くなっている。

■今後生活したいところ（居宅サービス利用者）

		が家族などの介護を受けながら自宅で生活したい	介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活したい	介護保険居宅サービスを受けながら生活したい	型居宅介護（小規模多機能型）を利用したい	自宅近くでさまざまなサービスが受けられる小規模多機能型居宅介護（小規模多機能型）を利用したい	見守りや生活支援サービスなどのついた高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅）で暮らしたい	暮らしたい	認知症対応型共同生活介護（グループホーム）で暮らしたい	介護老人保健施設で暮らしたい	特別養護老人ホームで暮らしたい	有料老人ホームで暮らしたい	その他	わからない	無回答
全体(n=981)		37.1	32.0	5.9	4.3	1.0	1.6	3.7	2.0	0.9	5.3	6.1			
年齢別	75歳以上(n=905)	38.3	31.8	5.7	4.3	1.0	1.4	3.8	2.2	1.0	4.9	6.0			
	65～74歳(n=68)	25.0	35.3	7.4	8.8	1.5	4.4	2.9	-	0.0	10.3	4.4			
要介護度別	要支援者(n=217)	27.6	36.9	7.8	8.3	-	1.8	2.3	0.5	0.9	5.5	8.3			
	軽度者(n=485)	39.2	30.5	6.0	3.9	1.0	2.3	2.9	2.3	0.6	6.0	5.4			
	中重度者(n=255)	41.2	31.8	3.9	2.0	2.0	0.4	6.7	2.7	1.2	3.5	4.7			
地区別	第1地区(n=173)	37.0	35.8	5.8	1.7	1.7	1.2	3.5	2.9	-	4.6	5.8			
	第2地区(n=171)	39.8	32.7	7.0	4.1	0.6	-	1.8	2.9	1.2	3.5	6.4			
	第3地区(n=194)	42.3	32.5	6.7	3.6	0.5	0.5	4.1	1.0	1.0	5.2	2.6			
	第4地区(n=127)	38.6	24.4	9.4	4.7	2.4	2.4	0.8	-	1.6	6.3	9.4			
	第5地区(n=142)	33.1	37.3	1.4	5.6	-	2.1	6.3	2.1	-	5.6	6.3			
	第6地区(n=141)	34.8	31.2	4.3	7.1	1.4	4.3	4.3	1.4	1.4	5.0	5.0			

サービス未利用者について

要介護度別にみると、要支援者は「見守りや生活支援サービスなどのついた高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅）で暮らしたい」（7.3%）、軽度者は「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」（51.7%）が全体に比べ多くなっている。

■今後生活したいところ（サービス未利用者）

		が家族などの介護を受けながら自宅で生活したい	介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活したい	介護保険居宅サービスを受けながら生活したい	型居宅介護（小規模多機能型）を利用したい	自宅近くでさまざまなサービスが受けられる小規模多機能型居宅介護（小規模多機能型）を利用したい	見守りや生活支援サービスなどのついた高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅）で暮らしたい	暮らしたい	認知症対応型共同生活介護（グループホーム）で暮らしたい	介護老人保健施設で暮らしたい	特別養護老人ホームで暮らしたい	有料老人ホームで暮らしたい	その他	わからない	無回答
全体(n=294)		39.1	24.8	6.8	3.7	1.4	1.4	3.7	1.4	0.7	9.2	7.8			
要介護度別	要支援者(n=123)	31.7	30.1	7.3	7.3	0.8	3.3	2.4	2.4	0.8	4.9	8.9			
	軽度者(n=87)	51.7	25.3	6.9	1.1	2.3	-	1.1	-	-	8.0	3.4			
	中重度者(n=64)	39.1	18.8	6.3	-	1.6	-	7.8	-	1.6	14.1	10.9			

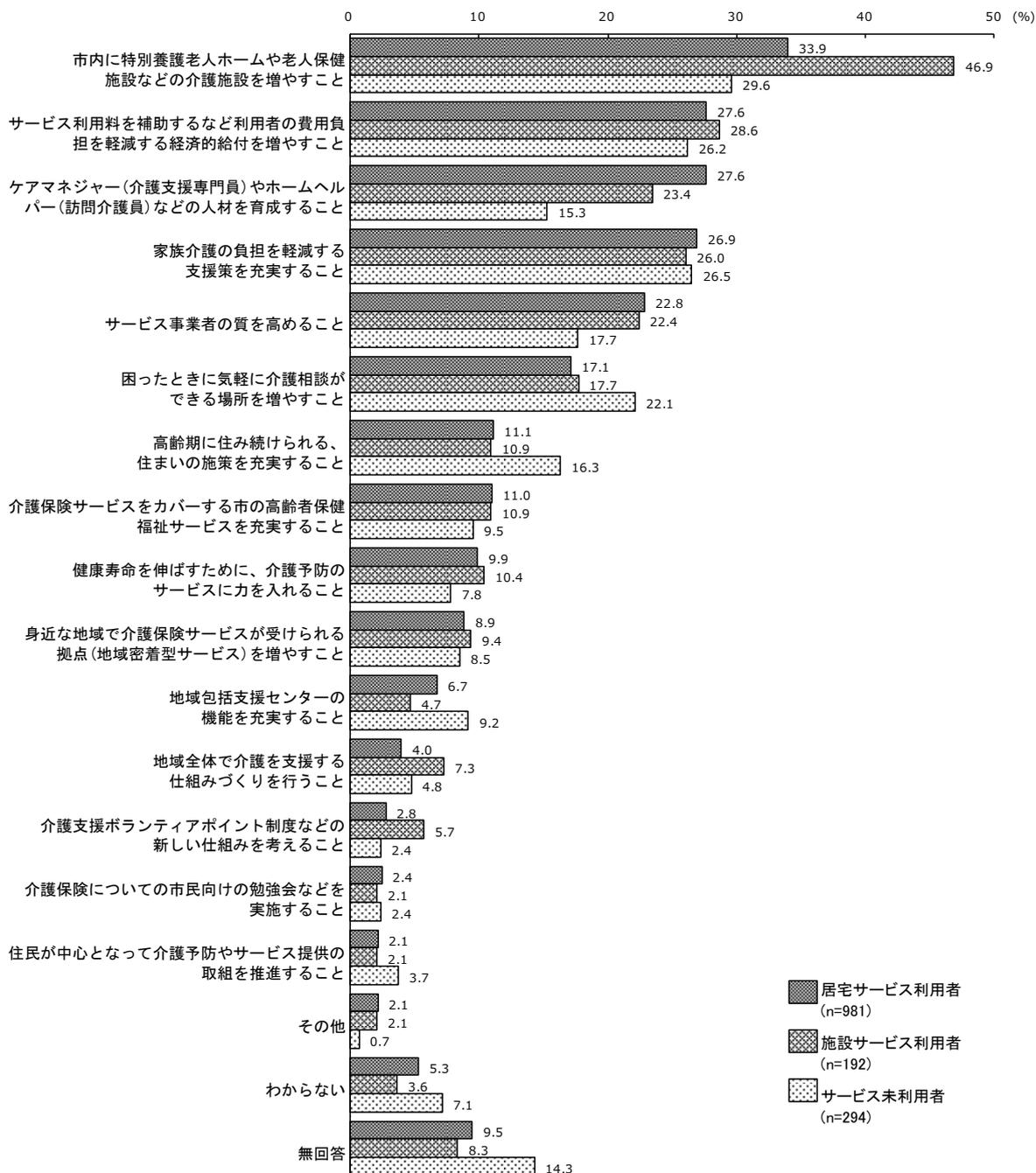
(9) 介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきこと (問12)

介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきことは、居宅サービス利用者は「市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと」(33.9%)が最も多く、「サービス利用料を補助するなど利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと」と「ケアマネジャー(介護支援専門員)やホームヘルパー(訪問介護員)などの人材を育成すること」(ともに27.6%)、「家族介護の負担を軽減する支援策を充実すること」(26.9%)と続いている。

施設サービス利用者は、「市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと」(46.9%)が最も多く、「サービス利用料を補助するなど利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと」(28.6%)、「家族介護の負担を軽減する支援策を充実すること」(26.0%)と続いている。

サービス未利用者は、「市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと」(29.6%)が最も多く、「家族介護の負担を軽減する支援策を充実すること」(26.5%)、「サービス利用料を補助するなど利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと」(26.2%)と続いている。

■介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきこと (複数回答)



居宅サービス利用者について

性別にみると、男性は「介護保険サービスをカバーする市の高齢者保健福祉サービスを充実すること」(14.2%)が女性に比べ多く、女性は「市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと」(37.1%)、「身近な地域で介護保険サービスが受けられる拠点(地域密着型サービス)を増やすこと」(10.3%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「サービス事業者の質を高めること」(33.8%)が75歳以上に比べ多くなっている。

要介護度別にみると、要支援者は「健康寿命を伸ばすために、介護予防のサービスに力を入れること」(15.7%)、中重度者は「サービス利用料を補助するなど利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと」(35.7%)、「家族介護の負担を軽減する支援策を充実すること」(38.0%)、「サービス事業者の質を高めること」(29.4%)が全体に比べ多くなっている。

地区別にみると、第1地区は「サービス事業者の質を高めること」(32.9%)、第2地区は「介護支援ボランティアポイント制度などの新しい仕組みを考えること」(6.4%)、第3地区は「介護保険についての市民向けの勉強会などを実施すること」(4.6%)が全体に比べ多くなっている。

■介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきこと(複数回答)(居宅サービス利用者)

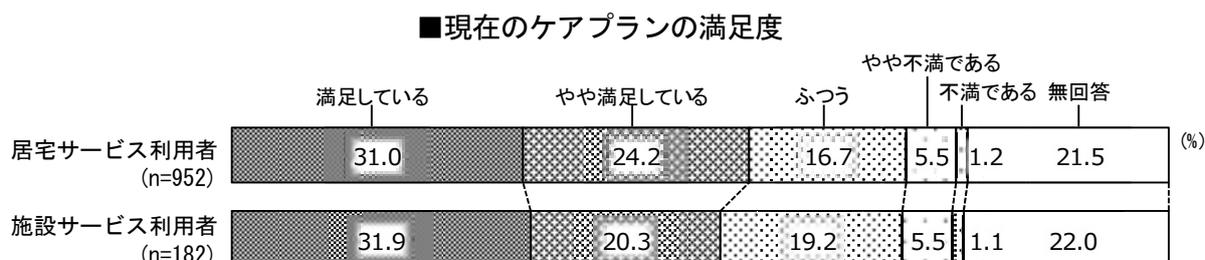
		市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの	を軽減する経済的給付を増やすこと	サービス利用者(訪問介護員)などの人材を育成すること	ケアマネジャー(介護支援専門員)やヘルパー(訪問介護員)などの人材を育成すること	家族介護の負担を軽減する支援策を充実すること	サービス事業者の質を高めること	困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと	高齢者に住み続けられる、住まいの施策を充実すること	介護保険サービスをカバーする市の高齢者保健福祉サービスを増やすこと	健康寿命を伸ばすために、介護予防のサービスに力を入れること	(地域密着型サービス)を増やすこと	身近な地域で介護保険サービスが受けられる拠点(地域密着型サービス)を増やすこと	地域包括支援センターの機能を充実すること	地域全体で介護を支援する仕組みづくりを行うこと	介護支援ボランティアポイント制度などの新しい仕組みを考えること	介護保険についての市民向けの勉強会などを実施すること	住民が中心となって介護予防やサービス提供の取組を推進すること	その他	わからない	無回答
全体(n=981)		33.9	27.6	27.6	26.9	22.8	17.1	11.1	11.0	9.9	8.9	6.7	4.0	2.8	2.4	2.1	2.1	5.3	9.5		
性別	男性(n=316)	27.8	29.7	26.6	28.5	21.5	14.2	9.8	14.2	9.8	6.0	5.7	4.7	1.6	2.8	1.9	2.2	4.7	13.0		
	女性(n=653)	37.1	26.6	28.3	26.3	23.7	18.4	11.8	9.5	9.6	10.3	7.4	3.4	3.4	2.1	2.1	2.1	5.7	7.5		
年齢別	75歳以上(n=905)	33.3	27.1	27.6	27.2	22.0	17.6	11.0	10.9	9.5	9.1	7.2	4.0	2.8	2.4	2.1	2.3	5.3	9.5		
	65～74歳(n=68)	42.6	35.3	29.4	25.0	33.8	11.8	13.2	13.2	14.7	7.4	1.5	2.9	2.9	1.5	2.9	0.0	5.9	5.9		
要介護度別	要支援者(n=217)	31.8	21.7	28.1	16.1	18.0	20.3	12.4	9.2	15.7	12.0	9.7	4.1	3.2	0.9	1.4	0.5	6.0	11.5		
	軽度者(n=485)	33.4	26.6	28.2	26.8	22.1	17.7	10.5	11.5	8.2	8.7	7.2	2.7	2.7	2.5	2.5	2.9	5.8	9.5		
	中重度者(n=255)	38.0	35.7	27.5	38.0	29.4	12.2	11.8	12.2	7.1	6.7	3.5	5.9	2.7	3.1	2.0	2.4	3.9	5.5		
地区別	第1地区(n=173)	33.5	24.3	28.3	24.3	32.9	19.7	12.1	12.7	6.4	6.9	8.7	4.0	0.6	3.5	1.2	2.3	6.4	6.4		
	第2地区(n=171)	32.7	25.1	27.5	28.1	25.1	18.1	7.0	7.6	9.4	12.9	8.8	6.4	6.4	1.8	2.9	1.2	6.4	9.4		
	第3地区(n=194)	36.6	31.4	29.9	25.8	17.5	12.4	10.8	11.3	10.3	10.3	5.7	3.1	1.5	4.6	2.1	3.1	6.7	6.7		
	第4地区(n=127)	30.7	22.8	24.4	23.6	20.5	18.9	11.8	13.4	11.8	7.9	5.5	3.1	2.4	2.4	3.9	2.4	2.4	15.0		
	第5地区(n=142)	36.6	31.7	26.8	28.9	20.4	17.6	12.0	12.7	12.0	7.7	5.6	2.1	0.7	1.4	1.4	1.4	3.5	7.7		
	第6地区(n=141)	34.0	32.6	30.5	31.2	23.4	17.7	14.2	8.5	12.1	5.7	7.1	2.8	3.5	0.7	2.1	2.1	5.0	10.6		

6 利用者本位のサービスのあり方について

(1) 現在のケアプランの満足度 (問13)

現在のケアプランの満足度は、居宅サービス利用者は「満足している」(31.0%)が最も多く、「やや満足している」(24.2%)、「ふつう」(16.7%)と続いている。「満足している」「やや満足している」を合わせた“満足している”は55.2%となっている。

施設サービス利用者は、「満足している」(31.9%)が最も多く、「やや満足している」(20.3%)、「ふつう」(19.2%)と続いている。“満足している”は52.2%となっている。



施設サービス利用者について

性別にみると、男性は“満足している”(39.2%)が女性に比べ少なくなっている。

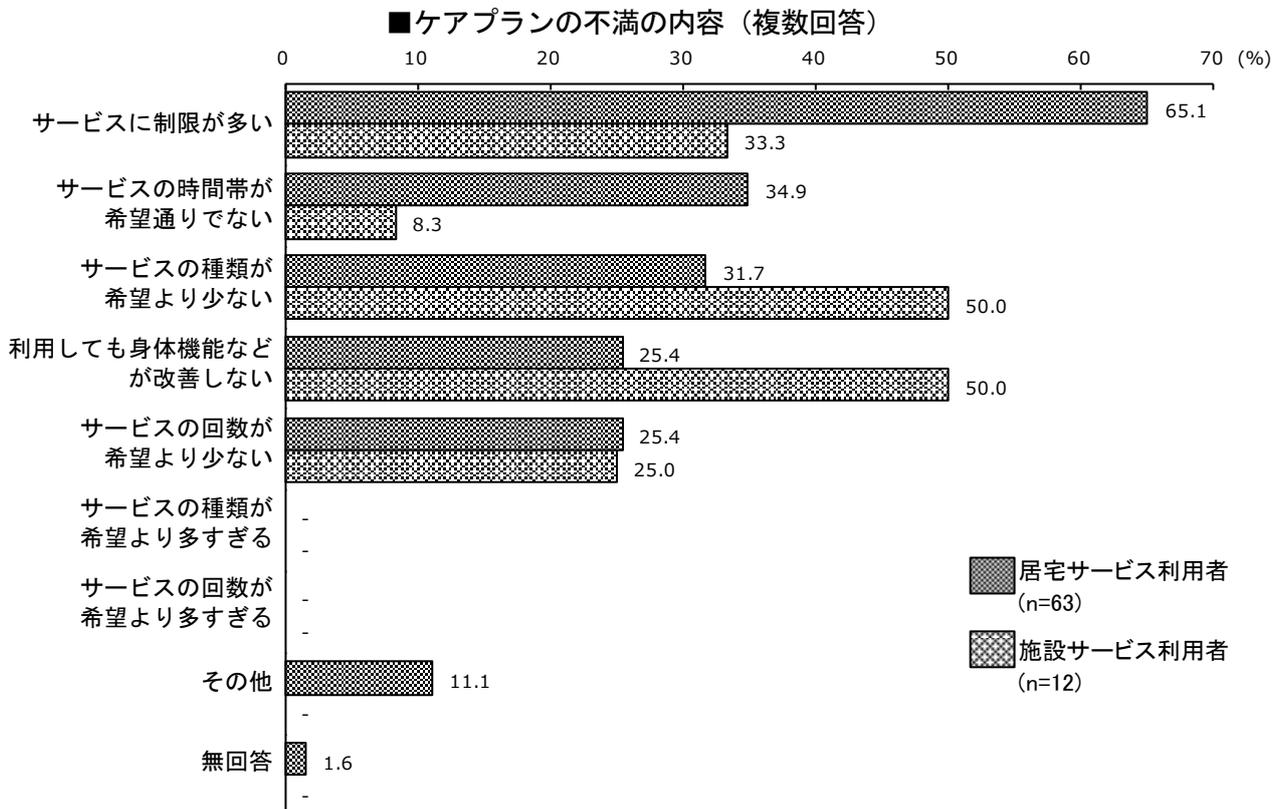
■現在のケアプランの満足度施設サービス利用者

		(%)					
		い満	しや	ふ	でや	る不	無
		る足	てや	つ	あや	不	回
		して	い満	う	る不	満	答
			足		満	あ	
全体(n=182)		31.9	20.3	19.2	5.5	1.1	22.0
性別	男性(n=46)	19.6	19.6	19.6	6.5	0.0	34.8
	女性(n=136)	36.0	20.6	19.1	5.1	1.5	17.6

(2) ケアプランの不满の内容 (問 13-1)

「やや不満である」「不満である」と回答した人にケアプランの不满の内容を聞いたところ、居宅サービス利用者は「サービスに制限が多い」(65.1%)が最も多く、「サービスの時間帯が希望通りでない」(34.9%)、「サービスの種類が希望より少ない」(31.7%)と続いている。

施設サービス利用者は、「サービスの種類が希望より少ない」と「利用しても身体機能などが改善しない」(ともに50.0%)が最も多く、「サービスに制限が多い」(33.3%)、「サービスの回数が希望より少ない」(25.0%)と続いている。

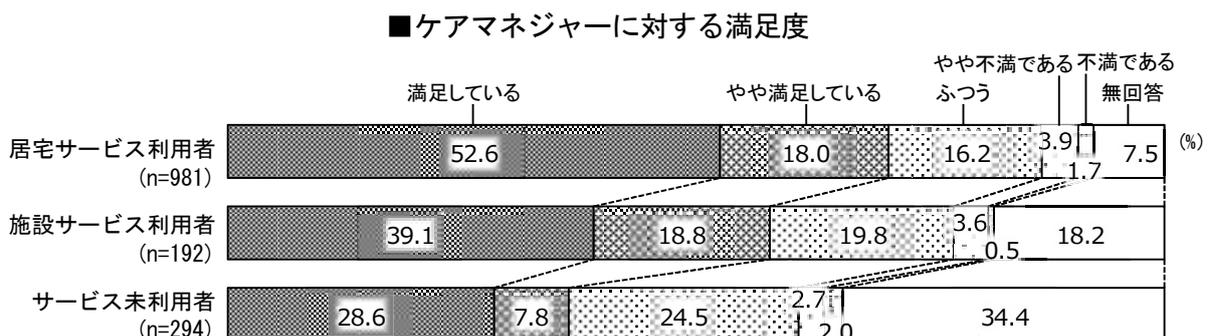


(3) ケアマネジャー (介護支援専門員) に対する満足度 (問 14)

ケアマネジャーに対する満足度は、居宅サービス利用者は「満足している」(52.6%)が最も多く、「やや満足している」(18.0%)、「ふつう」(16.2%)と続いている。「満足している」「やや満足している」を合わせた“満足している”は70.6%となっている。

施設サービス利用者は、「満足している」(39.1%)が最も多く、「ふつう」(19.8%)、「やや満足している」(18.8%)と続いている。“満足している”は57.9%となっている。

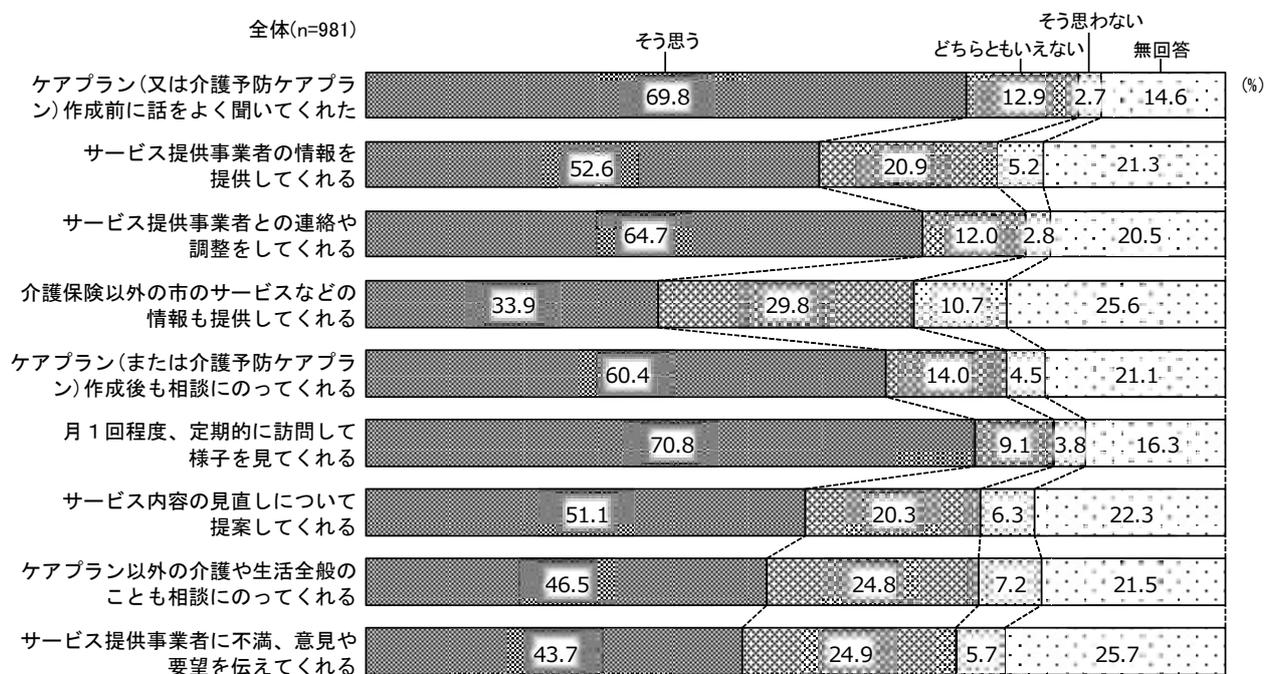
サービス未利用者は、「満足している」(28.6%)が最も多く、「ふつう」(24.5%)、「やや満足している」(7.8%)と続いている。“満足している”は36.4%となっている。



(4) ケアマネジャー（介護支援専門員）の評価（問15）

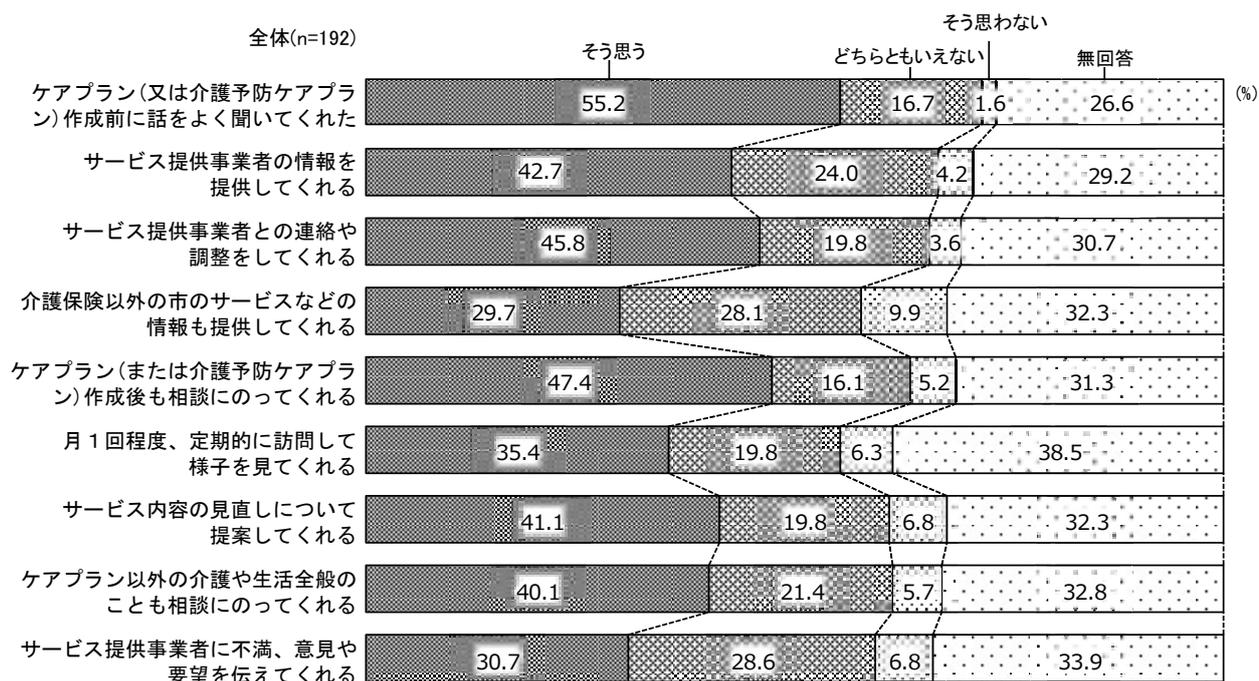
居宅サービス利用者のケアマネジャーの評価について、「そう思う」は『月1回程度、定期的に訪問して様子を見てくれる』（70.8%）が最も多く、『ケアプラン(又は介護予防ケアプラン)作成前に話をよく聞いてくれた』（69.8%）、『サービス提供事業者との連絡や調整をしてくれる』（64.7%）と続いている。

■ケアマネジャーの評価（居宅サービス利用者）



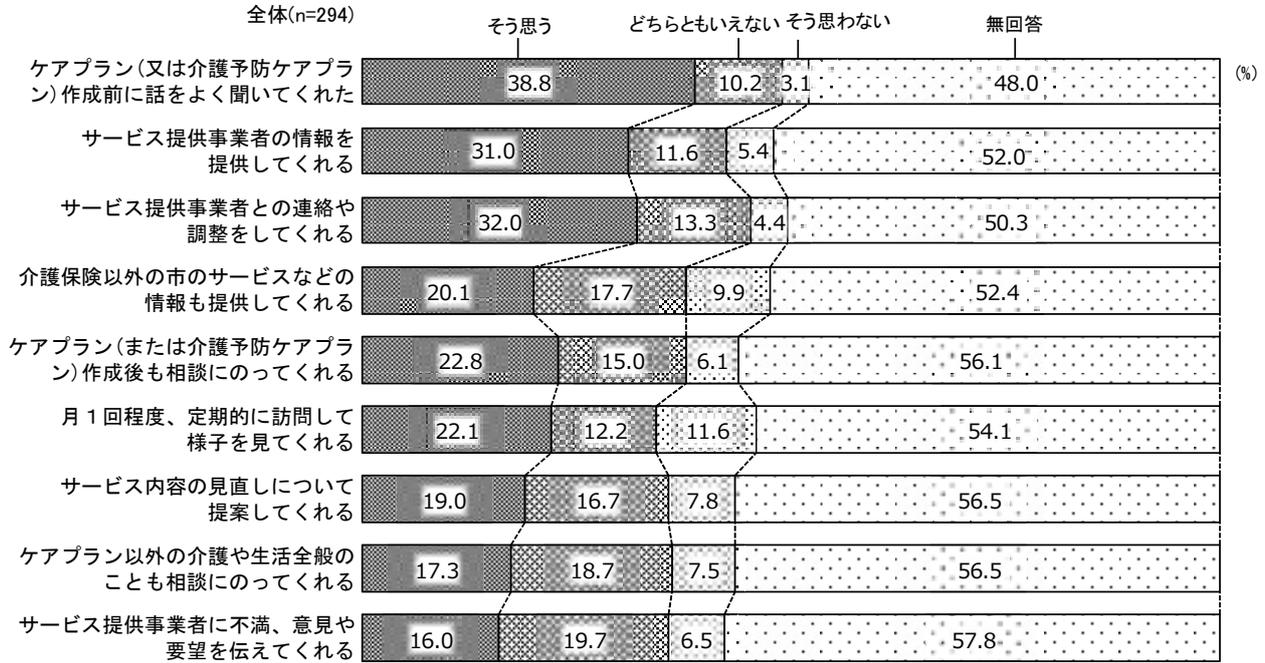
施設サービス利用者のケアマネジャーの評価について、「そう思う」は『ケアプラン(又は介護予防ケアプラン)作成前に話をよく聞いてくれた』（55.2%）が最も多く、『ケアプラン(または介護予防ケアプラン)作成後も相談にのってくれる』（47.4%）、『サービス提供事業者との連絡や調整をしてくれる』（45.8%）と続いている。

■ケアマネジャーについての評価（施設サービス利用者）



サービス未利用者のケアマネジャーの評価について、「そう思う」は『ケアプラン(又は介護予防ケアプラン)作成前に話をよく聞いてくれた』(38.8%)が最も多く、『サービス提供事業者との連絡や調整をしてくれる』(32.0%)、『サービス提供事業者の情報を提供してくれる』(31.0%)と続いている。

■ケアマネジャーについての評価 (サービス未利用者)



7 高齢者の権利擁護について

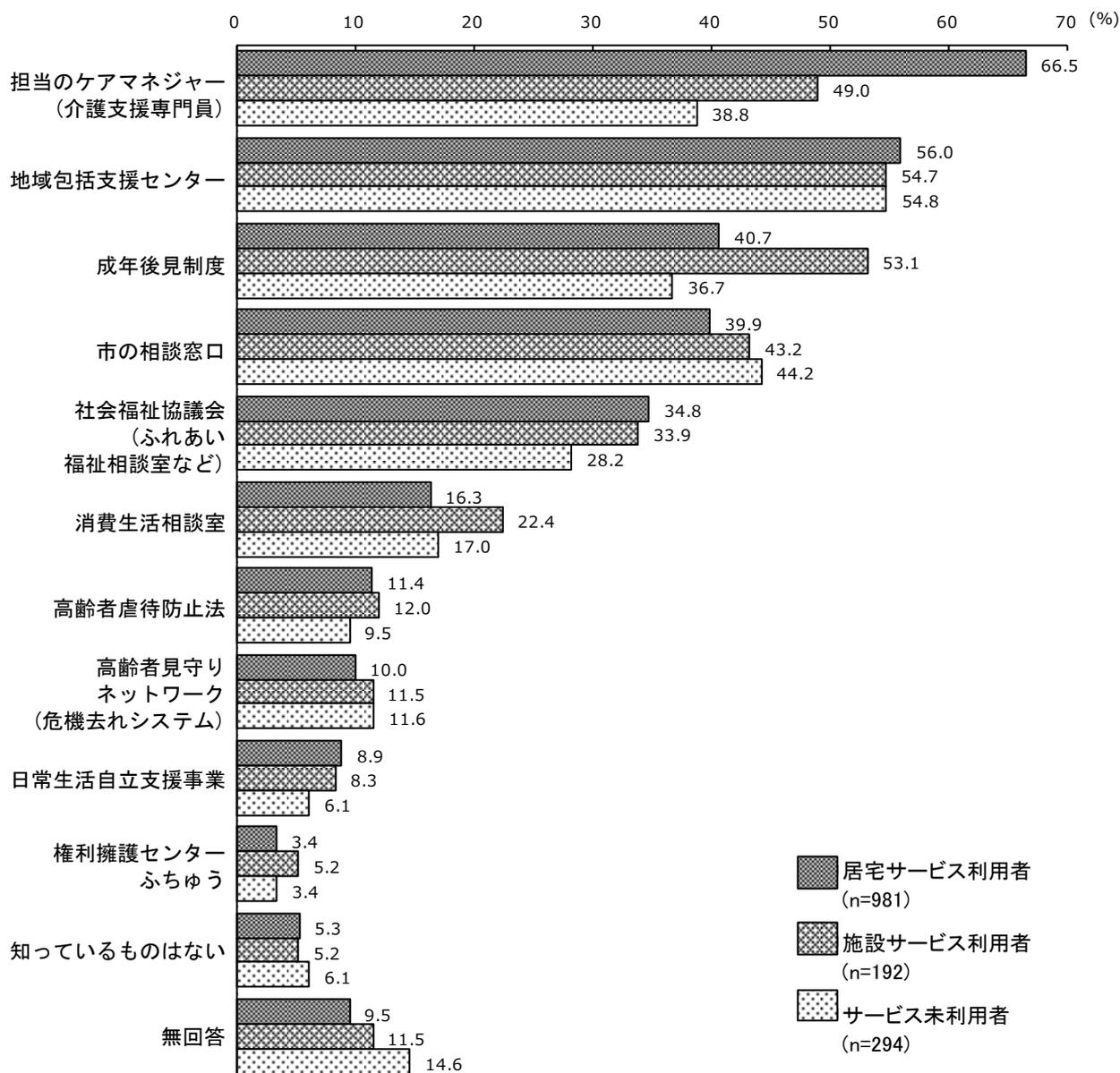
(1) 高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度 (問 16)

高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度は、居宅サービス利用者は「担当のケアマネジャー(介護支援専門員)」(66.5%)が最も多く、「地域包括支援センター」(56.0%)、「成年後見制度」(40.7%)と続いている。

施設サービス利用者は、「地域包括支援センター」(54.7%)が最も多く、「成年後見制度」(53.1%)、「担当のケアマネジャー(介護支援専門員)」(49.0%)と続いている。

サービス未利用者は、「地域包括支援センター」(54.8%)が最も多く、「市の相談窓口」(44.2%)、「担当のケアマネジャー(介護支援専門員)」(38.8%)と続いている。

■高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度 (複数回答)



居宅サービス利用者について

性別にみると、女性は「担当のケアマネジャー(介護支援専門員)」(69.1%)、「消費生活相談室」(18.2%)、「高齢者見守りネットワーク(危機去れシステム)」(11.9%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「成年後見制度」(54.4%)、「社会福祉協議会(ふれあい福祉相談室など)」(48.5%)が75歳以上に比べ多くなっている。

要介護度別にみると、中重度者は「担当のケアマネジャー(介護支援専門員)」(73.7%)、「成年後見制度」(51.8%)、「市の相談窓口」(47.1%)、「高齢者虐待防止法」(15.7%)が全体に比べ多くなっている。

地区別にみると、第2地区は「地域包括支援センター」(64.9%)が全体に比べ多くなっている。

■高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度(複数回答)(居宅サービス利用者)

		援 専 門 員)	担 当 の ケ ア マ ネ ジ ャ ー (介 護 支 援 支 ネ)	地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー (支 援 セ ン タ ー)	成 年 後 見 制 度	市 の 相 談 窓 口	相 談 室 な ど (介 護 支 援 支 ネ)	社 会 福 祉 協 議 会	消 費 生 活 相 談 室	法 高 齢 者 虐 待 防 止	テ ム シ ス (シ ス テ ム)	高 齢 者 見 守 リ シ ス テ ム	高 齢 者 見 守 リ シ ス テ ム	日 常 生 活 自 立 支 援	タ リ フ 支 給 制 度	は 知 っ て い る も の	無 回 答
全体(n=981)		66.5	56.0	40.7	39.9	34.8	16.3	11.4	10.0	8.9	3.4	5.3	9.5				
性別	男性(n=316)	61.4	53.2	38.0	37.3	31.3	12.7	10.4	6.3	7.3	3.2	5.7	12.7				
	女性(n=653)	69.1	58.2	42.7	41.2	36.9	18.2	11.9	11.9	9.8	3.4	4.9	7.7				
年齢別	75歳以上(n=905)	66.4	56.0	40.0	39.2	34.0	16.6	11.2	10.2	9.0	3.3	5.6	9.4				
	65～74歳(n=68)	69.1	60.3	54.4	50.0	48.5	14.7	14.7	8.8	8.8	2.9	1.5	5.9				
要介護度別	要支援者(n=217)	62.7	59.4	36.4	41.5	35.0	15.7	12.0	9.2	7.4	3.2	2.8	14.7				
	軽度者(n=485)	66.0	54.8	38.4	35.9	35.3	15.9	9.3	10.3	8.7	3.5	5.8	8.5				
	中重度者(n=255)	73.7	58.4	51.8	47.1	36.5	18.4	15.7	11.0	11.0	3.1	6.7	3.9				
地区別	第1地区(n=173)	63.0	51.4	45.1	45.1	32.9	17.3	12.7	11.6	8.1	2.9	7.5	8.7				
	第2地区(n=171)	71.9	64.9	42.7	37.4	39.2	18.7	14.6	11.7	11.1	5.8	4.7	7.6				
	第3地区(n=194)	68.6	53.1	37.6	38.7	33.5	13.9	7.7	6.2	8.8	3.1	6.2	7.7				
	第4地区(n=127)	59.1	58.3	42.5	35.4	30.7	12.6	7.9	7.1	7.1	-	4.7	15.0				
	第5地区(n=142)	65.5	55.6	40.1	39.4	40.8	16.9	12.0	12.0	9.9	2.1	2.1	8.5				
	第6地区(n=141)	72.3	53.9	39.0	42.6	34.0	17.7	12.1	11.3	8.5	4.3	6.4	9.2				

施設サービス利用者について

性別にみると、女性は「消費生活相談室」(25.9%)が男性に比べ多くなっている。

■高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度(複数回答)(施設サービス利用者)

		援 専 門 員)	担 当 の ケ ア マ ネ ジ ャ ー (介 護 支 援 支 ネ)	地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー (支 援 セ ン タ ー)	成 年 後 見 制 度	市 の 相 談 窓 口	相 談 室 な ど (介 護 支 援 支 ネ)	社 会 福 祉 協 議 会	消 費 生 活 相 談 室	法 高 齢 者 虐 待 防 止	テ ム シ ス (シ ス テ ム)	高 齢 者 見 守 リ シ ス テ ム	高 齢 者 見 守 リ シ ス テ ム	日 常 生 活 自 立 支 援	タ リ フ 支 給 制 度	は 知 っ て い る も の	無 回 答
全体(n=192)		49.0	54.7	53.1	43.2	33.9	22.4	12.0	11.5	8.3	5.2	5.2	11.5				
性別	男性(n=49)	42.9	55.1	42.9	42.9	30.6	12.2	6.1	8.2	10.2	2.0	8.2	16.3				
	女性(n=143)	51.0	54.5	56.6	43.4	35.0	25.9	14.0	12.6	7.7	6.3	4.2	9.8				

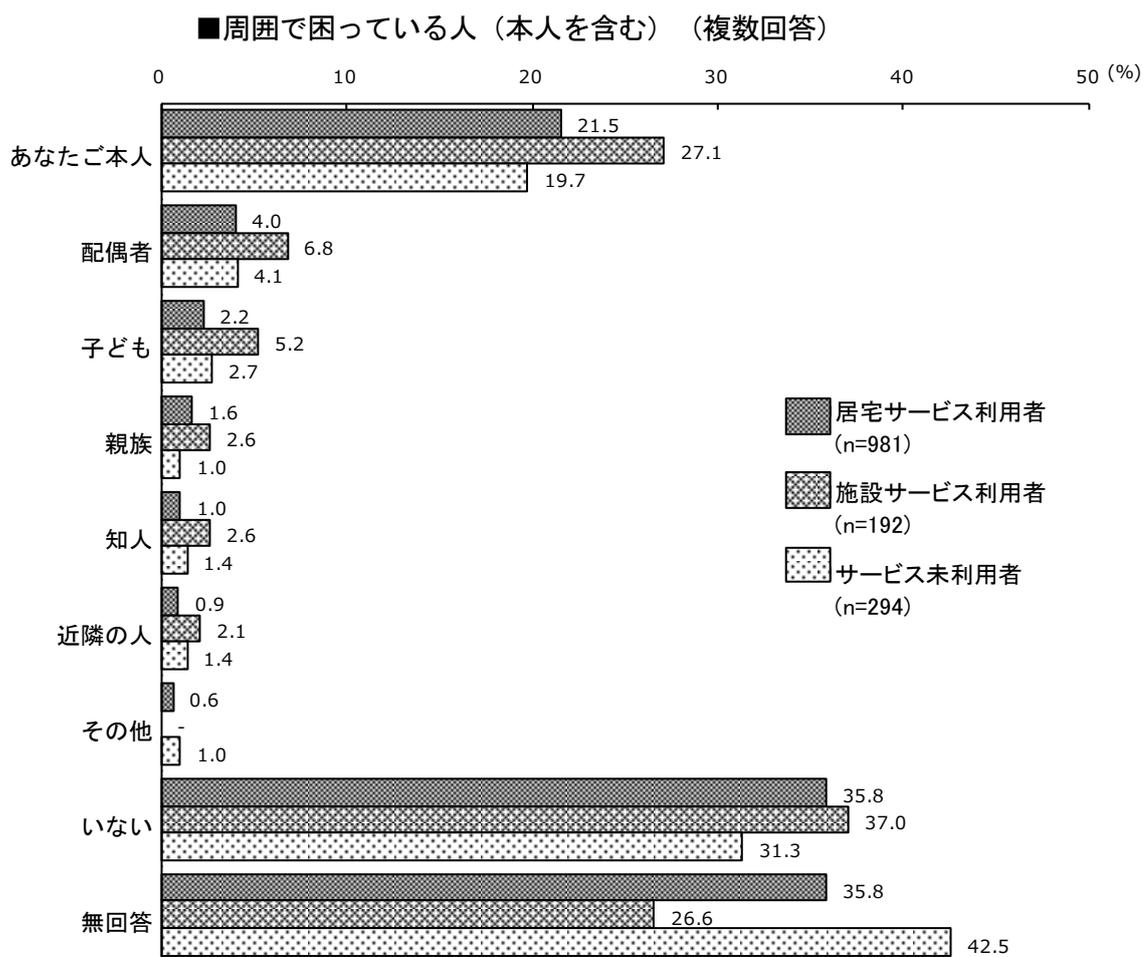
(2) 周囲で困っている人（本人を含む）（問17）

周囲で困っている人（本人を含む）は、居宅サービス利用者、施設サービス利用者、サービス未利用者のいずれも「いない」が最も多い。

困っている人の中では、居宅サービス利用者は「あなたご本人」（21.5%）が最も多く、「配偶者」（4.0%）、「子ども」（2.2%）と続いている。

施設サービス利用者は、「あなたご本人」（27.1%）が最も多く、「配偶者」（6.8%）、「子ども」（5.2%）と続いている。

サービス未利用者は、「あなたご本人」（19.7%）が最も多く、「配偶者」（4.1%）、「子ども」（2.7%）と続いている。

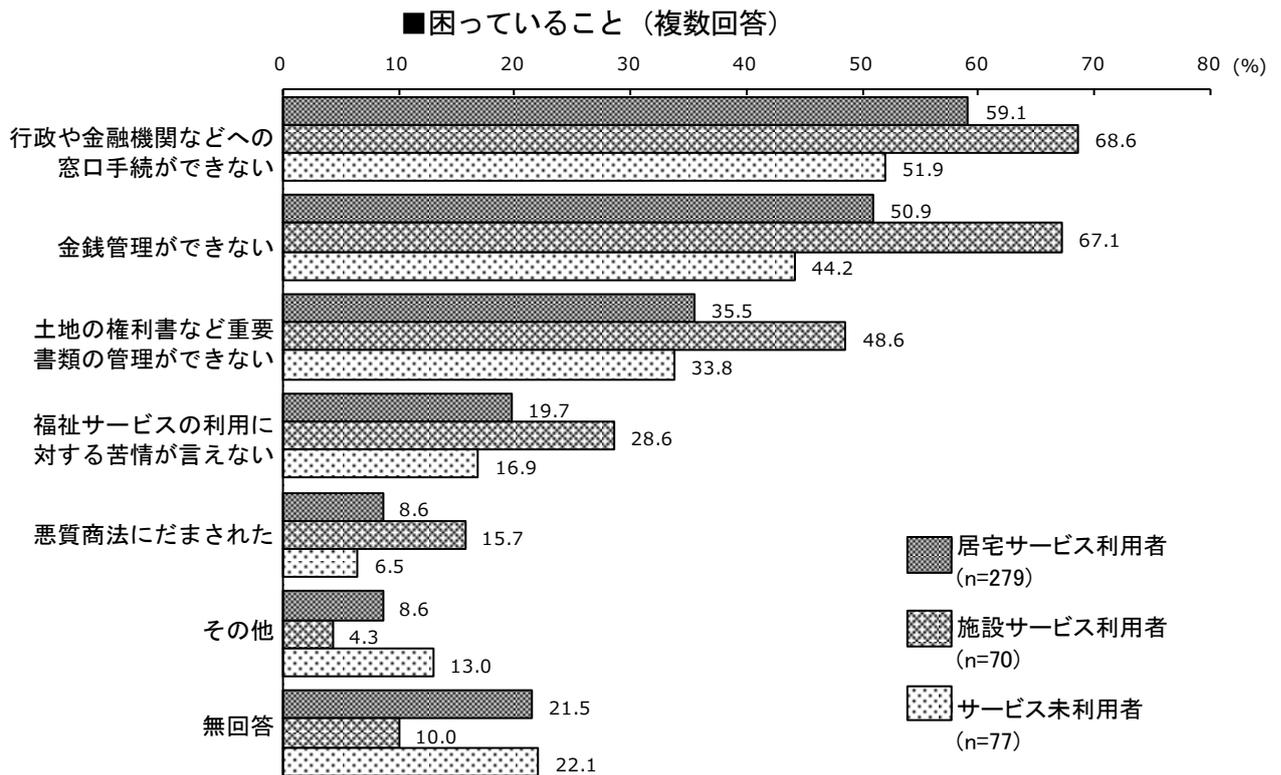


(3) 困っていること (問17-1)

「いない」以外を回答した人に困っていることを聞いたところ、居宅サービス利用者は、「行政や金融機関などへの窓口手続きができない」(59.1%)が最も多く、「金銭管理ができない」(50.9%)、「土地の権利書など重要書類の管理ができない」(35.5%)と続いている。

施設サービス利用者は、「行政や金融機関などへの窓口手続きができない」(68.6%)が最も多く、「金銭管理ができない」(67.1%)、「土地の権利書など重要書類の管理ができない」(48.6%)と続いている。

サービス未利用者は、「行政や金融機関などへの窓口手続きができない」(51.9%)が最も多く、「金銭管理ができない」(44.2%)、「土地の権利書など重要書類の管理ができない」(33.8%)と続いている。



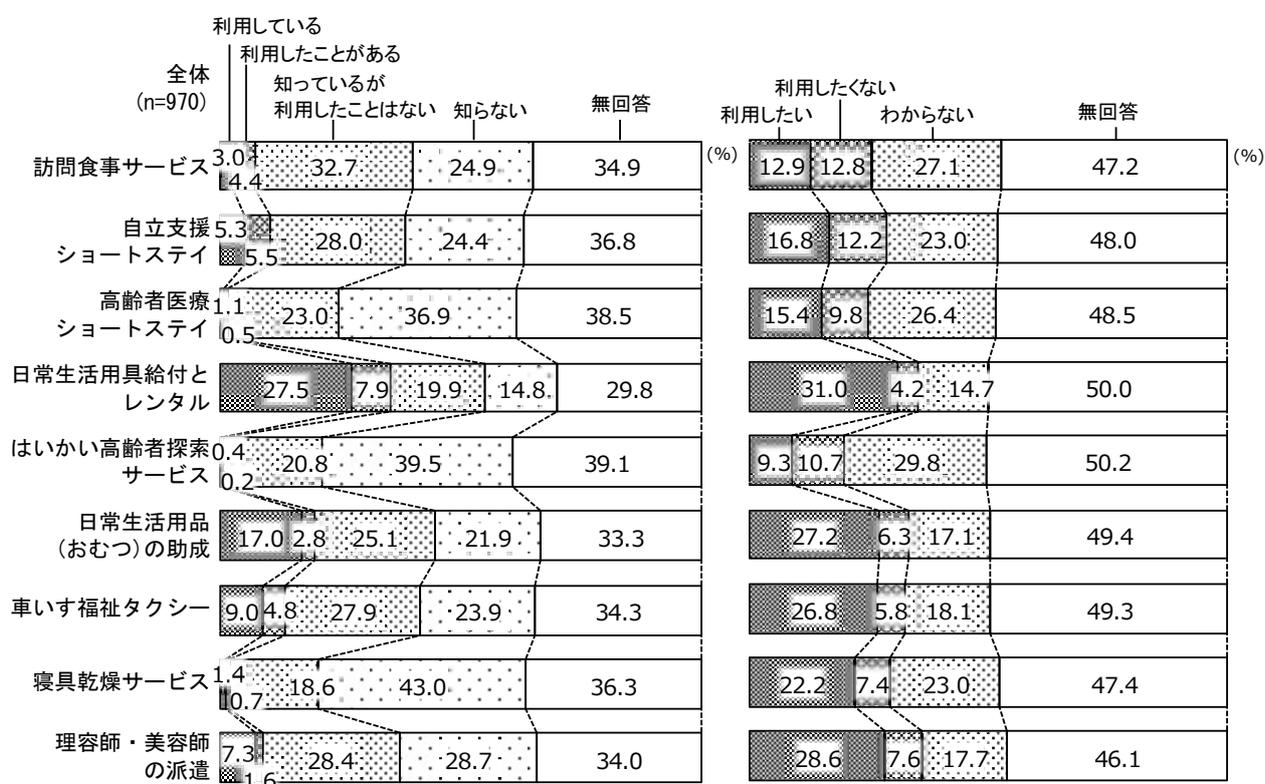
8 高齢者保健福祉サービスについて

(1) 高齢者保健福祉サービスに関する利用状況、利用意向（問18）

高齢者保健福祉サービスについて、居宅サービス利用者の「利用している」「利用したことがある」を合わせた“利用状況”は、『日常生活用具給付とレンタル』（35.4%）が最も多く、『日常生活用品（おむつ）の助成』（19.8%）、『車いす福祉タクシー』（13.8%）と続いている。「利用している」「利用したことがある」「知っているが利用していない」を合わせた“認知度”は、『日常生活用具給付とレンタル』（55.3%）が最も多く、『日常生活用品（おむつ）の助成』（44.9%）、『車いす福祉タクシー』（41.7%）と続いている。

利用意向の「利用したい」は、『日常生活用具給付とレンタル』（31.0%）が最も多く、『理容師・美容師の派遣』（28.6%）、『日常生活用品（おむつ）の助成』（27.2%）と続いている。

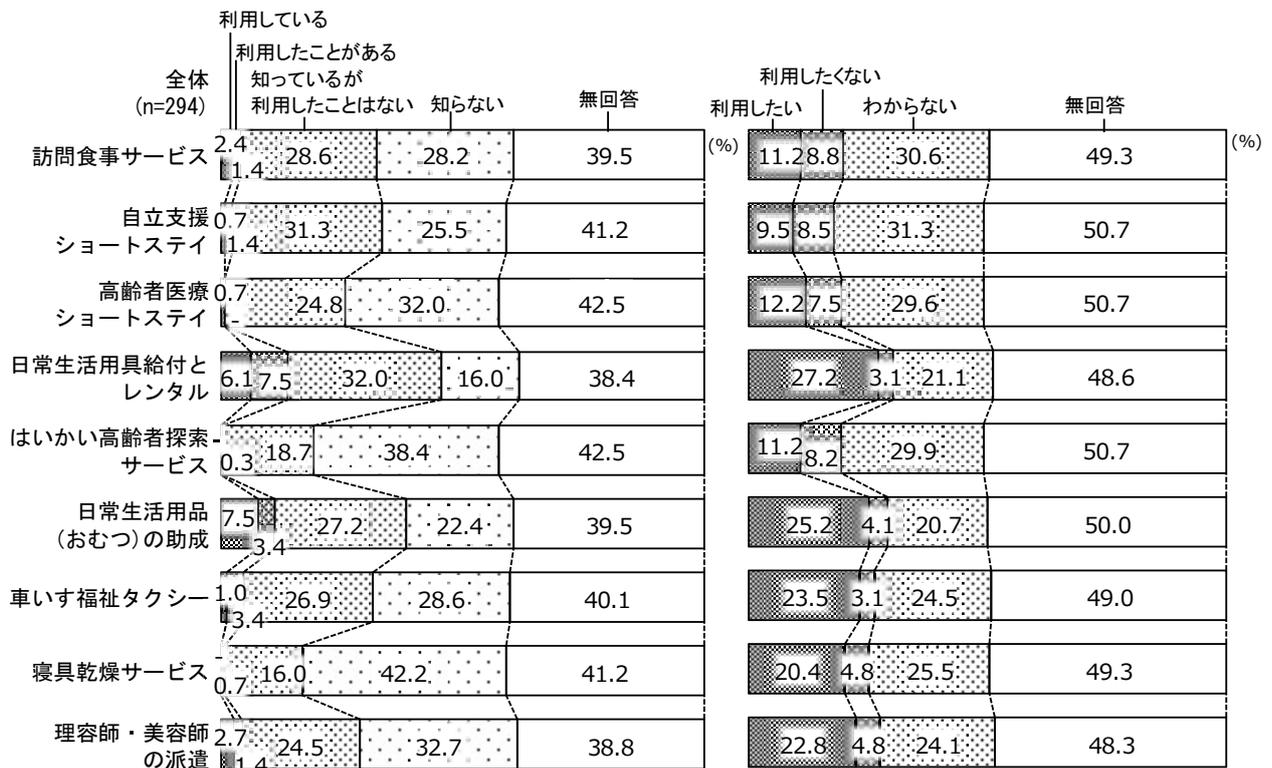
■高齢者保健福祉サービスに関する利用状況（左）、利用意向（右）（居宅サービス利用者）



高齢者保健福祉サービスについて、サービス未利用者の“利用状況”は、『日常生活用具給付とレンタル』（13.6%）が最も多く、『日常生活用品（おむつ）の助成』（10.9%）、『車いす福祉タクシー』（4.4%）と続いている。“認知度”は、『日常生活用具給付とレンタル』（45.6%）が最も多く、『日常生活用品（おむつ）の助成』（38.1%）、『自立支援ショートステイ』（33.4%）と続いている。

利用意向は、『日常生活用具給付とレンタル』（27.2%）が最も多く、『日常生活用品（おむつ）の助成』（25.2%）、『車いす福祉タクシー』（23.5%）と続いている。

■高齢者保健福祉サービスに関する利用状況（左）、利用意向（右）（サービス未利用者）



(2) 民間サービスの利用状況 (問19)

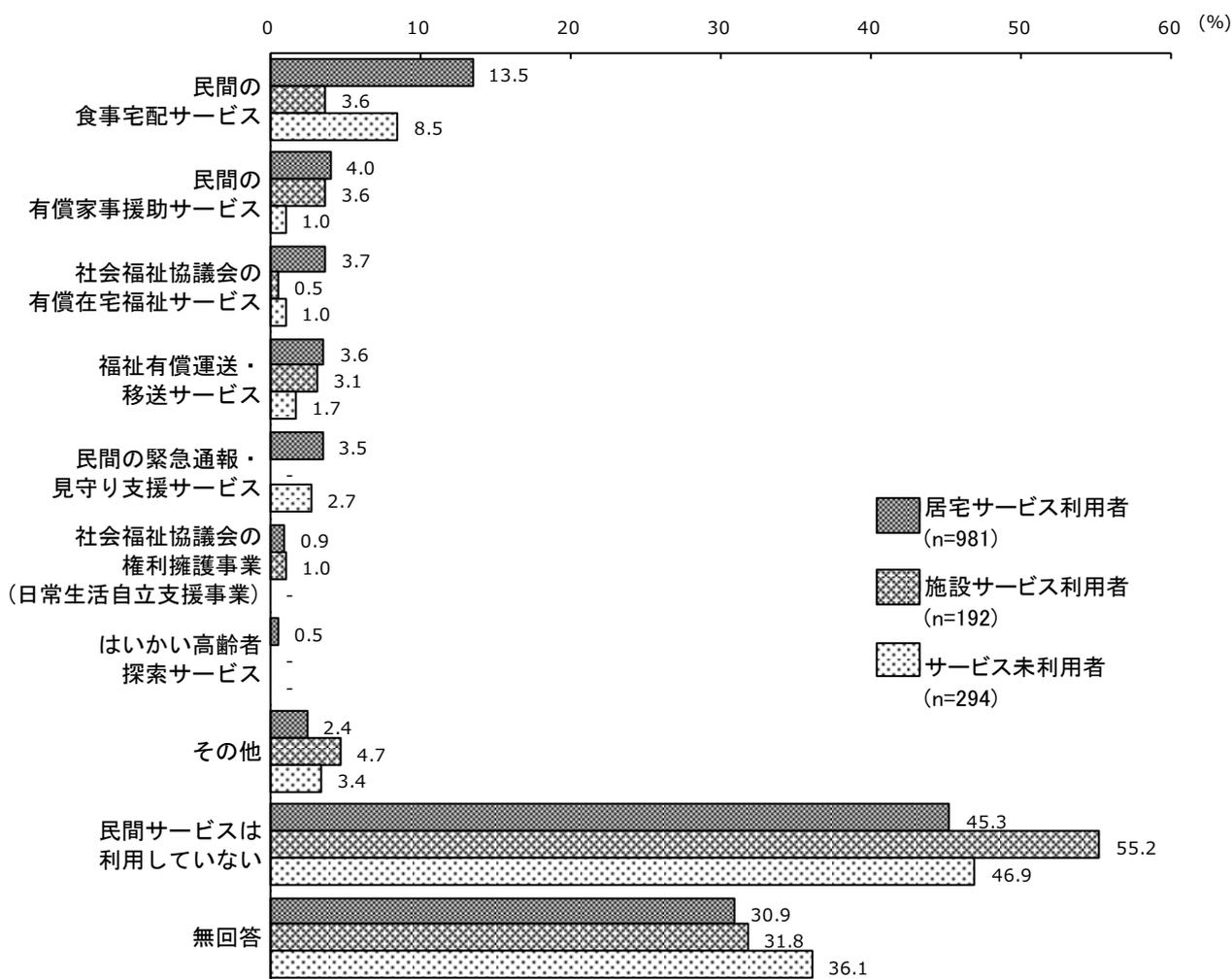
民間サービスの利用状況は、居宅サービス利用者、施設サービス利用者、サービス未利用者のいずれも「民間サービスは利用していない」が最も多い。

利用している民間サービスでは、居宅サービス利用者は「民間の食事宅配サービス」(13.5%)が最も多く、「民間の有償家事援助サービス」(4.0%)、「社会福祉協議会の有償在宅福祉サービス」(3.7%)と続いている。

施設サービス利用者は、「民間の食事宅配サービス」と「民間の有償家事援助サービス」(ともに3.6%)が最も多く、「福祉有償運送・移送サービス」(3.1%)、「社会福祉協議会の権利擁護事業(日常生活自立支援事業)」(1.0%)と続いている。

サービス未利用者は、「民間の食事宅配サービス」(8.5%)が最も多く、「民間の緊急通報・見守り支援サービス」(2.7%)、「福祉有償運送・移送サービス」(1.7%)と続いている。

■民間サービスの利用状況 (複数回答)



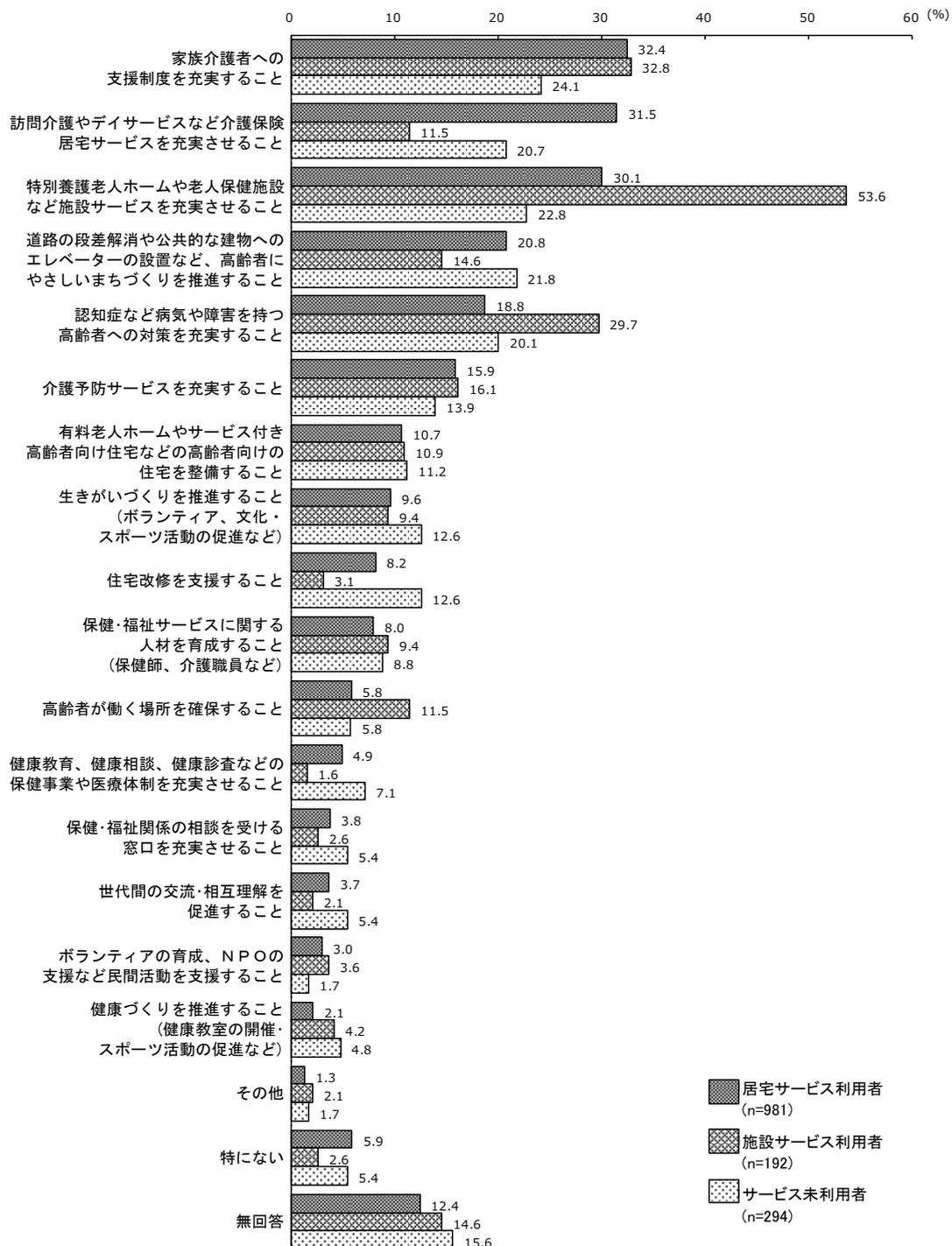
(3) 市が優先して取り組むべきサービス (問20)

市が優先して取り組むべきサービスは、居宅サービス利用者は「家族介護者への支援制度を充実すること」(32.4%)が最も多く、「訪問介護やデイサービスなど介護保険居宅サービスを充実させること」(31.5%)、「特別養護老人ホームや老人保健施設など施設サービスを充実させること」(30.1%)と続いている。

施設サービス利用者は、「特別養護老人ホームや老人保健施設など施設サービスを充実させること」(53.6%)が最も多く、「家族介護者への支援制度を充実すること」(32.8%)、「認知症など病気や障害を持つ高齢者への対策を充実すること」(29.7%)と続いている。

サービス未利用者は、「家族介護者への支援制度を充実すること」(24.1%)が最も多く、「特別養護老人ホームや老人保健施設など施設サービスを充実させること」(22.8%)、「道路の段差解消や公共的な建物へのエレベーターの設置など、高齢者にやさしいまちづくりを推進すること」(21.8%)と続いている。

■市が優先して取り組むべきサービス (複数回答)



居宅サービス利用者について

性別にみると、女性は「訪問介護やデイサービスなど介護保険居宅サービスを充実させること」(34.0%)、「保健・福祉サービスに関する人材を育成すること(保健師、介護職員など)」(9.2%)が男性に比べ多くなっている。

要介護度別にみると、要支援者は「介護予防サービスを充実すること」(22.6%)、「健康教育、健康相談、健康診査などの保健事業や医療体制を充実させること」(8.8%)、中重度者は「家族介護者への支援制度を充実すること」(44.7%)、「認知症など病気や障害を持つ高齢者への対策を充実すること」(24.3%)、「高齢者が働く場所を確保すること」(9.8%)が全体に比べ多くなっている。

地区別にみると、第2地区は「生きがいをづくりを推進すること(ボランティア、文化・スポーツ活動の促進など)」(15.8%)、「健康教育、健康相談、健康診査などの保健事業や医療体制を充実させること」(8.2%)、第4地区は「健康づくりを推進すること(健康教室の開催・スポーツ活動の促進など)」(4.7%)、第5地区は「保健・福祉関係の相談を受ける窓口を充実させること」(8.5%)が全体に比べ多くなっている。

■市が優先して取り組むべきサービス(複数回答)(居宅サービス利用者)

		と家族介護者への支援制度を充実すること	訪問介護やデイサービスなど介護保険居宅サービスを充実させること	特別養護老人ホームや老人保健施設など施設サービスを充実させること	道路の段差解消や公共的な建物へのエレベーターの設置など、高齢者にやさしいまちづくりを推進すること	認知症など病気や障害を持つ高齢者への対策を充実すること	介護予防サービスを充実すること	有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などの高齢者向けの住宅を整備すること	生きがいをづくりを推進すること(ボランティア、文化・スポーツ活動の促進など)	住宅改修を支援すること	保健・福祉サービスに関する人材を育成すること(保健師、介護職員など)	高齢者が働く場所を確保すること	健康教育、健康相談、健康診査などの保健事業や医療体制を充実させること	保健・福祉関係の相談を受ける窓口を充実させること	世代間の交流・相互理解を促進すること	ボランティアの育成、NPOの支援など民間活動を支援すること	健康づくりを推進すること(健康教室の開催・スポーツ活動の促進など)	その他	特になし	無回答
全体(n=981)		32.4	31.5	30.1	20.8	18.8	15.9	10.7	9.6	8.2	8.0	5.8	4.9	3.8	3.7	3.0	2.1	1.3	5.9	12.4
性別	男性(n=316)	30.4	27.2	26.6	20.9	19.3	15.2	9.8	10.8	8.9	5.4	5.1	5.1	2.2	2.5	1.9	1.6	1.6	6.0	15.8
	女性(n=653)	33.8	34.0	32.3	20.7	18.8	16.2	11.3	8.7	7.8	9.2	6.3	4.6	4.4	4.0	3.5	2.3	1.2	6.0	10.4
要介護度別	要支援者(n=217)	21.7	27.6	27.6	21.2	15.2	22.6	12.9	11.5	7.8	8.8	4.6	8.8	5.1	4.6	2.3	3.2	0.9	4.1	13.8
	軽度者(n=485)	32.0	32.0	29.5	21.2	18.1	14.6	11.5	10.3	8.0	6.6	4.5	3.1	3.7	3.9	3.3	2.1	1.6	7.6	11.1
	中重度者(n=255)	44.7	36.1	35.3	20.4	24.3	12.9	7.5	6.3	9.4	10.2	9.8	3.1	2.7	2.4	3.1	1.2	1.2	4.7	9.4
地区別	第1地区(n=173)	28.9	32.4	32.9	22.5	17.9	13.9	9.2	8.7	8.7	7.5	8.1	1.7	1.7	5.2	2.3	0.6	0.6	5.2	16.2
	第2地区(n=171)	30.4	34.5	29.2	16.4	21.6	21.1	8.8	15.8	7.6	8.2	7.0	8.2	4.7	4.7	1.8	1.8	0.0	5.3	12.3
	第3地区(n=194)	37.1	33.5	27.3	24.2	14.4	16.0	10.8	6.7	9.8	7.7	3.6	5.2	2.6	2.6	2.6	2.6	2.1	7.7	8.2
	第4地区(n=127)	32.3	29.9	29.9	15.7	18.1	14.2	13.4	7.1	3.1	3.9	4.7	4.7	3.9	2.4	2.4	4.7	3.9	7.1	15.7
	第5地区(n=142)	37.3	31.0	29.6	20.4	21.1	12.7	12.7	8.5	7.7	9.9	4.2	4.2	8.5	2.1	4.2	2.8	0.7	4.9	9.9
	第6地区(n=141)	31.2	29.8	30.5	26.2	21.3	17.7	12.7	9.2	9.2	12.1	9.9	7.1	5.0	2.1	5.0	4.3	1.4	1.4	5.0

サービス未利用者について

性別にみると、男性は「生きがいをづくりを推進すること(ボランティア、文化・スポーツ活動の促進など)」(19.8%)が女性に比べ多く、女性は「訪問介護やデイサービスなど介護保険居宅サービスを充実させること」(24.6%)、「道路の段差解消や公共的な建物へのエレベーターの設置など、高齢者にやさしいまちづくりを推進すること」(28.0%)が男性に比べ多くなっている。

■市が優先して取り組むべきサービス(複数回答)(サービス未利用者)

		と家族介護者への支援制度を充実すること	訪問介護やデイサービスなど介護保険居宅サービスを充実させること	特別養護老人ホームや老人保健施設など施設サービスを充実させること	道路の段差解消や公共的な建物へのエレベーターの設置など、高齢者にやさしいまちづくりを推進すること	認知症など病気や障害を持つ高齢者への対策を充実すること	介護予防サービスを充実すること	有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などの高齢者向けの住宅を整備すること	生きがいをづくりを推進すること(ボランティア、文化・スポーツ活動の促進など)	住宅改修を支援すること	保健・福祉サービスに関する人材を育成すること(保健師、介護職員など)	高齢者が働く場所を確保すること	健康教育、健康相談、健康診査などの保健事業や医療体制を充実させること	保健・福祉関係の相談を受ける窓口を充実させること	世代間の交流・相互理解を促進すること	ボランティアの育成、NPOの支援など民間活動を支援すること	健康づくりを推進すること(健康教室の開催・スポーツ活動の促進など)	その他	特になし	無回答
全体(n=294)		24.1	20.7	22.8	21.8	20.1	13.9	11.2	12.6	12.6	8.8	5.8	7.1	5.4	5.4	1.7	4.8	1.7	5.4	15.6
性別	男性(n=116)	25.0	13.8	17.2	12.9	22.4	10.3	11.2	19.8	11.2	9.5	6.0	6.0	6.9	7.8	1.7	5.2	2.6	8.6	16.4
	女性(n=175)	24.0	24.6	25.7	28.0	18.9	16.0	10.9	8.0	13.7	8.6	5.7	8.0	4.6	4.0	1.7	4.6	1.1	3.4	14.9

9 認知症について

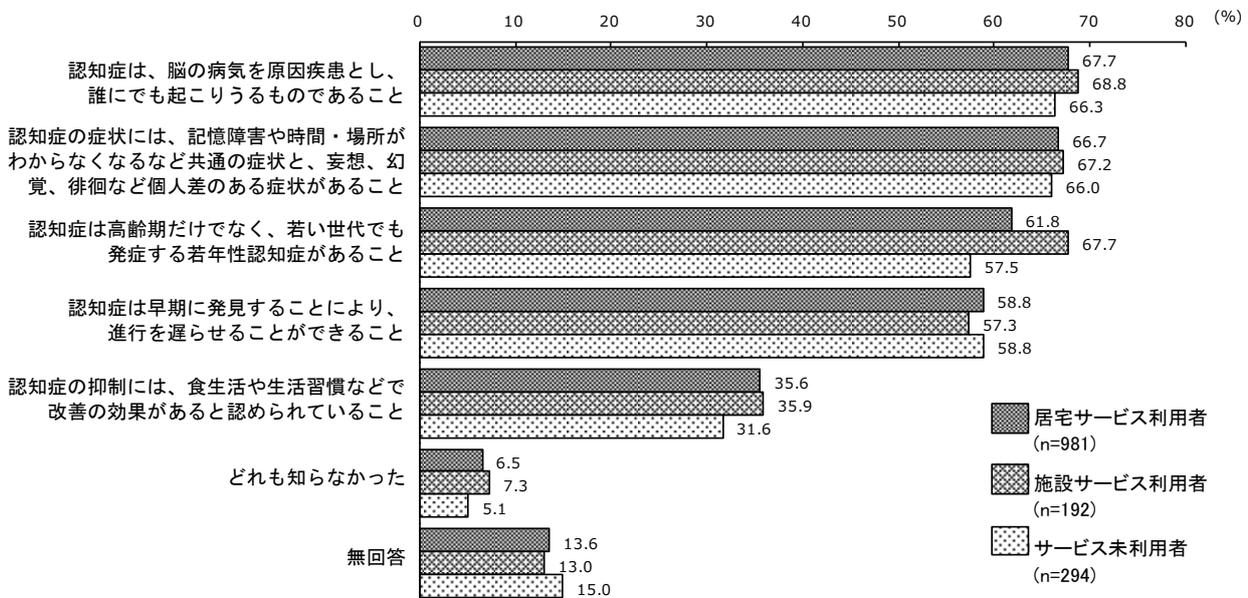
(1) 認知症について知っていること (問21)

認知症について知っていることは、居宅サービス利用者は「認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること」(67.7%)が最も多く、「認知症の症状には、記憶障害や時間・場所がわからなくなるなど共通の症状と、妄想、幻覚、徘徊など個人差のある症状があること」(66.7%)、「認知症は高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること」(61.8%)と続いている。

施設サービス利用者は、「認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること」(68.8%)が最も多く、「認知症は高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること」(67.7%)、「認知症の症状には、記憶障害や時間・場所がわからなくなるなど共通の症状と、妄想、幻覚、徘徊など個人差のある症状があること」(67.2%)と続いている。

サービス未利用者は、「認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること」(66.3%)が最も多く、「認知症の症状には、記憶障害や時間・場所がわからなくなるなど共通の症状と、妄想、幻覚、徘徊など個人差のある症状があること」(66.0%)、「認知症は早期に発見することにより、進行を遅らせることができること」(58.8%)と続いている。

■ 認知症について知っていること (複数回答)



居宅サービス利用者について

要介護度別にみると、要支援者は「認知症は早期に発見することにより、進行を遅らせることができること」(66.8%)、中重度者は「認知症の抑制には、食生活や生活習慣などで改善の効果があると認められていること」(42.0%)が全体に比べ多くなっている。

■ 認知症について知っていること (複数回答) (居宅サービス利用者)

		こりし気認 とう、を知 る誰原症 もに因は ので疾、 でも患脳 あ起との るこ病	あ人幻のな間は認 る差覚症く・、知 この、状な場記症 とあ徘徊るとる所憶の 症な妄どわ害状 状ど想共かやに が個、通ら時	こ年代け認 と性でで知 認めな症 知発くは 症症、高 がす若齡 あるい期 る若世だ	とるり見認 こ、す知 と進る症 が行こは でをと早 き遅に期 るらよに こせ発	ら効習は認 れ果慣、知 てがな食症 いあど生の るで活抑 こと改や制 と認善生に めの活	たど れも 知ら な か つ	無 回 答
全体(n=981)		67.7	66.7	61.8	58.8	35.6	6.5	13.6
要介護度別	要支援者(n=217)	69.1	72.4	65.0	66.8	39.6	3.7	14.3
	軽度者(n=485)	66.8	63.1	59.2	56.1	31.5	7.8	11.8
	中重度者(n=255)	71.0	71.8	66.7	60.0	42.0	6.7	12.9

(2) 認知症予防啓発活動への参加・認知状況 (問 22)

居宅サービス利用者について

居宅サービス利用者の認知症予防啓発活動について、「参加したことがある」「現在参加している」を合わせた“参加状況”は、『認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』が3.6%、『認知症に関する講演会やシンポジウム』が4.8%となっている。「参加したことがある」「現在参加している」「知っているが参加したことがない」を合わせた“認知度”は、『認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』が24.1%、『認知症に関する講演会やシンポジウム』が30.8%となっている。

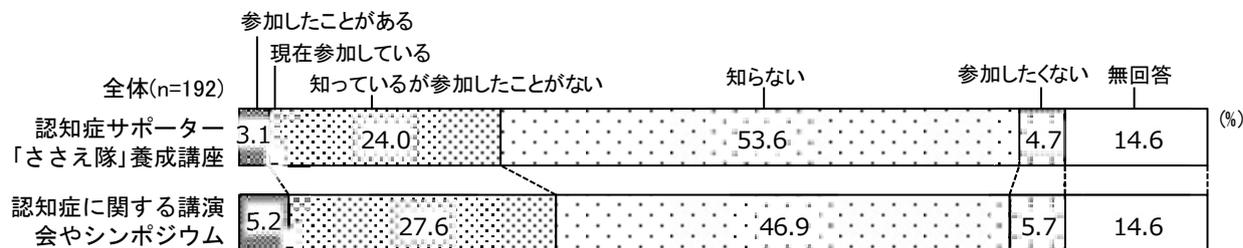
■認知症予防啓発活動への参加・認知状況 (居宅サービス利用者)



施設サービス利用者について

施設サービス利用者の認知症予防啓発活動について、“参加状況”は、『認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』が3.1%、『認知症に関する講演会やシンポジウム』が5.2%となっている。“認知度”は、『認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』が27.1%、『認知症に関する講演会やシンポジウム』が32.8%となっている。

■認知症予防啓発活動への参加・認知状況 (施設サービス利用者)



サービス未利用者について

サービス未利用者の認知症予防啓発活動について、“参加状況”は、『認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』が3.4%、『認知症に関する講演会やシンポジウム』が4.1%となっている。“認知度”は、『認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』が22.8%、『認知症に関する講演会やシンポジウム』が30.0%となっている。

■認知症予防啓発活動への参加・認知状況 (サービス未利用者)

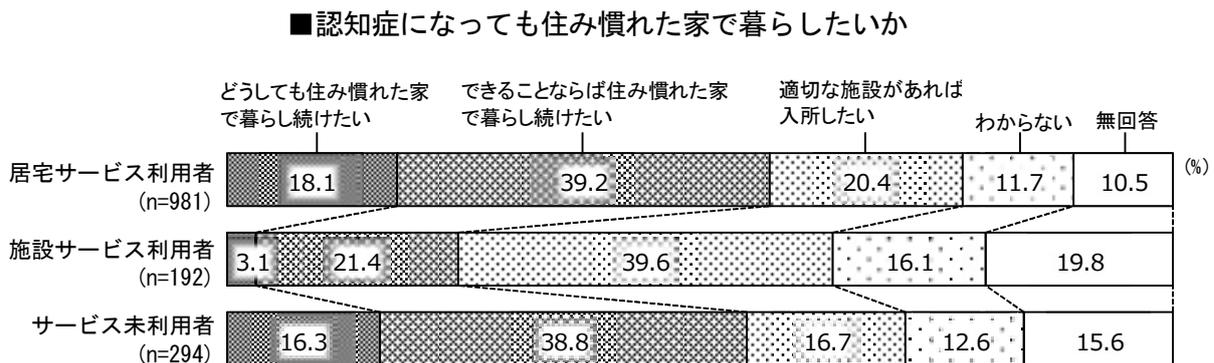


(3) 認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいか (問23)

認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいか聞いたところ、居宅サービス利用者は「できることならば住み慣れた家で暮らし続けたい」(39.2%)が最も多く、「適切な施設があれば入所したい」(20.4%)、「どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい」(18.1%)と続いている。

施設サービス利用者は、「適切な施設があれば入所したい」(39.6%)が最も多く、「できることならば住み慣れた家で暮らし続けたい」(21.4%)、「どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい」(3.1%)と続いている。

サービス未利用者は、「できることならば住み慣れた家で暮らし続けたい」(38.8%)が最も多く、「適切な施設があれば入所したい」(16.7%)、「どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい」(16.3%)と続いている。



居宅サービス利用者について

性別にみると、女性は「適切な施設があれば入所したい」(23.1%)が男性に比べ多くなっている。

地区別にみると、第1地区は「できることならば住み慣れた家で暮らし続けたい」(47.4%)、第5地区は「適切な施設があれば入所したい」(28.2%)が全体に比べ多くなっている。

さらに世帯の状況別にみると、ひとり暮らしの人は「適切な施設があれば入所したい」(30.6%)がひとり暮らし以外の人に比べ多く、ひとり暮らし以外の方は「できることならば住み慣れた家で暮らし続けたい」(42.7%)がひとり暮らしの人に比べ多くなっている。

■認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいか (居宅サービス利用者)

		し慣ど 続れう けたし た家て いでも 暮住 らみ	い でばで 暮住き らみる し慣こ 続れと けたな た家ら	れ適ば 切入な 所施 し設 たが いあ	わ か ら な い	無 回 答
全体(n=981)		18.1	39.2	20.4	11.7	10.5
性別	男性(n=316)	20.6	38.3	15.2	13.9	12.0
	女性(n=653)	16.8	39.8	23.1	10.7	9.5
地区別	第1地区(n=173)	15.6	47.4	14.5	13.9	8.7
	第2地区(n=171)	21.6	34.5	23.4	8.8	11.7
	第3地区(n=194)	21.6	39.2	20.1	10.3	8.8
	第4地区(n=127)	16.5	39.4	16.5	15.7	11.8
	第5地区(n=142)	16.9	32.4	28.2	12.7	9.9
	第6地区(n=141)	15.6	45.4	19.9	8.5	10.6
世帯の 状況別	ひとり暮らし(n=248)	15.3	30.6	30.6	13.3	10.1
	ひとり暮らし以外(n=709)	19.2	42.7	17.1	11.3	9.7

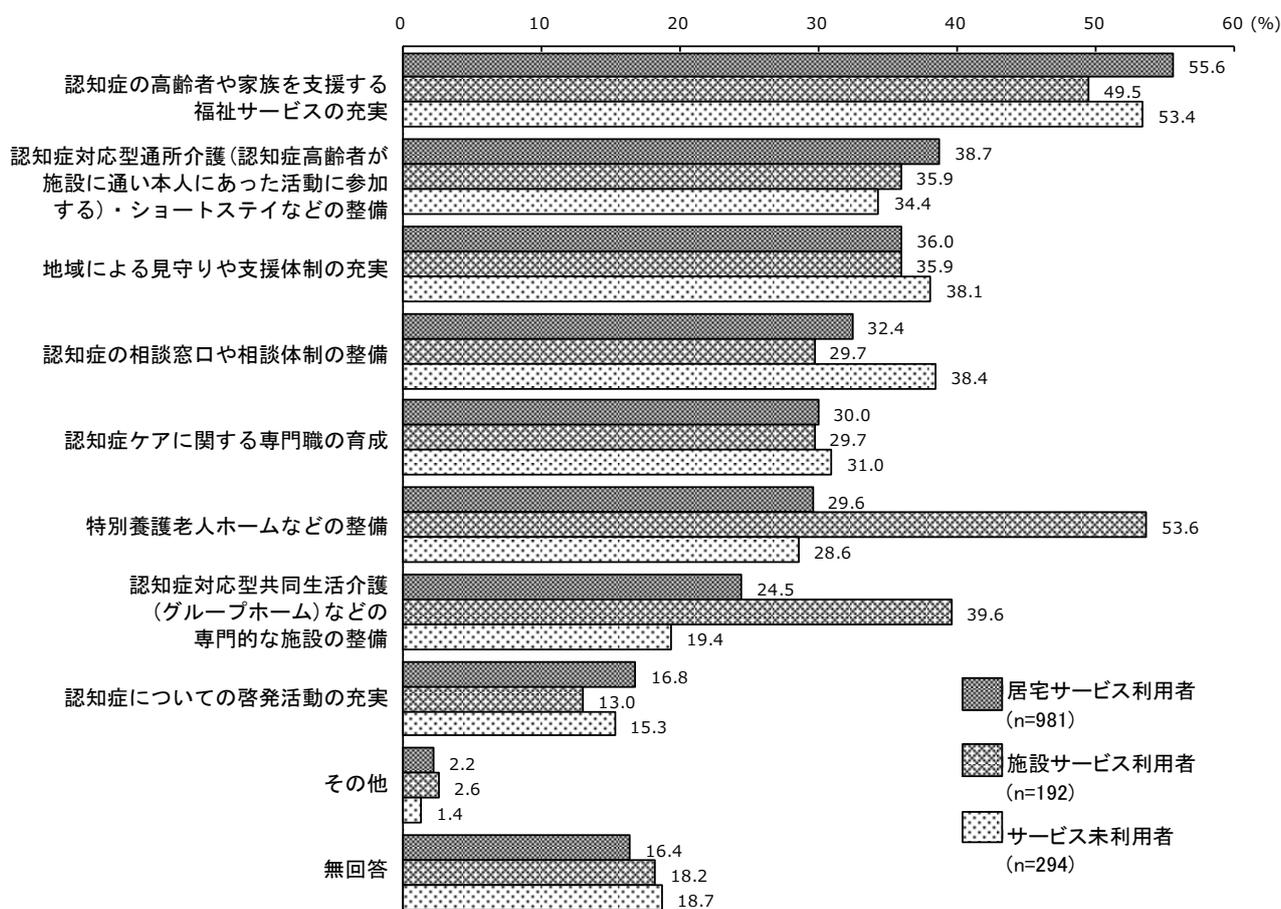
(4) 認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと (問 24)

認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なことは、居宅サービス利用者は「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実」(55.6%)が最も多く、「認知症対応型通所介護(認知症高齢者が施設に通い本人にあった活動に参加する)・ショートステイなどの整備」(38.7%)、「地域による見守りや支援体制の充実」(36.0%)と続いている。

施設サービス利用者は、「特別養護老人ホームなどの整備」(53.6%)が最も多く、「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実」(49.5%)、「認知症対応型共同生活介護(グループホーム)などの専門的な施設の整備」(39.6%)と続いている。

サービス未利用者は、「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実」(53.4%)が最も多く、「認知症の相談窓口や相談体制の整備」(38.4%)、「地域による見守りや支援体制の充実」(38.1%)と続いている。

■ 認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと (複数回答)



居宅サービス利用者について

性別にみると、女性は「地域による見守りや支援体制の充実」(39.4%)、「認知症の相談窓口や相談体制の整備」(34.8%)、「特別養護老人ホームなどの整備」(32.8%)が男性に比べ多くなっている。

要介護度別にみると、要支援者は「認知症の相談窓口や相談体制の整備」(39.6%)、「認知症ケアに関する専門職の育成」(37.8%)、中重度者は「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実」(64.3%)、「認知症対応型通所介護(認知症高齢者が施設に通い本人にあった活動に参加する)・ショートステイなどの整備」(46.7%)、「特別養護老人ホームなどの整備」(36.9%)が全体に比べ多くなっている。

■認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと(複数回答)(居宅サービス利用者)

		認知症の高齢者や家族の充実を支援	認知症対応型通所介護(本人に知)	地域による見守りや支援体制の充実	認知症の相談窓口や相談体制の整備	認知症ケアに関する専門職の育成	特別養護老人ホームなどの整備	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)などの専門的施設の整備	認知症についての啓発活動の充実	その他	無回答
全体(n=981)		55.6	38.7	36.0	32.4	30.0	29.6	24.5	16.8	2.2	16.4
性別	男性(n=316)	54.4	35.8	30.1	28.2	26.9	24.1	22.2	17.7	2.5	19.0
	女性(n=653)	56.5	40.1	39.4	34.8	31.7	32.8	26.0	16.4	2.0	14.7
要介護度別	要支援者(n=217)	54.4	35.9	38.7	39.6	37.8	30.0	23.0	21.2	2.3	15.7
	軽度者(n=485)	52.8	36.3	34.2	30.7	26.2	26.4	23.9	14.4	1.9	16.9
	中重度者(n=255)	64.3	46.7	38.4	30.6	32.2	36.9	28.6	17.6	2.7	13.3

サービス未利用者について

性別にみると、女性は「認知症対応型通所介護(認知症高齢者が施設に通い本人にあった活動に参加する)・ショートステイなどの整備」(40.6%)が男性に比べ多くなっている。

■認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと(複数回答)(サービス未利用者)

		認知症の高齢者や家族の充実を支援	認知症対応型通所介護(本人に知)	地域による見守りや支援体制の充実	認知症の相談窓口や相談体制の整備	認知症ケアに関する専門職の育成	特別養護老人ホームなどの整備	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)などの専門的施設の整備	認知症についての啓発活動の充実	その他	無回答
全体(n=294)		53.4	34.4	38.1	38.4	31.0	28.6	19.4	15.3	1.4	18.7
性別	男性(n=116)	50.9	25.9	34.5	41.4	34.5	29.3	19.0	17.2	1.7	16.4
	女性(n=175)	55.4	40.6	40.6	36.0	29.1	27.4	20.0	14.3	1.1	20.0

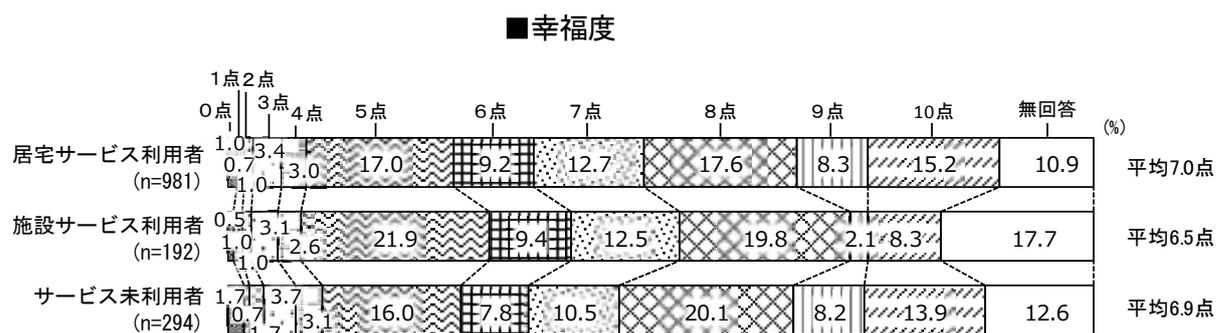
10 日ごろの生活について

(1) 幸福度 (問25)

幸福度（「とても不幸」が0点、「とても幸せ」が10点）は、居宅サービス利用者は、「8点」（17.6%）が最も多く、「5点」（17.0%）、「10点」（15.2%）と続いており、平均は7.0点である。

施設サービス利用者は、「5点」（21.9%）が最も多く、「8点」（19.8%）、「7点」（12.5%）と続いており、平均は6.5点である。

サービス未利用者は、「8点」（20.1%）が最も多く、「5点」（16.0%）、「10点」（13.9%）と続いており、平均は6.9点である。



居宅サービス利用者について

年齢別にみると、65～74歳は「9点」（1.5%）、「10点」（2.9%）が75歳以上に比べ少なくなっている。

地区別にみると、第6地区は「10点」（9.2%）が全体に比べ少なくなっている。

■幸福度（居宅サービス利用者）

(%)

		0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	平均点
全体(n=981)		1.0	0.7	1.0	3.4	3.0	17.0	9.2	12.7	17.6	8.3	15.2	10.9	7.0
年齢別	75歳以上(n=905)	1.1	0.7	1.1	3.2	3.0	16.9	8.6	12.6	17.6	8.7	16.1	10.4	7.0
	65～74歳(n=68)	-	1.5	-	5.9	2.9	19.1	16.2	16.2	19.1	1.5	2.9	14.7	6.2
地区別	第1地区(n=173)	1.2	1.2	1.7	1.7	1.7	17.3	10.4	13.9	18.5	8.1	13.3	11.0	6.9
	第2地区(n=171)	1.2	1.2	1.2	2.9	4.1	12.9	8.8	18.7	15.2	8.2	14.0	11.7	6.9
	第3地区(n=194)	0.5	-	1.0	3.1	1.5	18.6	7.7	10.8	19.6	9.8	20.1	7.2	7.3
	第4地区(n=127)	1.6	0.8	1.6	5.5	3.1	15.7	8.7	7.9	18.9	6.3	15.7	14.2	6.8
	第5地区(n=142)	0.7	1.4	0.7	2.1	3.5	16.2	11.3	10.6	16.2	9.9	19.7	7.7	7.2
	第6地区(n=141)	0.7	-	-	4.3	5.0	21.3	8.5	14.9	15.6	7.8	9.2	12.8	6.7

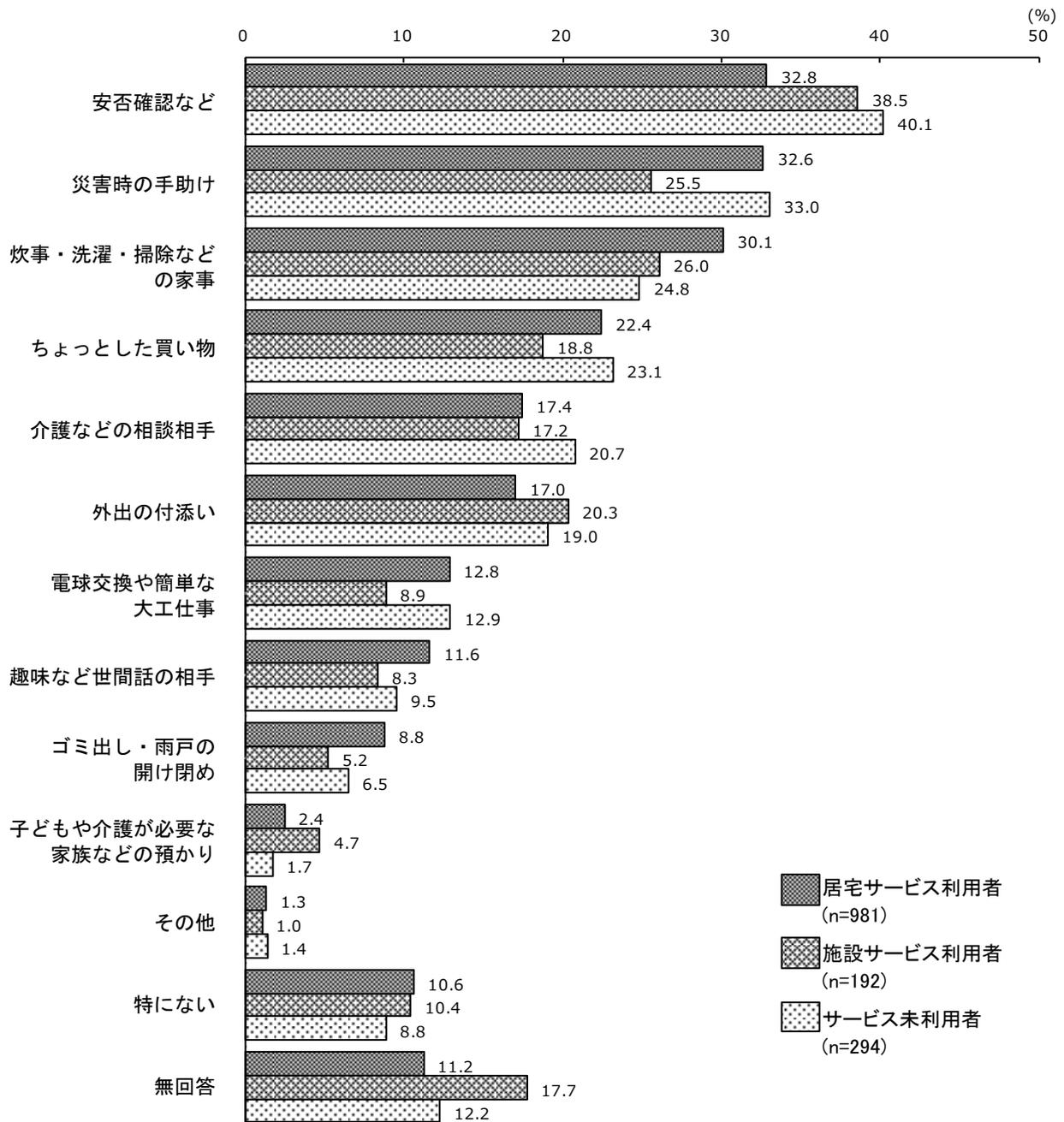
(2) 日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助け (問26)

日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助けは、居宅サービス利用者は「安否確認など」(32.8%)が最も多く、「災害時の手助け」(32.6%)、「炊事・洗濯・掃除などの家事」(30.1%)と続いている。

施設サービス利用者は、「安否確認など」(38.5%)が最も多く、「炊事・洗濯・掃除などの家事」(26.0%)、「災害時の手助け」(25.5%)と続いている。

サービス未利用者は、「安否確認など」(40.1%)が最も多く、「災害時の手助け」(33.0%)、「炊事・洗濯・掃除などの家事」(24.8%)と続いている。

■日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助け (複数回答)



居宅サービス利用者について

年齢別にみると、75歳以上は「介護などの相談相手」（18.2%）が65～74歳に比べ多くなっている。

要介護度別にみると、要支援者は「ちょっとした買い物」（31.3%）、「電球交換や簡単な大工仕事」（18.0%）が全体に比べ多くなっている。

■日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助け（複数回答）（居宅サービス利用者）

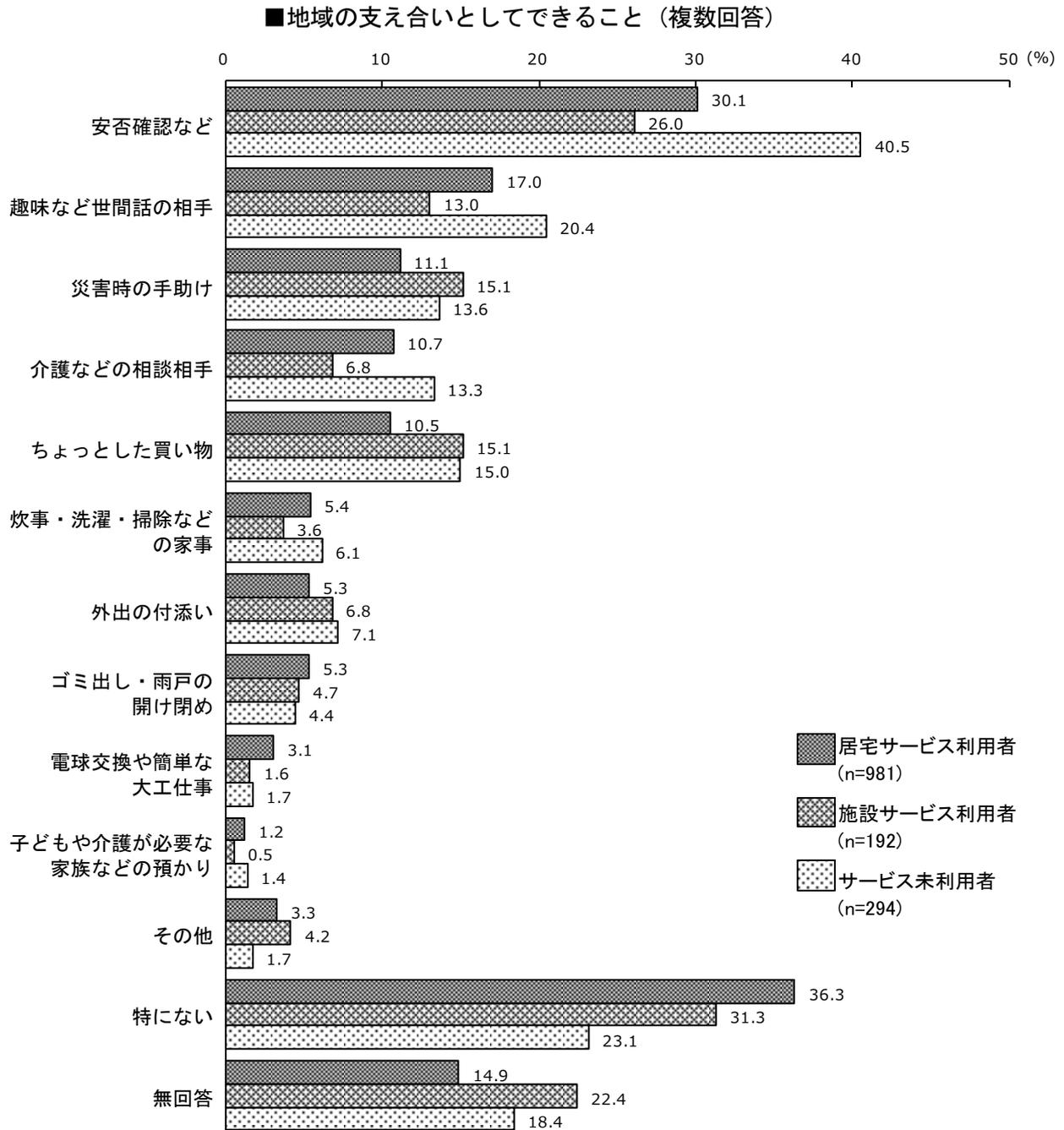
	安否確認など	災害時の手助け	掃除・洗濯・家事	炊事・洗濯・買い物	ちょっとした買い物	介護などの相談相手	外出の付添い	単球交換や簡単な工事	電球交換や簡単な工事	趣味の相手など世間話	戸の出し入れ・雨開け	ゴミの出し入れ	家族の必要な預かり	子どもや介護	その他	特になし	無回答
全体(n=981)	32.8	32.6	30.1	22.4	17.4	17.0	12.8	11.6	8.8	2.4	1.3	10.6	11.2				
年齢別	75歳以上(n=905)	33.3	32.8	30.2	22.1	18.2	16.8	12.8	11.0	8.8	2.3	1.4	10.6	11.3			
	65～74歳(n=68)	27.9	33.8	30.9	27.9	5.9	20.6	14.7	17.6	8.8	4.4	0.0	8.8	8.8			
要介護度別	要支援者(n=217)	35.0	31.8	31.8	31.3	21.2	17.1	18.0	8.8	9.2	0.5	0.5	8.8	9.7			
	軽度者(n=485)	32.2	31.1	30.3	22.3	17.1	19.2	13.4	11.3	8.5	1.9	2.3	10.5	10.7			
	中重度者(n=255)	33.7	37.3	29.4	14.9	14.9	12.9	8.2	13.7	9.0	5.5	0.4	12.2	12.2			

(3) 地域の支え合いとしてできること (問27)

地域の支え合いとしてできることは、居宅サービス利用者は「安否確認など」(30.1%)が最も多く、「趣味など世間話の相手」(17.0%)、「災害時の手助け」(11.1%)と続いている。

施設サービス利用者は、「安否確認など」(26.0%)が最も多く、「災害時の手助け」と「ちょっとした買い物」(ともに15.1%)、「趣味など世間話の相手」(13.0%)と続いている。

サービス未利用者は、「安否確認など」(40.5%)が最も多く、「趣味など世間話の相手」(20.4%)、「ちょっとした買い物」(15.0%)と続いている。



居宅サービス利用者について

性別にみると、男性は「電球交換や簡単な大工仕事」（4.4%）が女性に比べ多く、女性は「ちょっとした買い物」（11.9%）、「炊事・洗濯・掃除などの家事」（6.4%）が男性に比べ多くなっている。要介護度別にみると、要支援者は「趣味など世間話の相手」（24.9%）、「ちょっとした買い物」（14.7%）、「外出の付添い」（8.8%）が全体に比べ多くなっている。

■地域の支え合いとしてできること（複数回答）（居宅サービス利用者）

		安否確認など	趣味など世間話の相手	災害時の手助け	介護などの相談相手	ちょっとした買い物	炊事・洗濯・掃除などの家事	外出の付添い	ゴミ出し・雨戸の閉め	電球交換や簡単な大工仕事	子どもの預かり	子どもや介護が必要な家族	その他	特になし	無回答
全体(n=981)		30.1	17.0	11.1	10.7	10.5	5.4	5.3	5.3	3.1	1.2	3.3	36.3	14.9	
性別	男性(n=316)	27.5	13.9	12.0	12.3	7.6	3.2	5.1	5.7	4.4	0.9	3.5	37.0	15.8	
	女性(n=653)	31.2	17.9	10.7	10.1	11.9	6.4	5.2	5.2	2.1	1.4	3.2	36.3	14.2	
要介護度別	要支援者(n=217)	35.0	24.9	8.8	14.7	14.7	6.0	8.8	4.1	2.8	0.5	3.2	28.1	14.3	
	軽度者(n=485)	29.5	14.6	10.3	9.3	8.9	4.9	4.1	6.8	3.5	0.6	4.1	37.5	15.1	
	中重度者(n=255)	27.8	12.9	14.5	10.2	10.6	5.5	4.7	3.9	2.4	3.1	2.0	42.4	13.3	

施設サービス利用者について

性別にみると、女性は「災害時の手助け」（18.2%）が男性に比べ多くなっている。

■地域の支え合いとしてできること（複数回答）（施設サービス利用者）

		安否確認など	趣味など世間話の相手	災害時の手助け	介護などの相談相手	ちょっとした買い物	炊事・洗濯・掃除などの家事	外出の付添い	ゴミ出し・雨戸の閉め	電球交換や簡単な大工仕事	子どもの預かり	子どもや介護が必要な家族	その他	特になし	無回答
全体(n=192)		26.0	13.0	15.1	6.8	15.1	3.6	6.8	4.7	1.6	0.5	4.2	31.3	22.4	
性別	男性(n=49)	20.4	20.4	6.1	2.0	10.2	4.1	6.1	4.1	2.0	2.0	4.1	22.4	28.6	
	女性(n=143)	28.0	10.5	18.2	8.4	16.8	3.5	7.0	4.9	1.4	0.0	4.2	34.3	20.3	

サービス未利用者について

性別にみると、男性は「子どもや介護が必要な家族などの預かり」（3.4%）が男性に比べ多くなっている。

■地域の支え合いとしてできること（複数回答）（サービス未利用者）

		安否確認など	趣味など世間話の相手	災害時の手助け	介護などの相談相手	ちょっとした買い物	炊事・洗濯・掃除などの家事	外出の付添い	ゴミ出し・雨戸の閉め	電球交換や簡単な大工仕事	子どもの預かり	子どもや介護が必要な家族	その他	特になし	無回答
全体(n=294)		40.5	20.4	13.6	13.3	15.0	6.1	7.1	4.4	1.7	1.4	1.7	23.1	18.4	
性別	男性(n=116)	38.8	19.0	18.1	12.9	14.7	4.3	6.0	1.7	0.9	3.4	2.6	23.3	16.4	
	女性(n=175)	42.3	21.7	10.9	13.7	14.9	7.4	7.4	6.3	2.3	-	0.6	23.4	19.4	

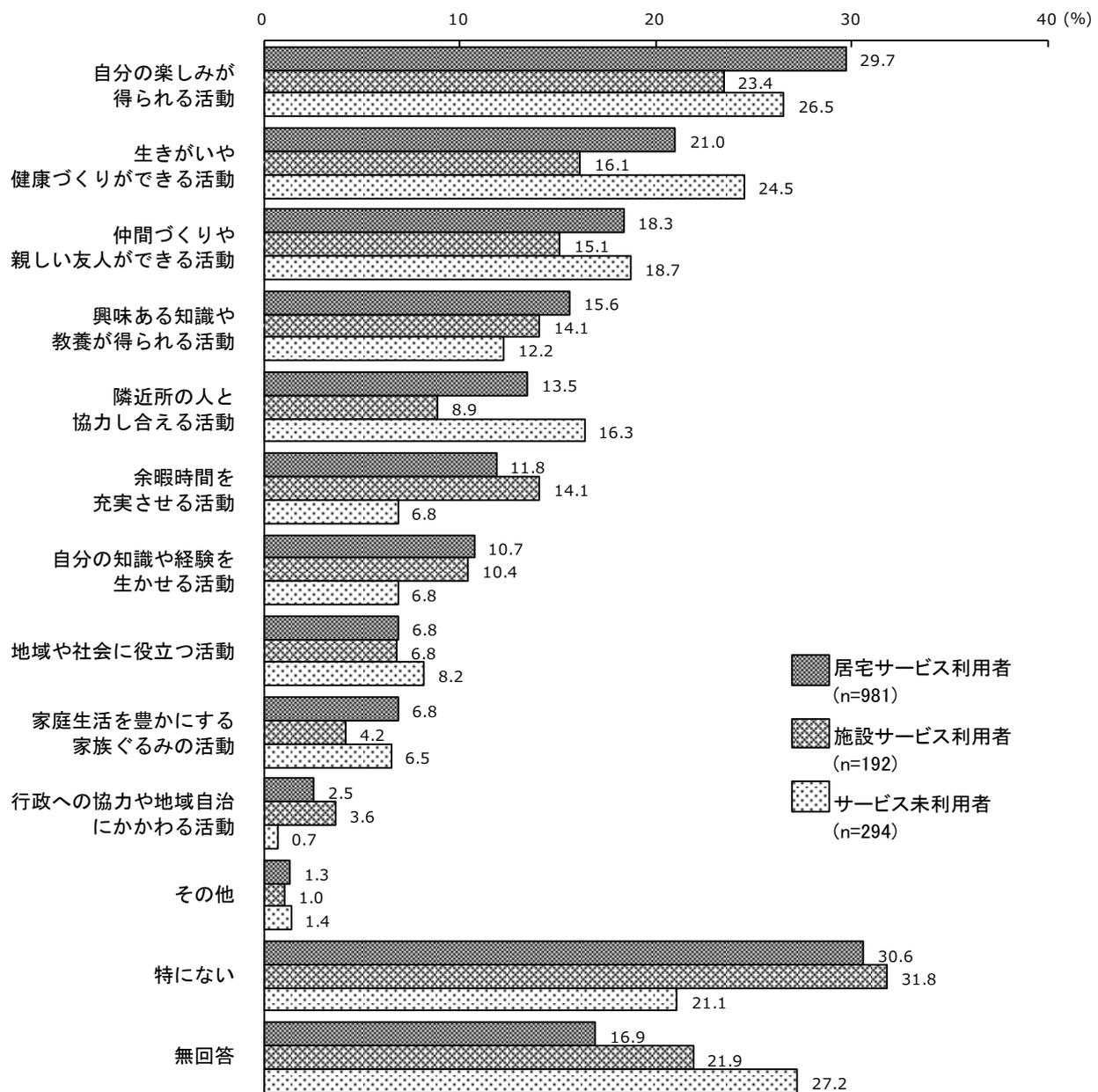
(4) これから参加したい活動（問28）

これから参加したい活動は、居宅サービス利用者は「自分の楽しみが得られる活動」（29.7%）が最も多く、「生きがいや健康づくりができる活動」（21.0%）、「仲間づくりや親しい友人ができる活動」（18.3%）と続いている。

施設サービス利用者は、「自分の楽しみが得られる活動」（23.4%）が最も多く、「生きがいや健康づくりができる活動」（16.1%）、「仲間づくりや親しい友人ができる活動」（15.1%）と続いている。

サービス未利用者は、「自分の楽しみが得られる活動」（26.5%）が最も多く、「生きがいや健康づくりができる活動」（24.5%）、「仲間づくりや親しい友人ができる活動」（18.7%）と続いている。

■これから参加したい活動（複数回答）



居宅サービス利用者について

性別にみると、女性は「自分の楽しみが得られる活動」(32.9%)、「生きがいや健康づくりができる活動」(23.0%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「地域や社会に役立つ活動」(16.2%)が75歳以上に比べ多くなっている。

要介護度別にみると、要支援者は「生きがいや健康づくりができる活動」(30.4%)、「仲間づくりや親しい友人ができる活動」(27.6%)、「興味ある知識や教養が得られる活動」(21.2%)、「隣近所の人と協力し合える活動」(22.1%)が全体に比べ多くなっている。

地区別にみると、第2地区は「興味ある知識や教養が得られる活動」(24.0%)、第3地区は「特になし」(39.7%)が全体に比べ多くなっている。

■これから参加したい活動(複数回答)(居宅サービス利用者)

		得自 ら分 れの 楽し み が	活 動 が い で き 健 康	生 き が い や 健 康 づ き り が い で き 健 康	仲 間 づ き り が い で き 健 康	活 動 が い で き 健 康	興 味 あ る 知 識 や 教 養 が 得 ら れ る 活 動	力 隣 近 所 の 人 と 協 働 し 合 え る 活 動	余 暇 時 間 を 充 実 さ せ る 活 動	動 験 を 分 生 か し て 知 識 や 活 動	立 地 域 や 社 会 に 役 立 つ 活 動	み の す 庭 生 活 を 豊 か に す る 活 動	わ る 地 域 自 治 の 協 力 か か や	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体(n=981)		29.7	21.0	18.3	15.6	13.5	11.8	10.7	6.8	6.8	2.5	1.3	30.6	16.9		
性別	男性(n=316)	23.1	16.8	14.9	13.6	12.3	10.4	13.0	7.3	8.9	3.2	1.3	33.2	19.0		
	女性(n=653)	32.9	23.0	20.1	16.5	14.1	12.4	9.3	6.6	6.0	2.3	1.4	29.7	15.5		
年齢別	75歳以上(n=905)	29.2	21.0	18.5	15.4	13.9	12.0	10.3	6.2	7.1	2.4	1.4	30.6	16.9		
	65～74歳(n=68)	38.2	23.5	16.2	19.1	8.8	8.8	16.2	16.2	4.4	4.4	0.0	32.4	11.8		
要介護度別	要支援者(n=217)	33.6	30.4	27.6	21.2	22.1	14.3	11.1	9.7	6.9	2.8	0.9	22.1	18.0		
	軽度者(n=485)	31.1	18.4	15.3	13.8	11.5	12.2	10.7	5.8	6.6	2.7	1.9	30.7	15.7		
	中重度者(n=255)	23.9	18.4	15.3	13.7	9.4	8.6	10.2	7.1	7.8	2.4	0.8	39.2	16.5		
地区別	第1地区(n=173)	35.8	22.5	20.2	15.6	17.9	11.6	13.9	8.7	9.2	4.0	1.2	29.5	15.6		
	第2地区(n=171)	32.7	24.0	20.5	24.0	17.5	10.5	11.1	7.0	5.8	4.7	0.6	26.3	17.5		
	第3地区(n=194)	24.7	16.5	11.3	8.8	10.3	9.8	8.8	6.2	7.2	1.5	1.5	39.7	13.4		
	第4地区(n=127)	32.3	22.0	19.7	16.5	13.4	12.6	7.1	7.9	5.5	1.6	0.8	30.7	17.3		
	第5地区(n=142)	23.9	18.3	20.4	13.4	11.3	14.1	10.6	4.2	6.3	0.7	2.8	28.9	16.2		
	第6地区(n=141)	29.8	22.7	19.1	18.4	11.3	13.5	12.1	7.1	7.8	2.1	0.7	28.4	17.7		

サービス未利用者について

性別にみると、男性は「生きがいや健康づくりができる活動」(31.0%)、「地域や社会に役立つ活動」(12.9%)が女性に比べ多くなっている。

要介護度別にみると、要支援者は「自分の楽しみが得られる活動」(35.0%)が全体に比べ多くなっている。

■これから参加したい活動(複数回答)(サービス未利用者)

		得自 ら分 れの 楽し み が	活 動 が い で き 健 康	生 き が い や 健 康 づ き り が い で き 健 康	仲 間 づ き り が い で き 健 康	活 動 が い で き 健 康	興 味 あ る 知 識 や 教 養 が 得 ら れ る 活 動	力 隣 近 所 の 人 と 協 働 し 合 え る 活 動	余 暇 時 間 を 充 実 さ せ る 活 動	動 験 を 分 生 か し て 知 識 や 活 動	立 地 域 や 社 会 に 役 立 つ 活 動	み の す 庭 生 活 を 豊 か に す る 活 動	わ る 地 域 自 治 の 協 力 か か や	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体(n=294)		26.5	24.5	18.7	12.2	16.3	6.8	6.8	8.2	6.5	0.7	1.4	21.1	27.2		
性別	男性(n=116)	28.4	31.0	15.5	12.9	13.8	7.8	5.2	12.9	3.4	0.9	2.6	24.1	22.4		
	女性(n=175)	25.1	20.6	21.1	12.0	17.7	5.7	8.0	5.1	8.6	0.6	0.6	19.4	29.7		
要介護度別	要支援者(n=123)	35.0	29.3	22.0	13.8	22.0	9.8	5.7	8.1	6.5	0.8	1.6	10.6	27.6		
	軽度者(n=87)	23.0	25.3	19.5	12.6	13.8	5.7	10.3	10.3	3.4	1.1	1.1	31.0	20.7		
	中重度者(n=64)	18.8	12.5	9.4	12.5	9.4	3.1	4.7	4.7	10.9	0.0	1.6	31.3	32.8		

(5) 市の高齢者保健福祉サービスや介護保険制度についての意見・要望〈自由回答〉(問29)

市の高齢者保健福祉サービスや介護保険制度について、自由回答形式で聞いたところ、全体で172件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

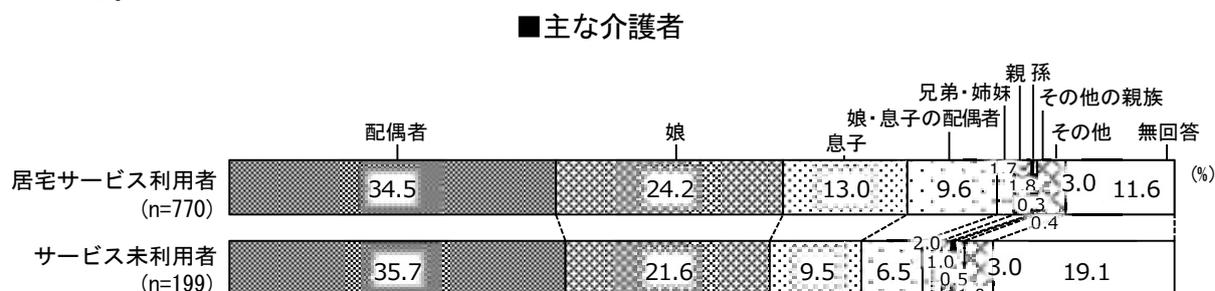
制度、サービス、事業について：41件
施設について：11件
人材について：10件
保険料について：6件
情報提供、周知について：4件
相談窓口、連絡先について：4件
家族への支援について：4件
手続きについて：3件
交通・移動支援について：3件
住居について：2件
現状や将来について：27件
アンケートについての意見：2件
アンケートを回答しての感想：2件
その他の市への意見・要望：8件
その他：36件
わからない・特になし：9件

11 主な介護者の状況や意向について（主な介護者が回答）

（1）主な介護者（問30）

主な介護者は、居宅サービス利用者は「配偶者」（34.5%）が最も多く、「娘」（24.2%）、「息子」（13.0%）と続いている。

サービス未利用者は、「配偶者」（35.7%）が最も多く、「娘」（21.6%）、「息子」（9.5%）と続いている。



居宅サービス利用者について

性別にみると、男性は「配偶者」（63.6%）が女性に比べ多く、女性は「娘」（29.9%）、「息子」（16.7%）、「娘・息子の配偶者」（12.4%）が男性に比べ多くなっている。

要介護度別にみると、中重度者は「配偶者」（46.6%）が全体に比べ多くなっている。

地区別にみると、第3地区は「息子」（20.9%）、第6地区は「配偶者」（45.0%）が全体に比べ多くなっている。

■主な介護者（居宅サービス利用者）

		(%)									
		配偶者	娘	息子	偶子娘者の・配息	姉兄弟・	親	孫	のそ親の族他	そその他	無回答
全体(n=770)		34.5	24.2	13.0	9.6	1.7	1.8	0.3	0.4	3.0	11.6
性別	男性(n=253)	63.6	13.4	5.1	3.2	1.2	1.2	0.0	0.0	3.6	8.7
	女性(n=509)	20.6	29.9	16.7	12.4	2.0	2.2	0.4	0.6	2.8	12.6
要介護度別	要支援者(n=151)	25.8	19.2	11.9	7.3	3.3	1.3	0.0	0.7	4.0	26.5
	軽度者(n=385)	31.7	25.2	13.2	11.2	1.0	2.6	0.3	0.3	3.6	10.9
	中重度者(n=219)	46.6	26.5	12.8	8.2	1.8	0.9	0.5	0.5	0.9	1.4
地区別	第1地区(n=136)	32.4	24.3	14.0	13.2	2.2	1.5	0.7	0.7	2.9	8.1
	第2地区(n=131)	35.9	26.0	9.9	9.2	0.8	1.5	0.8	0.0	1.5	14.5
	第3地区(n=163)	29.4	23.3	20.9	9.8	3.7	3.1	0.0	0.6	1.8	7.4
	第4地区(n=101)	31.7	24.8	10.9	7.9	1.0	2.0	0.0	1.0	5.0	15.8
	第5地区(n=114)	36.8	22.8	10.5	7.9	1.8	1.8	0.0	0.0	2.6	15.8
	第6地区(n=111)	45.0	24.3	9.9	8.1	0.0	0.9	0.0	0.0	2.7	9.0

サービス未利用者について

性別にみると、男性は「配偶者」（59.0%）が女性に比べ多く、女性は「娘」（28.8%）が男性に比べ多くなっている。

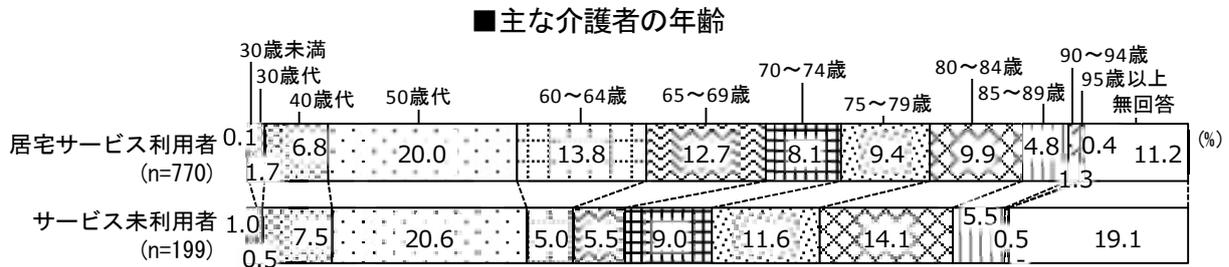
■主な介護者（サービス未利用者）

		(%)									
		配偶者	娘	息子	偶子娘者の・配息	姉兄弟・	親	孫	のそ親の族他	そその他	無回答
全体(n=199)		35.7	21.6	9.5	6.5	2.0	1.0	0.5	1.0	3.0	19.1
性別	男性(n=78)	59.0	11.5	6.4	5.1	2.6	1.3	0.0	0.0	1.3	12.8
	女性(n=118)	19.5	28.8	11.9	7.6	1.7	0.8	0.8	1.7	3.4	23.7

(2) 主な介護者の年齢 (問 31)

主な介護者の年齢は、居宅サービス利用者は「50歳代」(20.0%)が最も多く、「60～64歳」(13.8%)、「65～69歳」(12.7%)と続いている。

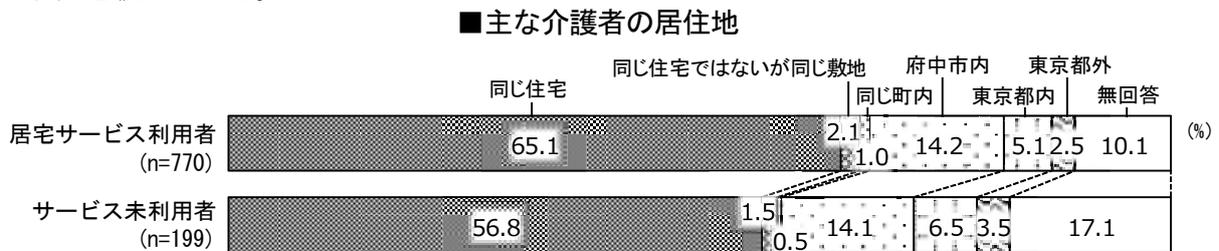
サービス未利用者は、「50歳代」(20.6%)が最も多く、「80～84歳」(14.1%)、「75～79歳」(11.6%)と続いている。



(3) 主な介護者の居住地 (問 32)

主な介護者の居住地は、居宅サービス利用者は「同じ住宅」(65.1%)が最も多く、「府中市内」(14.2%)、「東京都内」(5.1%)と続いている。

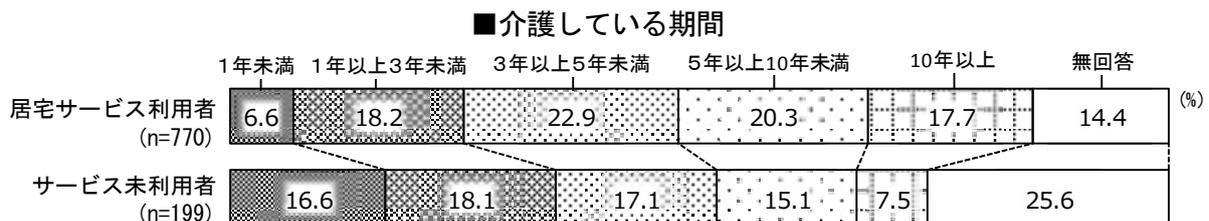
サービス未利用者は、「同じ住宅」(56.8%)が最も多く、「府中市内」(14.1%)、「東京都内」(6.5%)と続いている。



(4) 介護している期間 (問 33)

介護している期間は、居宅サービス利用者は「3年以上5年未満」(22.9%)が最も多く、「5年以上10年未満」(20.3%)、「1年以上3年未満」(18.2%)と続いている。

サービス未利用者は、「1年以上3年未満」(18.1%)が最も多く、「3年以上5年未満」(17.1%)、「1年未満」(16.6%)と続いている。



居宅サービス利用者について

要介護度別にみると、中重度者は「5年以上10年未満」(30.6%)、「10年以上」(24.7%)が全体に比べ多くなっている。

■介護している期間 (居宅サービス利用者)

		(%)					
		満1年未	未上1年満3年以	未上3年満5年以	年上5年未1年満0以	以10年以上	無回答
全体(n=770)		6.6	18.2	22.9	20.3	17.7	14.4
要介護度別	要支援者(n=151)	8.6	19.9	18.5	11.9	10.6	30.5
	軽度者(n=385)	7.0	20.0	25.7	17.9	16.4	13.0
	中重度者(n=219)	5.0	15.1	21.0	30.6	24.7	3.7

(5) 1日に介護している平均時間（問34）

1日に介護している平均時間は、居宅サービス利用者は「決まっていない」（31.8%）が最も多く、「1～4時間未満」（16.2%）、「10時間以上」（9.2%）と続いている。

サービス未利用者は、「決まっていない」（34.7%）が最も多く、「1～4時間未満」（12.1%）、「1日中かかりきり」（6.0%）と続いている。



居宅サービス利用者について

要介護度別にみると、中重度者は「6～10時間未満」（14.2%）、「10時間以上」（19.6%）、「1日中かかりきり」（17.4%）が全体に比べ多くなっている。

■ 介護している期間（居宅サービス利用者）

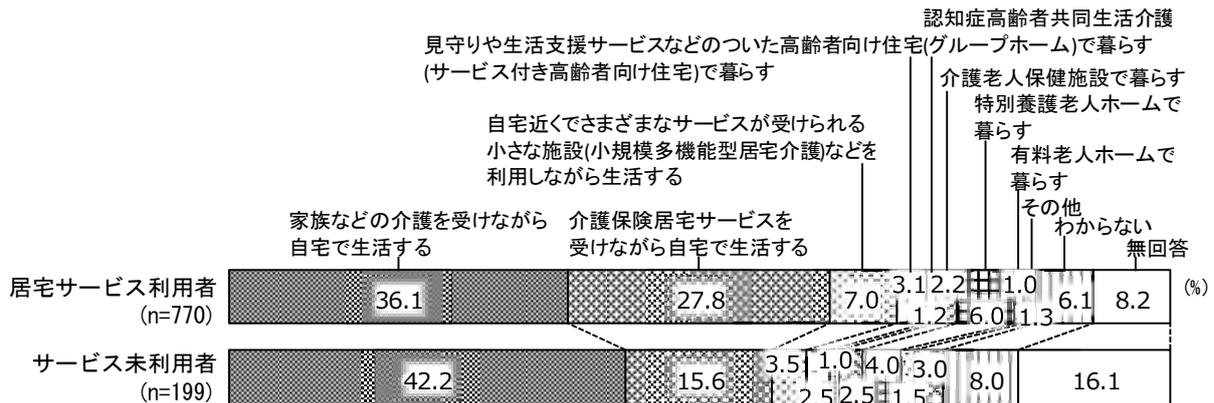
		満1時間未満	間1未4時	間4未6時	時6未10時	以10時間以上	か1日中かかりか	い決まな	無回答
全体(n=770)		5.3	16.2	8.2	6.6	9.2	8.3	31.8	14.3
要介護度別	要支援者(n=151)	6.6	15.9	6.0	2.6	2.6	3.3	34.4	28.5
	軽度者(n=385)	7.3	19.5	7.3	4.2	6.0	5.5	37.4	13.0
	中重度者(n=219)	0.9	11.0	11.0	14.2	19.6	17.4	21.5	4.6

(6) 被介護者が生活するのによいところ (問35)

被介護者が生活するのによいところは、居宅サービス利用者は「家族などの介護を受けながら自宅で生活する」(36.1%)が最も多く、「介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活する」(27.8%)、「自宅近くでさまざまなサービスが受けられる小さな施設(小規模多機能型居宅介護)などを利用しながら生活する」(7.0%)と続いている。

サービス未利用者は、「家族などの介護を受けながら自宅で生活する」(42.2%)が最も多く、「介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活する」(15.6%)、「特別養護老人ホームで暮らす」(4.0%)と続いている。

■被介護者が生活するのによいところ



居宅サービス利用者について

要介護度別にみると、中重度者は「特別養護老人ホームで暮らす」(10.5%)が全体に比べ多くなっている。

地区別にみると、第2地区と第3地区は「自宅近くでさまざまなサービスが受けられる小さな施設(小規模多機能型居宅介護)などを利用しながら生活する」(順に11.5%、11.0%)が全体に比べ多くなっている。

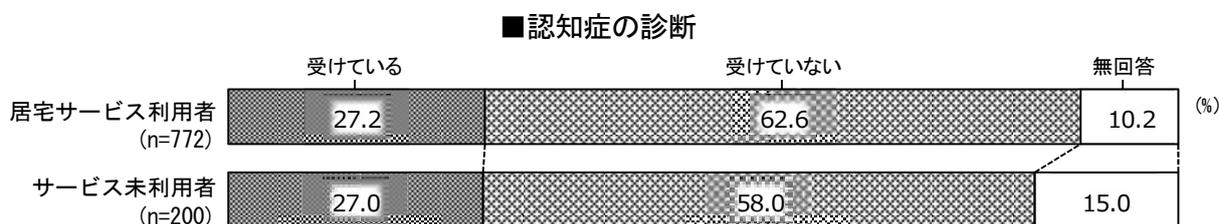
■被介護者が生活するのによいところ (居宅サービス利用者)

		宅を家で受けながら生活する	家族などの介護を受ける	介護保険居宅サービスを受けながら生活する	活用する	介護多機能型居宅	小さな施設(小規模)	が受けられる	自宅近くでさまざまな	向け住宅(グループホーム)で暮らす	見守りや生活支援サービスなどのついた高齢者向け住宅(サービス付き高齢者)	認知症高齢者共同生活介護	介護老人保健施設	特別養護老人ホーム	有料老人ホーム	その他	わからない	無回答
全体(n=770)		36.1	27.8	7.0	3.1	1.2	2.2	1.0	6.1	8.2								
要介護度別	要支援者(n=151)	31.8	26.5	6.6	6.6	0.7	2.6	2.0	0.0	0.7	7.9	14.6						
	軽度者(n=385)	38.7	26.0	6.8	2.3	1.6	2.6	4.9	1.8	1.0	5.7	8.6						
	中重度者(n=219)	34.2	33.3	8.2	2.3	0.9	1.4	10.5	0.0	2.3	5.0	1.8						
地区別	第1地区(n=136)	31.6	29.4	3.7	1.5	2.2	3.7	5.9	1.5	2.2	10.3	8.1						
	第2地区(n=131)	41.2	30.5	11.5	2.3	0.8	1.5	1.5	1.5	0.8	1.5	6.9						
	第3地区(n=163)	38.0	25.8	11.0	4.3	1.2	1.2	8.6	0.0	1.2	4.3	4.3						
	第4地区(n=101)	34.7	20.8	5.9	5.0	1.0	2.0	3.0	1.0	3.0	7.9	15.8						
	第5地区(n=114)	41.2	27.2	3.5	2.6	0.0	4.4	5.3	1.8	0.9	4.4	8.8						
	第6地区(n=111)	32.4	32.4	5.4	2.7	1.8	0.9	8.1	0.9	0.0	8.1	7.2						

(7) 認知症の診断 (問 36)

認知症の診断は、居宅サービス利用者は「受けている」が27.2%、「受けていない」が62.6%となっている。

サービス未利用者は、「受けている」が27.0%、「受けていない」が58.0%となっている。



居宅サービス利用者について

要介護度別にみると、中重度者は「受けている」(41.8%)が全体に比べ多くなっている。

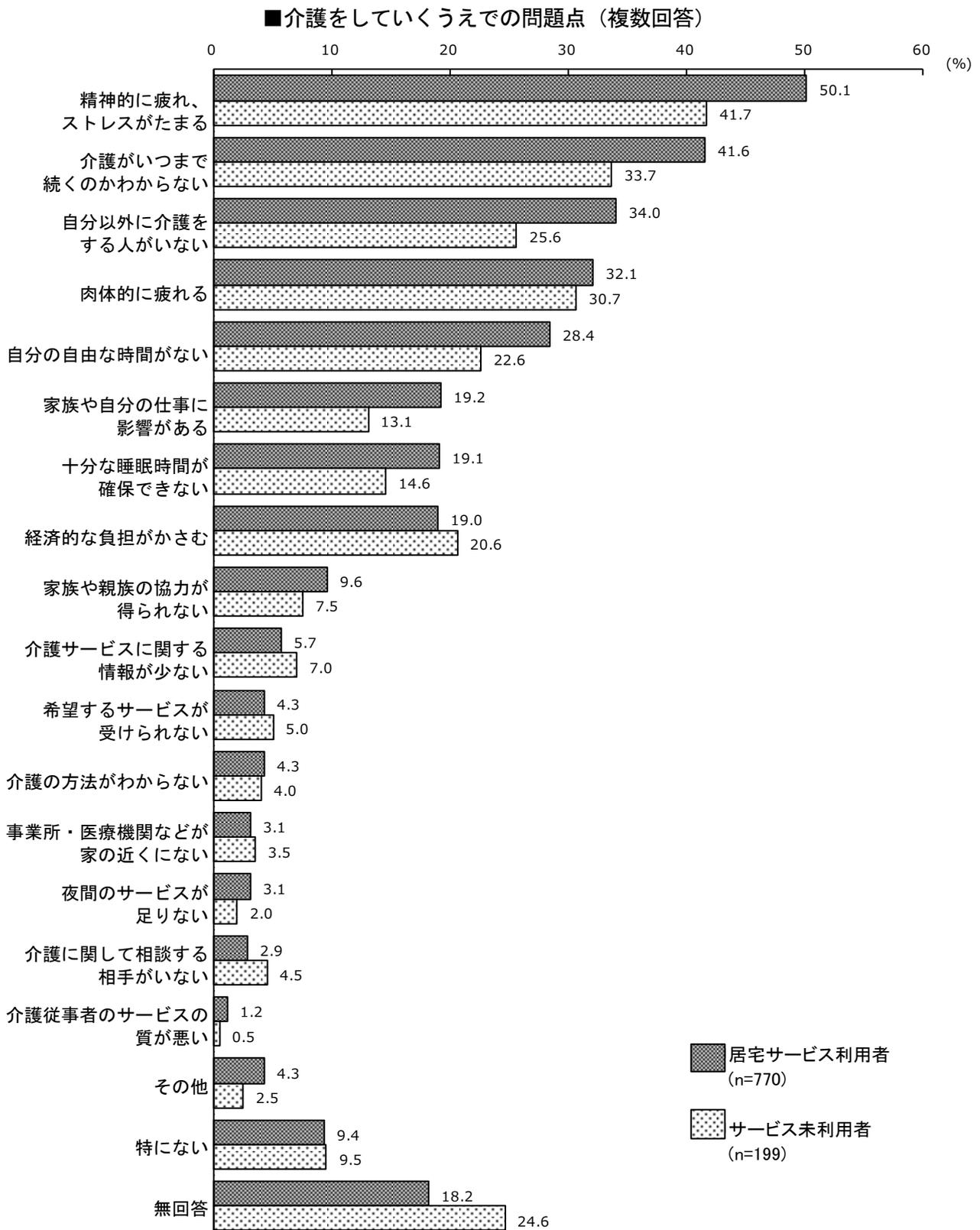
■認知症の診断 (居宅サービス利用者)

		(%)		
		い受 るけ て	い受 なけ いて	無 回 答
全体(n=772)		27.2	62.6	10.2
要介護度別	要支援者(n=151)	9.9	76.8	13.2
	軽度者(n=386)	25.9	66.3	7.8
	中重度者(n=220)	41.8	47.7	10.5

(8) 介護をしていくうえでの問題点 (問37)

介護をしていくうえでの問題点は、居宅サービス利用者は「精神的に疲れ、ストレスがたまる」(50.1%)が最も多く、「介護がいつまで続くのかわからない」(41.6%)、「自分以外に介護をする人がいない」(34.0%)と続いている。

サービス未利用者は、「精神的に疲れ、ストレスがたまる」(41.7%)が最も多く、「介護がいつまで続くのかわからない」(33.7%)、「肉体的に疲れる」(30.7%)と続いている。



居宅サービス利用者について

要介護度別にみると、中重度者は「精神的に疲れ、ストレスがたまる」(68.9%)、「介護がいつまで続くのかわからない」(58.4%)、「自分以外に介護をする人がいない」(41.1%)、「肉体的に疲れる」(53.9%)、「自分の自由な時間がない」(51.1%)、「家族や自分の仕事に影響がある」(28.8%)、「十分な睡眠時間が確保できない」(37.9%)、「経済的な負担がかさむ」(32.4%)が全体に比べ多くなっている。

■介護をしていくうえでの問題点(居宅サービス利用者)

		が精神的に疲れ、ストレス	わからないうつまで続くのか	介護がいない	自分以外に介護をする人	肉体的に疲れる	自分の自由な時間がない	家族や自分の仕事に影響	十分な睡眠時間が確保できない	経済的な負担がかさむ	家族や親族の協力が得られない	介護サービスに関する情報が少ない	希望するサービスが受けられない	介護の方法がわからない	夜の間のサービスが足りない	事業所・医療機関などが	手がいない	介護に関して相談する相手がいない	質が悪い	介護従事者のサービスの	その他	特にな	無回答
全体(n=770)		50.1	41.6	34.0	32.1	28.4	19.2	19.1	19.0	9.6	5.7	4.3	4.3	3.1	3.1	2.9	1.2	4.3	9.4	18.2			
要介護度別	要支援者(n=151)	30.5	20.5	24.5	19.2	11.9	10.6	7.3	11.9	7.9	6.6	4.6	3.3	2.6	3.3	4.6	0.0	4.0	13.2	35.1			
	軽度者(n=385)	48.1	41.0	34.8	25.5	22.9	16.9	13.8	14.0	8.8	5.5	3.6	3.9	2.6	2.9	2.3	1.0	3.9	9.9	17.7			
	中重度者(n=219)	68.9	58.4	41.1	53.9	51.1	28.8	37.9	32.4	12.8	5.9	5.5	5.9	4.1	3.2	2.7	2.3	5.5	5.5	5.9			

サービス未利用者について

要介護度別にみると、軽度者は「精神的に疲れ、ストレスがたまる」(54.8%)、「家族や親族の協力が得られない」(16.1%)、中重度者は「肉体的に疲れる」(46.9%)、「家族や自分の仕事に影響がある」(24.5%)、「十分な睡眠時間が確保できない」(28.6%)、「経済的な負担がかさむ」(34.7%)が全体に比べ多くなっている。

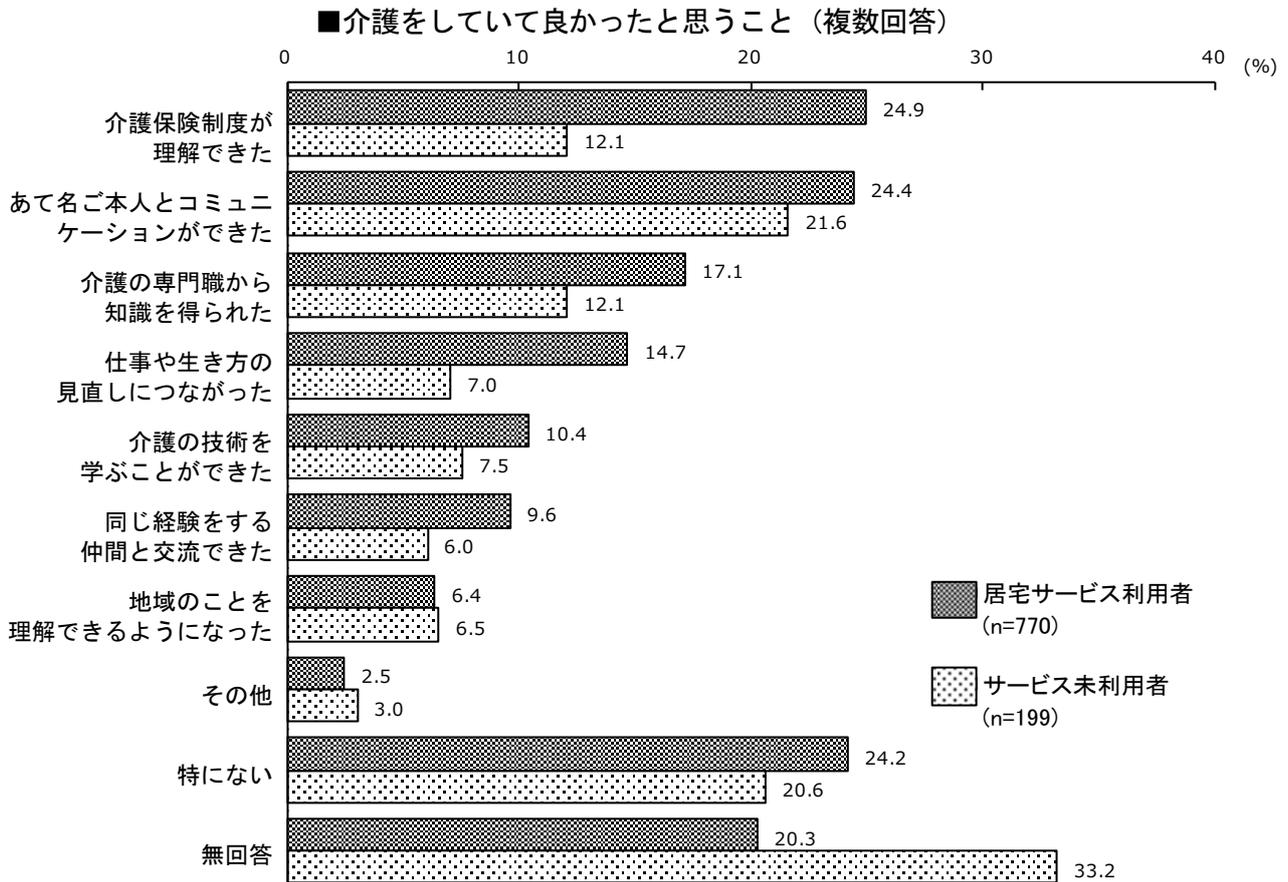
■介護をしていくうえでの問題点(サービス未利用者)

		が精神的に疲れ、ストレス	わからないうつまで続くのか	介護がいない	自分以外に介護をする人	肉体的に疲れる	自分の自由な時間がない	家族や自分の仕事に影響	十分な睡眠時間が確保できない	経済的な負担がかさむ	家族や親族の協力が得られない	介護サービスに関する情報が少ない	希望するサービスが受けられない	介護の方法がわからない	夜の間のサービスが足りない	事業所・医療機関などが	手がいない	介護に関して相談する相手がいない	質が悪い	介護従事者のサービスの	その他	特にな	無回答
全体(n=199)		41.7	33.7	25.6	30.7	22.6	13.1	14.6	20.6	7.5	7.0	5.0	4.0	2.0	3.5	4.5	0.5	2.5	9.5	24.6			
要介護度別	要支援者(n=78)	26.9	24.4	20.5	12.8	11.5	6.4	6.4	10.3	2.6	3.8	5.1	1.3	1.3	2.6	7.7	0.0	0.0	10.3	43.6			
	軽度者(n=62)	54.8	38.7	27.4	37.1	30.6	11.3	11.3	24.2	16.1	9.7	4.8	6.5	3.2	1.6	1.6	0.0	4.8	11.3	8.1			
	中重度者(n=49)	46.9	38.8	32.7	46.9	32.7	24.5	28.6	34.7	6.1	6.1	6.1	4.1	2.0	6.1	2.0	2.0	4.1	6.1	18.4			

(9) 介護をしていて良かったと思うこと (問38)

介護をしていて良かったと思うことは、居宅サービス利用者は「介護保険制度が理解できた」(24.9%)が最も多く、「あて名ご本人とコミュニケーションができた」(24.4%)、「介護の専門職から知識を得られた」(17.1%)と続いている。

サービス未利用者は、「あて名ご本人とコミュニケーションができた」(21.6%)が最も多く、「介護保険制度が理解できた」と「介護の専門職から知識を得られた」(ともに12.1%)、「介護の技術を学ぶことができた」(7.5%)と続いている。



居宅サービス利用者について

要介護度別にみると、中重度者は「介護保険制度が理解できた」(33.3%)、「あて名ご本人とコミュニケーションができた」(36.1%)、「介護の専門職から知識を得られた」(29.2%)、「介護の技術を学ぶことができた」(21.9%)が全体に比べ多くなっている。

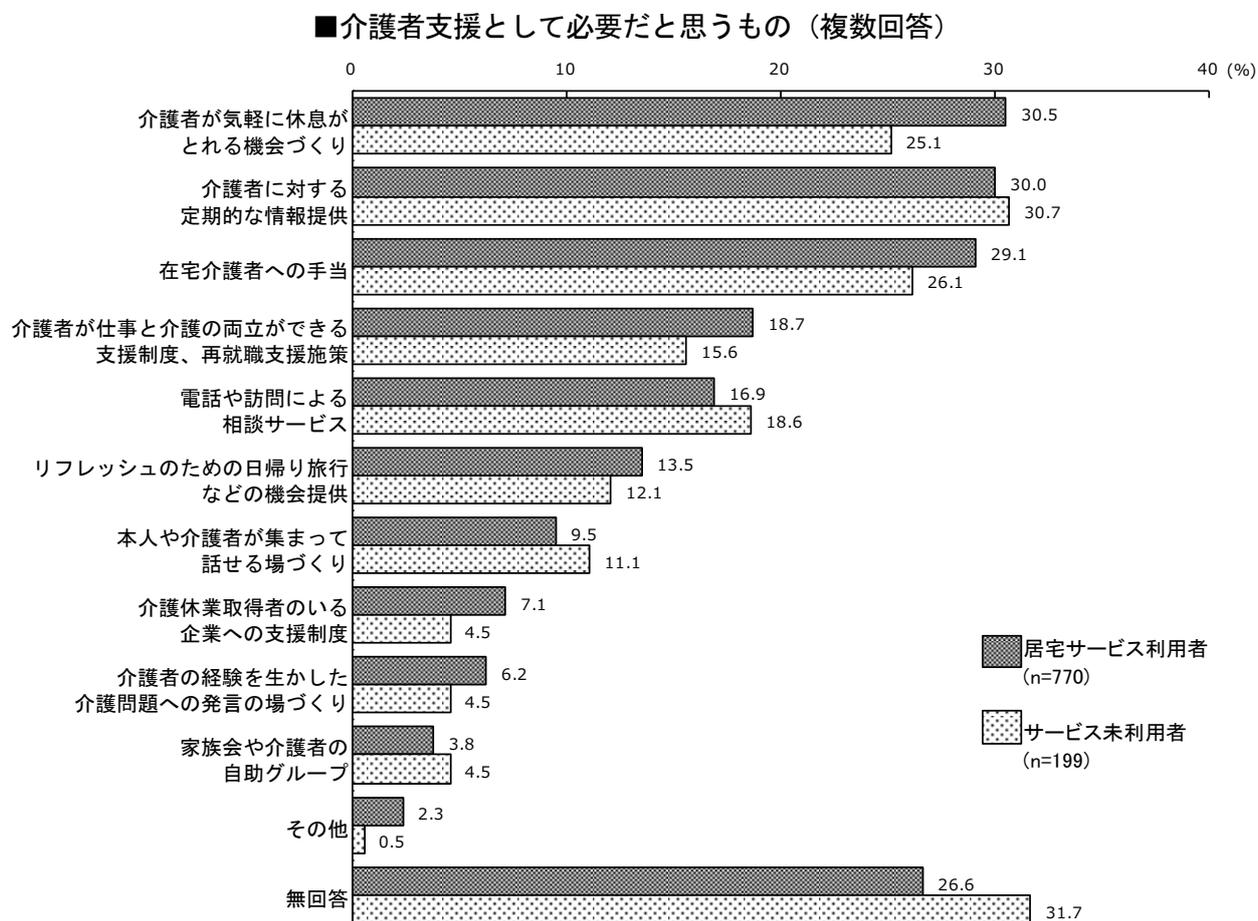
■介護をしていて良かったと思うこと (居宅サービス利用者)

		介護保険制度が理解できた	あて名ご本人とコミュニケーションができた	介護の専門職から知識を得られた	仕事や生き方の見直しにつながった	介護の技術を学ぶことができた	同じ経験をする仲間と交流できた	地域のことを理解できるようになった	その他	特にない	無回答
全体(n=770)		24.9	24.4	17.1	14.7	10.4	9.6	6.4	2.5	24.2	20.3
要介護度別	要支援者(n=151)	16.6	17.9	11.3	10.6	5.3	7.3	7.3	2.0	19.9	39.7
	軽度者(n=385)	24.4	20.5	12.7	15.1	6.0	9.6	4.4	1.8	27.8	18.7
	中重度者(n=219)	33.3	36.1	29.2	16.9	21.9	11.0	9.1	4.1	21.5	8.2

(10) 介護者支援として必要だと思うもの（問39）

介護者支援として必要だと思うものは、居宅サービス利用者は「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり」（30.5%）が最も多く、「介護者に対する定期的な情報提供」（30.0%）、「在宅介護者への手当」（29.1%）と続いている。

サービス未利用者は、「介護者に対する定期的な情報提供」（30.7%）が最も多く、「在宅介護者への手当」（26.1%）、「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり」（25.1%）と続いている。



居宅サービス利用者について

性別にみると、女性は「介護者が仕事と介護の両立ができる支援制度、再就職支援施策」(20.8%)、「電話や訪問による相談サービス」(19.4%)、「介護休業取得者のいる企業への支援制度」(8.6%)が男性に比べ多くなっている。

要介護度別にみると、中重度者は「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり」(43.8%)、「介護者に対する定期的な情報提供」(36.5%)、「在宅介護者への手当」(43.8%)、「介護者が仕事と介護の両立ができる支援制度、再就職支援施策」(24.2%)、「介護休業取得者のいる企業への支援制度」(11.0%)が全体に比べ多くなっている。

地区別にみると、第1地区は「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり」(39.7%)、第2地区は「介護者に対する定期的な情報提供」(38.2%)が全体に比べ多くなっている。

さらに介護している期間別にみると、3年以上5年未満は「リフレッシュのための日帰り旅行などの機会提供」(18.8%)、10年以上は「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり」(41.2%)が全体に比べ多くなっている。

■介護者支援として必要だと思うもの(複数回答)(居宅サービス利用者)

		く息介	期介	当在	支支	護護	相電	どめ	り	くま	本人	制い	介	の	か	介	自	そ	無
		りが	的護	宅宅	支支	護護	電電	めめ	り	ま	人	度	護	発	介	護	家	他	回
		と者	な者	介介	援援	制制	話話	のの	つ	り	や	護	休	言	護	助	他	答	
		れる	に	者者	策策	立立	や	日	て	つ	介	業	取	の	の	族			
		気	報	へ	、	が	訪	帰	話	話	護	へ	得	場	経	や			
		機	提	の	再	仕	問	リ	せ	者	者	の	者	づ	験	介			
		会	供	手	就	事	に	ユ	る	が	支	支	生	く	問	護			
		に	定	の	職	と	よ	行	場	集	援	援	へ	り	題	者			
		づ	定	手	職	介	る	な	づ					へ	を	の			
全体(n=770)		30.5	30.0	29.1	18.7	16.9	13.5	9.5	7.1	6.2	3.8	2.3	26.6						
性別	男性(n=253)	32.0	28.9	26.5	14.2	11.5	14.6	10.7	4.0	5.9	4.0	3.2	26.9						
	女性(n=509)	29.7	30.5	30.5	20.8	19.4	13.2	8.6	8.6	6.1	3.7	2.0	26.7						
要介護度別	要支援者(n=151)	23.2	21.2	21.9	14.6	15.2	11.9	10.6	4.0	6.6	4.0	2.6	41.1						
	軽度者(n=385)	26.0	29.6	23.6	17.4	17.7	13.0	9.6	5.7	4.9	4.4	2.1	26.5						
	中重度者(n=219)	43.8	36.5	43.8	24.2	16.4	16.0	8.2	11.0	6.8	2.3	2.7	16.4						
地区別	第1地区(n=136)	39.7	30.1	28.7	22.8	21.3	14.0	9.6	7.4	5.9	2.9	3.7	25.0						
	第2地区(n=131)	29.8	38.2	26.7	19.1	18.3	14.5	9.9	8.4	6.9	3.8	3.8	28.2						
	第3地区(n=163)	25.8	25.2	32.5	20.2	12.3	12.9	11.0	5.5	8.0	6.1	0.6	23.9						
	第4地区(n=101)	25.7	23.8	25.7	12.9	13.9	16.8	6.9	7.9	3.0	2.0	2.0	30.7						
	第5地区(n=114)	31.6	28.1	26.3	16.7	12.3	13.2	6.1	5.3	3.5	0.0	2.6	33.3						
	第6地区(n=111)	29.7	35.1	32.4	18.9	21.6	11.7	12.6	8.1	7.2	7.2	1.8	20.7						
介護している期間別	1年未満(n=51)	25.5	33.3	21.6	7.8	21.6	9.8	7.8	5.9	3.9	3.9	2.0	31.4						
	1年以上3年未満(n=140)	26.4	35.7	28.6	22.9	20.7	13.6	7.9	8.6	4.3	4.3	4.3	20.7						
	3年以上5年未満(n=176)	34.1	34.1	35.2	23.9	15.9	18.8	12.5	9.7	5.7	4.5	0.6	17.0						
	5年以上10年未満(n=156)	35.3	29.5	33.3	21.8	17.9	16.7	10.3	9.0	7.7	4.5	2.6	19.9						
	10年以上(n=136)	41.2	33.1	34.6	16.9	19.1	11.0	9.6	5.9	10.3	3.7	3.7	16.9						

サービス未利用者について

要介護度別にみると、中重度者は「在宅介護者への手当」(44.9%)が全体に比べ多くなっている。

■介護者支援として必要だと思うもの(複数回答)(サービス未利用者)

		く息介	期介	当在	支支	護護	相電	どめ	り	くま	本人	制い	介	の	か	介	自	そ	無
		りが	的護	宅宅	支支	護護	電電	めめ	り	ま	人	度	護	発	介	護	家	他	回
		と者	な者	介介	援援	制制	話話	のの	つ	り	や	護	休	言	護	助	他	答	
		れる	に	者者	策策	立立	や	日	て	つ	介	業	取	の	の	族			
		気	報	へ	、	が	訪	帰	話	話	護	へ	得	場	経	や			
		機	提	の	再	仕	問	リ	せ	者	者	の	者	づ	験	介			
		会	供	手	就	事	に	ユ	る	が	支	支	生	く	問	護			
		に	定	の	職	と	よ	行	場	集	援	援	へ	り	題	者			
		づ	定	手	職	介	る	な	づ					へ	を	の			
全体(n=199)		25.1	30.7	26.1	15.6	18.6	12.1	11.1	4.5	4.5	4.5	0.5	31.7						
要介護度別	要支援者(n=78)	21.8	19.2	16.7	11.5	16.7	15.4	16.7	3.8	6.4	1.3	1.3	43.6						
	軽度者(n=62)	30.6	40.3	24.2	17.7	21.0	9.7	9.7	4.8	1.6	6.5	0.0	22.6						
	中重度者(n=49)	28.6	32.7	44.9	18.4	18.4	12.2	4.1	4.1	4.1	8.2	0.0	26.5						

(11) 市への要望〈自由回答〉（問40）

市への要望について、自由回答形式で聞いたところ、全体で313件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

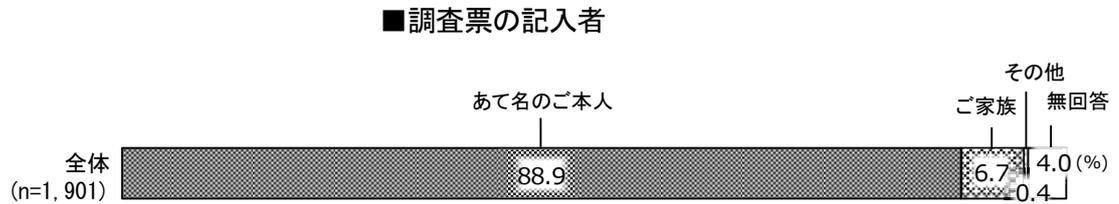
制度、サービス、事業について：33件
施設について：26件
交通・移動支援について：18件
家族への支援について：11件
情報提供、周知について：9件
人材について：9件
相談窓口、連絡先について：6件
保険料について：5件
手続きについて：5件
住居について：2件
現状や将来について：92件
アンケートについての意見：22件
アンケートを回答しての感想：5件
その他の市への意見・要望：29件
その他：37件
わからない・特になし：4件

3. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1 調査票記入にあたって

(1) 調査票の記入者

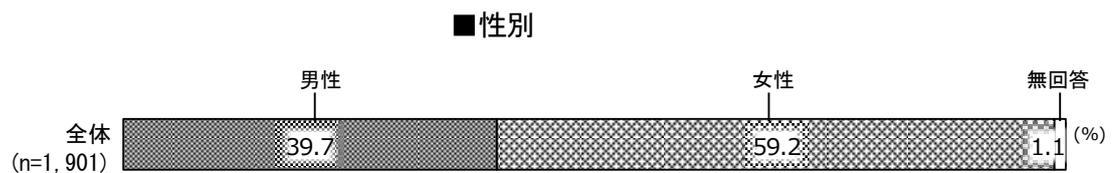
調査票の記入者は、「あて名のご本人」が88.9%、「ご家族」が6.7%となっている。



2 基本属性

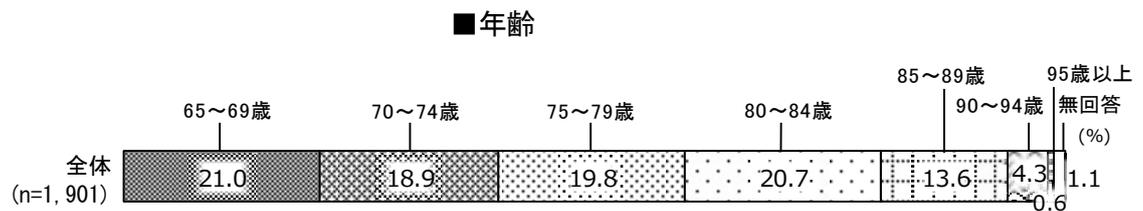
(1) 性別 (F 1)

性別は、「男性」が39.7%、「女性」が59.2%となっている。



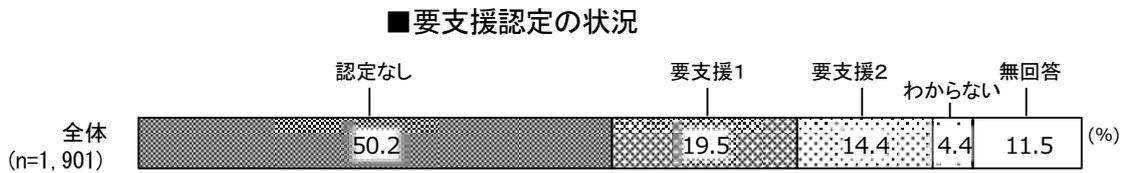
(2) 年齢 (F 2)

年齢は、「65～69歳」(21.0%)が最も多く、「80～84歳」(20.7%)、「75～79歳」(19.8%)、「70～74歳」(18.9%)、「85～89歳」(13.6%)、「90～94歳」(4.3%)、「95歳以上」(0.6%)と続いている。



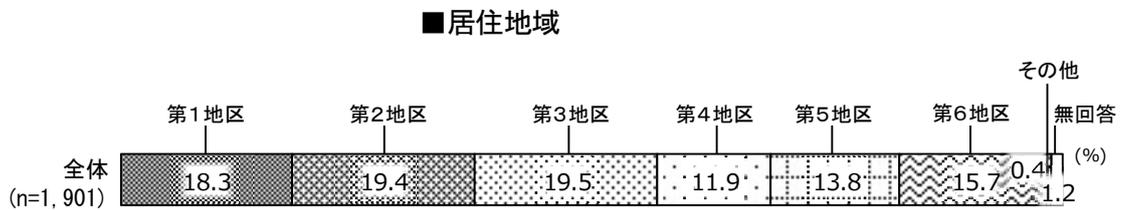
(3) 要支援認定の状況 (F 3)

要支援認定の状況は、「認定なし」が50.2%、「要支援1」が19.5%、「要支援2」が14.4%となっている。



(4) 居住地域 (F 4)

居住地域は、「第3地区」(19.5%)、「第2地区」(19.4%)が多く、「第1地区」(18.3%)、「第6地区」(15.7%)、「第5地区」(13.8%)、「第4地区」(11.9%)、「その他」(0.4%)となっている。



3 家族や生活状況について

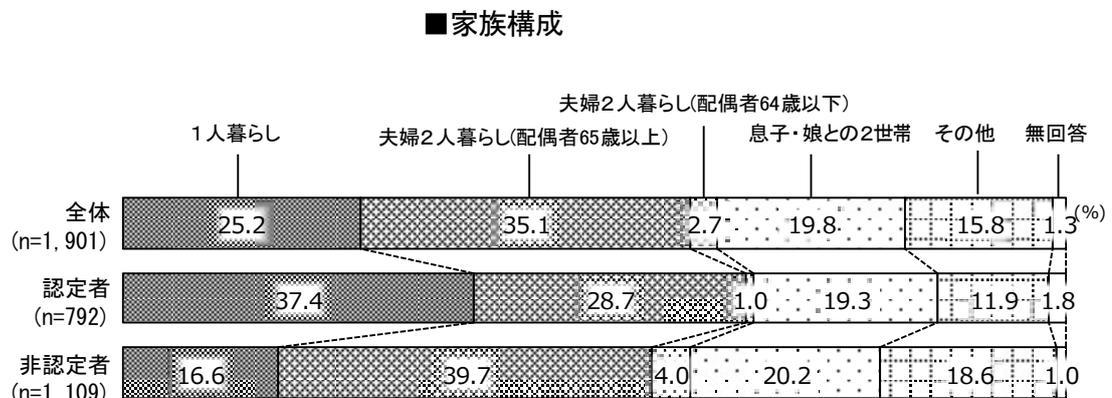
(1) 家族構成 (問1)

家族構成は、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(35.1%)が最も多く、「1人暮らし」(25.2%)、「息子・娘との2世帯」(19.8%)、「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」(2.7%)と続いている。

認定状況別にみると、認定者は「1人暮らし」(37.4%)が非認定者に比べ多く、非認定者は「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(39.7%)が認定者に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「1人暮らし」(30.4%)と「息子・娘との2世帯」(21.9%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(38.1%)と「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」(5.9%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第6地区は「1人暮らし」(19.5%)が全体に比べ少なく、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(40.9%)が全体に比べ多くなっている。



		(%)					
		1人暮らし	以上(配偶者65歳以上)	以下(配偶者64歳以下)	世帯(息子・娘との2)	その他	無回答
全体(n=1,901)		25.2	35.1	2.7	19.8	15.8	1.3
年齢別	75歳以上(n=1,122)	30.4	33.2	0.6	21.9	12.7	1.1
	65～74歳(n=758)	17.8	38.1	5.9	17.2	20.7	0.3
地区別	第1地区(n=347)	23.9	36.3	3.5	19.9	15.9	0.6
	第2地区(n=368)	25.8	33.4	2.2	18.5	19.3	0.8
	第3地区(n=370)	27.0	34.1	2.2	18.6	17.3	0.8
	第4地区(n=226)	27.9	32.3	3.1	21.7	14.6	0.4
	第5地区(n=263)	27.8	33.1	3.4	20.9	12.9	1.9
	第6地区(n=298)	19.5	40.9	2.7	22.1	14.1	0.7

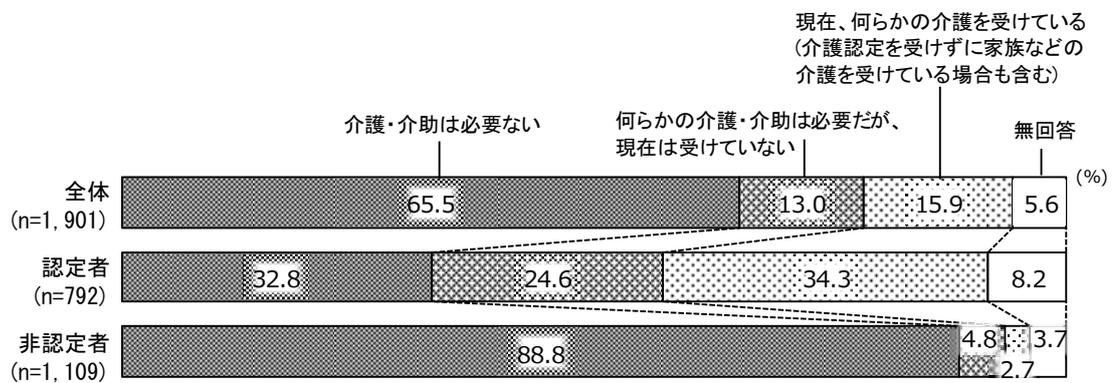
(2) 介護・介助の状況 (問2)

介護・介助の状況は、「介護・介助は必要ない」(65.5%)が最も多く、「現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」(15.9%)、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」(13.0%)と続いている。

認定状況別にみると、認定者は「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」(24.6%)、「現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」(34.3%)が認定者に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」(18.2%)と「現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」(22.4%)が65～74歳に比べ多くなっている。

■介護・介助の状況

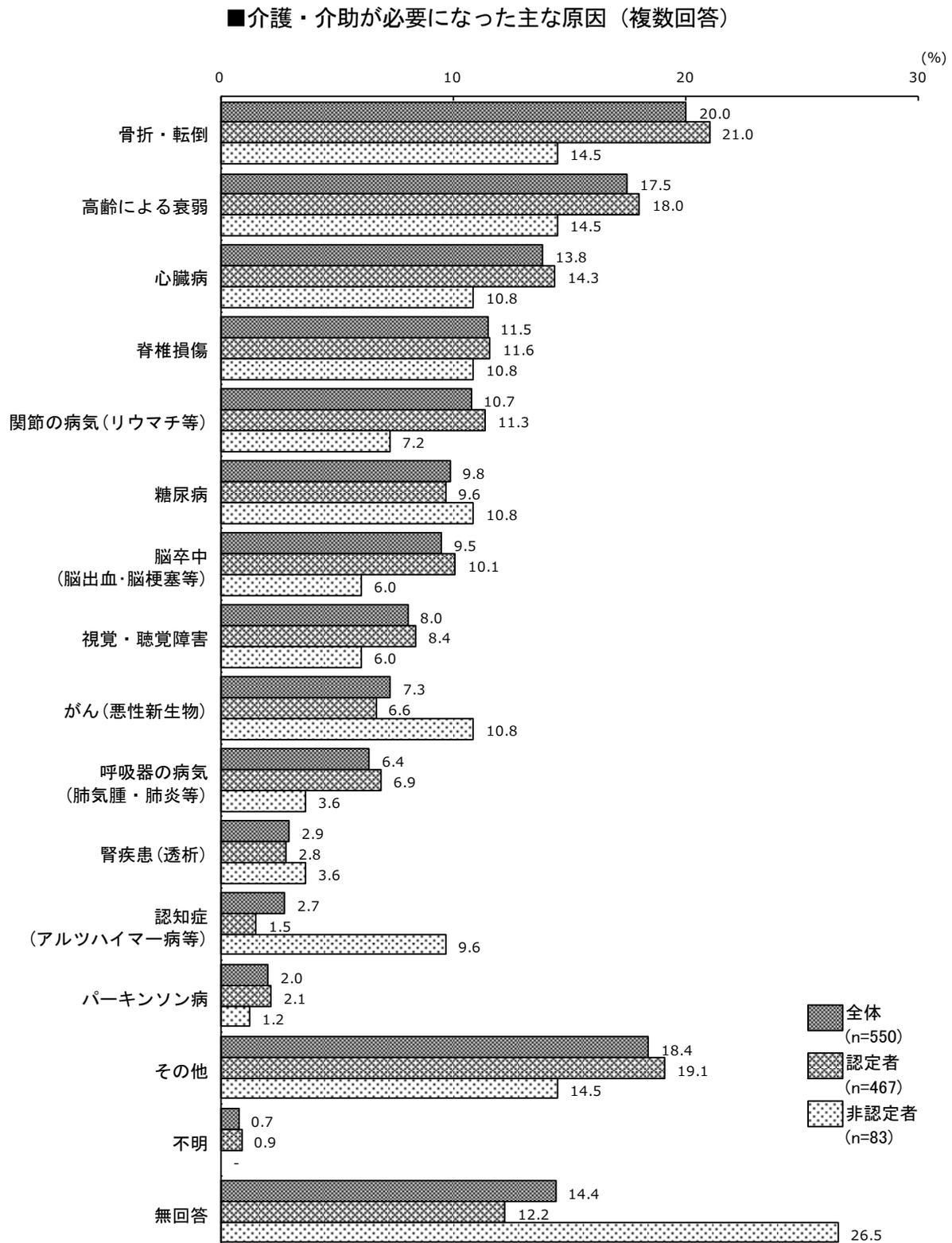


		介護・介助は必要ない (%)	何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない (%)	現在、何らかの介護を受けている (介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む) (%)	無回答 (%)
全体(n=1,901)		65.5	13.0	15.9	5.6
年齢別	75歳以上(n=1,122)	52.2	18.2	22.4	7.2
	65～74歳(n=758)	86.1	5.5	6.5	1.8

(3) 介護・介助が必要になった主な原因（問2-1）

「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」と回答した人に介護・介助が必要になった主な原因を聞いたところ、「骨折・転倒」（20.0%）が最も多く、「高齢による衰弱」（17.5%）、「心臓病」（13.8%）と続いている。

認定状況別にみると、非認定者は「認知症（アルツハイマー病等）」（9.6%）が認定者に比べ多くなっている。



性別にみると、男性は「心臓病」(19.0%)、「糖尿病」(15.9%)、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(15.9%)、「呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)」(11.1%)、「腎疾患(透析)」(5.3%)、「パーキンソン病」(3.7%)が女性に比べ多く、女性は「骨折・転倒」(25.6%)、「関節の病気(リウマチ等)」(13.9%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「骨折・転倒」(21.8%)と「高齢による衰弱」(20.7%)が65～74歳に比べ多くなっている。

(%)

		骨折・転倒	高齢による衰弱	心臓病	脊椎損傷	手等(関節)の病気(リウマチ)	糖尿病	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	視覚・聴覚障害	がん(悪性新生物)	腫・肺炎等)	呼吸器の病気(肺炎)	腎疾患(透析)	認知症(アルツハイマー病等)	パーキンソン病	その他	不明	無回答
全体(n=550)		20.0	17.5	13.8	11.5	10.7	9.8	9.5	8.0	7.3	6.4	2.9	2.7	2.0	18.4	0.7	14.4	
性別	男性(n=189)	9.5	17.5	19.0	14.8	4.8	15.9	15.9	9.0	9.5	11.1	5.3	3.7	3.7	15.9	0.5	9.0	
	女性(n=359)	25.6	17.5	11.1	9.7	13.9	6.7	6.1	7.5	6.1	3.9	1.7	2.2	1.1	19.8	0.8	16.7	
年齢別	75歳以上(n=455)	21.8	20.7	14.9	11.6	10.3	9.5	9.0	8.8	6.8	6.4	2.4	2.9	2.2	18.2	0.9	13.4	
	65～74歳(n=91)	12.1	1.1	8.8	11.0	13.2	9.9	11.0	4.4	9.9	6.6	5.5	2.2	1.1	19.8	-	18.7	

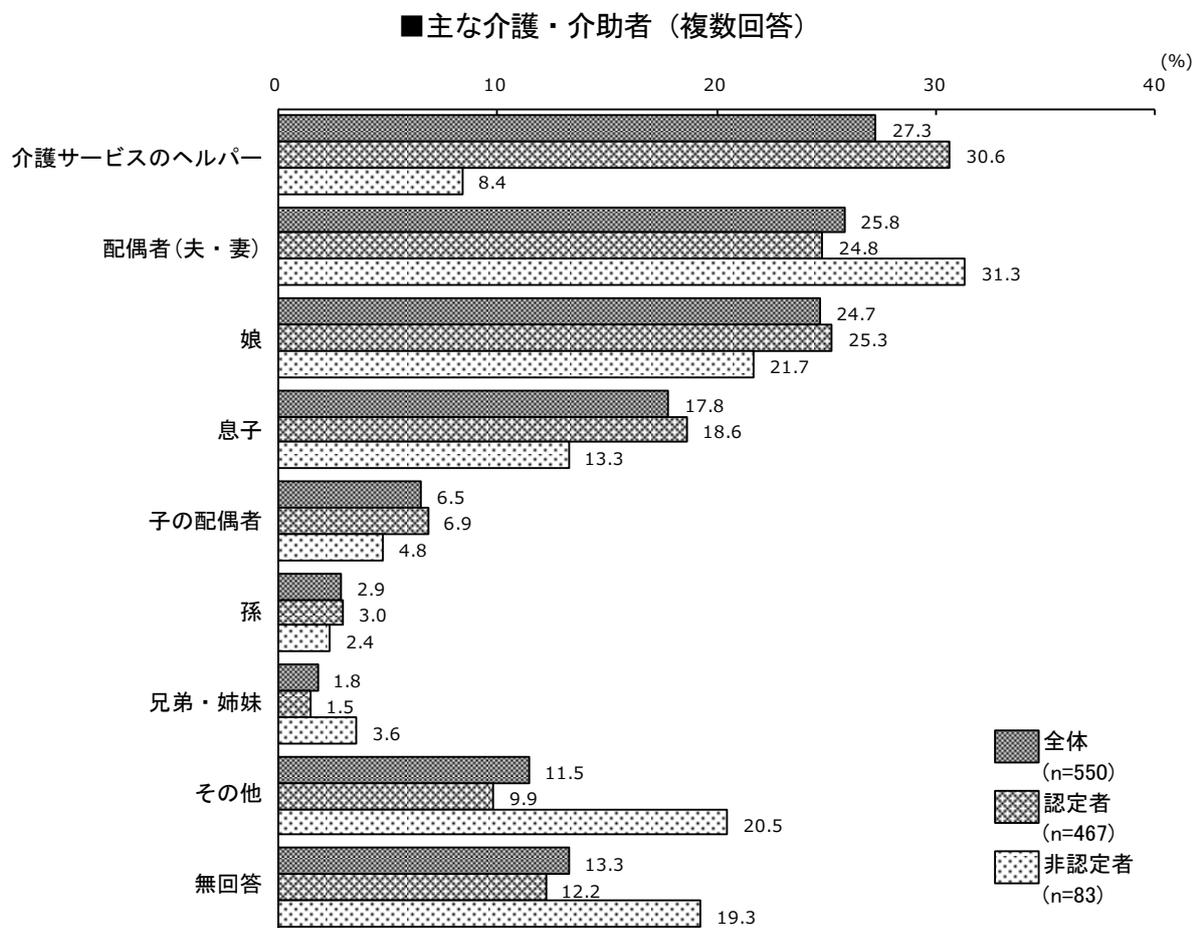
(4) 主な介護・介助者 (問2-2)

「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」、「現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」と回答した人に主な介護・介助者を聞いたところ、「介護サービスのヘルパー」(27.3%)が最も多く、「配偶者(夫・妻)」(25.8%)、「娘」(24.7%)と続いている。

認定状況別にみると、認定者は「介護サービスのヘルパー」(30.6%)が非認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、男性は「配偶者(夫・妻)」(41.3%)が女性に比べ多く、女性は「娘」(30.4%)、「息子」(21.2%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「介護サービスのヘルパー」(28.8%)、「娘」(26.2%)、「子の配偶者」(7.7%)、「孫」(3.3%)が65~74歳に比べ多く、65~74歳は「配偶者(夫・妻)」(31.9%)が75歳以上に比べ多くなっている。

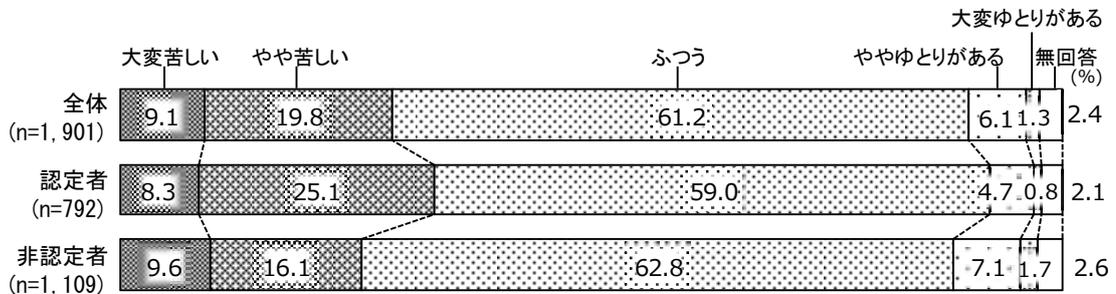


		の介護ヘルパー	妻配偶者(夫・妻)	娘	息子	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	その他	無回答
全体(n=550)		27.3	25.8	24.7	17.8	6.5	2.9	1.8	11.5	13.3
性別	男性(n=189)	23.8	41.3	13.8	11.1	4.8	1.1	2.1	13.2	10.1
	女性(n=359)	29.2	17.3	30.4	21.2	7.2	3.9	1.7	10.6	15.0
年齢別	75歳以上(n=455)	28.8	24.4	26.2	18.0	7.7	3.3	1.3	11.0	12.1
	65~74歳(n=91)	19.8	31.9	16.5	15.4	-	1.1	4.4	14.3	19.8

(5) 経済的にみた暮らしの状況 (問3)

経済的にみた暮らしの状況は、「ふつう」(61.2%)が最も多く、「やや苦しい」(19.8%)、「大変苦しい」(9.1%)と続いている。「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせた“苦しい”は28.9%、「ややゆとりがある」「大変ゆとりがある」を合わせた“ゆとりがある”は7.4%となっている。認定状況別にみると、認定者は“苦しい”(33.4%)が非認定者に比べ多くなっている。

■経済的にみた暮らしの状況



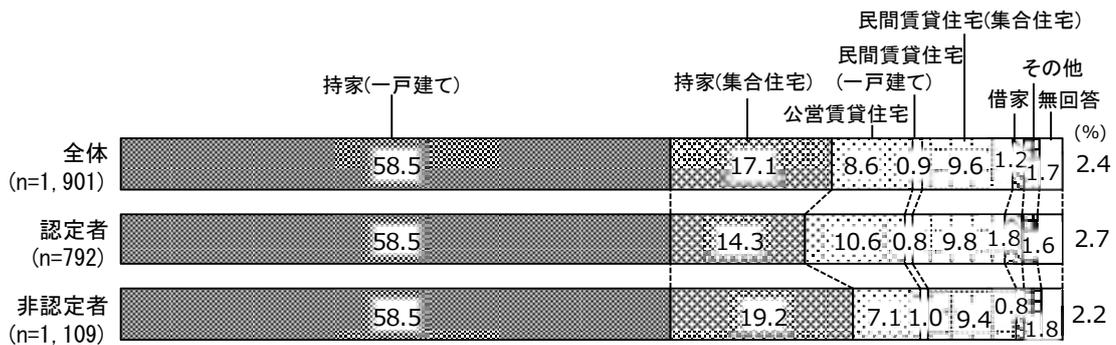
(6) 住まい (問4)

住まいは、「持家(一戸建て)」(58.5%)が最も多く、「持家(集合住宅)」(17.1%)、「民間賃貸住宅(集合住宅)」(9.6%)と続いている。

年齢別にみると、75歳以上は「持家(一戸建て)」(63.1%)と「公営賃貸住宅」(10.2%)が65~74歳に比べ多く、65~74歳は「持家(集合住宅)」(23.7%)と「民間賃貸住宅(集合住宅)」(12.1%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第1地区と第5地区と第6地区は「持家(一戸建て)」(順に66.6%、66.2%、66.1%)、第2地区は「持家(集合住宅)」(23.9%)、第3地区と第4地区は「公営賃貸住宅」(順に15.7%、19.5%)が全体に比べ多くなっている。

■住まい



		建一持 て一 家 戸	住一持 宅集 家 合	貸公 住 宅 賃	建一貸 民 住 間 賃	住一貸 民 宅集 住 間 賃	借 家	そ の 他	無 回 答
全体(n=1,901)		58.5	17.1	8.6	0.9	9.6	1.2	1.7	2.4
年齢別	75歳以上(n=1,122)	63.1	12.9	10.2	0.6	7.8	1.5	1.6	2.2
	65~74歳(n=758)	52.6	23.7	6.1	1.3	12.1	0.8	2.0	1.3
地区別	第1地区(n=347)	66.6	14.1	3.7	0.6	9.8	0.9	2.0	2.3
	第2地区(n=368)	54.9	23.9	4.3	1.4	10.9	1.6	1.4	1.6
	第3地区(n=370)	54.6	16.5	15.7	0.8	8.1	0.8	2.2	1.4
	第4地区(n=226)	43.4	16.8	19.5	0.4	12.4	2.2	1.8	3.5
	第5地区(n=263)	66.2	13.3	9.1	-	7.6	1.1	1.5	1.1
	第6地区(n=298)	66.1	16.8	1.7	2.0	9.4	1.0	1.3	1.7

4 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること (問5)

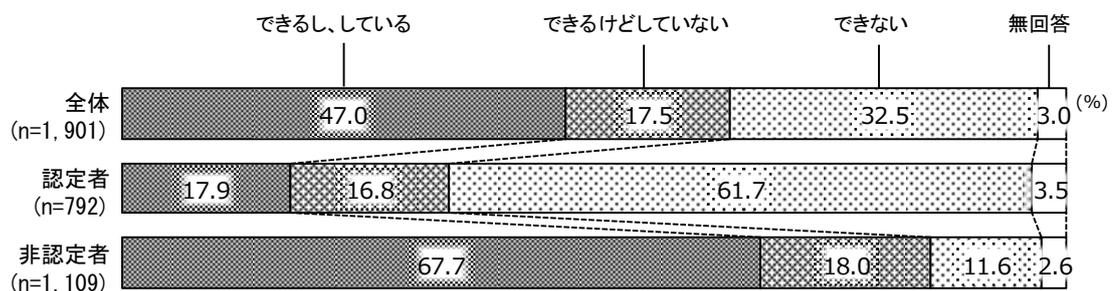
階段を手すりや壁をつたわずに昇ることは、「できるし、している」(47.0%)が最も多く、「できない」(32.5%)、「できるけどしていない」(17.5%)と続いている。

認定状況別にみると、認定者は「できない」(61.7%)が非認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、女性は「できない」(39.1%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「できるけどしていない」(19.3%)、「できない」(45.5%)が65～74歳に比べ多くなっている。

■階段を手すりや壁をつたわずに昇ること



		(%)			
		いしで る、き する て	など いし てる いけ	で き な い	無 回 答
全体(n=1,901)		47.0	17.5	32.5	3.0
性別	男性(n=754)	54.4	19.2	22.9	3.4
	女性(n=1,126)	42.1	16.3	39.1	2.6
年齢別	75歳以上(n=1,122)	31.7	19.3	45.5	3.5
	65～74歳(n=758)	69.9	14.8	13.1	2.2

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること (問6)

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることは、「できるし、している」(63.1%)が最も多く、「できない」(21.7%)、「できるけどしていない」(11.8%)と続いている。

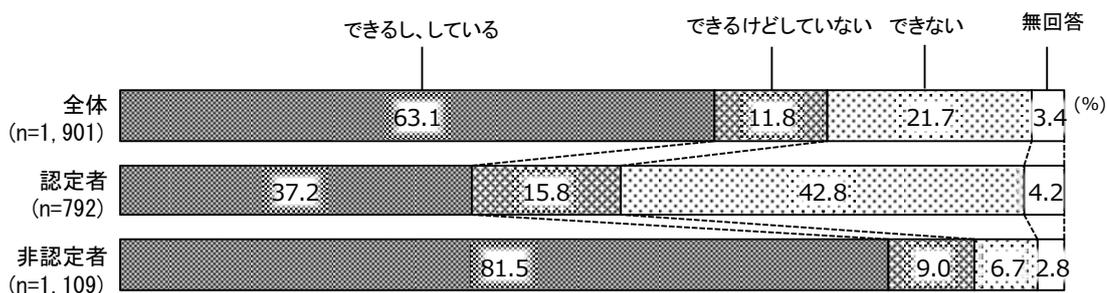
認定状況別にみると、認定者は「できるけどしていない」(15.8%)、「できない」(42.8%)が非認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、女性は「できない」(26.6%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「できるけどしていない」(14.7%)、「できない」(30.7%)が65～74歳に比べ多くなっている。

地区別にみると、第5地区は「できるし、している」(56.7%)が全体に比べ少なくなっている。

■椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること



		(%)			
		いしで る、き しる て	など いし き てる いけ	で き な い	無 回 答
全体(n=1,901)		63.1	11.8	21.7	3.4
性別	男性(n=754)	69.6	12.2	14.6	3.6
	女性(n=1,126)	58.5	11.6	26.6	3.2
年齢別	75歳以上(n=1,122)	50.6	14.7	30.7	3.9
	65～74歳(n=758)	81.5	7.8	8.4	2.2
地区別	第1地区(n=347)	62.0	9.8	25.1	3.2
	第2地区(n=368)	66.3	10.6	20.1	3.0
	第3地区(n=370)	64.6	11.9	19.5	4.1
	第4地区(n=226)	59.3	13.7	23.5	3.5
	第5地区(n=263)	56.7	13.7	25.5	4.2
	第6地区(n=298)	66.8	12.8	18.1	2.3

(3) 15分位続けて歩くこと (問7)

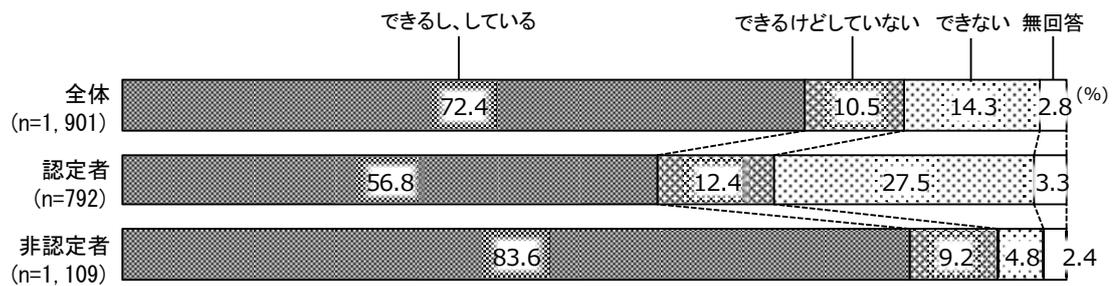
15分位続けて歩くことは、「できるし、している」(72.4%)が最も多く、「できない」(14.3%)、「できるけどしていない」(10.5%)と続いている。

認定状況別にみると、認定者は「できない」(27.5%)が非認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、女性は「できない」(16.0%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「できるけどしていない」(12.4%)、「できない」(20.3%)が65～74歳に比べ多くなっている。

■15分位続けて歩くこと



		(%)			
		いしで る、き しる て	など で いし き てる い け	で き な い	無 回 答
全体(n=1,901)		72.4	10.5	14.3	2.8
性別	男性(n=754)	73.6	11.1	11.8	3.4
	女性(n=1,126)	71.5	10.2	16.0	2.3
年齢別	75歳以上(n=1,122)	64.1	12.4	20.3	3.2
	65～74歳(n=758)	84.8	7.7	5.4	2.1

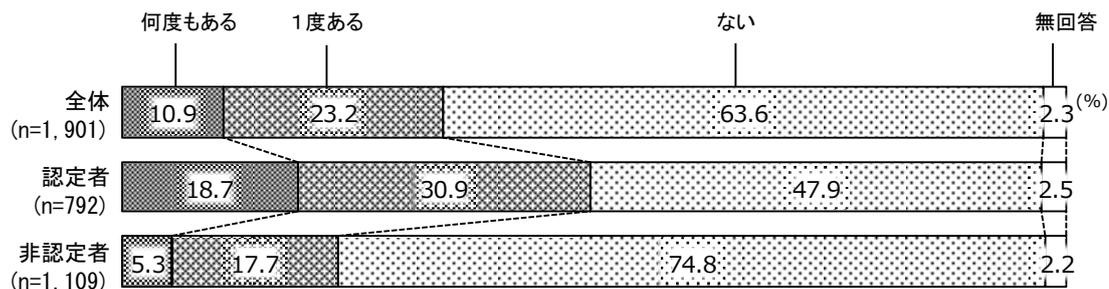
(4) 過去1年間に転んだ経験 (問8)

過去1年間に転んだ経験は、「ない」(63.6%)が最も多く、「1度ある」(23.2%)、「何度もある」(10.9%)と続いている。「何度もある」「1度ある」を合わせた“転倒リスクのある高齢者”は34.1%となっている。

認定状況別にみると、認定者は“転倒リスクのある高齢者”(49.6%)が非認定者に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は“転倒リスクのある高齢者”(41.8%)が65～74歳に比べ多くなっている。

■過去1年間に転んだ経験



		(%)			
		あ 何 る 度 も	る 1 度 あ	な い	無 回 答
全体(n=1,901)		10.9	23.2	63.6	2.3
性別	男性(n=754)	10.5	21.6	64.9	3.1
	女性(n=1,126)	11.2	24.2	63.0	1.7
年齢別	75歳以上(n=1,122)	14.1	27.7	55.7	2.5
	65～74歳(n=758)	6.1	16.5	75.7	1.7
地区別	第1地区(n=347)	11.2	21.3	65.1	2.3
	第2地区(n=368)	12.5	23.6	62.2	1.6
	第3地区(n=370)	10.5	26.2	60.5	2.7
	第4地区(n=226)	10.2	23.0	64.6	2.2
	第5地区(n=263)	9.5	25.9	62.0	2.7
	第6地区(n=298)	10.7	18.5	68.5	2.3

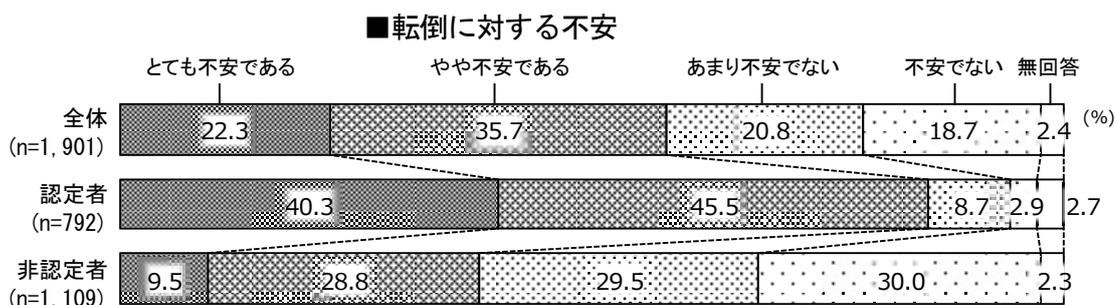
(5) 転倒に対する不安 (問9)

転倒に対する不安は、「やや不安である」(35.7%)が最も多く、「とても不安である」(22.3%)、「あまり不安でない」(20.8%)、「不安でない」(18.7%)と続いている。「とても不安である」「やや不安である」を合わせた“不安である”は58.0%、「あまり不安でない」「不安でない」を合わせた“不安でない”は39.5%となっている。

認定状況別にみると、認定者は“不安である”(85.8%)が非認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、女性は“不安である”(66.0%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は“不安である”(71.4%)が65～74歳に比べ多くなっている。



(%)

		あ と も 不 安 で あ る	あ ま り 不 安 で な い	あ ま り 不 安 で な い	あ ま り 不 安 で な い	無 回 答
全体(n=1,901)		22.3	35.7	20.8	18.7	2.4
性別	男性(n=754)	12.7	34.0	23.5	26.9	2.9
	女性(n=1,126)	29.0	37.0	18.9	13.1	2.0
年齢別	75歳以上(n=1,122)	29.9	41.5	16.0	9.5	2.9
	65～74歳(n=758)	11.2	27.0	27.8	32.3	1.6

(6) “運動器機能の低下している高齢者” (問5～問9)

問5～問9の結果から、“運動器機能の低下している高齢者”は全体で27.6%であるといえる。認定状況別にみると、認定者は“運動器機能の低下している高齢者”(54.3%)が非認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、女性は“運動器機能の低下している高齢者”(32.4%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は“運動器機能の低下している高齢者”(39.4%)が65～74歳に比べ多くなっている。

■ “運動器機能の低下している高齢者”

		(%)		
		いの運 る低動 高下器 齢し機 者て能	者いの運 な低動 い下器 高し機 齢て能	無 回 答
全体(n=1,901)		27.6	70.7	1.7
認定状況別	認定者(n=792)	54.3	43.8	1.9
	非認定者(n=1,109)	8.5	89.9	1.6
性別	男性(n=754)	20.6	76.9	2.5
	女性(n=1,126)	32.4	66.4	1.2
年齢別	75歳以上(n=1,122)	39.4	58.7	1.9
	65～74歳(n=758)	10.2	88.4	1.5
地区別	第1地区(n=347)	28.8	69.5	1.7
	第2地区(n=368)	25.8	72.8	1.4
	第3地区(n=370)	27.3	70.5	2.2
	第4地区(n=226)	29.2	68.6	2.2
	第5地区(n=263)	30.4	67.3	2.3
	第6地区(n=298)	24.5	74.8	0.7

※ “運動器機能の低下している高齢者”：問5～問9の設問において、3問以上、次の選択肢を回答した人

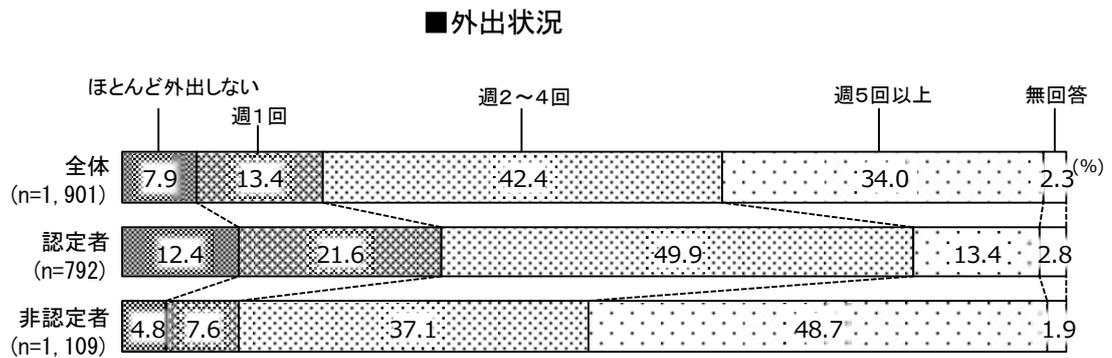
問番号	設問内容	選択肢
問5	階段を手すりや壁をつたわずに昇ること	「できない」
問6	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がる	「できない」
問7	15分位続けて歩くこと	「できない」
問8	過去1年間の転んだ経験	「何度もある」「1度ある」
問9	転倒に対する不安	「とても不安である」「やや不安である」

(7) 外出状況 (問10)

外出状況は、「週2～4回」(42.4%)が最も多く、「週5回以上」(34.0%)、「週1回」(13.4%)、「ほとんど外出しない」(7.9%)と続いている。「ほとんど外出しない」「週1回」を合わせた“閉じこもり傾向のある高齢者”は21.3%となっている。

認定状況別にみると、認定者は“閉じこもり傾向のある高齢者”(34.0%)が非認定者に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は“閉じこもり傾向のある高齢者”(28.3%)が65～74歳に比べ多くなっている。



(%)

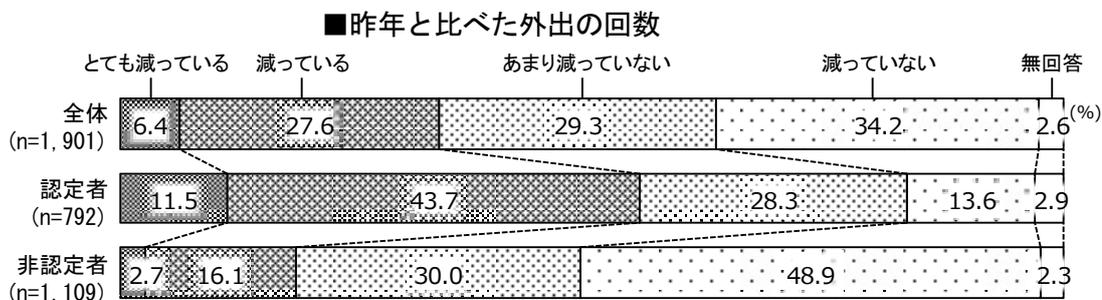
		ほとんど 外出 しない	週 1 回	週 2 ～ 4 回	週 5 回 以 上	無 回 答
全体(n=1,901)		7.9	13.4	42.4	34.0	2.3
性別	男性(n=754)	6.8	10.6	37.7	42.0	2.9
	女性(n=1,126)	8.7	15.0	45.9	28.6	1.8
年齢別	75歳以上(n=1,122)	11.1	17.2	46.4	22.6	2.6
	65～74歳(n=758)	3.2	7.4	36.9	50.8	1.7
地区別	第1地区(n=347)	9.2	16.4	41.5	30.5	2.3
	第2地区(n=368)	6.0	13.6	45.1	32.9	2.4
	第3地区(n=370)	8.1	12.2	43.8	33.5	2.4
	第4地区(n=226)	8.8	11.9	42.0	34.1	3.1
	第5地区(n=263)	8.4	14.1	36.5	38.4	2.7
	第6地区(n=298)	7.4	10.7	45.0	36.2	0.7

(8) 昨年と比べた外出の回数 (問11)

昨年と比べた外出の回数は、「減っていない」(34.2%)が最も多く、「あまり減っていない」(29.3%)、「減っている」(27.6%)、「とても減っている」(6.4%)と続いている。「とても減っている」「減っている」を合わせた“減っている”は34.0%、「減っていない」「あまり減っていない」を合わせた“減っていない”は63.5%となっている。

認定状況別にみると、認定者は“減っている” (55.2%) が非認定者に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は“減っている” (44.6%) が65～74歳に比べ多くなっている。



(%)

		とても減っている	減っている	あまり減っていない	減っていない	無回答
全体(n=1,901)		6.4	27.6	29.3	34.2	2.6
年齢別	75歳以上(n=1,122)	8.6	36.0	30.1	22.6	2.7
	65～74歳(n=758)	3.2	14.9	28.2	51.5	2.2

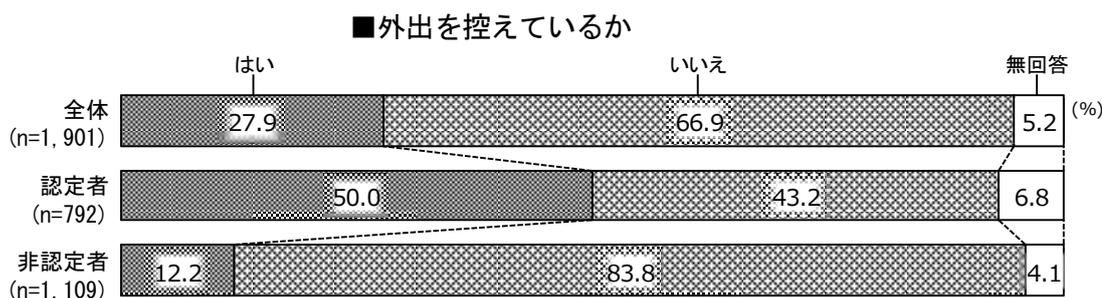
(9) 外出を控えているか (問12)

外出を控えているか聞いたところ、「はい」が27.9%、「いいえ」が66.9%となっている。

認定状況別にみると、認定者は「はい」 (50.0%) が非認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、女性は「はい」 (32.4%) が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「はい」 (38.9%) が65～74歳に比べ多くなっている。



(%)

		はい	いいえ	無回答
全体(n=1,901)		27.9	66.9	5.2
性別	男性(n=754)	21.1	74.0	4.9
	女性(n=1,126)	32.4	62.2	5.4
年齢別	75歳以上(n=1,122)	38.9	54.9	6.1
	65～74歳(n=758)	11.5	85.1	3.4

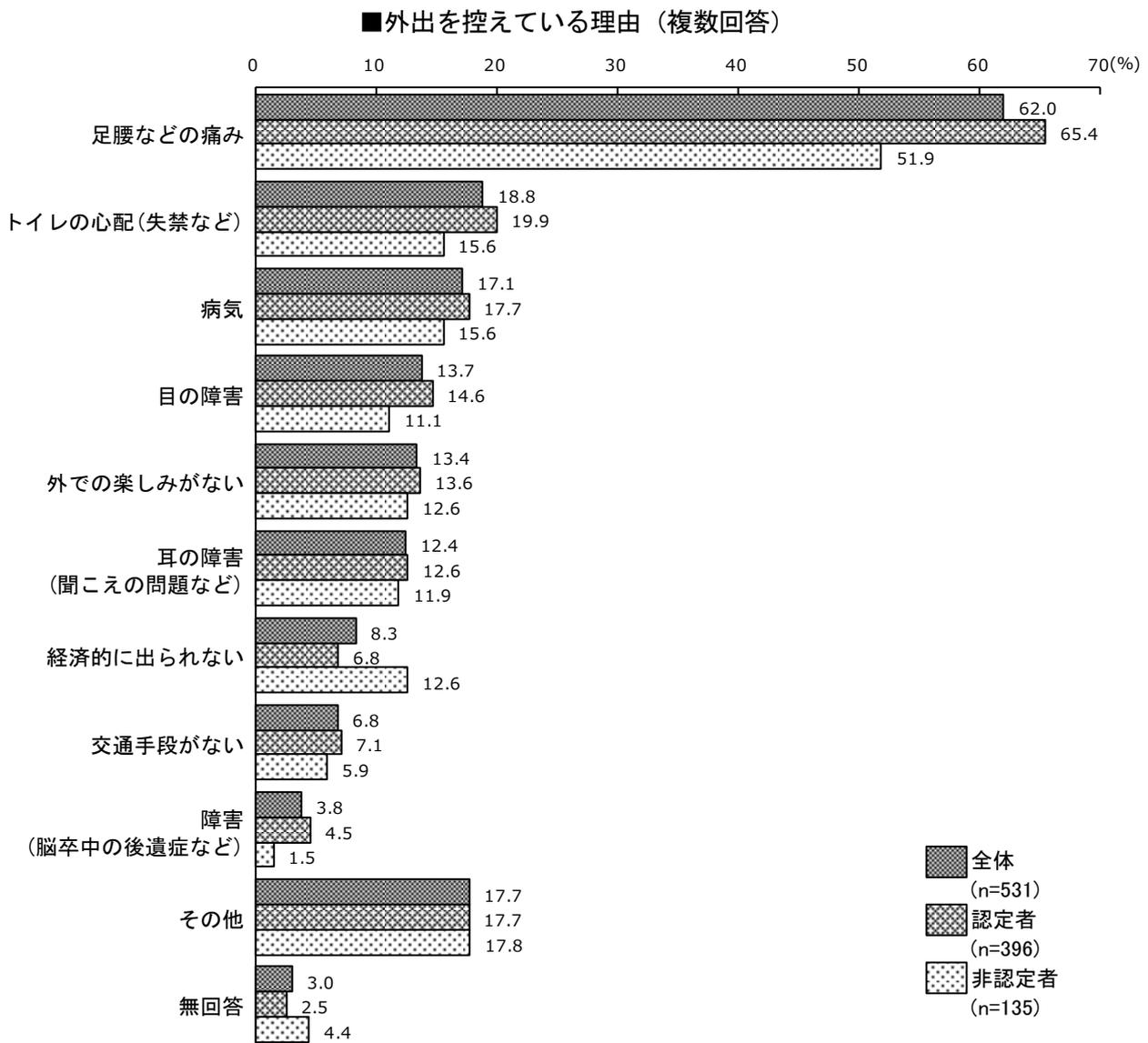
(10) 外出を控えている理由 (問12-1)

外出を控えている理由は、「足腰などの痛み」(62.0%)が最も多く、「トイレの心配(失禁など)」(18.8%)、「病気」(17.1%)と続いている。

認定状況別にみると、認定者は「足腰などの痛み」(65.4%)が非認定者に比べ多く、非認定者は「経済的に出られない」(12.6%)が認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、男性は「外での楽しみがない」(20.1%)、「障害(脳卒中の後遺症など)」(9.4%)が女性に比べ多く、女性は「足腰などの痛み」(65.8%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「足腰などの痛み」(65.2%)、「目の障害」(15.3%)、「耳の障害(聞こえの問題など)」(14.6%)が65~74歳に比べ多く、65~74歳は「病気」(31.0%)と「経済的に出られない」(19.5%)が75歳以上に比べ多くなっている。



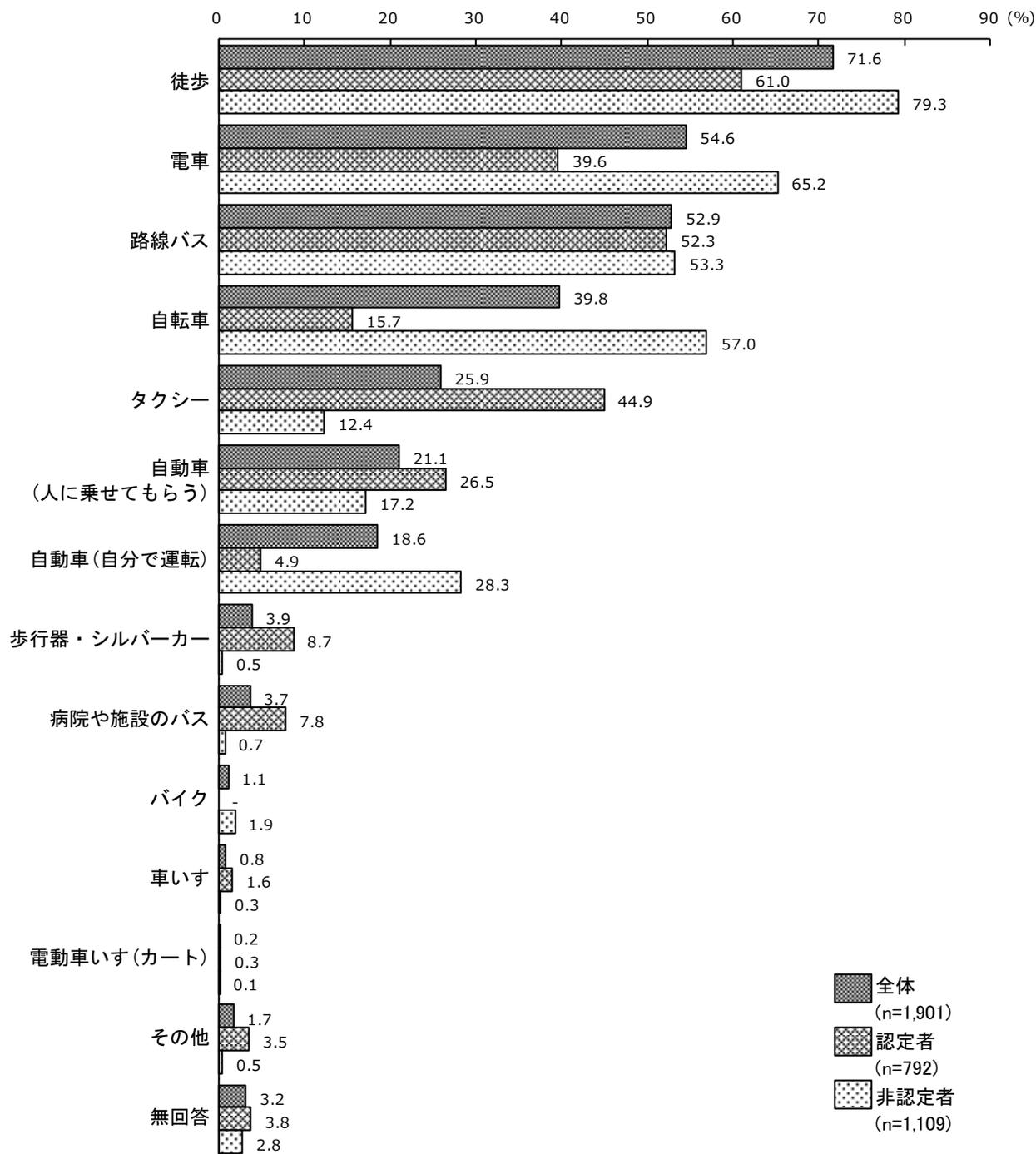
		痛足 み腰 など の	ど配ト (イ 失レ 禁の な心	病 気	目 の 障 害	み外 がで ない 楽し の	問(耳 題聞 なこ どえ 害の	ら経 れ済 ない に出	な交 通手 段が	な中 の害 (後 遺 症卒	そ の 他	無 回 答
全体(n=531)		62.0	18.8	17.1	13.7	13.4	12.4	8.3	6.8	3.8	17.7	3.0
性別	男性(n=159)	55.3	22.0	18.2	13.2	20.1	12.6	5.0	3.8	9.4	15.7	2.5
	女性(n=365)	65.8	17.8	17.0	14.0	10.1	12.6	9.6	8.2	1.4	18.6	3.0
年齢別	75歳以上(n=437)	65.2	19.7	14.2	15.3	12.6	14.6	5.9	6.6	3.2	17.2	3.0
	65~74歳(n=87)	49.4	16.1	31.0	6.9	16.1	2.3	19.5	6.9	6.9	18.4	3.4

(11) 外出する際の移動手段（問13）

外出する際の移動手段は、「徒歩」(71.6%)が最も多く、「電車」(54.6%)、「路線バス」(52.9%)と続いている。

認定状況別にみると、認定者は「タクシー」(44.9%)、「自動車(人に乗せてもらう)」(26.5%)、「歩行器・シルバーカー」(8.7%)、「病院や施設のバス」(7.8%)が非認定者に比べ多く、非認定者は「徒歩」(79.3%)、「電車」(65.2%)、「自転車」(57.0%)、「自動車(自分で運転)」(28.3%)が認定者に比べ多くなっている。

■外出する際の移動手段（複数回答）



性別にみると、男性は「徒歩」(76.5%)、「自転車」(52.1%)、「自動車(自分で運転)」(35.0%)、「バイク」(2.1%)が女性に比べ多く、女性は「路線バス」(56.9%)、「タクシー」(29.8%)、「自動車(人に乗せてもらう)」(27.9%)、「歩行器・シルバーカー」(5.3%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「路線バス」(55.5%)、「タクシー」(35.8%)、「歩行器・シルバーカー」(6.1%)、「病院や施設のバス」(5.1%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「徒歩」(79.8%)、「電車」(64.6%)、「自転車」(58.0%)、「自動車(自分で運転)」(31.0%)、「バイク」(2.0%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第1地区は「自動車(自分で運転)」(23.9%)、第2地区は「電車」(63.9%)、第3地区は「路線バス」(63.0%)と「タクシー」(30.5%)、第4地区は「歩行器・シルバーカー」(8.0%)、第5地区は「路線バス」(59.7%)、第6地区は「自動車(人に乗せてもらう)」(26.5%)が全体に比べ多くなっている。

		徒歩	電車	路線バス	自転車	タクシー	て自動車(人に乗せてもらう)	転自動車(自分で運転)	カ歩行器・シルバー	病院や施設のバス	バイク	車いす	ト自動車いす(カー)	その他	無回答
全体(n=1,901)		71.6	54.6	52.9	39.8	25.9	21.1	18.6	3.9	3.7	1.1	0.8	0.2	1.7	3.2
性別	男性(n=754)	76.5	55.0	46.7	52.1	20.2	10.7	35.0	1.7	3.1	2.1	0.8	0.1	0.5	4.4
	女性(n=1,126)	68.4	54.4	56.9	31.4	29.8	27.9	7.9	5.3	4.1	0.4	0.9	0.2	2.6	2.3
年齢別	75歳以上(n=1,122)	66.3	48.1	55.5	27.6	35.8	22.0	10.5	6.1	5.1	0.5	0.9	0.3	2.6	3.5
	65～74歳(n=758)	79.8	64.6	49.2	58.0	11.2	19.7	31.0	0.7	1.6	2.0	0.7	-	0.5	2.8
地区別	第1地区(n=347)	71.8	54.8	51.6	40.1	24.5	19.6	23.9	2.3	3.7	0.6	0.6	0.3	0.9	3.5
	第2地区(n=368)	74.2	63.9	53.0	37.0	23.6	21.2	19.8	2.4	2.7	1.9	0.3	-	1.4	1.9
	第3地区(n=370)	71.9	49.5	63.0	39.7	30.5	19.7	14.1	4.9	4.6	0.8	1.1	0.3	2.7	3.2
	第4地区(n=226)	66.4	55.8	39.8	39.8	26.1	17.7	17.3	8.0	4.4	-	1.8	-	3.1	4.0
	第5地区(n=263)	73.4	43.0	59.7	39.2	27.0	22.1	17.1	3.0	4.2	1.5	1.1	0.4	0.4	4.6
	第6地区(n=298)	71.8	58.4	45.0	43.3	23.8	26.5	18.8	3.4	2.7	1.7	0.7	-	2.3	2.3

5 食べることについて

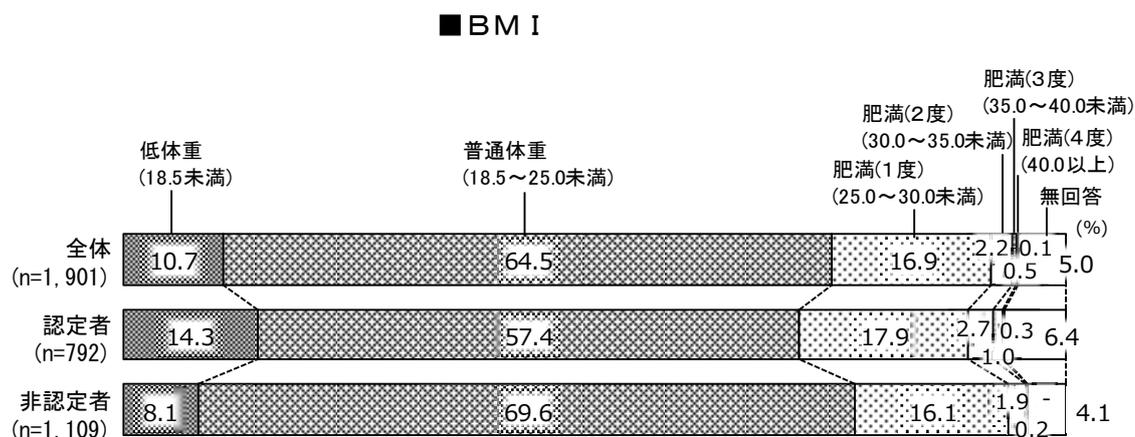
(1) BMI (Body Mass Index (肥満指数) の略) (問14)

身長・体重から算出したBMIは、「普通体重 (18.5～25.0未満)」 (64.5%) が最も多く、「肥満 (1度) (25.0～30.0未満)」 (16.9%)、「低体重 (18.5未満)」 (10.7%) と続いている。

認定状況別にみると、認定者は「低体重 (18.5未満)」 (14.3%) が非認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、男性は「肥満 (1度) (25.0～30.0未満)」 (19.8%) が女性に比べ多く、女性は「低体重 (18.5未満)」 (13.3%) が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「低体重 (18.5未満)」 (12.0%) が65～74歳に比べ多くなっている。



		(%)						
		低体重 (18.5未満)	普通体重 (18.5～25.0未満)	肥満(1度) (25.0～30.0未満)	肥満(2度) (30.0～35.0未満)	肥満(3度) (35.0～40.0未満)	肥満(4度) (40.0以上)	無回答
全体(n=1,901)		10.7	64.5	16.9	2.2	0.5	0.1	5.0
性別	男性(n=754)	6.8	67.5	19.8	1.6	0.1	0.3	4.0
	女性(n=1,126)	13.3	62.3	15.2	2.7	0.8	-	5.7
年齢別	75歳以上(n=1,122)	12.0	62.2	16.4	2.6	0.4	0.2	6.1
	65～74歳(n=758)	8.7	67.8	17.9	1.7	0.7	-	3.2

※BMIとは、[体重 (kg)] ÷ [身長 (m) の2乗] で算出される値のことをいう。肥満や低体重 (やせ) の判定に用いる。

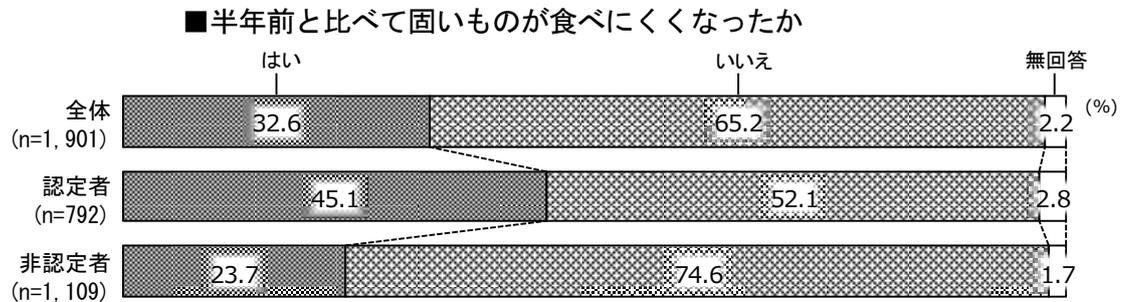
(2) 半年前と比べて固いものが食べにくくなったか (問15)

半年前と比べて固いものが食べにくくなったか聞いたところ、「はい」が32.6%、「いいえ」が65.2%となっている。

認定状況別にみると、認定者は「はい」(45.1%)が非認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、女性は「はい」(34.8%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「はい」(38.1%)が65～74歳に比べ多くなっている。



		(%)		
		はい	いいえ	無回答
全体(n=1,901)		32.6	65.2	2.2
性別	男性(n=754)	29.2	68.0	2.8
	女性(n=1,126)	34.8	63.5	1.7
年齢別	75歳以上(n=1,122)	38.1	59.4	2.6
	65～74歳(n=758)	24.1	74.4	1.5

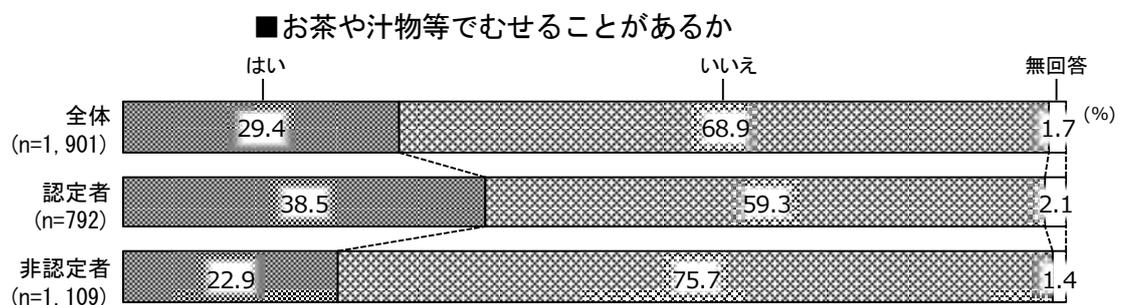
(3) お茶や汁物等でむせることがあるか (問16)

お茶や汁物等でむせることがあるか聞いたところ、「はい」が29.4%、「いいえ」が68.9%となっている。

認定状況別にみると、認定者は「はい」(38.5%)が非認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、女性は「はい」(31.5%)が男性に比べ多くなっている。

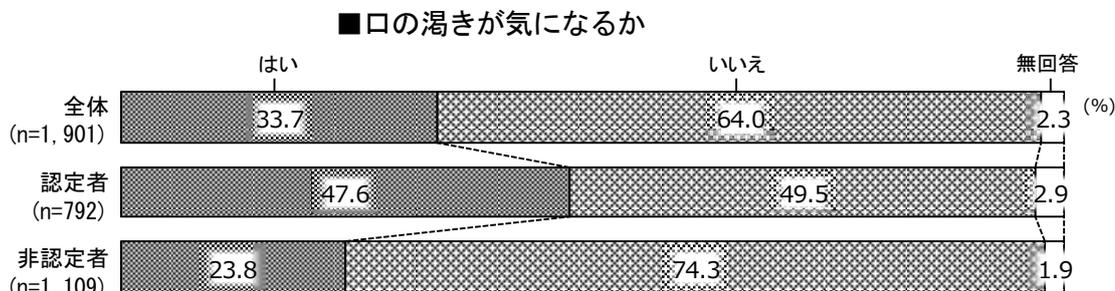
年齢別にみると、75歳以上は「はい」(33.5%)が65～74歳に比べ多くなっている。



		(%)		
		はい	いいえ	無回答
全体(n=1,901)		29.4	68.9	1.7
性別	男性(n=754)	26.1	71.4	2.5
	女性(n=1,126)	31.5	67.3	1.2
年齢別	75歳以上(n=1,122)	33.5	64.4	2.0
	65～74歳(n=758)	23.4	75.5	1.2

(4) 口の渇きが気になるか (問17)

口の渇きが気になるか聞いたところ、「はい」が33.7%、「いいえ」が64.0%となっている。認定状況別にみると、認定者は「はい」(47.6%)が非認定者に比べ多くなっている。性別にみると、女性は「はい」(37.7%)が男性に比べ多くなっている。年齢別にみると、75歳以上は「はい」(39.3%)が65～74歳に比べ多くなっている。



(%)

		はい	いいえ	無回答
全体(n=1,901)		33.7	64.0	2.3
性別	男性(n=754)	28.0	69.5	2.5
	女性(n=1,126)	37.7	60.2	2.1
年齢別	75歳以上(n=1,122)	39.3	57.8	2.9
	65～74歳(n=758)	25.7	72.8	1.5

(5) “口腔機能の低下している高齢者” (問15～問17)

問15～問17の結果から、“口腔機能の低下している高齢者”は全体で29.1%であるといえる。認定状況別にみると、認定者は“口腔機能の低下している高齢者”(42.9%)が非認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、女性は“口腔機能の低下している高齢者”(32.2%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は“口腔機能の低下している高齢者”(34.8%)が65～74歳に比べ多くなっている。

■ “口腔機能の低下している高齢者”

(%)

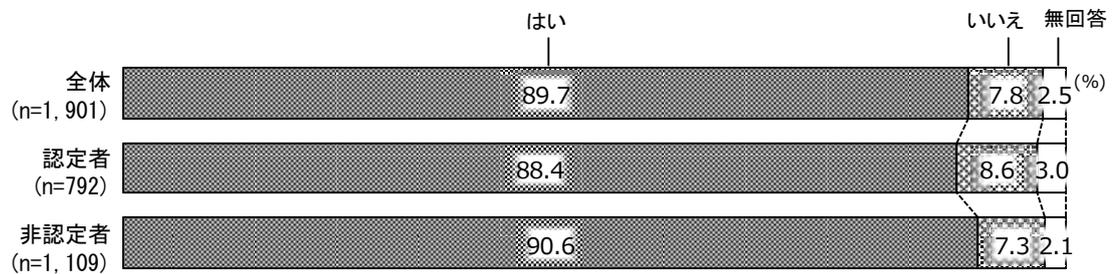
		る低口 高下腔 齢し機 者て能 いの	な低口 い下腔 高し機 齢て能 者のい の	無 回 答
全体(n=1,901)		29.1	69.3	1.6
認定状況別	認定者(n=792)	42.9	55.2	1.9
	非認定者(n=1,109)	19.2	79.4	1.4
性別	男性(n=754)	24.4	73.2	2.4
	女性(n=1,126)	32.2	66.8	1.0
年齢別	75歳以上(n=1,122)	34.8	63.5	1.8
	65～74歳(n=758)	20.8	78.0	1.2
地区別	第1地区(n=347)	28.2	70.3	1.4
	第2地区(n=368)	27.4	71.2	1.4
	第3地区(n=370)	30.0	67.8	2.2
	第4地区(n=226)	32.3	65.9	1.8
	第5地区(n=263)	32.3	65.8	1.9
	第6地区(n=298)	25.8	73.5	0.7

※ “口腔機能の低下している高齢者”：問15～問17の設問において、2問以上「はい」を回答した人

(6) 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日しているか（問 18）

歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日しているか聞いたところ、「はい」が89.7%、「いいえ」が7.8%となっている。

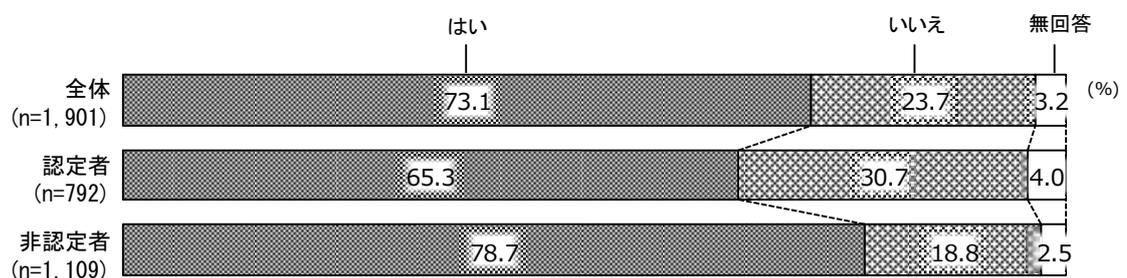
■歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日しているか



(7) 噛み合わせは良いか（問 19）

噛み合わせは良いか聞いたところ、「はい」が73.1%、「いいえ」が23.7%となっている。認定状況別にみると、認定者は「いいえ」（30.7%）が非認定者に比べ多くなっている。年齢別にみると、75歳以上は「はい」（71.5%）が65～74歳に比べ少なくなっている。地区別にみると、第5地区は「いいえ」（31.2%）が全体に比べ多くなっている。

■噛み合わせは良いか



		(%)		
		はい	いいえ	無回答
全体(n=1,901)		73.1	23.7	3.2
年齢別	75歳以上(n=1,122)	71.5	24.9	3.7
	65～74歳(n=758)	76.3	21.8	2.0
地区別	第1地区(n=347)	73.2	22.8	4.0
	第2地区(n=368)	75.0	22.8	2.2
	第3地区(n=370)	74.1	20.8	5.1
	第4地区(n=226)	73.9	23.0	3.1
	第5地区(n=263)	66.2	31.2	2.7
	第6地区(n=298)	76.2	22.8	1.0

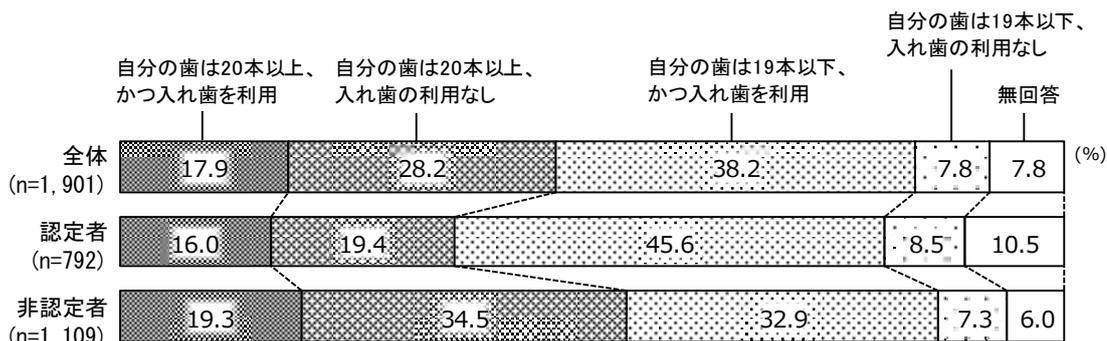
(8) 歯の数と入れ歯の利用状況 (問20)

歯の数と入れ歯の利用状況は、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(38.2%)が最も多く、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」(28.2%)、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(17.9%)、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」(7.8%)と続いている。

認定状況別にみると、認定者は「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(45.6%)が非認定者に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(43.9%)が65~74歳に比べ多くなっている。

■ 歯の数と入れ歯の利用状況



(%)

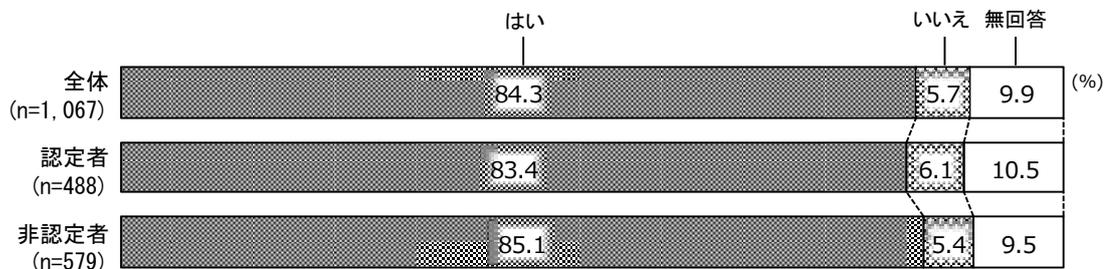
		を以自 利上分 用、の か歯 つは 入2 れ0 歯本	用以自 な上分 な、の 入歯 れは 歯2 の0 利本	を以自 利下分 用、の か歯 つは 入1 れ9 歯本	用以自 な下分 な、の 入歯 れは 歯1 の9 利本	無 回 答
全体(n=1,901)		17.9	28.2	38.2	7.8	7.8
年齢別	75歳以上(n=1,122)	18.2	20.1	43.9	7.5	10.3
	65~74歳(n=758)	17.8	40.6	29.7	8.3	3.6

(9) 毎日入れ歯の手入れをしているか (問 20-1)

「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と回答した人に毎日入れ歯の手入れをしているかを聞いたところ、「はい」が84.3%、「いいえ」が5.7%となっている。

性別にみると、男性は「いいえ」(9.9%)が女性に比べ多くなっている。

■毎日入れ歯の手入れをしているか



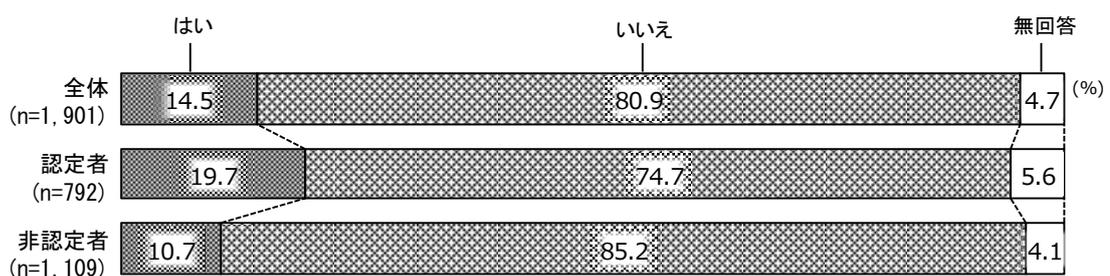
		(%)		
		はい	いいえ	無回答
全体(n=1,067)		84.3	5.7	9.9
性別	男性(n=434)	78.8	9.9	11.3
	女性(n=623)	88.4	2.4	9.1

(10) 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか (問 21)

6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか聞いたところ、「はい」が14.5%、「いいえ」が80.9%となっている。

認定状況別にみると、認定者は「はい」(19.7%)が非認定者に比べ多くなっている。

■6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか



(11) “低栄養状態にある高齢者” (問 14 及び問 21)

問 14 及び問 21 の結果から、“低栄養状態にある高齢者”は全体で2.7%であるといえる。
 認定状況別にみると、認定者は“低栄養状態にある高齢者”(4.8%)が非認定者に比べ多くなっている。

■ “低栄養状態にある高齢者”

(%)

		高 態 低 齢 に 栄 者 あ 養 る 状	高 態 低 齢 に 栄 者 な 養 い 状	無 回 答
全体(n=1,901)		2.7	96.2	1.1
認定状況別	認定者(n=792)	4.8	93.6	1.6
	非認定者(n=1,109)	1.3	98.1	0.6
性別	男性(n=754)	2.3	96.8	0.9
	女性(n=1,126)	3.1	95.9	1.0
年齢別	75歳以上(n=1,122)	3.2	95.6	1.2
	65～74歳(n=758)	2.0	97.4	0.7
地区別	第1地区(n=347)	1.4	97.7	0.9
	第2地区(n=368)	3.0	95.9	1.1
	第3地区(n=370)	2.7	95.9	1.4
	第4地区(n=226)	4.4	94.7	0.9
	第5地区(n=263)	2.3	97.0	0.8
	第6地区(n=298)	3.4	96.0	0.7

※ “低栄養状態にある高齢者”：問 14 及び問 21 の設問において、2問とも、次の内容を回答した人

問番号	設問内容	回答内容
問 14	BMI(身長・体重より算出)	低栄養(BMI18.5 以下)
問 21	6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか	「はい」

(12) 誰かと食事をとる機会 (問 22)

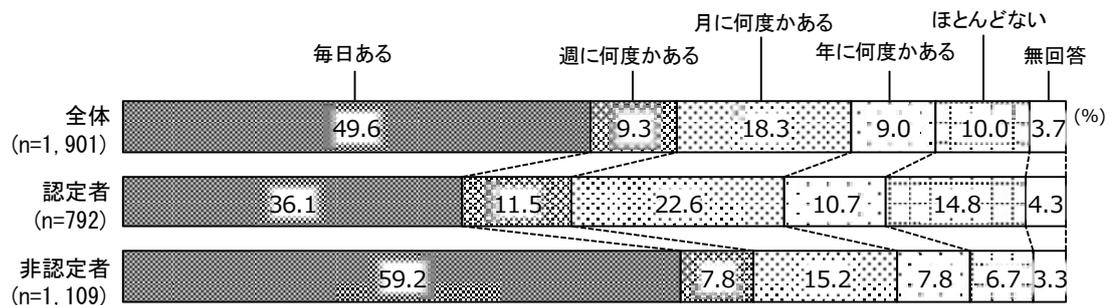
誰かと食事をとる機会は、「毎日ある」(49.6%)が最も多く、「月に何度かある」(18.3%)、「ほとんどない」(10.0%)と続いている。

認定状況別にみると、認定者は「毎日ある」(36.1%)が非認定者に比べ少なくなっている。

性別にみると、男性は「毎日ある」(55.0%)、「ほとんどない」(12.6%)が女性に比べ多く、女性は「週に何度かある」(10.7%)、「月に何度かある」(22.0%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「月に何度かある」(21.0%)、「年に何度かある」(10.7%)、「ほとんどない」(11.5%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「毎日ある」(61.1%)が75歳以上に比べ多くなっている。

■誰かと食事をとる機会



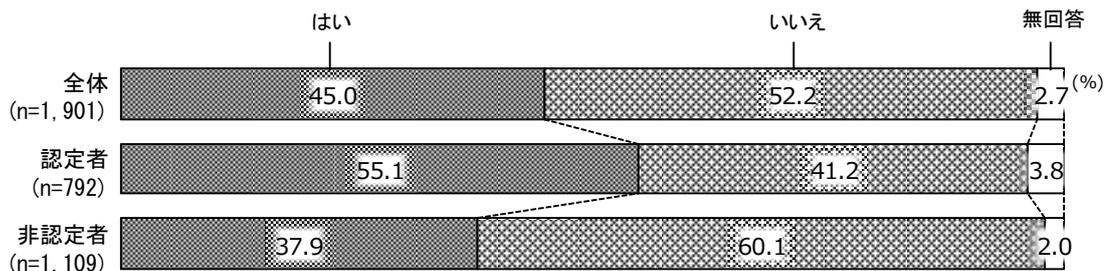
		(%)					
		毎日ある	あ週 るに 何度か	あ月 るに 何度か	あ年 るに 何度か	いほ とん どな	無 回 答
全体(n=1,901)		49.6	9.3	18.3	9.0	10.0	3.7
性別	男性(n=754)	55.0	7.3	12.9	8.6	12.6	3.6
	女性(n=1,126)	46.4	10.7	22.0	9.0	8.2	3.7
年齢別	75歳以上(n=1,122)	42.5	10.4	21.0	10.7	11.5	3.8
	65～74歳(n=758)	61.1	7.8	14.1	6.2	7.4	3.4

6 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じるか (問 23)

物忘れが多いと感じるか聞いたところ、「はい」が45.0%、「いいえ」が52.2%となっている。認定状況別にみると、認定者は「はい」(55.1%)が非認定者に比べ多くなっている。性別にみると、女性は「はい」(48.8%)が男性に比べ多くなっている。年齢別にみると、75歳以上は「はい」(51.2%)が65～74歳に比べ多くなっている。

■物忘れが多いと感じるか



		(%)		
		はい	いいえ	無回答
全体(n=1,901)		45.0	52.2	2.7
性別	男性(n=754)	39.5	57.7	2.8
	女性(n=1,126)	48.8	48.8	2.5
年齢別	75歳以上(n=1,122)	51.2	45.9	2.9
	65～74歳(n=758)	36.3	61.5	2.2

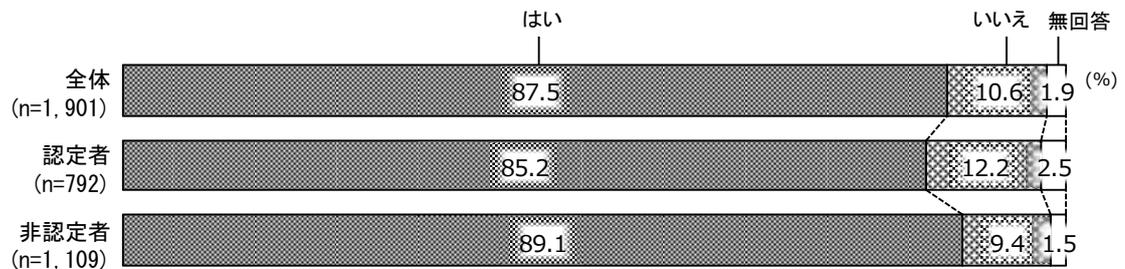
(2) 自分で電話番号を調べて電話をかけることをしているか (問 24)

自分で電話番号を調べて電話をかけることをしているか聞いたところ、「はい」が87.5%、「いいえ」が10.6%となっている。

認定状況別にみると、認定者は「いいえ」(12.2%)が非認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、男性は「いいえ」(13.4%)が女性に比べ多くなっている。

■自分で電話番号を調べて電話をかけることをしているか



		(%)		
		はい	いいえ	無回答
全体(n=1,901)		87.5	10.6	1.9
性別	男性(n=754)	83.8	13.4	2.8
	女性(n=1,126)	90.1	8.7	1.2

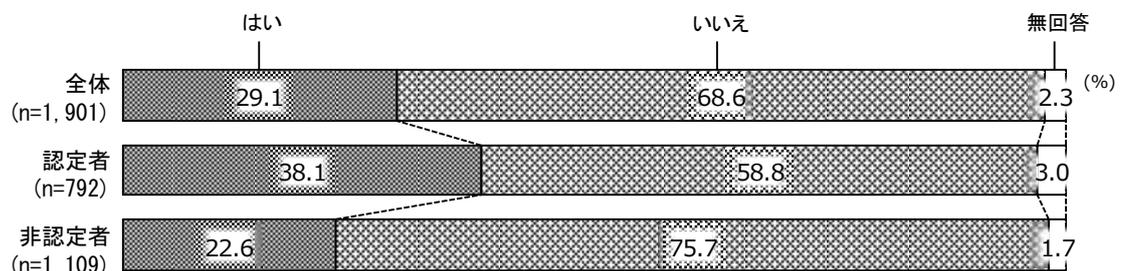
(3) 今日が何月何日かわからない時があるか (問 25)

今日が何月何日かわからない時があるか聞いたところ、「はい」が29.1%、「いいえ」が68.6%となっている。

認定状況別にみると、認定者は「はい」(38.1%)が非認定者に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「はい」(33.9%)が65~74歳に比べ多くなっている。

■今日が何月何日かわからない時があるか



		(%)		
		はい	いいえ	無回答
全体(n=1,901)		29.1	68.6	2.3
年齢別	75歳以上(n=1,122)	33.9	63.3	2.9
	65~74歳(n=758)	22.0	76.6	1.3

(4) バスや電車を使って1人で外出すること（自家用車でも可）（問26）

バスや電車を使って1人で外出すること（自家用車でも可）は、「できるし、している」が80.7%、「できるけどしていない」が8.6%、「できない」が8.5%となっている。

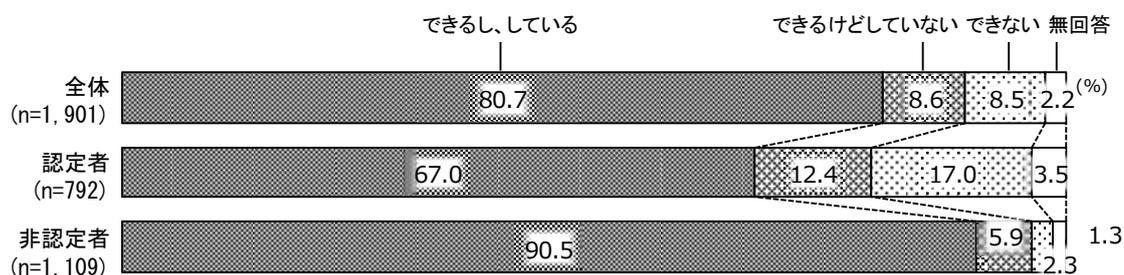
認定状況別にみると、認定者は「できるけどしていない」（12.4%）、「できない」（17.0%）が非認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、男性は「できるけどしていない」（10.9%）が女性に比べ多く、女性は「できない」（10.0%）が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「できるけどしていない」（10.9%）、「できない」（11.9%）が65～74歳に比べ多くなっている。

地区別にみると、第4地区は「できない」（14.6%）が全体に比べ多くなっている。

■バスや電車を使って1人で外出すること（自家用車でも可）



		いしで る、き しる て	など いし き てる い け	で き な い	無 回 答
全体(n=1,901)		80.7	8.6	8.5	2.2
性別	男性(n=754)	80.1	10.9	6.1	2.9
	女性(n=1,126)	81.2	7.1	10.0	1.7
年齢別	75歳以上(n=1,122)	74.6	10.9	11.9	2.7
	65～74歳(n=758)	90.1	5.3	3.4	1.2
地区別	第1地区(n=347)	79.5	8.4	9.2	2.9
	第2地区(n=368)	83.2	8.2	5.7	3.0
	第3地区(n=370)	83.0	7.0	7.8	2.2
	第4地区(n=226)	72.6	10.2	14.6	2.7
	第5地区(n=263)	81.0	10.3	7.6	1.1
	第6地区(n=298)	82.2	9.1	7.7	1.0

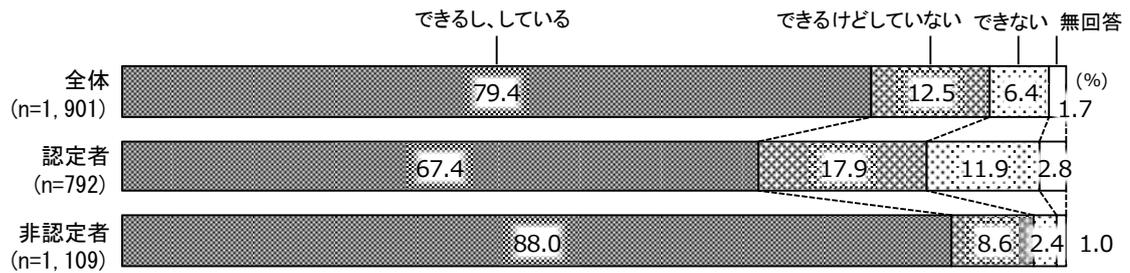
(5) 自分で食品・日用品の買物をする事 (問27)

自分で食品・日用品の買物をする事は、「できるし、している」が79.4%、「できるけどしていない」が12.5%、「できない」が6.4%となっている。

認定状況別にみると、認定者は「できるけどしていない」(17.9%)、「できない」(11.9%)が非認定者に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「できるけどしていない」(14.4%)、「できない」(8.7%)が65～74歳に比べ多くなっている。

■自分で食品・日用品の買物をする事



		(%)			
		いしで る、き しる て	など で い し き て る い け	で き な い	無 回 答
全体(n=1,901)		79.4	12.5	6.4	1.7
年齢別	75歳以上(n=1,122)	74.4	14.4	8.7	2.4
	65～74歳(n=758)	87.1	9.4	2.9	0.7

(6) 自分で食事の用意をすること (問 28)

自分で食事の用意をすることは、「できるし、している」が71.3%、「できるけどしていない」が17.7%、「できない」が9.2%となっている。

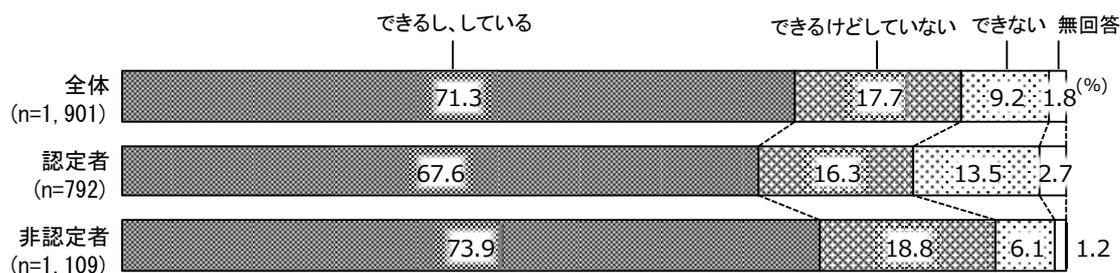
認定状況別にみると、認定者は「できない」(17.9%)が非認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、男性は「できるけどしていない」(33.6%)、「できない」(16.4%)が女性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「できない」(11.0%)が65～74歳に比べ多くなっている。

地区別にみると、第6地区は「できるけどしていない」(24.5%)が全体に比べ多くなっている。

■自分で食事の用意をすること



		いしで る、き しる て	など で いし き て る い け	で き な い	無 回 答
全体(n=1,901)		71.3	17.7	9.2	1.8
性別	男性(n=754)	47.5	33.6	16.4	2.5
	女性(n=1,126)	87.2	7.2	4.4	1.2
年齢別	75歳以上(n=1,122)	68.6	18.1	11.0	2.3
	65～74歳(n=758)	75.2	17.3	6.6	0.9
地区別	第1地区(n=347)	69.2	19.0	9.8	2.0
	第2地区(n=368)	72.0	17.9	7.9	2.2
	第3地区(n=370)	72.7	15.1	10.5	1.6
	第4地区(n=226)	72.6	14.2	10.2	3.1
	第5地区(n=263)	74.5	14.8	9.9	0.8
	第6地区(n=298)	67.8	24.5	6.7	1.0

(7) 自分で請求書の支払いをすること (問 29)

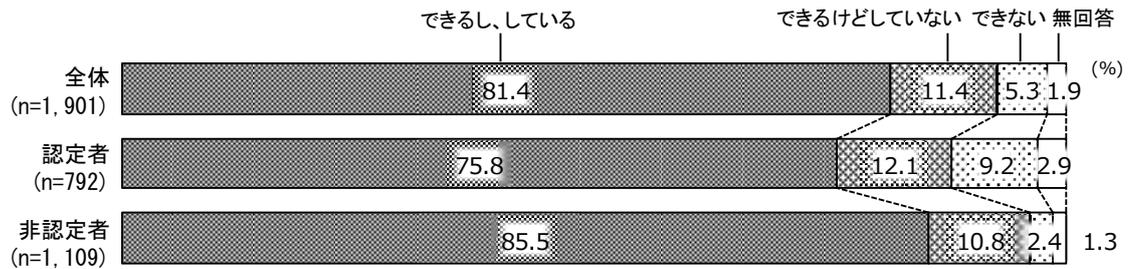
自分で請求書の支払いをすることは、「できるし、している」が81.4%、「できるけどしていない」が11.4%、「できない」が5.3%となっている。

認定状況別にみると、認定者は「できない」(9.2%)が非認定者に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「できない」(7.1%)が65～74歳に比べ多くなっている。

地区別にみると、第6地区は「できるし、している」(76.8%)が全体に比べ少なくなっている。

■自分で請求書の支払いをすること



		(%)			
		いしで る、き しる て	など いし き てる い け	で き な い	無 回 答
全体(n=1,901)		81.4	11.4	5.3	1.9
年齢別	75歳以上(n=1,122)	79.1	11.2	7.1	2.6
	65～74歳(n=758)	85.1	11.6	2.4	0.9
地区別	第1地区(n=347)	82.1	9.8	6.3	1.7
	第2地区(n=368)	80.7	13.9	3.5	1.9
	第3地区(n=370)	84.1	8.4	5.7	1.9
	第4地区(n=226)	78.8	13.3	4.9	3.1
	第5地区(n=263)	86.3	8.0	4.6	1.1
	第6地区(n=298)	76.8	14.8	6.7	1.7

(8) 自分で預貯金の出し入れをすること (問30)

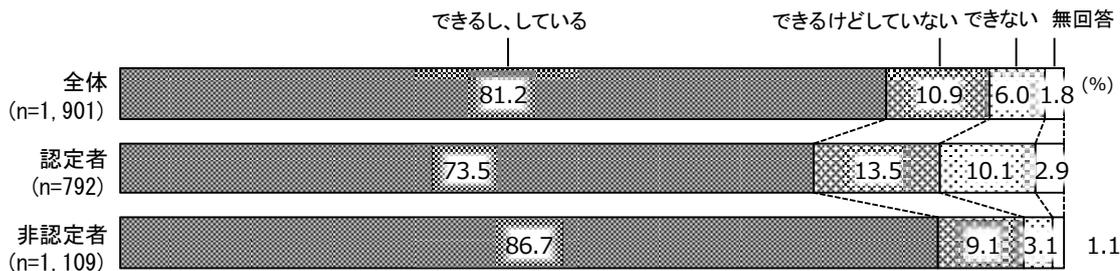
自分で預貯金の出し入れをすることは、「できるし、している」が81.2%、「できるけどしていない」が10.9%、「できない」が6.0%となっている。

認定状況別にみると、認定者は「できるけどしていない」(13.5%)、「できない」(10.1%)が非認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、男性は「できるけどしていない」(16.2%)、「できない」(7.4%)が女性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「できない」(7.9%)が65～74歳に比べ多くなっている。

■自分で預貯金の出し入れをすること



		いしで る、き し る て	など でき ない し き て る い け	で き な い	無 回 答
全体(n=1,901)		81.2	10.9	6.0	1.8
性別	男性(n=754)	74.3	16.2	7.4	2.1
	女性(n=1,126)	85.9	7.5	5.0	1.6
年齢別	75歳以上(n=1,122)	78.1	11.6	7.9	2.4
	65～74歳(n=758)	86.0	9.9	3.2	0.9

(9) IADL (手段的日常生活動作) (問26～問30)

問26～問30 (IADLの低下を問う設問)の結果から、IADLが高いほど点数が高くなるよう採点すると、全体では「高い(5点)」(80.5%)が最も多く、「やや低い(4点)」(9.2%)、「低い(3点以下)」(8.8%)となっている。

認定状況別にみると、認定者は「低い(3点以下)」(16.0%)が非認定者に比べ多くなっている。性別にみると、男性は「高い(5点)」(75.5%)が女性に比べ少なくなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「低い(3点以下)」(11.9%)が65～74歳に比べ多くなっている。地区別にみると、第4地区は「高い(5点)」(73.9%)が全体に比べ少なくなっている。

■ IADL (手段的日常生活動作)

		(高い 5点)	(やや 低い 4点)	(低い 3点 以下)	無 回 答
全体(n=1,901)		80.5	9.2	8.8	1.4
認定状況別	認定者(n=792)	67.8	14.0	16.0	2.1
	非認定者(n=1,109)	89.6	5.8	3.7	0.9
性別	男性(n=754)	75.5	13.3	9.3	2.0
	女性(n=1,126)	84.1	6.5	8.4	1.0
年齢別	75歳以上(n=1,122)	75.6	10.7	11.9	1.9
	65～74歳(n=758)	88.3	6.9	4.2	0.7
地区別	第1地区(n=347)	78.4	9.8	10.7	1.2
	第2地区(n=368)	84.2	8.4	5.7	1.6
	第3地区(n=370)	80.8	8.6	9.2	1.4
	第4地区(n=226)	73.9	12.8	10.6	2.7
	第5地区(n=263)	82.1	9.5	7.6	0.8
	第6地区(n=298)	82.6	6.7	9.7	1.0

※IADLとは、モノや道具を使ってする生活能力のことをいう。ADL(日常生活動作)が、自立して生活するための基本的な身体的動作(食事、入浴、排泄など)を指しているのに対し、IADLはより広義で、日常の動作より応用的な動作が必要な活動(バスに乗って買い物に行く、食事の支度をする、電話をかけるなど)を指している。

※採点方法:問26～問30の設問において、「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した人を1点、「できない」と回答した人を0点として加算する。

(10) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けるか（問 31）

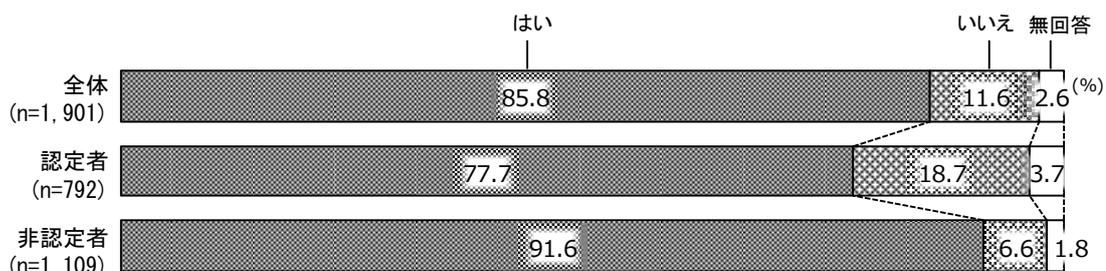
年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けるか聞いたところ、「はい」が85.8%、「いいえ」が11.6%となっている。

認定状況別にみると、認定者は「いいえ」（18.7%）が非認定者に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「いいえ」（14.6%）が65～74歳に比べ多くなっている。

地区別にみると、第4地区は「いいえ」（15.9%）が全体に比べ多くなっている。

■年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けるか

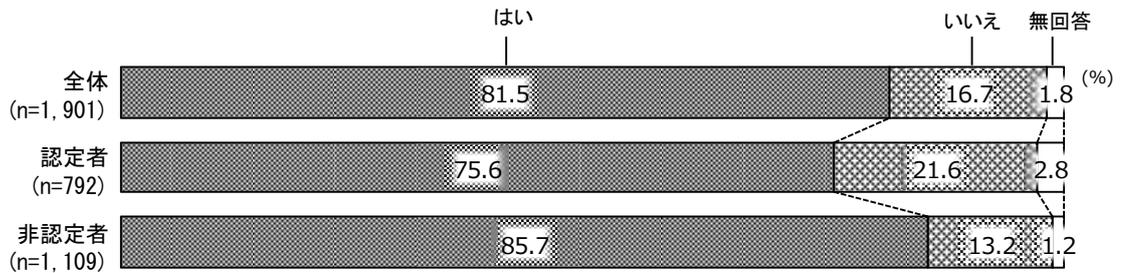


		(%)		
		はい	いいえ	無回答
全体(n=1,901)		85.8	11.6	2.6
年齢別	75歳以上(n=1,122)	82.2	14.6	3.2
	65～74歳(n=758)	91.7	6.9	1.5
地区別	第1地区(n=347)	84.4	12.7	2.9
	第2地区(n=368)	86.1	11.1	2.7
	第3地区(n=370)	88.1	10.3	1.6
	第4地区(n=226)	79.6	15.9	4.4
	第5地区(n=263)	89.7	8.7	1.5
	第6地区(n=298)	85.6	12.4	2.0

(11) 新聞を読んでいるか (問 32)

新聞を読んでいるか聞いたところ、「はい」が81.5%、「いいえ」が16.7%となっている。認定状況別にみると、認定者は「いいえ」(21.6%)が非認定者に比べ多くなっている。性別にみると、女性は「いいえ」(18.6%)が男性に比べ多くなっている。地区別にみると、第4地区は「いいえ」(24.8%)が全体に比べ多くなっている。

■新聞を読んでいるか

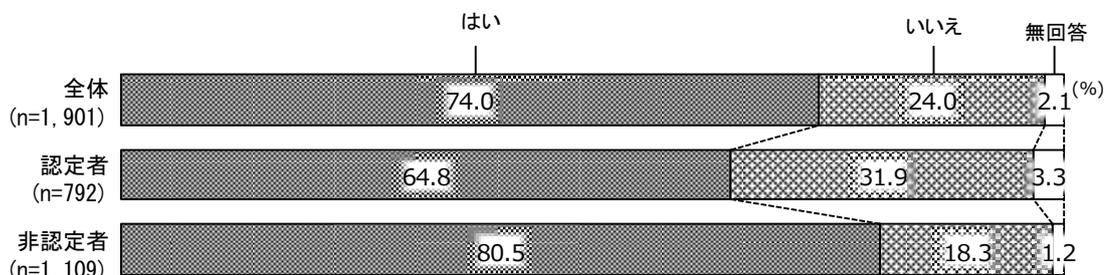


		(%)		
		はい	いいえ	無回答
全体(n=1,901)		81.5	16.7	1.8
性別	男性(n=754)	84.2	13.7	2.1
	女性(n=1,126)	79.8	18.6	1.6
地区別	第1地区(n=347)	81.8	16.4	1.7
	第2地区(n=368)	83.7	14.7	1.6
	第3地区(n=370)	81.6	16.2	2.2
	第4地区(n=226)	72.6	24.8	2.7
	第5地区(n=263)	83.3	15.2	1.5
	第6地区(n=298)	84.9	13.8	1.3

(12) 本や雑誌を読んでいるか (問 33)

本や雑誌を読んでいるか聞いたところ、「はい」が74.0%、「いいえ」が24.0%となっている。認定状況別にみると、認定者は「いいえ」(31.9%)が非認定者に比べ多くになっている。年齢別にみると、75歳以上は「いいえ」(27.2%)が65～74歳に比べ多くになっている。

■本や雑誌を読んでいるか



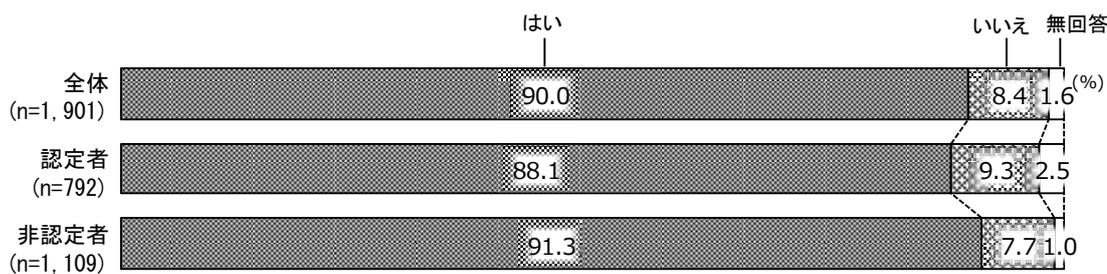
		(%)		
		はい	いいえ	無回答
全体(n=1,901)		74.0	24.0	2.1
年齢別	75歳以上(n=1,122)	70.1	27.2	2.7
	65～74歳(n=758)	80.2	18.7	1.1

(13) 健康についての記事や番組への関心があるか (問 34)

健康についての記事や番組への関心があるか聞いたところ、「はい」が90.0%、「いいえ」が8.4%となっている。

性別にみると、男性は「いいえ」(12.1%)が女性に比べ多くになっている。

■健康についての記事や番組への関心があるか



		(%)		
		はい	いいえ	無回答
全体(n=1,901)		90.0	8.4	1.6
性別	男性(n=754)	85.9	12.1	2.0
	女性(n=1,126)	92.7	6.0	1.3

(14) 知的能動性 (問 31～問 34)

問 31～問 34 (老研式活動能力指標に基づく知的能動性の低下を問う設問) の結果から、知的能動性が高いほど点数が高くなるよう採点すると、全体では「高い (4点)」 (59.1%) が最も多く、「やや低い (3点)」 (23.7%)、「低い (2点以下)」 (15.7%) となっている。

年齢別にみると、75歳以上は「低い (2点以下)」 (17.0%) が65～74歳に比べ多くなっている。

地区別にみると、第4地区は「高い (4点)」 (51.8%) が全体に比べ少なく、「低い (2点以下)」 (21.2%) が全体に比べ多くなっている。

■知的能動性

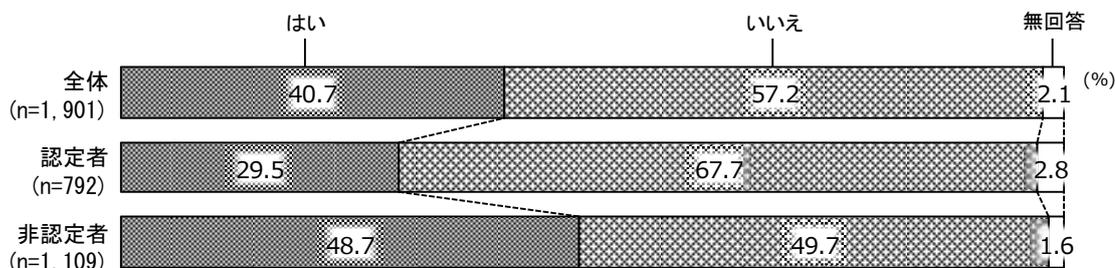
		(%)			
		(高い 4点)	(やや 低い 3点)	(低い 2点 以下)	無 回 答
全体(n=1,901)		59.1	23.7	15.7	1.4
認定状況別	認定者(n=792)	49.0	26.3	22.6	2.1
	非認定者(n=1,109)	66.4	21.9	10.8	0.9
性別	男性(n=754)	59.3	23.7	15.0	2.0
	女性(n=1,126)	59.4	23.5	16.1	1.0
年齢別	75歳以上(n=1,122)	56.4	24.7	17.0	1.9
	65～74歳(n=758)	63.7	22.4	13.2	0.7
地区別	第1地区(n=347)	56.8	26.5	15.6	1.2
	第2地区(n=368)	59.5	25.3	13.6	1.6
	第3地区(n=370)	60.0	23.8	14.9	1.4
	第4地区(n=226)	51.8	24.3	21.2	2.7
	第5地区(n=263)	63.5	20.9	14.8	0.8
	第6地区(n=298)	63.4	20.5	15.1	1.0

※採点方法：問 31～問 34 の設問において、「はい」と回答した人を1点、「いいえ」と回答した人を0点として加算する。

(15) 友人の家を訪ねているか (問 35)

友人の家を訪ねているか聞いたところ、「はい」が40.7%、「いいえ」が57.2%となっている。認定状況別にみると、認定者は「いいえ」(67.7%)が非認定者に比べ多くなっている。性別にみると、男性は「いいえ」(67.0%)が女性に比べ多くなっている。年齢別にみると、75歳以上は「いいえ」(59.3%)が65～74歳に比べ多くなっている。

■友人の家を訪ねているか



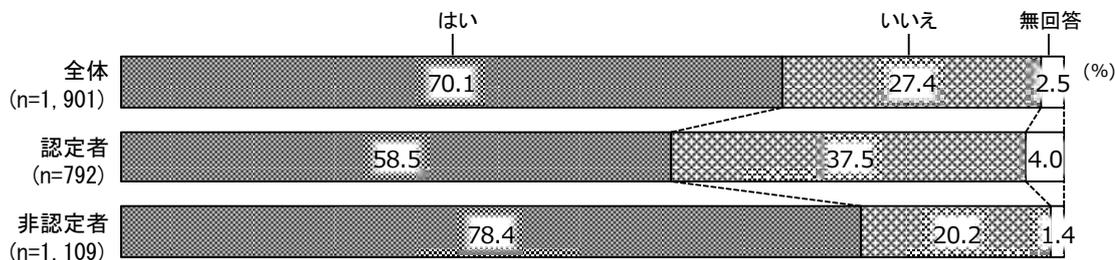
		(%)		
		はい	いいえ	無回答
全体(n=1,901)		40.7	57.2	2.1
性別	男性(n=754)	30.9	67.0	2.1
	女性(n=1,126)	47.2	50.8	2.0
年齢別	75歳以上(n=1,122)	37.9	59.3	2.9
	65～74歳(n=758)	45.1	54.0	0.9

(16) 家族や友人の相談にのっているか (問 36)

家族や友人の相談にのっているか聞いたところ、「はい」が70.1%、「いいえ」が27.4%となっている。

認定状況別にみると、認定者は「いいえ」(37.5%)が非認定者に比べ多くなっている。性別にみると、男性は「いいえ」(30.9%)が女性に比べ多くなっている。年齢別にみると75歳以上は「いいえ」(30.8%)が65～74歳に比べ多くなっている。

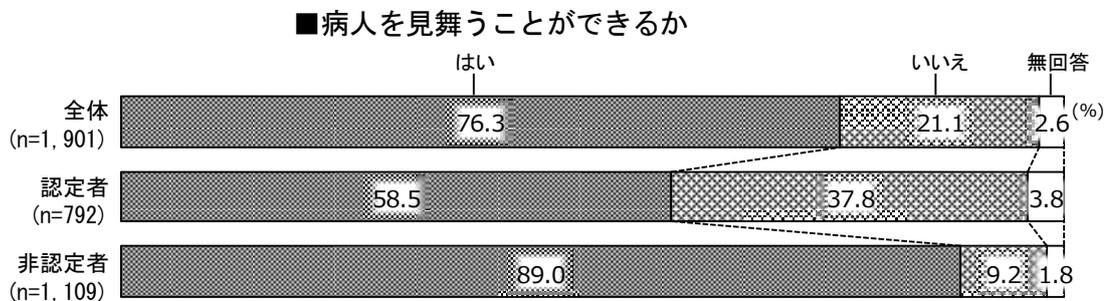
■家族や友人の相談にのっているか



		(%)		
		はい	いいえ	無回答
全体(n=1,901)		70.1	27.4	2.5
性別	男性(n=754)	66.8	30.9	2.3
	女性(n=1,126)	72.6	24.9	2.5
年齢別	75歳以上(n=1,122)	65.7	30.8	3.5
	65～74歳(n=758)	77.4	21.6	0.9

(17) 病人を見舞うことができるか (問37)

病人を見舞うことができるか聞いたところ、「はい」が76.3%、「いいえ」が21.1%となっている。認定状況別にみると、認定者は「いいえ」(37.8%)が非認定者に比べ多くなっている。性別にみると、女性は「いいえ」(22.6%)が男性に比べ多くなっている。年齢別にみると75歳以上は「いいえ」(27.5%)が65～74歳に比べ多くなっている。



(%)

		はい	いいえ	無回答
全体(n=1,901)		76.3	21.1	2.6
性別	男性(n=754)	78.6	18.6	2.8
	女性(n=1,126)	75.0	22.6	2.4
年齢別	75歳以上(n=1,122)	69.0	27.5	3.5
	65～74歳(n=758)	88.0	10.7	1.3

(18) 若い人に自分から話しかけることがあるか (問 38)

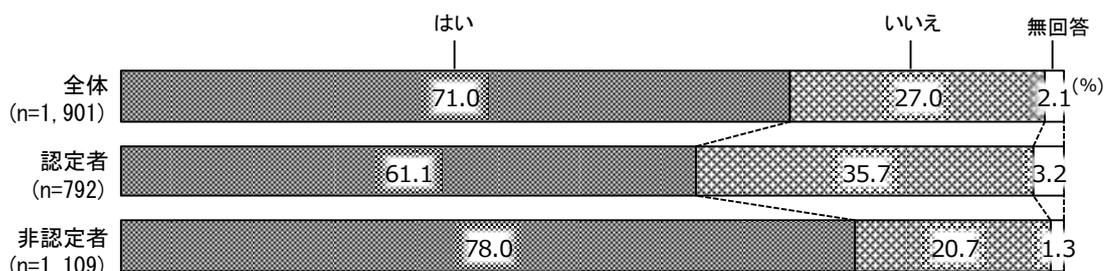
若い人に自分から話しかけることがあるか聞いたところ、「はい」が71.0%、「いいえ」が27.0%となっている。

認定状況別にみると、認定者は「いいえ」(35.7%)が非認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、男性は「いいえ」(33.7%)が女性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「いいえ」(28.8%)が65～74歳に比べ多くなっている。

■若い人に自分から話しかけることがあるか



(%)

		はい	いいえ	無回答
全体(n=1,901)		71.0	27.0	2.1
性別	男性(n=754)	63.9	33.7	2.4
	女性(n=1,126)	75.9	22.3	1.8
年齢別	75歳以上(n=1,122)	68.5	28.8	2.7
	65～74歳(n=758)	75.3	23.6	1.1

(19) 他者との関わり (問 35～問 38)

問 35～問 38 (他者との関わりを問う設問) の結果から、他者との関わりが多いほど点数が高くなるよう採点すると、全体では「高い (4点)」 (32.2%) が最も多く、「やや低い (3点)」 (26.5%)、「低い (2点以下)」 (39.9%) となっていることが把握できる。

認定状況別にみると、認定者は「低い (2点以下)」 (56.4%) が非認定者に比べ多くなっている。性別にみると、男性は「低い (2点以下)」 (45.4%) が女性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「低い (2点以下)」 (45.5%) が65～74歳に比べ多くなっている。

■他者との関わり

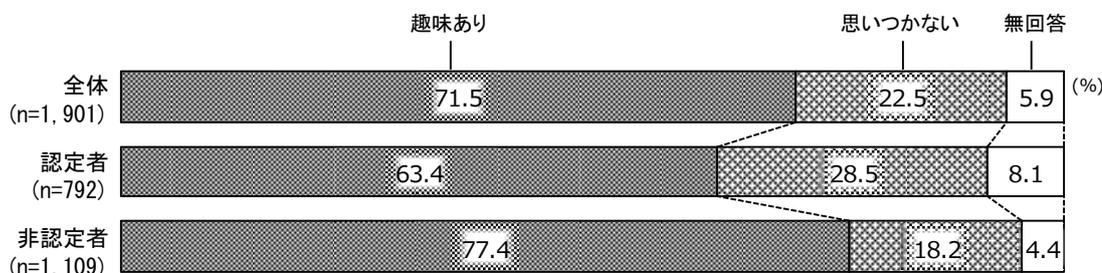
		(%)			
		(高い 4点)	(やや 低い 3点)	(低い 2点 以下)	無 回 答
全体(n=1,901)		32.2	26.5	39.9	1.4
認定状況別	認定者(n=792)	19.1	22.3	56.4	2.1
	非認定者(n=1,109)	41.6	29.4	28.1	0.9
性別	男性(n=754)	25.1	27.6	45.4	2.0
	女性(n=1,126)	37.1	25.7	36.2	1.0
年齢別	75歳以上(n=1,122)	28.1	24.5	45.5	1.9
	65～74歳(n=758)	38.9	29.4	31.0	0.7
地区別	第1地区(n=347)	33.7	25.4	39.8	1.2
	第2地区(n=368)	32.1	28.8	37.5	1.6
	第3地区(n=370)	30.3	29.7	38.6	1.4
	第4地区(n=226)	31.4	24.3	41.6	2.7
	第5地区(n=263)	33.1	24.7	41.4	0.8
	第6地区(n=298)	33.9	23.5	41.6	1.0

※採点方法：問 35～問 38 の設問において、「はい」と回答した人を1点、「いいえ」と回答した人を0点として加算する。

(20) 趣味はあるか (問 39)

趣味はあるか聞いたところ、「趣味あり」が71.5%、「思いつかない」が22.5%となっている。認定状況別にみると、認定者は「思いつかない」(28.5%)が非認定者に比べ多くなっている。年齢別にみると、75歳以上は「趣味あり」(69.2%)が65～74歳に比べ少なくなっている。

■趣味はあるか



(%)

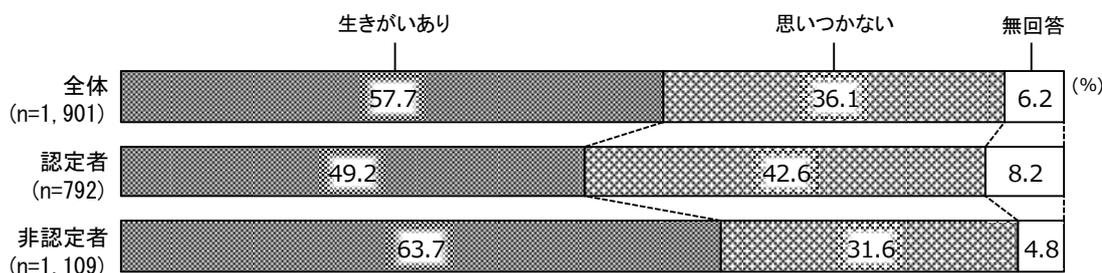
		趣味あり	な思 い い つ か	無 回 答
全体(n=1,901)		71.5	22.5	5.9
年齢別	75歳以上(n=1,122)	69.2	23.5	7.3
	65～74歳(n=758)	75.9	20.4	3.7

(21) 生きがいはあるか (問 40)

生きがいはあるか聞いたところ、「生きがいあり」が57.7%、「思いつかない」が36.1%となっている。

認定状況別にみると、認定者は「思いつかない」(42.6%)が非認定者に比べ多くなっている。年齢別にみると、75歳以上は「生きがいあり」(55.3%)が65～74歳に比べ少なくなっている。

■生きがいはあるか



(%)

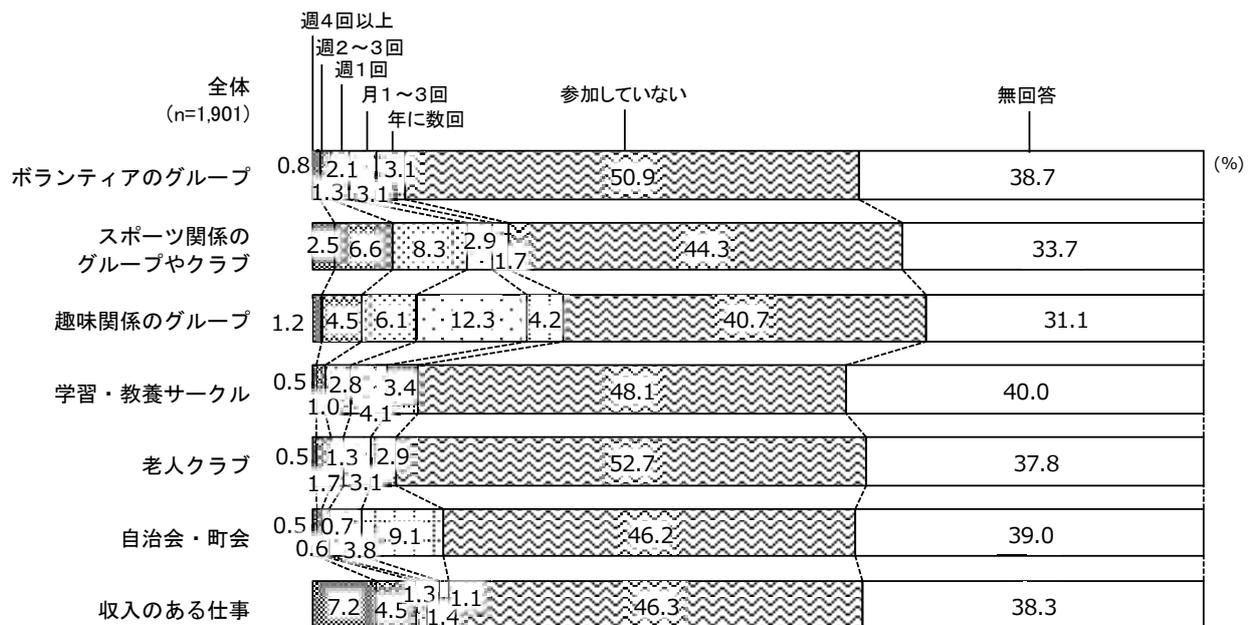
		あ生 り き が い	な思 い い つ か	無 回 答
全体(n=1,901)		57.7	36.1	6.2
年齢別	75歳以上(n=1,122)	55.3	37.1	7.6
	65～74歳(n=758)	61.3	34.6	4.1

7 地域での活動について

(1) 会・グループ等への参加状況（問41）

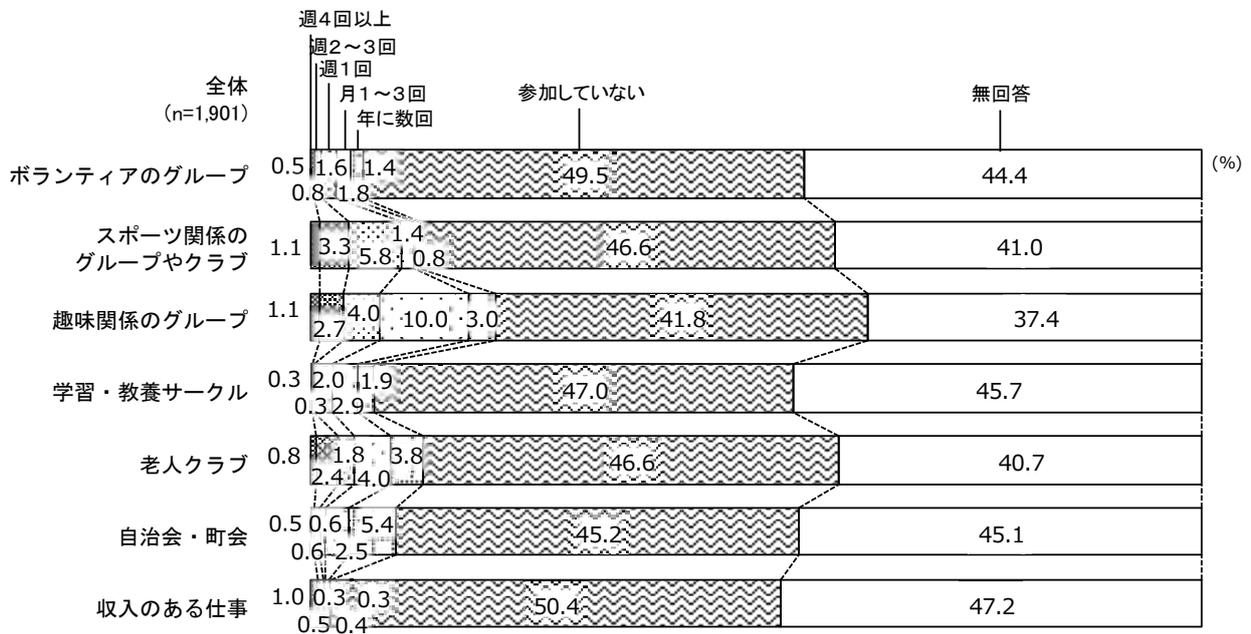
会・グループ等への参加状況について、「週4回以上」から「年に数回」を合わせた“参加している”は、『趣味関係のグループ』（28.3%）が最も多く、『スポーツ関係のグループやクラブ』（22.0%）、『収入のある仕事』（15.5%）と続いている。

■会・グループ等への参加状況（全体）

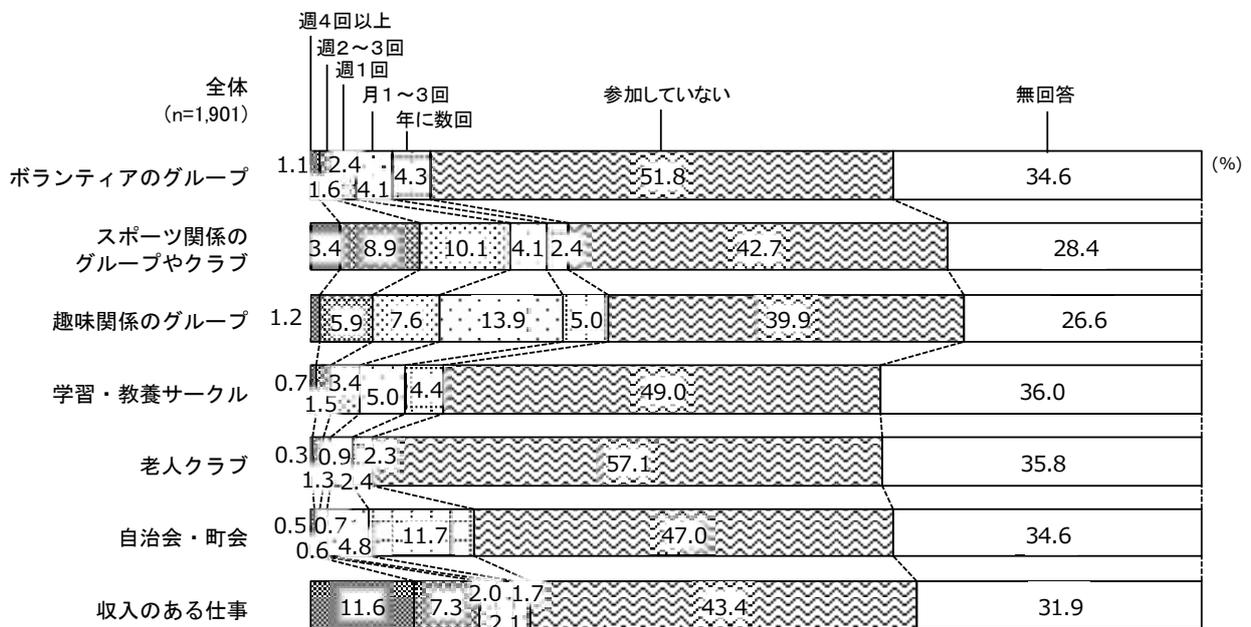


認定状況別にみると、認定者は『趣味関係のグループ』(20.8%)が最も多く、『老人クラブ』(12.8%)、『スポーツ関係のグループやクラブ』(12.4%)と続いており、非認定者は『趣味関係のグループ』(33.6%)が最も多く、『スポーツ関係のグループやクラブ』(28.9%)、『収入のある仕事』(24.7%)と続いている。

■会・グループ等への参加状況（認定者）



■会・グループ等への参加状況（非認定者）



(2) 地域づくり活動への参加者としての参加意向 (問42)

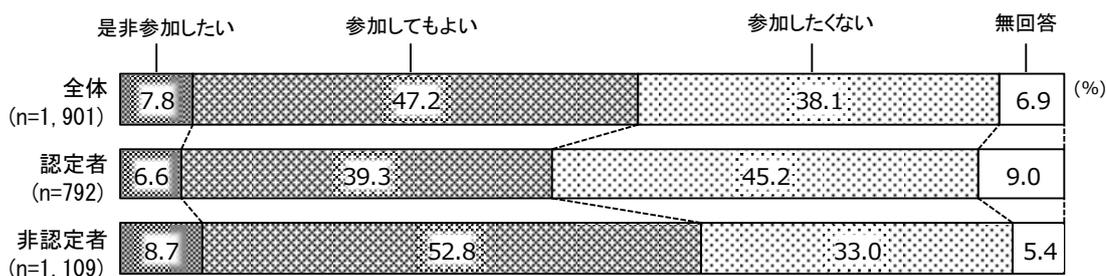
地域づくり活動への参加者としての参加意向は、「参加してもよい」(47.2%)が最も多く、「参加したくない」(38.1%)、
「是非参加したい」(7.8%)と続いている。

認定状況別にみると、認定者は「参加したくない」(45.2%)が非認定者に比べ多く、非認定者は「参加してもよい」(52.8%)が認定者に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「参加したくない」(40.3%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「参加してもよい」(54.0%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、「是非参加したい」が最も多いのは第4地区(8.8%)である。

■地域づくり活動への参加者としての参加意向



		(%)			
		た是非参加し	よ参加しても	な参加したく	無回答
全体(n=1,901)		7.8	47.2	38.1	6.9
年齢別	75歳以上(n=1,122)	8.1	43.2	40.3	8.4
	65～74歳(n=758)	7.5	54.0	34.3	4.2
地区別	第1地区(n=347)	8.4	43.8	40.6	7.2
	第2地区(n=368)	8.4	51.4	34.8	5.4
	第3地区(n=370)	6.2	49.7	36.5	7.6
	第4地区(n=226)	8.8	46.0	38.1	7.1
	第5地区(n=263)	8.0	41.1	43.3	7.6
	第6地区(n=298)	8.1	50.7	35.2	6.0

(3) 地域づくり活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向（問43）

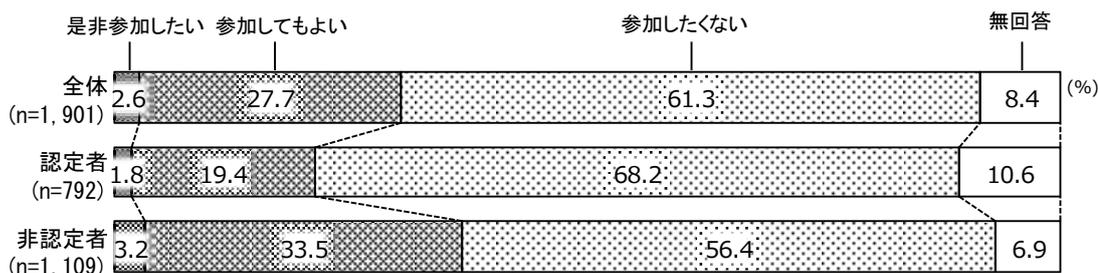
地域づくり活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向は、「参加したくない」（61.3%）が最も多く、「参加してもよい」（27.7%）、「是非参加したい」（2.6%）と続いている。

認定状況別にみると、認定者は「参加したくない」（68.2%）が非認定者に比べ多く、非認定者は「参加してもよい」（33.5%）が認定者に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「参加したくない」（63.7%）が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「参加してもよい」（33.6%）が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、「是非参加したい」が最も多いのは第4地区（4.0%）である。

■地域づくり活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向



		参加意向 (%)			
		是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	無回答
全体 (n=1,901)		2.6	27.7	61.3	8.4
年齢別	75歳以上 (n=1,122)	2.4	24.0	63.7	9.9
	65～74歳 (n=758)	3.0	33.6	57.5	5.8
地区別	第1地区 (n=347)	3.5	25.4	62.2	8.9
	第2地区 (n=368)	2.2	27.7	63.0	7.1
	第3地区 (n=370)	1.9	28.6	60.3	9.2
	第4地区 (n=226)	4.0	28.8	60.2	7.1
	第5地区 (n=263)	2.7	29.3	60.5	7.6
	第6地区 (n=298)	2.3	27.5	61.4	8.7

8 たすけあいについて

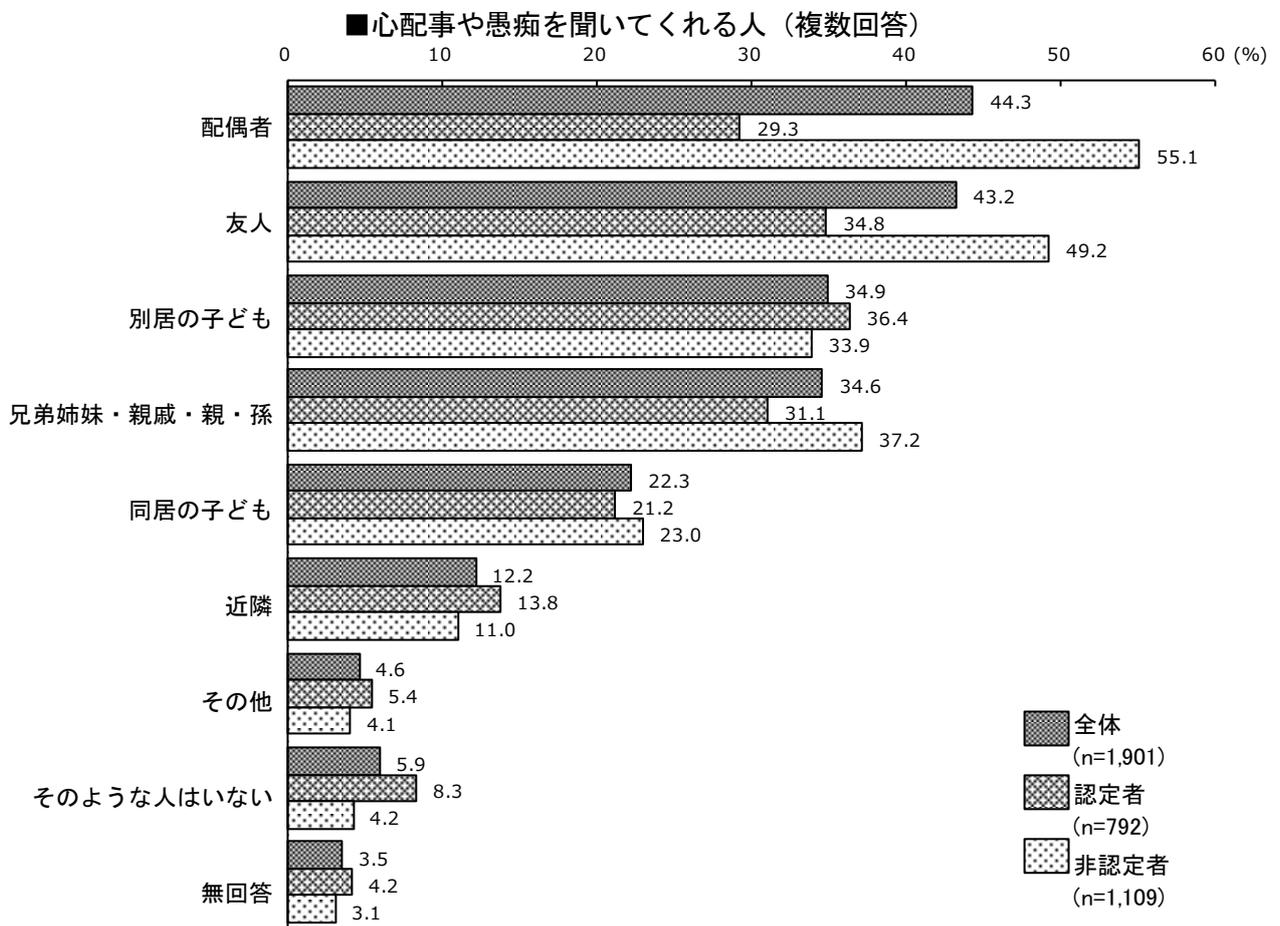
(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人 (問44)

心配事や愚痴を聞いてくれる人は、「配偶者」(44.3%)が最も多く、「友人」(43.2%)、「別居の子ども」(34.9%)と続いている。

認定状況別にみると、認定者は「そのような人はいない」(8.3%)が非認定者に比べ多く、非認定者は「配偶者」(55.1%)、「友人」(49.2%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(37.2%)が認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、男性は「配偶者」(61.8%)、「そのような人はいない」(7.7%)が女性に比べ多く、女性は「友人」(53.8%)、「別居の子ども」(40.5%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(41.1%)、「同居の子ども」(26.6%)、「近隣」(16.5%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「近隣」(14.3%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「配偶者」(56.6%)、「友人」(50.8%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(38.8%)が75歳以上に比べ多くなっている。



		配偶者	友人	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	同居の子ども	近隣	その他	そのような人はいない	無回答
全体(n=1,901)		44.3	43.2	34.9	34.6	22.3	12.2	4.6	5.9	3.5
性別	男性(n=754)	61.8	27.6	26.9	25.1	16.0	5.7	4.2	7.7	4.5
	女性(n=1,126)	32.9	53.8	40.5	41.1	26.6	16.5	5.0	4.4	2.7
年齢別	75歳以上(n=1,122)	36.5	38.4	36.7	31.9	23.3	14.3	4.3	6.0	4.1
	65～74歳(n=758)	56.6	50.8	32.7	38.8	21.2	9.0	5.0	5.4	2.4

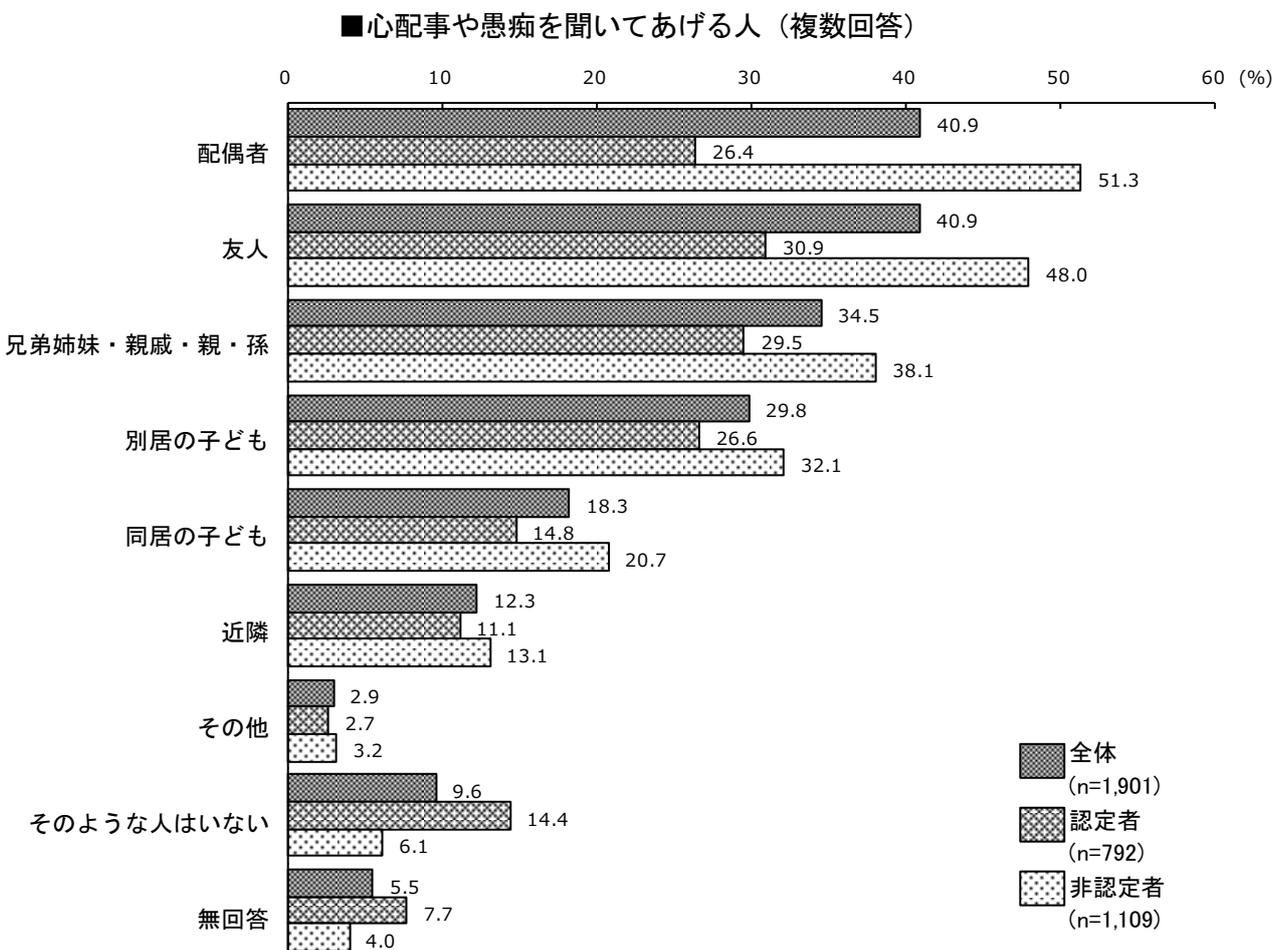
(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人 (問45)

心配事や愚痴を聞いてあげる人は、「配偶者」と「友人」(ともに40.9%)が最も多く、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(34.5%)、「別居の子ども」(29.8%)と続いている。

認定状況別にみると、認定者は「そのような人はいない」(14.4%)が非認定者に比べ多く、非認定者は「配偶者」(51.3%)、「友人」(48.0%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(38.1%)、「別居の子ども」(32.1%)、「同居の子ども」(20.7%)が認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、男性は「配偶者」(59.2%)、「そのような人はいない」(11.8%)が女性に比べ多く、女性は「友人」(50.4%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(39.7%)、「別居の子ども」(31.7%)、「同居の子ども」(20.4%)、「近隣」(16.3%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「そのような人はいない」(11.1%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「配偶者」(52.8%)、「友人」(50.9%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(40.6%)、「別居の子ども」(34.0%)が75歳以上に比べ多くなっている。



		配偶者	友人	孫親兄弟 親戚姉妹 ・ ・	も別居 の 子 ど	も同居 の 子 ど	近 隣	そ の 他	人そ はの いよ う い な	無 回 答
全体(n=1,901)		40.9	40.9	34.5	29.8	18.3	12.3	2.9	9.6	5.5
性別	男性(n=754)	59.2	26.8	27.2	27.1	15.1	6.1	2.8	11.8	5.2
	女性(n=1,126)	29.0	50.4	39.7	31.7	20.4	16.3	3.0	7.9	5.5
年齢別	75歳以上(n=1,122)	33.2	34.4	30.7	27.3	17.5	13.1	2.7	11.1	7.0
	65～74歳(n=758)	52.8	50.9	40.6	34.0	19.8	11.1	3.3	6.6	3.0

(3) 看病や世話をしてくれる人 (問46)

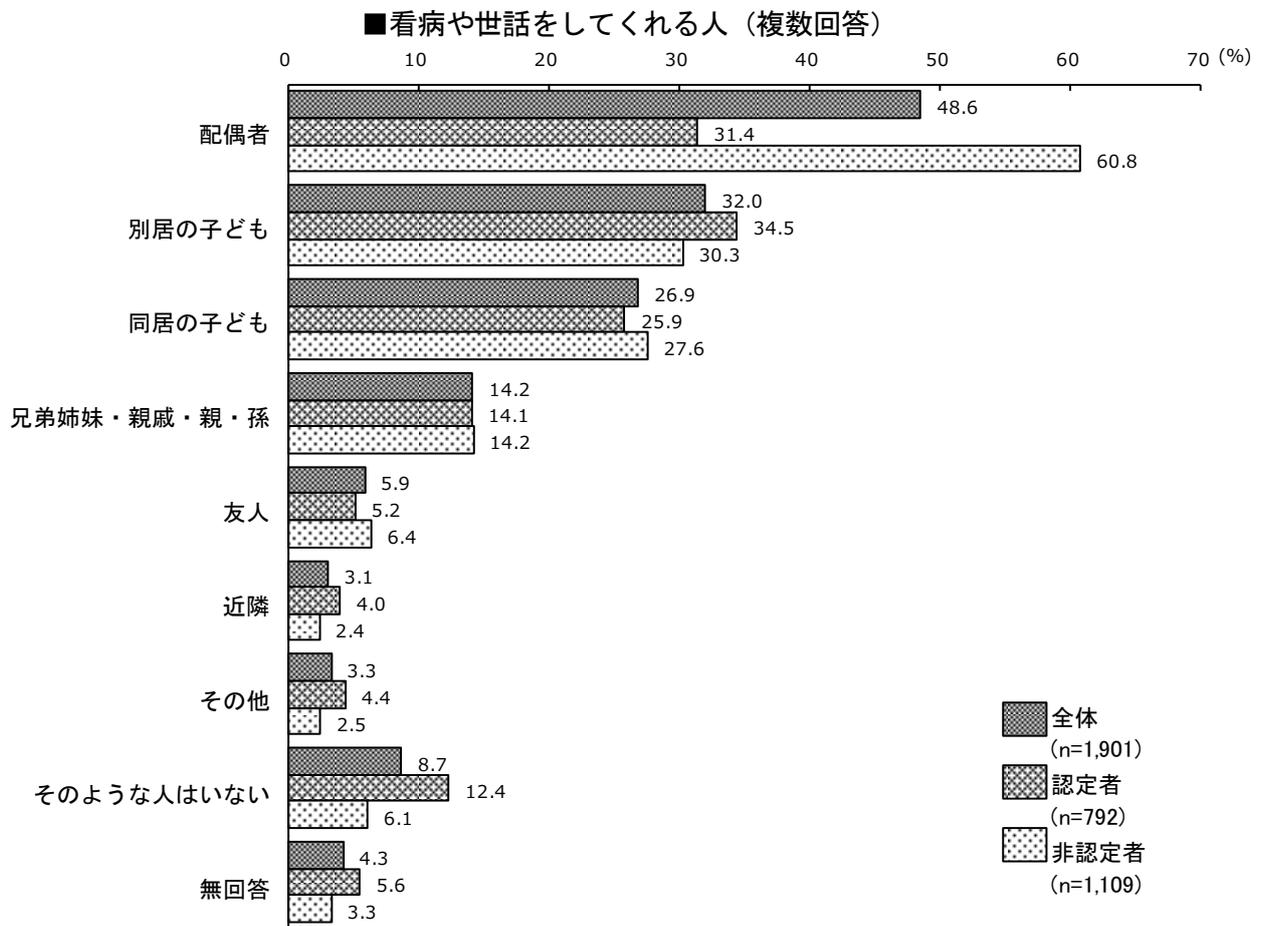
看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」(48.6%)が最も多く、「別居の子ども」(32.0%)、「同居の子ども」(26.9%)と続いている。

認定状況別にみると、認定者は「近隣」(4.0%)、「そのような人はいない」(12.4%)が非認定者に比べ多く、非認定者は「配偶者」(60.8%)が認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、男性は「配偶者」(67.6%)が女性に比べ多く、女性は「別居の子ども」(36.3%)、「同居の子ども」(32.6%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(16.5%)、「友人」(8.1%)、「近隣」(4.4%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「別居の子ども」(35.2%)と「同居の子ども」(28.7%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「配偶者」(64.9%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第4地区は「そのような人はいない」(14.2%)、第5地区は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(18.6%)、第6地区は「配偶者」(56.0%)が全体に比べ多くなっている。



		配偶者	別居の子ども	同居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	友人	近隣	その他	いような人はいない	無回答
全体(n=1,901)		48.6	32.0	26.9	14.2	5.9	3.1	3.3	8.7	4.3
性別	男性(n=754)	67.6	25.7	18.6	11.0	2.8	1.2	2.3	9.0	4.1
	女性(n=1,126)	35.9	36.3	32.6	16.5	8.1	4.4	4.0	8.4	4.2
年齢別	75歳以上(n=1,122)	37.8	35.2	28.7	13.7	5.5	3.7	4.2	9.1	5.2
	65～74歳(n=758)	64.9	27.6	24.5	14.9	6.6	2.2	2.0	7.9	2.5
地区別	第1地区(n=347)	51.0	30.8	24.8	11.8	4.3	1.4	4.6	9.2	4.9
	第2地区(n=368)	47.0	34.0	27.4	15.5	6.3	4.1	3.5	6.5	4.6
	第3地区(n=370)	45.9	30.5	26.2	13.8	5.9	3.8	3.5	7.8	4.1
	第4地区(n=226)	46.5	31.0	27.4	14.6	8.8	1.3	2.2	14.2	3.5
	第5地区(n=263)	45.2	33.1	31.2	18.6	6.5	3.4	3.0	9.1	3.0
	第6地区(n=298)	56.0	33.2	26.8	12.1	5.0	4.4	2.0	7.7	3.7

(4) 看病や世話をしている人 (問47)

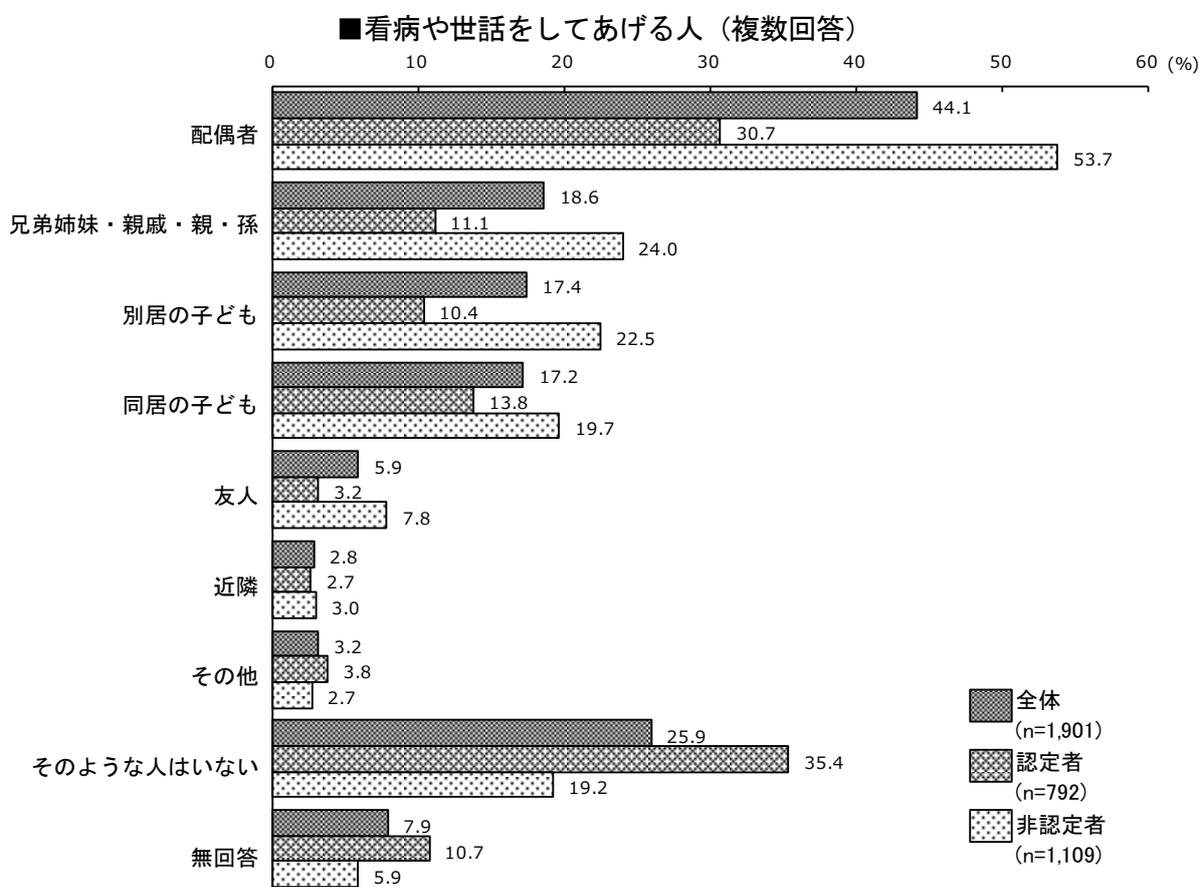
看病や世話をしている人は、「配偶者」(44.1%)が最も多く、「そのような人はいない」(25.9%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(18.6%)と続いている。

認定状況別にみると、認定者は「そのような人はいない」(35.4%)が非認定者に比べ多く、非認定者は「配偶者」(53.7%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(24.0%)、「別居の子ども」(22.5%)、「同居の子ども」(19.7%)、「友人」(7.8%)が認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、男性は「配偶者」(57.6%)が女性に比べ多く、女性は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(20.9%)、「別居の子ども」(19.7%)、「同居の子ども」(19.8%)、「友人」(8.3%)、「近隣」(4.3%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「そのような人はいない」(29.0%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「配偶者」(55.0%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(26.1%)、「別居の子ども」(22.8%)、「同居の子ども」(19.5%)、「友人」(7.5%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第5地区は「友人」(8.7%)、第6地区は「配偶者」(51.3%)が全体に比べ多くなっている。



		配偶者	親親妹兄・戚・弟姉・孫	子別ど居もの	子同ど居もの	友人	近隣	その他	いはうそいなの人よ	無回答
全体(n=1,901)		44.1	18.6	17.4	17.2	5.9	2.8	3.2	25.9	7.9
性別	男性(n=754)	57.6	15.6	14.2	13.4	2.3	0.8	1.7	25.9	6.0
	女性(n=1,126)	35.3	20.9	19.7	19.8	8.3	4.3	4.2	25.7	9.1
年齢別	75歳以上(n=1,122)	37.1	13.7	14.0	15.9	4.9	3.2	3.5	29.0	9.9
	65～74歳(n=758)	55.0	26.1	22.8	19.5	7.5	2.4	2.8	20.8	4.6
地区別	第1地区(n=347)	43.2	18.7	17.0	16.4	5.8	1.7	3.7	26.5	8.9
	第2地区(n=368)	45.4	19.8	19.6	16.6	5.7	3.3	4.1	23.1	8.7
	第3地区(n=370)	42.4	18.4	14.3	18.9	7.3	3.8	2.7	25.4	7.8
	第4地区(n=226)	44.2	15.5	14.2	19.5	3.5	0.9	4.0	26.1	5.3
	第5地区(n=263)	39.2	20.9	20.2	18.6	8.7	4.2	1.9	30.0	8.4
	第6地区(n=298)	51.3	18.1	19.5	15.1	4.0	3.0	2.7	24.8	6.4

(5) 家族や友人・知人以外で相談する相手 (問 48)

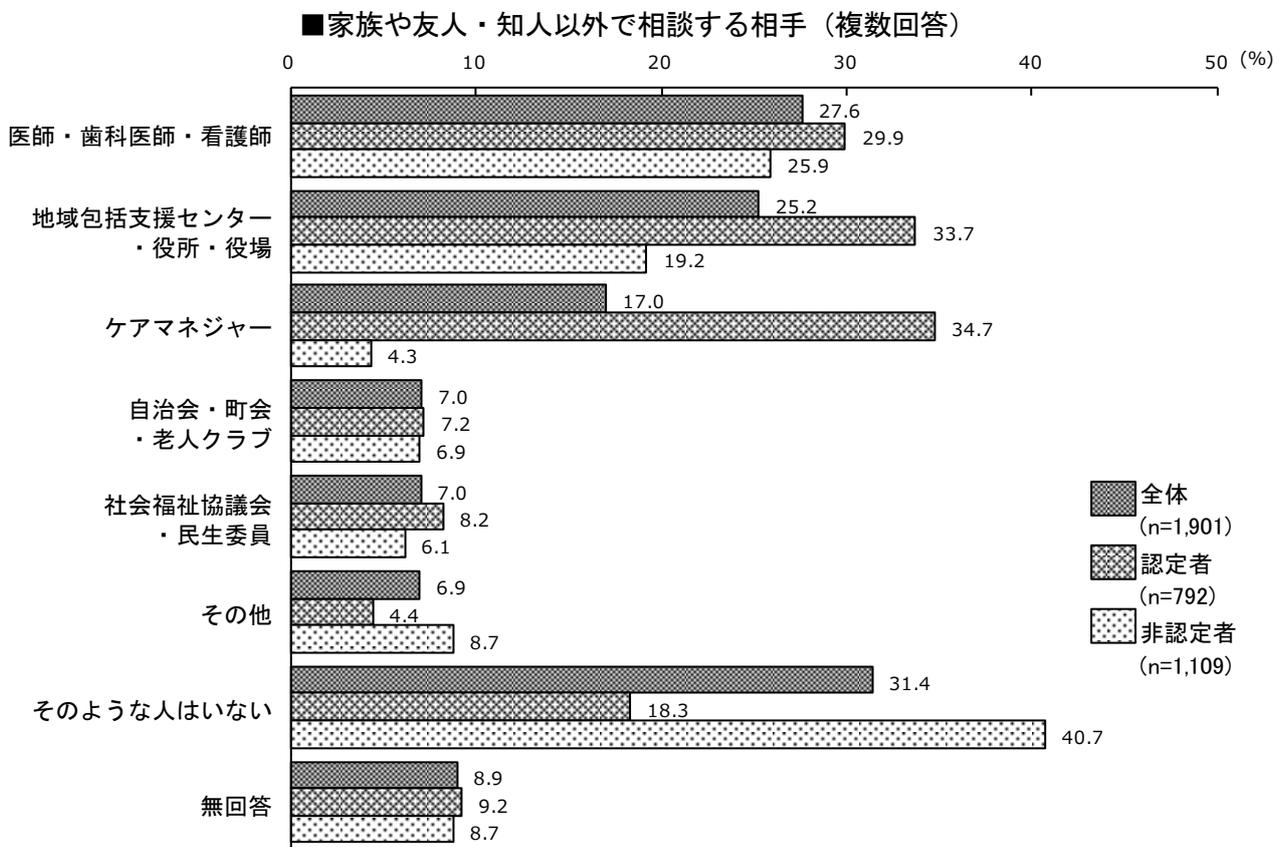
家族や友人・知人以外で相談する相手は、「そのような人はいない」(31.4%)が最も多くなっている。相談する相手の中では、「医師・歯科医師・看護師」(27.6%)が最も多く、「地域包括支援センター・役所・役場」(25.2%)、「ケアマネジャー」(17.0%)と続いている。

認定状況別にみると、認定者は「ケアマネジャー」(34.7%)、「地域包括支援センター・役所・役場」(33.7%)が非認定者に比べ多く、非認定者は「そのような人はいない」(40.7%)が認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、男性は「自治会・町会・老人クラブ」(8.9%)、「そのような人はいない」(36.1%)、が女性に比べ多く、女性は「地域包括支援センター・役所・役場」(28.7%)、「ケアマネジャー」(19.5%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上はいずれの相談相手も65～74歳に比べ多く、65～74歳は「そのような人はいない」(42.0%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第4地区は「地域包括支援センター・役所・役場」(31.0%)が全体に比べ多くなっている。



		看科医 護医師 師・歯	所 ・ 支 域 包 括 中 心	支 援 セ ン タ ー	ジ ャ ー マ ネ ー	人 町 自 治 会 ・ 老 人 ク ラ ブ	民 生 協 会 委 員	社 会 福 祉 協 議 会	そ の 他	な な い 人 の は よ う い う	無 回 答
全体(n=1,901)		27.6	25.2	17.0	7.0	7.0	6.9	31.4	8.9		
性別	男性(n=754)	26.9	20.3	13.7	8.9	6.0	9.3	36.1	6.6		
	女性(n=1,126)	28.1	28.7	19.5	5.7	7.6	5.5	28.2	10.2		
年齢別	75歳以上(n=1,122)	29.8	29.3	23.4	8.1	9.2	4.9	24.2	10.3		
	65～74歳(n=758)	24.5	19.4	7.5	5.4	3.7	10.2	42.0	6.6		
地区別	第1地区(n=347)	23.3	20.5	16.4	7.5	8.1	8.6	32.0	11.0		
	第2地区(n=368)	27.2	26.6	14.7	7.9	7.1	5.2	34.0	6.8		
	第3地区(n=370)	29.7	27.8	16.8	7.3	6.8	8.6	26.5	8.9		
	第4地区(n=226)	28.8	31.0	21.2	7.5	2.2	6.2	28.3	8.8		
	第5地区(n=263)	28.5	24.7	19.0	6.5	9.5	5.3	33.8	8.7		
	第6地区(n=298)	28.5	21.5	16.8	4.7	7.7	7.4	34.2	8.1		

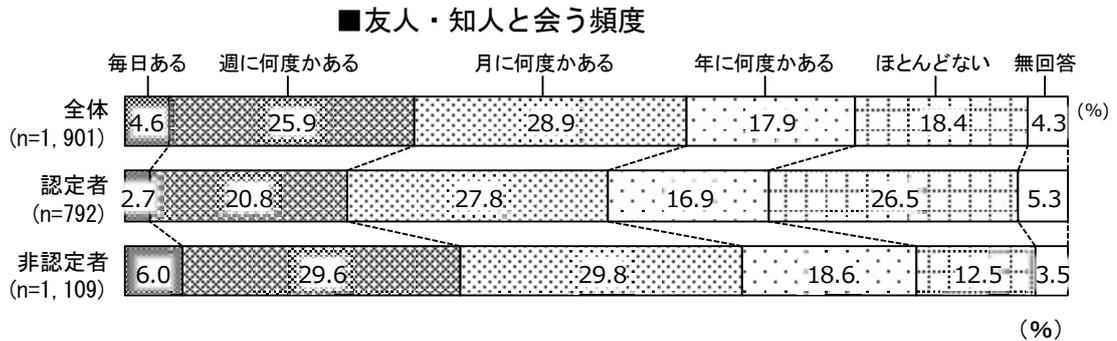
(6) 友人・知人と会う頻度 (問 49)

友人・知人と会う頻度は、「月に何度かある」(28.9%)が最も多く、「週に何度かある」(25.9%)、「ほとんどない」(18.4%)と続いている。

認定状況別にみると、認定者は「ほとんどない」(26.5%)が非認定者に比べ多く、「毎日ある」(2.7%)と「週に何度かある」(20.8%)が非認定者に比べ少なくなっている。

性別にみると、男性は「ほとんどない」(22.7%)が女性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「ほとんどない」(21.1%)が65～74歳に比べ多くなっている。



		あ毎日	るか何週	るか何月	るか何年	なんほ	答無
		る日	あ度に	あ度に	あ度に	いどと	回
全体(n=1,901)		4.6	25.9	28.9	17.9	18.4	4.3
性別	男性(n=754)	3.6	21.5	24.8	23.2	22.7	4.2
	女性(n=1,126)	5.4	29.0	31.8	14.6	15.2	4.1
年齢別	75歳以上(n=1,122)	4.2	25.7	27.0	17.0	21.1	5.0
	65～74歳(n=758)	5.4	26.5	32.1	19.4	13.9	2.8

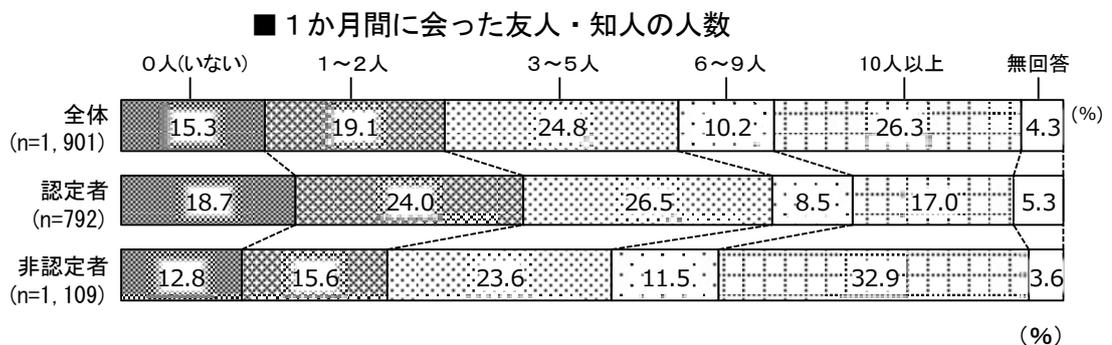
(7) 1か月に会った友人・知人の人数 (問 50)

1か月に会った友人・知人の人数は、「10人以上」(26.3%)が最も多く、「3～5人」(24.8%)、「1～2人」(19.1%)と続いている。

認定状況別にみると、認定者は「0人(いない)」(18.7%)、「1～2人」(24.0%)が非認定者に比べ多く、「6～9人」(8.5%)、「10人以上」(17.0%)が非認定者に比べ少なくなっている。

性別にみると、男性は「0人(いない)」(21.5%)が女性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「10人以上」(22.9%)が65～74歳に比べ少なくなっている。



		い～0	人1	人3	人6	以1	無
		～い人	5	5	6	上0	回
		な	2	5	9	人	答
全体(n=1,901)		15.3	19.1	24.8	10.2	26.3	4.3
性別	男性(n=754)	21.5	17.5	22.7	9.5	24.3	4.5
	女性(n=1,126)	10.9	20.2	26.2	10.6	28.1	4.0
年齢別	75歳以上(n=1,122)	16.0	20.9	25.4	9.7	22.9	5.2
	65～74歳(n=758)	14.0	16.1	24.1	11.1	31.9	2.8

(8) よく会う友人・知人との関係 (問51)

「近所・同じ地域の人」(41.3%)が最も多く、「趣味や関心が同じ友人」(38.6%)、「仕事での同僚・元同僚」(27.5%)と続いている。

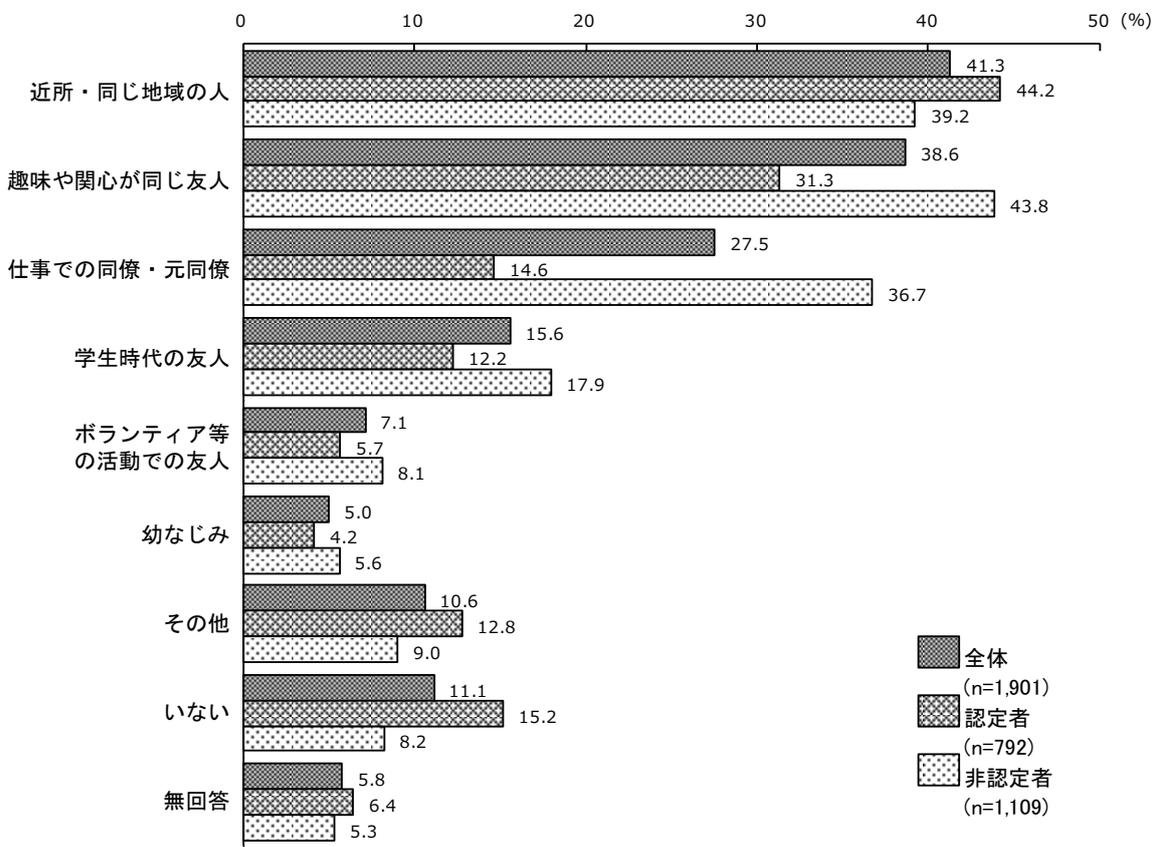
認定状況別にみると、認定者は「近所・同じ地域の人」(44.2%)が非認定者に比べ多く、非認定者は「趣味や関心が同じ友人」(43.8%)、「仕事での同僚・元同僚」(36.7%)、「学生時代の友人」(17.9%)、「ボランティア等の活動での友人」(8.1%)が認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、男性は「仕事での同僚・元同僚」(38.3%)、「学生時代の友人」(17.8%)、「いない」(15.3%)が女性に比べ多く、女性は「近所・同じ地域の人」(48.0%)、「趣味や関心が同じ友人」(43.4%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「近所・同じ地域の人」(46.0%)と「いない」(12.7%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「趣味や関心が同じ友人」(43.5%)、「仕事での同僚・元同僚」(42.3%)、「学生時代の友人」(19.8%)、「幼なじみ」(7.0%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第2地区は「近所・同じ地域の人」(47.3%)、第5地区は「ボランティア等の活動での友人」(11.4%)が全体に比べ多くなっている。

■よく会う友人・知人との関係 (複数回答)

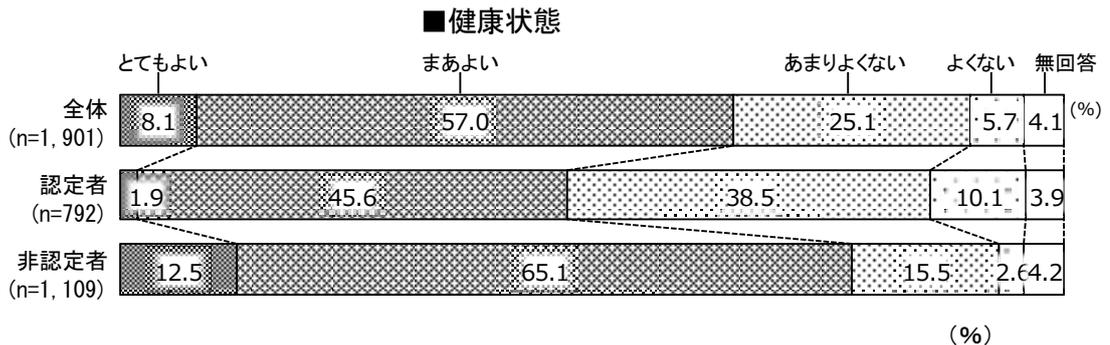


		域同近 のじ所 人地・	人同関趣 じ心味 友がや	同僚の仕 僚・同事 元で	人代学 の生 友時	友動等テボ 人でのイラ の活アン	み幼 なじ	そ 他	い ない	無 回 答
全体(n=1,901)		41.3	38.6	27.5	15.6	7.1	5.0	10.6	11.1	5.8
性別	男性(n=754)	31.0	31.2	38.3	17.8	5.8	4.1	9.5	15.3	5.0
	女性(n=1,126)	48.0	43.4	20.6	14.0	8.0	5.7	11.2	8.2	6.2
年齢別	75歳以上(n=1,122)	46.0	35.3	17.6	12.8	6.8	3.7	10.5	12.7	6.5
	65～74歳(n=758)	34.6	43.5	42.3	19.8	7.8	7.0	10.4	8.4	4.6
地区別	第1地区(n=347)	39.2	34.9	28.8	15.0	6.9	4.6	10.7	11.0	7.5
	第2地区(n=368)	47.3	36.7	28.8	19.3	6.0	5.2	9.8	9.5	3.8
	第3地区(n=370)	40.0	41.9	25.1	13.8	5.1	5.7	8.6	13.2	6.8
	第4地区(n=226)	38.5	38.5	27.0	14.6	8.4	6.2	13.3	9.7	6.2
	第5地区(n=263)	39.2	40.7	26.2	19.4	11.4	4.9	13.3	10.6	4.9
	第6地区(n=298)	43.3	38.9	30.2	11.1	7.0	3.7	9.4	11.4	4.7

9 健康について

(1) 健康状態 (問52)

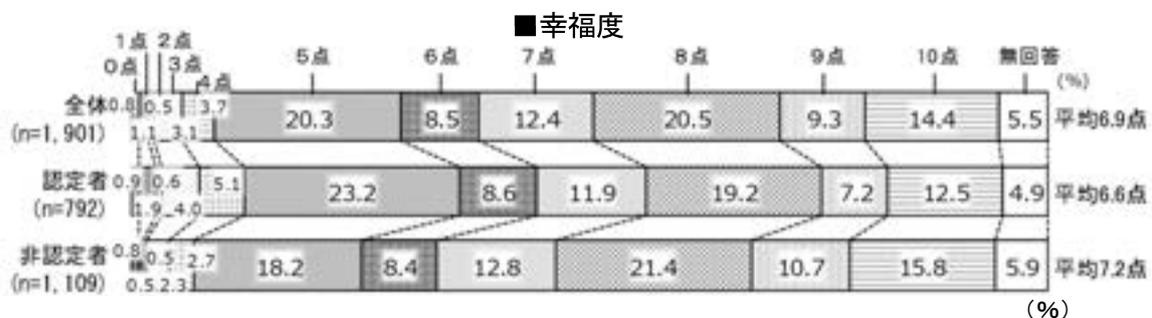
健康状態は、「まあよい」(57.0%)が最も多く、「あまりよくない」(25.1%)、「とてもよい」(8.1%)、「よくない」(5.7%)と続いている。「とてもよい」「まあよい」を合わせた“よい”は65.1%、「あまりよくない」「よくない」を合わせた“よくない”は30.8%となっている。認定状況別にみると、認定者は“よくない”(48.6%)が非認定者に比べ多くなっている。性別にみると、女性は“よくない”(33.1%)が男性に比べ多くなっている。年齢別にみると、75歳以上は“よくない”(38.8%)が65～74歳に比べ多くなっている。



		いもとよて	よまいあ	いくりあ なよま	なよ いく	答無 回
全体(n=1,901)		8.1	57.0	25.1	5.7	4.1
性別	男性(n=754)	9.7	58.8	22.1	5.6	3.8
	女性(n=1,126)	7.0	55.9	27.2	5.9	4.1
年齢別	75歳以上(n=1,122)	4.9	52.1	31.6	7.2	4.2
	65～74歳(n=758)	13.1	64.1	15.7	3.4	3.7

(2) 幸福度 (問53)

幸福度(「とても不幸」が0点、「とても幸せ」が10点)は、「8点」(20.5%)が最も多く、「5点」(20.3%)、「10点」(14.4%)と続いております。平均は6.9点です。認定状況別にみると、認定者は平均点(6.6点)が非認定者の平均点(7.2点)に比べ低くなっています。地区別にみると、第3地区は「0点」(1.9%)が全体に比べ多くなっています。平均点が最も高いのは第6地区、最も低いのは第1地区です。



	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	答無 回	平均 点
全体(n=1,901)	0.8	1.1	0.5	3.1	3.7	20.3	8.5	12.4	20.5	9.3	14.4	5.5	6.9
第1地区(n=347)	1.2	1.2	0.6	3.5	4.3	22.8	7.2	10.4	19.3	10.7	12.4	6.6	6.8
第2地区(n=368)	0.3	1.1	0.3	3.5	3.8	21.5	9.2	12.5	19.6	9.5	14.7	4.1	6.9
第3地区(n=370)	1.9	0.8	0.3	3.5	4.1	17.0	7.8	13.8	20.0	9.2	15.1	6.5	7.0
第4地区(n=226)	0.4	1.8	0.9	2.7	4.4	18.6	7.1	12.8	22.6	7.5	15.5	5.8	7.0
第5地区(n=263)	0.4	1.5	1.1	2.7	2.3	20.5	8.0	16.3	19.4	10.6	12.5	4.6	6.9
第6地区(n=298)	0.3	0.7	0.3	2.3	3.4	20.5	10.4	9.7	23.2	7.7	17.1	4.4	7.1

(3) 1か月間にゆううつな気持ちになったりしたことがあったか (問54)

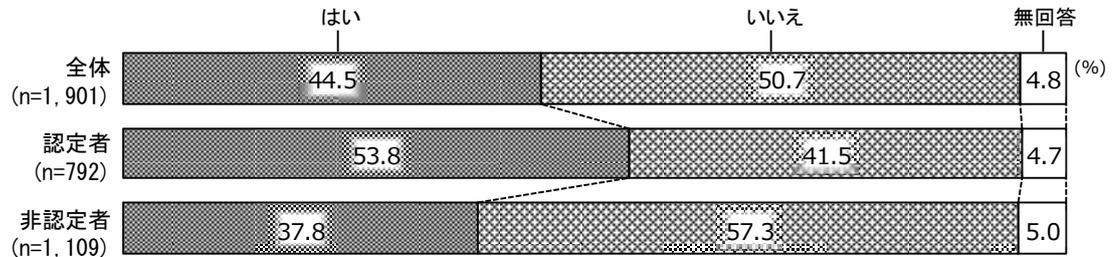
1か月間にゆううつな気持ちになったりしたことがあったか聞いたところ、「はい」が44.5%、「いいえ」が50.7%となっている。

認定状況別にみると、認定者は「はい」(53.8%)が非認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、女性は「はい」(48.3%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「はい」(46.7%)が65～74歳に比べ多くなっている。

■ 1か月間にゆううつな気持ちになったりしたことがあったか



		(%)		
		はい	いいえ	無回答
全体(n=1,901)		44.5	50.7	4.8
性別	男性(n=754)	38.6	56.4	5.0
	女性(n=1,126)	48.3	47.1	4.6
年齢別	75歳以上(n=1,122)	46.7	48.0	5.3
	65～74歳(n=758)	41.2	54.7	4.1

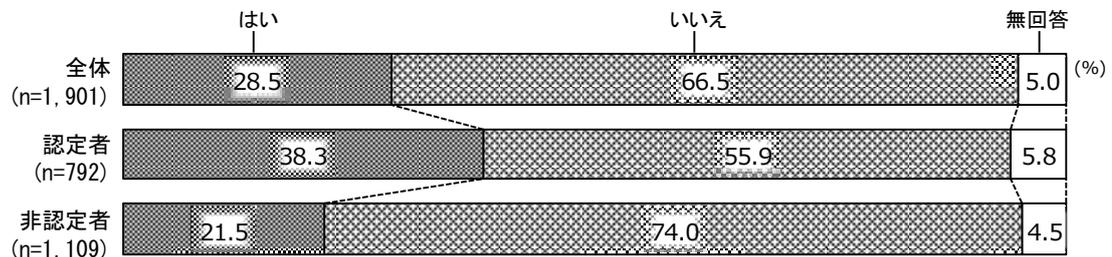
(4) 1か月間に物事に対して心から楽しめない感じがよくあったか (問55)

1か月に物事に対して心から楽しめない感じがよくあったか聞いたところ、「はい」が28.5%、「いいえ」が66.5%となっている。

認定状況別にみると、認定者は「はい」(38.3%)が非認定者に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「はい」(30.9%)が65～74歳に比べ多くなっている。

■ 1か月間に物事に対して心から楽しめない感じがよくあったか



		(%)		
		はい	いいえ	無回答
全体(n=1,901)		28.5	66.5	5.0
年齢別	75歳以上(n=1,122)	30.9	63.5	5.5
	65～74歳(n=758)	24.8	71.0	4.2

(5) “うつ傾向にある高齢者” (問 54～問 55)

問 54～問 55 (うつ傾向を問う設問) の結果から、“うつ傾向にある高齢者”は全体で 48.0%であるといえる。

認定状況別にみると、認定者は“うつ傾向にある高齢者”(58.0%)が非認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、女性は“うつ傾向にある高齢者”(51.1%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は“うつ傾向にある高齢者”(50.8%)が65～74歳に比べ多くなっている。

地区別にみると、第3地区は“うつ傾向にある高齢者”(53.5%)が全体に比べ多くなっている。

■ “うつ傾向にある高齢者”

		(%)		
		年齢に うつ 者あ つ る傾 高 向	年齢に うつ 者な い傾 高 向	無 回 答
全体(n=1,901)		48.0	48.4	3.6
認定状況別	認定者(n=792)	58.0	38.6	3.4
	非認定者(n=1,109)	40.9	55.4	3.7
性別	男性(n=754)	43.5	53.1	3.4
	女性(n=1,126)	51.1	45.4	3.6
年齢別	75歳以上(n=1,122)	50.8	45.5	3.7
	65～74歳(n=758)	44.1	52.6	3.3
地区別	第1地区(n=347)	45.5	48.7	5.8
	第2地区(n=368)	47.3	49.7	3.0
	第3地区(n=370)	53.5	42.2	4.3
	第4地区(n=226)	51.3	47.3	1.3
	第5地区(n=263)	45.2	51.3	3.4
	第6地区(n=298)	45.6	52.3	2.0

※ “うつ傾向にある高齢者”：問 54～問 55 の設問において、いずれか1つでも、「はい」を回答した人

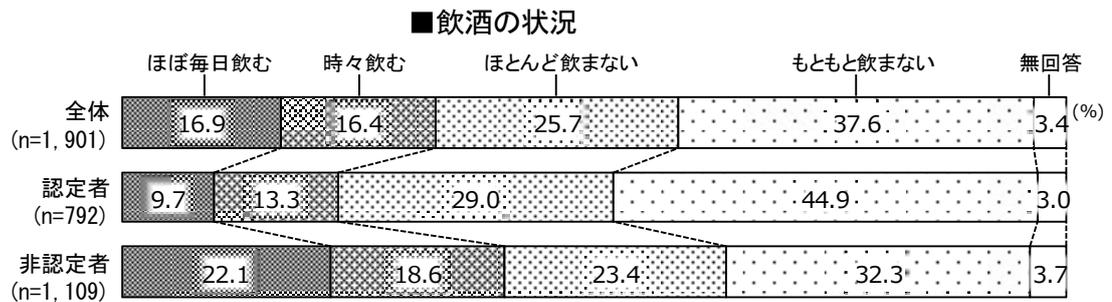
(6) 飲酒の状況 (問56)

飲酒の状況は、「もともと飲まない」(37.6%)が最も多く、「ほとんど飲まない」(25.7%)、「ほぼ毎日飲む」(16.9%)、「時々飲む」(16.4%)と続いている。「ほぼ毎日飲む」「時々飲む」を合わせた“飲む”は33.3%、「ほとんど飲まない」「もともと飲まない」を合わせた“飲まない”は63.3%となっている。

認定状況別にみると、非認定者は“飲む”(40.7%)が認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、男性は“飲む”(53.4%)が女性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は“飲む”(41.3%)が75歳以上に比べ多くなっている。



(%)

		日 飲 む 毎	む 時 々 飲	な ど ほ い 飲 ま ん	な と も い 飲 ま も	無 回 答
全体(n=1,901)		16.9	16.4	25.7	37.6	3.4
性別	男性(n=754)	33.4	20.0	26.1	16.8	3.6
	女性(n=1,126)	6.0	13.9	25.7	51.3	3.2
年齢別	75歳以上(n=1,122)	12.6	15.1	26.9	42.0	3.5
	65～74歳(n=758)	23.4	17.9	24.3	31.1	3.3

(7) 喫煙の状況 (問57)

喫煙の状況は、「もともと吸っていない」(60.7%)が最も多く、「吸っていたがやめた」(27.9%)、「ほぼ毎日吸っている」(6.5%)、「時々吸っている」(1.5%)と続いている。「ほぼ毎日吸っている」「時々吸っている」を合わせた“吸っている”は8.0%、「吸っていたがやめた」「もともと吸っていない」を合わせた“吸っていない”は88.6%となっている。

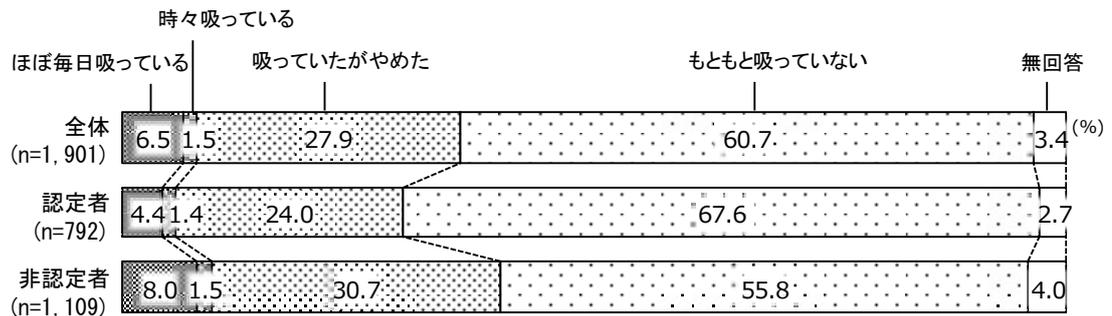
認定状況別にみると、非認定者は“吸っている” (9.5%) が認定者に比べ多くなっている。

性別にみると、男性は“吸っている” (15.8%) が女性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は“吸っている” (11.8%) が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第2地区は“吸っている” (12.5%) が全体に比べ多くなっている。

■喫煙の状況

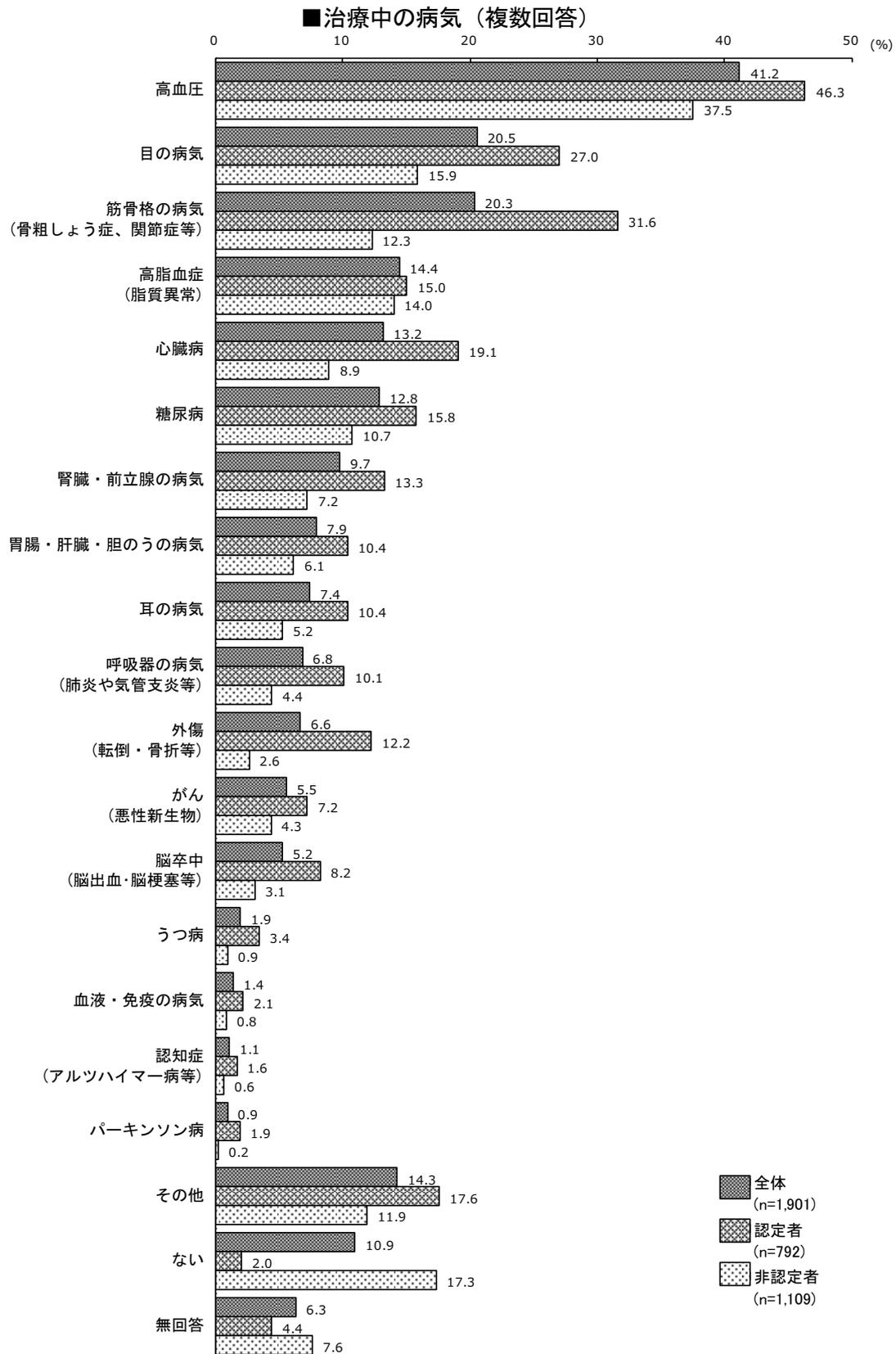


		ほぼ毎日吸っている	時々吸っている	吸っていたがやめた	もともと吸っていない	無回答
全体(n=1,901)		6.5	1.5	27.9	60.7	3.4
性別	男性(n=754)	13.1	2.7	55.2	25.9	3.2
	女性(n=1,126)	2.1	0.7	9.4	84.3	3.5
年齢別	75歳以上(n=1,122)	4.1	1.2	25.8	65.2	3.7
	65～74歳(n=758)	10.0	1.8	30.3	54.7	3.0
地区別	第1地区(n=347)	6.6	0.9	31.1	55.6	5.8
	第2地区(n=368)	9.5	3.0	27.4	57.3	2.7
	第3地区(n=370)	4.3	1.6	26.2	63.8	4.1
	第4地区(n=226)	7.1	0.9	27.9	62.8	1.3
	第5地区(n=263)	4.6	0.8	23.6	68.4	2.7
	第6地区(n=298)	7.0	1.3	28.9	60.4	2.3

(8) 治療中の病気 (問 58)

治療中の病気は、「高血圧」(41.2%)が最も多く、「目の病気」(20.5%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(20.3%)と続いている。

認定状況別にみると、認定者はいずれの病気も非認定者に比べ多く、「ない」(2.0%)が非認定者に比べ少なくなっている。



年齢別にみると、65～74歳は「ない」(19.1%)が75歳以上に比べ多く、75歳以上はいずれの病気も65～74歳に比べ多くなっている。

(%)

	高血圧	目の病気	筋骨格の病気(骨折、関節症等)	高脂血症(脂質異常)	心臓病	糖尿病	腎臓・前立腺の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	耳の病気	呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)	外傷(転倒・骨折等)	がん(悪性新生物)	脳卒中(脳出血・脳梗塞)	うつ病	血液・免疫の病気	認知症(アルツハイマー病等)	パーキンソン病	その他	ない	無回答	
全体(n=1,901)	41.2	20.5	20.3	14.4	13.2	12.8	9.7	7.9	7.4	6.8	6.6	5.5	5.2	1.9	1.4	1.1	0.9	14.3	10.9	6.3	
年齢別																					
75歳以上(n=1,122)	46.7	25.4	26.3	15.0	15.9	14.0	11.6	8.9	10.1	7.8	8.6	5.6	6.5	2.3	1.5	1.5	1.3	15.7	5.5	5.9	
65～74歳(n=758)	33.1	13.7	11.9	13.9	8.8	10.8	7.1	6.3	3.6	5.3	3.8	5.4	3.2	1.2	0.3	0.3	0.3	12.4	19.1	6.3	

(9) 市への要望〈自由回答〉(問59)

市への要望について、自由回答形式で聞いたところ、全体で593件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

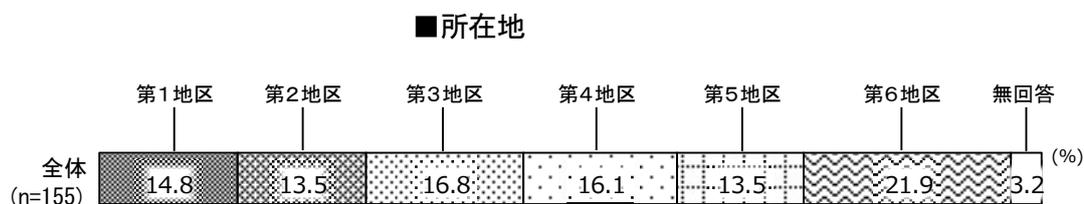
- 制度、サービス、事業について：104件
- 保険料について：46件
- 情報提供、周知について：25件
- 施設について：18件
- 相談窓口、連絡先について：13件
- まちづくりについて：13件
- 手続きについて：10件
- 交通・移動支援について：9件
- 住居について：3件
- 人材について：3件
- 現状や将来について：179件
- アンケートについての意見：5件
- アンケートを回答しての感想：4件
- その他の市への意見・要望：46件
- その他：76件
- わからない・特になし：39件

4. 介護保険サービス提供事業者調査

1 基本属性

(1) 所在地 (問1)

所在地は、「第6地区」(21.9%)が最も多く、「第3地区」(16.8%)、「第4地区」(16.1%)、「第1地区」(14.8%)、「第2地区」と「第5地区」(ともに13.5%)となっている。



(2) 提供しているサービス (問2)

提供しているサービスは、「訪問介護」(27.1%)が最も多く、「通所介護」(12.9%)、「訪問看護」(8.4%)と続いている。

■提供しているサービス

	(%)																				
	訪問介護	通所介護	訪問看護	地域密着型通所介護	短期入所生活介護	認知症対応型通所介護	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	特定施設入居者生活介護	通所リハビリテーション	福祉用具	介護老人福祉施設	短期入所療養介護	介護老人保健施設	訪問リハビリテーション	訪問入浴介護	小規模多機能型居宅介護	夜間対応型訪問介護	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	その他	無回答
全体(n=155)	27.1	12.9	8.4	7.7	4.5	4.5	3.9	3.2	2.6	2.6	2.6	1.9	1.9	1.3	1.3	1.3	0.6	0.6	0.6	-	10.3

(3) 職員の職種別、居住地別、勤務形態別の人数(問3)

職員総人数の平均は、市内の常勤は5.4人、非常勤は8.5人、市外の常勤は6.6人、非常勤は5.3人となっている。職種別にみると、市内・市外ともに、常勤は『介護福祉士』が最も多く、非常勤は『介護職員初任者研修修了者(旧ホームヘルパー2級)』が最も多くなっている。

■職員の職種別、居住地別、勤務形態別の人数(平均)

区分	居住地 (人)							
	市内				市外			
	常勤		非常勤		常勤		非常勤	
ケアマネジャー(介護支援専門員)	(n=48)	1.3	(n=31)	0.5	(n=59)	1.4	(n=33)	0.5
介護福祉士	(n=101)	3.6	(n=99)	2.9	(n=99)	4.2	(n=72)	2.1
介護職員初任者研修修了者(旧ホームヘルパー2級)	(n=67)	2.8	(n=90)	5.7	(n=71)	2.5	(n=66)	2.6
ホームヘルパー1級・介護職員基礎研修修了者	(n=32)	0.6	(n=35)	0.7	(n=33)	0.5	(n=27)	0.5
介護職員実務者研修修了者	(n=40)	0.9	(n=33)	0.6	(n=31)	1.0	(n=23)	0.3
介護職(資格なし)	(n=33)	0.8	(n=41)	1.6	(n=35)	0.8	(n=30)	1.0
社会福祉士	(n=31)	0.5	(n=23)	0.2	(n=33)	0.8	(n=22)	0.1
医師	(n=23)	0.1	(n=22)	0.2	(n=23)	0.7	(n=27)	1.3
看護師・准看護師	(n=59)	1.8	(n=65)	2.2	(n=47)	1.4	(n=57)	2.1
保健師	(n=20)	0.1	-	-	-	-	-	-
薬剤師	-	-	(n=20)	0.4	(n=20)	0.1	(n=23)	0.1
理学療法士	(n=29)	0.7	(n=27)	1.0	(n=31)	1.4	(n=29)	0.9
作業療法士	(n=23)	0.7	(n=25)	0.5	(n=30)	1.0	(n=27)	0.6
言語聴覚士	(n=21)	0.5	(n=23)	0.2	(n=23)	0.1	(n=21)	0.3
機能訓練指導員	(n=20)	0.2	(n=27)	0.9	(n=23)	0.3	(n=28)	0.6
管理栄養士・栄養士	(n=20)	0.4	(n=23)	0.3	(n=28)	0.5	(n=20)	0.2
音楽療法士	(n=22)	0.0	-	-	(n=21)	0.0	-	-
あん摩マッサージ指圧師・鍼灸師	(n=26)	0.2	(n=23)	0.1	(n=22)	0.3	(n=24)	0.1
事務職	(n=32)	1.3	(n=35)	0.9	(n=43)	1.9	(n=33)	0.6
その他	(n=25)	0.8	(n=28)	2.4	(n=29)	2.2	(n=29)	2.8
職員総人数	(n=145)	5.4	(n=137)	8.5	(n=140)	6.6	(n=123)	5.3

回答のあった全事業所の職員総人数を合計すると3,517人となり、居住地別と勤務形態別にみると、市内・非常勤が32.9%と最も多くなっている。

職種別にみると、『ケアマネジャー（介護支援専門員）』は市外・常勤（48.6%）、『介護職員初任者研修修了者（旧ホームヘルパー2級）』は市内・非常勤（48.9%）、『介護職員実務研修修了者』は市内・常勤（38.9%）、『社会福祉士』は市外・常勤（56.0%）、『医師』は市外・非常勤（62.1%）、『看護師・准看護師』は市内・非常勤（33.0%）、『理学療法士』は市外・常勤（37.7%）、『作業療法士』は市外・常勤（41.3%）が最も多くなっている。

■職員の職種別、居住地別、勤務形態別の人数（合計及び職種別の割合）

（上段：人、下段：％）

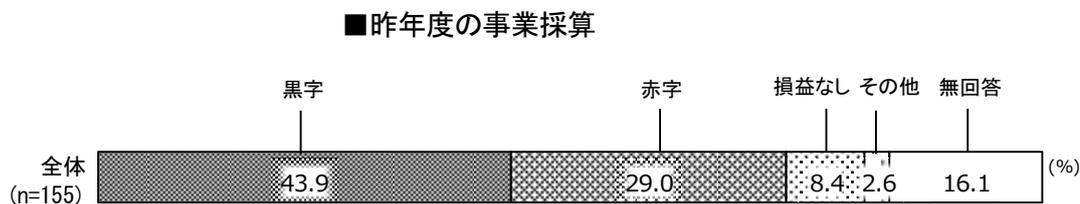
	居住地				計
	市内		市外		
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
ケアマネジャー(介護支援専門員)	60	14	85	16	175
	34.3	8.0	48.6	9.1	100.0
介護福祉士	360	283	413	149	1,205
	29.9	23.5	34.3	12.4	100.0
介護職員初任者研修修了者(旧ホームヘルパー2級)	187	515	181	171	1,054
	17.7	48.9	17.2	16.2	100.0
ホームヘルパー1級・介護職員基礎研修修了者	20	26	17	13	76
	26.3	34.2	22.4	17.1	100.0
介護職員実務者研修修了者	37	20	31	7	95
	38.9	21.1	32.6	7.4	100.0
介護職(資格なし)	27	67	27	31	152
	17.8	44.1	17.8	20.4	100.0
社会福祉士	16	4	28	2	50
	32.0	8.0	56.0	4.0	100.0
医師	3	4	15	36	58
	5.2	6.9	25.9	62.1	100.0
看護師・准看護師	109	144	64	119	436
	25.0	33.0	14.7	27.3	100.0
保健師	1	-	-	-	1
	100.0	-	-	-	100.0
薬剤師	-	8	2	3	13
	-	61.5	15.4	23.1	100.0
理学療法士	19	26	43	26	114
	16.7	22.8	37.7	22.8	100.0
作業療法士	17	12	31	15	75
	22.7	16.0	41.3	20.0	100.0
言語聴覚士	10	4	3	7	24
	41.7	16.7	12.5	29.2	100.0
機能訓練指導員	4	25	8	18	55
	7.3	45.5	14.5	32.7	100.0
管理栄養士・栄養士	7	7	13	3	30
	23.3	23.3	43.3	10.0	100.0
音楽療法士	1	-	1	-	2
	50.0	-	50.0	-	100.0
あん摩マッサージ指圧師・鍼灸師	4	2	6	3	15
	26.7	13.3	40.0	20.0	100.0
事務職	41	30	83	21	175
	23.4	17.1	47.4	12.0	100.0
その他	20	67	64	81	232
	8.6	28.9	27.6	34.9	100.0
職員総人数	780	1,158	927	652	3,517
	22.2	32.9	26.4	18.5	100.0

※1人で複数の資格を持っている場合は重複して数えているため、全職種の合計と「職員総人数」は合わない

2 今後の事業運営について

(1) 昨年度の事業採算（問4）

昨年度の事業採算は、「黒字」が43.9%、「赤字」が29.0%、「損益なし」が8.4%となっている。



(2) 今後3年間の事業規模（問5）

今後3年間の事業規模は、「拡大予定」が21.3%、「現状維持」が41.3%、「検討中・わからない」が29.0%、「縮小予定」が3.9%となっている。



(3) 職員の平均在職年数、離職状況など（問6）

職員の平均在職年数は、常勤は『機能訓練指導員』が10.0年で最も長く、非常勤は『理学療法士、作業療法士、言語聴覚士』が5.6年で最も長くなっている。

■職員の平均在職年数（主たる業務のみ）〈平均〉

	(年)	
	常勤	非常勤
ケアマネジャー(介護支援専門員)	(n=44) 7.1	(n=10) 5.1
生活相談員	(n=68) 5.5	(n=19) 4.0
看護師・准看護師	(n=55) 3.4	(n=61) 3.3
福祉施設介護職員	(n=53) 4.6	(n=52) 3.9
ホームヘルパー(訪問介護員)	(n=45) 4.3	(n=44) 4.9
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	(n=35) 4.3	(n=24) 5.6
機能訓練指導員	(n=13) 10.0	(n=26) 3.2

昨年1年間の職員の離職者総数は、常勤は平均2.0人、非常勤は平均2.9人となっている。また、昨年1年間の職員の離職率は、常勤は平均11.4%、非常勤は平均13.1%である。

勤務形態別にみると、非常勤は離職者総数も離職率も常勤に比べ平均値が高くなっている。

■昨年1年間の職員の離職者総数及び離職率（事業所全体）〈平均〉

（離職者総数：人、離職率：％）

	常勤	非常勤
離職者総数	(n=133) 2.0	(n=127) 2.9
離職率	(n=94) 11.4	(n=97) 13.1

昨年1年間で離職した職員の平均在職年数は、常勤は『ケアマネジャー（介護支援専門員）』が3.9年で最も長く、非常勤は『福祉施設介護職員』が3.4年で最も長くなっている。

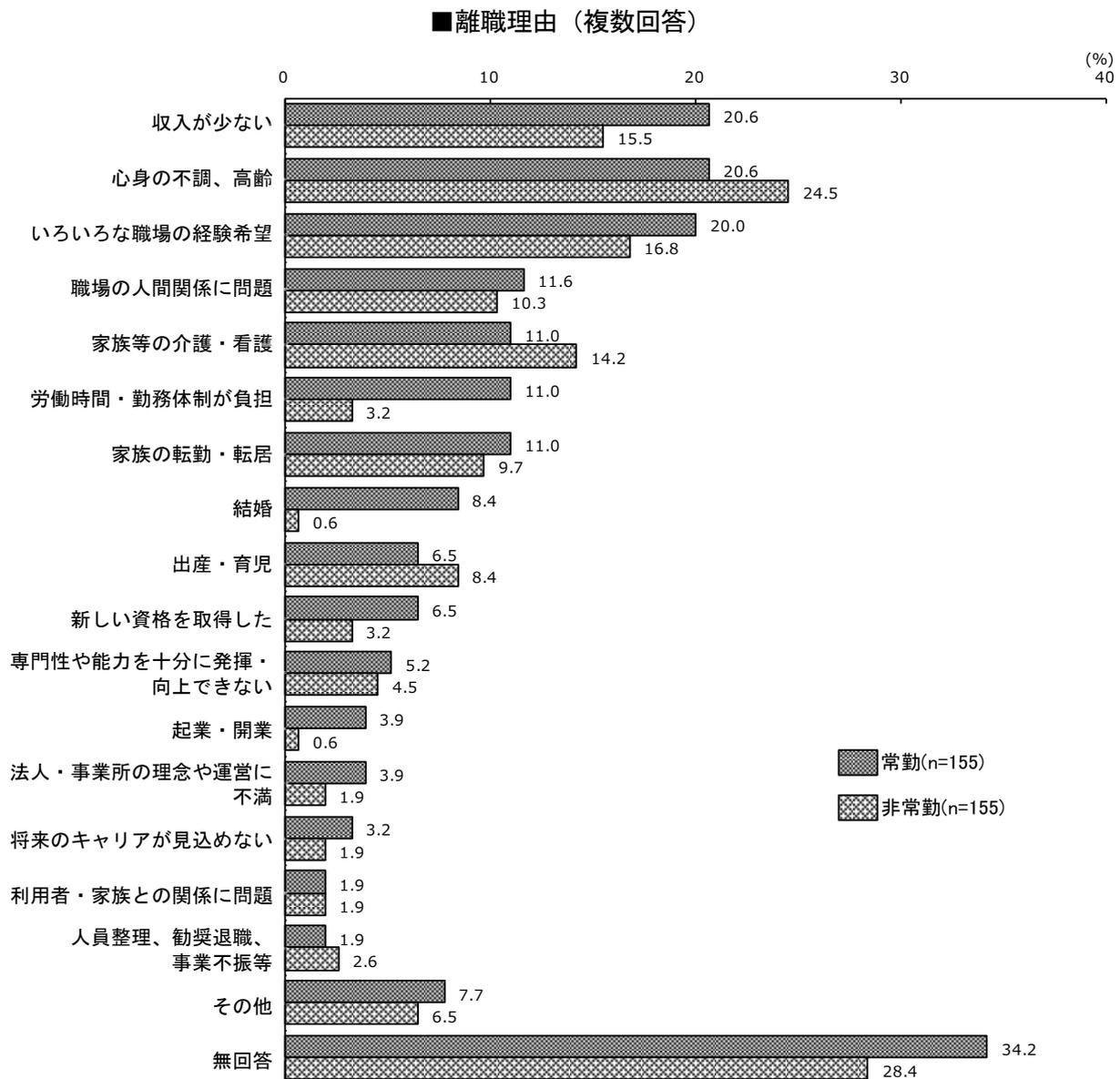
■昨年1年間で離職した職員の平均在職年数（主たる業務のみ）〈平均〉

（年）

	常勤	非常勤
ケアマネジャー(介護支援専門員)	(n=8) 3.9	(n=6) 0.8
生活相談員	(n=29) 3.4	(n=5) 0.1
看護師・准看護師	(n=34) 2.9	(n=34) 3.2
福祉施設介護職員	(n=43) 3.0	(n=43) 3.4
ホームヘルパー(訪問介護員)	(n=23) 3.1	(n=34) 2.7
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	(n=12) 2.6	(n=12) 1.5
機能訓練指導員	(n=5) 0.6	(n=8) 3.3

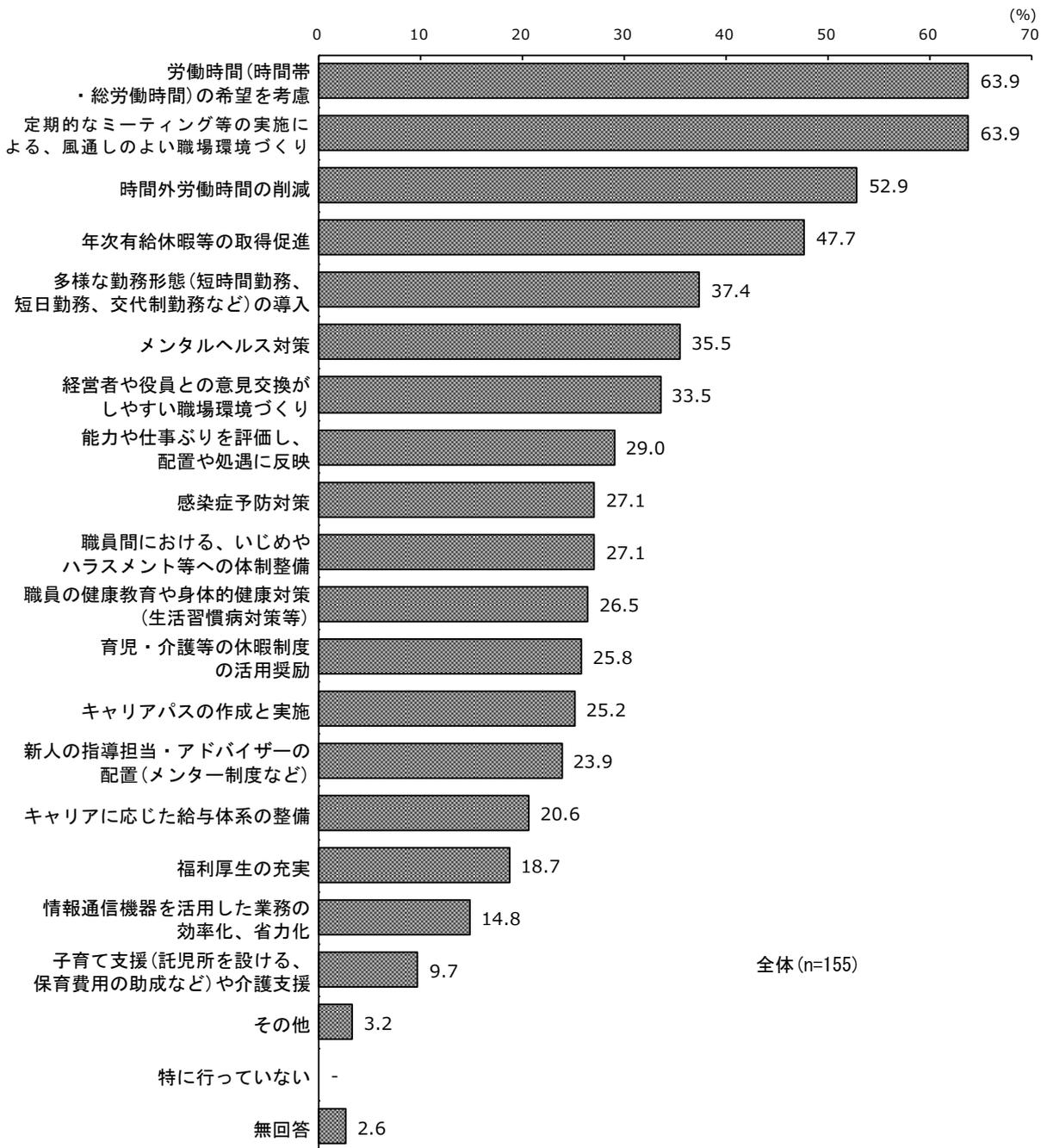
常勤職員の離職理由は、「収入が少ない」と「心身の不調、高齢」（ともに 20.6%）が最も多く、「いろいろな職場の経験希望」（20.0%）、「職場の人間関係に問題」（11.6%）と続いている。非常勤職員の離職理由は、「心身の不調、高齢」（24.5%）が最も多く、「いろいろな職場の経験希望」（16.8%）、「収入が少ない」（15.5%）と続いている。

勤務形態別にみると、常勤は「労働時間・勤務体制が負担」（11.0%）、「結婚」（8.4%）が非常勤に比べ多くなっている。



離職者が出ないようにしている工夫は、「労働時間（時間帯・総労働時間）の希望を考慮」と「定期的なミーティング等の実施による、風通しのよい職場環境づくり」（ともに 63.9%）が最も多く、「時間外労働時間の削減」（52.9%）、「年次有給休暇等の取得促進」（47.7%）と続いている。

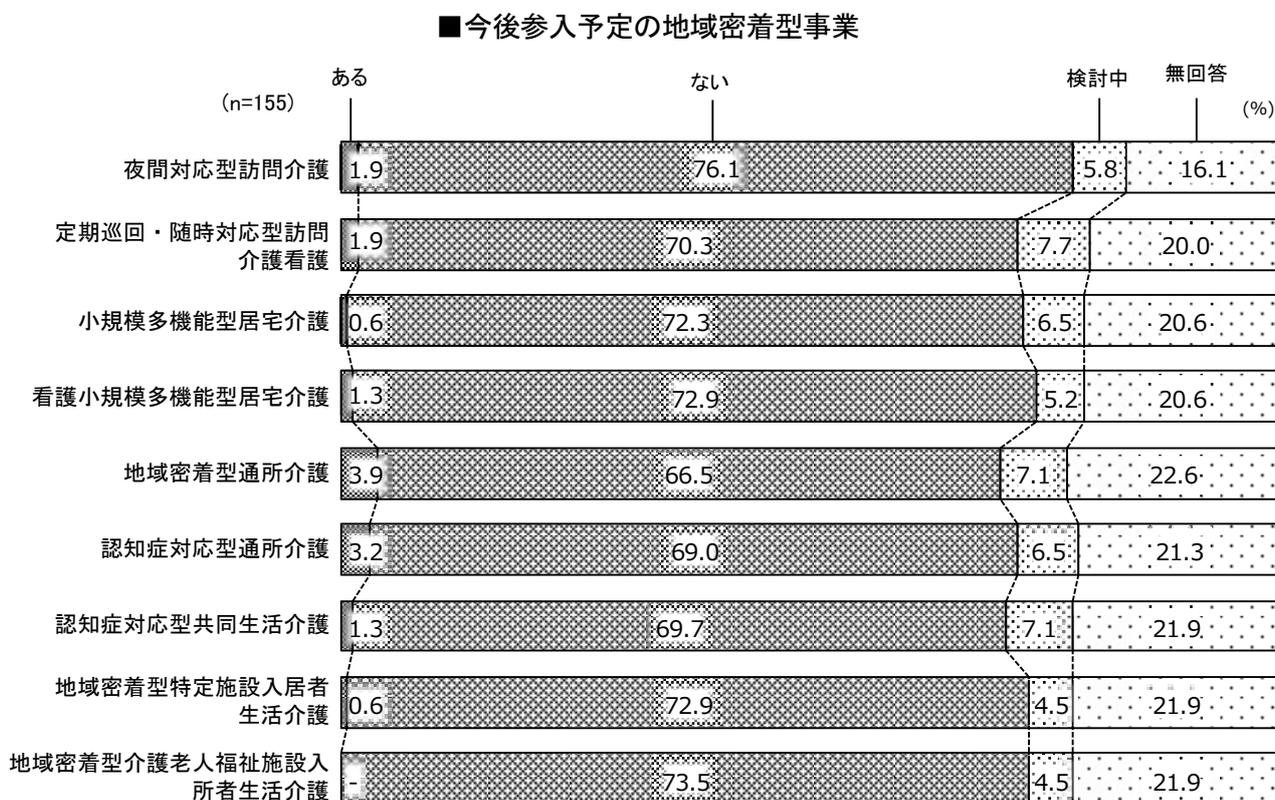
■離職者が出ないようにしている工夫（複数回答）



3 地域密着型サービスについて

(1) 今後参入予定の地域密着型事業（問7）

今後参入予定の地域密着型事業は、『地域密着型通所介護』（3.9%）と『認知症対応型通所介護』（3.2%）が多く、『夜間対応型訪問介護』と『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』（ともに1.9%）が続いている。



参入予定が「ない」又は「検討中」と回答した事業者に参入意向なしの理由を聞いたところ、いずれの地域密着型サービスにおいても「人手が不足」（4割前後）が最も多くなっている。また、「市場のニーズがわからない」も2割前後で多くなっている。

■参入意向なしの理由（複数回答）

	人件費が高い	人手が不足	家賃が高い	地代が高い	市場のニーズがわからない	開設したい事業所が見つからない	行政の施設整備に関するニーズがわからない	その他	無回答
夜間対応型訪問介護(n=127)	13.4	43.3	4.7	1.6	21.3	1.6	4.7	15.7	37.8
定期巡回・随時対応型訪問介護看護(n=121)	13.2	39.7	5.0	1.7	19.0	1.7	4.1	17.4	38.0
小規模多機能型居宅介護(n=122)	13.9	41.0	9.8	4.1	18.9	7.4	4.1	14.8	38.5
看護小規模多機能型居宅介護(n=121)	15.7	39.7	9.1	3.3	22.3	4.1	5.0	15.7	38.0
地域密着型通所介護(n=114)	13.2	39.5	10.5	3.5	17.5	7.0	5.3	16.7	39.5
認知症対応型通所介護(n=117)	10.3	35.9	7.7	4.3	19.7	5.1	6.0	17.9	40.2
認知症対応型共同生活介護(n=119)	11.8	37.8	9.2	5.0	21.0	11.8	5.0	14.3	37.8
地域密着型特定施設入居者生活介護(n=120)	14.2	39.2	10.8	5.8	21.7	8.3	7.5	15.8	37.5
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(n=121)	13.2	37.2	10.7	6.6	20.7	10.7	7.4	15.7	38.8

参入予定が「ない」又は「検討中」と回答した事業者に参入の条件を聞いたところ、「人材面での支援」「財政面での支援」が多くなっている。

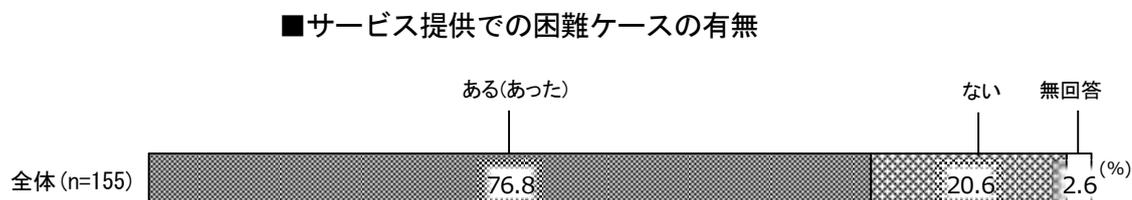
■参入の条件（複数回答）

	支財 援政 面 で の	支人 材 面 で の	場 の 提 供	の市 場 情 報 提 供 ズ	そ の 他	無 回 答
夜間対応型訪問介護(n=127)	22.8	33.1	9.4	16.5	3.1	56.7
定期巡回・随時対応型訪問介護看護(n=121)	23.1	32.2	11.6	18.2	3.3	55.4
小規模多機能型居宅介護(n=122)	28.7	27.0	15.6	17.2	3.3	57.4
看護小規模多機能型居宅介護(n=121)	24.8	25.6	13.2	16.5	3.3	60.3
地域密着型通所介護(n=114)	27.2	28.9	14.0	14.0	2.6	60.5
認知症対応型通所介護(n=117)	27.4	28.2	13.7	17.1	3.4	59.0
認知症対応型共同生活介護(n=119)	26.1	28.6	16.0	16.0	3.4	58.0
地域密着型特定施設入居者生活介護(n=120)	25.0	27.5	15.0	16.7	3.3	60.0
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(n=121)	24.8	26.4	15.7	16.5	3.3	60.3

4 サービス提供における課題

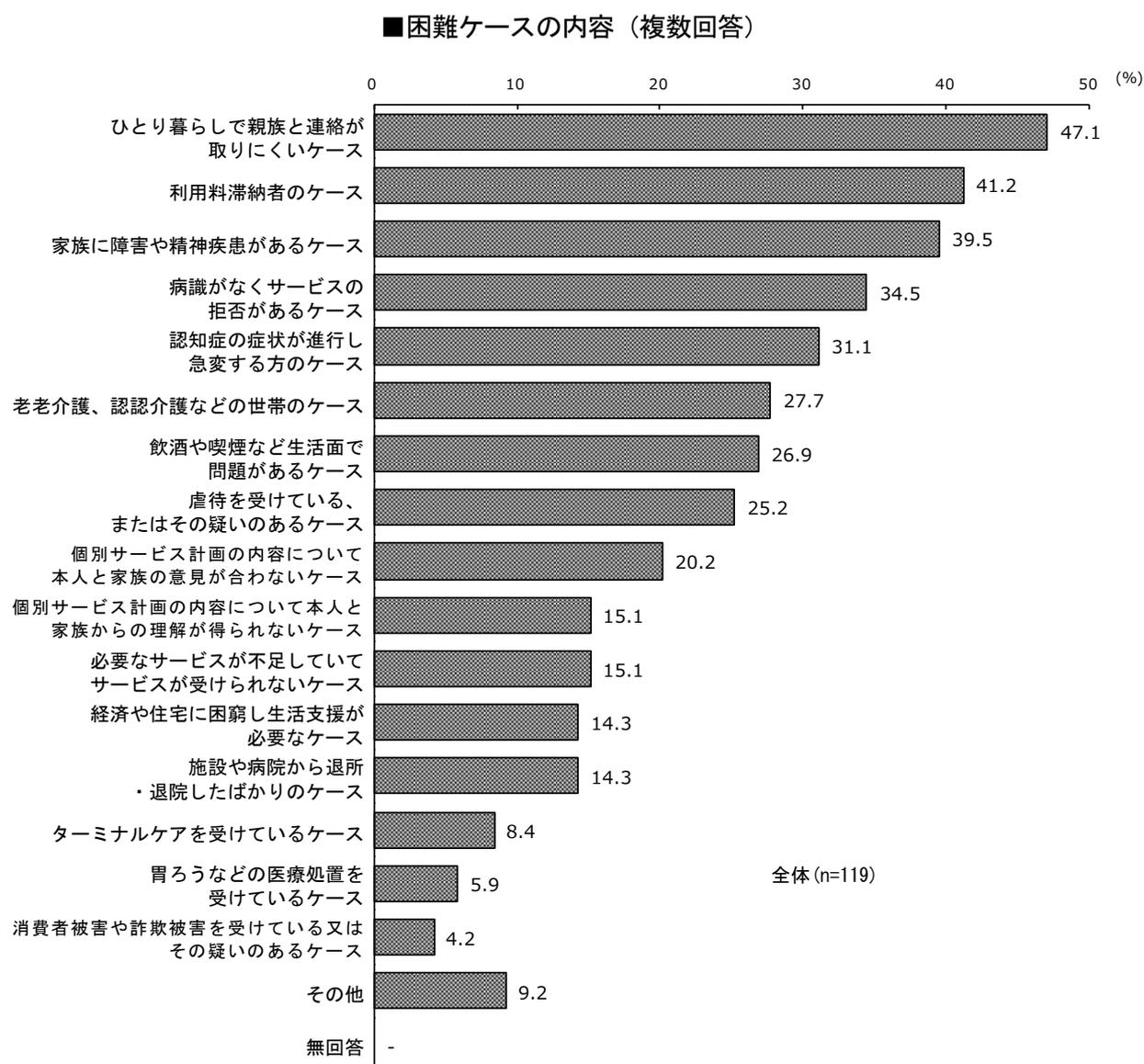
(1) サービス提供での困難ケースの有無 (問8)

サービス提供での困難ケースの有無は、「ある(あった)」が76.8%、「ない」が20.6%となっている。



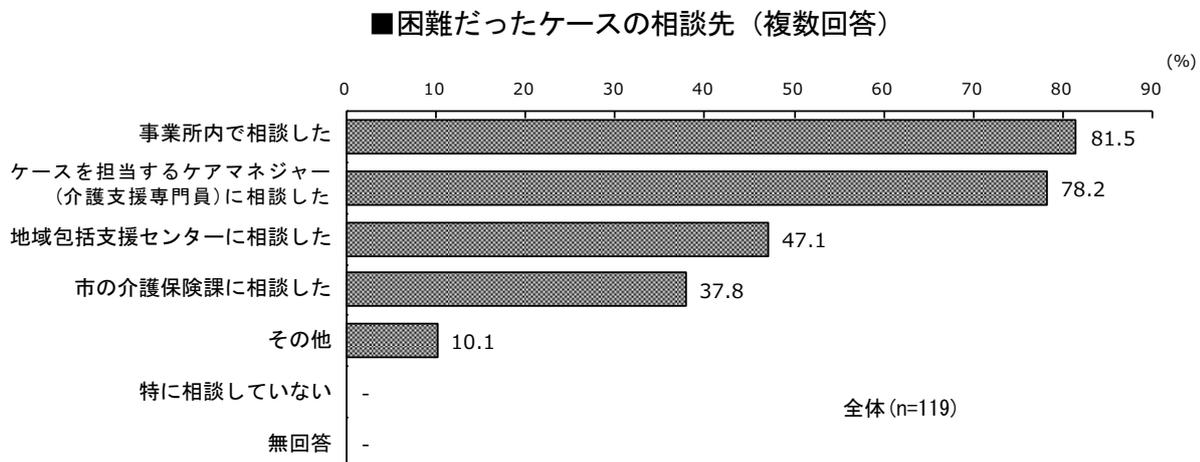
(2) 困難ケースの内容 (問8-1)

サービス提供での困難ケースが「ある(あった)」と回答した事業者に困難ケースの内容を聞いたところ、「ひとり暮らしで親族と連絡が取りにくいケース」(47.1%)が最も多く、「利用料滞納者のケース」(41.2%)、「家族に障害や精神疾患があるケース」(39.5%)と続いている。



(3) 困難だったケースの相談先（問8-2）

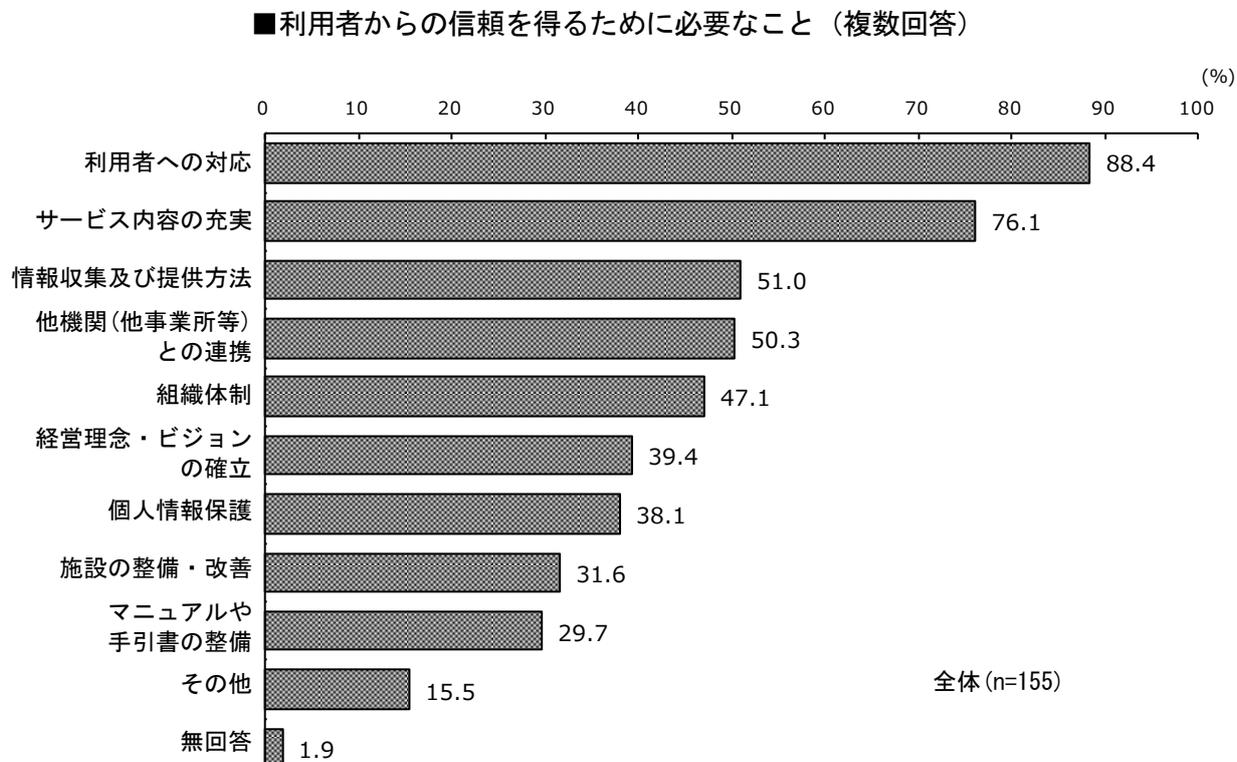
サービス提供での困難ケースが「ある（あった）」と回答した事業者に困難だったケースの相談先を聞いたところ、「事業所内で相談した」（81.5%）が最も多く、「ケースを担当するケアマネジャー（介護支援専門員）に相談した」（78.2%）、「地域包括支援センターに相談した」（47.1%）と続いている。



5 サービスの質の向上と人材確保に向けた取組

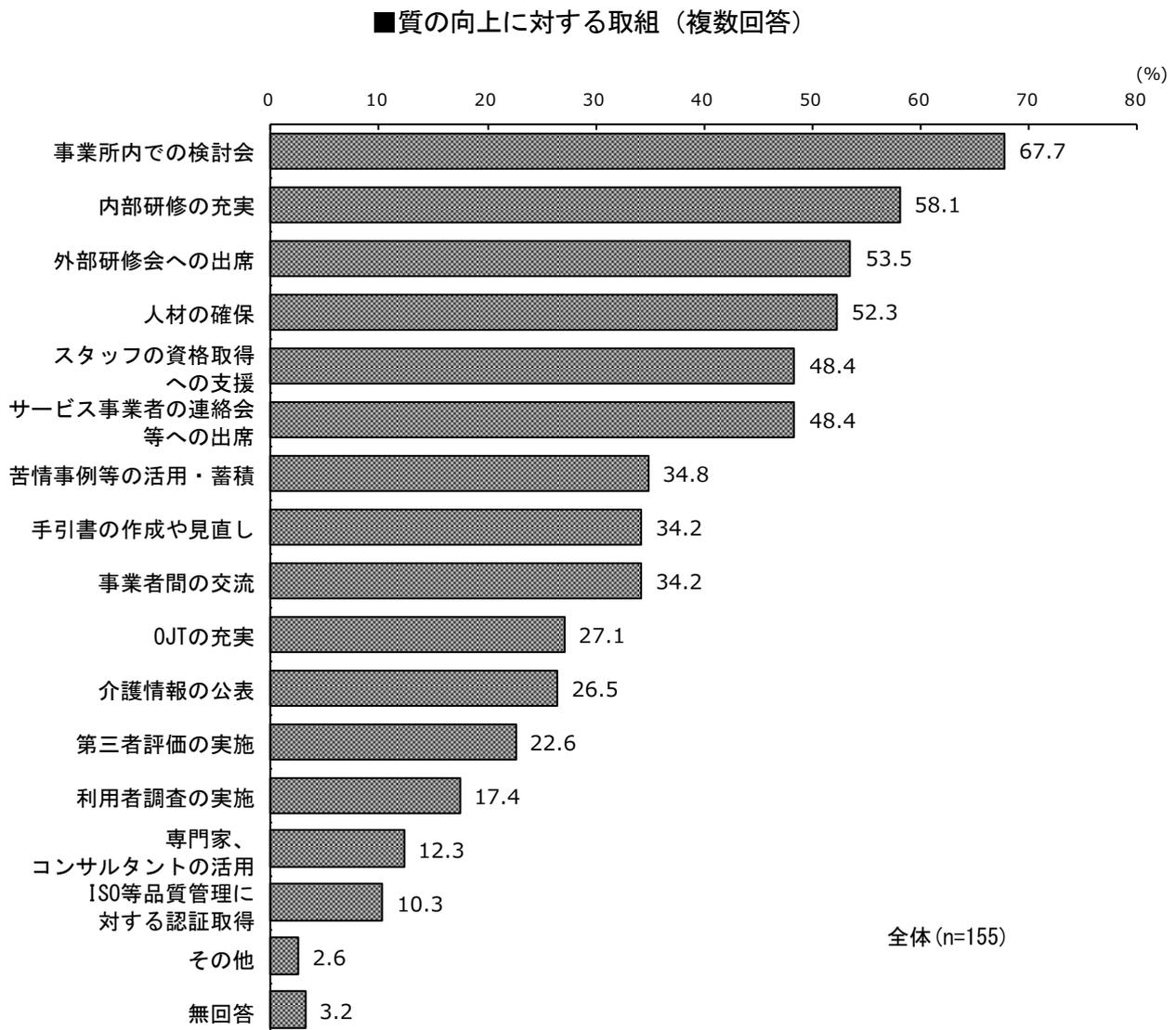
(1) 利用者からの信頼を得るために必要なこと（問9）

利用者からの信頼を得るために必要なことは、「利用者への対応」（88.4%）が最も多く、「サービス内容の充実」（76.1%）、「情報収集及び提供方法」（51.0%）と続いている。



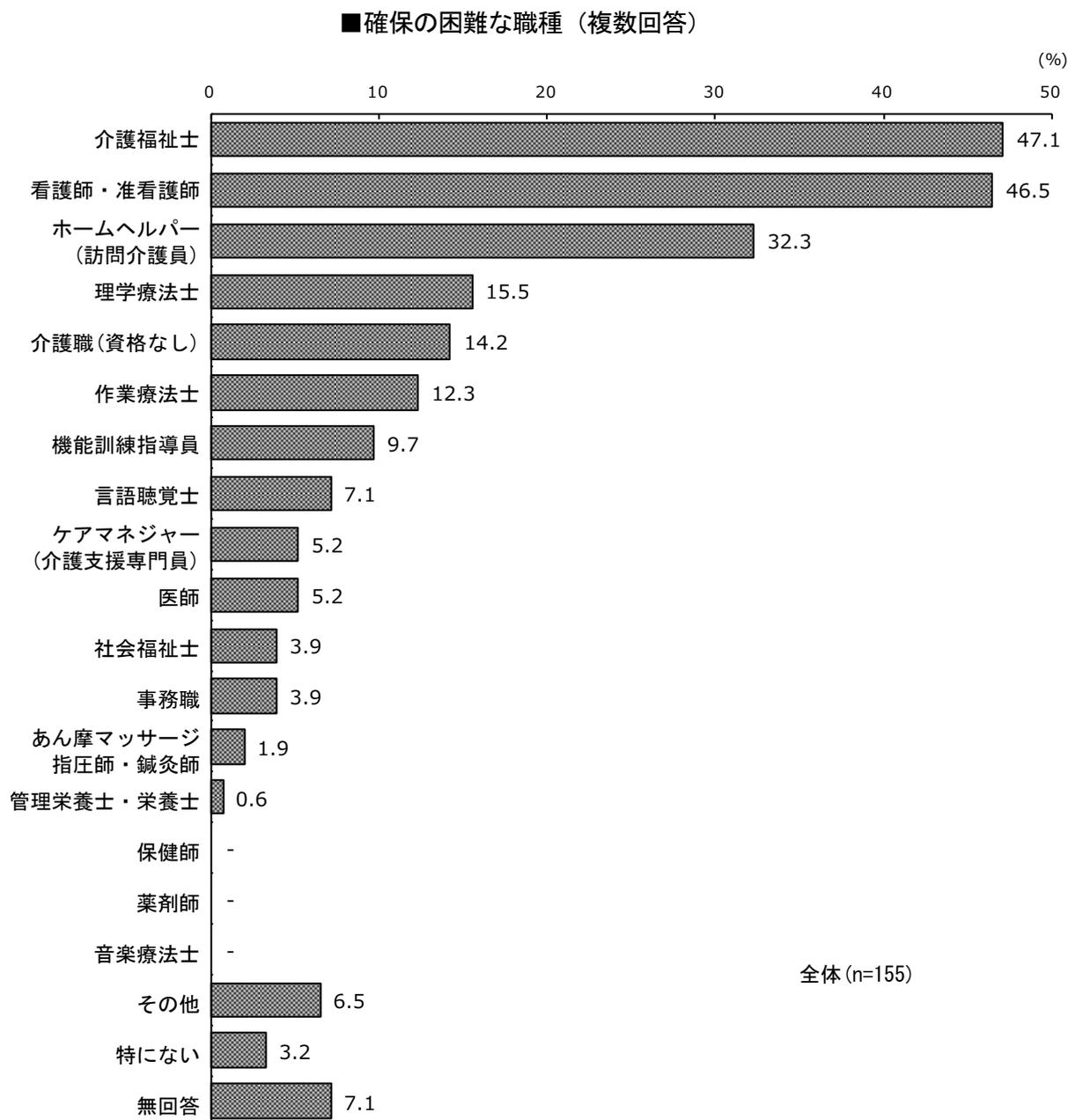
(2) 質の向上に対する取組 (問10)

質の向上に対する取組は、「事業所内での検討会」(67.7%)が最も多く、「内部研修の充実」(58.1%)、「外部研修会への出席」(53.5%)と続いている。



(3) 確保の困難な職種 (問11)

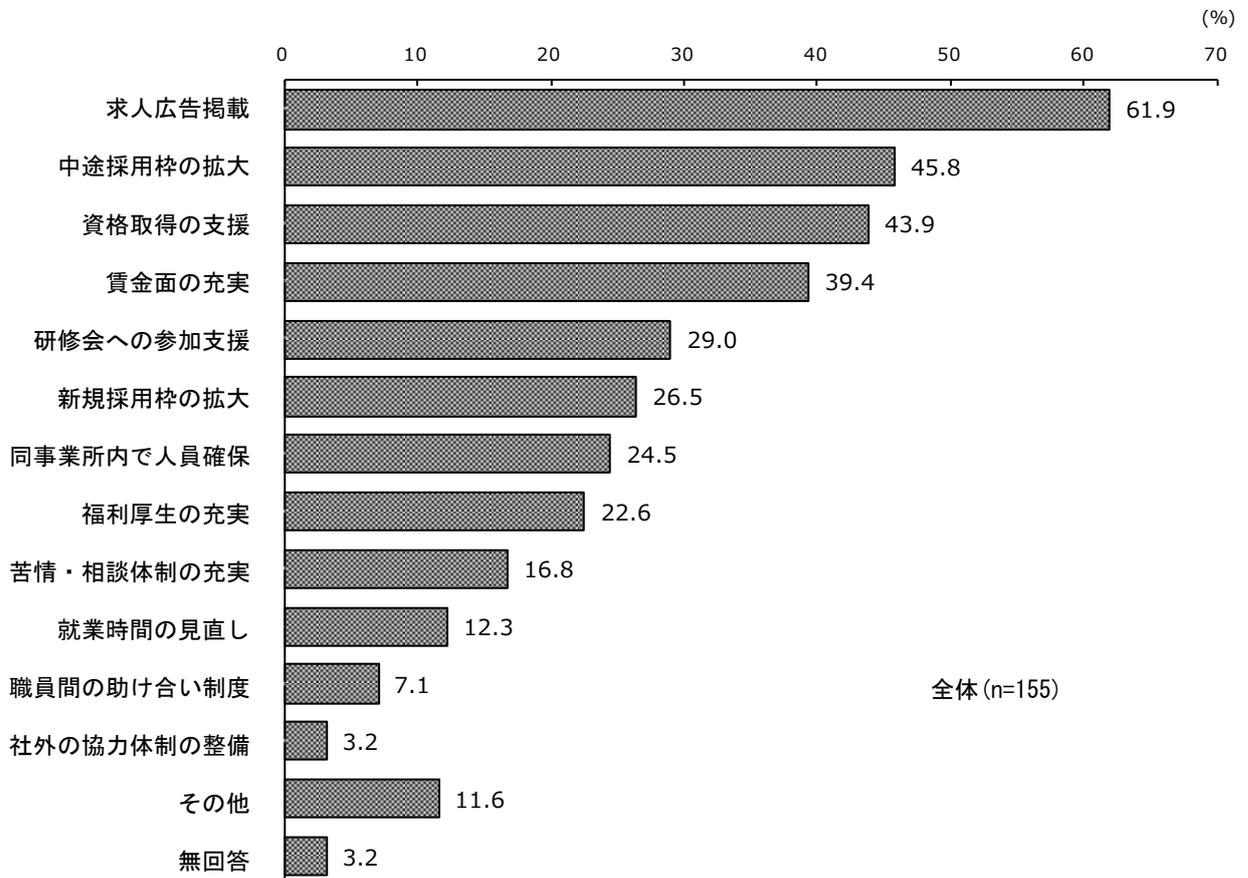
確保の困難な職種は、「介護福祉士」(47.1%)が最も多く、「看護師・准看護師」(46.5%)、「ホームヘルパー(訪問介護員)」(32.3%)と続いている。



(4) 人材を確保するための取組（現在、今後）（問12）

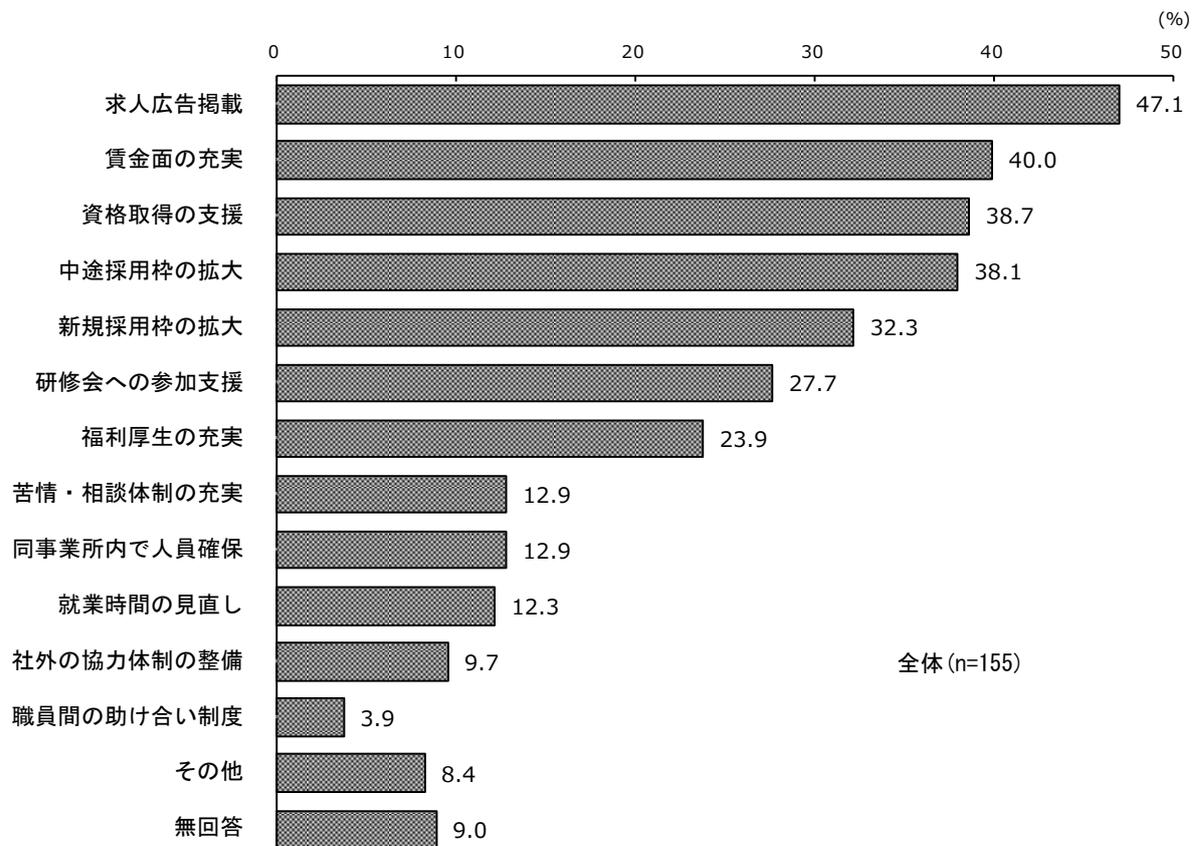
人材を確保するための現在の取組は、「求人広告掲載」（61.9%）が最も多く、「中途採用枠の拡大」（45.8%）、「資格取得の支援」（43.9%）と続いている。

■人材を確保するための取組（現在）（複数回答）



人材を確保するための今後の取組は、「求人広告掲載」(47.1%)が最も多く、「賃金面の充実」(40.0%)、「資格取得の支援」(38.7%)と続いている。

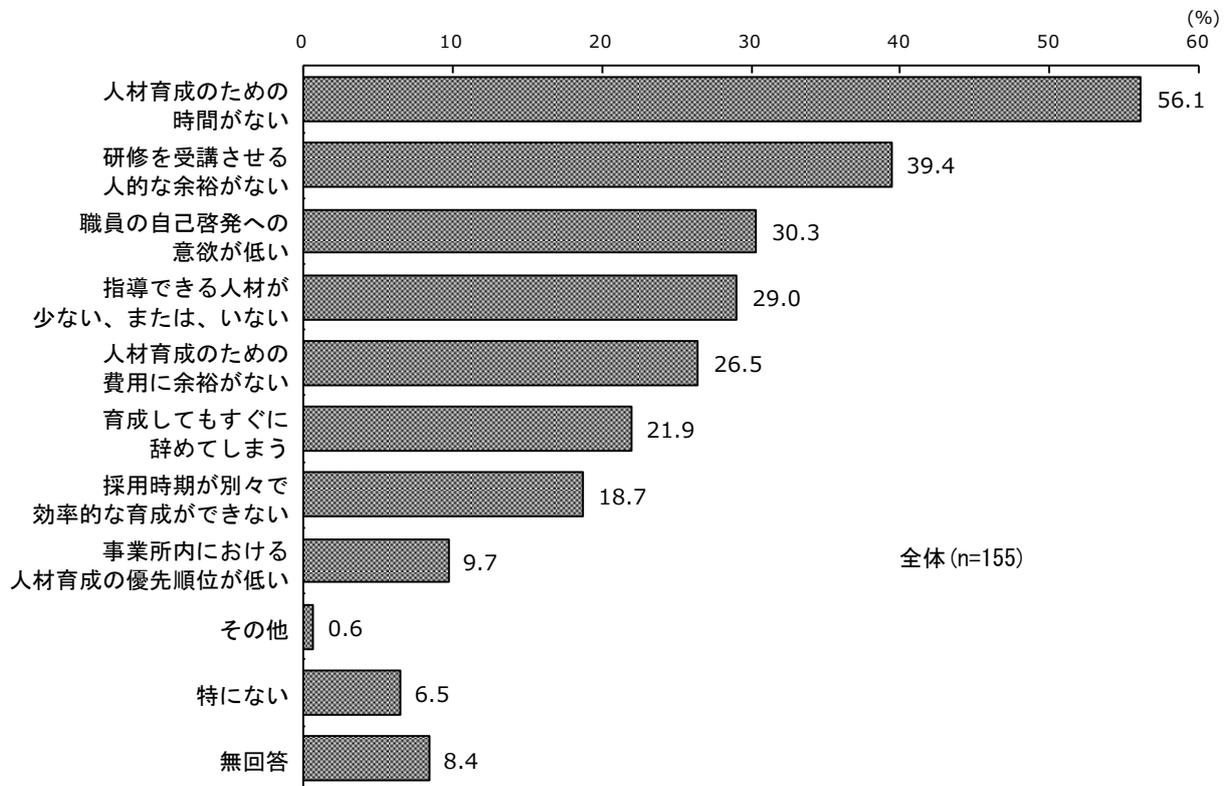
■人材を確保するための取組（今後）（複数回答）



(5) 職員の研修・教育等に関して困っていること (問13)

職員の研修・教育等に関して困っていることは、「人材育成のための時間がない」(56.1%)が最も多く、「研修を受講させる人的な余裕がない」(39.4%)、「職員の自己啓発への意欲が低い」(30.3%)と続いている。

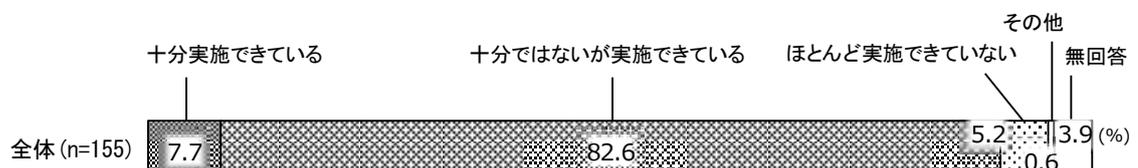
■職員の研修・教育等に関して困っていること (複数回答)



(6) 事業所内での研修の実施状況 (問14)

事業所内での研修の実施状況は、「十分ではないが実施できている」(82.6%)が最も多く、「十分実施できている」(7.7%)、「ほとんど実施できていない」(5.2%)と続いている。

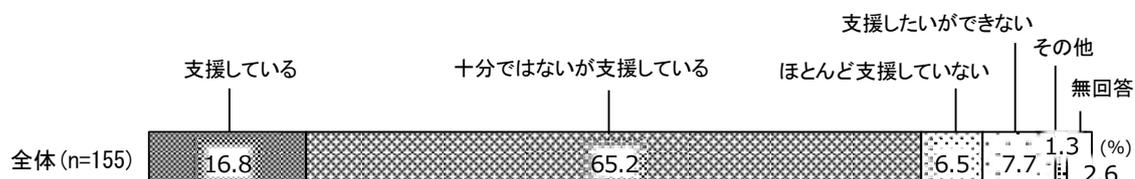
■事業所内での研修の実施状況



(7) 外部の研修等への参加支援の状況 (問 15)

外部の研修等への参加支援の状況は、「十分ではないが支援している」(65.2%)が最も多く、「支援している」(16.8%)、「支援したいができない」(7.7%)、「ほとんど支援していない」(6.5%)と続いている。

■外部の研修等への参加支援の状況



(8) 利用者の自立支援を意識したサービス提供を行っていると思うか (問 16)

利用者の自立支援を意識したサービス提供を行っていると思うかは、「思う」(66.5%)が最も多く、「少しは思う」(29.7%)、「あまり思わない」(1.9%)と続いている。「思う」「少しは思う」を合わせた“思う”は96.2%となっている。

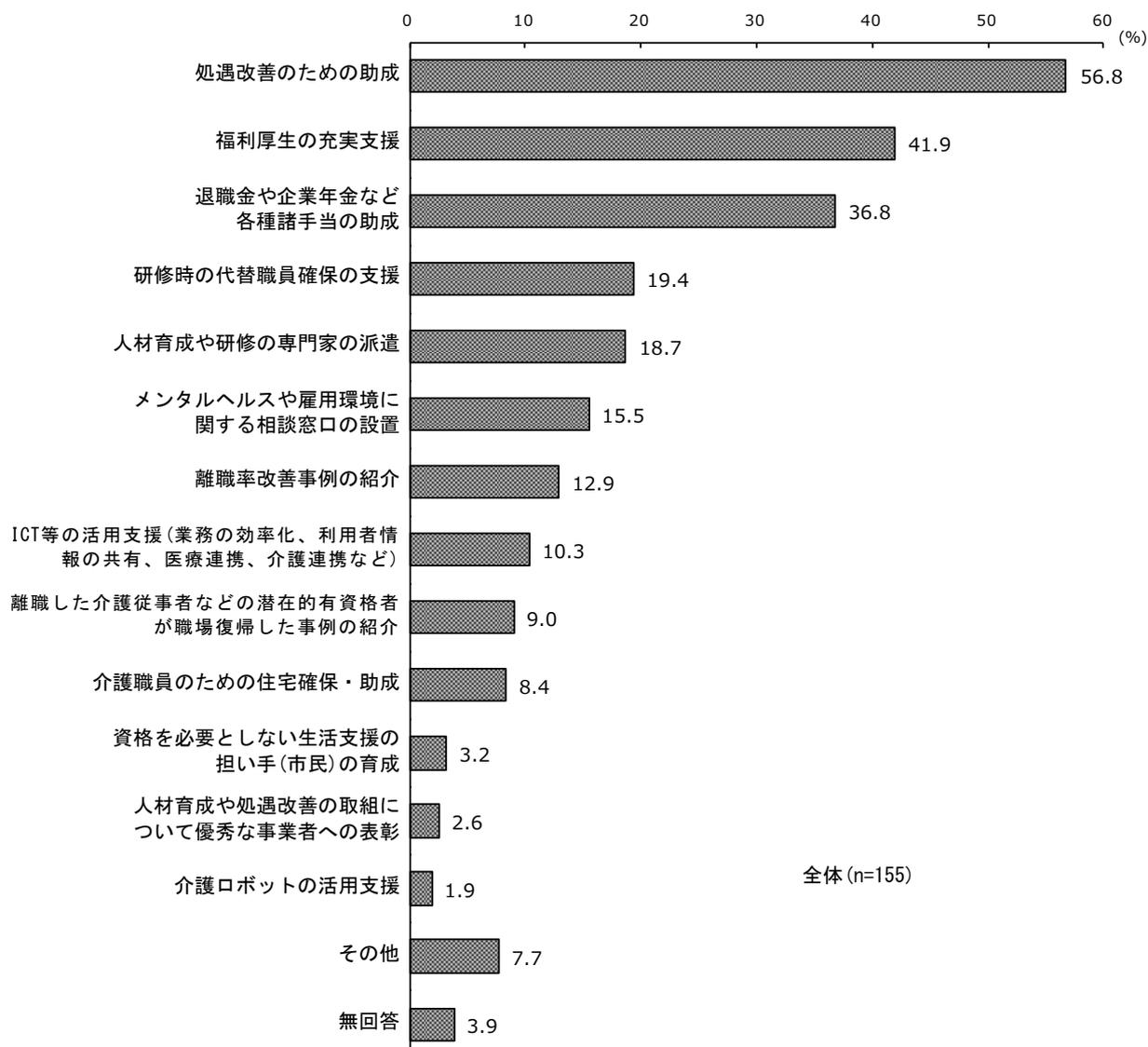
■利用者の自立支援を意識したサービス提供を行っていると思うか



(9) 人材の確保・育成や早期離職防止と定着促進のために有効と考える支援策（問17）

人材の確保・育成や早期離職防止と定着促進のために有効と考える支援策は、「処遇改善のための助成」（56.8%）が最も多く、「福利厚生充実支援」（41.9%）、「退職金や企業年金など各種諸手当の助成」（36.8%）と続いている。

■人材の確保・育成や早期離職防止と定着促進のために有効と考える支援策（複数回答）



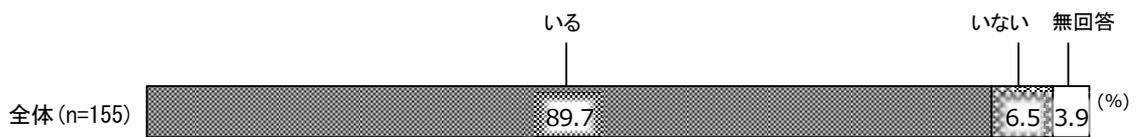
6 認知症患者のサービス利用について

(1) 認知症の利用者の有無、その人数 (問18)

医師から認知症と診断されている利用者の有無は、「いる」が89.7%、「いない」が6.5%となっている。「いる」と回答した事業者に人数を聞いたところ、「10～20人未満」(26.6%)が最も多く、「6～10人未満」(19.4%)、「30人以上」(19.4%)と続いている。

認知症の診断を受けていないが、認定調査で認知症と思われる人の有無は、「いる」が68.4%、「いない」が17.4%となっている。「いる」と回答した事業者に人数を聞いたところ、「1～5人未満」(33.0%)が最も多く、「6～10人未満」(18.9%)、「10～20人未満」(17.9%)と続いている。

■ 医師から認知症と診断されている人の有無



■ 医師から認知症と診断されている人の人数



■ 認知症の診断を受けていないが、認定調査で認知症と思われる人の有無



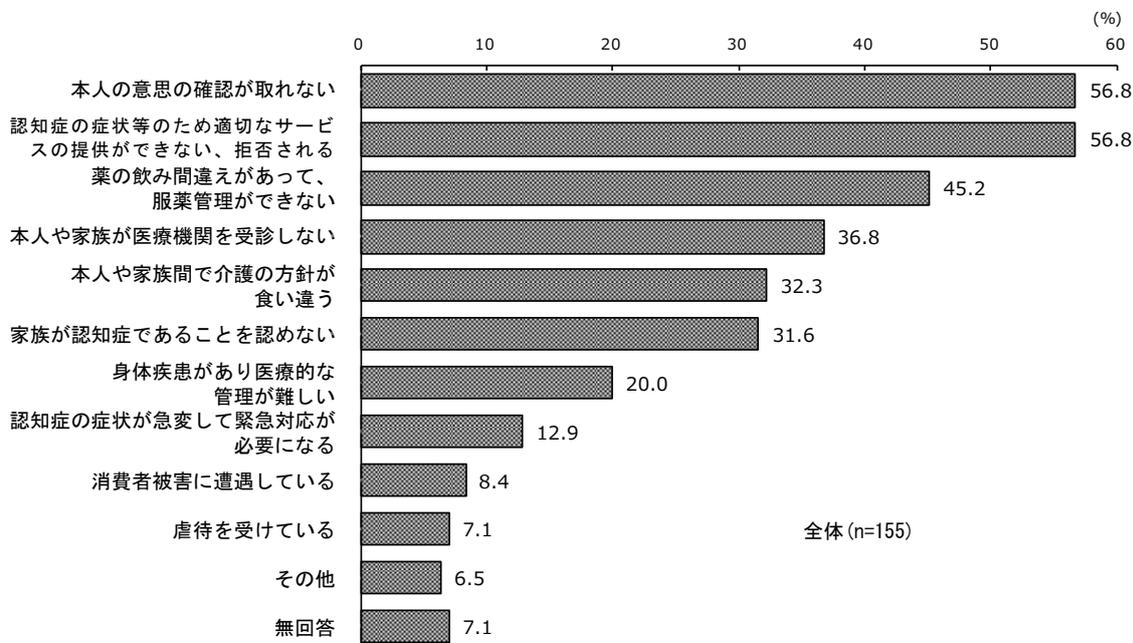
■ 認知症の診断を受けていないが、認定調査で認知症と思われる人の人数



(2) 認知症の利用者の状況で実際にあること (問19)

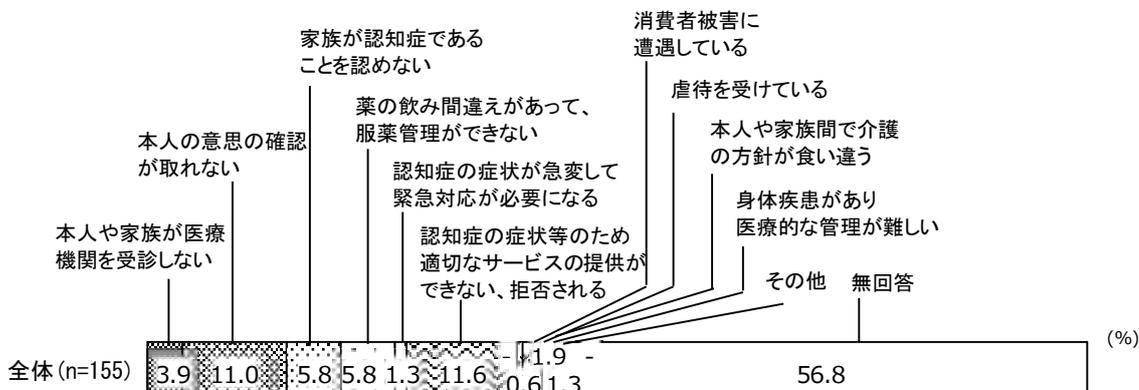
認知症の利用者の状況で実際にあることは、「本人の意思の確認が取れない」と「認知症の症状等のため適切なサービスの提供ができない、拒否される」(ともに56.8%)が最も多く、「薬の飲み間違えがあって、服薬管理ができない」(45.2%)、「本人や家族が医療機関を受診しない」(36.8%)と続いている。

■認知症の利用者の状況で実際にあること (複数回答)



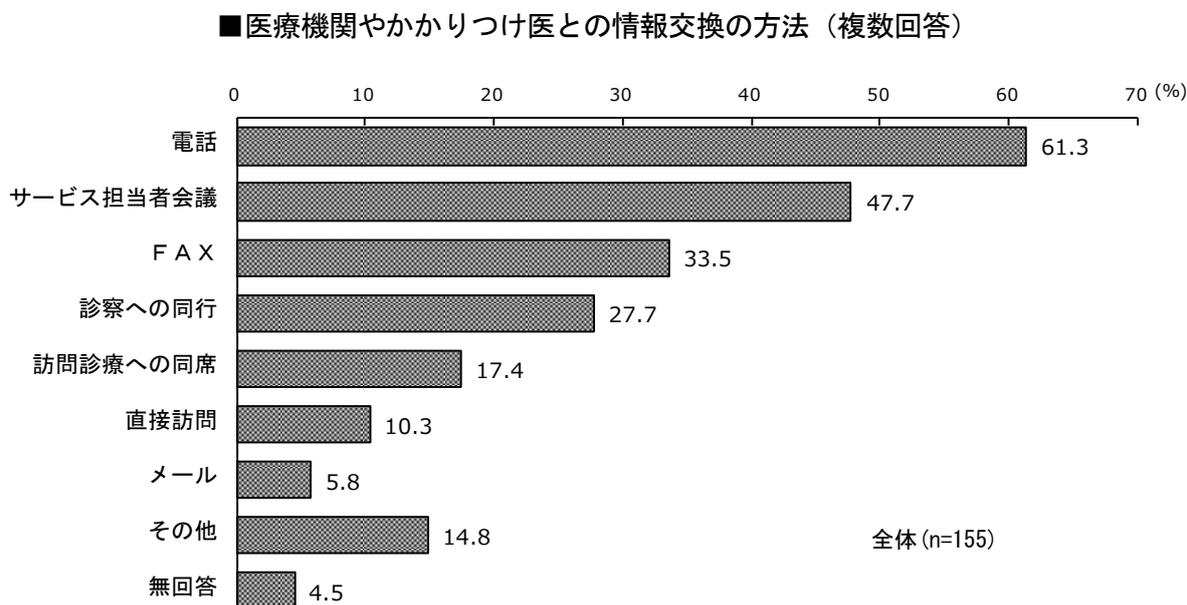
認知症の症状で実際にあることのうち、最も大変なことは、「認知症の症状等のため適切なサービスの提供ができない、拒否される」(11.6%)が最も多く、「本人の意思の確認が取れない」(11.0%)、「家族が認知症であることを認めない」と「薬の飲み間違えがあって、服薬管理ができない」(ともに5.8%)と続いている。

■認知症の症状で実際にあることのうち、最も大変なこと



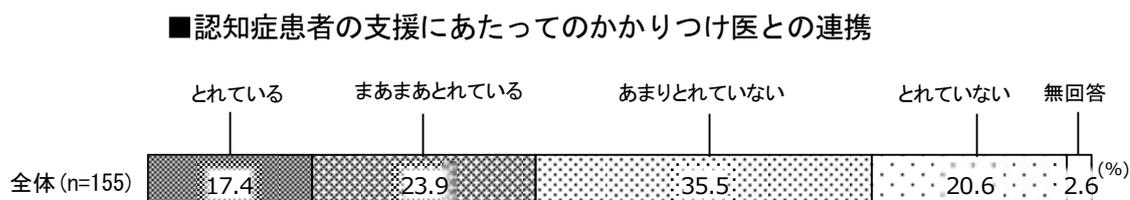
(3) 医療機関やかかりつけ医との情報交換の方法 (問 20)

医療機関やかかりつけ医との情報交換の方法は、「電話」(61.3%)が最も多く、「サービス担当者会議」(47.7%)、「FAX」(33.5%)と続いている。



(4) 認知症患者の支援にあたってのかかりつけ医との連携 (問 21)

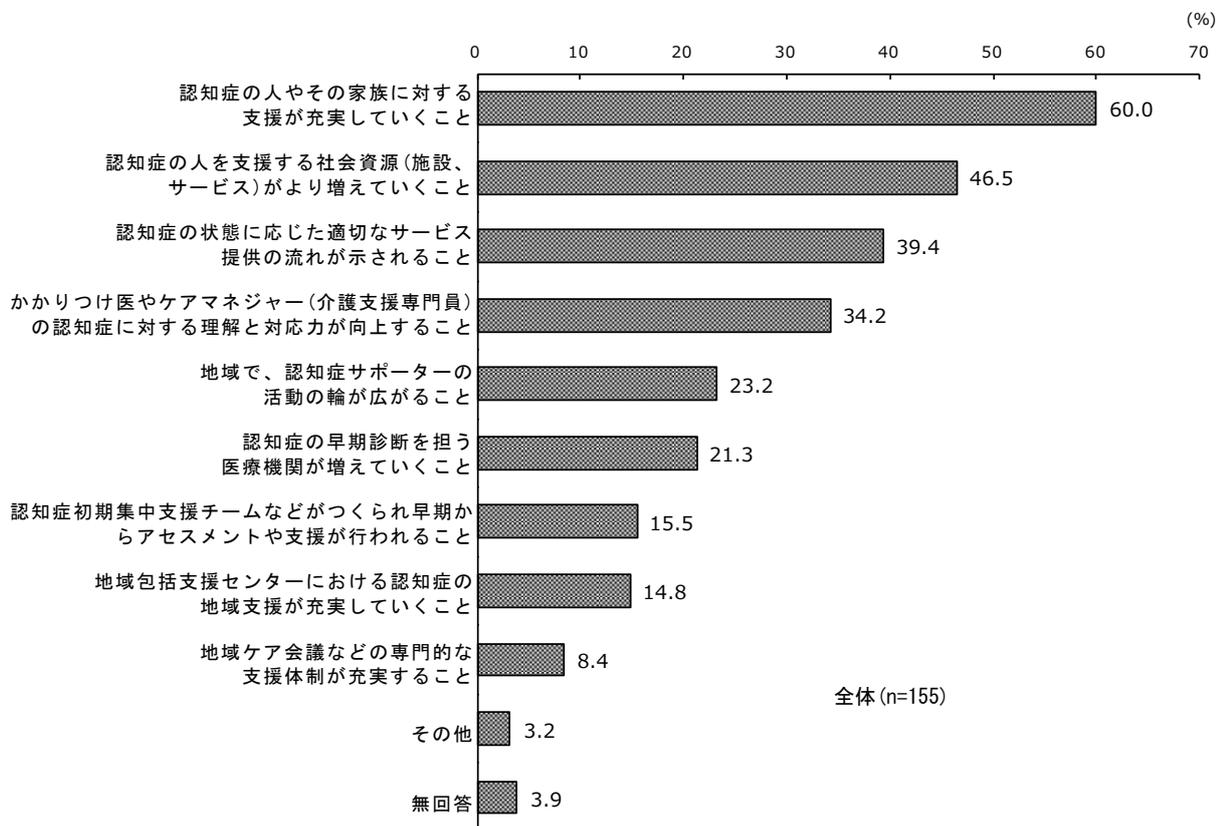
認知症患者の支援にあたってのかかりつけ医との連携は、「あまりとれていない」(35.5%)が最も多く、「まあまあとれている」(23.9%)、「とれていない」(20.6%)、「とれている」(17.4%)と続いている。「とれている」「まあまあとれている」を合わせた“とれている”は41.3%となっている。



(5) 認知症患者の支援に必要となること (問22)

認知症患者の支援に必要となることは、「認知症の人やその家族に対する支援が充実していくこと」(60.0%)が最も多く、「認知症の人を支援する社会資源(施設、サービス)がより増えていくこと」(46.5%)、「認知症の状態に応じた適切なサービス提供の流れが示されること」(39.4%)と続いている。

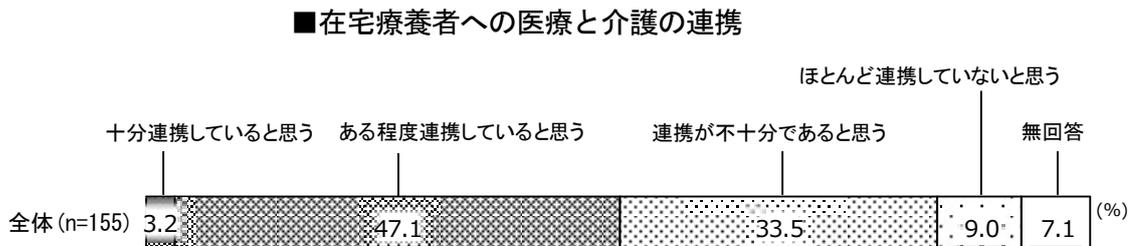
■認知症患者の支援に必要となること (複数回答)



7 医療と介護の連携の状況について

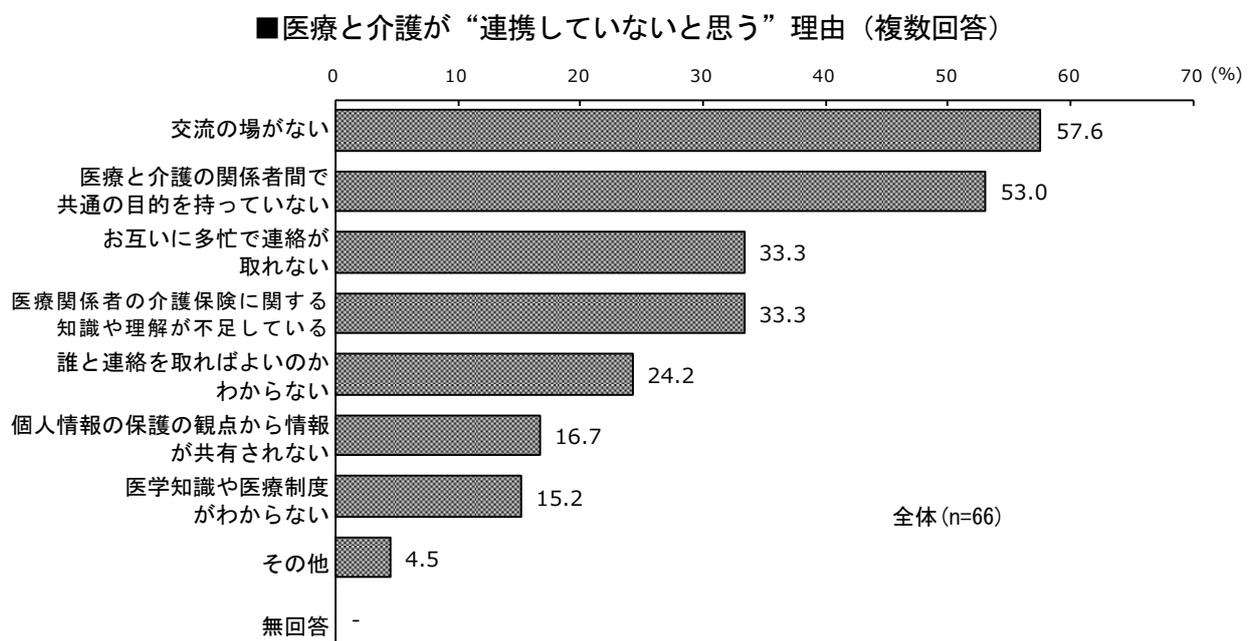
(1) 在宅療養者への医療と介護の連携（問23）

在宅療養者への医療と介護の連携は、「ある程度連携していると思う」（47.1%）が最も多く、「連携が不十分であると思う」（33.5%）、「ほとんど連携していないと思う」（9.0%）、「十分連携していると思う」（3.2%）と続いている。「十分連携していると思う」「ある程度連携していると思う」を合わせた“連携していると思う”は50.3%、「連携が不十分であると思う」「ほとんど連携していないと思う」を合わせた“連携していないと思う”は42.5%となっている。



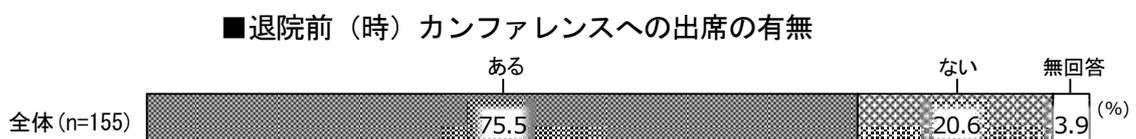
(2) 医療と介護が“連携していないと思う”理由（問23-1）

“連携していないと思う”と回答した事業者に理由を聞いたところ、「交流の場がない」（57.6%）が最も多く、「医療と介護の関係者間で共通の目的を持っていない」（53.0%）、「お互いに多忙で連絡が取れない」と「医療関係者の介護保険に関する知識や理解が不足している」（ともに 33.3%）と続いている。



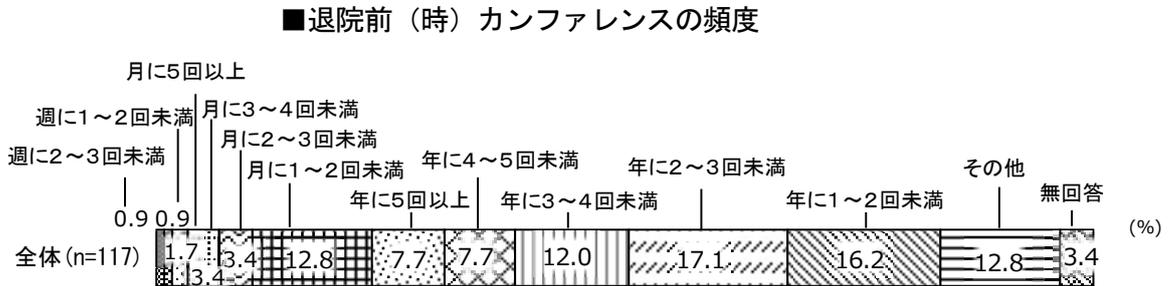
(3) 退院前（時）カンファレンスへの出席の有無（問24）

退院前（時）カンファレンスへの出席の有無は、「ある」が75.5%、「ない」が20.6%となっている。



(4) 退院前（時）カンファレンスの頻度（問24-1）

退院前（時）カンファレンスへの出席が「ある」と回答した事業者に退院前（時）カンファレンスの頻度を聞いたところ、「年に2～3回未満」（17.1%）が最も多く、「年に1～2回未満」（16.2%）、「月に1～2回未満」（12.8%）と続いている。



(5) 医療と介護の連携を図るうえでの情報の共有化について〈自由回答〉（問25）

医療と介護の連携を図るうえでの情報の共有化について、自由回答形式で聞いたところ、全体で96件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

- ・医療関係者と介護関係者が会う場がないのでどのような形でも会う機会を作る必要があると思います。例えば市が、共同で研修をやる。
- ・双方とも多忙なので、データを利用して情報共有する。
- ・関係者がそれぞれ時間をつくるのが難しいと考える為、インターネットを使用して情報を共有できるものがあると良い。
- ・通所事業所にも医療情報を開示してほしい。

(6) 医療関係機関との間での問題やトラブルの有無（問26）

医療関係機関との間での問題やトラブルの有無は、「ある」が14.2%、「ない」が80.0%となっている。



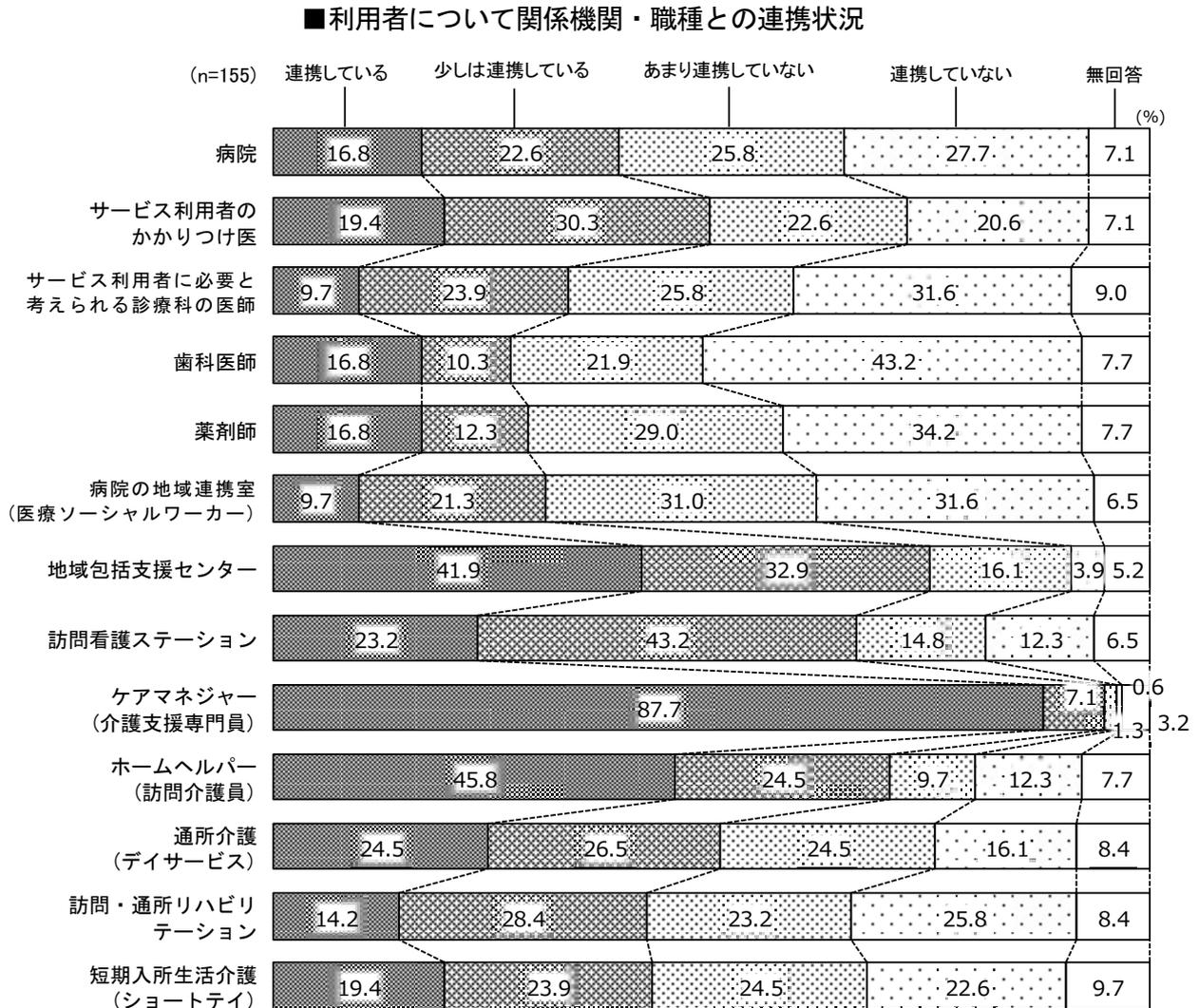
(7) 医療関係機関との間で発生した問題やトラブルの内容〈自由回答〉（問26-1）

医療関係機関との間で発生した問題やトラブルの内容について、自由回答形式で聞いたところ、全体で22件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

- ・病院の医療連携室から、グループホームの利用者の退院後の行き先について、カンファレンス開催の予定もなく、「グループホームが再受け入れをするのは当然」というようなことを言われた。グループホームは、医療処置が行えないという条件の施設である認識が、SMWの一部の方は持たれていないのではと感じた。
- ・勝手に訪問時間を変更され訪問介護の援助が適切に対応できなかったケースが往診に多い。
- ・服薬管理で、薬の変更を知らされていなかった。高熱がでたら報告すると言われたが、何度から高熱なのか、指示があいまいだった。

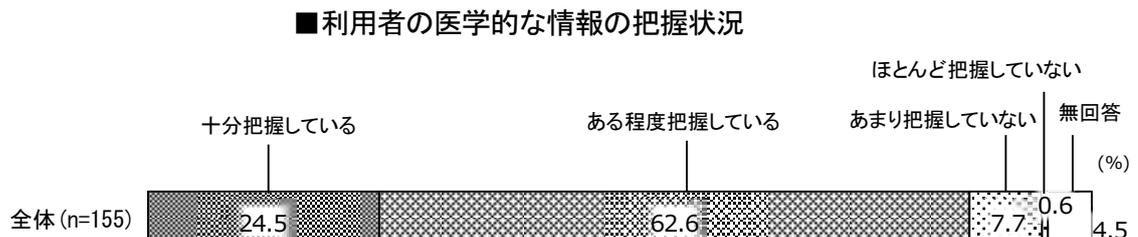
(8) 利用者について関係機関・職種との連携状況 (問 27)

利用者について関係機関・職種との連携状況は、「連携している」「少しは連携している」を合わせた“連携している”は、『ケアマネジャー (介護支援専門員)』 (94.8%) が最も多く、『地域包括支援センター』 (74.8%)、『ホームヘルパー (訪問介護員)』 (70.3%) と続いている。



(9) 利用者の医学的な情報の把握状況 (問 28)

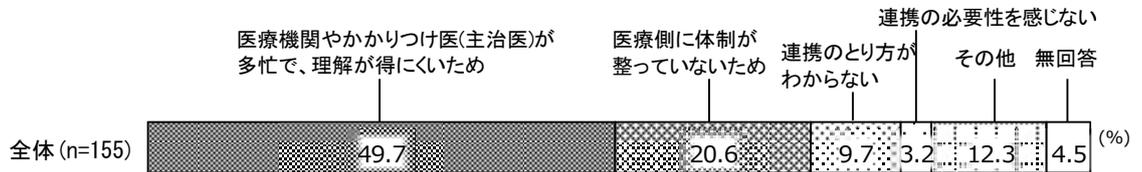
利用者の医学的な情報の把握状況は、「ある程度把握している」 (62.6%) が最も多く、「十分把握している」 (24.5%)、「あまり把握していない」 (7.7%)、「ほとんど把握していない」 (0.6%) と続いている。「十分把握している」「ある程度把握している」を合わせた“把握している”は 87.1% となっている。



(10) 医療機関やかかりつけ医などと連携がとりにくい理由 (問 29)

医療機関やかかりつけ医などと連携がとりにくい理由は、「医療機関やかかりつけ医（主治医）が多忙で、理解が得にくい」と(49.7%)が最も多く、「医療側に体制が整っていない」と(20.6%)、「連携のとり方がわからない」と(9.7%)、「連携の必要性を感じない」と(3.2%)と続いている。

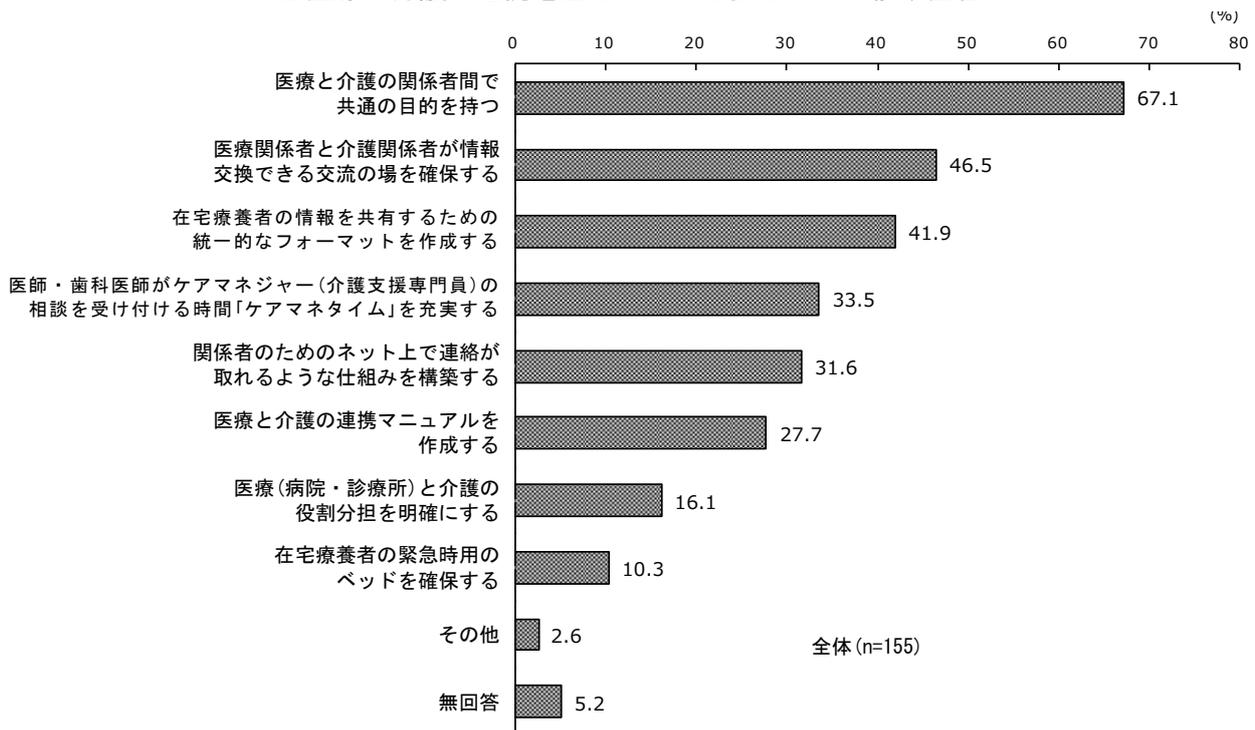
■ 医療機関やかかりつけ医などと連携がとりにくい理由



(11) 医療と介護の連携を図るために必要なこと (問 30)

医療と介護の連携を図るために必要なことは、「医療と介護の関係者間で共通の目的を持つ」と(67.1%)が最も多く、「医療関係者と介護関係者が情報交換できる交流の場を確保する」と(46.5%)、「在宅療養者の情報を共有するための統一フォーマットを作成する」と(41.9%)と続いている。

■ 医療と介護の連携を図るために必要なこと (複数回答)



(12) 医療と介護の連携で苦勞していること〈自由回答〉（問31）

医療と介護の連携で苦勞していることについて、自由回答形式で聞いたところ、全体で86件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

- ・医療側で介護保険制度の内容を把握されていない時に、医療行為の指示出しがあること。
- ・個人情報関係上、医療情報をキャッチするまでに時間がかかる。直接の指示、指導がもらにくい。介護現場での状況、状態に理解がない。
- ・連絡が取りづらい、いつ連絡したら良いか悩む（かかりつけ医との連絡）
- ・急変時などの受け入れ困難や拒否されるケースがある。かかりつけ医との相談もほとんど出来ない状況。
- ・医療の方が介護より重要立場が強い等と考えがちな所があり、苦慮することがあります。
- ・医療サイドの協力体制が十分に整っていない

(13) 医療関係機関に期待すること〈自由回答〉（問32）

医療と介護の連携で苦勞していることについて、自由回答形式で聞いたところ、全体で287件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

病院（地域連携室）に対して（67件）

- ・入院中の生活情報提供・退院後の生活の指導
- ・グループホームのことを知って欲しい。心身の状況に変化があり、病院に入院をした利用者が、退院した後に、グループホームにもどれるかどうかを利用者の利益を優先して検討するように一緒に考えて欲しい。
- ・緊急時の受入れ体制
- ・ケアマネジャーだけでなく、直接話しができる、ひらかれた窓口であってほしい。

診療所に対して（60件）

- ・ケアマネジャーや御利用者様の御家族を通して、必要な情報をスムーズに提供して欲しい。
- ・密な連携、病院は連携室という窓口があるが、診療所にも、相談、支援窓口を設けるべきと思う。
- ・介護側に対して、協力しようとする体制を義務化してほしい。
- ・体調不良時の相談、救急時の紹介。
- ・担当者会議に積極的に参加して欲しい。

歯科診療所に対して（47件）

- ・CMを通して治療状況・注意点の情報を流して欲しい
- ・義歯の作成、嚥下の問題、口腔ケアの指導方法など期待する部分は大きい。
- ・週に1回ぐらいで訪問して頂きたい。月に2回だと、入れ歯調整等充分ではないようです。

薬局に対して（54件）

- ・薬の情報、副作用等の共有提供。
- ・薬剤の変更などの相談
- ・薬の飲み忘れがないかどうか把握し、指導してほしい。

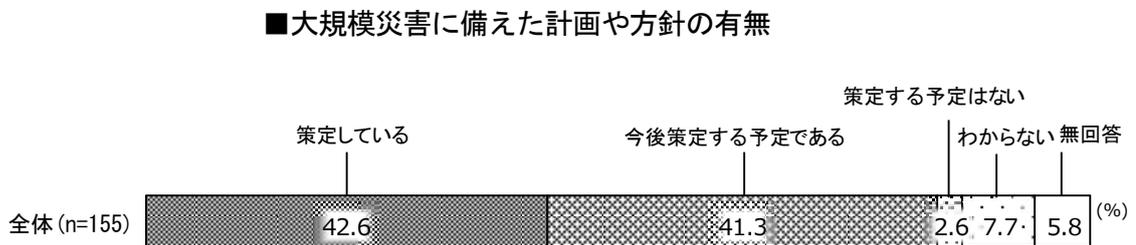
訪問看護ステーションに対して（59件）

- ・情報の提供。バイタル値、体調面でのその方のルール（入浴OKライン、報告ラインの設定）
- ・介護と一緒に支えている意識を持ってほしい。連携してくれるステーションと全然顔のみえないステーションがあるので
- ・老健について理解を深めて欲しい

8 災害時の体制について

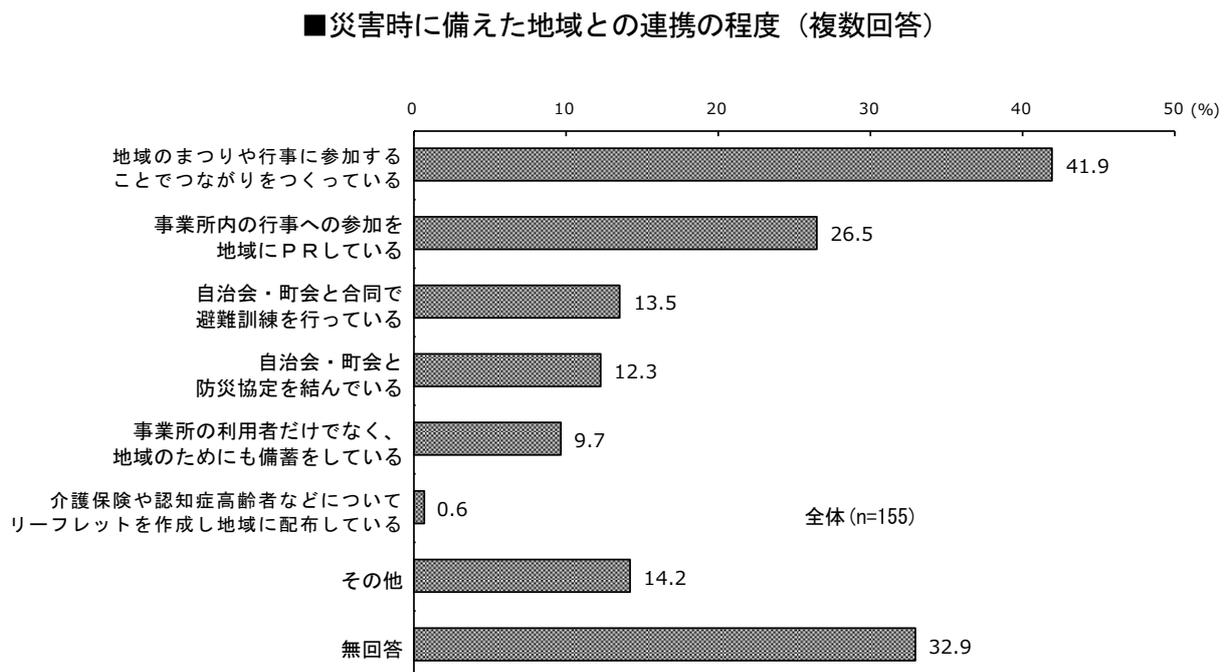
(1) 大規模災害に備えた計画や方針の有無 (問 33)

大規模災害に備えた計画や方針の有無は、「策定している」(42.6%)が最も多く、「今後策定する予定である」(41.3%)、「策定する予定はない」(2.6%)と続いている。



(2) 災害時に備えた地域との連携の程度 (問 34)

災害時に備えた地域との連携の程度は、「地域のまつりや行事に参加することでつながりをつくっている」(41.9%)が最も多く、「事業所内の行事への参加を地域にPRしている」(26.5%)、「自治会・町会と合同で避難訓練を行っている」(13.5%)と続いている。



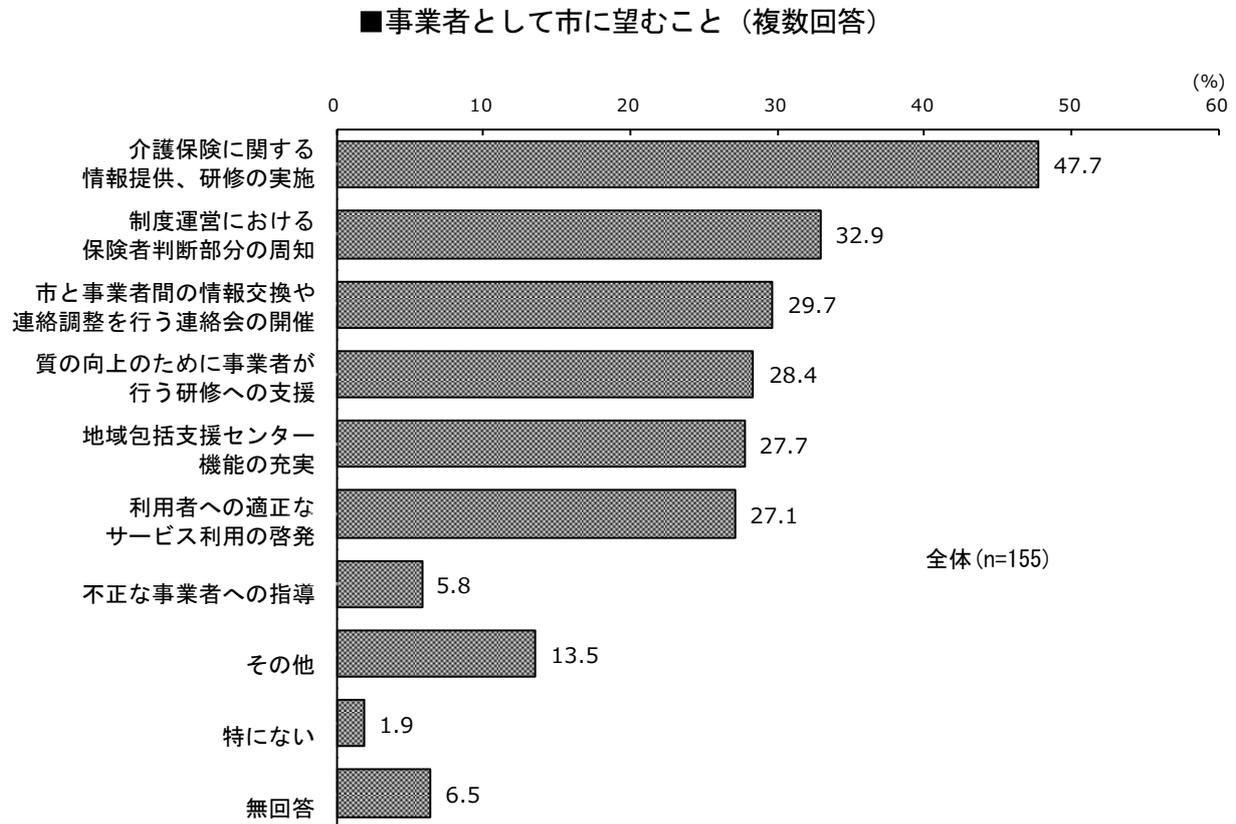
地区別にみると、第1地区は「事業所の利用者だけでなく、地域のためにも備蓄をしている」(26.1%)が全体に比べ多く、第6地区は「事業所内の行事への参加を地域にPRしている」(47.1%)、「自治会・町会と合同で避難訓練を行っている」(38.2%)、「自治会・町会と防災協定を結んでいる」(32.4%)が全体に比べ多くなっている。

		(%)							
		地域のつながりや行事に参加する	事業所内の行事への参加を地域	自治会・町会と合同で避難訓練	自治会・町会と防災協定を結ん	事業所の利用者だけでなく、地	介護保険や認知症高齢者などに配布している	その他	無回答
全体(n=155)		41.9	26.5	13.5	12.3	9.7	0.6	14.2	32.9
地区別	第1地区(n=23)	56.5	30.4	4.3	13.0	26.1	-	8.7	26.1
	第2地区(n=21)	38.1	38.1	-	-	9.5	-	9.5	33.3
	第3地区(n=26)	34.6	15.4	11.5	11.5	7.7	3.8	38.5	23.1
	第4地区(n=25)	48.0	20.0	16.0	-	-	-	8.0	36.0
	第5地区(n=21)	23.8	4.8	-	9.5	-	-	4.8	57.1
	第6地区(n=34)	50.0	47.1	38.2	32.4	11.8	-	14.7	23.5

9 市への意向について

(1) 事業者として市に望むこと (問 35)

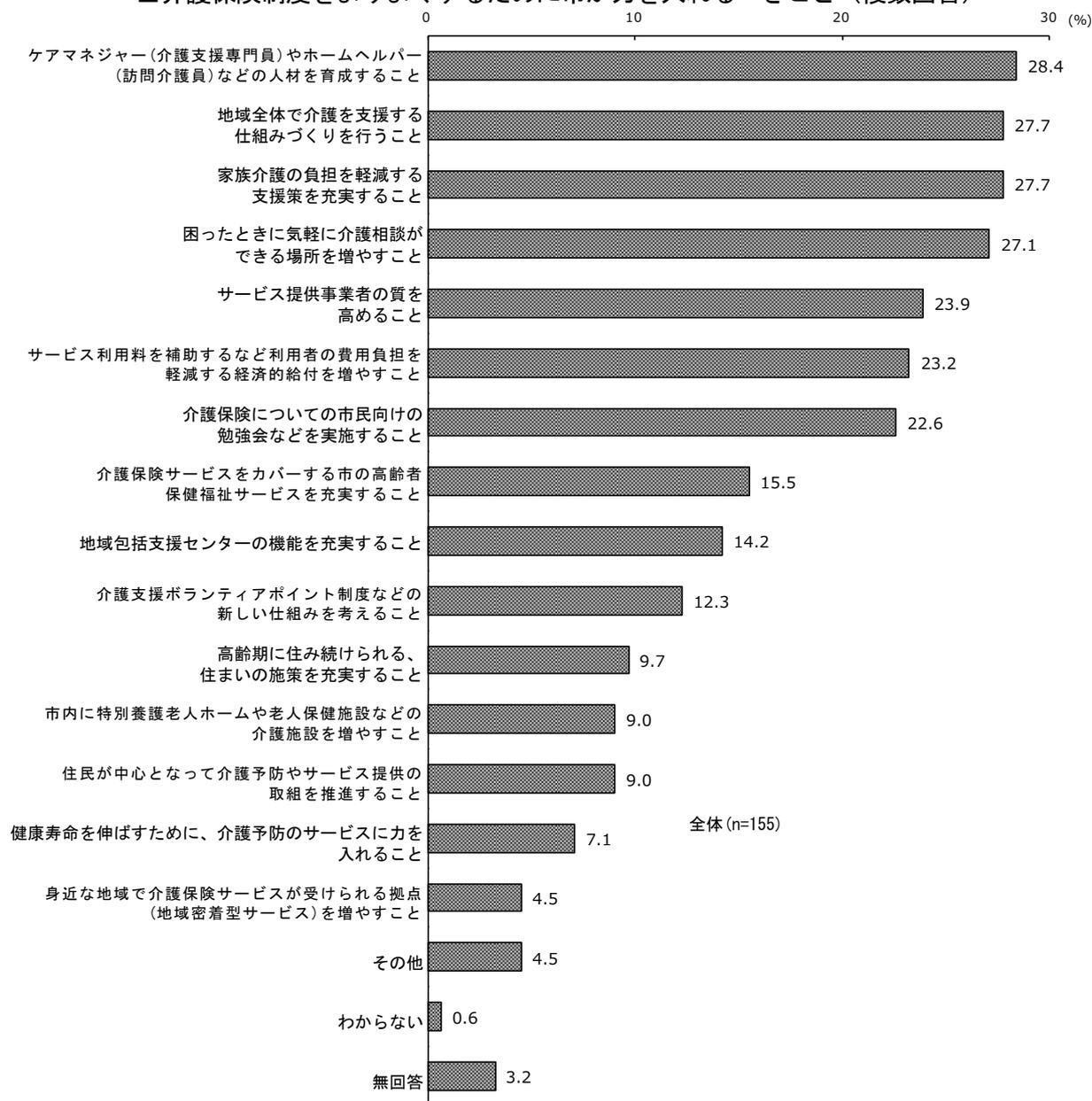
事業者として市に望むことは、「介護保険に関する情報提供、研修の実施」(47.7%)が最も多く、「制度運営における保険者判断部分の周知」(32.9%)、「市と事業者間の情報交換や連絡調整を行う連絡会の開催」(29.7%)と続いている。



(2) 介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきこと (問 36)

介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきことは、「ケアマネジャー（介護支援専門員）やホームヘルパー（訪問介護員）などの人材を育成すること」（28.4%）が最も多く、「地域全体で介護を支援する仕組みづくりを行うこと」と「家族介護の負担を軽減する支援策を充実すること」（ともに27.7%）、「困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと」（27.1%）と続いている。

■介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきこと（複数回答）



(3) 介護に関する要望〈自由回答〉 (問 37)

介護に関する要望について、自由回答形式で聞いたところ、全体で41件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

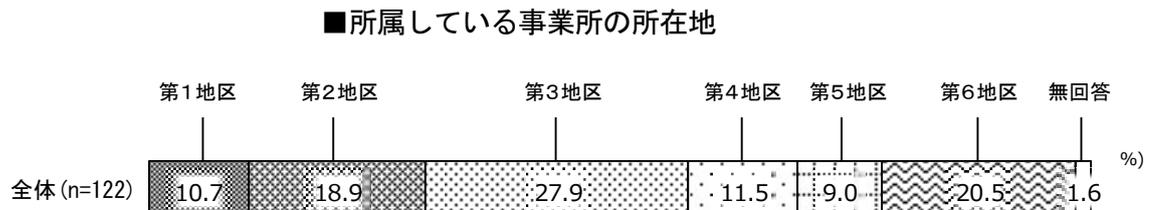
- 制度、サービス、事業について：15件
- 人材について：11件
- 情報共有について：3件
- 医療と介護の連携について：3件
- その他：9件

5. 介護支援専門員（ケアマネジャー）調査

1 基本属性

(1) 所属している事業所の所在地（問1）

所属している事業所の所在地は、「第3地区」（27.9%）が最も多く、「第6地区」（20.5%）、「第2地区」（18.9%）、「第4地区」（11.5%）、「第1地区」（10.7%）、「第5地区」（9.0%）となっている。



(2) 性別（問2）

性別は、「男性」が28.7%、「女性」が70.5%となっている。



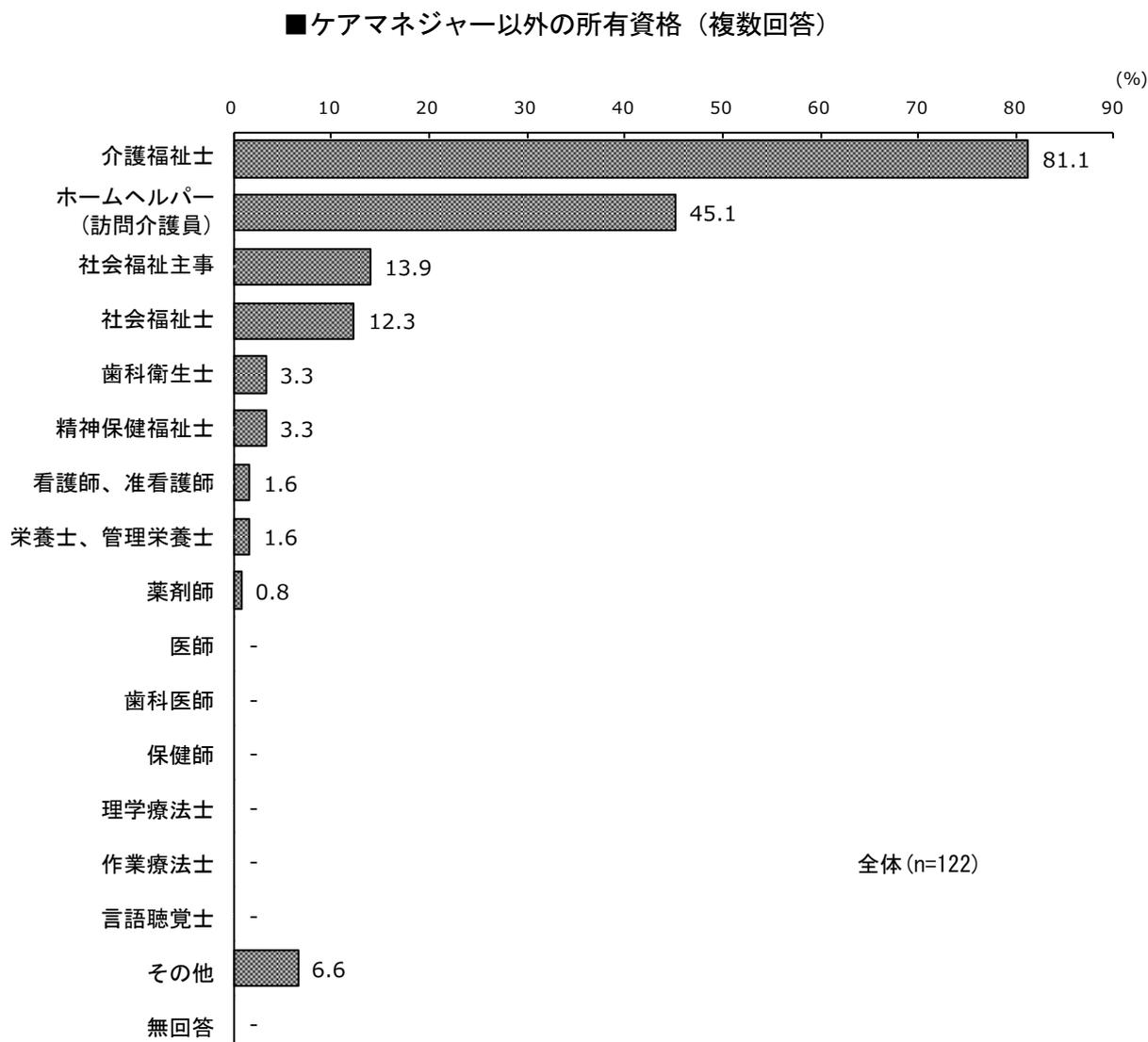
(3) 年齢（問3）

年齢は、「50代」（38.5%）が最も多く、「40代」（27.9%）、「30代」（16.4%）、「60代」（13.9%）、「70歳以上」（1.6%）、「20代」（0.8%）と続いている。



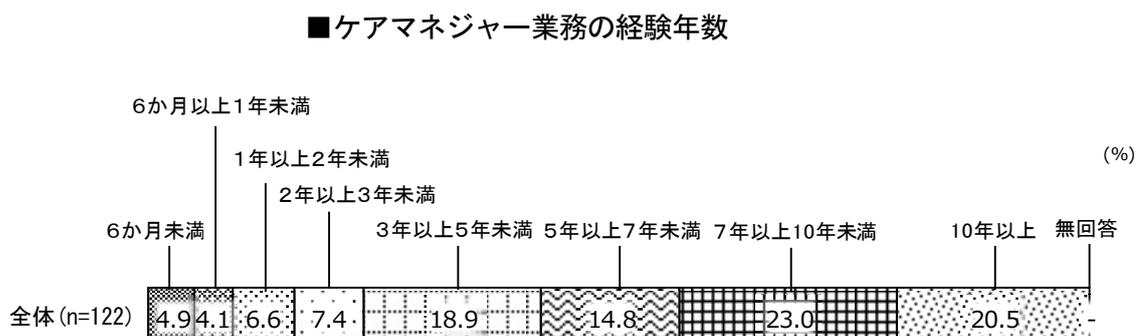
（4）ケアマネジャー以外の所有資格（問4）

ケアマネジャー以外の所有資格は、「介護福祉士」（81.1%）が最も多く、「ホームヘルパー（訪問介護員）」（45.1%）、「社会福祉主事」（13.9%）と続いている。



（5）ケアマネジャー業務の経験年数（問5）

ケアマネジャー業務の経験年数は、「7年以上10年未満」（23.0%）が最も多く、「10年以上」（20.5%）、「3年以上5年未満」（18.9%）と続いている。



(6) ケアマネジャーとして転職の有無（問6）

ケアマネジャーとして転職の有無は、「ある」が45.1%、「ない」が54.1%となっている。

■ケアマネジャーとして転職の有無



(7) 現在の居宅介護支援事業所での在職期間（問7）

現在の居宅介護支援事業所での在職期間は、「3年以上5年未満」（23.8%）が最も多く、「1年以上2年未満」（18.0%）、「7年以上10年未満」（13.9%）と続いている。

■現在の居宅介護支援事業所での在職期間



(8) 現在の居宅介護支援事業所のケアマネジャーの人数（問8）

市内居住者、市外居住者ともに「50代」が最も多く、次に「40代」が多くなっている。

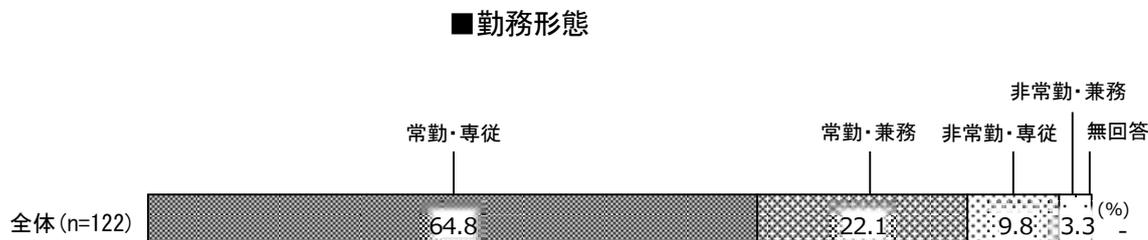
■現在の居宅介護支援事業所のケアマネジャーの人数〈合計及び割合〉

		(上段:人、下段:%)							
		20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	合計
居住地	府中市内	1 0.4	35 12.9	73 26.9	115 42.4	40 14.8	5 1.8	2 0.7	271 100.0
	府中市外	3 1.2	53 21.6	63 25.7	71 29.0	45 18.4	6 2.4	4 1.6	245 100.0
合計		4 0.8	88 17.1	136 26.4	186 36.0	85 16.5	11 2.1	6 1.2	516 100.0

2 ケアマネジャー業務の担当状況について

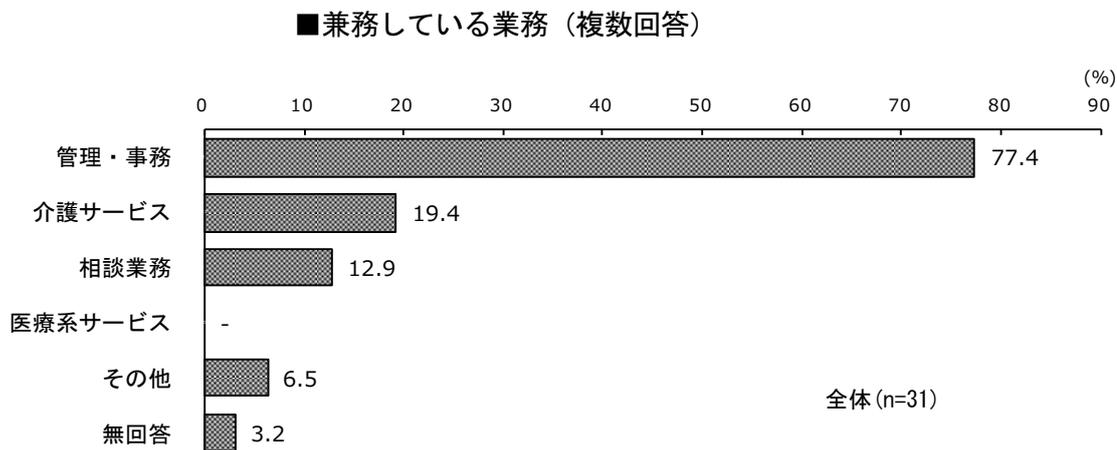
(1) 勤務形態（問9）

勤務形態は、「常勤・専従」（64.8%）が最も多く、「常勤・兼務」（22.1%）、「非常勤・専従」（9.8%）、「非常勤・兼務」（3.3%）と続いている。



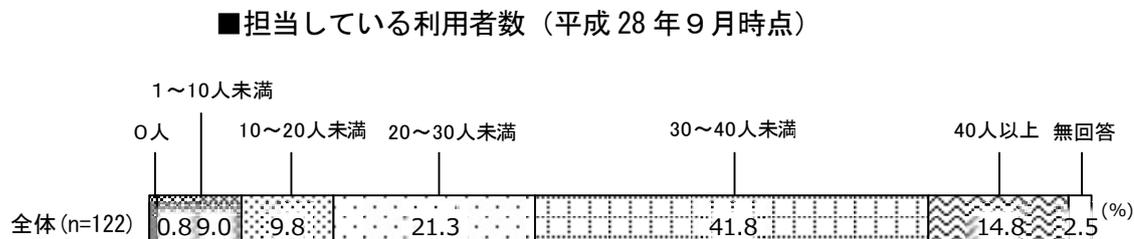
(2) 兼務している業務（問9-1）

「常勤・兼務」、「非常勤・兼務」と回答した人に兼務している業務を聞いたところ、「管理・事務」（77.4%）が最も多く、「介護サービス」（19.4%）、「相談業務」（12.9%）と続いている。



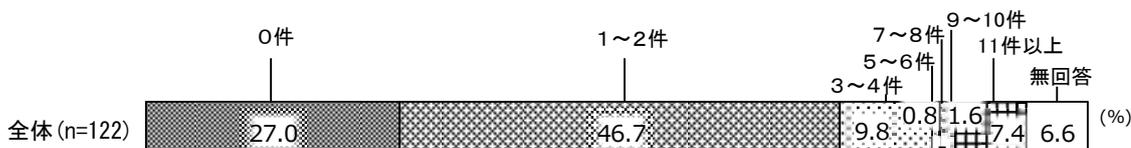
(3) 担当している利用者数・居宅サービス計画作成・変更件数（問10）

担当している利用者数は、「30～40人未満」（41.8%）が最も多く、「20～30人未満」（21.3%）、「40人以上」（14.8%）と続いている。



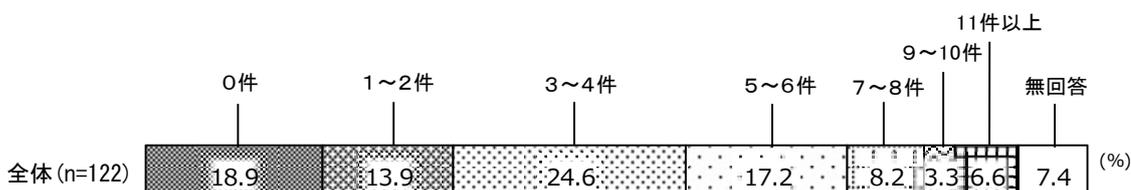
居宅サービス計画新規作成件数は、「1～2件」（46.7%）が最も多く、「0件」（27.0%）、「3～4件」（9.8%）と続いている。

■居宅サービス計画新規作成件数（平成28年9月中の該当件数）



居宅サービス計画変更件数は、「3～4件」（24.6%）が最も多く、「0件」（18.9%）、「5～6件」（17.2%）と続いている。

■居宅サービス計画変更件数（平成28年9月中の該当件数）



（4）日常生活圏別、要介護度別の担当利用者数（問10-1）

日常生活圏別の担当利用者数の平均は、「要支援」は『第1地区』、「要介護」は『第3地区』が最も多くなっている。要介護度別の担当利用者数の平均は、「市内」「市外」とともに『要介護1』が最も多くなっている。

■日常生活圏別、要介護度別の担当利用者数の平均

【日常生活圏域別】 (人)

	要支援	要介護
第1地区	(n=68) 1.3	(n=83) 6.4
第2地区	(n=69) 0.8	(n=83) 6.8
第3地区	(n=64) 0.5	(n=94) 6.9
第4地区	(n=62) 0.7	(n=80) 3.9
第5地区	(n=66) 1.1	(n=83) 5.2
第6地区	(n=61) 0.4	(n=81) 5.9
市外	(n=70) 0.7	(n=75) 1.7

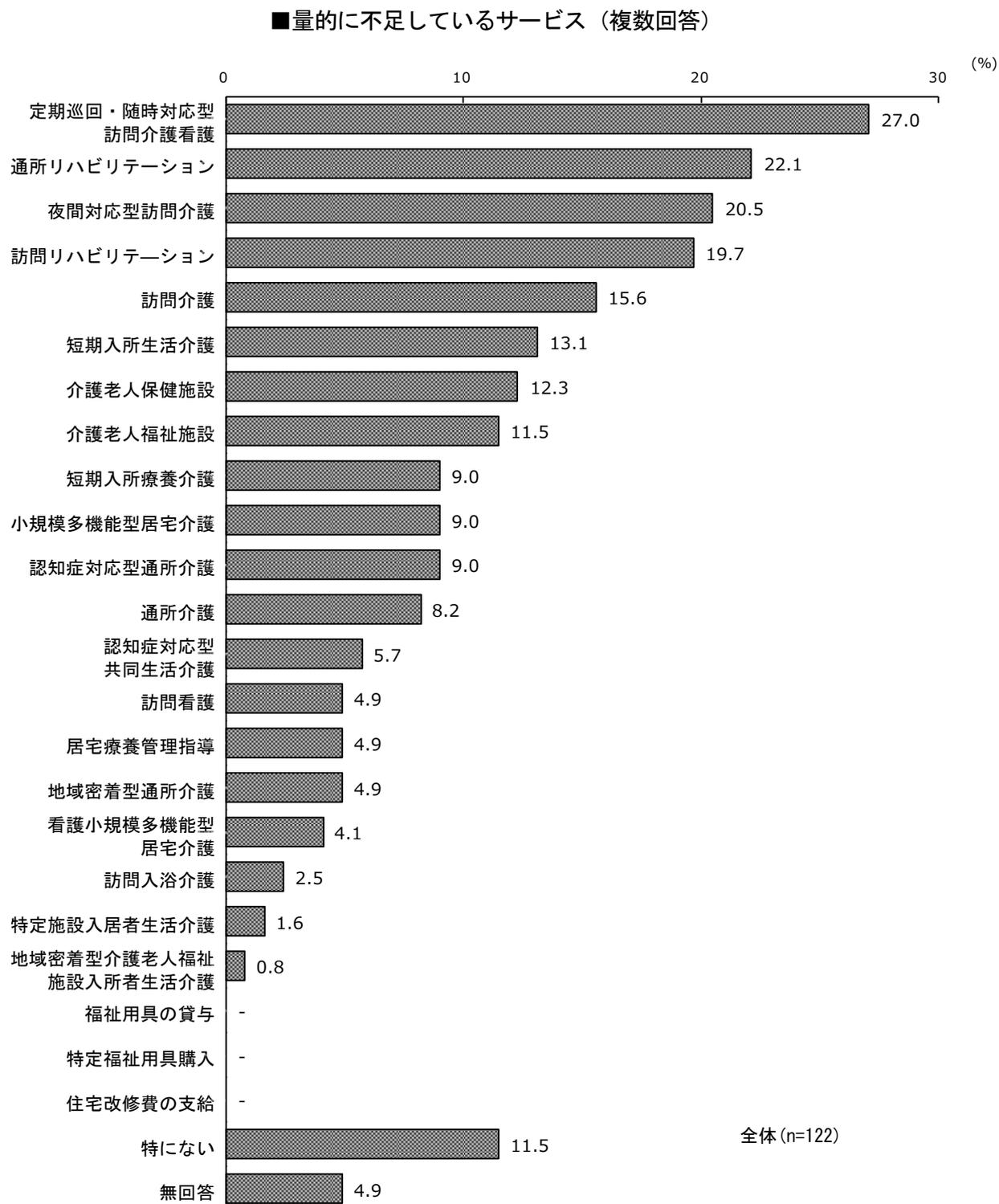
【要介護度別】 (人)

	市内	市外
要支援1	(n=82) 1.5	(n=48) 0.6
要支援2	(n=89) 2.0	(n=50) 0.5
要介護1	(n=113) 10.5	(n=50) 1.3
要介護2	(n=106) 7.0	(n=52) 0.8
要介護3	(n=108) 4.4	(n=49) 0.7
要介護4	(n=99) 3.0	(n=48) 0.3
要介護5	(n=98) 2.3	(n=48) 0.4
合計	(n=116) 27.3	(n=73) 3.2

3 担当地域におけるサービスの状況について

(1) 量的に不足しているサービス、ケアプランに組み入れにくいサービス（問11）

量的に不足しているサービスは、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」（27.0%）が最も多く、「通所リハビリテーション」（22.1%）、「夜間対応型訪問介護」（20.5%）と続いている。

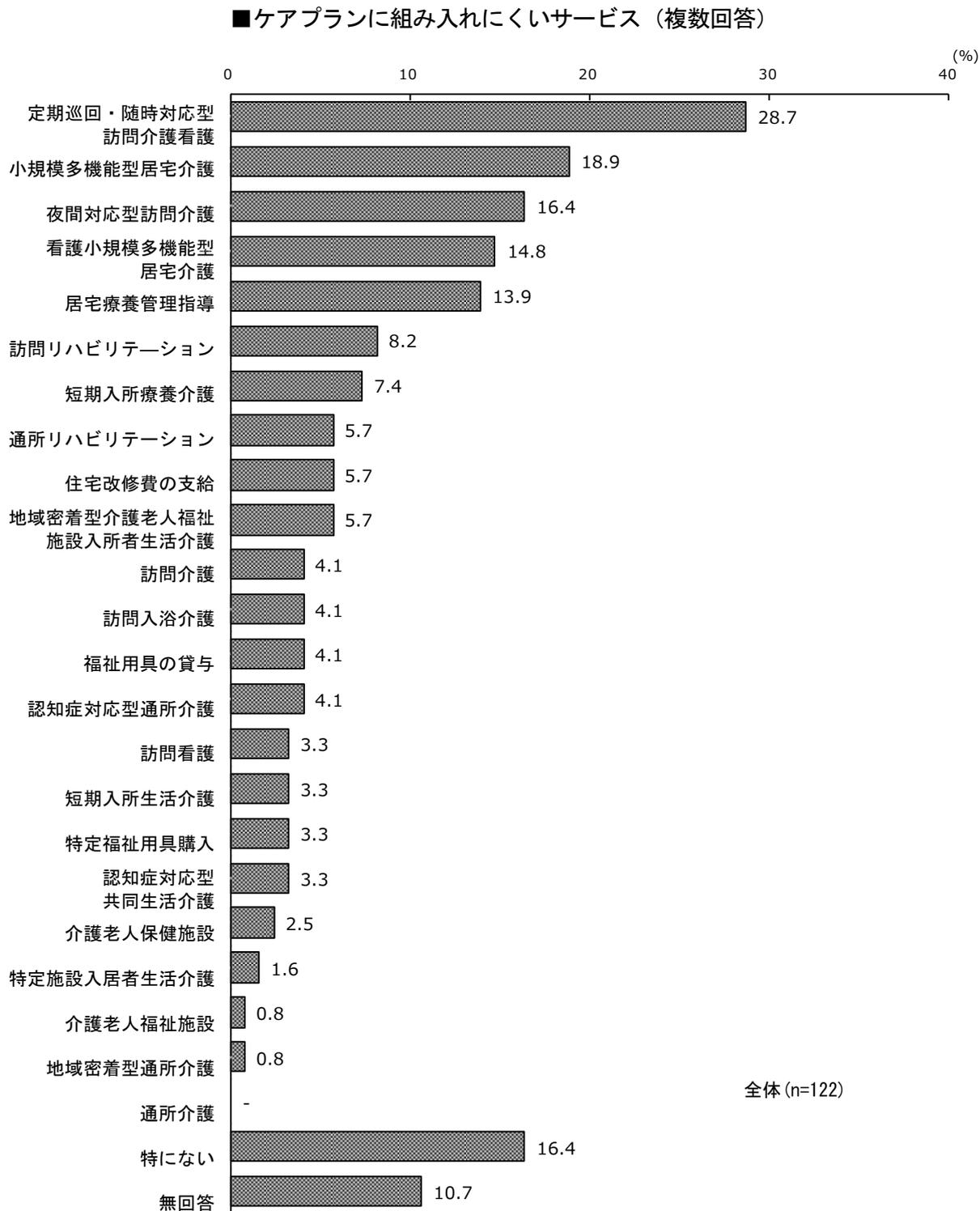


地区別にみると、第1地区は「介護老人福祉施設」（38.5%）、第4地区は「訪問看護」（21.4%）、第5地区は「訪問リハビリテーション」（54.5%）が全体に比べ多くなっている。

(%)

	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	通所リハビリテーション	夜間対応型訪問介護	訪問リハビリテーション	訪問介護	短期入所生活介護	介護老人保健施設	介護老人福祉施設	短期入所療養介護	小規模多機能型居宅介護	認知症対応型通所介護	通所介護	認知症対応型共同生活介護	訪問看護	居宅療養管理指導	地域密着型通所介護	看護小規模多機能型居宅介護	訪問入浴介護	特定施設入居者生活介護	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	福祉用具の貸与	特定福祉用具購入	住宅改修費の支給	特になし	無回答	
全体(n=122)	27.0	22.1	20.5	19.7	15.6	13.1	12.3	11.5	9.0	9.0	9.0	8.2	5.7	4.9	4.9	4.9	4.1	2.5	1.6	0.8	-	-	-	11.5	4.9	
地区別																										
第1地区(n=13)	23.1	30.8	7.7	30.8	30.8	15.4	7.7	38.5	7.7	0.0	7.7	7.7	7.7	15.4	15.4	15.4	7.7	7.7	-	-	-	-	-	7.7	-	
第2地区(n=23)	21.7	13.0	26.1	13.0	13.0	17.4	21.7	8.7	8.7	13.0	8.7	8.7	4.3	4.3	8.7	13.0	4.3	4.3	-	-	-	-	-	17.4	-	
第3地区(n=34)	35.3	29.4	23.5	14.7	8.8	11.8	14.7	5.9	8.8	14.7	8.8	8.8	2.9	-	2.9	2.9	5.9	-	-	-	-	-	-	14.7	5.9	
第4地区(n=14)	14.3	14.3	7.1	14.3	21.4	7.1	-	14.3	21.4	14.3	7.1	7.1	14.3	21.4	-	-	-	-	7.1	7.1	-	-	-	-	7.1	-
第5地区(n=11)	9.1	36.4	27.3	54.5	9.1	18.2	18.2	9.1	9.1	-	9.1	9.1	9.1	-	-	-	-	-	9.1	-	-	-	-	-	18.2	
第6地区(n=25)	40.0	16.0	24.0	16.0	16.0	12.0	8.0	4.0	4.0	4.0	12.0	8.0	4.0	-	4.0	-	4.0	4.0	-	-	-	-	-	12.0	8.0	

ケアプランに組み入れにくいサービスは、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」（28.7%）が最も多く、「小規模多機能型居宅介護」（18.9%）、「夜間対応型訪問介護」（16.4%）、「看護小規模多機能型居宅介護」（14.8%）と続いている。



第2部 アンケート調査 第2章 アンケート調査の結果 5. 介護支援専門員（ケアマネジャー）調査

地区別にみると、第1地区は「訪問リハビリテーション」（30.8%）、第3地区は「小規模多機能型居宅介護」（32.4%）、第6地区は「夜間対応型訪問介護」（32.0%）が全体に比べ多くなっている。

(%)

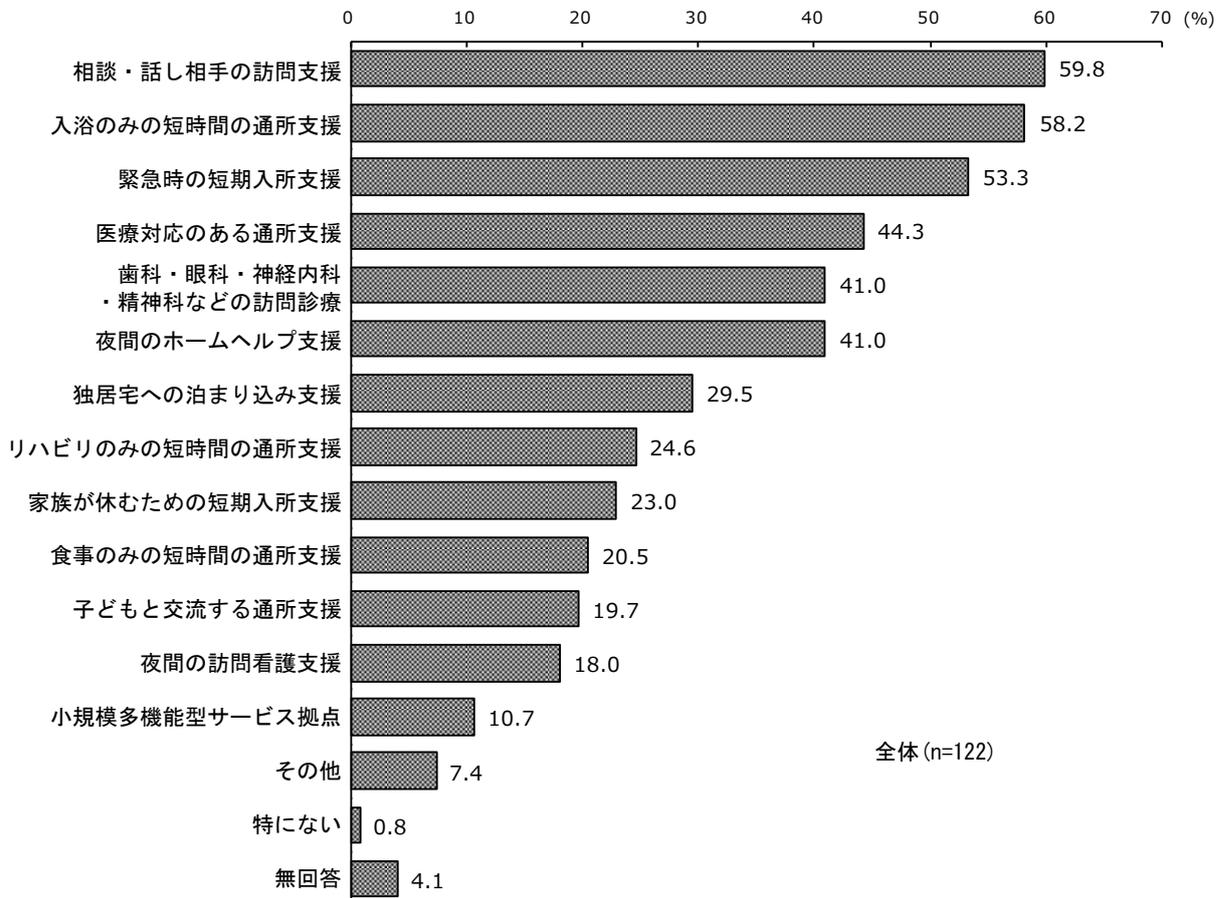
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	小規模多機能型居宅介護	夜間対応型訪問介護	看護小規模多機能型居宅介護	居宅療養管理指導	訪問リハビリテーション	短期入所療養介護	通所リハビリテーション	住宅改修費の支給	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	訪問介護	訪問入浴介護	福祉用具の貸与	認知症対応型通所介護	訪問看護	短期入所生活介護	特定福祉用具購入	認知症対応型共同生活介護	介護老人保健施設	特定施設入居者生活介護	介護老人福祉施設	地域密着型通所介護	通所介護	特になし	無回答		
全体(n=122)	28.7	18.9	16.4	14.8	13.9	8.2	7.4	5.7	5.7	5.7	4.1	4.1	4.1	4.1	3.3	3.3	3.3	3.3	2.5	1.6	0.8	0.8	-	16.4	10.7		
地区別	第1地区(n=13)	38.5	30.8	7.7	15.4	30.8	7.7	7.7	7.7	7.7	-	7.7	-	7.7	-	7.7	7.7	-	-	-	-	-	-	-	23.1	-	
	第2地区(n=23)	34.8	13.0	21.7	21.7	13.0	8.7	4.3	-	8.7	4.3	-	8.7	-	-	-	4.3	8.7	4.3	4.3	4.3	-	-	-	21.7	13.0	
	第3地区(n=34)	26.5	32.4	14.7	17.6	11.8	2.9	5.9	5.9	-	14.7	5.9	-	5.9	2.9	5.9	-	2.9	2.9	2.9	2.9	-	2.9	-	11.8	8.8	
	第4地区(n=14)	28.6	7.1	7.1	-	21.4	-	14.3	7.1	14.3	-	-	14.3	7.1	14.3	-	-	7.1	-	-	-	-	-	-	-	7.1	7.1
	第5地区(n=11)	27.3	27.3	-	27.3	9.1	9.1	9.1	18.2	9.1	-	-	-	-	-	18.2	9.1	-	9.1	-	-	-	-	-	-	18.2	18.2
	第6地区(n=25)	24.0	4.0	32.0	8.0	16.0	8.0	8.0	4.0	4.0	-	4.0	8.0	8.0	-	4.0	-	4.0	-	4.0	-	-	-	-	-	16.0	16.0

(2) 在宅生活を支えるために今後充実が必要と感じる介護支援（問12）

在宅生活を支えるために今後充実が必要と感じる介護支援は、「相談・話し相手の訪問支援」(59.8%)が最も多く、「入浴のみの短時間の通所支援」(58.2%)、「緊急時の短期入所支援」(53.3%)と続いている。

地区別にみると、第5地区は「相談・話し相手の訪問支援」(100.0%)と「夜間のホームヘルプ支援」(90.9%)が全体に比べ多くなっている。

■在宅生活を支えるために今後充実が必要と感じる介護支援（複数回答）



		相談・話し相手の訪問支援	入浴のみの短時間の通所支援	緊急時の短期入所支援	医療対応のある通所支援	歯科・眼科・神経内科・精神科などの訪問診療	夜間のホームヘルプ支援	独居宅への泊まり込み支援	リハビリのみの短時間の通所支援	家族が休むための短期入所支援	食事のみの短時間の通所支援	子どもと交流する通所支援	夜間の訪問看護支援	小規模多機能型サービス拠点	その他	特にない	無回答
全体(n=122)		59.8	58.2	53.3	44.3	41.0	41.0	29.5	24.6	23.0	20.5	19.7	18.0	10.7	7.4	0.8	4.1
地区別	第1地区(n=13)	61.5	84.6	69.2	38.5	46.2	46.2	53.8	38.5	15.4	30.8	23.1	38.5	7.7	15.4	-	-
	第2地区(n=23)	52.2	69.6	60.9	52.2	43.5	43.5	43.5	13.0	21.7	21.7	34.8	13.0	13.0	4.3	-	4.3
	第3地区(n=34)	52.9	55.9	52.9	50.0	44.1	35.3	23.5	26.5	26.5	20.6	5.9	14.7	11.8	2.9	2.9	5.9
	第4地区(n=14)	71.4	50.0	42.9	50.0	35.7	35.7	14.3	28.6	35.7	35.7	21.4	28.6	7.1	14.3	-	-
	第5地区(n=11)	100.0	54.5	63.6	45.5	45.5	90.9	54.5	36.4	27.3	18.2	9.1	27.3	18.2	-	-	-
	第6地区(n=25)	56.0	44.0	40.0	28.0	32.0	24.0	12.0	16.0	16.0	8.0	8.0	8.0	8.0	12.0	-	8.0

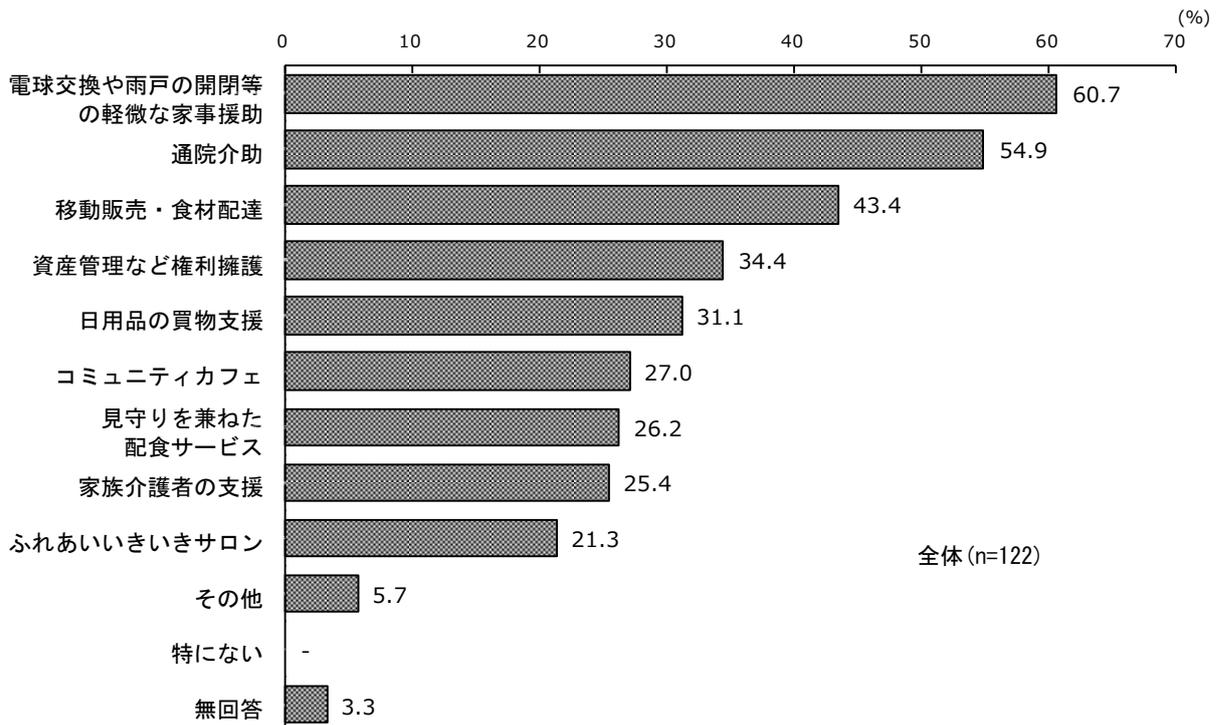
(3) 今後充実が必要と感じる生活支援（問13）

今後充実が必要と感じる生活支援は、「電球交換や雨戸の開閉等の軽微な家事援助」（60.7%）が最も多く、「通院介助」（54.9%）、「移動販売・食材配達」（43.4%）と続いている。

地区別にみると、第4地区は「通院介助」（85.7%）、第5地区は「見守りを兼ねた配食サービス」（54.5%）が全体に比べ多くなっている。

また、前回調査と比べて、「通院介助」の割合が低くなり、「移動販売・食材配達」「ふれあいきいきサロン」の割合が多くなっている。

■今後充実が必要と感じる生活支援（複数回答）



		助閉電	通院	移動	護資	日	コ	サ	見	家	ロ	ふ	そ	特	無
		※	院	販	産	用	ミ	ー	守	族	ン	れ	の	に	回
		1	介	売	管	品	ユ	ビ	り	介	※	あ	他	な	答
		の	助	・	理	の	ニ	ス	を	護	2	い		い	
		軽		食	な	買	テ	兼	兼	者	い	い		い	
		微		材	ど	物	ィ	ね	ね	の	き	き		き	
		な		配	権	支	カ	た	た	支	き	き		き	
		家		達	利	援	フ	配	配	援	サ	サ		サ	
		事			擁		エ	食	食						
		の													
		援													
		開													
全体(n=122)		60.7	54.9	43.4	34.4	31.1	27.0	26.2	25.4	21.3	5.7	-	-	3.3	
地区別	第1地区(n=13)	76.9	69.2	46.2	46.2	30.8	38.5	23.1	38.5	30.8	7.7	-	-	-	
	第2地区(n=23)	65.2	39.1	56.5	30.4	43.5	17.4	30.4	13.0	17.4	4.3	-	-	-	
	第3地区(n=34)	61.8	55.9	32.4	26.5	26.5	17.6	14.7	29.4	23.5	5.9	-	-	5.9	
	第4地区(n=14)	57.1	85.7	42.9	50.0	28.6	14.3	21.4	42.9	7.1	7.1	-	-	-	
	第5地区(n=11)	27.3	63.6	54.5	27.3	18.2	45.5	54.5	45.5	27.3	-	-	-	9.1	
	第6地区(n=25)	68.0	36.0	44.0	40.0	32.0	40.0	28.0	8.0	24.0	8.0	-	-	4.0	
前回調査(n=119)		63.0	73.9	21.8	29.4	23.5	18.5	30.3	33.6	8.4	8.4	-	-	3.4	

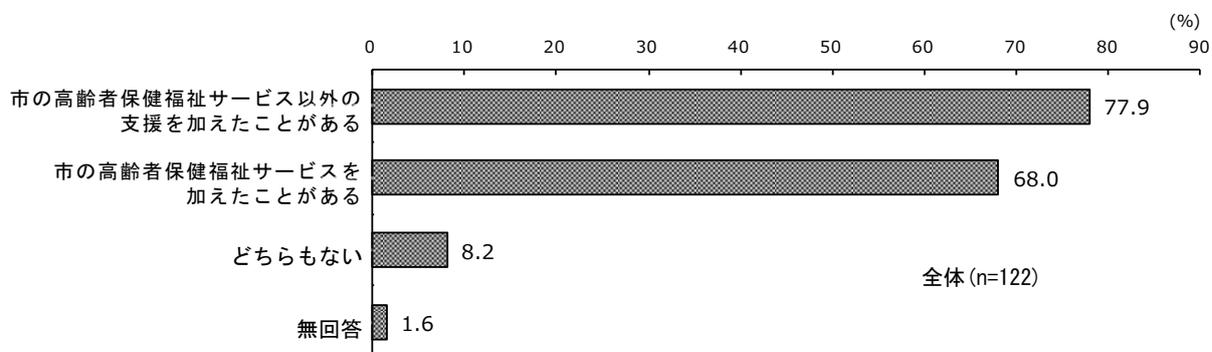
※1 前回調査では「ゴミ出しなど軽微家事援助」

※2 前回調査では「ふれあいきいきサロン」

（4）介護保険以外のサービスやサポートをケアプランに加えたことの有無（問14）

介護保険以外のサービスやサポートをケアプランに加えたことの有無は、「市の高齢者保健福祉サービス以外の支援を加えたことがある」（77.9%）が最も多く、「市の高齢者保健福祉サービスを加えたことがある」（68.0%）、「どちらもない」（8.2%）と続いている。

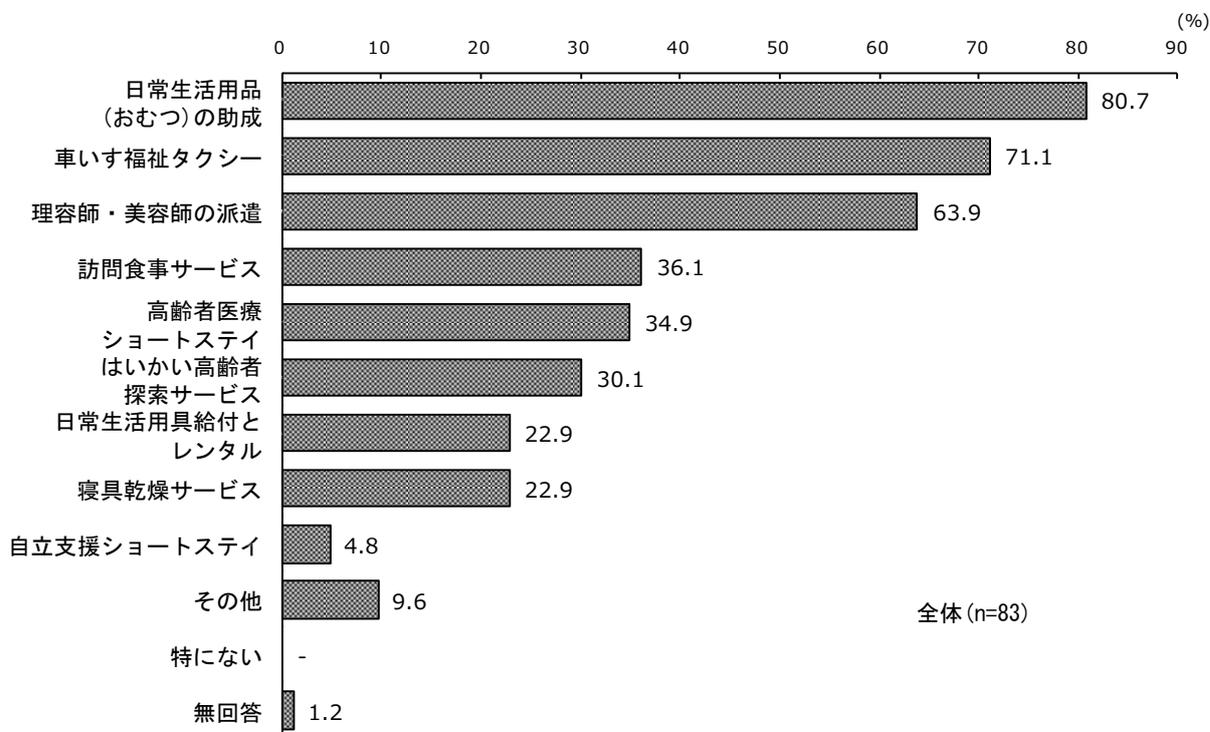
■介護保険以外のサービスやサポートをケアプランに加えたことの有無（複数回答）



（5）ケアプランに加えた高齢者保健福祉サービス（問14-1）

「市の高齢者保健福祉サービスを加えたことがある」と回答した人にケアプランに加えた高齢者保健福祉サービスを聞いたところ、「日常生活用品（おむつ）の助成」（80.7%）が最も多く、「車いす福祉タクシー」（71.1%）、「理容師・美容師の派遣」（63.9%）と続いている。

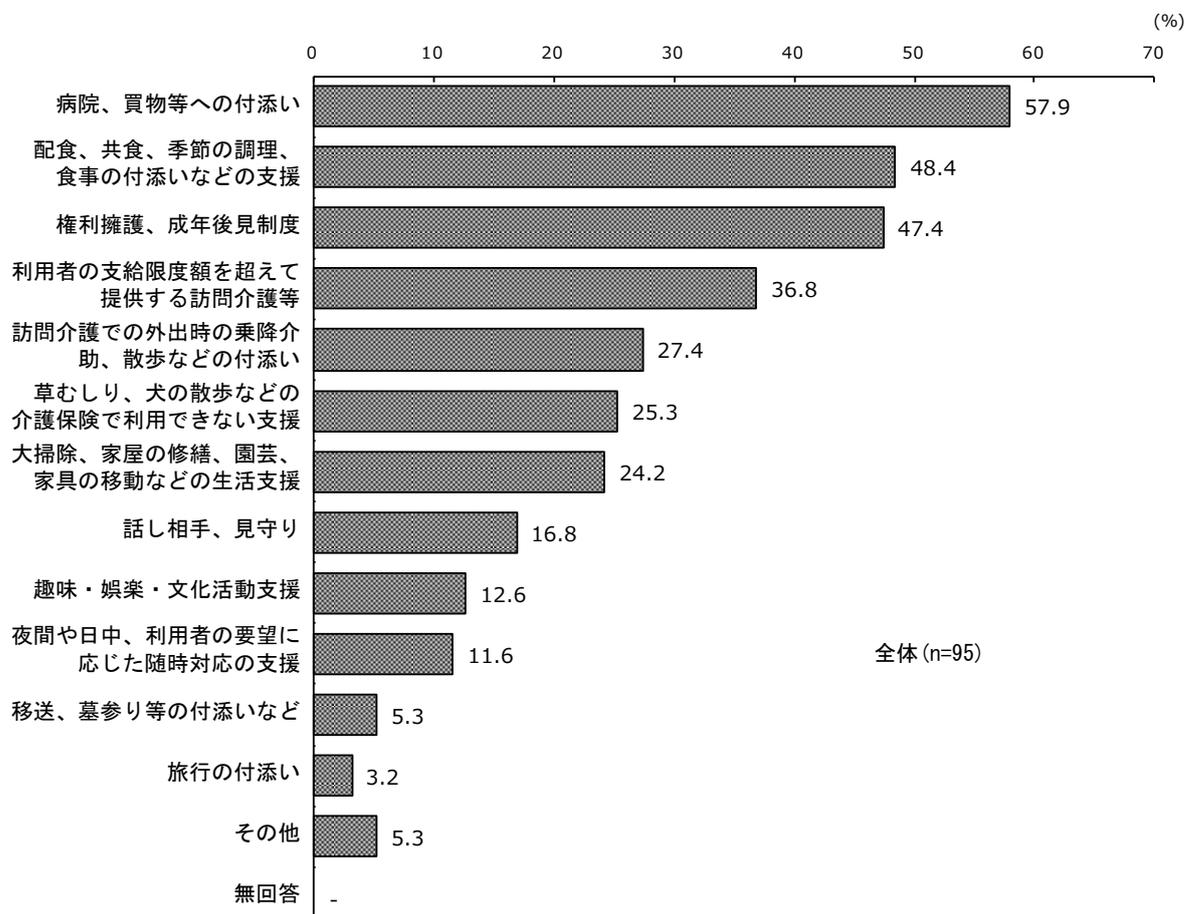
■ケアプランに加えた高齢者保健福祉サービス（複数回答）



（6）ケアプランに加えたインフォーマルサポート（問14-2）

「市の高齢者保健福祉サービス以外の支援を加えたことがある」と回答した人にケアプランに加えたインフォーマルサポートを聞いたところ、「病院、買物等への付添い」（57.9%）が最も多く、「配食、共食、季節の調理、食事の付添いなどの支援」（48.4%）、「権利擁護、成年後見制度」（47.4%）続いている。

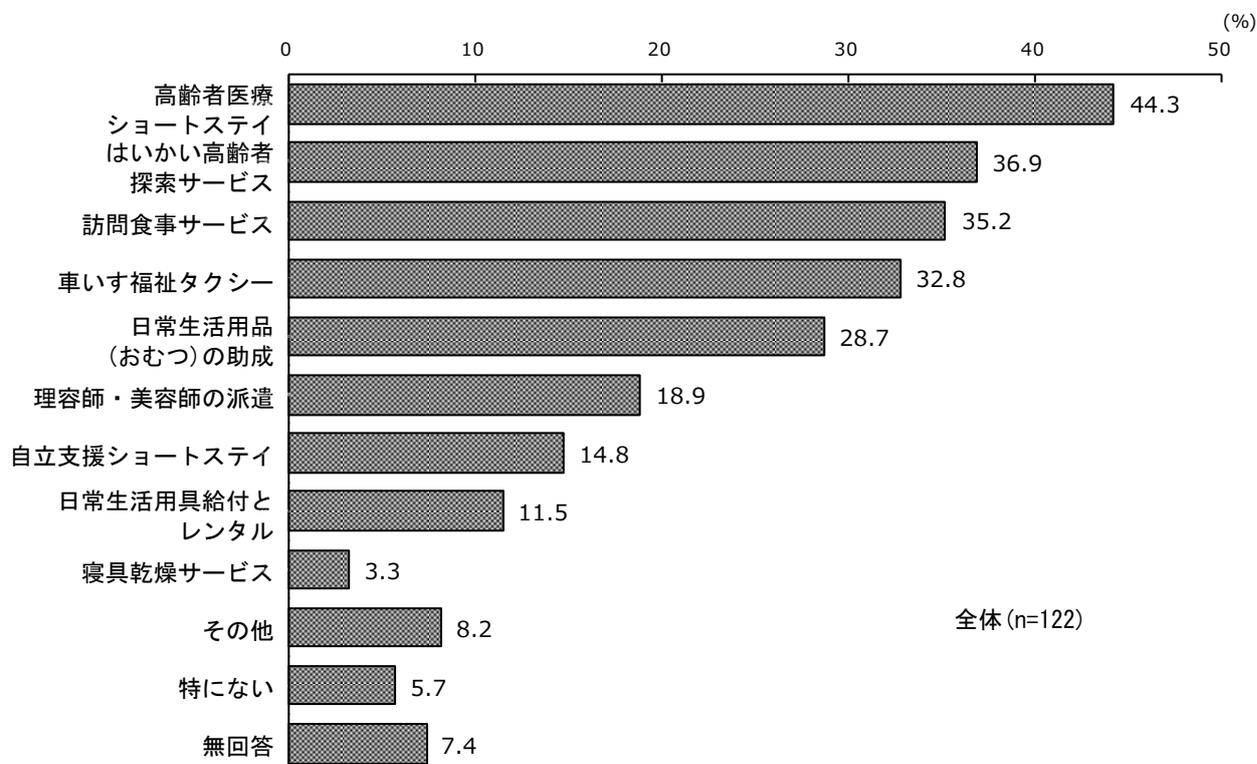
■ケアプランに加えたインフォーマルサポート（複数回答）



(7) 今後一層の充実が必要と思う高齢者保健福祉サービス（問15）

今後一層の充実が必要と思う高齢者保健福祉サービスは、「高齢者医療ショートステイ」（44.3%）が最も多く、「はいかい高齢者探索サービス」（36.9%）、「訪問食事サービス」（35.2%）と続いている。

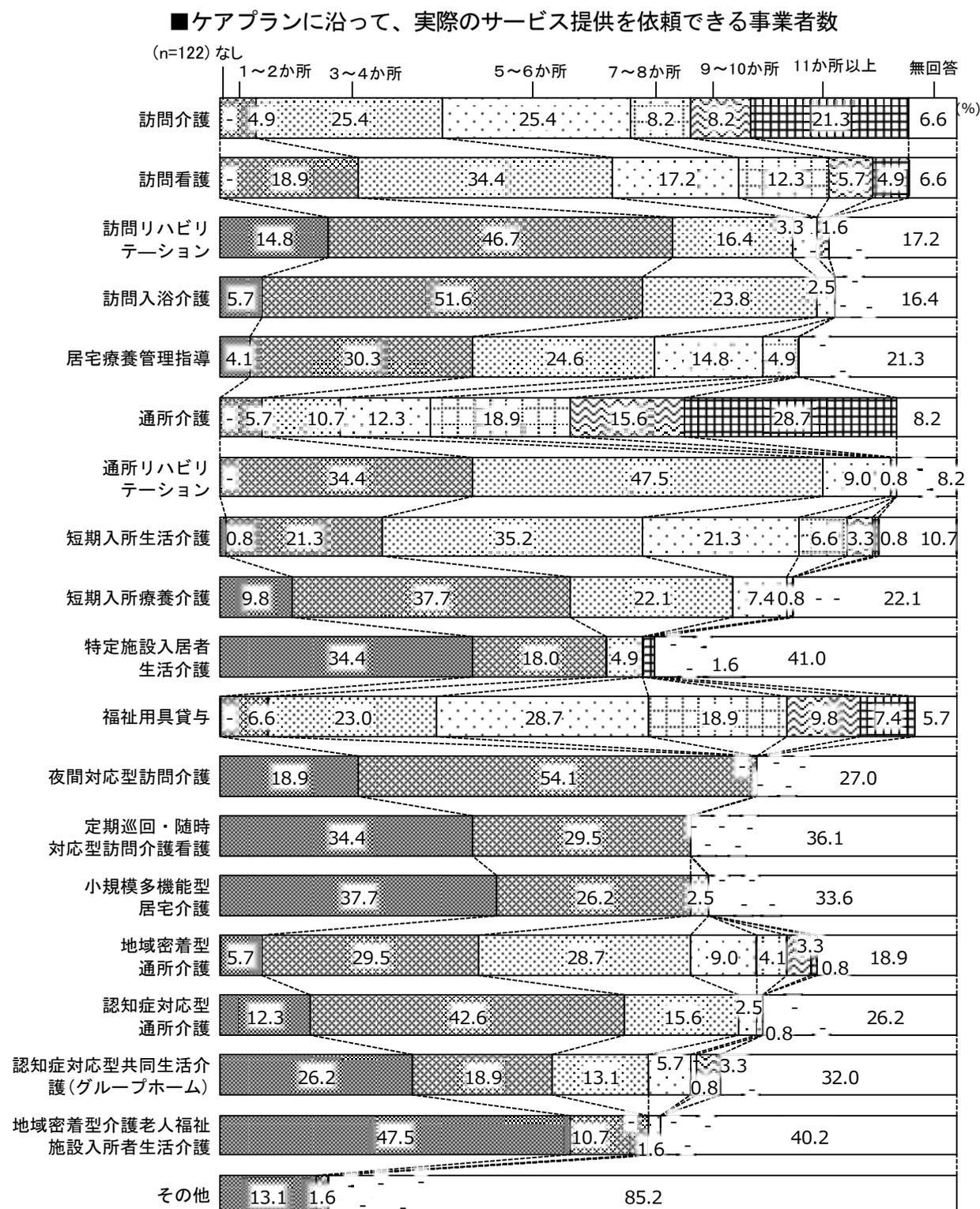
■今後一層の充実が必要と思う高齢者保健福祉サービス（複数回答）



4 サービス提供事業所等との関わりについて

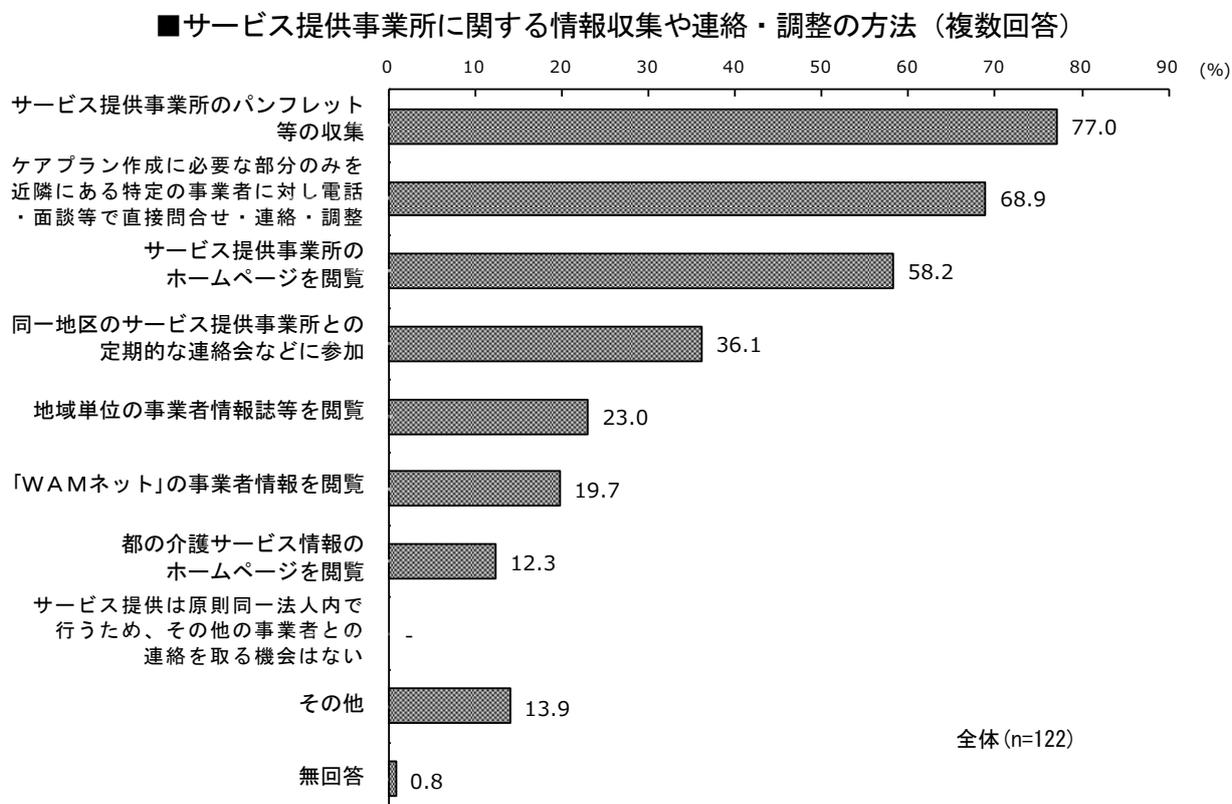
(1) ケアプランに沿って、実際のサービス提供を依頼できる事業者数（問16）

ケアプランに沿って、実際のサービス提供を依頼できる事業者数が1か所以上あるとの回答は、『福祉用具貸与』（94.4%）が最も多く、『訪問介護』『訪問看護』（ともに93.4%）と続いている。一方、「なし」との回答は、『地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護』（47.5%）が最も多く、『小規模多機能型居宅介護』（37.7%）、『特定施設入居者生活介護』『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』（ともに34.4%）と続いている。



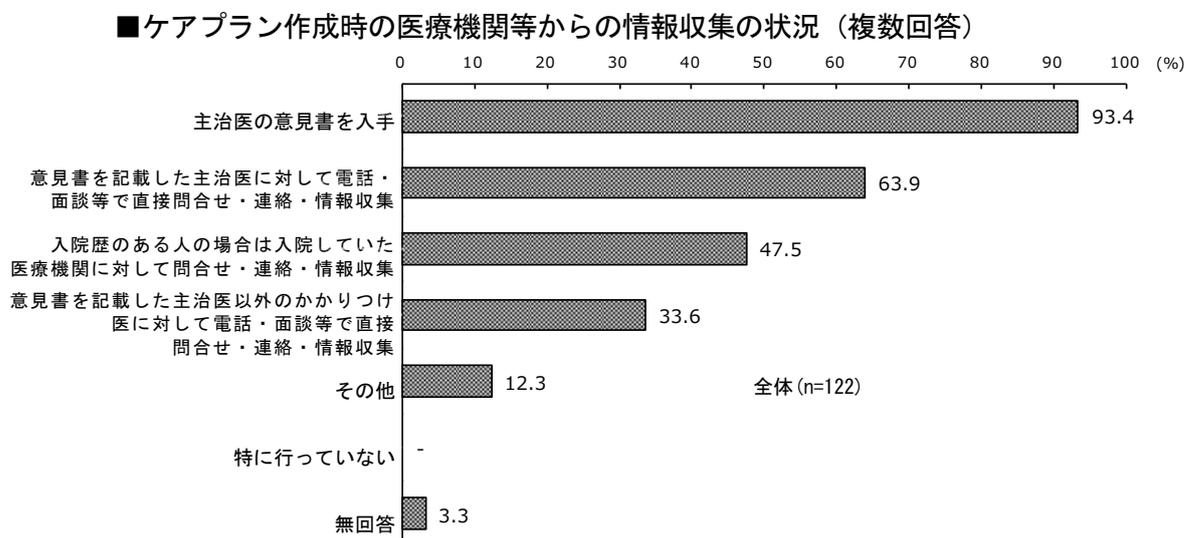
（2）サービス提供事業所に関する情報収集や連絡・調整の方法（問17）

サービス提供事業所に関する情報収集や連絡・調整の方法は、「サービス提供事業所のパンフレット等の収集」（77.0%）が最も多く、「ケアプラン作成に必要な部分のみを近隣にある特定の事業者に対し電話・面談等で直接問合せ・連絡・調整」（68.9%）、「サービス提供事業所のホームページを閲覧」（58.2%）と続いている。



（3）ケアプラン作成時の医療機関等からの情報収集の状況（問18）

ケアプラン作成時の医療機関等からの情報収集の状況は、「主治医の意見書を入手」（93.4%）が最も多く、「意見書を記載した主治医に対して電話・面談等で直接問合せ・連絡・情報収集」（63.9%）、「入院歴のある人の場合は入院していた医療機関に対して問合せ・連絡・情報収集」（47.5%）と続いている。

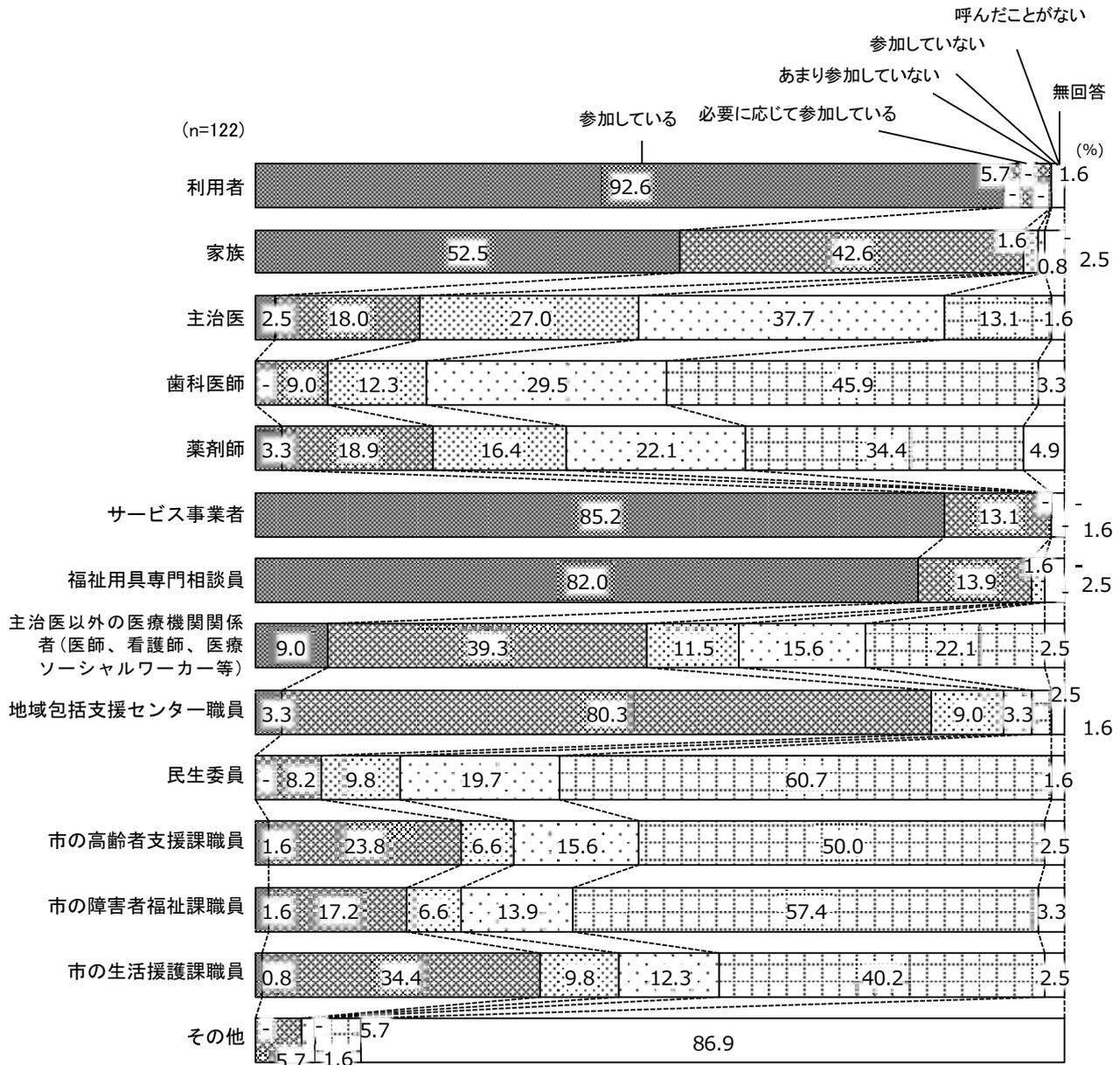


5 サービス担当者会議について

(1) サービス担当者会議への参加状況（問19）

サービス担当者会議への参加状況は、「参加している」「必要に応じて参加している」を合わせた「参加している」は、「利用者」「サービス事業者」（98.3%）が最も多く、「福祉用具専門相談員」（95.9%）、「家族」（95.1%）と続いている。

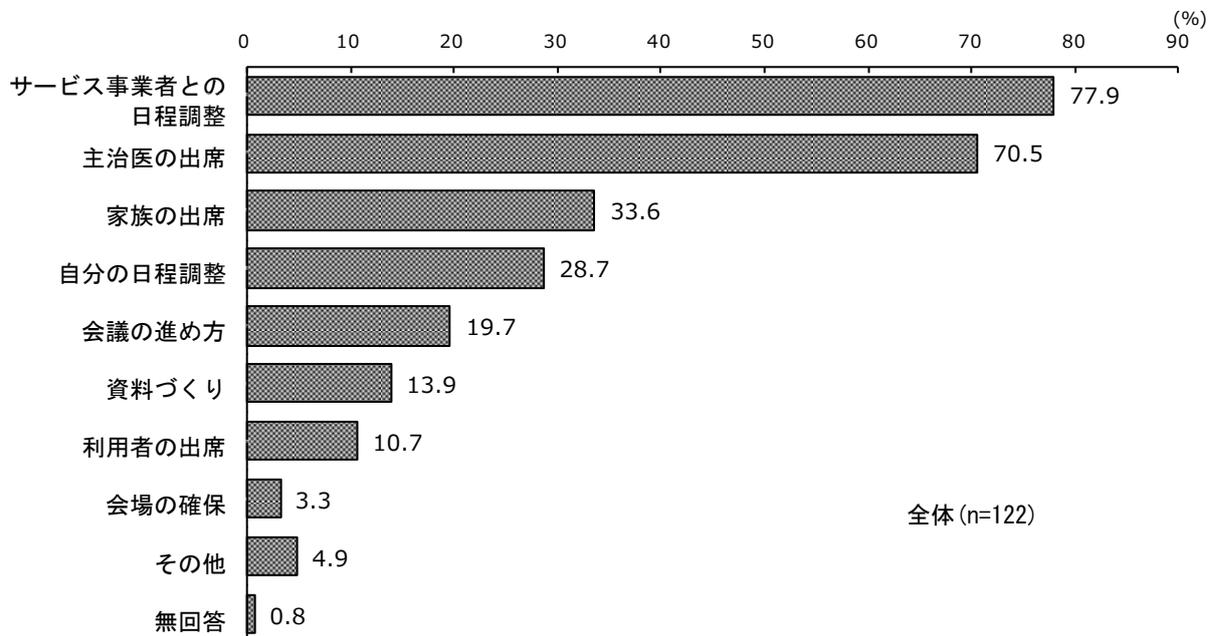
■ サービス担当者会議への参加状況



（2）サービス担当者会議の開催にあたって困難と感ずること（問20）

サービス担当者会議の開催にあたって困難と感ずることは、「サービス事業者との日程調整」(77.9%)が最も多く、「主治医の出席」(70.5%)、「家族の出席」(33.6%)と続いている。

■サービス担当者会議の開催にあたって困難と感ずること（複数回答）



（3）主治医、利用者や家族等がサービス担当者会議に参加しない理由（問21）

主治医、利用者や家族等がサービス担当者会議に参加しない理由は、『日にちや曜日が合わない』『時間等が合わない』が「サービス事業者」「主治医」「家族」で多くなっている。また、『自分が出席を呼びかけていない』は「主治医」で多くなっている。

■主治医、利用者や家族等がサービス担当者会議に参加しない理由（複数回答）

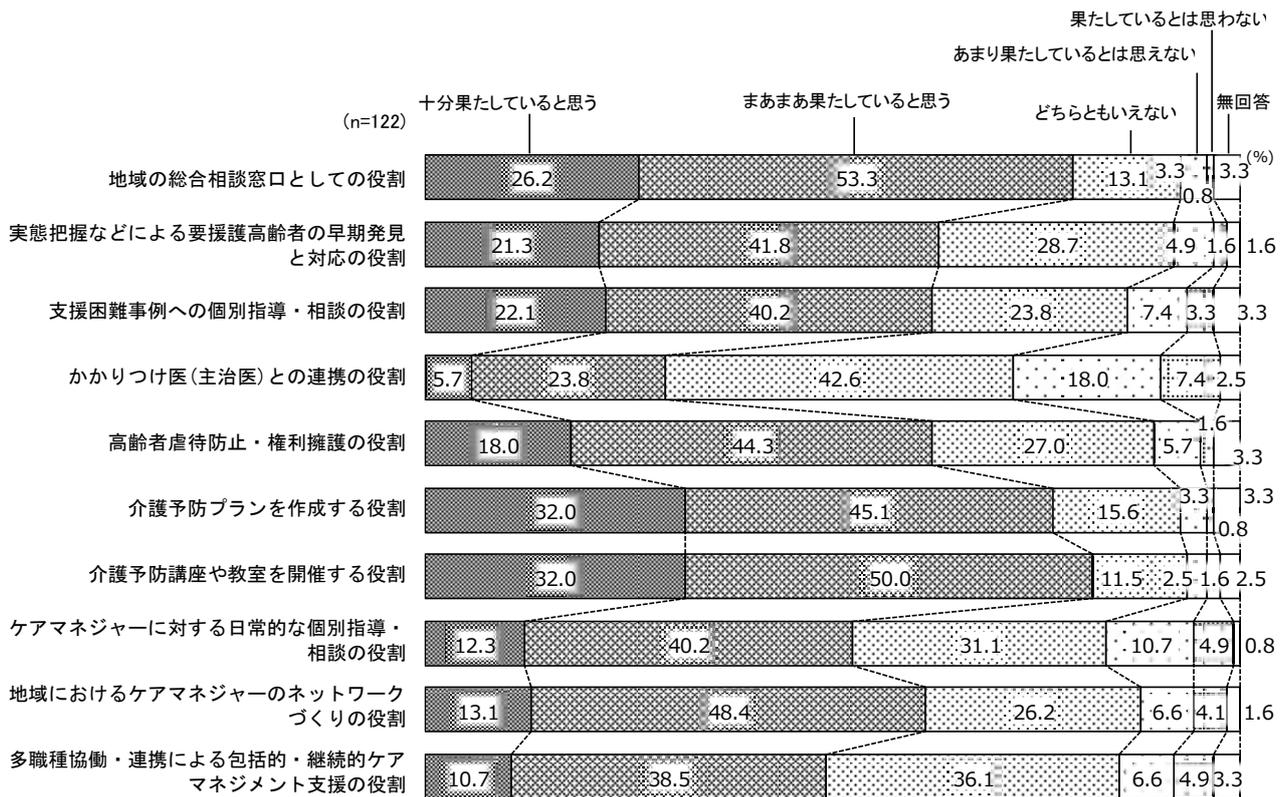
	理由 (%)				
	サービス事業者	主治医	利用者	家族	無回答
(n=122)					
日にちや曜日が合わない	59.8	53.3	9.8	45.1	12.3
時間等が合わない	52.5	54.1	9.8	40.2	14.8
連絡がつかない	3.3	14.8	0.8	21.3	64.8
サービス担当者会議の意義や役割を理解してくれない	1.6	26.2	4.9	23.8	56.6
自分との信頼関係が確立されていない	0.8	23.8	2.5	5.7	72.1
自分が出席を呼びかけていない	-	42.6	2.5	2.5	54.1
その他	0.8	7.4	1.6	4.9	89.3

6 地域包括支援センターの役割について

（1）地域包括支援センターの役割に対する評価（問 22）

地域包括支援センターの役割に対する評価は、「十分果たしていると思う」「まあまあ果たしていると思う」を合わせた“果たしていると思う”は、「介護予防講座や教室を開催する役割」（82.0%）が最も多く、「地域の総合相談窓口としての役割」（79.5%）、「介護予防プランを作成する役割」（77.1%）と続いている。

■地域包括支援センターの役割に対する評価

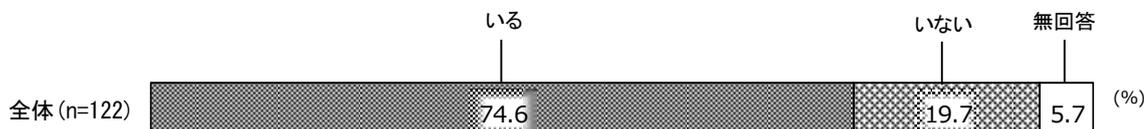


7 サービス利用者の在宅医療の状況について

（1）往診が必要な利用者の有無、必要な人数（問23）

往診が必要な利用者の有無は、「いる」が74.6%、「いない」が19.7%となっている。

■往診が必要な利用者の有無



往診が必要な利用者の人数は、「1～2人」（49.5%）が最も多く、「3～4人」（24.2%）、「5～10人」（17.6%）と続いている。

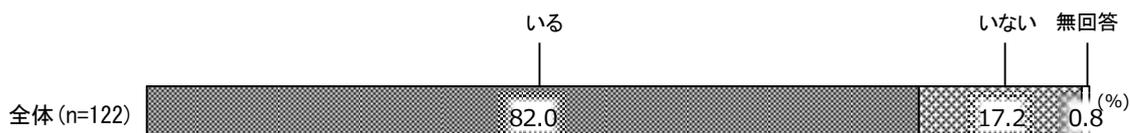
■往診が必要な利用者の人数



（2）訪問診療が必要な利用者の有無、必要な人数（問24）

訪問診療が必要な利用者の有無は、「いる」が82.0%、「いない」が17.2%となっている。

■訪問診療が必要な利用者の有無



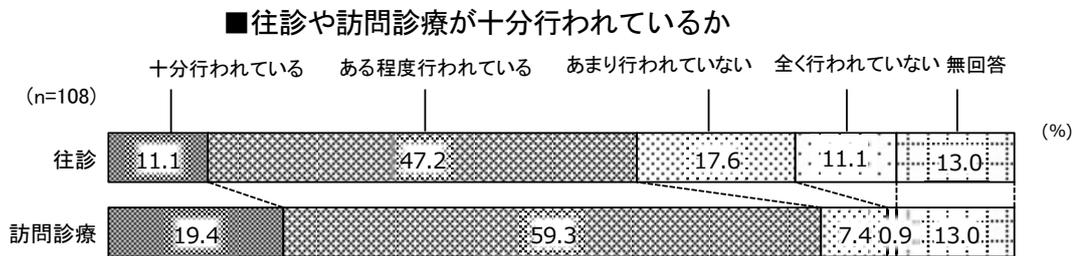
訪問診療が必要な利用者の人数は、「1～2人」（36.0%）が最も多く、「3～4人」（28.0%）、「5～10人」（28.0%）と続いている。

■訪問診療が必要な利用者の人数



（3）往診や訪問診療が十分行われているか（問25）

往診や訪問診療が必要な利用者が「いる」と回答した人に往診や訪問診療が十分行われているかを聞いたところ、「十分行われている」「ある程度行われている」を合わせた“行われている”は、往診では58.3%、訪問診療では78.7%となっている。



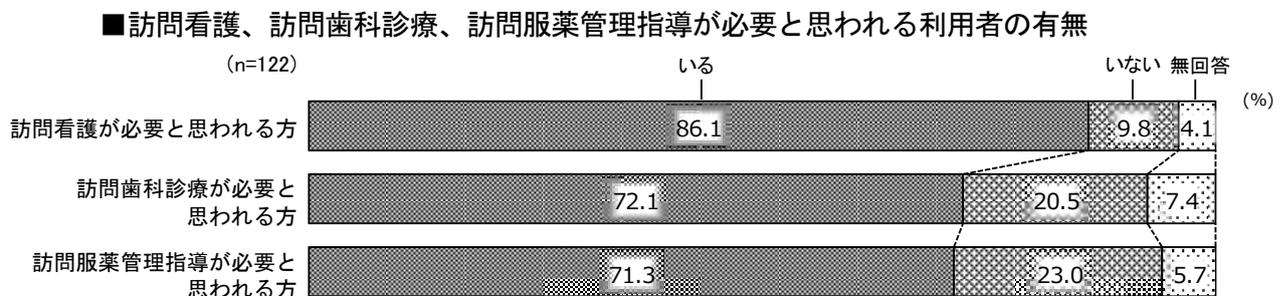
（4）往診、訪問診療が不十分だと思う理由（問25-1）

往診、訪問診療が不十分だと思う理由について、自由回答形式で聞いたところ、全体で27件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

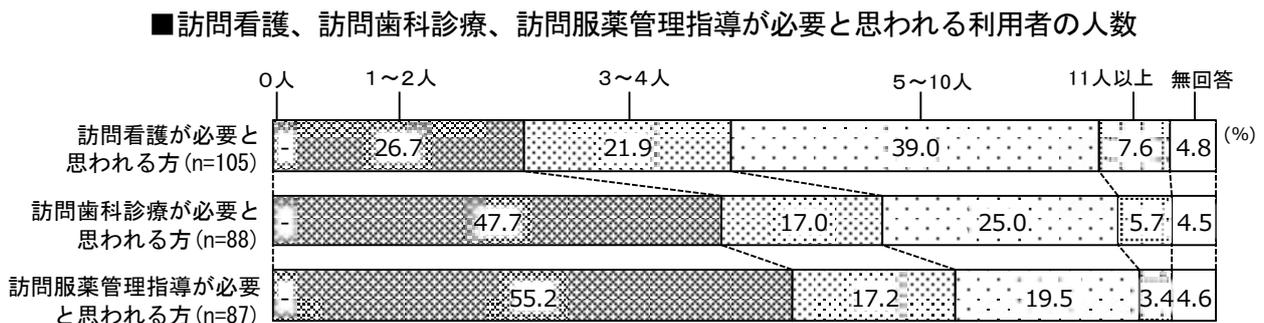
- ・往診を行っている所がほとんどないため。
- ・本人（家族）が希望していない為

（5）訪問看護、訪問歯科診療、訪問服薬管理指導が必要と思われる利用者の有無、人数（問26）

訪問看護、訪問歯科診療、訪問服薬管理指導が必要と思われる利用者の有無は、「いる」が訪問看護で86.1%、訪問歯科診療で72.1%、訪問服薬管理指導で71.3%となっている。



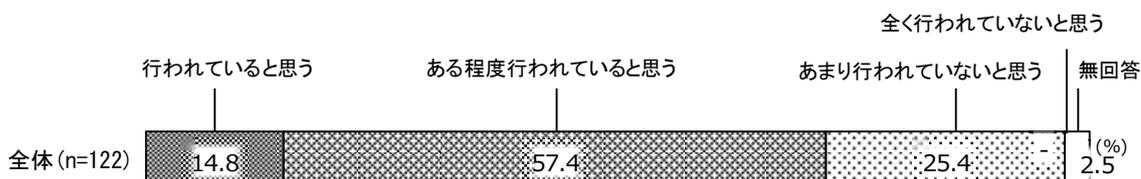
訪問看護が必要と思われる利用者の人数は「5～10人」が最も多く、訪問歯科診療、訪問服薬管理指導が必要と思われる利用者の人数はともに「1～2人」が最も多くなっている。



（6）在宅療養高齢者の急変時の医療機関へのスムーズな移行について（問27）

在宅療養高齢者の急変時の医療機関へのスムーズな移行は、「ある程度行われていると思う」（57.4%）が最も多く、「あまり行われていないと思う」（25.4%）、「行われていると思う」（14.8%）と続いている。「行われていると思う」「ある程度行われていると思う」を合わせた“行われていると思う”は72.2%となっている。

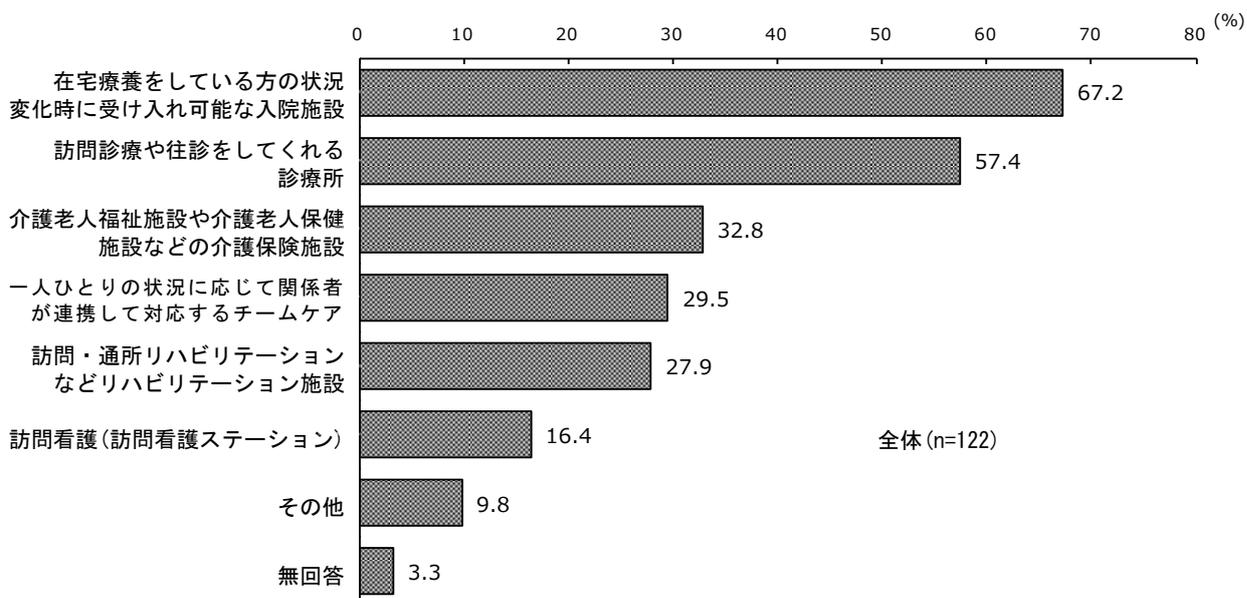
■在宅療養高齢者の急変時の医療機関へのスムーズな移行について



（7）高齢者の在宅療養を進めていくうえで不足している機能（問28）

高齢者の在宅療養を進めていくうえで不足している機能は、「在宅療養をしている方の状況変化時に受け入れ可能な入院施設」（67.2%）が最も多く、「訪問診療や往診をしてくれる診療所」（57.4%）、「介護老人福祉施設や介護老人保健施設などの介護保険施設」（32.8%）と続いている。

■高齢者の在宅療養を進めていくうえで不足している機能（複数回答）

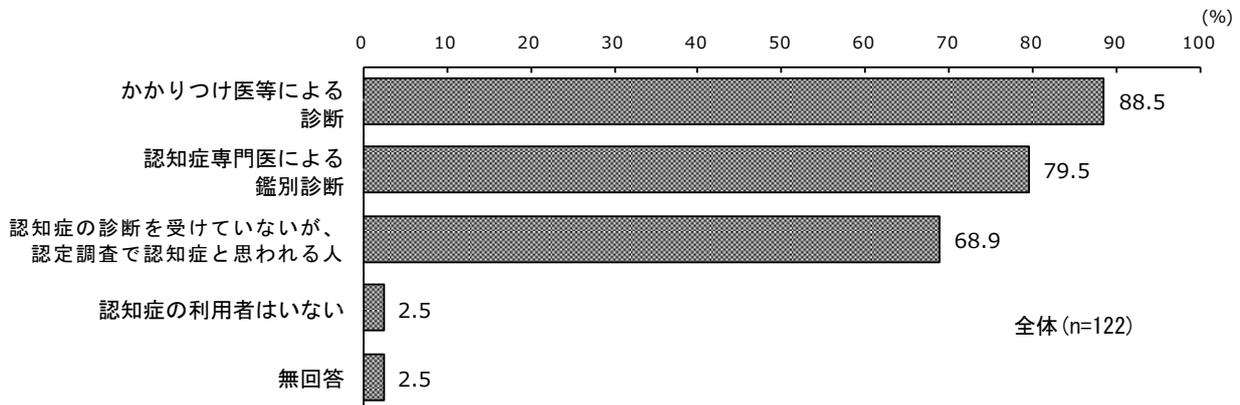


8 認知症患者のサービス利用について

(1) 認知症の利用者の有無、診断の状況（問29）

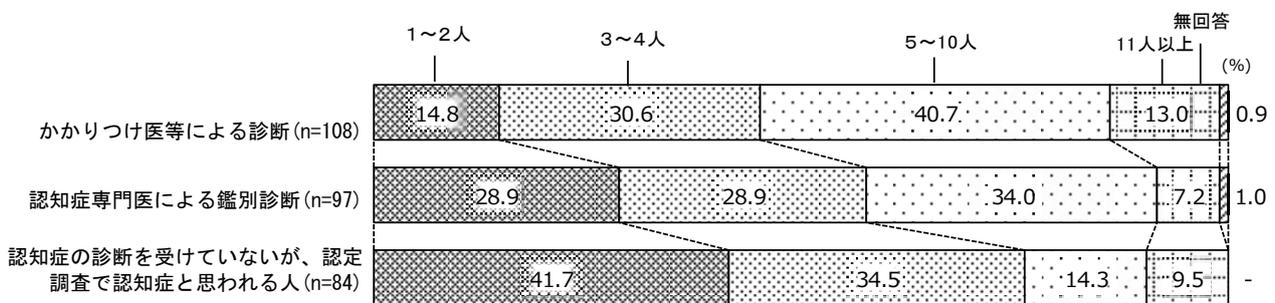
認知症の利用者の有無、診断の状況をみると、「かかりつけ医等による診断」（88.5%）が最も多く、「認知症専門医による鑑別診断」（79.5%）、「認知症の診断を受けていないが、認定調査で認知症と思われる人」（68.9%）となっている。「認知症の利用者はいない」は2.5%となっている。

■ 認知症の利用者の有無、診断の状況（複数回答）



認知症の利用者数は、『かかりつけ医等による診断』『認知症専門医による鑑別診断』は「5～10人」が最も多く、『認知症の診断を受けていないが、認定調査で認知症と思われる人』は「1～2人」が最も多くなっている。

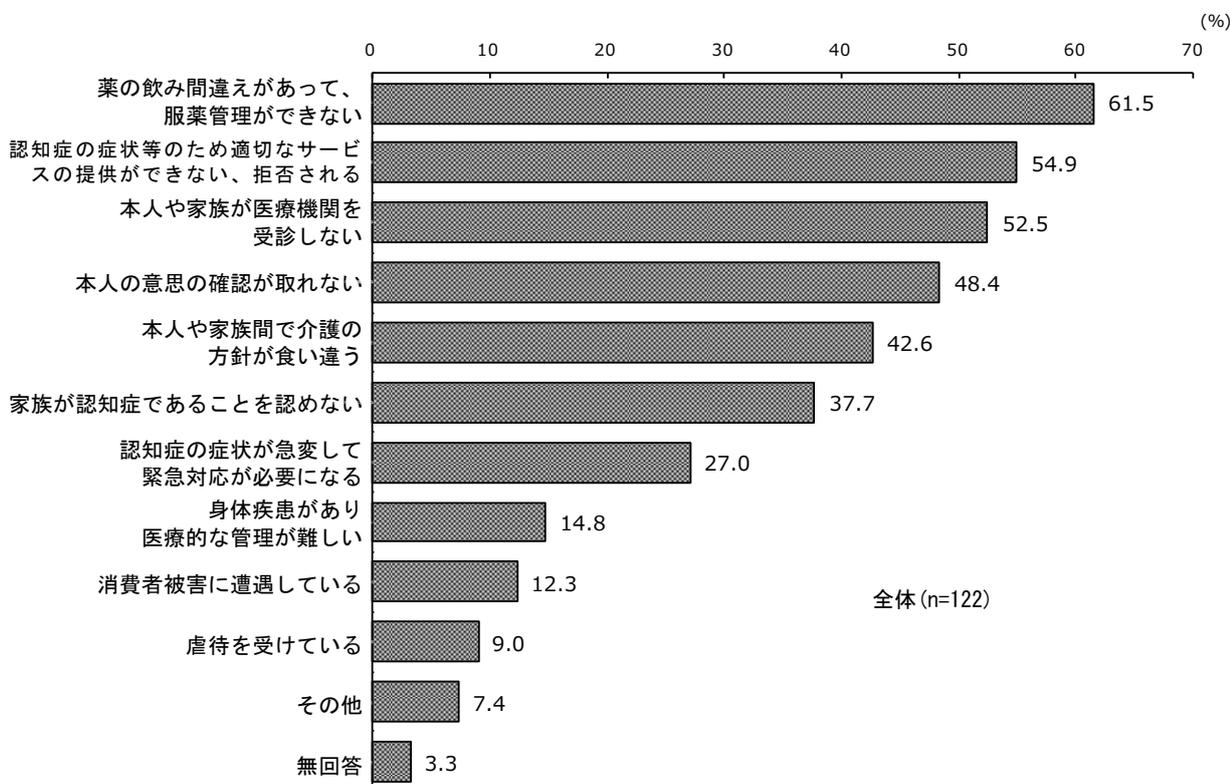
■ 認知症の利用者数



(2) 認知症の利用者の状況で実際にあること（問30）

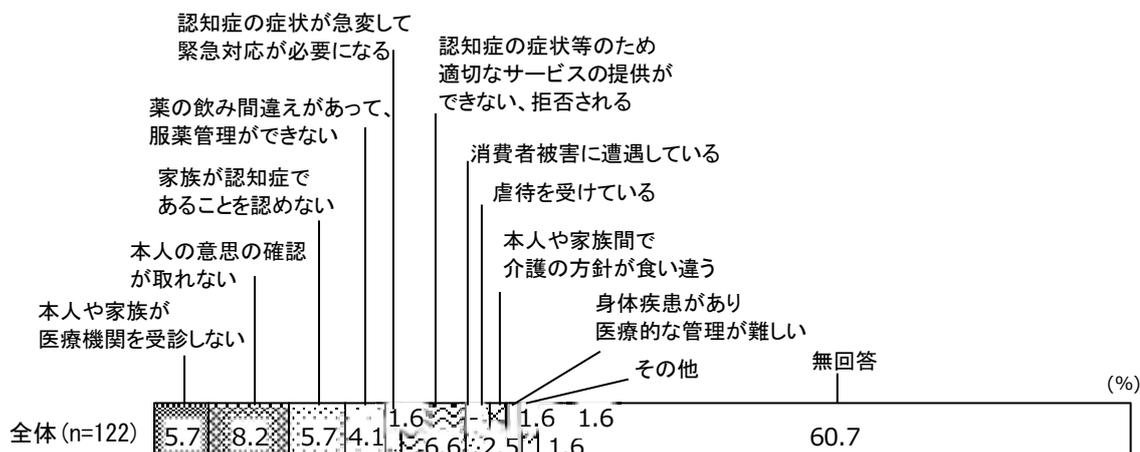
認知症の利用者の状況で実際にあることは、「薬の飲み間違えがあって、服薬管理ができない」(61.5%)が最も多く、「認知症の症状等のため適切なサービスの提供ができない、拒否される」(54.9%)、「本人や家族が医療機関を受診しない」(52.5%)と続いている。

■ 認知症の利用者の状況で実際にあること（複数回答）



認知症の利用者の状況で実際にあることのうち、最も大変なことは、「本人の意思の確認が取れない」(8.2%)が最も多く、「認知症の症状等のため適切なサービスの提供ができない、拒否される」(6.6%)、「本人や家族が医療機関を受診しない」と「家族が認知症であることを認めない」(ともに5.7%)と続いている。

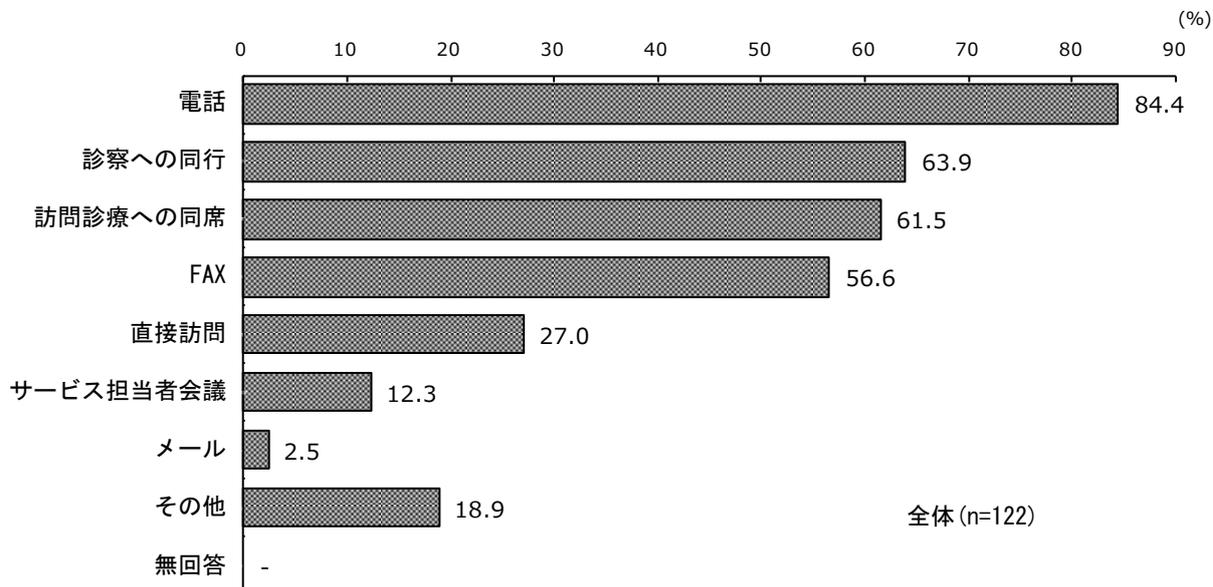
■ 認知症の利用者の状況で実際にあることのうち、最も大変なこと



（3）医療機関やかかりつけ医との情報交換の方法（問31）

医療機関やかかりつけ医との情報交換の方法は、「電話」（84.4%）が最も多く、「診察への同行」（63.9%）、「訪問診療への同席」（61.5%）と続いている。

■医療機関やかかりつけ医との情報交換の方法（複数回答）



（4）認知症患者の支援にあたってのかかりつけ医との連携（問32）

認知症患者の支援にあたってのかかりつけ医との連携は、「あまりとれていない」（54.9%）が最も多く、「まあまあとれている」（30.3%）、「とれていない」（9.0%）、「とれている」（3.3%）と続いている。「とれている」「まあまあとれている」を合わせた“とれている”は33.6%となっている。

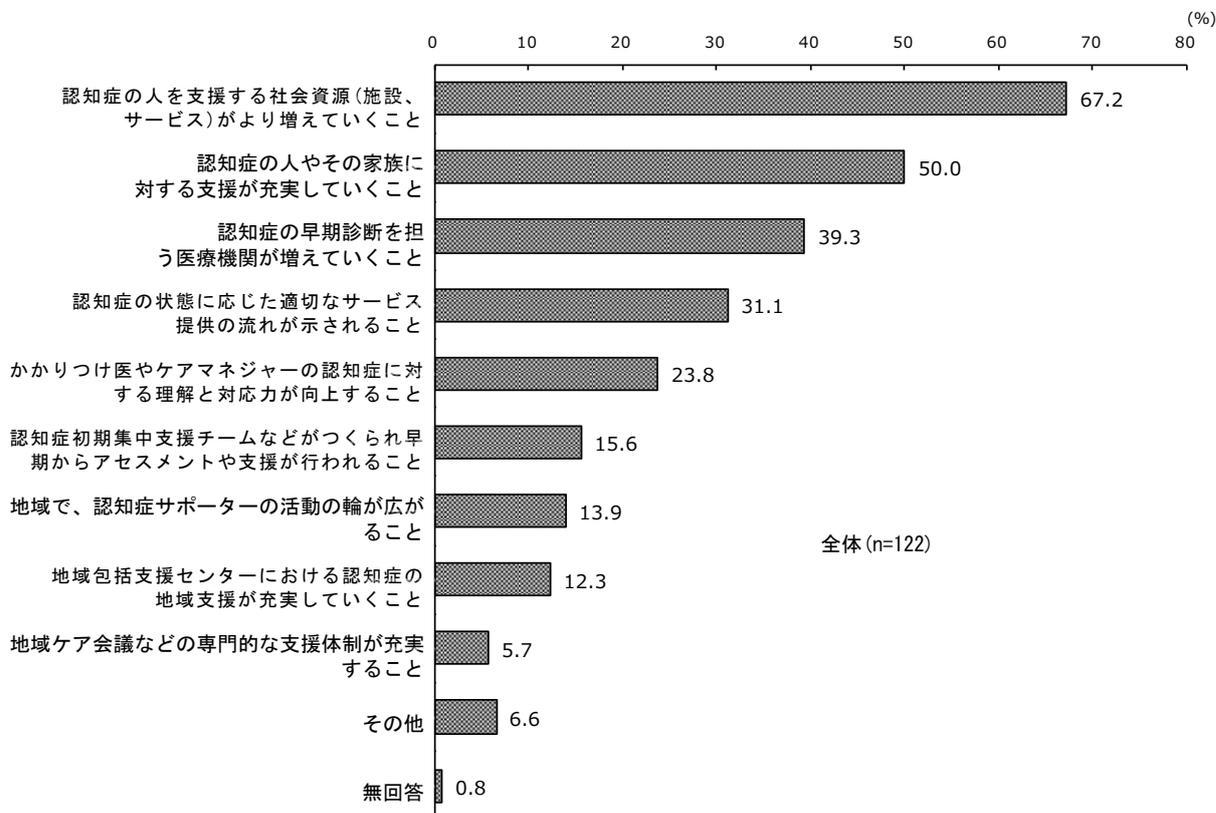
■認知症患者の支援にあたってのかかりつけ医との連携



（5）認知症患者の支援に必要なことになること（問33）

認知症患者の支援に必要なことになることは、「認知症の人を支援する社会資源（施設、サービス）がより増えていくこと」（67.2%）が最も多く、「認知症の人やその家族に対する支援が充実していくこと」（50.0%）、「認知症の早期診断を担う医療機関が増えていくこと」（39.3%）と続いている。

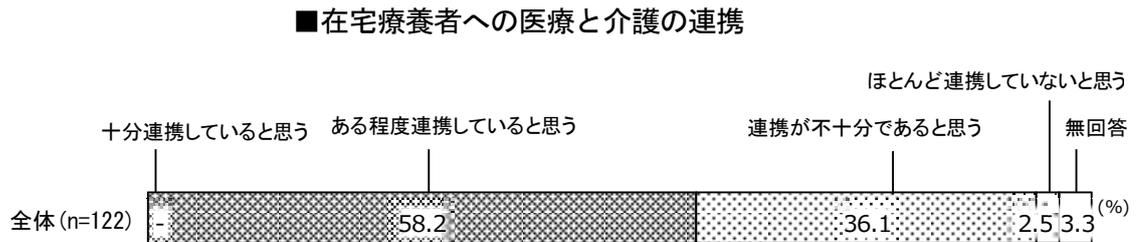
■ 認知症患者の支援に必要なことになること（複数回答）



9 医療と介護の連携の状況について

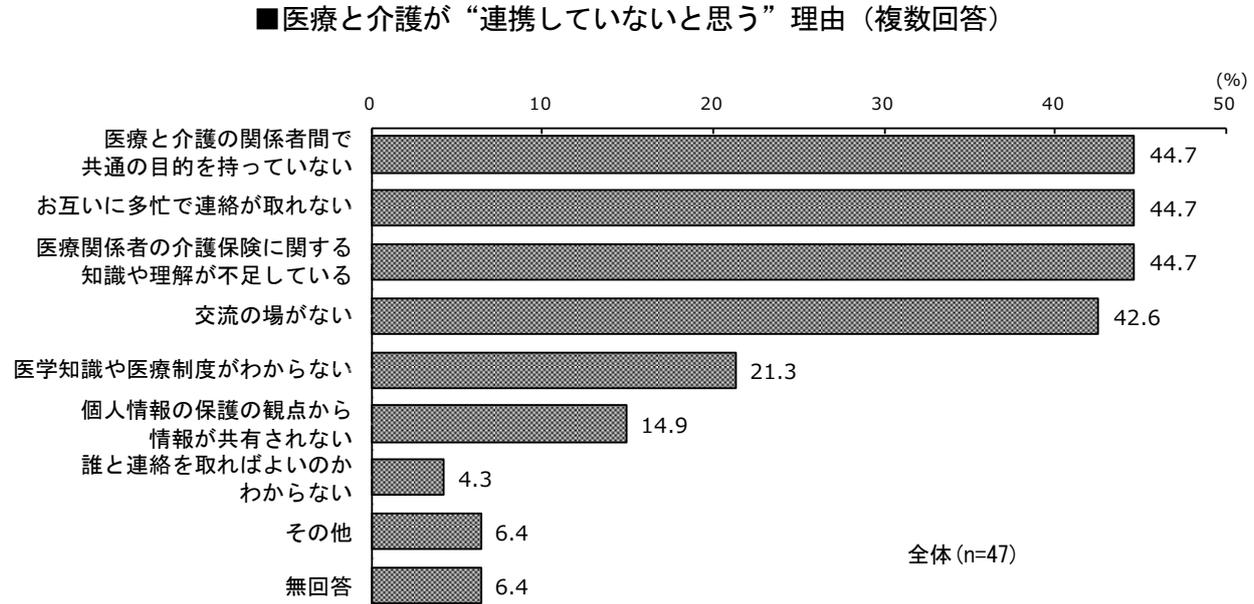
（1）在宅療養者への医療と介護の連携（問34）

在宅療養者への医療と介護の連携は、「ある程度連携していると思う」（58.2%）が最も多く、「連携が不十分であると思う」（36.1%）、「ほとんど連携していないと思う」（2.5%）と続いている。「十分連携していると思う」「ある程度連携していると思う」を合わせた“連携していると思う”は58.2%、「連携が不十分であると思う」「ほとんど連携していないと思う」を合わせた“連携していないと思う”は38.6%となっている。



（2）医療と介護が“連携していないと思う”理由（問34-1）

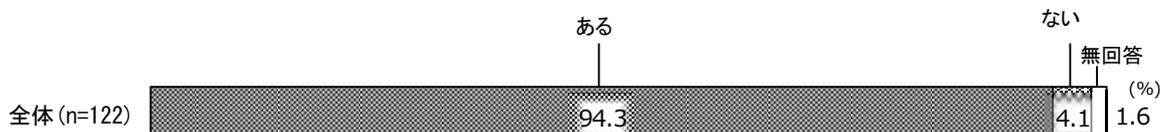
“連携していないと思う”と回答した人に理由を聞いたところ、「医療と介護の関係者間で共通の目的を持っていない」と「お互いに多忙で連絡が取れない」と「医療関係者の介護保険に関する知識や理解が不足している」（いずれも44.7%）が最も多くなっている。



（3）退院前（時）カンファレンスへの出席の有無（問 35）

退院前（時）カンファレンスへの出席の有無は、「ある」が94.3%、「ない」が4.1%となっている。

■退院前（時）カンファレンスへの出席の有無



（4）退院前（時）カンファレンスの頻度（問 35-1）

退院前（時）カンファレンスへの出席が「ある」と回答した人に退院前（時）カンファレンスの頻度を聞いたところ、「月に1～2回未満」（17.4%）が最も多く、「年に5回以上」（16.5%）、「年に2～3回未満」（15.7%）と続いている。

■退院前（時）カンファレンスの頻度



（5）医療関係機関との間での問題やトラブルの有無（問 36）

医療関係機関との間での問題やトラブルの有無は、「ある」が28.7%、「ない」が67.2%となっている。

■医療関係機関との間での問題やトラブルの有無



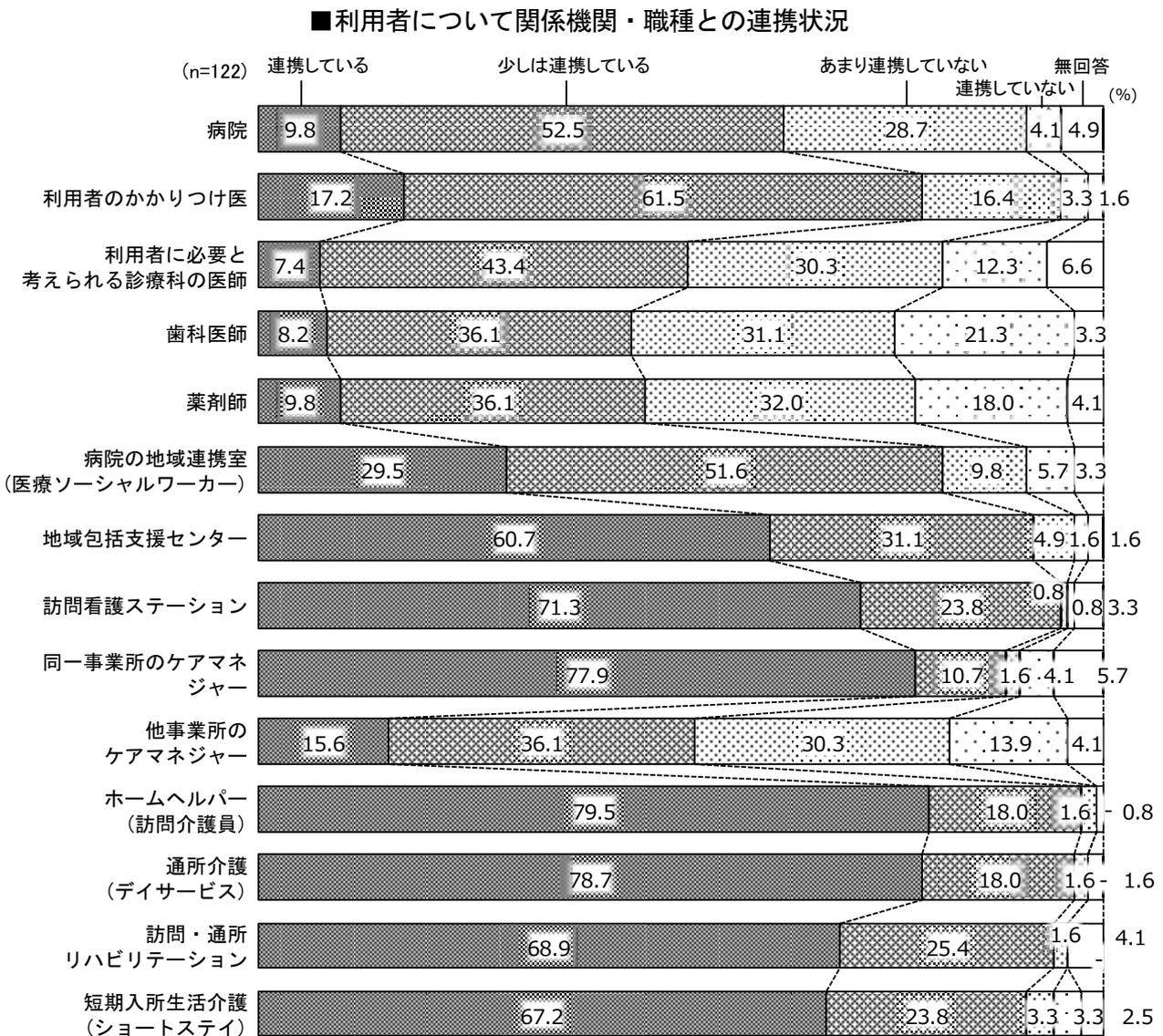
（6）医療関係機関との間で発生した問題やトラブルの内容〈自由回答〉（問 36-1）

医療関係機関との間で発生した問題やトラブルの内容について、自由回答形式で聞いたところ、全体で33件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

- ・退院前カンファなしで利用者が退院してくる。退院の連絡がない
- ・退院時にえん下困難であること、認知症が重度である事を書面にてかかりつけ医に渡したが翌月の更新認定時にえん下に問題なし、認知症軽度とあり、電話にて話をしたところ、「ケアマネが医者に意見するのか」と叱られた。

(7) 利用者について関係機関・職種との連携状況（問37）

利用者について関係機関・職種との連携状況は、「連携している」「少しは連携している」を合わせた“連携している”は『ホームヘルパー（訪問介護員）』（97.5%）が最も多く、『通所介護（デイサービス）』（96.7%）、『訪問看護ステーション』（95.1%）と続いている。



(8) 医療と介護の連携で苦労していること〈自由回答〉（問38）

医療と介護の連携で苦労していることについて、自由回答形式で聞いたところ、全体で74件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

- ・医師と直接電話での連絡が困難。確認までに時間がかかる。
- ・病院側が在宅支援について理解が得にくいことがあること。
- ・医療職の忙しさからか、なかなか時間的な調整がとても難しい。
- ・情報共有をどこまですれば適切か、どんな方法でしたらよいかその医療機関や訪看によって違いがある。
- ・常にこちらからお願いし、対応や指示をもらう。医療的な判断が出来ない為、必ず立ち場が下になる。
- ・自分に医療的知識が少ないため専門的なことがわからず医者への質問等、文書作成時にとても悩みます。

（9）医療関係機関に期待すること〈自由回答〉（問39）

医療関係機関に期待することについて、自由回答形式で聞いたところ、全体で292件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

病院（地域連携室）に対して（69件）

- ・連絡（カンファレンス等）は早めにほしい
- ・身体状態をある程度明確に伝えてほしい。
- ・在宅生活に向けて、個々のご注意点等を、しらせてほしい
- ・医師とケアマネや患者等のパイプ役になって欲しい。
- ・退院前カンファレンスの充実

診療所に対して（53件）

- ・メモ程度で良いので病状や身体状態をケアマネやサービス事業所あてに知らせてほしい。
- ・身近な医療機関として、いつでも相談できる関係でいたいと思います。
- ・もしもの時には極短時間でも、往診してほしい。
- ・介護保険について勉強してほしい。

歯科診療所に対して（49件）

- ・治療の経過をもう少し詳しく知らせて欲しい。
- ・訪問診療
- ・在宅にて生活する上でのポイントにアドバイスが欲しい。

薬局に対して（57件）

- ・服薬管理
- ・薬変更の情報共有。ご家族への連絡。
- ・薬を届けて頂ける店舗が増えてほしい。
- ・在宅にて生活する上でのポイントにアドバイスが欲しい。

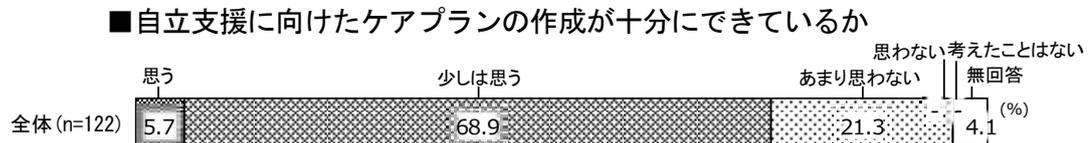
訪問看護ステーションに対して（64件）

- ・情報交換やアドバイス
- ・24時間365日対応の事業所が増えると良い。
- ・変更の連絡（時間や内容）
- ・緊急時加算を算定できる、訪問看護ステーションが増えると助かります。
- ・ケアマネと医師との連携の橋渡しをして欲しい。

10 ケアマネジャー業務全般について

（1）自立支援に向けたケアプランの作成が十分にできているか（問40）

自立支援に向けたケアプランの作成が十分にできていると、「少しは思う」（68.9%）が最も多く、「あまり思わない」（21.3%）、「思う」（5.7%）と続いている。「思う」「少しは思う」を合わせた“思う”は74.6%となっている。



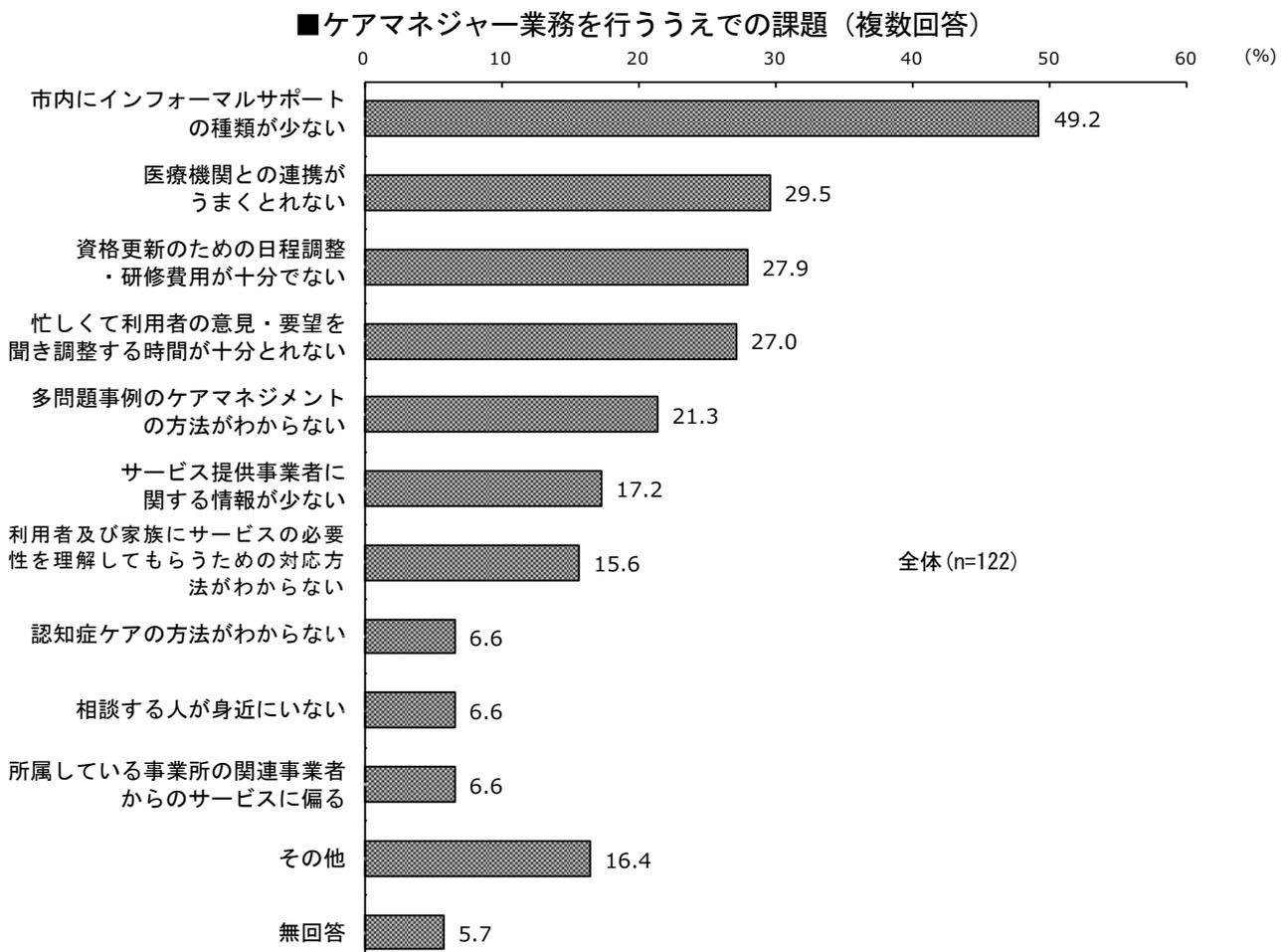
（2）不十分だと思う理由〈自由回答〉（問40-1）

不十分だと思う理由について、自由回答形式で聞いたところ、全体で24件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

- ・利用者・家族の意向にそうことと相反することがある。
- ・自立に向けた支援内容より、先にまず、生活に必要な支援内容となってしまうため。

（3）ケアマネジャー業務を行ううえでの課題（問41）

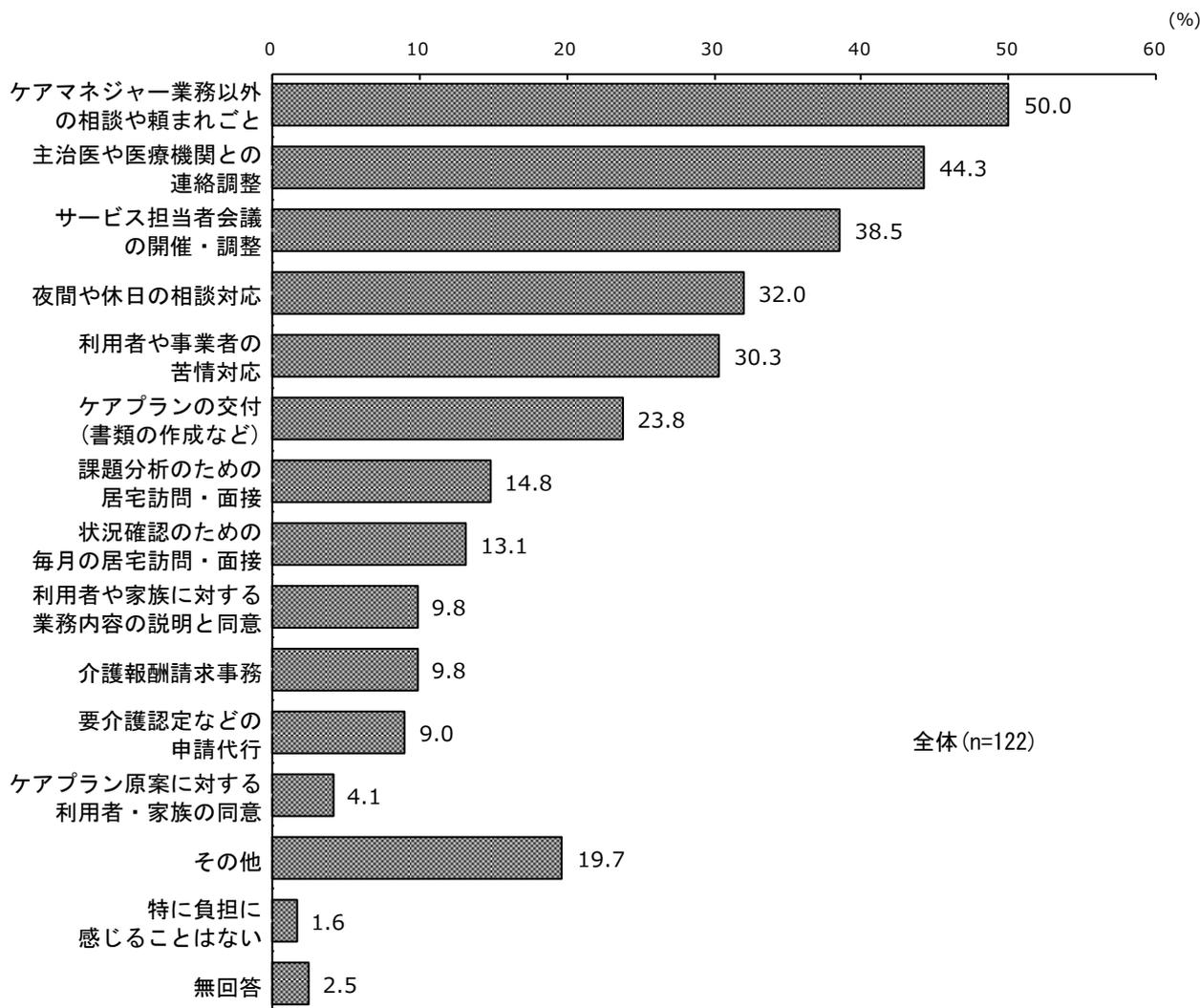
ケアマネジャー業務を行ううえでの課題は、「市内にインフォーマルサポートの種類が少ない」（49.2%）が最も多く、「医療機関との連携がうまくとれない」（29.5%）、「資格更新のための日程調整・研修費用が十分でない」（27.9%）と続いている。



（4）ケアマネジャー業務の中で負担を感じていること（問42）

ケアマネジャー業務の中で負担を感じていることは、「ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごと」（50.0%）が最も多く、「主治医や医療機関との連絡調整」（44.3%）、「サービス担当者会議の開催・調整」（38.5%）と続いている。

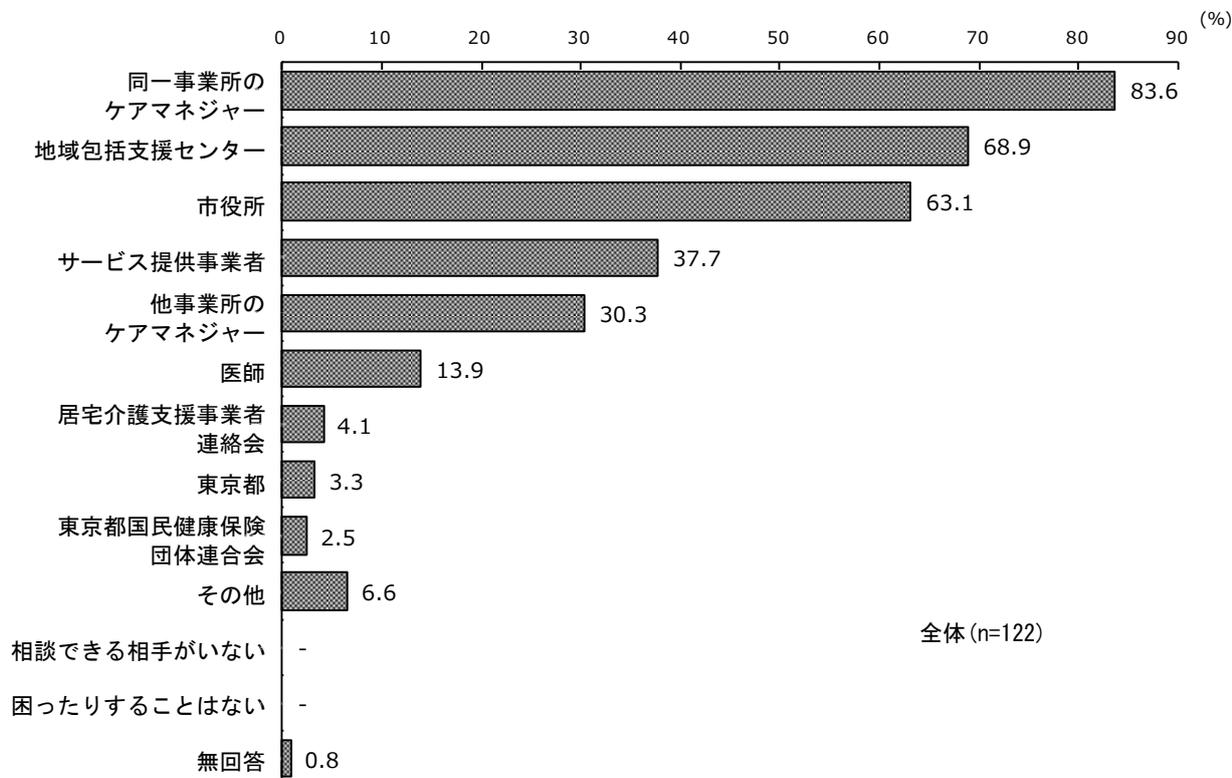
■ケアマネジャー業務の中で負担を感じていること（複数回答）



(5) ケアプランを作成するうえで困った時の相談先（問43）

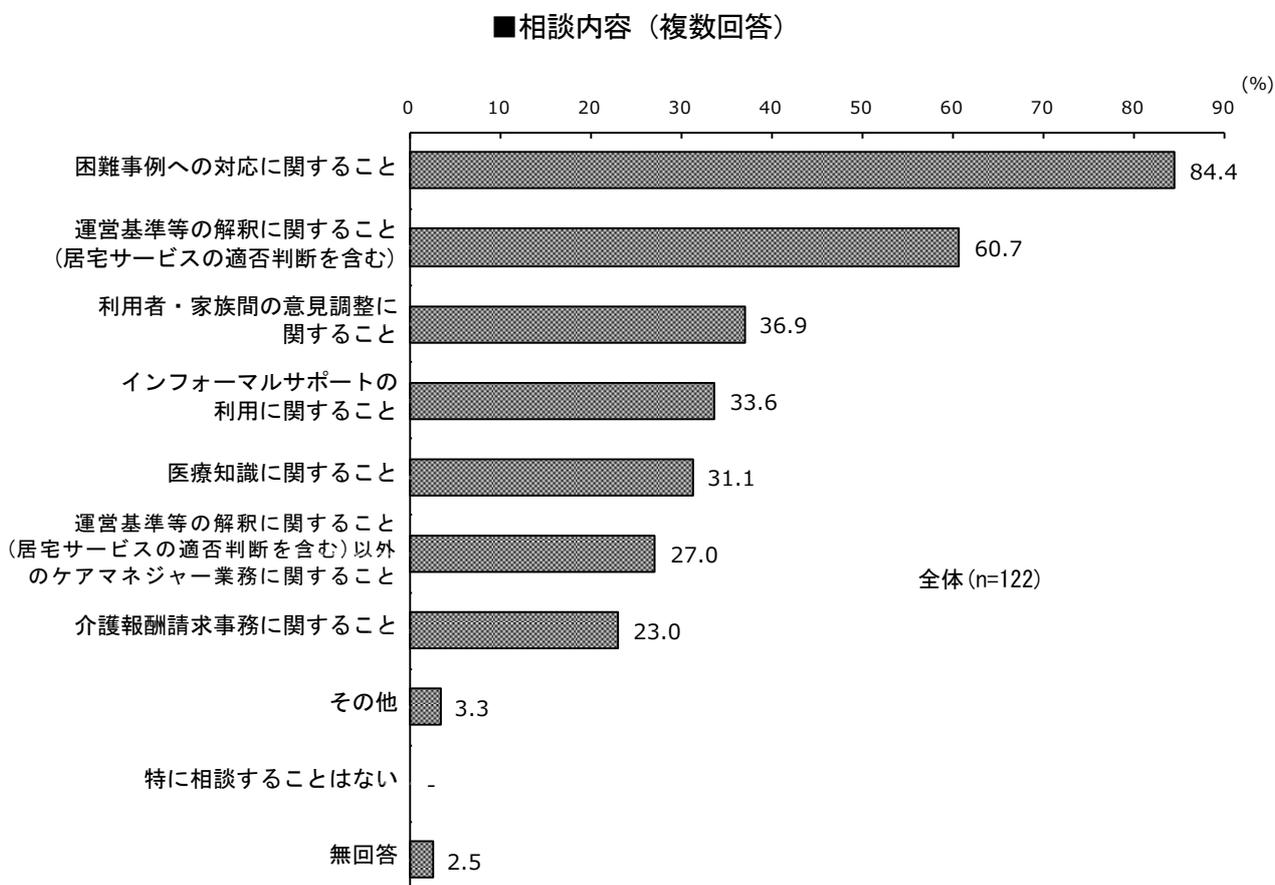
ケアプランを作成するうえで困った時の相談先は、「同一事業所のケアマネジャー」（83.6%）が最も多く、「地域包括支援センター」（68.9%）、「市役所」（63.1%）と続いている。

■ケアプランを作成するうえで困った時の相談先（複数回答）



（6）相談内容（問44）

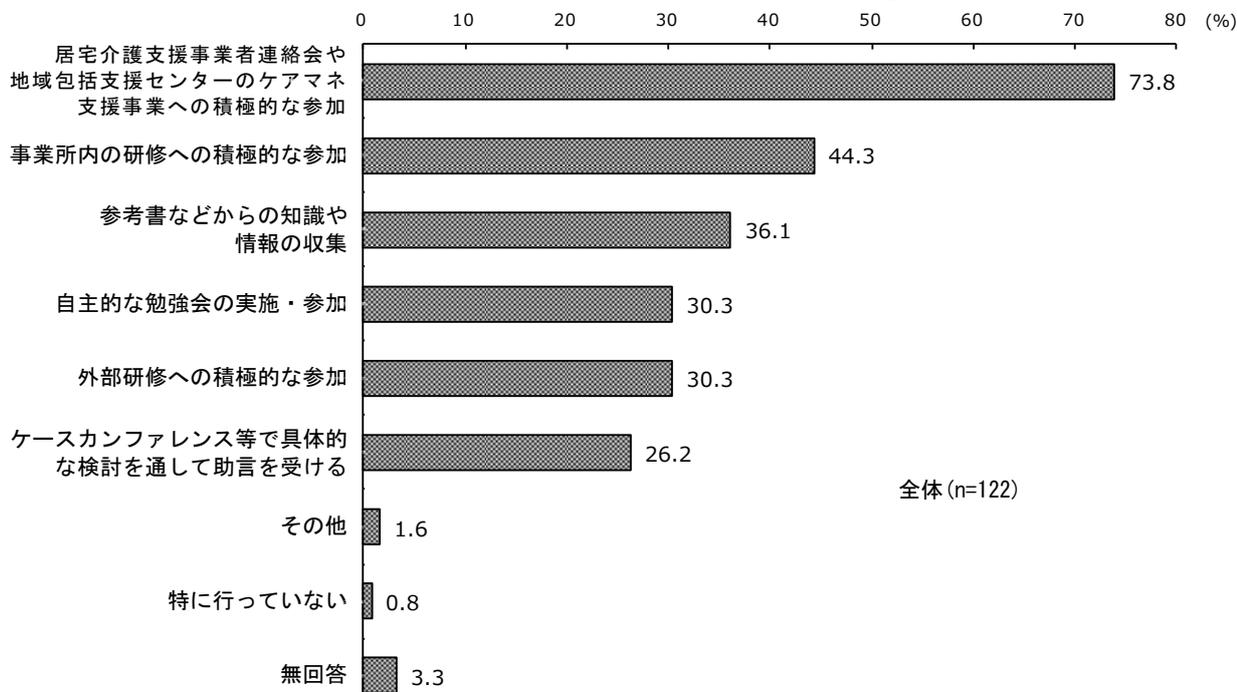
相談内容は、「困難事例への対応に関すること」（84.4%）が最も多く、「運営基準等の解釈に関すること（居宅サービスの適否判断を含む）」（60.7%）、「利用者・家族間の意見調整に関すること」（36.9%）と続いている。



(7) ケアマネジャー業務のレベルアップのために行っている取組、今後行いたい取組（問45）

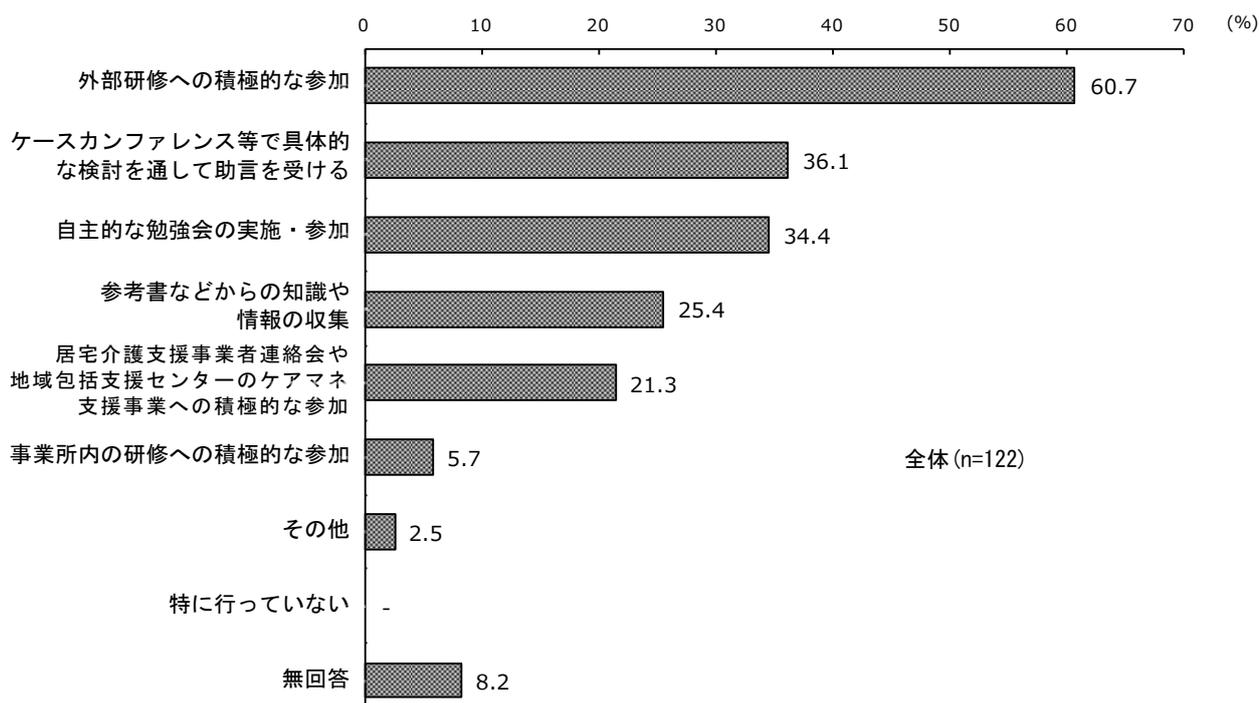
ケアマネジャー業務のレベルアップのために行っている取組は、「居宅介護支援事業者連絡会や地域包括支援センターのケアマネ支援事業への積極的な参加」（73.8%）が最も多く、「事業所内の研修への積極的な参加」（44.3%）、「参考書などからの知識や情報の収集」（36.1%）と続いている。

■ケアマネジャー業務のレベルアップのために行っている取組（複数回答）



今後行いたい取組は、「外部研修への積極的な参加」（60.7%）が最も多く、「ケースカンファレンス等で具体的な検討を通して助言を受ける」（36.1%）、「自主的な勉強会の実施・参加」（34.4%）と続いている。

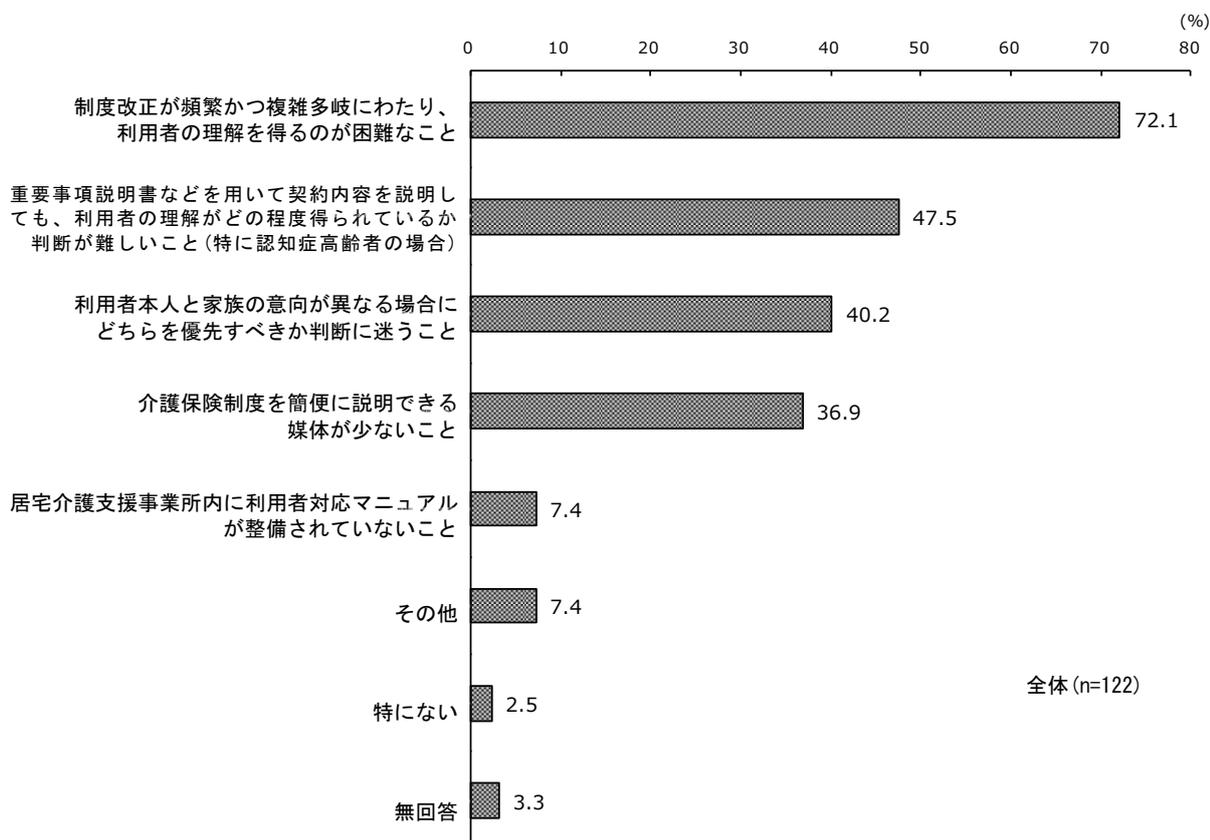
■ケアマネジャー業務のレベルアップのため今後行いたい取組（複数回答）



（8）利用者への情報提供の際の課題（問46）

利用者への情報提供の際の課題は、「制度改正が頻繁かつ複雑多岐にわたり、利用者の理解を得るのが困難なこと」（72.1%）が最も多く、「重要事項説明書などを用いて契約内容を説明しても、利用者の理解がどの程度得られているか判断が難しいこと（特に認知症高齢者の場合）」（47.5%）、「利用者本人と家族の意向が異なる場合にどちらを優先すべきか判断に迷うこと」（40.2%）と続いている。

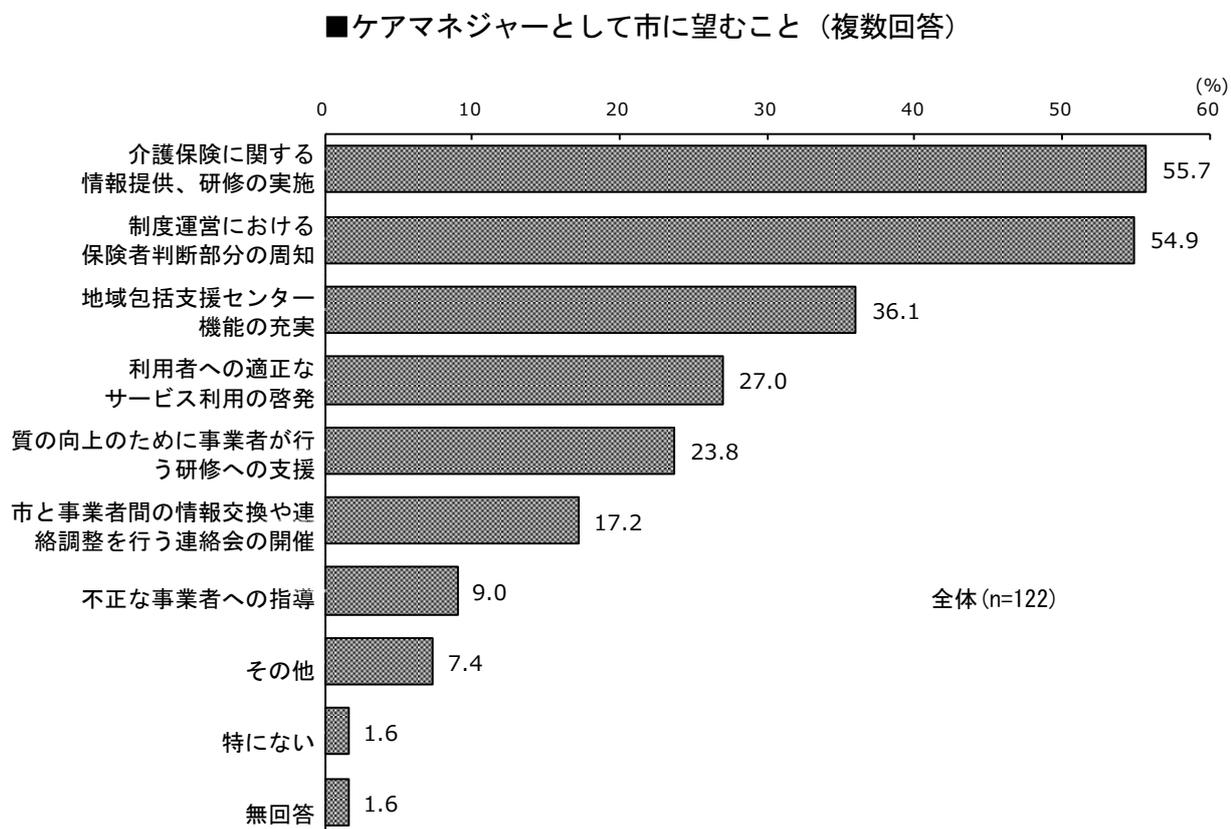
■利用者への情報提供の際の課題（複数回答）



11 市への意向について

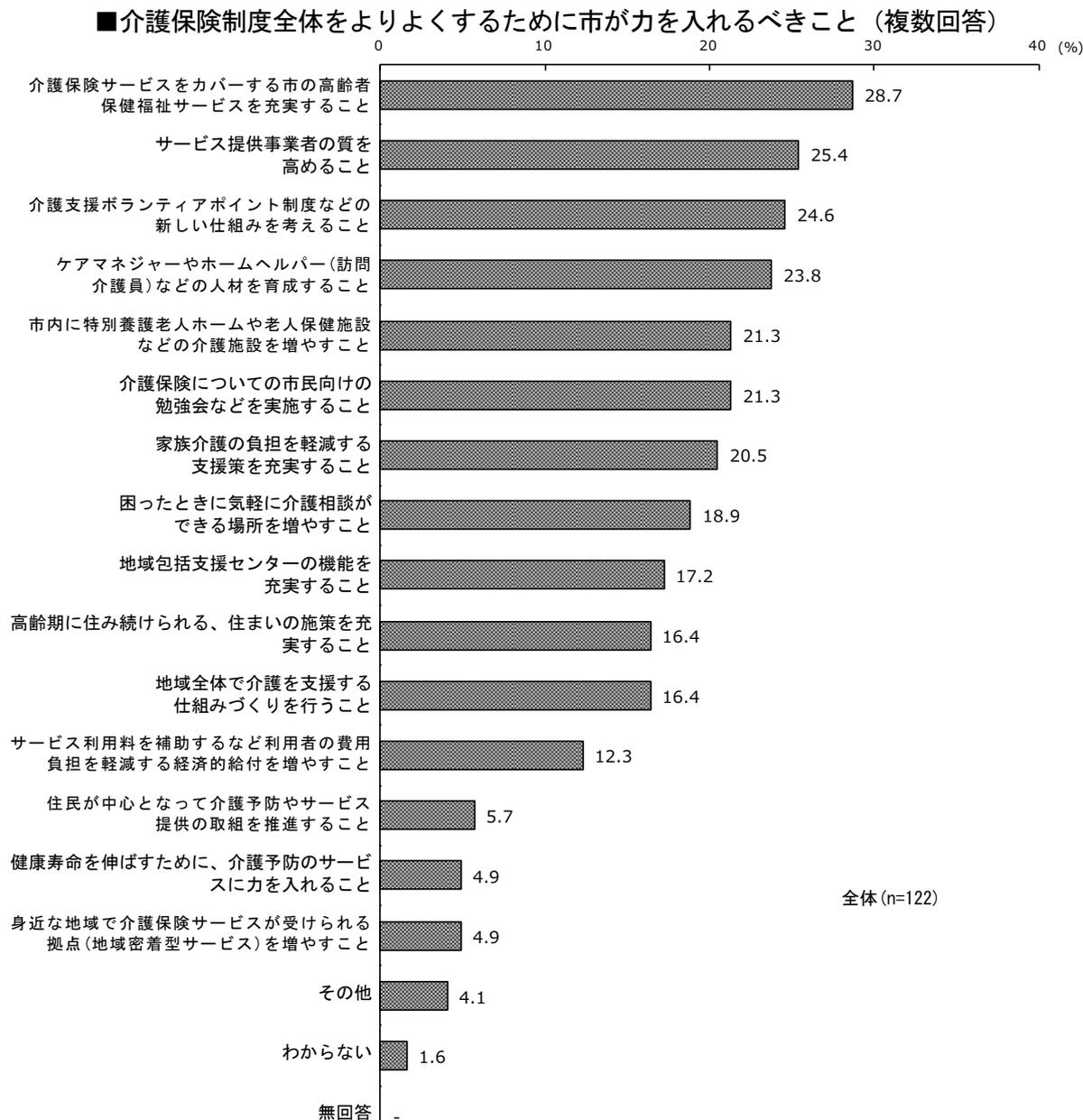
（1）ケアマネジャーとして市に望むこと（問47）

ケアマネジャーとして市に望むことは、「介護保険に関する情報提供、研修の実施」（55.7%）が最も多く、「制度運営における保険者判断部分の周知」（54.9%）、「地域包括支援センター機能の充実」（36.1%）と続いている。



（2）介護保険制度全体をよりよくするために市が力を入れるべきこと（問48）

介護保険制度全体をよりよくするために市が力を入れるべきことは、「介護保険サービスをカバーする市の高齢者保健福祉サービスを充実すること」（28.7%）が最も多く、「サービス提供事業者の質を高めること」（25.4%）、「介護支援ボランティアポイント制度などの新しい仕組みを考えること」（24.6%）と続いている。



（3）介護保険に関する要望等〈自由回答〉（問49）

介護に関する要望について、自由回答形式で聞いたところ、全体で43件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

- 医療と介護の連携について：13件
- 制度、サービス、事業について：11件
- 制度やサービスの周知について：5件
- アンケートについて：3件
- 訪問診療・往診の希望について：2件
- その他：9件

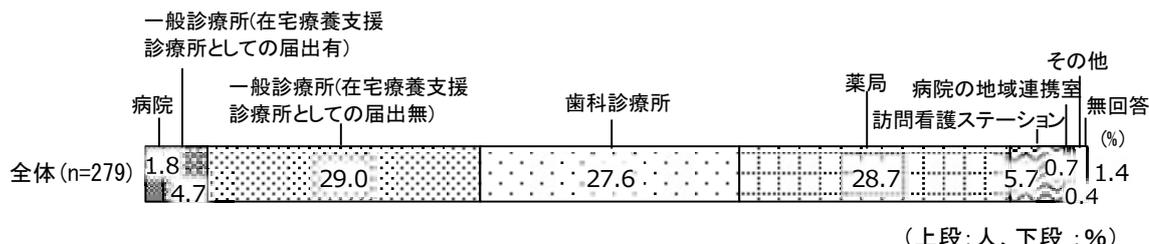
6. 医療と介護の連携：医療関係者調査

1 基本属性

(1) 所属している医療関係機関（問1）

所属している医療関係機関は、「一般診療所（在宅療養支援診療所としての届出無）」（29.0%）が最も多く、「薬局」（28.7%）、「歯科診療所」（27.6%）と続いている。

■所属している医療関係機関



職種別		病院	療養一般診療所(在宅療養支援診療所としての届出有)	療養一般診療所(在宅療養支援診療所としての届出無)	歯科診療所	薬局	ショーン	訪問看護ステーション	病院の地域連携室	その他	無回答
全体(n=279)		5	13	81	77	80	16	2	1	4	
		1.8	4.7	29.0	27.6	28.7	5.7	0.7	0.4	1.4	
職種別	医師(n=84)	1	9	73	0	0	0	0	0	1	
		1.2	10.7	86.9	-	-	-	-	-	1.2	
	歯科医師(n=79)	0	2	1	76	0	0	0	0	0	
		-	2.5	1.3	96.2	-	-	-	-	-	
	薬剤師(n=82)	0	0	0	1	79	0	0	1	1	
		-	-	-	1.2	96.3	-	-	1.2	1.2	
	看護師(n=8)	0	0	5	0	0	3	0	0	0	
	-	-	62.5	-	-	37.5	-	-	-		
訪問看護師(n=13)	0	0	0	0	0	13	0	0	0		
	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-		
医療ソーシャルワーカー(n=11)	4	2	2	0	0	0	2	0	1		
	36.4	18.2	18.2	-	-	-	18.2	-	9.1		

(2) 所属している医療関係機関のスタッフ数（問1付問）

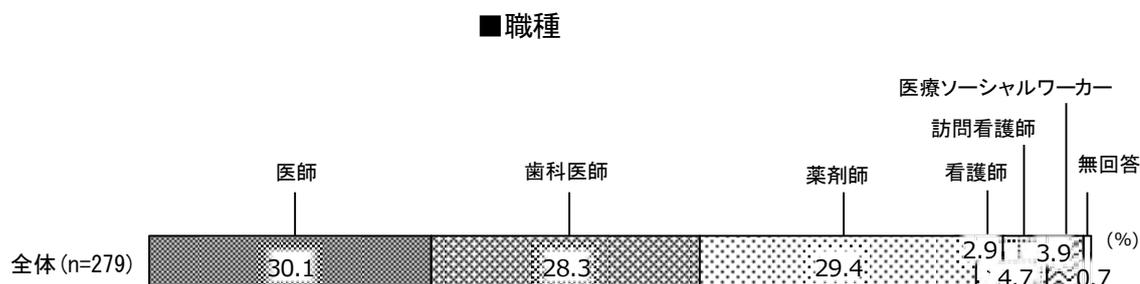
所属している医療関係機関のスタッフ数の合計は1,675人となり、職種別にみると看護師が808人と最も多くなっている。

■所属している医療関係機関のスタッフ数〈合計〉

	(人)
看護師	808
薬剤師	344
医師	270
訪問看護師	113
歯科医師	104
医療ソーシャルワーカー	36
合計	1,675

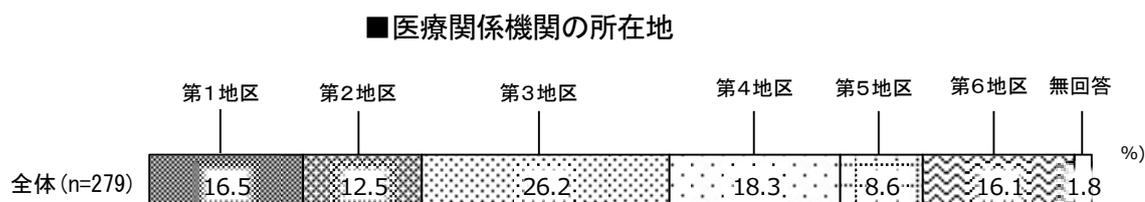
(3) 職種 (問2)

職種は、「医師」(30.1%)が最も多く、「薬剤師」(29.4%)、「歯科医師」(28.3%)、「訪問看護師」(4.7%)、「医療ソーシャルワーカー」(3.9%)、「看護師」(2.9%)と続いている。



(4) 医療関係機関の所在地 (問3)

医療関係機関の所在地は、「第3地区」(26.2%)が最も多く、「第4地区」(18.3%)、「第1地区」(16.5%)、「第6地区」(16.1%)、「第2地区」(12.5%)、「第5地区」(8.6%)となっている。



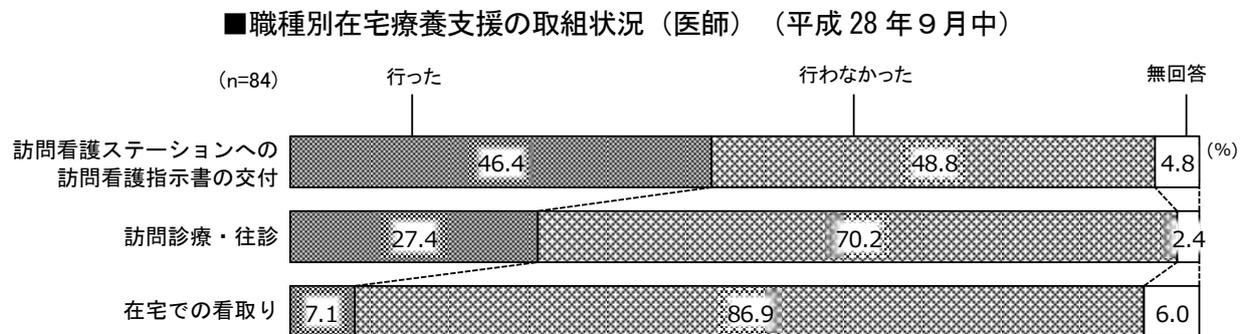
(上段:人、下段:%)

		第1地区	第2地区	第3地区	第4地区	第5地区	第6地区	無回答
全体(n=279)		46 16.5	35 12.5	73 26.2	51 18.3	24 8.6	45 16.1	5 1.8
職種別	医師(n=84)	15 17.9	9 10.7	21 25.0	20 23.8	5 6.0	13 15.5	1 1.2
	歯科医師(n=79)	13 16.5	10 12.7	22 27.8	14 17.7	6 7.6	13 16.5	1 1.3
	薬剤師(n=82)	14 17.1	11 13.4	21 25.6	12 14.6	9 11.0	15 18.3	0
	看護師(n=8)	1 12.5	1 12.5	3 37.5	2 25.0	0	1 12.5	0
	訪問看護師(n=13)	1 7.7	2 15.4	3 23.1	2 15.4	2 15.4	2 15.4	1 7.7
	医療ソーシャルワーカー(n=11)	2 18.2	2 18.2	3 27.3	1 9.1	2 18.2	1 9.1	0

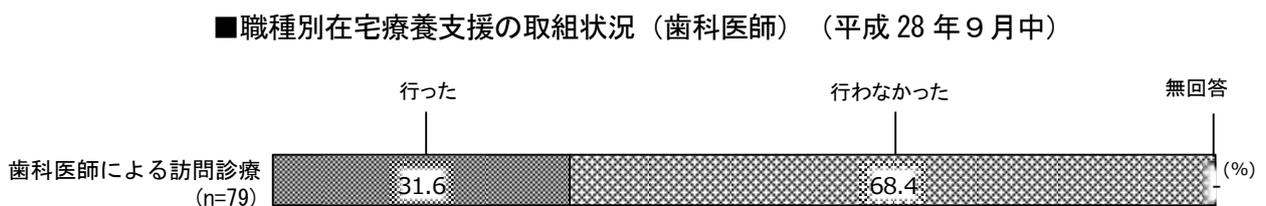
2 在宅療養支援への取組状況について

(1) 職種別在宅療養支援の取組状況（問4）

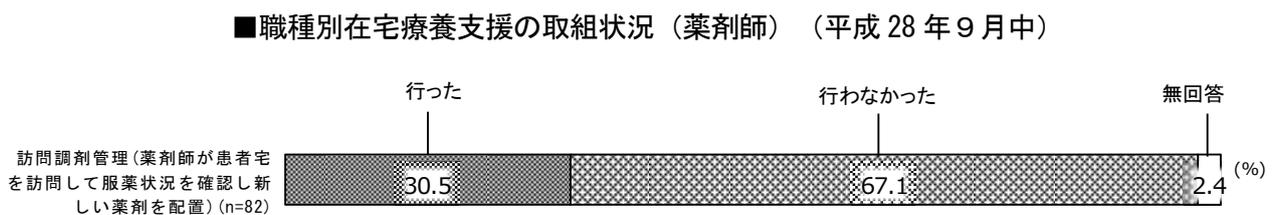
医師の在宅療養支援の取組状況は、「行った」が『訪問看護ステーションへの訪問看護指示書の交付』で46.4%と最も多く、『訪問診療・往診』で27.4%、『在宅での看取り』で7.1%となっている。



歯科医師は、『歯科医師による訪問診療』を「行った」が31.6%となっている。



薬剤師は、『訪問調剤管理（薬剤師が患者宅を訪問して服薬状況を確認し新しい薬剤を配置）』を「行った」が30.5%となっている。



看護師の在宅療養支援の取組状況は、「行った」が『訪問診療・往診時の看護』『訪問看護ステーションなどへの支援』『在宅での看取りの支援』のいずれも12.5%（1人）となっている。

■職種別在宅療養支援の取組状況（看護師）（平成28年9月中）

（上段：人、下段：％）

	行 っ た	か 行 っ た な	無 回 答
	(n=8)		
訪問診療・往診時の看護	1 12.5	4 50.0	3 37.5
訪問看護ステーションなどへの支援	1 12.5	4 50.0	3 37.5
在宅での看取りの支援	1 12.5	4 50.0	3 37.5

訪問看護師の在宅療養支援の取組状況は、「行った」が『医療保険による訪問看護』で100.0%（13人）と最も多く、『緊急対応時の訪問看護』で84.6%（11人）、『在宅での看取り』で23.1%（3人）となっている。

■職種別在宅療養支援の取組状況（訪問看護師）（平成28年9月中）

（上段：人、下段：％）

	行 っ た	か 行 っ た な	無 回 答
	(n=13)		
医療保険による訪問看護	13 100.0	0 -	0 -
緊急対応時の訪問看護	11 84.6	2 15.4	0 -
在宅での看取り	3 23.1	9 69.2	1 7.7

医療ソーシャルワーカー（MSW）の在宅療養支援の取組状況は、「行った」が『退院支援の相談』と『退院支援』でともに90.9%（10人）と最も多く、『退院前（時）カンファレンス』で81.8%（9人）となっている。

■職種別在宅療養支援の取組状況（医療ソーシャルワーカー（MSW））（平成28年9月中）

（上段：人、下段：％）

	行 っ た	か 行 っ た な	無 回 答
	(n=11)		
退院支援の相談	10 90.9	1 9.1	0 -
退院支援	10 90.9	1 9.1	0 -
退院前(時)カンファレンス	9 81.8	2 18.2	0 -

3 医療と介護の連携の状況について

(1) 医療と介護の連携の必要性 (問5)

医療と介護の連携の必要性は、「必要である」が94.3%、「必要でない」が3.6%となっている。

■医療と介護の連携の必要性



(上段:人、下段:%)

		必要である	必要でない	無回答
全体(n=279)		263 94.3	10 3.6	6 2.2
職種別	医師(n=84)	75 89.3	7 8.3	2 2.4
	歯科医師(n=79)	78 98.7	1 1.3	0 -
	薬剤師(n=82)	77 93.9	2 2.4	3 3.7
	看護師(n=8)	8 100.0	0 -	0 -
	訪問看護師(n=13)	13 100.0	0 -	0 -
	医療ソーシャルワーカー(n=11)	11 100.0	0 -	0 -

(2) 必要でないと考える理由 (問5-1)

「必要でない」と回答した人に理由を聞いたところ、「医療と介護は別である」が70.0% (7人)、「制度が違う」が10.0% (1人)となっている。

■必要でないと考える理由

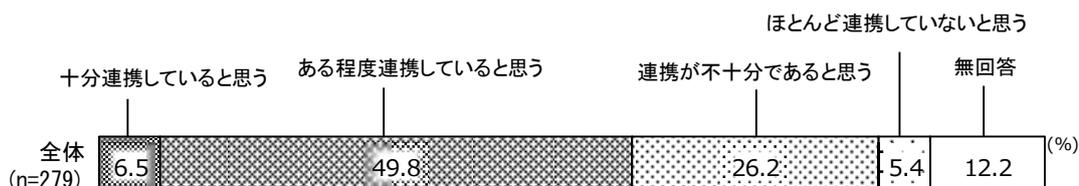
(上段:人、下段:%)

	は医療と介護は別である	制度が違う	その他	無回答
全体(n=10)	7 70.0	1 10.0	2 20.0	0 -

(3) 在宅療養者への医療と介護の連携の状況 (問6)

在宅療養者への医療と介護の連携の状況は、「ある程度連携していると思う」(49.8%)が最も多く、「連携が不十分であると思う」(26.2%)、「十分連携していると思う」(6.5%)、「ほとんど連携していないと思う」(5.4%)と続いている。「十分連携していると思う」「ある程度連携していると思う」を合わせた“連携していると思う”は56.3%、「連携が不十分であると思う」「ほとんど連携していないと思う」を合わせた“連携していないと思う”は31.6%となっている。

■在宅療養者への医療と介護の連携の状況



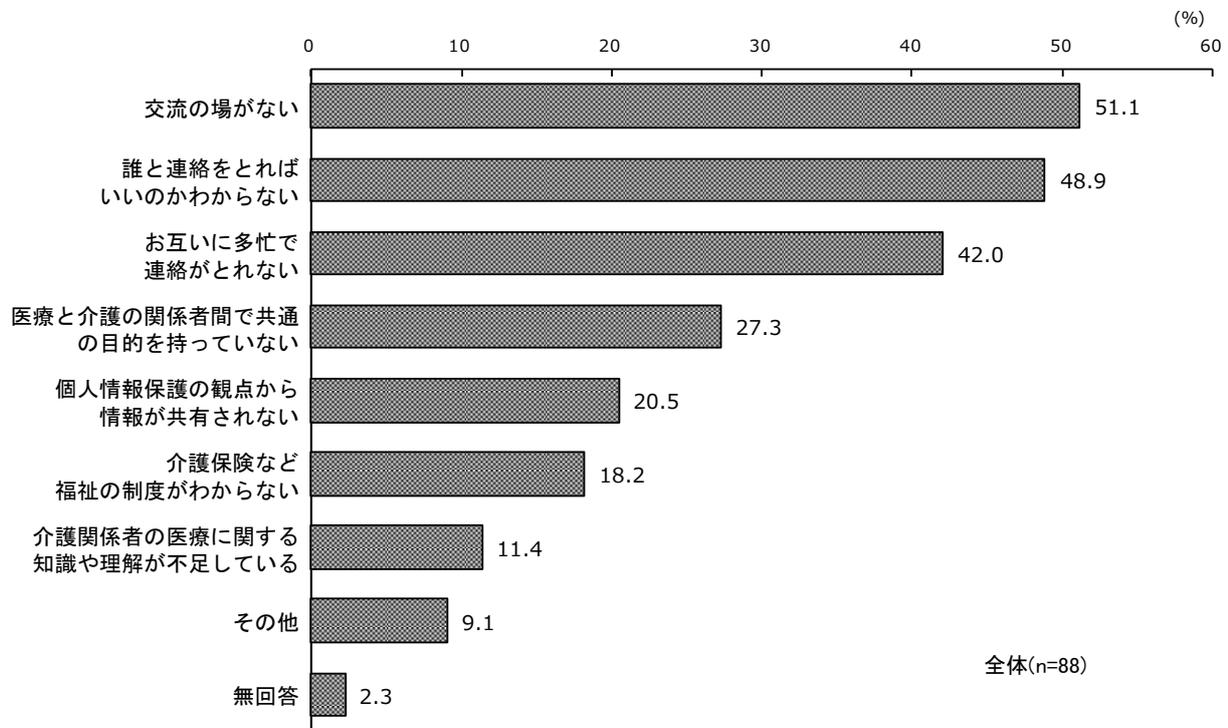
(上段:人、下段:%)

		うて い分 る連 と携 思し	と携 あ 思し うて い度 る連	思分 うで あが る不 と十	い携 ほと しと ん いど な連	無 回 答
全 体(n=279)		18	139	73	15	34
		6.5	49.8	26.2	5.4	12.2
職種別	医師(n=84)	4	39	28	3	10
		4.8	46.4	33.3	3.6	11.9
	歯科医師(n=79)	11	35	17	7	9
		13.9	44.3	21.5	8.9	11.4
	薬剤師(n=82)	1	40	23	5	13
		1.2	48.8	28.0	6.1	15.9
	看護師(n=8)	1	5	1	0	1
	12.5	62.5	12.5	-	12.5	
訪問看護師(n=13)	1	11	1	0	0	
	7.7	84.6	7.7	-	-	
医療ソーシャルワーカー(n=11)	0	8	3	0	0	
	-	72.7	27.3	-	-	

(4) “連携していないと思う”理由(問6-1)

“連携していないと思う”と回答した人に理由を聞いたところ、「交流の場がない」(51.1%)が最も多く、「誰と連絡をとればいいのかわからない」(48.9%)、「お互いに多忙で連絡がとれない」(42.0%)と続いている。

■ “連携していないと思う”理由(複数回答)



(上段:人、下段:%)

		交流の場がない	誰かと連絡をとればいいのかわからない	お互いに多忙で連絡がとれない	医療と介護の共通の目的を持っていない	個人情報保護の観点から情報が共有されない	介護保険など福祉の制度がわからない	介護関係者の知識や理解が不足している	その他	無回答
全体(n=88)		45	43	37	24	18	16	10	8	2
		51.1	48.9	42.0	27.3	20.5	18.2	11.4	9.1	2.3
職種別	医師(n=31)	11	15	17	7	6	6	5	2	1
		35.5	48.4	54.8	22.6	19.4	19.4	16.1	6.5	3.2
	歯科医師(n=24)	13	14	9	5	6	4	0	1	1
		54.2	58.3	37.5	20.8	25.0	16.7	-	4.2	4.2
	薬剤師(n=28)	19	13	10	7	6	5	3	4	0
		67.9	46.4	35.7	25.0	21.4	17.9	10.7	14.3	-
看護師(n=1)	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-
訪問看護師(n=1)	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0
	-	-	-	100.0	-	100.0	100.0	-	-	-
医療ソーシャルワーカー(n=3)	1	0	1	3	0	0	1	1	0	0
	33.3	-	33.3	100.0	-	-	33.3	33.3	-	-

(5) 退院前（時）カンファレンスやサービス担当者会議への出席の有無（問7）

退院前（時）カンファレンスやサービス担当者会議への出席の有無は、「ある」が20.8%、「ない」が71.7%となっている。

職種別にみると、歯科医師は「ない」（88.6%）が全体に比べ多くなっている。

■退院前（時）カンファレンスやサービス担当者会議への出席の有無



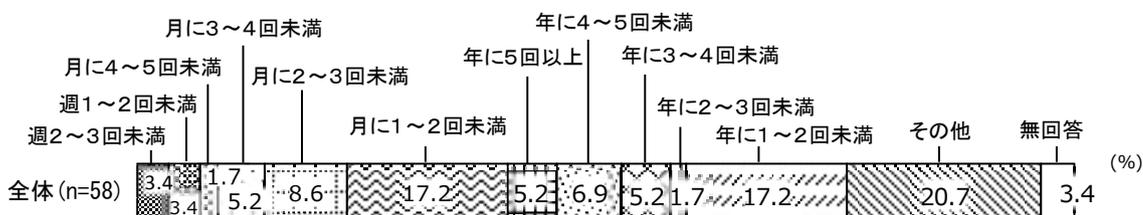
(上段:人、下段:%)

		ある	ない	無回答
全体(n=279)		58	200	21
		20.8	71.7	7.5
職種別	医師(n=84)	12	63	9
		14.3	75.0	10.7
	歯科医師(n=79)	4	70	5
		5.1	88.6	6.3
	薬剤師(n=82)	12	64	6
		14.6	78.0	7.3
	看護師(n=8)	6	2	0
	75.0	25.0	-	
訪問看護師(n=13)	13	0	0	
	100.0	-	-	
医療ソーシャルワーカー(n=11)	11	0	0	
	100.0	-	-	

(6) 退院前（時）カンファレンスやサービス担当者会議の頻度（問7-1）

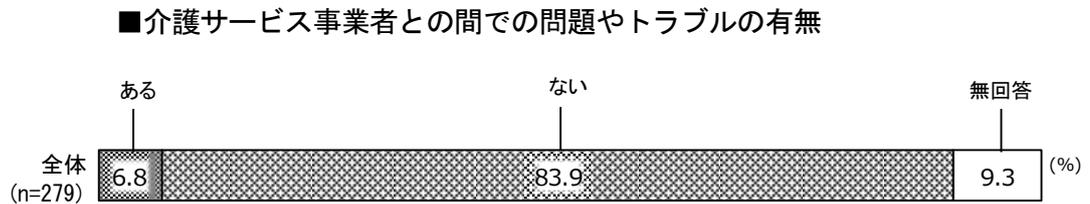
退院前（時）カンファレンスやサービス担当者会議へ出席したことが「ある」と回答した人に頻度を聞いたところ、「月に1～2回未満」と「年に1～2回未満」（ともに17.2%）が最も多く、「月に2～3回未満」（8.6%）、「年に4～5回未満」（6.9%）と続いている。

■退院前（時）カンファレンスやサービス担当者会議の頻度



(7) 介護サービス事業者との間での問題やトラブルの有無（問8）

介護サービス事業者との間での問題やトラブルの有無は、「ある」が6.8%、「ない」が83.9%となっている。



(上段：人、下段：%)

		ある	ない	無回答
全 体(n=279)		19 6.8	234 83.9	26 9.3
職種別	医師(n=84)	9 10.7	68 81.0	7 8.3
	歯科医師(n=79)	1 1.3	71 89.9	7 8.9
	薬剤師(n=82)	3 3.7	72 87.8	7 8.5
	看護師(n=8)	1 12.5	7 87.5	0 -
	訪問看護師(n=13)	3 23.1	8 61.5	2 15.4
	医療ソーシャルワーカー(n=11)	2 18.2	7 63.6	2 18.2

(8) 介護サービス事業者との間で発生した問題やトラブルの内容〈自由回答〉（問8-1）

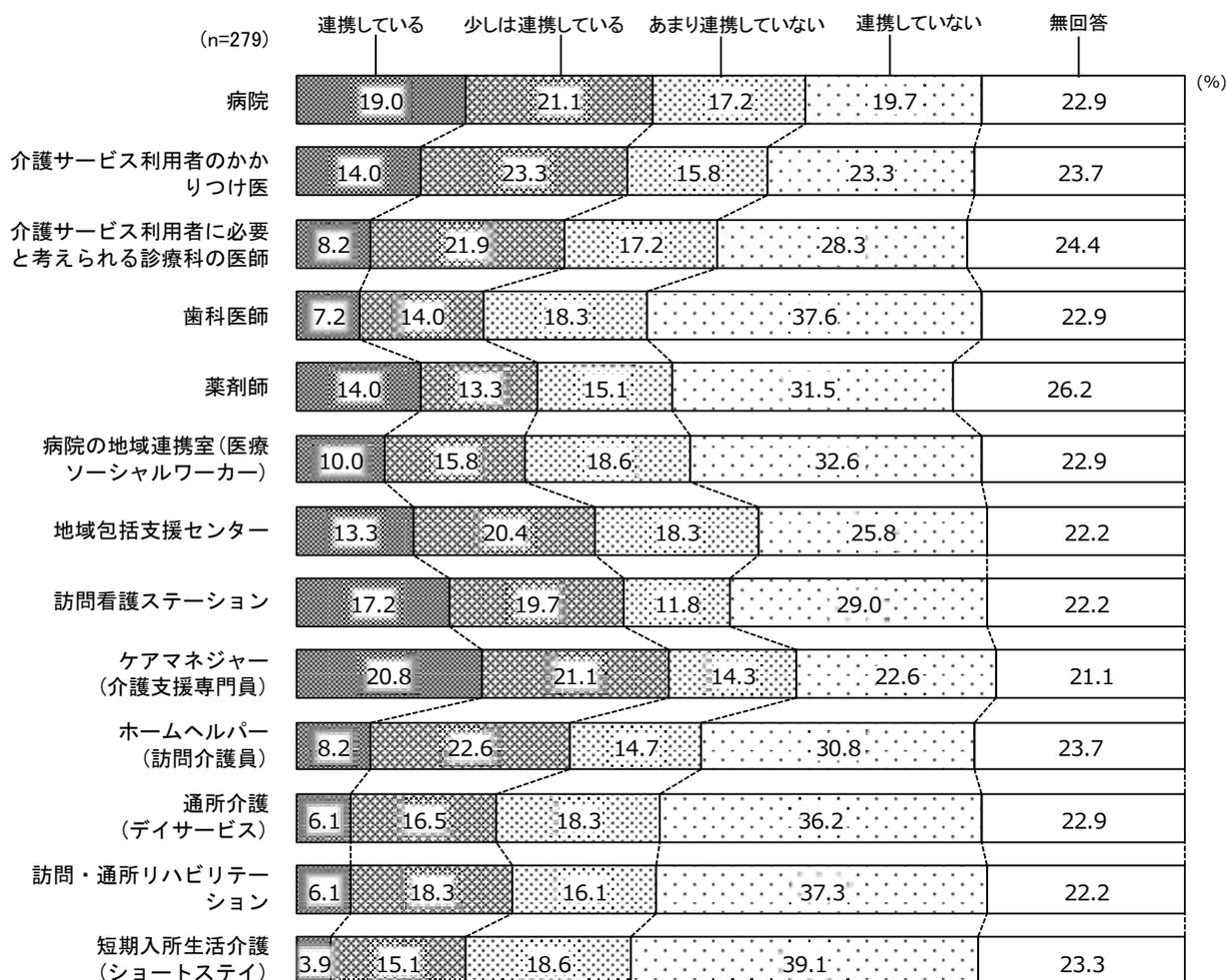
介護サービス事業者との間で発生した問題やトラブルの内容について、自由回答形式で聞いたところ、全体で17件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

- ・老人健康施設に入っている患者様が、薬局に医療機関の処方せんを持ってきたが、薬局は、その患者様が、老健に入所されていることを知らなかった。（薬剤師）
- ・マッサージを主たる業務とする、介護サービス事業者が施術後、承諾書を求めてきた事（医師）

(9) 関係機関・職種との連携状況（問9）

関係機関・職種との連携状況について、「連携している」「少しは連携している」を合わせた“連携している”は『ケアマネジャー（介護支援専門員）』（41.9%）が最も多く、『病院』（40.1%）、『介護サービス利用者のかかりつけ医』（37.3%）と続いている。

■ 関係機関・職種との連携状況



(10) 在宅医療についての考え (問10)

在宅医療についての考えは、「関心がある」(71.3%)が最も多く、「関心がない」(17.6%)、「積極的に関わりたい」(4.7%)となっている。

■在宅医療についての考え



(上段:人、下段:%)

		関心がある	積極的に関わりたい	関心がない	無回答
全体(n=279)		199	13	49	18
		71.3	4.7	17.6	6.5
職種別	医師(n=84)	49	3	24	8
		58.3	3.6	28.6	9.5
	歯科医師(n=79)	58	1	16	4
		73.4	1.3	20.3	5.1
	薬剤師(n=82)	66	5	7	4
		80.5	6.1	8.5	4.9
	看護師(n=8)	7	0	1	0
	87.5	-	12.5	-	
訪問看護師(n=13)	11	2	0	0	
	84.6	15.4	-	-	
医療ソーシャルワーカー(n=11)	8	2	0	1	
	72.7	18.2	-	9.1	

(11) どのように関わりたいか〈自由回答〉 (問10-1)

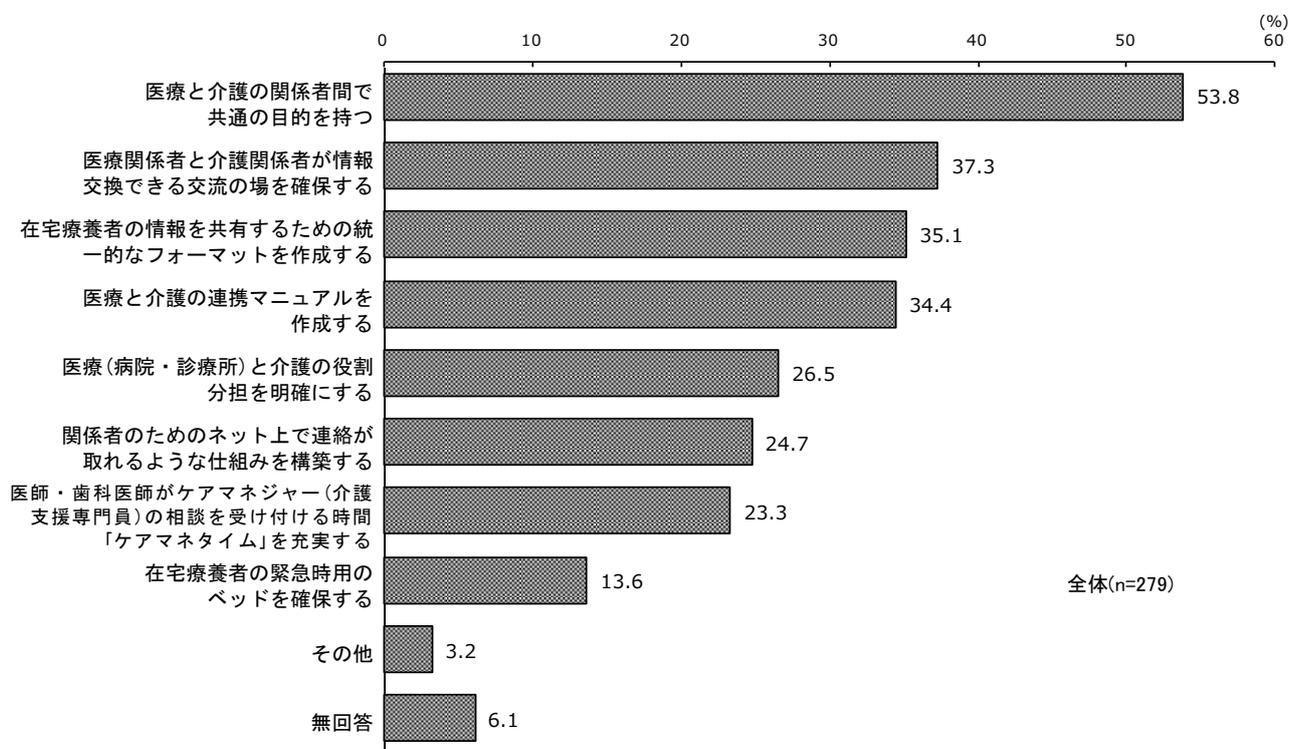
どのように関わりたいかについて、自由回答形式で聞いたところ、全体で10件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

- ・在宅医療対象者を紹介してほしい。(医師)
- ・薬剤師として在宅患者さん宅に訪問し、お薬の整理、健康相談をし、患者様の健康やQOLの向上の役に立ちたいです。(薬剤師)
- ・家族介護力が乏しくても、「時々入院、ほとんど在宅(生活の場)」を実現できるように、市民の勉強会や専門職の連携をすすめていきたい。(訪問看護師)
- ・地域で生活を続けていくために医療を切り離すことは出来ません。当院で全て行える訳ではないので、在宅医療を行っている機関と連携を取っていきたいです。(MSW)

(12) 医療職と介護職が連携するために充実するとよいこと（問11）

医療職と介護職が連携するために充実するとよいことは、「医療と介護の関係者間で共通の目的を持つ」(53.8%)が最も多く、「医療関係者と介護関係者が情報交換できる交流の場を確保する」(37.3%)、「在宅療養者の情報を共有するための統一フォーマットを作成する」(35.1%)と続いている。

■医療職と介護職が連携するために充実するとよいこと（複数回答）



職種別にみると、医師は「医療（病院・診療所）と介護の役割分担を明確にする」（39.3%）と「在宅療養者の緊急時用のベッドを確保する」（28.6%）、歯科医師は「医師・歯科医師がケアマネジャー（介護支援専門員）の相談を受け付ける時間「ケアマネタイム」を充実する」（36.7%）、薬剤師は「在宅療養者の情報を共有するための統一的なフォーマットを作成する」（46.3%）、看護師は「医療関係者と介護関係者が情報交換できる交流の場を確保する」（75.0%）、医療ソーシャルワーカーは「医療関係者と介護関係者が情報交換できる交流の場を確保する」（90.9%）が全体に比べて多くなっている。

(上段：人、下段：%)

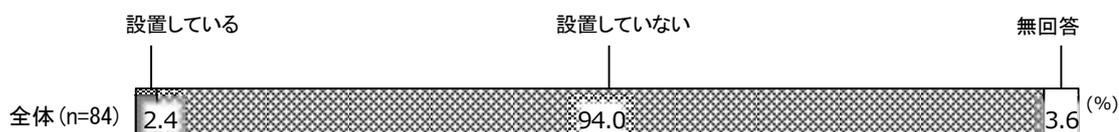
		共通の目的を持つ関係者間で	医療の確保を目的とする	情報交換できる関係者の	療養者と介護関係者の	在宅療養者のための統一フォーマットを作成する	在宅療養者の情報を共有する	医療と介護の連携マニュアルを作成する	介護の役割分担を明確にする	医療関係者のためのネットワークを構築する	関係者のためのネットワークを構築する	時間的余裕を確保する	ケアマネジャー（介護支援専門員）の相談を受け付ける時間「ケアマネタイム」を充実する	医師・歯科医師がケアマネジャー（介護支援専門員）の相談を受け付ける時間「ケアマネタイム」を充実する	在宅療養者の緊急時用のベッドを確保する	その他	無回答
全体(n=279)		150 53.8	104 37.3	98 35.1	96 34.4	74 26.5	69 24.7	65 23.3	38 13.6	9 3.2	17 6.1						
職種別	医師(n=84)	46 54.8	20 23.8	27 32.1	26 31.0	33 39.3	19 22.6	21 25.0	24 28.6	3 3.6	7 8.3						
	歯科医師(n=79)	41 51.9	28 35.4	22 27.8	30 38.0	20 25.3	19 24.1	29 36.7	5 6.3	2 2.5	5 6.3						
	薬剤師(n=82)	43 52.4	32 39.0	38 46.3	30 36.6	15 18.3	24 29.3	9 11.0	3 3.7	2 2.4	4 4.9						
	看護師(n=8)	4 50.0	6 75.0	4 50.0	3 37.5	2 25.0	3 37.5	2 25.0	2 25.0	0 -	0 -						
	訪問看護師(n=13)	10 76.9	8 61.5	4 30.8	4 30.8	1 7.7	4 30.8	2 15.4	2 15.4	0 -	0 -						
	医療ソーシャルワーカー(n=11)	6 54.5	10 90.9	3 27.3	2 18.2	3 27.3	0 -	2 18.2	2 18.2	2 18.2	0 -						

4 医師の取組状況

(1) (医師) 地域連携部署の設置状況 (問 12)

地域連携部署の設置状況は、「設置している」が2.4%、「設置していない」が94.0%となっている。

■ (医師) 地域連携部署の設置状況



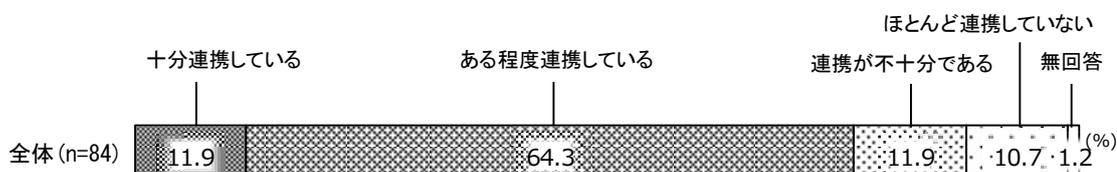
(2) (医師) 地域連携部署の活動内容 (問 12-1)

「設置している」と回答した人に地域連携部署の活動内容を聞いたところ「主治医とケアマネジャー（介護支援専門員）との連携を図るため、地域連携室が窓口となっている」が100.0%（2人）、「入院時から退院後の相談に応じている」と「退院に関する情報を主治医、医療相談、看護師等の担当者間で共有している」と「地域の介護職を交えて退院前（時）カンファレンスを行っている」がいずれも50.0%（1人）となっている。

(3) (医師) 他科・他の医療機関との連携 (問 13)

他科・他の医療機関との連携は、「ある程度連携している」（64.3%）が最も多く、「十分連携している」（11.9%）、「連携が不十分である」（11.9%）、「ほとんど連携していない」（10.7%）と続いている。「十分連携している」「ある程度連携している」を合わせた“連携している”は76.2%、「連携が不十分である」「ほとんど連携していない」を合わせた“連携していない”は22.6%となっている。

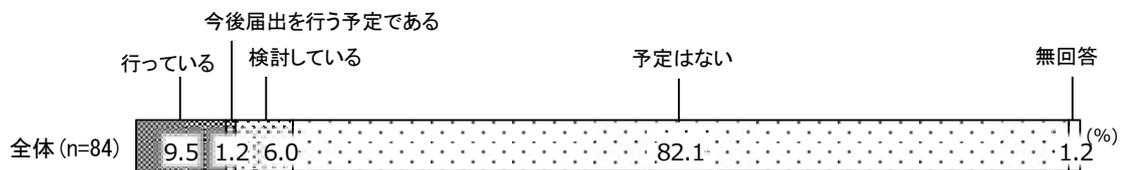
■ (医師) 他科・他の医療機関との連携



(4) (医師) 在宅療養支援診療所の届出 (問 14)

在宅療養支援診療所の届出は、「予定はない」(82.1%)が最も多く、「行っている」(9.5%)、「検討している」(6.0%)、「今後届出を行う予定である」(1.2%)と続いている。

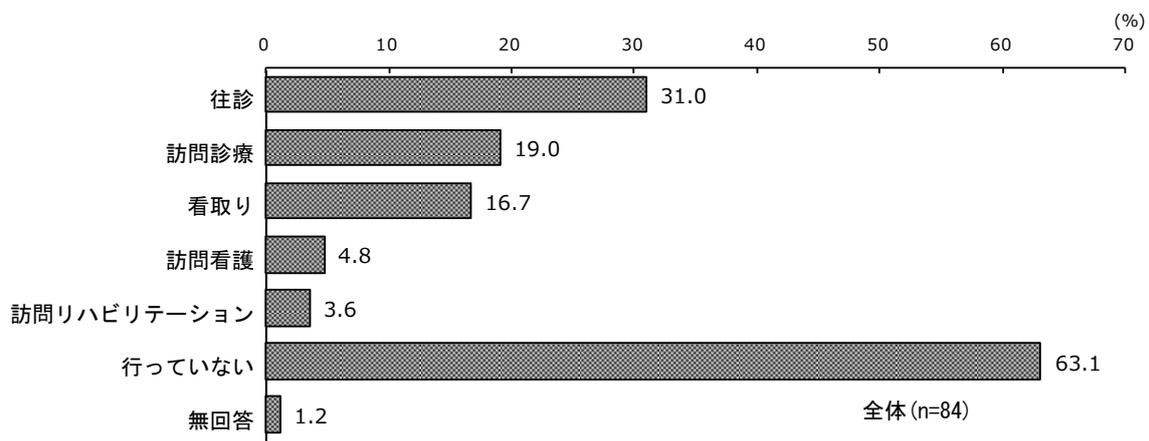
■ (医師) 在宅療養支援診療所の届出



(5) (医師) 行っている在宅医療 (問 15)

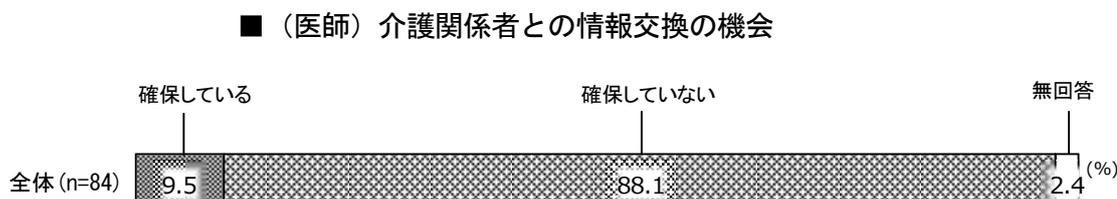
在宅医療は「行っていない」(63.1%)が最も多くなっている。行っている在宅医療の中では、「往診」(31.0%)が最も多く、「訪問診療」(19.0%)、「看取り」(16.7%)と続いている。

■ (医師) 行っている在宅医療 (複数回答)



(6) (医師) 介護関係者との情報交換の機会 (問16)

介護関係者との情報交換の機会は、「確保している」が9.5%、「確保していない」が88.1%となっている。



「確保している」と回答した人に確保時間の1か月平均を聞いたところ、「1～2時間未満」(50.0%、4人)が最も多くなっている。

■ (医師) 介護関係者との情報交換の確保時間 (1か月平均)

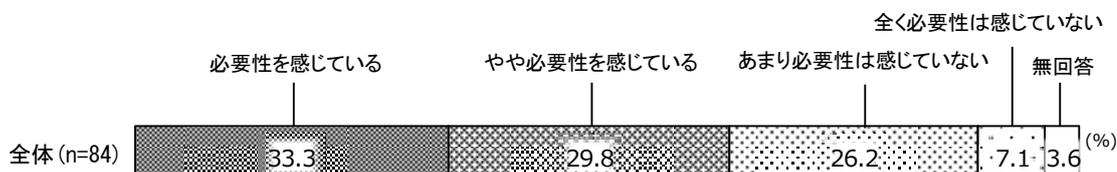
(上段:人、下段:%)

	1時間未満	未1満 2時間	未2満 3時間	未3満 4時間	未4満 5時間	無回答
全体(n=8)	1	4	2	0	1	0
	12.5	50.0	25.0	-	12.5	-

(7) (医師) ケアプランの送付と受け取りの必要性 (問17)

ケアプランの送付と受け取りの必要性は、「必要性を感じている」(33.3%)が最も多く、「やや必要性を感じている」(29.8%)、「あまり必要性を感じていない」(26.2%)、「全く必要性を感じていない」(7.1%)となっている。「必要性を感じている」「やや必要性を感じている」を合わせた“必要性を感じている”は63.1%、「あまり必要性を感じていない」「全く必要性を感じていない」を合わせた“必要性を感じていない”は33.3%となっている。

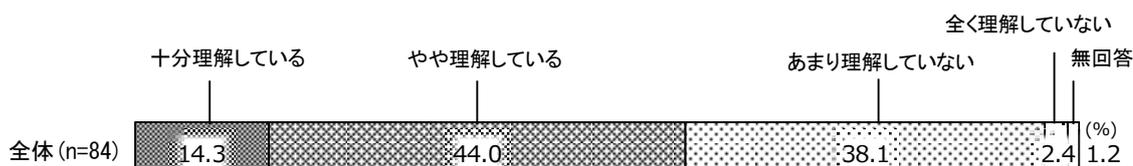
■ (医師) ケアプランの送付と受け取りの必要性



(8) (医師) 介護保険制度・介護保険サービスの理解 (問 18)

介護保険制度・介護保険サービスの理解は、「やや理解している」(44.0%)が最も多く、「あまり理解していない」(38.1%)、「十分理解している」(14.3%)、「全く理解していない」(2.4%)となっている。「十分理解している」「やや理解している」を合わせた“理解している”は58.3%、「あまり理解していない」「全く理解していない」を合わせた“理解していない”は40.5%となっている。

■ (医師) 介護保険制度・介護保険サービスの理解



(9) (医師) 担当患者のうち認知症の症状がある人の割合 (問 19)

担当患者のうち認知症の症状がある人の割合は、「1割未満」(48.8%)が最も多く、「1～2割未満」(23.8%)、「2～3割未満」(7.1%)と続いている。

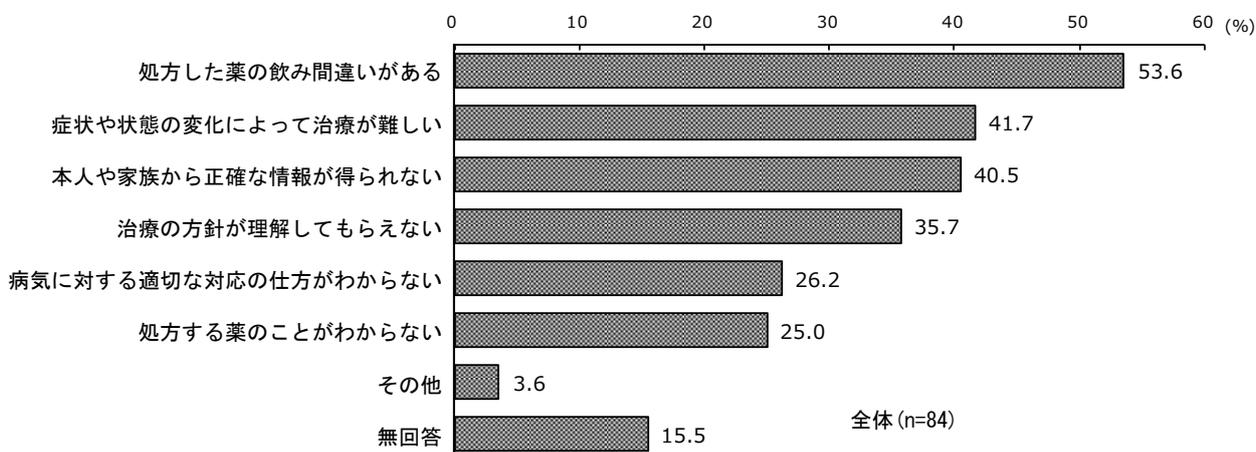
■ (医師) 担当患者のうち認知症の症状がある人の割合



(10) (医師) 認知症の症状がある人を治療するときに困ること (問 20)

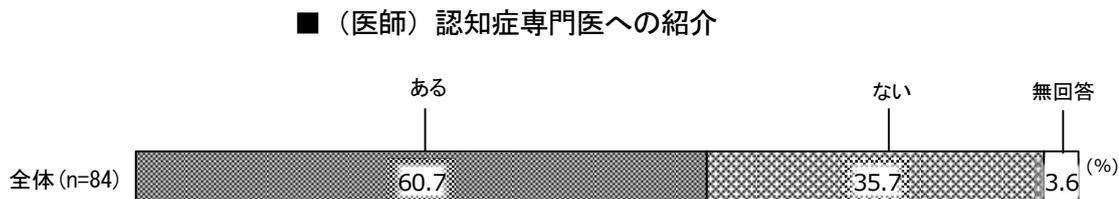
認知症の症状がある人を治療するときに困ることは、「処方した薬の飲み間違いがある」(53.6%)が最も多く、「症状や状態の変化によって治療が難しい」(41.7%)、「本人や家族から正確な情報が得られない」(40.5%)と続いている。

■ (医師) 認知症の症状がある人を治療するときに困ること (複数回答)



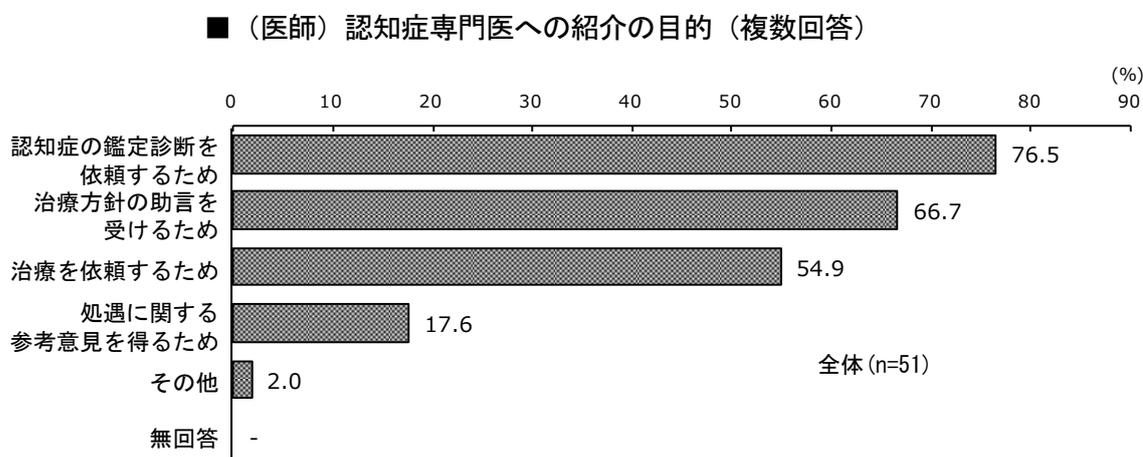
(11) (医師) 認知症専門医への紹介 (問 21)

認知症専門医への紹介は、「ある」が60.7%、「ない」が35.7%となっている。



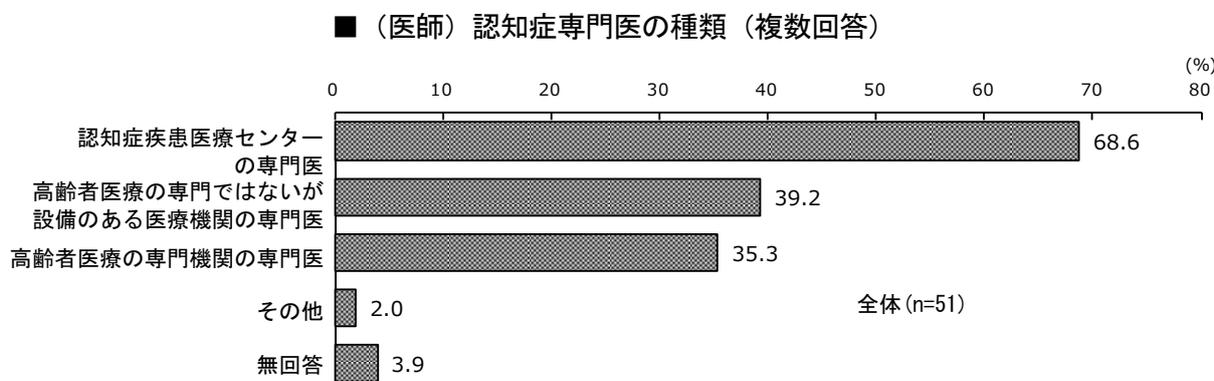
(12) (医師) 認知症専門医への紹介の目的 (問 21-1)

認知症専門医への紹介が「ある」と回答した人に紹介の目的を聞いたところ、「認知症の鑑定診断を依頼するため」(76.5%)が最も多く、「治療方針の助言を受けるため」(66.7%)、「治療を依頼するため」(54.9%)、「処遇に関する参考意見を得るため」(17.6%)と続いている。



(13) (医師) 認知症専門医の種類 (問 21-2)

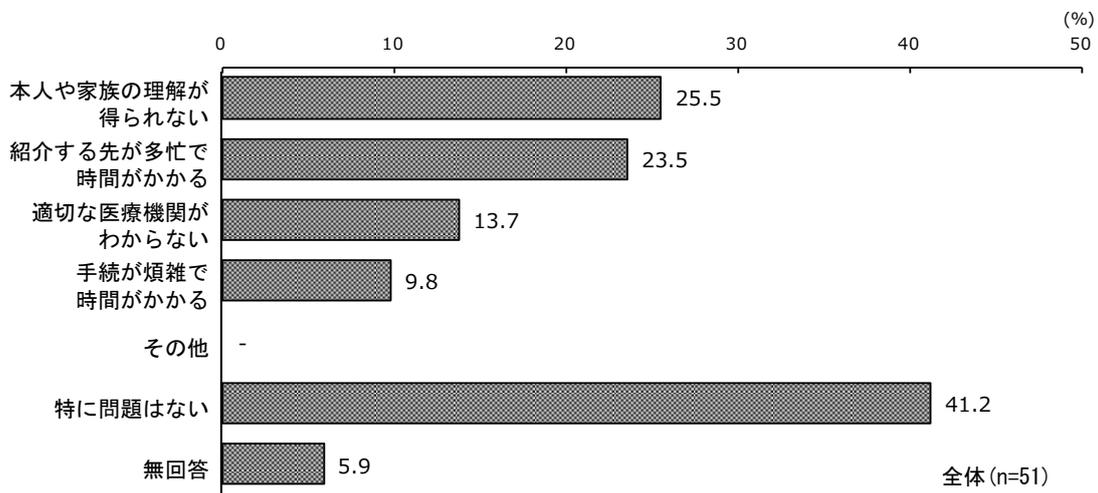
認知症専門医への紹介が「ある」と回答した人に認知症専門医の種類を聞いたところ、「認知症疾患医療センターの専門医」(68.6%)が最も多く、「高齢者医療の専門ではないが設備のある医療機関の専門医」(39.2%)、「高齢者医療の専門機関の専門医」(35.3%)と続いている。



(14) (医師) 認知症専門医に紹介するときに問題になること (問 21-3)

認知症専門医への紹介が「ある」と回答した人に認知症専門医に紹介するときに問題になることを聞いたところ、「特に問題はない」(41.2%)が最も多くなっている。問題になった内容では、「本人や家族の理解が得られない」(25.5%)が最も多く、「紹介する先が多忙で時間がかかる」(23.5%)、「適切な医療機関がわからない」(13.7%)、「手続きが煩雑で時間がかかる」(9.8%)と続いている。

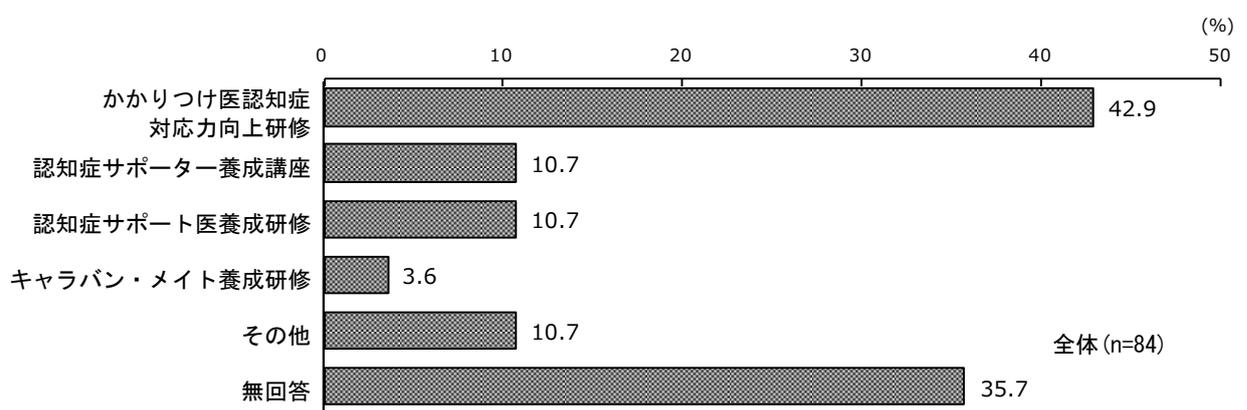
■ (医師) 認知症専門医に紹介するときに問題になること (複数回答)



(15) (医師) 認知症や認知症の介護に関する研修受講の意向 (問 22)

認知症や認知症の介護に関する研修受講の意向は、「かかりつけ医認知症対応力向上研修」(42.9%)が最も多く、「認知症サポーター養成講座」と「認知症サポート医養成研修」(ともに10.7%)、「キャラバン・メイト養成研修」(3.6%)と続いている。

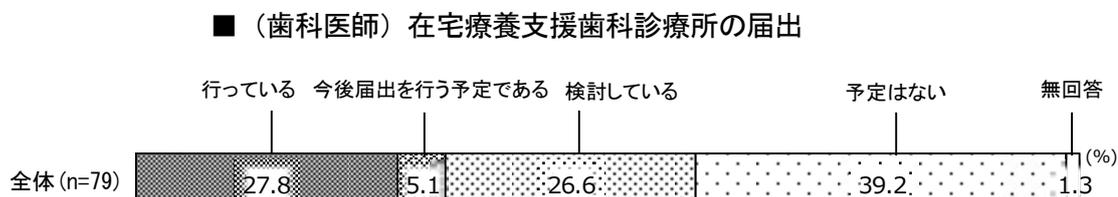
■ (医師) 認知症や認知症の介護に関する研修受講の意向 (複数回答)



5 歯科医師の取組状況

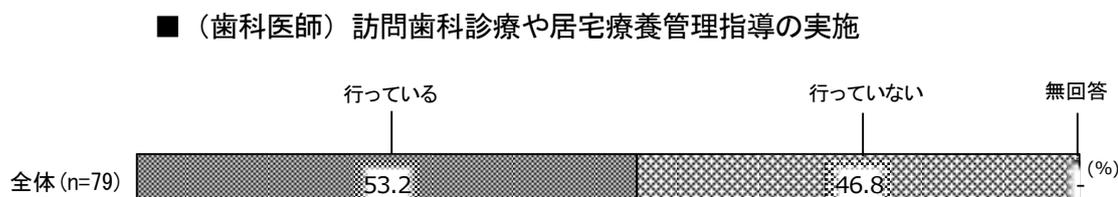
(1) (歯科医師) 在宅療養支援歯科診療所の届出 (問 23)

在宅療養支援歯科診療所の届出は、「予定はない」(39.2%)が最も多く、「行っている」(27.8%)、「検討している」(26.6%)、「今後届出を行う予定である」(5.1%)となっている。



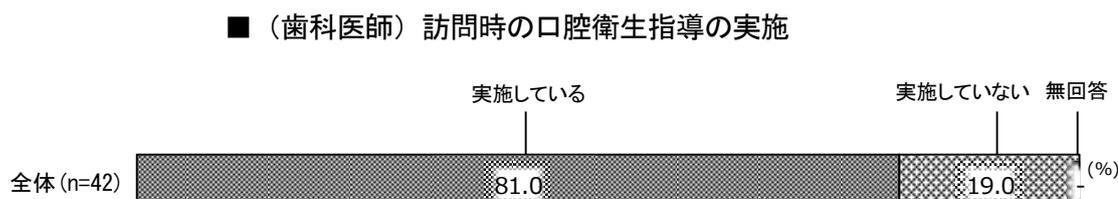
(2) (歯科医師) 訪問歯科診療や居宅療養管理指導の実施 (問 24)

訪問歯科診療や居宅療養管理指導の実施は、「行っている」(53.2%)が最も多く、「行っていない」(46.8%)となっている。



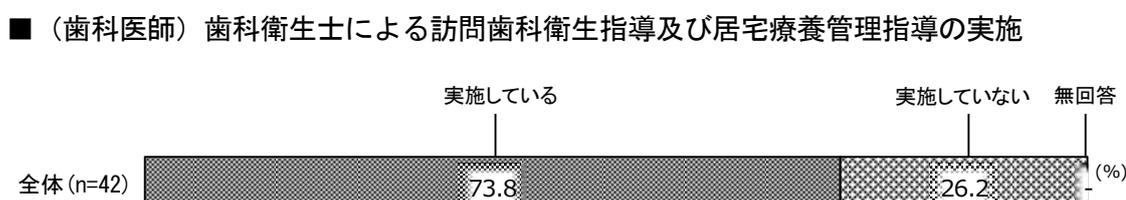
(3) (歯科医師) 訪問時の口腔衛生指導の実施 (問 24-1)

訪問歯科診療・往診を「行っている」と回答した人に訪問時の口腔衛生指導の実施を聞いたところ、「実施している」が81.0%、「実施していない」が19.0%となっている。



(4) (歯科医師) 歯科衛生士による訪問歯科衛生指導及び居宅療養管理指導の実施 (問 24-2)

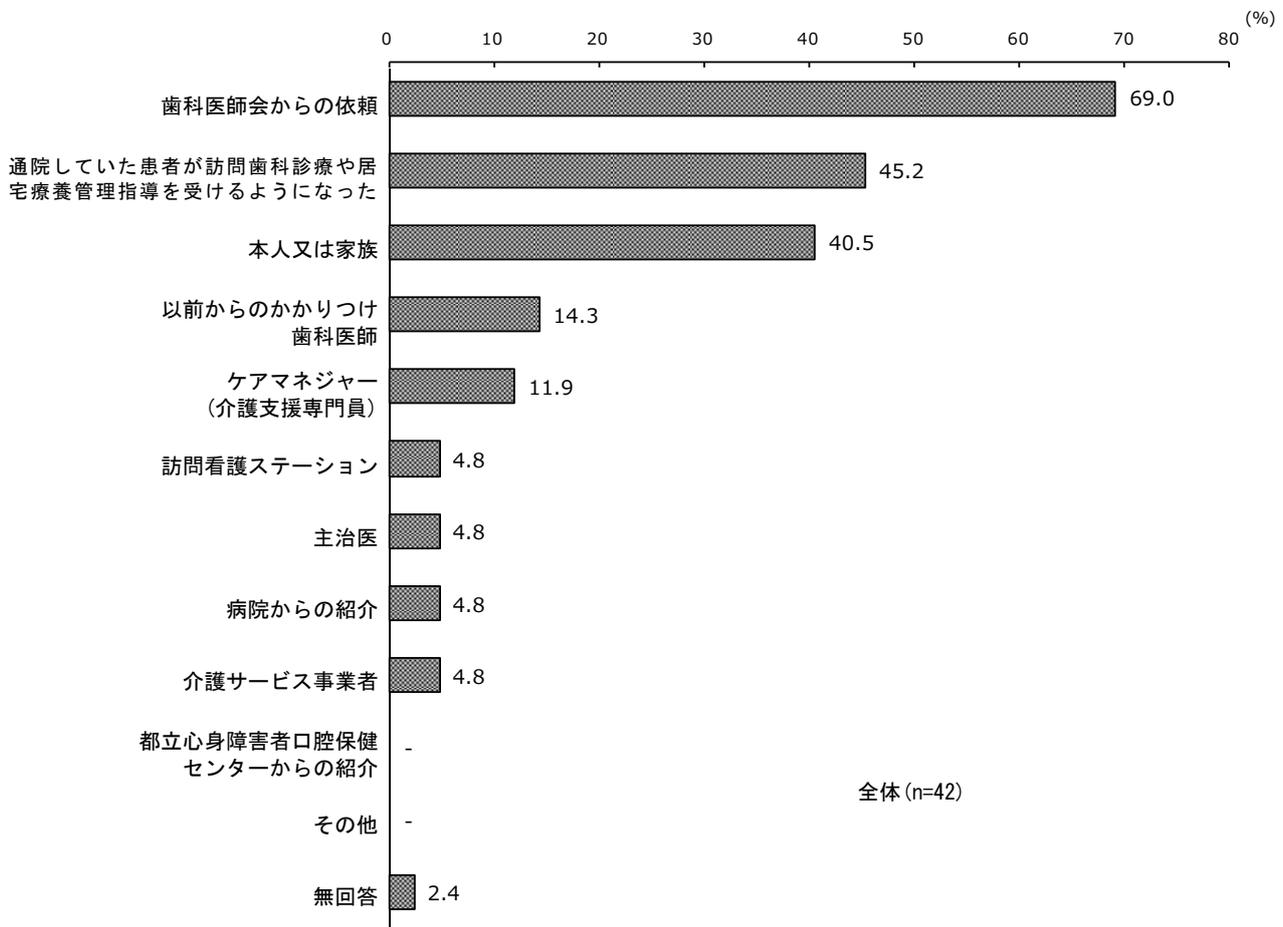
訪問歯科診療・往診を「行っている」と回答した人に歯科衛生士による訪問歯科衛生指導及び居宅療養管理指導の実施を聞いたところ、「実施している」が73.8%、「実施していない」が26.2%となっている。



(5) (歯科医師) 訪問歯科診療や居宅療養管理指導の依頼元 (問 24-3)

訪問歯科診療や居宅療養管理指導を「行っている」と回答した人に訪問歯科診療や往診の依頼元を聞いたところ、「歯科医師会からの依頼」(69.0%)が最も多く、「通院していた患者が訪問歯科診療や居宅療養管理指導を受けるようになった」(45.2%)、「本人又は家族」(40.5%)と続いている。

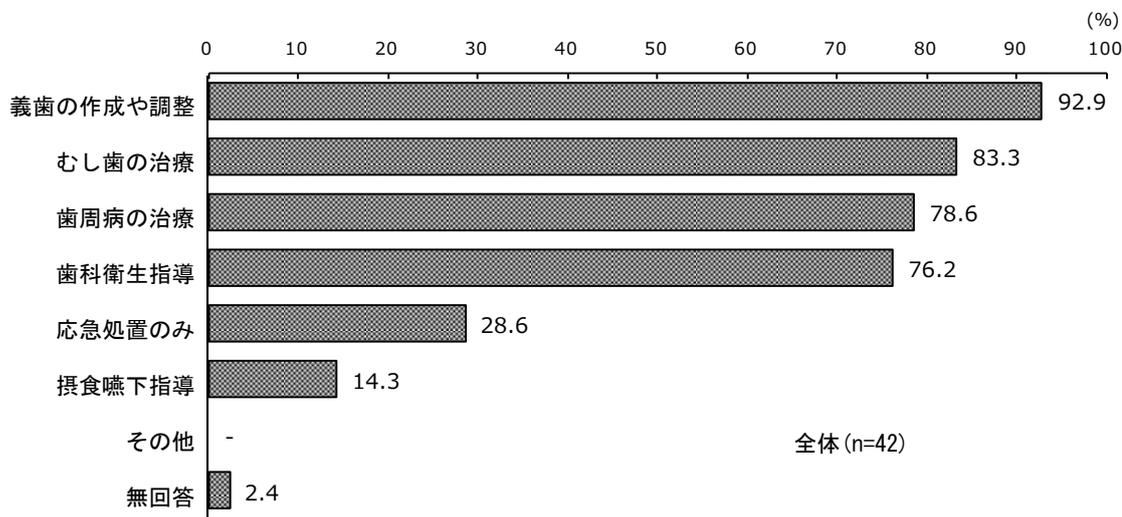
■ (歯科医師) 訪問歯科診療や居宅療養管理指導の依頼元 (複数回答)



(6) (歯科医師) 訪問歯科診療や居宅療養管理指導で対応可能な治療 (問 24-4)

訪問歯科診療や居宅療養管理指導を「行っている」と回答した人に訪問歯科診療や往診で対応可能な治療を聞いたところ、「義歯の作成や調整」(92.9%)が最も多く、「むし歯の治療」(83.3%)、「歯周病の治療」(78.6%)と続いている。

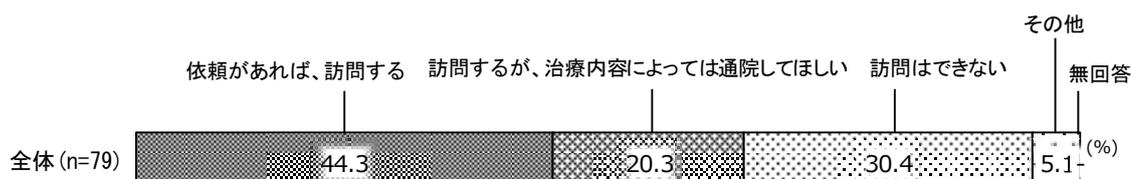
■ (歯科医師) 訪問歯科診療や居宅療養管理指導で対応可能な治療 (複数回答)



(7) (歯科医師) 今後の訪問歯科診療や居宅療養管理指導の実施の可能性 (問 25)

今後の訪問歯科診療や居宅療養管理指導の実施の可能性は、「依頼があれば、訪問する」(44.3%)が最も多く、「訪問はできない」(30.4%)、「訪問するが、治療内容によっては通院してほしい」(20.3%)となっている。

■ (歯科医師) 今後の訪問歯科診療や居宅療養管理指導の実施の可能性



(8) (歯科医師) 在宅療養者のかかりつけ医との連携 (問 26)

在宅療養者のかかりつけ医との連携は、「連携していない」(48.1%)が最も多く、「あまり連携していない」(32.9%)、「連携している」(19.0%)となっている。

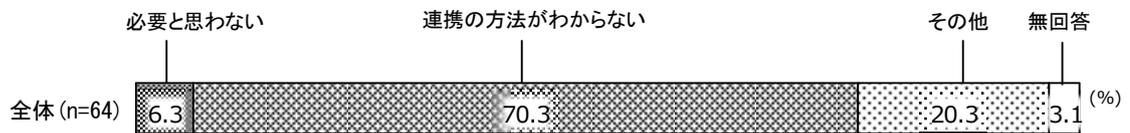
■ (歯科医師) 在宅療養者のかかりつけ医との連携



(9) (歯科医師) 在宅療養者のかかりつけ医と連携していない理由 (問 26-1)

「あまり連携していない」「連携していない」と回答した人に理由を聞いたところ、「必要と思わない」が6.3%、「連携の方法がわからない」が70.3%となっている。

■ (歯科医師) 在宅療養者のかかりつけ医と連携していない理由



(10) (歯科医師) 在宅療養者のケアマネジャーとの連携 (問 27)

在宅療養者のケアマネジャーとの連携は、「連携していない」(51.9%)が最も多く、「あまり連携していない」(26.6%)、「連携している」(20.3%)となっている。

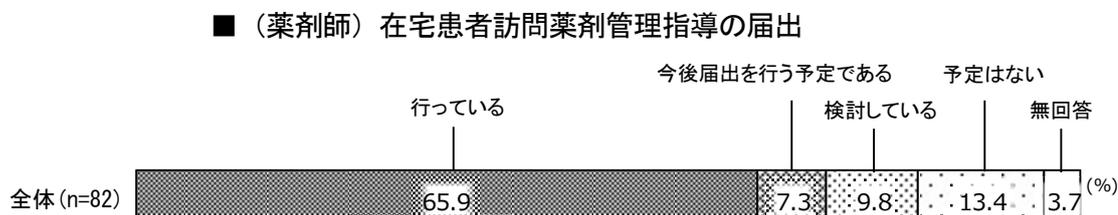
■ (歯科医師) 在宅療養者のケアマネジャーとの連携



6 薬剤師の取組状況

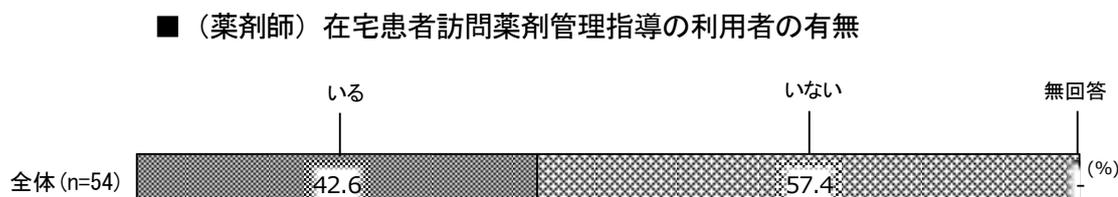
(1) (薬剤師) 在宅患者訪問薬剤管理指導の届出 (問 28)

在宅患者訪問薬剤管理指導の届出は、「行っている」(65.9%)が最も多く、「予定はない」(13.4%)、「検討している」(9.8%)、「今後届出を行う予定である」(7.3%)となっている。

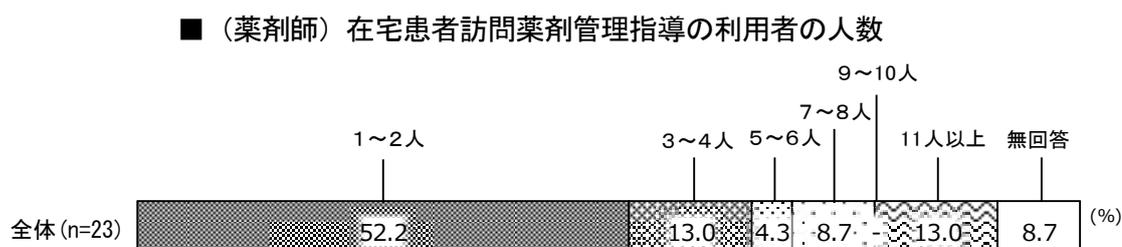


(2) (薬剤師) 在宅患者訪問薬剤管理指導の利用者の有無、人数 (問 28-1)

在宅患者訪問薬剤管理指導の届出を「行っている」と回答した人に在宅患者訪問薬剤管理指導の利用者の有無を聞いたところ、「いる」が42.6%、「いない」が57.4%となっている。



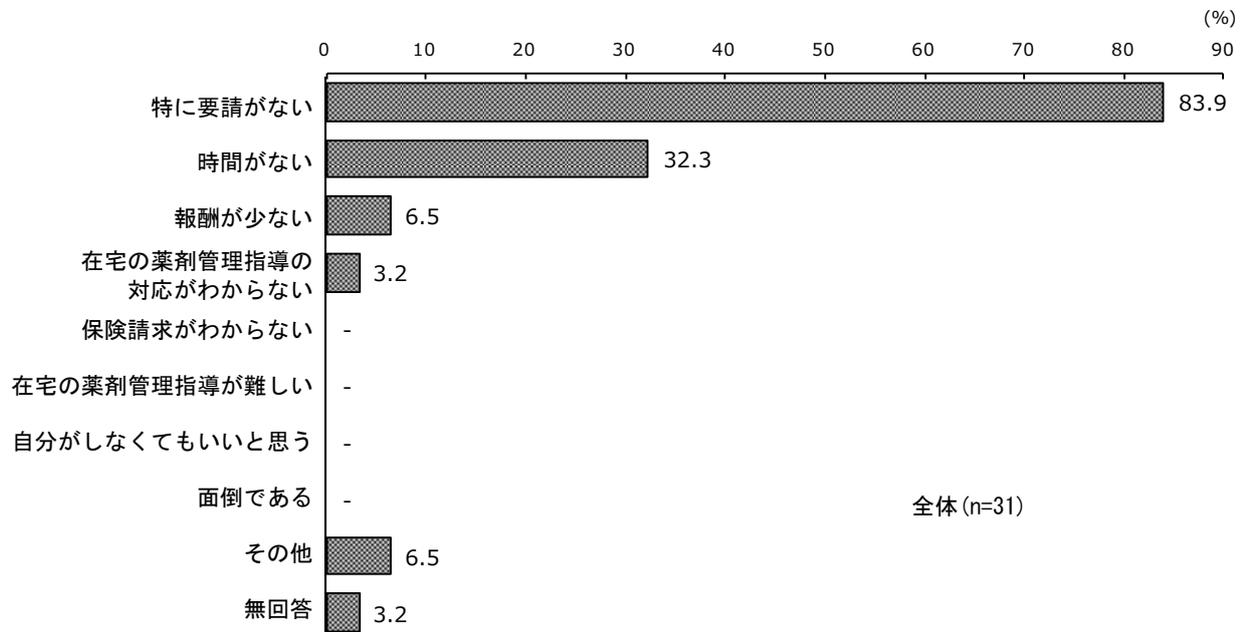
「いる」と回答した人に人数を聞いたところ、「1～2人」(52.2%)が最も多く、「3～4人」(13.0%)、「7～8人」(8.7%)と続いている。



(3) (薬剤師) 在宅患者訪問薬剤管理指導の利用者がいない理由 (問 28-2)

在宅患者訪問薬剤管理指導の利用者が「いない」と回答した人にいない理由を聞いたところ、「特に要請がない」(83.9%)が最も多く、「時間がない」(32.3%)、「報酬が少ない」(6.5%)、「在宅の薬剤管理指導の対応がわからない」(3.2%)と続いている。

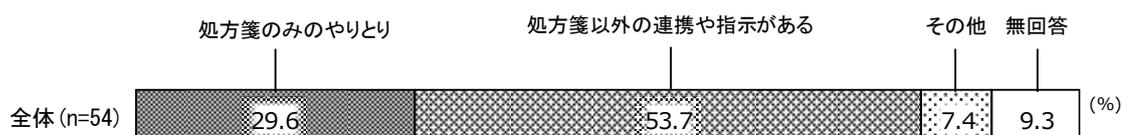
■ (薬剤師) 在宅患者訪問薬剤管理指導の利用者がいない理由 (複数回答)



(4) (薬剤師) 医師との連携状況 (問 28-3)

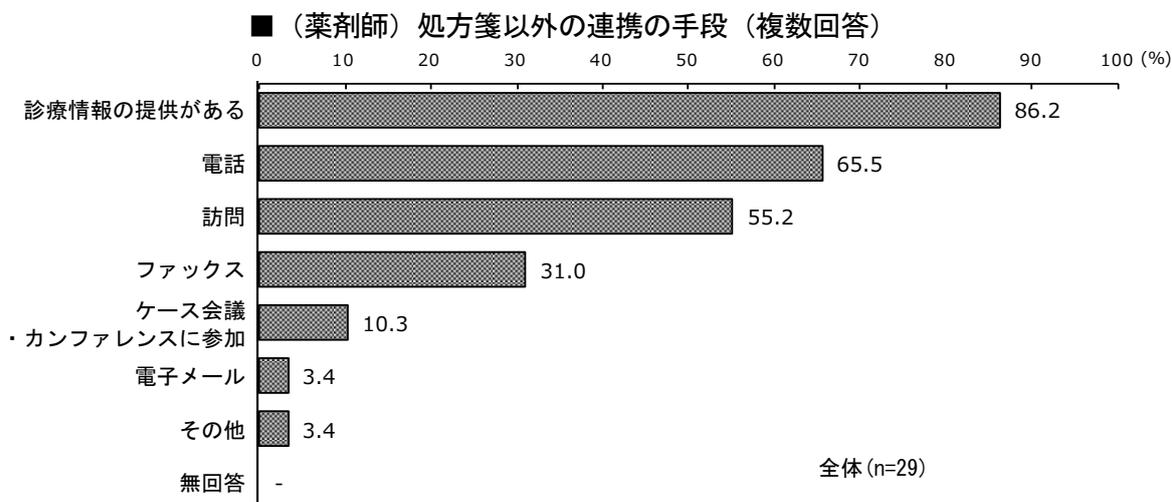
在宅患者訪問薬剤管理指導の届出を「行っている」と回答した人に医師との連携状況を聞いたところ、「処方箋のみのやりとり」が29.6%、「処方箋以外の連携や指示がある」が53.7%となっている。

■ (薬剤師) 医師との連携状況



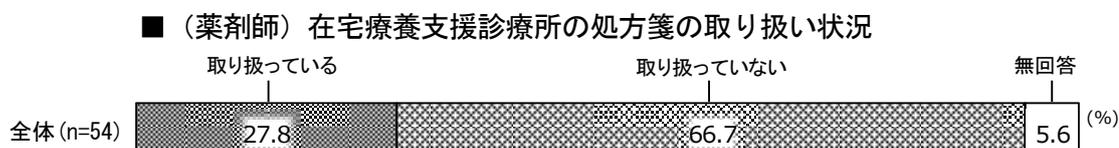
(5) (薬剤師) 処方箋以外の連携の手段 (問 28-4)

「処方箋以外の連携や指示がある」と回答した人に処方箋以外の連携の手段を聞いたところ、「診療情報の提供がある」(86.2%)が最も多く、「電話」(65.5%)、「訪問」(55.2%)と続いている。

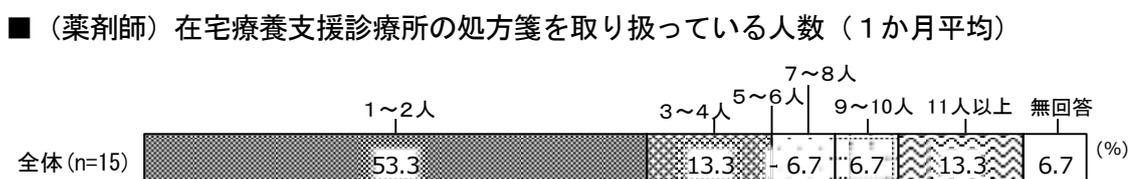


(6) (薬剤師) 在宅療養支援診療所の処方箋の取り扱い状況、人数 (問 29)

在宅患者訪問薬剤管理指導の届出を「行っている」と回答した人に在宅療養支援診療所の処方箋の取り扱い状況を聞いたところ、「取り扱っている」が27.8%、「取り扱っていない」が66.7%となっている。

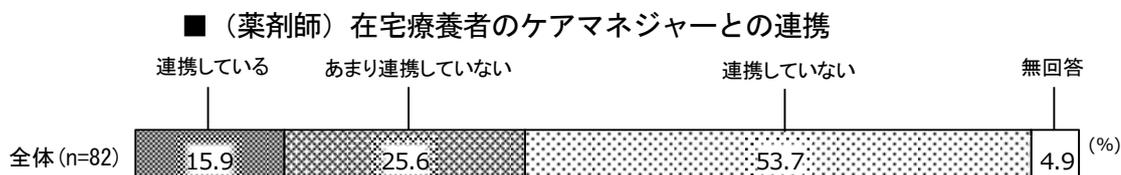


「取り扱っている」と回答した人に1か月の平均人数を聞いたところ、「1~2人」(53.3%)が最も多く、「3~4人」と「11人以上」(13.3%)、「7~8人」と「9~10人」(6.7%)と続いている。



(7) (薬剤師) 在宅療養者のケアマネジャーとの連携 (問 30)

在宅療養者のケアマネジャーとの連携は、「連携していない」(53.7%)が最も多く、「あまり連携していない」(25.6%)、「連携している」(15.9%)と続いている。



7 看護師の取組状況

(1) (看護師) 在宅療養支援の活動状況 (問 31)

在宅療養支援の活動状況は「している」が12.5% (1人)、「していない」が50.0% (4人)となっている。

■ (看護師) 在宅療養支援の活動状況

(上段:人、下段:%)

	して い	して ない	無 回 答
全体(n=8)	1 12.5	4 50.0	3 37.5

(2) (看護師) 在宅療養支援の活動内容 (問 31-1)

「している」と回答した人に活動内容を聞いたところ、「かかりつけ医 (主治医) とケアマネジャー (介護支援専門員) との連携を図るための支援をしている」が1人となっている。

(3) (看護師) 介護関係者との情報交換の機会 (問 32)

介護関係者との情報交換の機会は、「確保している」が37.5% (3人)、「確保していない」が37.5% (3人)となっている。

■ (看護師) 介護関係者との情報交換の機会

(上段:人、下段:%)

	い確 る保 して	い確 ない して	無 回 答
全体(n=8)	3 37.5	3 37.5	2 25.0

「確保している」と回答した人に確保時間の1か月平均を聞いたところ、「1時間」が33.3% (1人)、「2時間」が66.7% (2人)となっている。

■ (看護師) 介護関係者との情報交換の確保時間 (1か月平均)

(上段:人、下段:%)

	1 時 間	2 時 間	無 回 答
全体(n=3)	1 33.3	2 66.7	0 -

(4) (看護師) 介護保険制度・介護保険サービスの理解 (問 33)

介護保険制度・介護保険サービスの理解は、「十分理解している」が12.5% (1人)、「やや理解している」が37.5% (3人)、「あまり理解していない」が12.5% (1人)となっている。

■ (看護師) 介護保険制度・介護保険サービスの理解

(上段:人、下段:%)

	し十 て分 い理 る解	しや てや い理 る解	な解あ いしま てりい 理	い理ま な解つ いした てく	無 回 答
全体(n=8)	1 12.5	3 37.5	1 12.5	0 -	3 37.5

8 訪問看護師の取組状況

(1) (訪問看護師) 在宅医療を実施している医療機関との連携 (問 34)

在宅医療を実施している医療機関との連携は、『在宅療養者の医療と看護に関する情報の交換』『在宅療養者の急変時の対応』『24時間の支援体制』のいずれも「ある程度とれている」が多くなっている。

■ (訪問看護師) 在宅医療を実施している医療機関との連携

(上段:人、下段:%)

	るれ十 て分 いと	て度あ いとる るれ程	いとあ なれま いてり	なれ全 いてく いと	無 回 答
全体(n=13)					
在宅療養者の医療と看護に関する情報の交換	1	10	2	0	0
	7.7	76.9	15.4	-	-
在宅療養者の急変時の対応	4	8	1	0	0
	30.8	61.5	7.7	-	-
24時間の支援体制	4	5	2	2	0
	30.8	38.5	15.4	15.4	-

(2) (訪問看護師) 在宅療養実施医療機関との連携が取れていない理由 (問 34-1)

どのように関わりたいかについて、自由回答形式で聞いたところ、全体で4件の回答があった。以下、回答を掲載する。

- ・当方が24h体制を実施出来ていない為、タイムリーな訪問が出来ず御迷惑おかけする事があります。又、往診医が都内のケースがあり2時間以上かかってきて下さる場合もあり利用者さんから若干の苦情あります。
- ・報連相が一方通行となってしまう
- ・医療機関の在宅医療に対する意識が低いことが一番の原因だと思います。意識があれば必然的に連携もとれると思います。
- ・24時間対応では、かかりつけ医、病院とは全く連絡、連けいけない状況である。

9 医療ソーシャルワーカー（MSW）の取組状況

(1) (MSW) 地域連携活動の内容（問35）

地域連携活動の内容は、「入院時から退院後の相談に応じている」と「退院に関する情報を主治医、医療相談、看護師等の担当者間で共有している」がともに90.9%（10人）、「主治医とケアマネジャー（介護支援専門員）との連携を図る窓口となっている」が72.7%（8人）、「地域の介護職を交えて退院前（時）カンファレンスを行っている」が54.5%（6人）となっている。

■ (MSW) 地域連携活動の内容（複数回答）

(上段:人、下段:%)

	入院後、退院時の相談に退院後、担当看護師等	主治医、看護師、介護士等との相談	退院に関する情報共有	主治医とケアマネジャー（介護支援専門員）との連携を図る窓口となっている	地域（地域）の介護職を交えて退院前（時）カンファレンスを行っている	その他	無回答
全体(n=11)	10 90.9	10 90.9	8 72.7	6 54.5	1 9.1	0 -	

(2) (MSW) 介護保険施設からの患者の受入れ、転帰、施設に戻ったケースの人数（問36）

介護保険施設からの患者の受入れ、転帰、施設に戻ったケースの人数の合計は、「受入れ人数」が26人、「転帰人数」は3人、「施設に戻った人数」は10人となっている。

■ (MSW) 介護保険施設からの患者の受入れ、転帰、施設に戻ったケースの人数（合計） （平成28年9月中に担当した人数）

(人)

	受入れ人数	転帰人数	施設に戻った人数
介護老人福祉施設	16	2	7
介護老人保健施設	2	-	-
介護療養型医療施設	-	-	-
有料老人ホーム	7	1	3
ケアハウス	-	-	-
グループホーム	1	-	-
合計	26	3	10

(3) (MSW) 介護保険施設との連携（問37）

介護保険施設との連携は、「介護保険施設の医師から入所者の健康管理や処置の情報を入手している」が45.5%（5人）、「介護保険施設に訪問診療や往診に行っている」が18.2%（2人）、「介護保険施設と提携している」が18.2%（2人）、「急変時に受け入れるベッドを確保している」が9.1%（1人）となっている。

■ (MSW) 介護保険施設との連携（複数回答）

(上段:人、下段:%)

	介護保険施設の医師から入所者の健康管理や処置の情報を入手している	介護保険施設に訪問診療や往診に行っている	介護保険施設と提携している	急変時に受け入れるベッドを確保している	その他	無回答
全体(n=11)	5 45.5	2 18.2	2 18.2	1 9.1	4 36.4	4 36.4

10 医療と介護の連携の状況について

(1) 医療と在宅介護の連携で苦労している点〈自由回答〉（問38）

医療と在宅介護の連携で苦労している点について、自由回答形式で聞いたところ、全体で137件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

- ・情報の共有がとれない事、リアルな状態変化の連絡が行き届かない（訪問看護師）
- ・人員不足で訪問時間等を設けるのが困難。現在は休憩時間を使っている状態です。（薬剤師）
- ・なかなか電話での連絡が取りづらい。大きな病院だとF a xができない為、何度も電話しなくてはいけない。（看護師）
- ・統一した目標・目的に向けて、それぞれの立場の考えや意見を尊重しながら擦り合わせを行っていくこと。（MSW）
- ・介護保険制度、サービスの内容がよくわからない。（医師）
- ・患者本人や御家族の理解が薄い。（歯科医師）
- ・具体的にどう動けばよいのかわからない。（歯科医師）

(2) 介護従事者に期待すること〈自由回答〉（問39）

介護従事者に期待することについて、自由回答形式で聞いたところ、全体で352件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

ケアマネジャー（介護支援専門員）に対して（79件）

- ・個々の患者の経済力、家族などの背景、本人の希望などを十分承知した上でのケアプランの作成。（医師）
- ・在宅での日常生活の様子等の情報提供（医師）
- ・利用者さんの医療的問題について悩むことがあれば、どんどん電話で尋ねてほしいと思います。その上で適正な対応支援を考えてほしいと思います。（訪問看護師）
- ・介護保険制度のサービスについて基本を提案するケアマネジャーの役割こそがポイントです。つまり多職種協働のコーディネーターでもあり、プロモーターでもあることを理解して欲しい。（MSW）
- ・介護職と医療職を、つないで欲しい。担当者会議の参加等の呼びかけ等。（薬剤師）
- ・よく頑張っていると思います。マンパワーに頼る仕事の為、個人差が出やすいので、その辺をフォロー出来る様にしてもらいたい。（MSW）

訪問看護師に対して（57件）

- ・在宅での日常生活の様子等の情報提供（医師）
- ・全身状態と口腔内の関係性についての連携（歯科医師）

福祉施設介護員に対して（45件）

- ・お互いの資格を生かし、何かあれば報告、情報が欲しいです。（訪問看護師）
- ・副作用・体調変化兆候有無の確認（発疹・あざ等）（薬剤師）

福祉施設生活相談員に対して（42件）

- ・現在の全身状態の情報伝達、ご家族との連携について（歯科医師）

ホームヘルパー（訪問介護員）に対して（57件）

- ・日常生活においてどのような問題をかかえているか、具体的な情報を発信してほしい。（医師）
- ・患者さんの状況認識をしっかりとお願いしたい。（医師）
- ・その方のもてる力を発揮できるような支援をお願いしたい。全部やってしまっただけでは、どんどん依存的な生活に陥ってしまいがち。（訪問看護師）
- ・生活に関わる専門職として、気になること、困っていること、チャレンジしたいことなど、どんどん医療職と連携してほしい。連携しづらい医療職（Nsなど）はHHが「育てる」くらいのつもりで。（訪問看護師）

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士に対して（50件）

- ・患者や家族の要望に極力応じ、粘り強いリハビリテーションの継続（医師）
- ・どのようなとりくみを行い、何が改善できたかをフィードバックしてほしい。（医師）
- ・医師との意見交換を頻回にする（医師）
- ・在宅生活上におけるアドバイス、ADL面維持、向上について連携が大切だと思います。（訪問看護師）

その他に対して（22件）

- ・共通認識をしたいので、患者毎の問題点や、会議での検討内容を全員が見れる様にしてはどうか？（要介護度のたかい人はとくに）（医師）
- ・病院の外来ナース、クリニックのナースとの連携が必要。（看護師）

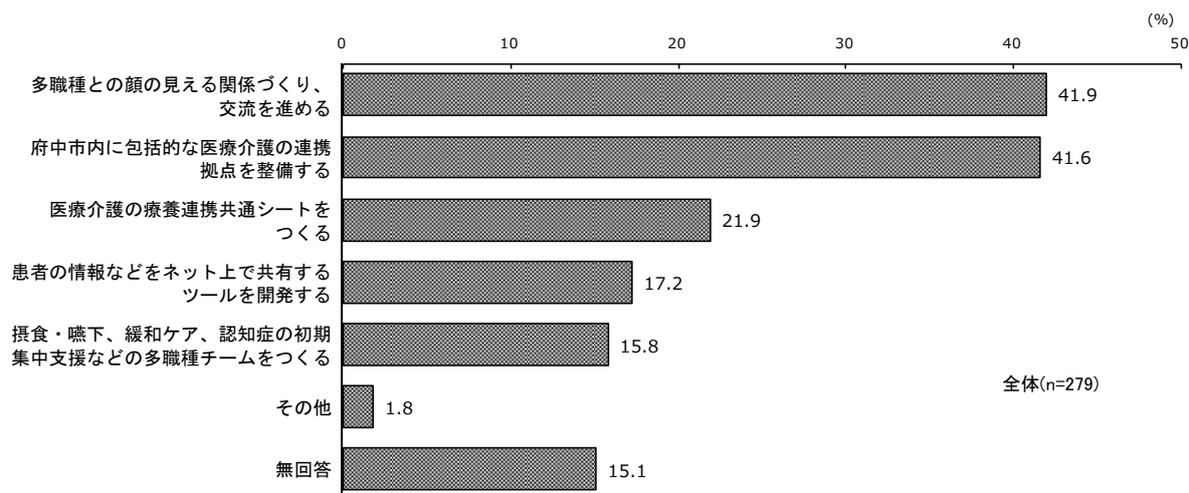
11 地域包括ケアシステムに向けた医療と介護の連携について

(1) 医療と介護の連携が進むために必要なこと（問40）

医療と介護の連携が進むために、連携の仕組みづくりが必要なことは、「多職種との顔の見える関係づくり、交流を進める」（41.9%）が最も多く、「府中市内に包括的な医療介護の連携拠点を整備する」（41.6%）、「医療介護の療養連携共通シートをつくる」（21.9%）と続いている。

職種別にみると、医療ソーシャルワーカーは「多職種との顔の見える関係づくり、交流を進める」（72.7%）が全体に比べ多くなっている。

■医療と介護の連携が進むために、連携の仕組みづくりが必要なこと（複数回答）



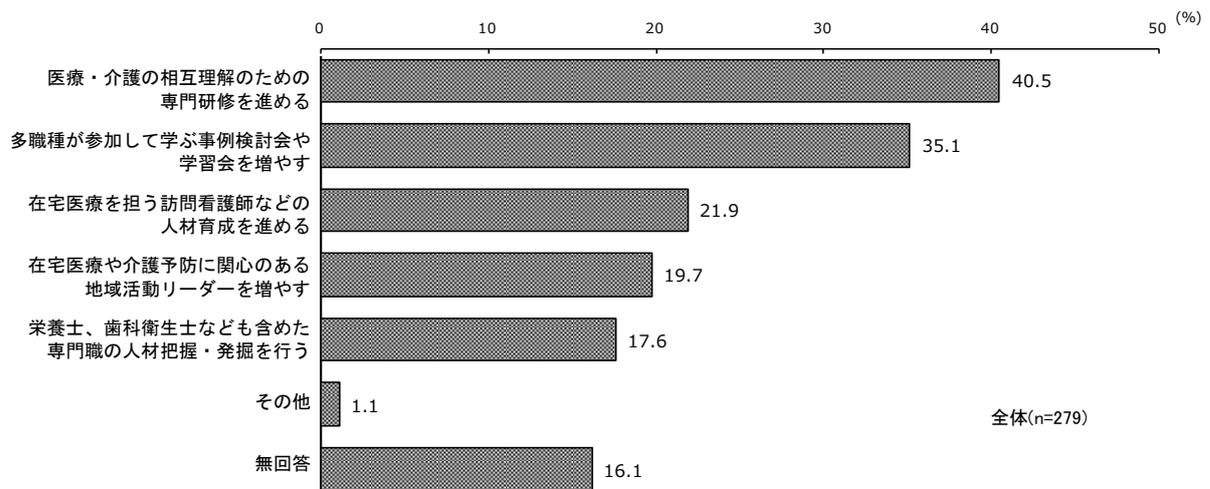
(上段：人、下段：%)

		多職種との顔の見える関係づくり、交流を進める	府中市内に包括的な医療介護の連携拠点を整備する	医療介護の療養連携共通シートをつくる	患者の情報などをネット上で共有するツールを開発する	摂食・嚥下、緩和ケア、認知症の初期集中支援などの多職種チームをつくる	その他	無回答
全体(n=279)		117 41.9	116 41.6	61 21.9	48 17.2	44 15.8	5 1.8	42 15.1
職種別	医師(n=84)	27 32.1	36 42.9	18 21.4	10 11.9	10 11.9	2 2.4	19 22.6
	歯科医師(n=79)	30 38.0	36 45.6	17 21.5	14 17.7	17 21.5	1 1.3	13 16.5
	薬剤師(n=82)	41 50.0	31 37.8	17 20.7	18 22.0	11 13.4	0	7 8.5
	看護師(n=8)	5 62.5	3 37.5	3 37.5	2 25.0	3 37.5	0	0
	訪問看護師(n=13)	6 46.2	7 53.8	3 23.1	3 23.1	2 15.4	0	0
	医療ソーシャルワーカー(n=11)	8 72.7	3 27.3	3 27.3	1 9.1	1 9.1	2 18.2	1 9.1

医療と介護の連携が進むために、地域の人材育成で必要なことは、「医療・介護の相互理解のための専門研修を進める」(40.5%)が最も多く、「多職種が参加して学ぶ事例検討会や学習会を増やす」(35.1%)、「在宅医療を担う訪問看護師などの人材育成を進める」(21.9%)と続いている。

職種別にみると、医師は「在宅医療を担う訪問看護師などの人材育成を進める」(31.0%)、歯科医師は「栄養士、歯科衛生士なども含めた専門職の人材把握・発掘を行う」(35.4%)、薬剤師は「在宅医療や介護予防に関心のある地域活動リーダーを増やす」(29.3%)、看護師は「在宅医療を担う訪問看護師などの人材育成を進める」(87.5%)、訪問看護師は「多職種が参加して学ぶ事例検討会や学習会を増やす」(61.5%)、医療ソーシャルワーカーは「医療・介護の相互理解のための専門研修を進める」(81.8%)が全体に比べ多くなっている。

■医療と介護の連携が進むために、地域の人材育成で必要なこと（複数回答）



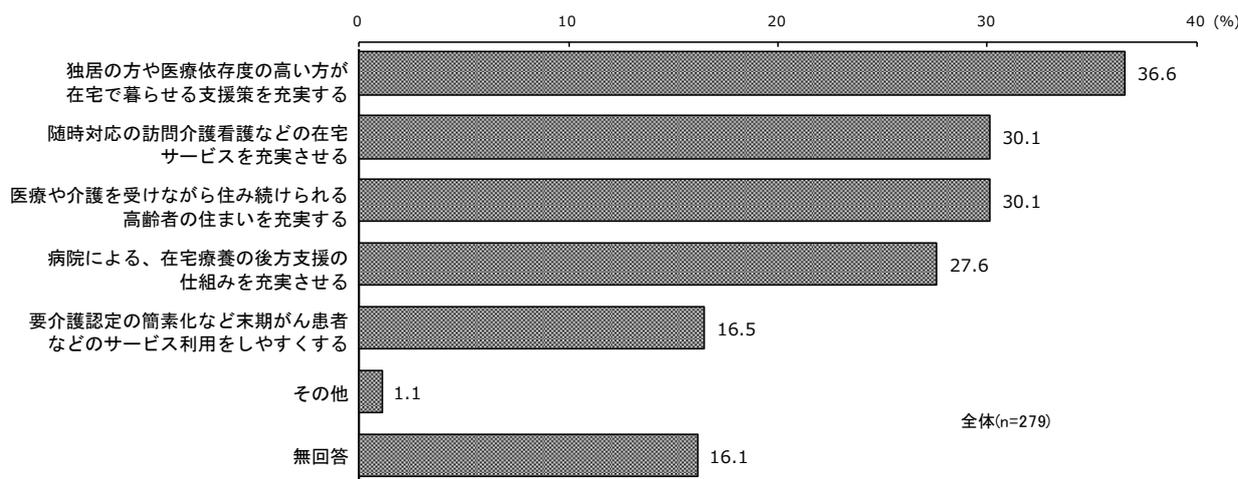
(上段：人、下段：%)

		医療・介護の相互理解のための専門研修を進める	多職種が参加して学ぶ事例検討会や学習会を増やす	在宅医療を担う訪問看護師などの人材育成を進める	在宅医療や介護予防に関心のある地域活動リーダーを増やす	栄養士、歯科衛生士なども含めた専門職の人材把握・発掘を行う	その他	無回答
		人	人	人	人	人	人	人
全体(n=279)		113	98	61	55	49	3	45
		40.5	35.1	21.9	19.7	17.6	1.1	16.1
職種別	医師(n=84)	27	18	26	17	9	2	21
		32.1	21.4	31.0	20.2	10.7	2.4	25.0
	歯科医師(n=79)	32	30	10	10	28	0	14
		40.5	38.0	12.7	12.7	35.4	-	17.7
	薬剤師(n=82)	33	35	13	24	11	1	7
		40.2	42.7	15.9	29.3	13.4	1.2	8.5
	看護師(n=8)	4	4	7	0	0	0	0
	50.0	50.0	87.5	-	-	-	-	
訪問看護師(n=13)	8	8	3	3	1	0	0	
	61.5	61.5	23.1	23.1	7.7	-	-	
医療ソーシャルワーカー(n=11)	9	3	2	1	0	0	1	
	81.8	27.3	18.2	9.1	-	-	9.1	

医療と介護の連携が進むために、サービス・基盤整備が必要なことは、「独居の方や医療依存度の高い方が在宅で暮らせる支援策を充実する」(36.6%)が最も多く、「随時対応の訪問介護看護などの在宅サービスを充実させる」と「医療や介護を受けながら住み続けられる高齢者の住まいを充実する」(ともに30.1%)、「病院による、在宅療養の後方支援の仕組みを充実させる」(27.6%)と続いている。

職種別にみると、看護師は「随時対応の訪問介護看護などの在宅サービスを充実させる」(62.5%)と「要介護認定の簡素化など末期がん患者などのサービス利用をしやすいとする」(50.0%)、訪問看護師は「要介護認定の簡素化など末期がん患者などのサービス利用をしやすいとする」(38.5%)が全体に比べ多くなっている。

■医療と介護の連携が進むために、サービス・基盤整備が必要なこと（複数回答）



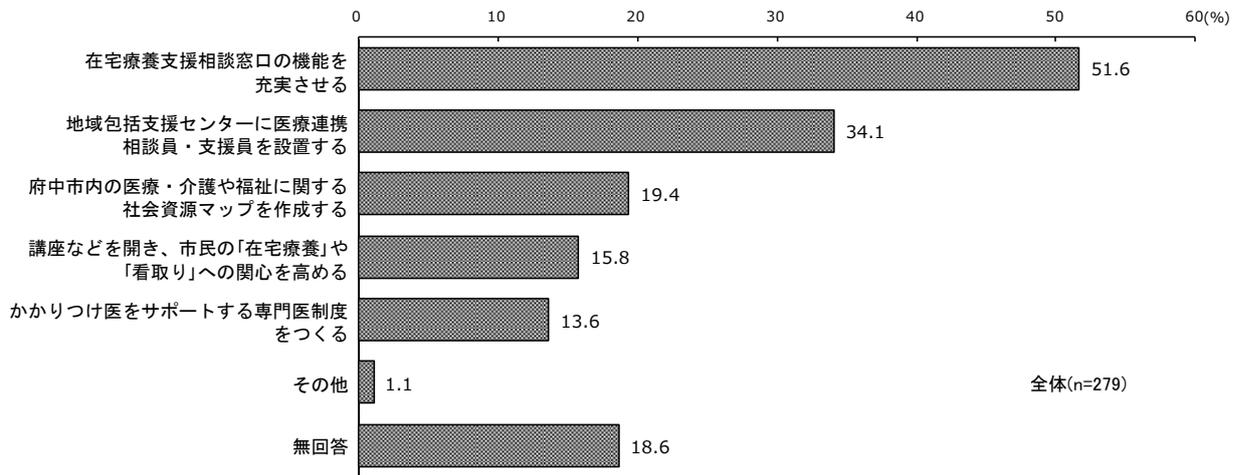
(上段：人、下段：%)

		策を充実にする	独居の方や在宅で暮らせる支援策を充実する	せど随時の在宅サービス	いみを続けられる高齢者が住ま	る方病院による在宅療養の後	利期要	そ	無						
		を充実にする	独居の方や在宅で暮らせる支援策を充実する	せど随時の在宅サービス	いみを続けられる高齢者が住ま	る方病院による在宅療養の後	利期要	そ	無						
全体(n=279)		102	36.6	84	30.1	84	30.1	77	27.6	46	16.5	3	1.1	45	16.1
職種別	医師(n=84)	24	28.6	29	34.5	24	28.6	24	28.6	8	9.5	1	1.2	19	22.6
		29	36.7	27	34.2	23	29.1	20	25.3	10	12.7	1	1.3	14	17.7
	歯科医師(n=79)	34	41.5	18	22.0	27	32.9	22	26.8	16	19.5	1	1.2	9	11.0
		2	25.0	5	6.2.5	2	25.0	3	37.5	4	50.0	-	-	0	-
	薬剤師(n=82)	6	46.2	3	23.1	4	30.8	6	46.2	5	38.5	-	-	0	-
		7	63.6	2	18.2	4	36.4	2	18.2	3	27.3	-	-	0	9.1
	看護師(n=8)	6	46.2	3	23.1	4	30.8	6	46.2	5	38.5	-	-	0	-
訪問看護師(n=13)	6	46.2	3	23.1	4	30.8	6	46.2	5	38.5	-	-	0	-	
医療ソーシャルワーカー(n=11)	7	63.6	2	18.2	4	36.4	2	18.2	3	27.3	-	-	0	9.1	

医療と介護の連携が進むために、相談支援・情報提供で必要なことは、「在宅療養支援相談窓口の機能を充実させる」(51.6%)が最も多く、「地域包括支援センターに医療連携相談員・支援員を設置する」(34.1%)、「府中市内の医療・介護や福祉に関する社会資源マップを作成する」(19.4%)と続いている。

職種別にみると、看護師は「府中市内の医療・介護や福祉に関する社会資源マップを作成する」(50.0%)と「かかりつけ医をサポートする専門医制度をつくる」(37.5%)、訪問看護師は「講座などを開き、市民の「在宅療養」や「看取り」への関心を高める」(46.2%)が全体に比べ多くなっている。

■医療と介護の連携が進むために、相談支援・情報提供で必要なこと（複数回答）



(上段：人、下段：%)

職種別		在宅療養支援相談窓口の機能	地域包括支援センターに設置する	府中市内の医療・介護や福祉に関する社会資源マップを作成する	かかりつけ医をサポートする専門医制度をつくる	講座などを開き、市民の「在宅療養」や「看取り」への関心を高める	その他	無回答
		人	人	人	人	人	人	人
全体(n=279)		144	95	54	38	44	3	52
		51.6	34.1	19.4	13.6	15.8	1.1	18.6
職種別	医師(n=84)	42	27	10	11	9	1	23
		50.0	32.1	11.9	13.1	10.7	1.2	27.4
	歯科医師(n=79)	44	28	11	13	11	1	13
		55.7	35.4	13.9	16.5	13.9	1.3	16.5
	薬剤師(n=82)	42	29	22	8	15	0	12
		51.2	35.4	26.8	9.8	18.3	-	14.6
	看護師(n=8)	5	3	4	3	1	0	0
	62.5	37.5	50.0	37.5	12.5	-	-	
訪問看護師(n=13)	7	3	3	3	6	0	1	
	53.8	23.1	23.1	23.1	46.2	-	7.7	
医療ソーシャルワーカー(n=11)	4	5	4	0	2	1	1	
	36.4	45.5	36.4	-	18.2	9.1	9.1	

(2) 医療と介護の連携についての意見・要望〈自由回答〉(問41)

医療と介護の連携について、自由回答形式で聞いたところ、全体で60件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

医療・介護の連携について：15件
制度、サービス、事業について：10件
在宅療養について：8件
市民への啓蒙・周知について：2件
アンケートについて：2件
その他：13件
わからない・特になし：10件